

殿原遺跡

一般国道153号飯田バイパス(1工区)
用地内埋蔵文化財発掘調査報告書(1)――

1987

建設省中部地方建設局飯田国道工事事務所
飯 田 市 教 育 委 員 会

殿原遺跡

——一般国道153号飯田バイパス(1工区)
用地内埋蔵文化財発掘調査報告書(1)——

1987

建設省中部地方建設局飯田国道工事事務所
飯 田 市 教 育 委 員 会

飯原蓮鈴周辺の景観（飯田市山本地区上空より）



序

飯田市街地周辺の道路状況は、近年の社会生活における車への依存度が高まるとともに、その狭隘化が重要な地域的問題となり、中央道西の宮線開通後はさらに著しいものとなった。特に、飯田市伊賀良地区は中央道飯田インターチェンジ開設後飯田の表玄関として重要な位置づけがなされ、その主要道路である国道153号の混雑は朝夕に限らず、その打開策を講ずることは緊急かつ重要であり、飯田インターチェンジから下伊那郡上郷町を結ぶバイパス建設が計られることとなつた。

当面、伊賀良地区内を1工区としてバイパス建設されることとなり、それに先立ち発掘調査し記録保存を飯田市教育委員会が実施した。

伊賀良地区は、現在飯田市街地への玄関口であるが、原始・古代においても西方地域から信州へ入る交通要所の1つとして位置づき、数々の文化遺産を残す地区である。特に埋蔵文化財は、笠松山麓から続く広大な扇状地上に様々な形で残され、先人の足跡を諸所に読み取ることができるもの。

今回の発掘調査は、国道バイパス建設にかかるもので、特に本報告書に掲載した殿原遺跡は当地方に類をみない大規模な弥生時代集落址であり、本来の文化財保護の立場からすれば、保存し、後世に伝えるべきものであるが、地域全体における今日的課題解決のためにはやむを得ない開発といえる。

調査結果は、本文中に示したとおり地域の歴史解明に多大な資料提供するものであり、本報告書を基にその資料を十分かつ適格に活用することが、破壊された文化財を生きすことにつながるものと考え、地域史解明が更に進むことを念願するものである。

本報告書の刊行にあたり、発掘調査及びその後の整理作業に深いご理解をいただいた建設省中部地方建設局・同飯田国道工事事務所及び長野県飯田建設事務所、酷暑・酷寒の中で諸作業に精励された佐藤團長をはじめとする調査団の各位に対し、深甚な謝意を表する次第である。

昭和62年3月

飯田市教育委員会教育長

福島 稔

例　　言

- 1 本報告書は一般国道153号飯田バイパス第1工区建設に伴う殿原遺跡の発掘調査報告書で、関連工事である毛賀沢川改修工事にかかわる調査についても合わせ掲載した。なお、調査計画の段階では殿原・八幡面の2遺跡として作業を行ったが、調査の結果同一遺跡として扱うべきと判断され、殿原遺跡として統一した。
- 2 発掘調査は飯田市教育委員会が建設省中部地方建設局飯田国道工事事務所より委託を受け実施したものである。また、毛賀沢川改修工事に伴う調査は同じく飯田市教育委員会が長野県飯田建設事務所より委託を受け実施したものである。
- 3 発掘調査は昭和59年11月から昭和60年3月までと昭和60年5月から昭和60年12月までの2年度にわたって実施し、整理作業及び報告書の作成は昭和61年度に実施した。
- 4 本調査に関し、遺跡名にT N Hの略号を用い、図面及び遺物について略号を記してある。
- 5 本報告書の記載について遺構と遺物とに大別し、記載順は住居址を優先し時代順を原則とした。遺構図については、本文に合わせ挿図とし、遺物及び写真図版は本文末に一括した。
- 6 本報告書は佐藤恵信、山下誠一が分担執筆し、それぞれの分担は文末に記した。なお、原稿の一部につき小林正春が加筆・訂正を行った。また、その執筆あたり図面整理等について佐々木嘉和・佐合英治・桜井弘人・牧内住子・佐藤いなゑ・池田幸子・吉川紀美子・小平不二子・木下恒子が補佐した。
- 7 本報告書の編集は、佐藤・山下・小林の協議により、山下が主として行い、小林が総括した。
- 8 本報告書に関連した遺物及び図面類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市上川路飯田市考古資料館で保管している。

本文目次

序	
例言	
I 経過	1
1 調査に至るまで	1
2 調査の経過	1
1) 第1次発掘調査	1
2) 第2次発掘調査	2
3 調査組織	3
1) 調査団	3
2) 事務局	3
II 遺跡の立地と環境	4
1 自然的環境	4
2 歴史的環境	6
III 調査結果	11
1 遺構	11
1) 積穴住居址	11
(1) 繩文時代	11
① 14号住居址 ② 58号住居址 ③ 67号住居址 ④ 68号住居址	
⑤ 75号住居址 ⑥ 77号住居址 ⑦ 79号住居址 ⑧ 80号住居址	
⑨ 99号住居址	
(2) 弥生時代	18
① 1号住居址 ② 2号住居址 ③ 3号住居址 ④ 4号住居址	
⑤ 5号住居址 ⑥ 6号住居址 ⑦ 7号住居址 ⑧ 8号住居址	
⑨ 9号住居址 ⑩ 10号住居址 ⑪ 11号住居址 ⑫ 12号住居址	
⑯ 13号住居址 ⑭ 15号住居址 ⑮ 16号住居址 ⑯ 17号住居址	
⑰ 18号住居址 ⑱ 19号住居址 ⑲ 20号住居址 ⑳ 21号住居址	
㉑ 22号住居址 ㉒ 23号住居址 ㉓ 24号住居址 ㉔ 25号住居址	
㉕ 26号住居址 ㉖ 27号住居址 ㉗ 28号住居址 ㉘ 29号住居址	
㉙ 30号住居址 ㉚ 31号住居址 ㉛ 32号住居址 ㉜ 33号住居址	
㉝ 34号住居址 ㉞ 35号住居址 ㉟ 36号住居址 ㉟ 37号住居址	
㉞ 38号住居址 ㉟ 39号住居址 ㉟ 40号住居址 ㉟ 41号住居址	

⑪ 42号住居址	⑫ 43号住居址	⑬ 44号住居址	⑭ 45号住居址
⑮ 46号住居址	⑯ 47号住居址	⑰ 48号住居址	⑲ 49号住居址
⑩ 50号住居址	⑪ 51号住居址	⑫ 52号住居址	⑬ 53号住居址
⑩ 54号住居址	⑪ 55号住居址	⑫ 56号住居址	⑬ 57号住居址
⑩ 60号住居址	⑪ 61号住居址	⑫ 62号住居址	⑬ 63号住居址
⑩ 64号住居址	⑪ 65号住居址	⑫ 66号住居址	⑬ 69号住居址
⑩ 71号住居址	⑪ 72号住居址	⑫ 73号住居址	⑬ 74号住居址
⑩ 76号住居址	⑪ 78号住居址	⑫ 81号住居址	⑬ 82号住居址
⑩ 83号住居址	⑪ 84号住居址	⑫ 85号住居址	⑬ 86号住居址
⑩ 87号住居址	⑪ 89号住居址	⑫ 90号住居址	⑬ 91号住居址
⑩ 93号住居址	⑪ 94号住居址	⑫ 95号住居址	⑬ 96号住居址
⑩ 97号住居址	⑪ 98号住居址	⑫ 100号住居址	
(3) 古墳時代 112			
① 59号住居址	② 70号住居址	③ 88号住居址	④ 92号住居址
2) 土坑 119			
(1) 楔文時代 119			
① 土坑 4	② 土坑 5	③ 土坑 6	④ 土坑 7
⑤ 土坑 10	⑥ 土坑 11	⑦ 土坑 12	⑧ 土坑 13
⑨ 土坑 14	⑩ 土坑 15	⑪ 土坑 16	⑫ 土坑 17
⑬ 土坑 18	⑭ 土坑 19	⑮ 土坑 20	⑯ 土坑 22
⑰ 土坑 23	⑱ 土坑 24	⑲ 土坑 25	⑳ 土坑 26
㉑ 土坑 27	㉒ 土坑 28	㉓ 土坑 29	㉔ 土坑 30
㉕ 土坑 31	㉖ 土坑 32	㉗ 土坑 33	㉘ 土坑 34
㉙ 土坑 35	㉚ 土坑 36	㉛ 土坑 37	㉜ 土坑 38
㉞ 土坑 39	㉟ 土坑 40	㉟ 土坑 41	㉟ 土坑 42
㉞ 土坑 43	㉟ 土坑 44	㉟ 土坑 45	㉟ 土坑 46
㉞ 土坑 47	㉟ 土坑 48	㉟ 土坑 49	㉟ 土坑 50
㉞ 土坑 51	㉟ 土坑 52	㉟ 土坑 53	㉟ 土坑 54
㉞ 土坑 55	㉟ 土坑 56	㉟ 土坑 57	㉟ 土坑 59
㉞ 土坑 60	㉟ 土坑 61	㉟ 土坑 62	㉟ 土坑 63
㉞ 土坑 64	㉟ 土坑 65	㉟ 土坑 66	㉟ 土坑 67
㉞ 土坑 68	㉟ 土坑 69	㉟ 土坑 71	㉟ 土坑 72
㉞ 土坑 73	㉟ 土坑 74	㉟ 土坑 75	㉟ 土坑 76
㉞ 土坑 77	㉟ 土坑 78	㉟ 土坑 79	㉟ 土坑 80

⑦ 土坑 81	⑧ 土坑 82	⑨ 土坑 83	⑩ 土坑 84
⑪ 土坑 85	⑫ 土坑 86	⑬ 土坑 87	⑭ 土坑 88
⑮ 土坑 89	⑯ 土坑 90	⑰ 土坑 91	⑱ 土坑 92
⑲ 土坑 93	⑳ 土坑 94	㉑ 土坑 95	㉒ 土坑 96
㉓ 土坑 97	㉔ 土坑 98	㉕ 土坑 99	㉖ 土坑 100
㉗ 土坑 101	㉘ 土坑 102	㉙ 土坑 103	㉚ 土坑 104
㉛ 土坑 105	㉜ 土坑 106	㉝ 土坑 107	㉞ 土坑 108
㉟ 土坑 109	㉟ 土坑 111	㉟ 土坑 113	㉟ 土坑 114
㉛ 土坑 115	㉛ 土坑 116	㉛ 土坑 117	㉛ 土坑 118
㉛ 土坑 119	㉛ 土坑 120	㉛ 土坑 121	㉛ 土坑 122
㉛ 土坑 123	㉛ 土坑 124	㉛ 土坑 125	㉛ 土坑 126
㉛ 土坑 127	㉛ 土坑 128	㉛ 土坑 129	㉛ 土坑 130
㉛ 土坑 131	㉛ 土坑 132	㉛ 土坑 133	㉛ 土坑 134
㉛ 土坑 135	㉛ 土坑 136	㉛ 土坑 137	㉛ 土坑 138
㉛ 土坑 139	㉛ 土坑 140	㉛ 土坑 141	㉛ 土坑 142
㉛ 土坑 143	㉛ 土坑 144	㉛ 土坑 145	㉛ 土坑 146
㉛ 土坑 147	㉛ 土坑 150	㉛ 土坑 151	㉛ 土坑 152
㉛ 土坑 153	㉛ 土坑 154	㉛ 土坑 155	
(2) 弥生時代			158
① 土坑 1	② 土坑 2	③ 土坑 3	④ 土坑 8
⑤ 土坑 9	⑥ 土坑 21	⑦ 土坑 58	⑧ 土坑 70
⑨ 土坑 112			
(3) 中世			161
① 土坑 110			
(4) 時期不明			161
① 土坑 148	② 土坑 149		
3) 配石			161
① 配石 1	② 配石 2		
4) 埋設土器			165
① 埋設土器 1			
5) 円形周溝墓・方形周溝墓			166
① 円形周溝墓 1	② 方形周溝墓 1		
6) 囲溝址			168
① 囲溝址 1	② 囲溝址 2	③ 囲溝址 3	④ 囲溝址 4

7) 溝址	173
① 溝址 1 ② 溝址 2 ③ 溝址 3	
8) 建物址	176
① 建物址 1 ② 建物址 2 ③ 建物址 3 ④ 建物址 4	
⑤ 建物址 5 ⑥ 建物址 6 ⑦ 建物址 7 ⑧ 建物址 8	
9) 柱穴群、柱穴列	182
① 柱穴群 1 ② 柱穴群 2 ③ 柱穴群 3 ④ 柱穴群 4	
⑤ 柱穴群 5 ⑥ 柱穴列 1	
10) 竪穴状遺構	187
① 竪穴状遺構 1	
11) ロームマウンド	189
① ロームマウンド 1 ② ロームマウンド 2 ③ ロームマウンド 3	
12) 暗渠	189
① 暗渠 1	
2 遺物	197
1) 資料提示の方法	197
(1) 基本姿勢	197
(2) 遺構出土遺物	197
(3) 遺構外出土遺物	198
2) 観察表の作製	198
3) 繩文時代の遺物	199
(1) 土器	199
(2) 石器	201
4) 弥生時代の遺物	204
(1) 土器	204
(2) 石器	216
(3) 石製品	224
(4) 金属器	224
5) 古墳時代の遺物	224
(1) 土器	224
(2) 石器	226
(3) 金属器	226
6) 奈良・平安時代の遺物	227

(1) 土器	227
7) 中世・近世の遺物	227
(1) 土器	227
(2) 土製品	228
(3) 鉄製品	228
IVまとめ	229

挿図目次

挿図 1	殿原遺跡基本土層柱状図	5
挿図 2	殿原遺跡位置図及び周辺遺跡図	7
挿図 3	殿原遺跡群調査位置図及び周辺図	9・10
挿図 4	14号住居址	12
挿図 5	58号住居址	13
挿図 6	67号住居址	14
挿図 7	68号住居址	15
挿図 8	74号・75号住居址	16
挿図 9	77号住居址	17
挿図10	80号住居址、土坑15	18
挿図11	99号住居址	19
挿図12	1号住居址	20
挿図13	2号住居址	21
挿図14	3号住居址	22
挿図15	4号住居址	22
挿図16	5号住居址	23
挿図17	6号住居址	24
挿図18	7号住居址	25
挿図19	8号住居址	26
挿図20	9号住居址	27
挿図21	10号住居址	28
挿図22	11号住居址	30
挿図23	12号住居址	31
挿図24	13号住居址	32
挿図25	15号住居址	33
挿図26	16号住居址	34
挿図27	17号住居址	35
挿図28	18号住居址	37
挿図29	18号住居址遺物出土状態	38
挿図30	19号住居址	39
挿図31	20号住居址	40

插图32	21号住居址	41
插图33	22号住居址	42
插图34	23号住居址	43
插图35	24号住居址	44
插图36	25号住居址	45
插图37	26号住居址	46
插图38	27号住居址	47
插图39	28号住居址	48
插图40	29号住居址	49
插图41	30号住居址	50
插图42	31号住居址	51
插图43	32号住居址	52
插图44	33号住居址	53
插图45	33号住居址遺物出土状態	54
插图46	34号・35号住居址	55
插图47	36号住居址	56
插图48	37号住居址	57
插图49	38号住居址	58
插图50	39号住居址	59
插图51	40号住居址	60
插图52	41号住居址	61
插图53	42号住居址	62
插图54	43号住居址	63
插图55	43号住居址遺物出土状態	64
插图56	44号住居址	65
插图57	45号住居址	66
插图58	46号住居址	67
插图59	47号住居址	68
插图60	48号住居址	69
插图61	49号住居址	70
插图62	50号住居址	71
插图63	51号住居址	72
插图64	51号住居址炉址	73
插图65	52号住居址	73

插图66	53号住居址	75
插图67	54号住居址	76
插图68	55号住居址	77
插图69	56号住居址	78
插图70	57号住居址	79
插图71	60号住居址	80
插图72	61号住居址	81
插图73	62号住居址	82
插图74	63号住居址	83
插图75	64号住居址	84
插图76	65号住居址	85
插图77	66号住居址	86
插图78	66号住居址遗物出土状态	87
插图79	69号·79号住居址	87
插图80	71号住居址	88
插图81	72号住居址	89
插图82	73号住居址	90
插图83	76号住居址	91
插图84	78号住居址	92
插图85	81号住居址	93
插图86	82号住居址	94
插图87	83号住居址	95
插图88	84号住居址	96
插图89	85号住居址	97
插图90	85号住居址遗物出土状态	98
插图91	86号住居址	99
插图92	87号住居址	100
插图93	89号住居址	102
插图94	90号住居址	103
插图95	91号住居址	104
插图96	93·95号住居址	105
插图97	94号住居址	106
插图98	95号住居址炭分布图	107
插图99	96号住居址	108

挿図100	97号住居址	109
挿図101	98号住居址	110
挿図102	100号住居址	111
挿図103	59号住居址	112
挿図104	70号住居址	113
挿図105	70号住居址遺物出土状態	114
挿図106	92号住居址	115
挿図107	88号住居址	116
挿図108	88号住居址カマド	117
挿図109	88号住居址遺物出土状態	118
挿図110	92号住居址炭分布図	119
挿図111	土坑1・2・3・4・5・6・7・8・9	120
挿図112	土坑13・14、柱穴群4	122
挿図113	土坑16・17	123
挿図114	土坑18・20疊分布図	124
挿図115	土坑21・22・23・24・25・26・28・29・31・32・33・34	126
挿図116	土坑19・27・30・38・44・45・123、ロームマウンド1	128
挿図117	土坑18・20・35・36・37・41・42・43・50・59、ロームマウンド2	130
挿図118	土坑39・40・46・47・48・49	132
挿図119	土坑55・56・57・58、柱穴群5	134
挿図120	土坑60・61・62・63・64・65・66・67・75・76・78・80・81・82・83・84・99	137
挿図121	土坑68・69・70・71・72・73・74・85・86・87・88・89	139
挿図122	土坑77・79・90・91・92・93・94・95・96・97・98・101・117・118	143
挿図123	土坑100・102・103・104・105・106・107・108・116・119・120・121・154・155	146
挿図124	土坑113・114・115・122・124・125・126・127・128・129・130・131・132	150
挿図125	土坑133・134・135・136・137・138・139	152
挿図126	土坑109・142・143・144・145・153	154
挿図127	土坑146・147・148・149・150・151	156
挿図128	土坑154	157
挿図129	土坑155	158
挿図130	土坑112	159
挿図131	土坑110・111	160
挿図132	配石1・2と土坑分布図	163・164
挿図133	埋設土器1	165

挿図134 円形周溝墓 1	166
挿図135 方形周溝墓 1	167
挿図136 囲溝址 1	169
挿図137 囲溝址 2	170
挿図138 囲溝址 3	171
挿図139 囲溝址 4、土坑51	172
挿図140 溝址 1	173
挿図141 溝址 2、土坑52	174
挿図142 溝址 3	175
挿図143 建物址 1	176
挿図144 建物址 2	177
挿図145 建物址 3	178
挿図146 建物址 4	179
挿図147 建物址 5	180
挿図148 建物址 6	181
挿図149 建物址 7	182
挿図150 建物址 8、土坑11	183
挿図151 柱穴群 1	184
挿図152 土坑10・53・54、柱穴群 2	185
挿図153 土坑12、ロームマウンド3、柱穴群3	186
挿図154 竪穴状遺構 1	187
挿図155 土坑140・141・152、柱穴列 1	188
挿図156 76号住居址南東側柱穴	190
挿図157 暗渠 1	191
挿図158 弥生土器形態分類図（1）	204
挿図159 弥生土器形態分類図（2）	205
挿図160 弥生土器形態分類図（3）	206
挿図161 弥生土器形態分類図（4）	207

図版目次

第1図	14号住居址出土土器	263
第2図	58号・67号・68号住居址出土土器	264
第3図	68号・75号・77号住居址出土土器	265
第4図	77号・99号住居址出土土器	266
第5図	99号・1号・2号・3号・5号・6号住居址出土土器	267
第6図	7号・8号・9号住居址出土土器	268
第7図	9号・10号・11号住居址出土土器	269
第8図	11号・12号住居址出土土器	270
第9図	13号・15号住居址出土土器	271
第10図	15号・16号住居址出土土器	272
第11図	17号住居址出土土器	273
第12図	18号住居址出土土器	274
第13図	18号住居址出土土器	275
第14図	18号住居址出土土器	276
第15図	18号・19号・20号住居址出土土器	277
第16図	20号・21号・22号・23号・24等住居址出土土器	278
第17図	25号・26号・27号・28号住居址出土土器	279
第18図	29号・30号住居址出土土器	280
第19図	31号・32号・33号住居址出土土器	281
第20図	33号住居址出土土器	282
第21図	33号・34号住居址出土土器	283
第22図	35号・36号・37号住居址出土土器	284
第23図	37号・38号住居址出土土器	285
第24図	38号・39号住居址出土土器	286
第25図	39号・40号住居址出土土器	287
第26図	40号・41号住居址出土土器	288
第27図	41号・42号住居址出土土器	289
第28図	43号住居址出土土器	290
第29図	43号住居址出土土器	291
第30図	44号・45号・46号・47号住居址出土土器	292
第31図	47号・48号・49号・51号住居址出土土器	293

第32图	51号住居址出土土器	294
第33图	51号住居址出土土器	295
第34图	53号·54号住居址出土土器	296
第35图	54号·55号住居址出土土器	297
第36图	55号·57号住居址出土土器	298
第37图	60号·61号·62号·64号·65号住居址出土土器	299
第38图	65号·66号住居址出土土器	300
第39图	66号住居址出土土器	301
第40图	66号住居址出土土器	302
第41图	66号·69号·71号住居址出土土器	303
第42图	71号·72号住居址出土土器	304
第43图	72号·73号住居址出土土器	305
第44图	73号·74号·76号住居址出土土器	306
第45图	76号·78号住居址出土土器	307
第46图	81号·82号·83号住居址出土土器	308
第47图	83号·84号·85号住居址出土土器	309
第48图	85号住居址出土土器	310
第49图	86号住居址出土土器	311
第50图	86号·87号·89号住居址出土土器	312
第51图	89号·90号·91号·93号住居址出土土器	313
第52图	93号·94号住居址出土土器	314
第53图	94号·95号住居址出土土器	315
第54图	96号·97号·98号住居址出土土器	316
第55图	98号·100号住居址出土土器	317
第56图	59号·70号住居址出土土器	318
第57图	70号·88号住居址出土土器	319
第58图	88号住居址出土土器	320
第59图	88号·92号住居址出土土器	321
第60图	92号住居址出土土器	322
第61图	土坑3·10·15·17出土土器	323
第62图	土坑18出土土器	324
第63图	土坑18出土土器	325
第64图	土坑19·20·24·26·29·30·31出土土器	326
第65图	土坑32·33·34·35·39出土土器	327

第66図	土坑41・44・45・46・50・57・60・62出土土器	328
第67図	土坑62出土土器	329
第68図	土坑63・65・67・68・71・72・74・75・76出土土器	330
第69図	土坑77・78・79・81・86・88・89・90・94出土土器	331
第70図	土坑97・98・99・100出土土器	332
第71図	土坑102・103・104・105・107出土土器	333
第72図	土坑108・109・111・112・113・114・116・118・119・120・121・123・128・133出土土器	334
第73図	土坑135・137・139・140・142・144・143・146出土土器	335
第74図	土坑150・152・154出土土器	336
第75図	土坑155・21・70・110、竪穴状遺構1出土土器	337
第76図	配石1出土土器	338
第77図	配石2出土土器	339
第78図	埋設土器1出土土器	340
第79図	埋設土器、ロームマウンド1・2出土土器	341
第80図	方形周溝墓1出土土器	342
第81図	方形周溝墓1、円形周溝墓1、周溝址2・3出土土器	343
第82図	周溝址、溝址3出土土器	344
第83図	溝址3、建物址2・3・4・5出土土器	345
第84図	柱穴群1・2・3・4・5、III区柱穴、柱穴列1出土土器	346
第85図	遺構外I区・II区出土土器	347
第86図	遺構外II区・III区出土土器	348
第87図	遺構外III区出土土器	349
第88図	遺構外III区出土土器	350
第89図	遺構外(83号住居址内)出土土器	351
第90図	遺構外I区・II区・III区出土土器	352
第91図	14号・58号・67号・68号・77号住居址出土石器	353
第92図	99号・1号・5号・7号・9号・10号住居址出土石器	354
第93図	11号・12号・15号住居址出土石器	355
第94図	15号・16号住居址出土石器	356
第95図	17号・18号住居址出土石器	357
第96図	18号・19号・20号住居址出土石器	358
第97図	21号・22号・26号・30号・32号・33号住居址出土石器	359
第98図	35号・36号・37号・38号・39号住居址出土石器	360

第99図	40号・41号・43号・44号・47号・48号・51号住居址出土石器	361
第100図	53号・54号・64号・65号・66号住居址出土石器	362
第101図	69号・71号・72号・73号住居址出土石器	363
第102図	74号・76号・78号・81号・82号住居址出土石器	364
第103図	83号・84号・85号住居址出土石器	365
第104図	85号・86号住居址出土石器	366
第105図	86号・87号・89号住居址出土石器	367
第106図	91号・93号住居址出土石器	368
第107図	93号・94号・95号・97号住居址出土石器	369
第108図	97号・98号・100号住居址出土石器	370
第109図	100号・59号・70号・88号・92号住居址出土石器	371
第110図	土坑出土石器	372
第111図	土坑出土石器	373
第112図	土坑、配石1出土石器	374
第113図	配石1・2、方形周溝墓1、円形周溝墓1、圓溝址1・2出土石器	375
第114図	圓溝址3、溝址3、建物址4、柱穴群出土石器	376
第115図	住居址、土坑出土小型石器	377
第116図	土坑、配石、弥生時代住居址出土小型石器	378
第117図	弥生時代住居址出土小型石器	379
第118図	遺構外I区・II区出土石器	380
第119図	遺構外III区出土石器	381
第120図	土製品、石製品、金属器	382

表 目 次

第1表 住居址一覧表	193
第2表 繩文時代の遺構出土石器一覧表	202
第3表 弥生時代遺構出土土器一覧表	211
第4表 豊B _{1a} と組成する器形一覧表	213
第5表 豊B _{1b} と組成する器形一覧表	213
第6表 豊B _{1c} と組成する器形一覧表	214
第7表 豊B _{2b} と組成する器形一覧表	214
第8表 埋設土器に組成する器形の比率表	215
第9表 弥生時代の遺構出土石器一覧表(1)	217
第10表 弥生時代の遺構出土石器一覧表(2)	218
第11表 I区の住居址出土石器一覧表	221
第12表 II区・III区の住居址出土石器一覧表	222
第13表 打製石斧の長さと幅	223
第14表 古墳時代の住居址出土土器一覧表	224
第15表 繩文時代の遺構出土土器観察表	233
第16表 弥生時代後期の遺構出土土器観察表	234
第17表 古墳時代の遺構出土土器観察表	248
第18表 奈良時代以降の遺構出土土器観察表	250
第19表 遺構外出土土器観察表	251
第20表 繩文時代の遺構出土石器観察表	252
第21表 弥生時代後期の遺構出土石器観察表	254
第22表 古墳時代以降の遺構出土石器観察表	260
第23表 遺構外出土石器観察表	261

写真図版目次

- 図版 1 殿原遺跡遠景（西より）
図版 2 殿原遺跡より風越山を望む
図版 3 殿原遺跡遠景（北東より） 殿原遺跡近景（北東より）
図版 4 殿原遺跡近景（北西より） 殿原遺跡近景（北より）
図版 5 14号住居址 58号住居址
図版 6 67号住居址 67号・68号住居址
図版 7 74号・75号・77号住居址 99号住居址
図版 8 1号住居址 2号住居址
図版 9 3号住居址 4号住居址（上は3号住居址）
図版10 5号住居址（下は2号住居址）6号住居址、土坑1
図版11 7号住居址 炉址 8号住居址
図版12 9号住居址 10号住居址
図版13 11号住居址 13号住居址（下は12号住居址）
図版14 15号住居址 15号住居址 炉址
図版15 16号住居址 16号住居址 炉址
図版16 17号住居址 18号住居址
図版17 18号住居址 炉址 19号住居址
図版18 19号住居址 炉址 20号住居址（上は21号住居址）
図版19 21号住居址 21号・22号・23号住居址
図版20 21号住居址 炉址 21号住居址 石棒状石製品 21号住居址 石製鋸鍤車 22号住居址 炉
址 23号住居址
図版21 24号住居址 25号住居址
図版22 26号住居址 27号住居址
図版23 28号住居址 29号住居址
図版24 30号住居址 31号住居址
図版25 32号住居址（上は31号住居址）33号住居址
図版26 33号住居址 炉址 34号・35号住居址
図版27 36号住居址 37号住居址
図版28 38号住居址 38号住居址 炉址
図版29 39号住居址 39号住居址 炉址
図版30 40号住居址 41号住居址

- 図版31 42号住居址 42号住居址 炉址
- 図版32 44号住居址 45号住居址
- 図版33 45号住居址 炉址 46号住居址
- 図版34 47号住居址 48号住居址
- 図版35 50号住居址 51号住居址
- 図版36 51号住居址 炉址 51号住居址 石器出土状態 51号住居址 有孔磨製石庵丁 52号住居址 (右上は50号住居址)
- 図版37 53号住居址 53号住居址 炉址
- 図版38 54号住居址 55号住居址
- 図版39 56号住居址 57号住居址
- 図版40 57号住居址 炉址 60号住居址
- 図版41 61号住居址 61号住居址 炉址
- 図版42 62号住居址 65号住居址
- 図版43 66号住居址 66号住居址 炉址
- 図版44 71号住居址 71号住居址 炉址
- 図版45 76号住居址 76号住居址 炉址
- 図版46 78号住居址 78号住居址 炉址
- 図版47 69号・79号住居址 81号住居址
- 図版48 82号住居址 84号住居址
- 図版49 85号住居址 85号住居址 炉址
- 図版50 86号住居址 86号住居址 炉址
- 図版51 87号住居址 89号住居址
- 図版52 89号住居址 炉址 91号住居址
- 図版53 91号住居址 炉址 93号・95号住居址
- 図版54 95号住居址 93号住居址 炉址 95号住居址 炭分布状態 95号住居址 炉址
- 図版55 94号住居址 94号住居址 炭分布状態
- 図版56 96号住居址 (上は64号住居址) 96号住居址 炉址
- 図版57 97号住居址 97号住居址 炉址
- 図版58 98号住居址 100号住居址
- 図版59 59号住居址 70号住居址
- 図版60 70号住居址 集石 70号住居址 カマド 70号住居址 カマド遺物出土状態 70号住居址 カマドの石 70号住居址 遺物出土状態
- 図版61 88号住居址 88号住居址 碓・炭分布状態 88号住居址 カマド
- 図版62 92号住居址 92号住居址 遺物・礫状態 92号住居址 遺物・礫出土状態 (部分) 92号

住居址 遺物出土状態 92号住居址 壺出土状態

図版63 III区 土坑群（東から） III区 土坑群（南東から）

図版64 土坑5 土坑6 土坑10・11 土坑18 土坑20 土坑135 土坑146

図版65 土坑154 遺物出土状態 土坑155 遺物出土状態 土坑155 断面調査 土坑155 掘り上げ
状態 土坑21～29・31・32 土坑18・20・35～37・42・43・50・59・60 土坑98・100・
102～108・154 土坑111・133～139、柱穴列1

図版66 配石1・2（北東から） 配石1・2（西から）

図版67 配石1（東から） 配石2（西から）

図版68 配石1-I 配石1-III 配石1-IV 配石1-N 配石1（北東から） 配石1
(西から) 配石1 磨製石斧出土状態 配石2（北西から）

図版69 埋設土器1 埋設土器1 たち割り

図版70 方形周溝墓1 円形周溝墓1

図版71 囲溝址1 囲溝址2

図版72 囲溝址3 囲溝址4

図版73 溝址1 溝址3

図版74 建物址1 建物址2

図版75 建物址3、竪穴状遺構1 建物址4

図版76 建物址5 建物址6

図版77 建物址7、柱穴群3 建物址8

図版78 柱穴群1 柱穴群3

図版79 柱穴群4・5 ロームマウンド1、土坑27・28・30・34・38

図版80 ロームマウンド2、土坑20 暗渠1

図版81 I区 北側全体（西から） I区 北側全体（東から） I区 西側全体（北東から） I
区 南西側全体（東から） II区 南西側全体（東から）

図版82 II区 北東側全体（北西から） III区 北東側全体（西から）

図版83 14号住居址 深鉢 14号住居址 出土土器 58号住居址 出土土器 67号住居址 出土土器
68号住居址 出土土器 77号住居址 出土土器 99号住居址 出土土器

図版84 7号住居址 埋設炉 7号住居址 高坏 8号住居址 高坏 9号住居址 壺 11号住居址
壺 11号住居址 高坏 11号住居址 壺 11号住居址 埋設炉

図版85 11号住居址 埋設炉 13号住居址 壺 15号住居址 壺 15号住居址 埋設炉 15号住居址
壺 16号住居址 壺 17号住居址 埋設炉 同文様

図版86 17号住居址 高坏 18号住居址 壺 18号住居址 埋設炉 18号住居址 壺 18号住居址高
坏

- 図版87 19号住居址 埋設炉 21号住居址 埋設炉 26号住居址 布留式の甕 30号住居址 甕 30号住居址 高坏 31号住居址 高坏 33号住居址 壺 33号住居址 埋設炉
- 図版88 35号住居址 壺 35号住居址 高坏 36号住居址 埋設炉 37号住居址 甕 37号住居址 台付甕 38号住居址 壺 38号住居址 埋設炉 38号住居址 高坏
- 図版89 39号住居址 埋設炉 同文様 41号住居址 埋設炉 41号住居址 甕 42号住居址 高坏 42号住居址 埋設炉 同文様
- 図版90 43号住居址 壺 43号住居址 甕 43号住居址 高坏 46号住居址 埋設炉 48号住居址 壺 51号住居址 埋設炉
- 図版91 51号住居址 壺 53号住居址 埋設炉 54号住居址 埋設炉 55号住居址 壺 55号住居址 埋設炉 57号住居址 埋設炉 61号住居址 埋設炉
- 図版92 64号住居址 甕 65号住居址 埋設炉 同文様 66号住居址 壺 同文様 66号住居址 埋設炉 66号住居址 甕
- 図版93 66号住居址 鉢 72号住居址 壺 72号住居址 甕 72号住居址 埋設炉 72号住居址 高坏 76号住居址 甕 76号住居址 埋設炉の文様とヘラミガキ 78号住居址 壺
- 図版94 78号住居址 壺 78号住居址 埋設炉 82号住居址 埋設炉 83号住居址 埋設炉 85号住居址 壺 86号住居址 埋設炉
- 図版95 89号住居址 91号住居址 埋設炉 同文様 93号住居址 埋設炉 93号住居址 甕 94号住居址 埋設炉 95号住居址 埋設炉 同文様
- 図版96 96号住居址 埋設炉 97号住居址 壺 97号住居址 埋設炉 100号住居址 埋設炉 59号住居址 甕 70号住居址 甕 70号住居址 坏
- 図版97 70号住居址 坏 70号住居址 高坏 88号住居址 壺 88号住居址 甕
- 図版98 88号住居址 坏 88号住居址 鉢 88号住居址 高坏 92号住居址 壺 92号住居址 甕
- 図版99 92号住居址 甕 92号住居址 坏 92号住居址 鉢 土坑18 つり手土器 土坑18 土坑62 深鉢
- 図版100 土坑62 土坑63 土坑154 土坑155 配石1 配石2 浅鉢 配石2 埋設土器1 深鉢
- 図版101 埋設土器1 深鉢 方形周溝墓1 高坏 19号住居址 上層山茶碗 58号住居址出土 おろし皿 各地出土陶器
- 図版102 14・58号住居址 67・68号住居址 67号住居址 石棒 同部分 77号住居址 99号住居址 1号・5号・7号・9号・10号住居址 11号住居址
- 図版103 15号住居址 16号住居址 17号住居址 18号住居址 19号住居址 20号・21号住居址 21号住居址 石棒状石製品 同部分
- 図版104 22号・26号住居址 30号住居址 32号・33号住居址 32号住居址 砥石部分 35号・36号住居址 37号・38号住居址 39号住居址 40号・43号住居址
- 図版105 44号・47号・48号住居址 51号住居址 51号住居址 有孔磨製石庵丁 53号・54号住居址

64号・65号住居址 66号住居址 69号住居址 71号住居址

図版I06 74号・76号住居址 78号・81号住居址 83号住居址 84号住居址 85号住居址 86号住居址

図版I07 87号住居址 89号住居址 91号住居址 92号住居址 93号住居址 94号住居址 95号・98号住居址

図版I08 97号住居址 100号住居址 59号・70号住居址 59号住居址 磨製石鎌未成品 88号住居址 土坑14 土坑18・19 土坑21

図版I09 土坑35・39・60 土坑62 土坑73・76・90・99 土坑100 土坑104・109・120・127 土坑129・133・137・143・144 配石1

図版I10 配石1 方形周溝墓1 円形周溝墓1、圓溝址1・2・3 溝址3 打製石鎌 スクレイバー ピエス・エスキュー、石錐

図版I11 使用痕のある剥片、加工痕のある剥片など 遺構外II区 押入磨製石庖丁 研磨痕 同B面の研磨痕 遺構外III区

図版I12 土偶 66号住居址 出土土製円板

図版I13 鋸鍤車 鉄製品

図版I14 調査スナップ

I 経過

1 調査に至るまで

中央自動車道西の宮線飯田インターチェンジは飯田市街地の南西約3kmの伊賀良地区にあり、飯田の玄関口となっている。しかし、市街地への国道153号は道路幅は狭く、かつ、交通量も多く、交通渋滞は大きな社会問題ともなっており、その解決のためバイパスの早期建設が各方面から要望されていた。昭和47年に国道153号飯田バイパスの計画路線が決まり、このため、県教委社会教育課と飯田市教委によって路線内の遺跡分布調査が実施された。殿原遺跡では、信南交通KKバス置場入口の切除部に住居址の存在が認められ、主要な遺跡とみられた。

その後、バイパス路線決定に関し地元関係者等との間で再三にわたる協議がなされ、また、北方地区区画整理計画による耕地の交換分合とのからみあい等もあり、昭和57年3月ようやく路線が決定し、11月より用地買収が始まり、飯田インターチェンジから知久町中村線の交差点までの間は信南交通KKバス置場と八幡面の毛賀沢川より南側の一部を除き、昭和58年度に用地買収が完了した。

昭和59年に工事着工の運びとなり、これに伴う発掘調査が建設省中部地方建設局長と飯田市長との間で委託契約がなされた。発掘調査は飯田教育委員会が実施することになった。

これに先立ち、59年10月15日より10月30日の14日間、伊賀良地区1100mにある殿原・八幡面・小垣外の三遺跡の確認調査を実施した。殿原遺跡は、道路中心杭No.38~40の間に凹地帯となり、遺構・遺物ではなく、他は全域にわたって遺物の出土を見、遺構の存在が確かめられた。

道路工事に先行して、関連工事である毛賀沢川の改修工事が実施され、それに伴う発掘調査は長野県建設事務所と飯田市長との間で委託契約し、昭和59年11月実施された。

昭和59年度発掘調査は殿原遺跡の末買収のバス置場と、遺構の存在が認められなかった凹地帯を除く全域の調査を11月27日から実施した。

昭和60年9月下旬ようやく遅れていた信南交通KKバス置場の買収が決まり、殿原遺跡の中心部の調査を実施することとなった。

2 調査の経過

1) 第1次発掘調査

昭和59年11月1日より11月26日までの18日間 毛賀沢川改修工事区域とその工事用道路となる

地点の発掘調査を行なう。1号～9号住居址、方形周溝墓1等を検出する。

11月27日より12月19日までの19日間 No40～43のセンター杭区間調査。10号～22号住居址、圓溝址1、建物址4等を検出する。

12月20日～26日までの6日間 No37センター杭を中心とした水田の調査。23号～27号住居址を検出する。

昭和60年1月7日～18日までの8日間 No36センター杭を中心とした水田の調査。28号～32号住居址、圓溝址2を検出する。

1月19日より2月1日までの11日間 No32センター杭下の水田調査。北側は毛賀沢川改修工事用道路のため後日にまわす。33号～39号住居址、圓溝址3等を検出する。

2月2日～15日までの10日間 No34～35センター杭間の桃畠調査。北側は工事用道路のため後日調査。40号～45号住居址を検出する。

2月16日より3月9日までの15日間 No33～34センター杭間を調査。その期間中天候不順となり、苦労する。46号～56号住居址を検出する。

3月11日～13日までの3日間 No40～45センター杭間の再調査。57号・58号住居址、建物址5等を検出する。

3月15日～20日までの4日間 毛賀沢川改修工事用道路敷となった部分の調査。56号～61号住居址、円形周溝墓1、堅穴状遺構1等を検出する。

3月22日 No43センター杭東にわずかに残る水田の調査。建物址6を検出しⅠ次調査を終わる。なお、調査実施にあたり、No33～No38センター杭区間は60～80cm比高差をもつ段々田のため下の田より調査し、次の田の土を埋めていく調査方法をとらざるを得なかった。

2) 第2次発掘調査

信南交通KKバス置場のNo41～48センター杭区間の用地買収の関係から、昭和60年9月下旬に敷原遺跡の第II次発掘調査実施の運びとなった。

バス置場となったため砂利が敷き詰められ、道路中心杭・境界杭は不明となっており、このため、9月27日銀田国道工事事務所の立合で杭位置の確認をし、10月3日より調査を開始する。

バス置場の南側は一段高く、北側は約1mの段差をもって低くなり、ともに平坦面となっている。上段面は砂利を敷き詰めバスの置場となり、下段面は砂利の敷き詰めはないがバスの出入口となって固められていた。

No45～47センター杭間の下段面にトレンチ調査するが、バス置場設置の際に削平されており、遺構・遺物は検出されなかった。調査前にNo48センター杭を中心とする地点にバイパス工事に伴う知久町中村線の工事用付替道路の付設による立合調査をなすが遺構・遺物は検出されなかった。

この区間の弥生時代後期の住居址群の検出、No44センター杭東に旧河道、さらに旧河道東に縄文時代後期の配石遺構、150をこす土坑群の発見があり、多量の遺物の出土をみた。

調査期限は12月20日となっていたが、調査期限を延期することになり、12月28日まで調査を続けるが未了。新年にはいって8日より13日までかかり、ようやく調査を完了することができた。

3 調査組織

1) 調査団

調査團長

佐藤 駿信 (日本考古学協会員)

調査員

佐々木嘉和、山下 誠一、佐合 英治、桜井 弘人、小林 正春

調査補助員

牧内 佳子

作業員

福島明夫、松下真幸、柳沢八重子、宮島平三、牧島茂実、高橋収二郎、細田七郎、市瀬長年、土屋ミチ子、林庄藏、下平米一、牧内恒子、柳沢豊茂、小林弘、吉沢浩三、下平幸江、片桐鉄一、佐藤いなゑ、田口さなゑ、今牧富士夫、宮内孝人、北原康夫、高橋寛治、木下当一、平沢今朝光、木下伝、本多正司、桐生清志、高島亜矢子、岡島定治、今井寿男、清水五郎、奏清平、平沢秀雄、小池伸二、武藤弘、中野充夫、中野裕頤、久保田八尋、清水良子、池田幸子、吉川紀美子、小平不二子、木下恒子

2) 事務局

事務局長

塙沢 正司 (飯田市教育委員会社会教育課長)

事務局員

池田 明人 (飯田市教育委員会社会教育課文化係)

小林 正春 (" " " 文化係)

吉川 豊 (" " " ")

新井 智子 (" " 庶務課 ~61. 10)

土屋 敏美 (" " " 61. 10~)

(佐藤駿信)

II 遺跡の立地と環境

1 自然的環境

殿原遺跡は、長野県飯田市上殿岡533番地・570番地ほかに所在する。

上殿岡は、昭和32年飯田市合併前は伊賀良村上殿岡であった。伊賀良地区は飯田市街地の南々西にあって、木曾山脈の前山の笠松山（1271m）・高島屋山（1397m）の東山麓に位置し、北の松川と南の茂都計川（久米川の支流）の強い押し出しによって広大な扇状地が発達している。特に、松川の扇状地は、下伊那地域の中で模式的な新規扇状地で、扇端の一部が南の下殿岡まで続き第2段丘に連なっている。伊賀良地区は西方の山地帯、松川右岸沿いの段丘面、東の竜丘地区に接する段丘面、南方の茂都計川流域の段丘面を除き、中央部はこの大きな扇状地にあるといえよう。

この新しい扇状地を前山から流れ出る川は小さく、北から毛賀沢川、新川とそのいくつかの支流があり、松川から引水した大井川を含め、いずれもが浅い谷を形成して東流する。大井川のほか、他の川から引水した井水も多く、扇状地で上における人為的水利の古くから開けた地域である。

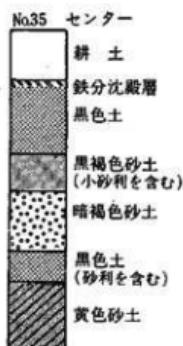
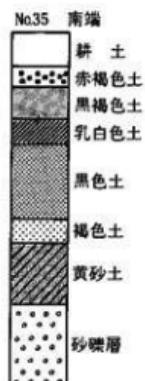
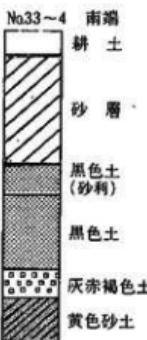
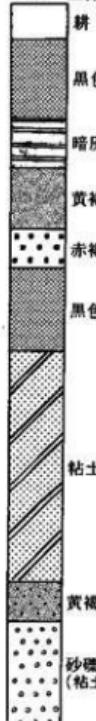
遺跡の北は毛賀沢川が蛇行し、市道知久町中村線を境にして谷を形成し、東流している。さらに、北は西の原・一色の段丘面が東に延び、その北は比高差50mの段丘崖となり、崖下は松川南岸の扇の中心地帯となる。南は比高差10mの高所を人工の大井川が東流し、東に延びる下殿岡の第2段丘面となる。西は毛賀沢川が大きく北に迂回して台地を切っている。それより西は八幡面・小垣外と扇状地が続き、飯田インターチェンジを経て笠松山麓に至っている。

遺跡の範囲は、北は毛賀沢川の蛇行路を境にし、東は市道知久町中村線から約300m東側の小沢を境とし、西は毛賀沢川が大きく北に迂回し台地を切る地点までの670m、南は大井川より比高差10m下がった緩い傾斜地帯の水田までの幅約100~200mの範囲に立地している。標高は東端部で514m、西端部で519mを測る。

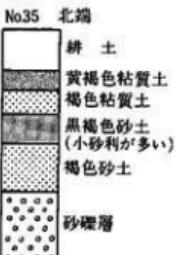
微地形をみると、全面に毛賀沢川の氾濫堆積をかぶっている。土層は土層図（第1図）でみるとセンターエネルギーNo33~38区間の100mは砂質土の堆積であり、基盤は黄色砂土となる。No38~40区間は凹地帯となり、耕土直下はローム層となり、遺構の存在はみられなかった。No40~43の間の南側は三角形に水田が残り、その土層は砂質土の堆積があり、基盤はローム層となる。この間の北側からNo47にかけては信南交通バス置場となり、地表は削平され、約25m厚みに砂利が敷かれていたが、その下は砂質土の堆積があつて基盤のローム層となる。

センターエネルギーNo44に10m幅に南北から蛇行する旧河道が検出されている。遺跡の毛賀沢川を隔てた八幡面の遺跡確認調査では100m余にわたって旧河道を示す砂礫の深い堆積層がみられ、また、

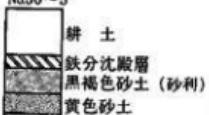
殿原毛賀沢河川改良
土採り断面



粘土層



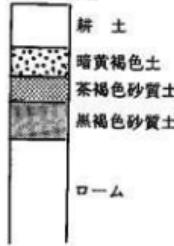
No.36~5



No.44~



No.42 南端



No.43 北端



No.38~39

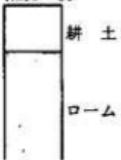


図1 殿原遺跡基本土層柱状図 (1:30) (No.33~43はセンター杭)

No.32センター杭付近から現河道を北に大きく迂回する旧河道とみる凹地帯が続いている。前山よりの土石流によって何回かその流路は変わり、洪水による堆積が現地形を形成したとみられる。殿原は伊賀良地区において最も豊穣な土地とされている地域であるが、この殿原遺跡一帯が西側前山からの扇状地の扇端部にあたり、天竜川による段丘面と扇状地地形の接点ともいえる箇所となり、微地形の変化により、古くから安定した居住空間と生産空間を兼ね備えた地域であったといえる。なお、現在の毛賀沢川に続く北側の凹地をはさんで対峙する一色・西の原の舌状台地も古くからの生活の場であったと推測される。

2 歴史的環境

伊賀良地区の遺跡を概観すると、木曾山脈の前山の山麓には、茂都計川上流の矢平遺跡が弥生時代後期と平安時代の遺跡として知られ、孫兵衛屋敷・牧平・火振原の各遺跡は縄文時代早期押型文土器をはじめ前期・後期の土器の出土をみている。笠松山の北の山裾にある立野遺跡は縄文時代早期押型文土器の標準遺跡であり（神村1968・69）、縄文時代前期・中期・後期の土器の出土もみている。立野の一段下の山口遺跡は縄文時代前期後半の遺跡として知られる（宮沢1966）。この付近から南に続く扇状地上方に立地する縄文時代前期・中期の遺跡が多い。

扇状地の中央部を南北に中央自動車道が通過している。その発掘調査では、ようじ原・上の平東部・寺山・六反田・大東・酒屋前・滝沢井尻・辻垣外（小垣外）・三壺淵・上の金谷の10遺跡が調査されている（長野県教委1972）。縄文時代では辻垣外遺跡で前期終末の住居址と土坑群、中期後半では上の平東部・酒屋前・滝沢井尻・辻垣外遺跡で住居址が発掘調査され、辻垣外遺跡では後期の良好な資料が検出されている。弥生時代では大東・酒屋前・滝沢井尻、上の金谷遺跡で住居址が発掘され良好な資料の出土をみており、特に滝沢井尻遺跡の方形周溝墓の主体部より鉄剣2口が出土し注目された。古墳時代では三壺淵・上の金谷遺跡で住居址が発見され、平安時代では六反田・滝沢井尻・辻垣外・三壺淵・上の金谷遺跡で住居址が検出され、辻垣外遺跡では綠釉陶器の出土をみている。中世では酒屋前遺跡を中心に集落の存在が予想され、1982年度工場建設に伴う発掘調査では多くのこの時期の資料が得られ（佐藤1983）、鎌倉時代後半から、室町時代初頭に位置づくもので、歴史的背景が考慮されるものであった。

扇端部から段丘面にかけては、扇状面の侵蝕も深まり、台地上の水利は悪く、遺跡は川に面す所に立地する傾向を示している。段丘面の調査は殿原遺跡の北にある西の原遺跡（伴・宮沢1967）があり、縄文時代中期中葉の住居址3軒が発掘され注目された。川に面して立地する遺跡に中島平があり、1976年の農業改良事業に伴う発掘調査で縄文時代早期終末・前期終末の住居址各1、弥生時代後期の集落址、古墳時代・中世の住居址、土坑57基が検出され、径2m余の44号土坑では底部より有舌ポイントの出土をみている（佐藤1977）。

伊賀良地区の古墳は43基があげられている（市村1955）。

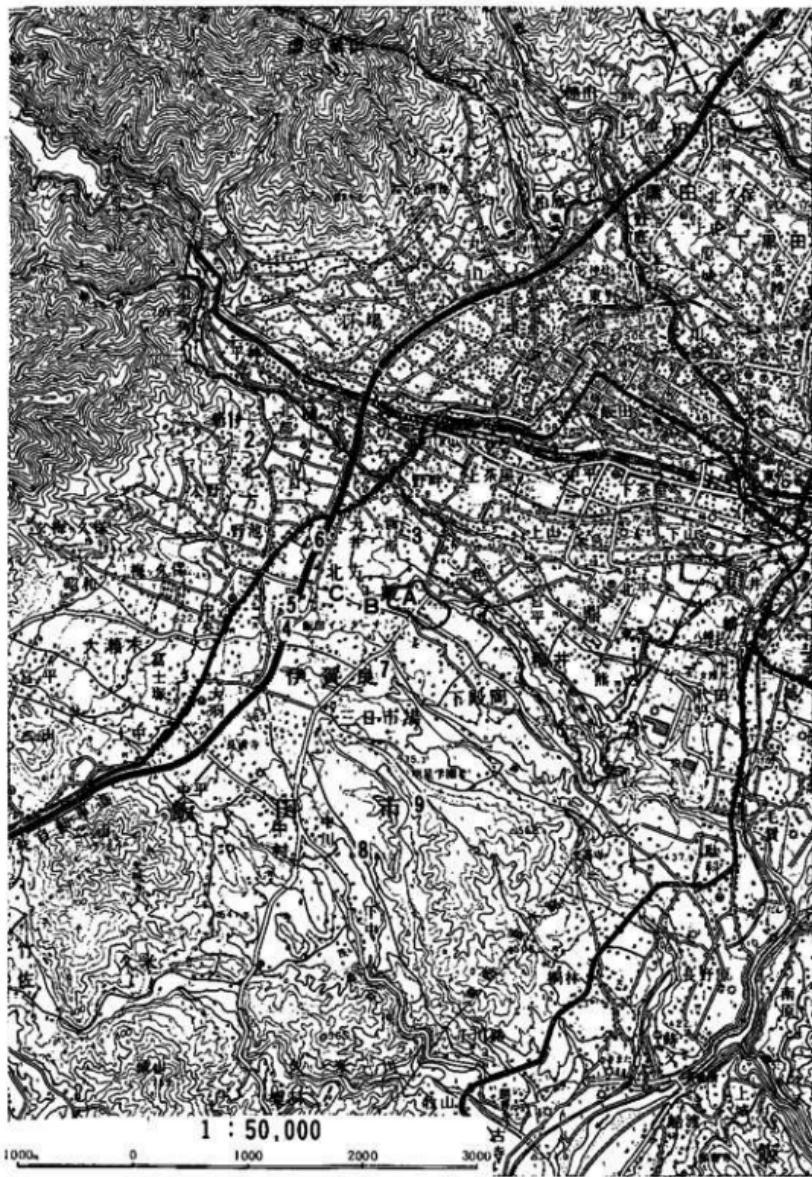


図2 斎原遺跡位置図及び周辺遺跡図

- A 殿原遺跡 B 八幡面遺跡 C 小堀外遺跡
 1 立野遺跡 2 山口遺跡 3 西の原遺跡 4 酒屋前遺跡 5 海沢井尻遺跡
 6 上の金谷遺跡 7 中島平遺跡 8 大畑古墳 9 土器洞窓跡

残存するもの9基があるが、石室は破壊され、墳丘をわずかに残すものが大半である。古墳分布は松川に面す扇端部、新川の両岸の段丘端部、茂都計川に面す段丘端部に東西方向に並んでいる。その他散在する古墳がわずかにみられる。多くは後期古墳とみられ、規模も小さい。茂都計川に南面する段丘南東端にある大畠古墳は、伊賀良地区では残存する最大の古墳ではほぼ完存し、盤竜鏡の出土で知られ、内部構造は不明であるが、古い古墳ともみられる。

臼井川に面した浸蝕谷に須恵器の窯跡土器洞（かわらけぼら）があり、平安時代の窯跡（遠那・遠那1979）である。

伊賀良地区は古代東山道育良駅の所存地ともみられているが、その確証はない。伊賀良の庄の名は平安時代にあらわれ、文献によれば、中村・久米・川路・殿岡の諸郷が含まれ、松川以南、阿智川以北の竜西一帯とみられているが、その中心が伊賀良にあったものとはいえない。

中世においては、鎌倉時代伊賀良庄地頭は北条時政であり、時政以後は北条氏の一族である北条江馬氏が代々それを継いでいる。江馬氏の地頭代四条金吾頼基は殿岡に居を構えたことは「日連聖人御遺文」に認められているが、「とのおか」の位置については現在の殿岡かははっきりしない（宮下1967）。四条金吾は江馬氏の重臣であり、日連の信者として知られている。

北条氏滅亡後、小笠原氏が伊賀良庄地頭となり、その配下の武将を伊賀良の要所に置き、その一つが三日市場の下の城との伝承もある。戦国動乱期にはいると、小笠原氏は鈴岡・松尾城を築き、その支城が各地にみられ、伊賀良地区には下の城跡・桜山城跡がある。小笠原氏によって伊賀良地区の大開発が進んだ時期とされている（筒井1973）。

（佐藤雅信）



挿図3 黒原遺跡調査位置図及び周辺図

III 調査結果

1 造 構

今次調査において発掘調査された造構は次の通りである。

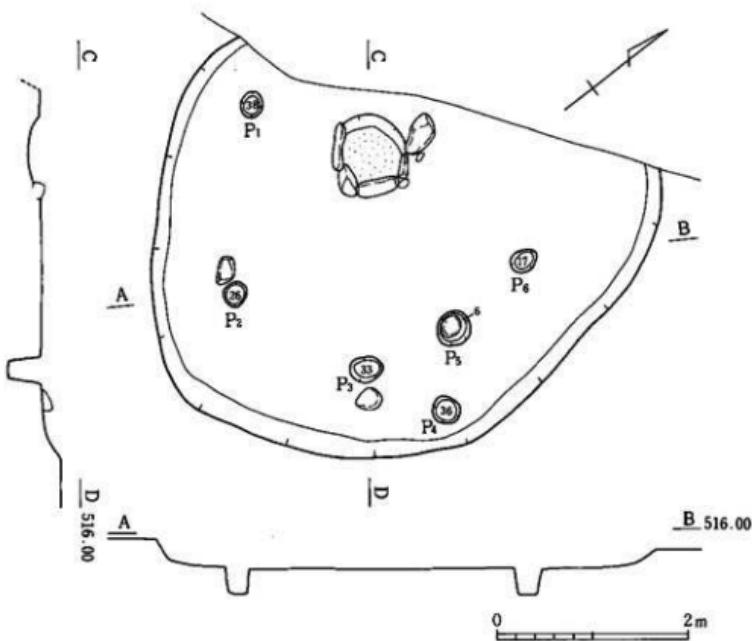
1 竪穴住居址	100軒
1) 縄文時代	9軒
2) 弥生時代	87軒
3) 古墳時代	4軒
2 土坑	155基
1) 縄文時代	143基
2) 弥生時代	9基
3) 中世	1基
4) 時期不明	2基
3 配石	2ヶ所
4 埋設土器	1
5 方形周溝墓・円形周溝墓	各1基
6 圏溝址	4
7 溝址	3
8 建物址	8棟
9 柱穴群・柱穴列	6ヶ所
10 竪穴状造構	1基
11 ロームマウンド	3
12 暗渠	1

1) 竪穴住居址

(1) 縄文時代

① 14号住居址（拵図4、第1・91・115図）

造構 No40~41センター杭と、その南境界杭の中間にあり、北側には信南交通KKバス置場のため削平され、半分強を調査した。径5m前後のゆがんだ円形の竪穴住居址で、主軸方向はN36°Wを示す。整高は30~23cmで、緩やかな壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ、あまり堅くない。



拵図4 14号住居址

5ヶの深い穴が検出されているが、主柱穴は配置からみてP₁～P₃・P₆で破壊された部分に存在が予測される2ヶを合わせ6本主柱穴と考えられる。炉址は中央北西寄りにあり、石圓炉であるが、北西側の石は欠失している。

遺物 大半が覆土中からの出土で、土器は比較的多く、深鉢が主となる。胴部3ヶ体あり、口縁部は内湾し大きく開くとみられ、頸部はしまって胴部はわずかにふくらむ。文様は斜繩文を切ってくびれ部に細い沈線文をめぐらし、胴部に緩やかな横位の波状文が施される。繩文時代中期後半の東海系の土器である。これらが主体をなし、これに伊那地方の土器が混じっている。石器には打製石斧2点が床面より、スクレイパー、使用痕のある剥片各1点が覆土より出土した。後者の石器は古い時期の混入品とみられる。

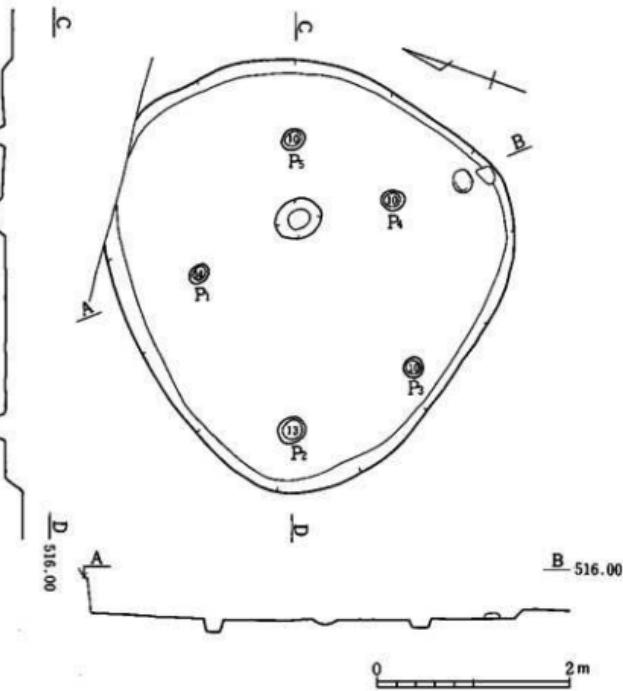
出土遺物から繩文時代中期後半に比定される。

② 58号住居址（拵図5、第2・91・115図）

遺構 Na41センター杭と南境界を結ぶ線上にあり、北側のわずか一部は、信南交通KKバス置場

のため削平されてい
たが、ほぼ完掘した。
4.2×4.0mのゆがん
だ円形の竪穴住居址
で、主軸方向はN24°
Eを示す。壁高は
19~7cmで、緩くロ
ーム層に掘りこむ。
床面はあまり堅くな
い。主柱穴はP1
~P5の5ヶで、い
ずれも浅い。炉址は
住居址中央よりやや
北東寄りにあり、地
床炉である。

遺物 土器は少な
く、縄文時代中期中
葉末の土器で、東海
系の土器とみられる
ものが主となる。上
層より弥生時代後期
窓底部1点の出土を



挿図5 58号住居址

みる。石器は打製石斧・横刃形石器が床面上層より出土し、抉入打製石庖丁の混入がある。ピエ
ス・エスキュー1・加工痕のある剥片1の他剥片数点が覆土より出土した。

出土遺物から縄文時代中期中葉末に比定される。

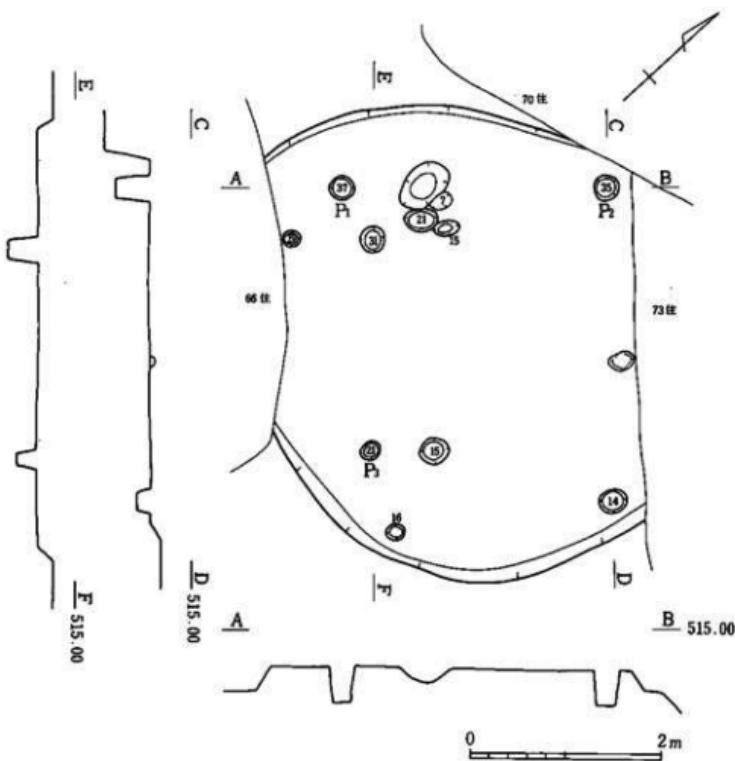
③ 67号住居址（挿図6、第2・91・115図）

遺構 弥生時代後期の66号・73号住居址に切られ、縄文時代後期初頭の68号住居址を切る。ほ
ぼ完掘した。径4.3mのややゆがんだ円形の竪穴住居址である。壁高は17~11cmで、黒褐色砂土に
掘りこみ、床面は堅い。9ヶの穴が検出されているが、主柱穴はP2・P6・P7・P8の壁ぎ
わに配せられる穴と、66号・73号住居址に切られた部分に1ヶずつあって、主柱穴6本と推測さ
れる。炉址は北西壁寄りにあり、地床炉である。

遺物 土器は少なく、縄文時代後期前半を主体とし、上層より弥生時代後期の窓口縁部の混入
出土をみる。石器は少なく打製石斧が覆土より、小石棒（91-8）が床面より出土する。小石棒

は長さ9.4cm、幅1.3cm、厚さ1cm、両端に飾りをもつ信仰的なものとみられる。ほかに、使用痕ある剥片がある。

出土遺物からは縄文時代後期前半と考えられる。



挿図6 67号住居址

④ 68号住居址 (挿図7、第2・3・91・115図)

遺構 弥生時代後期の66号住居址、縄文時代後期の67号住居址に切られ、南西一部にロームマウンドがのる。一辺が3.7m隅九方形の竪穴住居址である。壁高は17~20cmで、ローム層に掘りこみ、床面は堅い。穴は住居址内に8ヶと北側の67号住居址に切られた所に1ヶあり、P1~P4の4本を主柱穴とみる。炉址ははっきりしないが、北東側に径40cm、深さ29cmの掘りこみがあり、焼土はないが炭・灰の堆積を見る穴があり、炉址の可能性がある。

遺物 土器は磨清縄文を沈線で囲む文様が主となる。石器は打製石斧2点、砾石1点、打製石鏃、

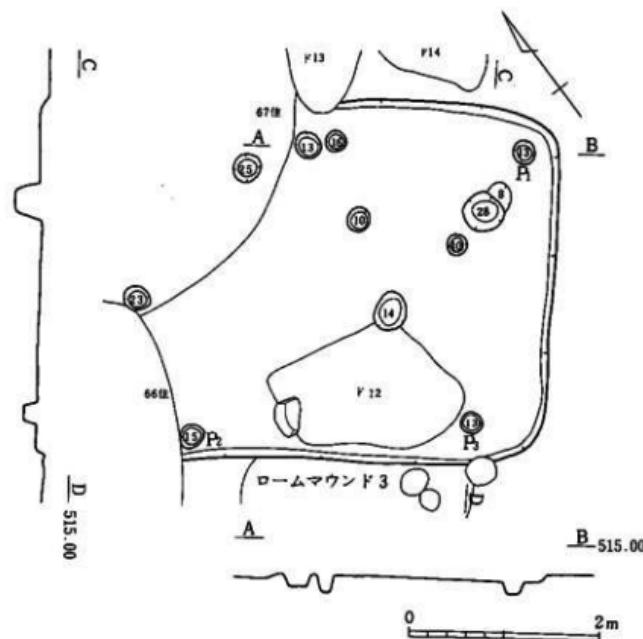
加工された剝片各
1点が覆土より出
土した。

出土遺物から縄
文後期初頭の住居
址である。

⑤ 75号住居址
(挿図8、第3図)

遺構 弥生時代
後期の74号・77号
住居址に切られ、
北側が用地外にか
かり、全体の1/2を
調査した。一边が
5.6mのゆがんだ
隅丸方形の竪穴住
居址で、主軸方向
はN16°Wを示す。

壁高は14~6cmで、
緩やかにローム層
に掘りこみ、床面
は堅い。3ヶの比



挿図7 68号住居址

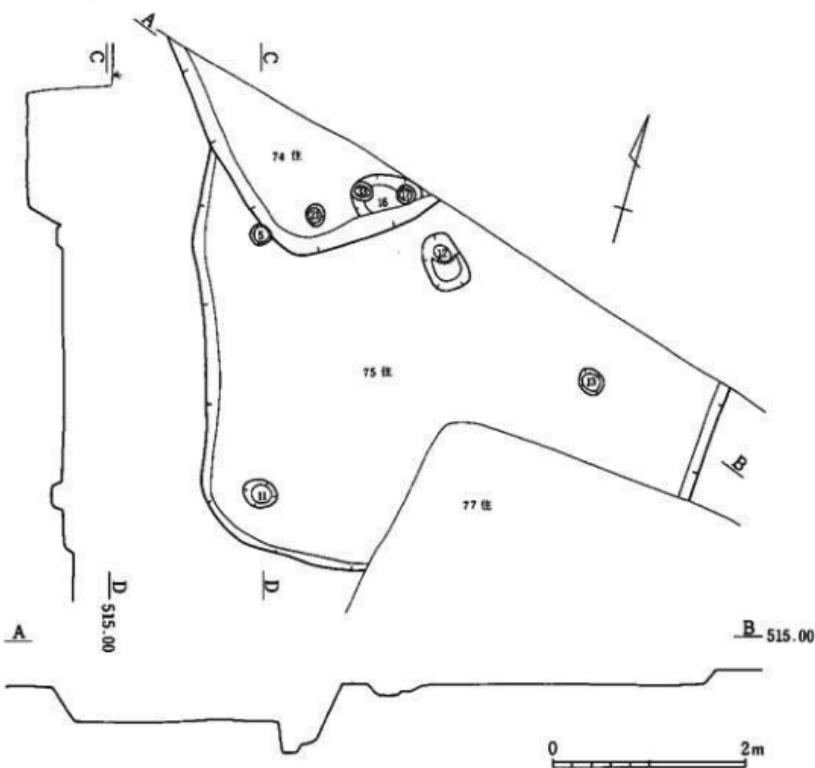
較的浅い穴を検出するが、配置からみて主柱穴となるは南西隅の1ヶがあり、74号住居址の南西
の穴と、南東の77号住居址内にある1個の穴は、本址につく主柱穴とみる。北東の用地外調査
部に存在が予測される1ヶを合わせ4本の主柱穴と考えられる。中央部やや北西寄りに径40~60
cm、深さ10cmの横円形の掘りこみがあり、焼土は少ないが、灰の堆積がみられ、地床炉と考えら
れる。

遺物 土器は条線文をもつ土器、磨消繩文を弧沈線で囲む深鉢が主体となり、突起部が1片出
土している。覆土中出土が多い。石器は剝片1点が覆土より出土をみたにすぎない。

出土遺物から縄文時代後期初頭の住居址と考えられる。

⑥ 77号住居址 (挿図9、第3・91図)

遺構 縄文時代の75号住居南側約1/4を切り、南西側の一部は弥生時代後期後半の73号住居址に
切られるが、ほぼ完掘した。3.7×3.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN75°Wを示す。



挿図8 74号・75号住居址

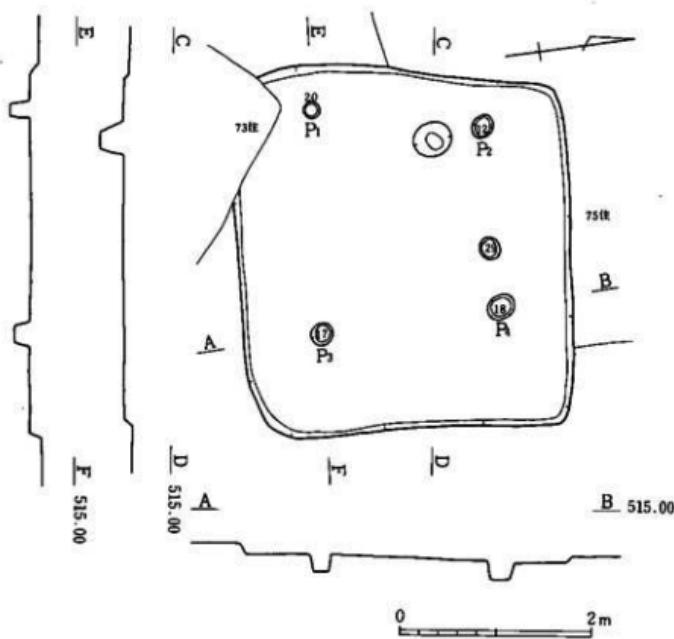
壁高は13~35cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はローム層まで掘られ、堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶが配置され、P2とP4の中間に穴があり、支柱穴と考えられる。炉址は地床炉で、北側主柱穴間のP2寄りにある。

遺物 繩文土器片・弥生土器甕・打製石斧・挟入打製石庖丁がある。

出土遺物に時期差がみられ、確定した時期を示すのは困難であるが、縄文時代後期に比定される住居址と考えられる。

⑦ 79号住居址（挿図79、第102図）

遺構 弥生時代後期後半の69号住居址の南壁に接して炉址が検出され、北西側は調査前まで使用されていた用水の土管に切られる。覆土は信南交通KKバス置場で削平されてなく、柱穴は検出



挿図9 77号住居址

されない。炉址は径45cm・深さ38cmを測り、焼土は著しい。その南側に1段上がって深さ18cmの掘り込みがつく。

遺物 有肩肩状形石器が覆土中から出土したが、弥生時代後期の69号住居址からの混入品と考えられる。

遺物の出土がなく確定した時期を示すのは困難であるが、炉址の形態から縄文時代中期後半または後期の住居址と考えられる。

⑧ 80号住居址（挿図10）

遺構 No.44・45の南境界の北5mにあり、覆土は信南交通KKバス置場建設の際に削平され、炉址と柱穴が検出されたのみである。5本の主柱穴を持つ、径3.8×3.6mの円形をなす竪穴住居址と考えられる。炉址はほぼ中央にあり、径60~48cmの楕円形を呈し、2段の掘り込みの地床炉で、焼土を確認した。

遺物は検出されず、確定した時期を示すのは困難であるが、住居址の形態から縄文中期後半ま

たは後期前半の住居址と考えられる。

(佐藤豊信)

⑨ 99号住居址(挿図11、第4・5・92・115図)

遺構 弥生時代後期の89号・94号

住居址、土坑112、縄文時代の土坑

71・72・113・115・126に切られ、上

面に縄文時代後期の配石2が乗る。

ほぼ半分の調査したのみであるが、

一辺の長さが4.4mを測るゆがんだ

隅丸方形もしくは隅丸長方形の竪穴

住居址で、主軸方向等は不明である。

壁は南西壁・南東壁の一部が確かめ

られ、壁高は15~6cmを測り、きわ

めて緩やかな壁面をなす。北東壁は

把握すべく精査したが、確認できな

かった。床面は全面ローム層まで掘

られ、軟らかく不良で、壁に連続す

る傾斜状であり、総体とすれば、中

央部が低くなるナベ底状である。壁

際に沿って、直径20~40cmの円形も

くしは楕円形の穴が不規則であるが

二重に並び、そのうちP1・P2・P3・P6・P7・P9・P10・P11・P15・P16・P19が主柱穴と考えられるが、穴の検出がやや困難であったことも合わせると、把握できなかった主柱穴の存在も予想できる。炉址は断定できるものはないが、P21の検出面上にわずか炭・焼土が認められ、P21が地床炉であったとも考えられる。以上以外の穴は性格等不明である。

遺物 出土量は多くはないが、一部のまぎれ込みを除き、一括性の高い資料が得られた。土器はいずれも破片であるが、竹管文土器を主体に浮線文土器・粗い縄文を施したもののが若干混じる。石器は、打製石斧・磨製石斧・横刃型石器・石錐・石錐・ビエス・エスキュー・剝片などがある。

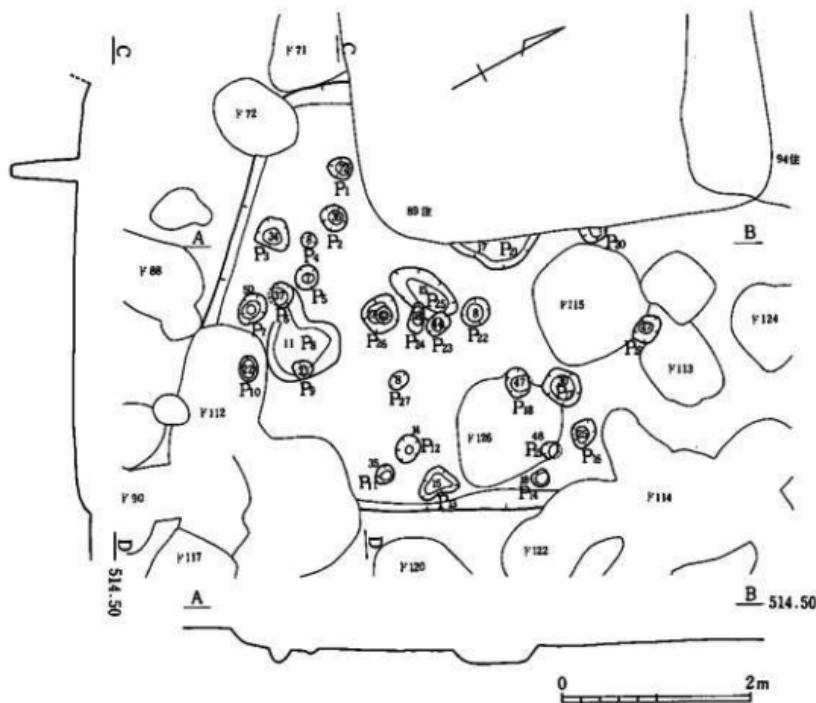
出土遺物より縄文時代前期終末に比定される。

(山下誠一)

(2) 弥生時代

① 1号住居址(挿図12、第5・92図)

遺構 Na34~35センター杭間の北東部にあり、発掘した。3.6×3.8mの隅丸方形の竪穴住居址



拵図II 99号住居址

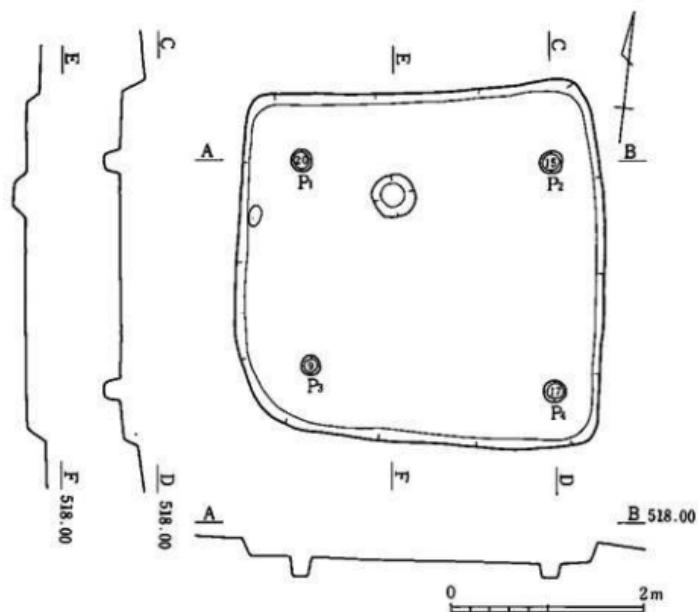
で、主軸方向はN17.5°Wを示す。褐色砂土に掘りこみ、覆土は小さな砂利混じりの黒褐色砂土である。壁高は20~15cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は褐色砂土で堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、掘りこみはやや浅い。炉址は地床炉で北側主柱穴中央からわずかに住居址中央に入り、P1寄りにある。

遺物 出土量は比較的少なく、覆土下層から床面直上がほとんどで、壺・甕片、抉入打製石庵丁がある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定できる。

② 2号住居址（拵図13、第5図）

遺構 北側の1/3が弥生時代後期の5号住居址覆土を切って造られており、完掘した。3.7×3.7mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN64°Wを示す。壁高は20~14cmを測り、やや緩やかな



挿図12 1号住居址

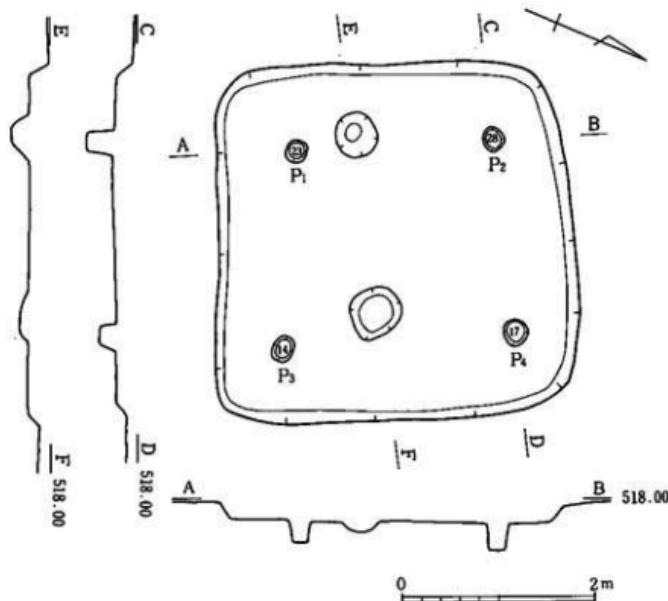
壁面をなす。床面は褐色砂土の堅い面で5号住居址を切る部分は暗褐色砂土のはり床となる。主柱穴はP1～P4の4ヶであるが、P3・P4の掘りこみは浅い。炉址は地床炉で、西側主柱穴中間のP1寄りにある。焼土・炭はほとんど認められなかった。その東側のP3とP4間の内側に、木炭と灰をもつ浅い掘りこみが検出された。

遺物 出土量は少なく、壺・甕片がある。

出土遺物が少なく確定した時期を示すのは困難であるが、出土遺物・住居址形態等から弥生時代後期に比定される住居址である。

③ 3号住居址（挿図14、第5図）

造構 No34北境界杭の東に検出し、完掘した。3.9×4.3mのややゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN100°Eを示す。壁高は19~17cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は褐色土で堅い。主柱穴はP1～P4の4ヶで、比較的浅い掘りこみである。炉址は地床炉で東主柱穴間の中央にある。



挿図13 2号住居址

遺物 出土量は少なく甕片のみで、覆土下層・床面直上の出土である。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

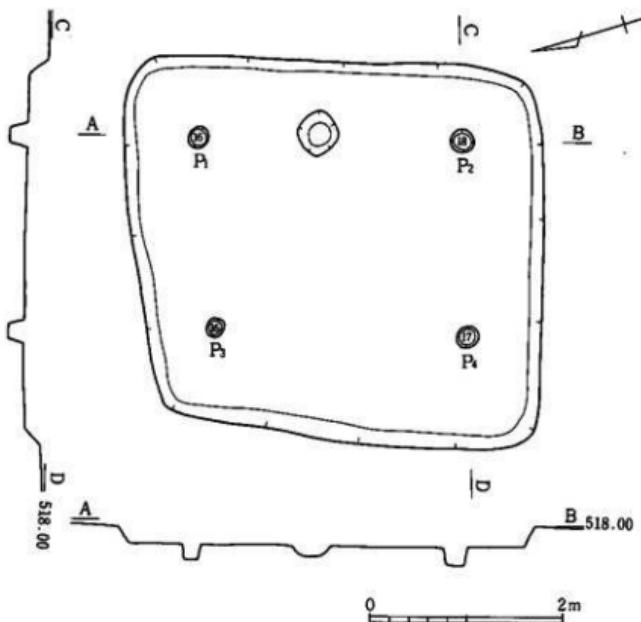
④ 4号住居址（挿図15）

遺構 No34～35北境界杭間に中央部に発見され、北側が用地外となるため、 $\frac{1}{2}$ を調査した。東西方向が3.4mを測る隅九方形の竪穴住居址と考えられる。壁高は12～8cmと浅い。地形的にみて毛賀沢川の氾濫の影響を受けている可能性がある。床面は褐色砂土で堅い。主柱穴は南側の2ヶ所が検出されているが、配置からみて4本主柱穴と考えられる。炉址は調査範囲内で検出されず用地外の北側にあると思われる。

遺物の出土はないが、住居址の形態からみて弥生時代後期の住居址と考えられる。

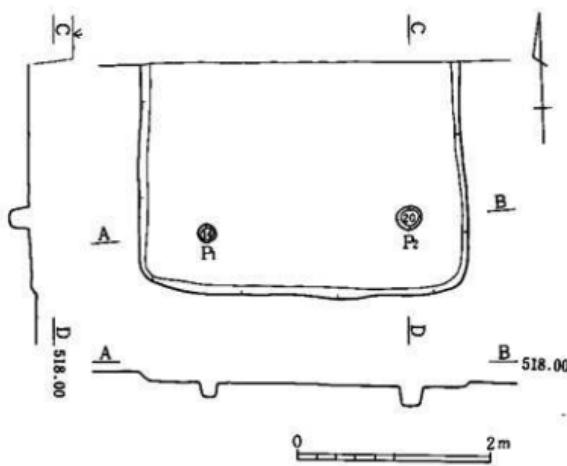
⑤ 5号住居址（挿図16、第5・92図）

遺構 弥生時代後期の2号住居址の下層に大半があり、上部は削平されたがほぼ全体を調査し



挿図14 3号住居址

た。3.8×4.0mのややゆがんだ隅丸方形の堅大住居址で、主軸方向はN114°Wを示す。覆土は小砂利をわずかに含む黒色砂土である。壁高は25~20を測り、やや緩やかに褐色砂土を掘りこみ、床面は堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶと考えられるが、その配置は不規則である。炉址は地床炉

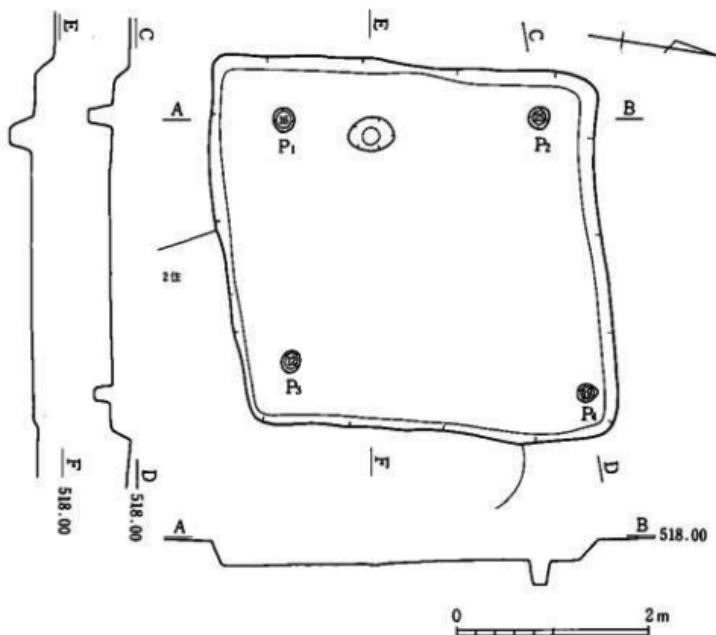


挿図15 4号住居址

で西側主柱穴中間のP 1寄りにある。

遺物 出土量は少なく、壺・甕片・磨製石器未成品がある。

出土遺物から弥生時代後期の住居址と考えられる。



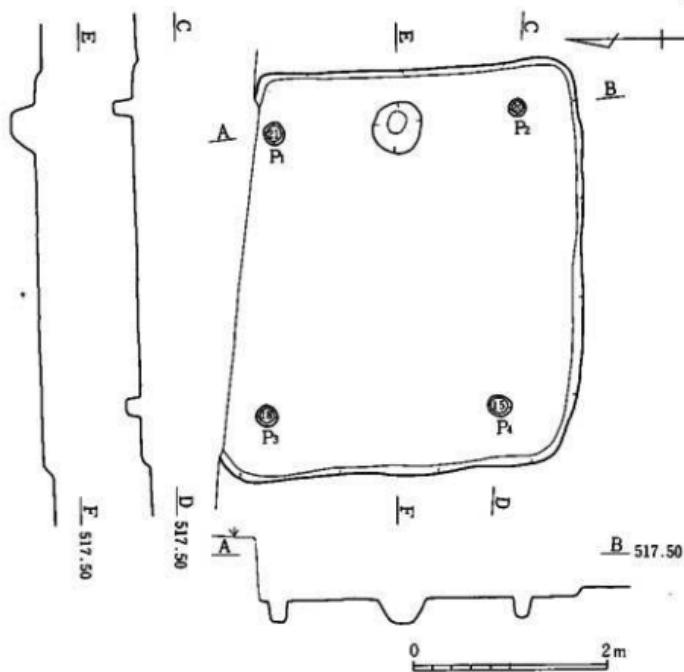
挿図16 5号住居址

⑥ 6号住居址（挿図17、第5図）

遺構 北側の壁は用地外にかかるが、ほぼ完掘した。4.1×3.7mのややゆがみのある隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN93°Eを示す。壁高は10~7cmと浅く、やや緩い壁面をなす。地形的にみて毛賀沢川氾濫の影響を受けている可能性がある。床面は褐色土で堅い。主柱穴はP 1~P 4の4ヶで、炉址は地床炉で、東側主柱穴間の中央にある。

遺物 出土量は少なく、覆土上層から下層に出土し、壺・甕片がある。

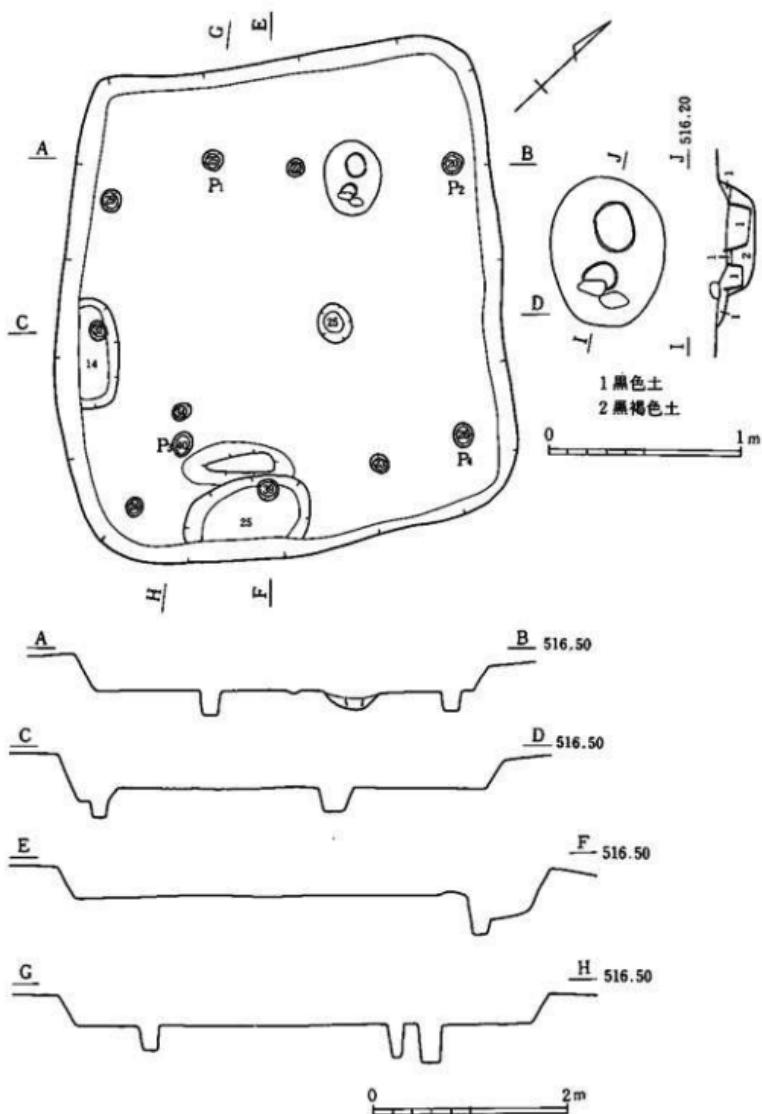
出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図17 6号住居址

(7) 7号住居址 (挿図18、第6・92図)

遺構 方形周溝墓1の東に隣接し、北は毛賀沢川に接するが、全体を調査した。5.1×4.6mのゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN40°Wを示す。壁高は35~25cmを測り、緩い壁面をなす。床面は小石混りの黄色砂土で堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、掘りこみは深く、特にP3は40cmを測る。主柱穴以外は6ヶの比較的深い穴が点在し、建替えの穴と考えられるものもある。北西壁南東壁下に125×65cmの半楕円形で床面からの深さ25cmを測り、北西部に深さ25cmの穴を持ち、西側の縁部に120×40cmの規模で土手状部を有する部分がある。また、南西壁下にも110×40cmの半楕円形で床面からの深さ15cmを測り、内部に深さ31cmの穴を持つ部分がある。この両者はいずれも入口施設と考えられるが、どちらもやはり床等の状況は認められず、新旧関係は不明である。炉址は土器埋設炉で、北西主柱穴間の中央ややP2寄りにある。埋設土器は2ヶが並んで検出され、新旧2回の構築が考えられる。2ヶ所の入口施設、建替の可能性を示す複数の穴、



附圖18 7号住居址

2ヶ並ぶ炉内の埋設土器等からみて、同位置における建替のなされた住居址と考えられる。

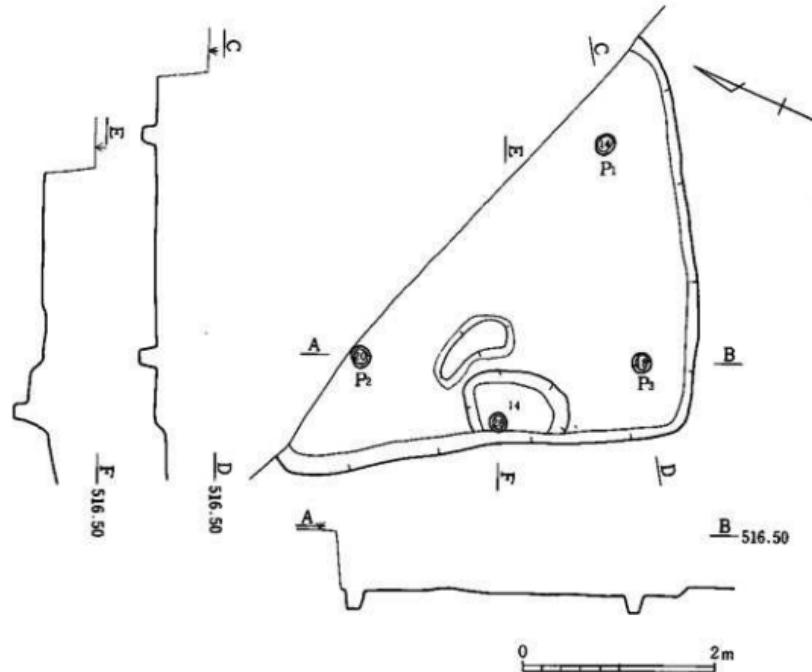
遺物 出土量は比較的多く、壺・甕・高杯・台付甕片・抉入打製石庖丁が覆土上層から下層にかけて出土したが、新旧2回の建替にそれぞれの遺物がどう位置づけられるかは不明である。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑥ 8号住居址（挿図19、第6図）

遺構 北半分は毛賀沢川にかかり、約1/2を調査した。4.2×4.2mの隅丸方形の竪穴住居址と考えられる。壁高は南壁で10cmを測り、緩い壁面をなす。床面は黄色砂土となり堅い。主柱穴はP1～P3の3ヶが検出されているが、未調査部分に存在が予測されるものを合わせ4本の主柱穴と考えられる。西壁下中央部に、115×60cmの半楕円形で、床面からの深さ14cmの掘りこみがあり、住居壁下に接して深さ26cmの穴をもち、北西側縁部に、100×40cmのややゆがむ長楕円形で、高さ3cmの土手状部を有するヶ所があり、入口施設と考えられる。炉址は確認できなかったが、入口施設の反対の北東側主柱穴間に位置すると考えられる。

遺物 壺・甕・高杯片があり、覆土から下層にかけて出土した。

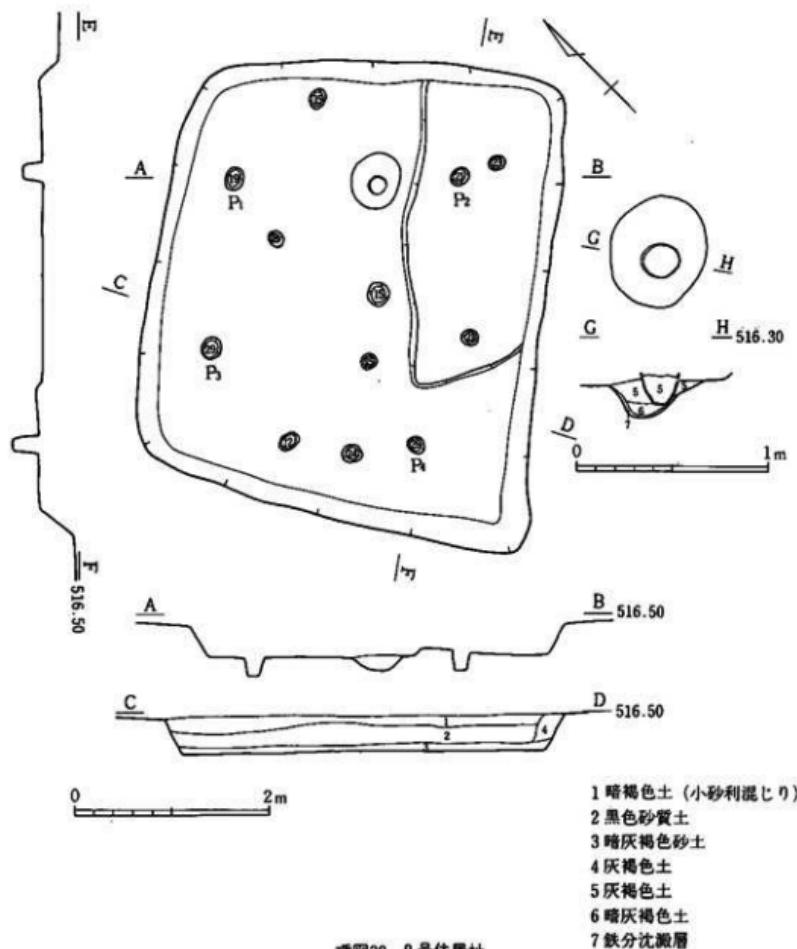


挿図19 8号住居址

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑨ 9号住居址（挿図20、第6・7図）

遺構 No37センター杭にかかり、完掘した。4.7×4.1mのややゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN64°Eを示す。壁高は35~32cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は乳白色砂土となり、あまり堅くない。主柱穴はP₁~P₄の4ヶと考えられるが、配置は不規則である。炉



挿図20 9号住居址

址より南西壁中央に3ヶの穴が並び、間仕切と考えられ、他に5ヶの穴が点在する。北東壁下中央部のやや東寄りから南東壁下中央部のやや西に寄る間に約 3×1.4 mの不整長方形で高さ6cmの段がつく。炉址は北東側主柱穴間にP2寄りにあり、土器埋設炉である。

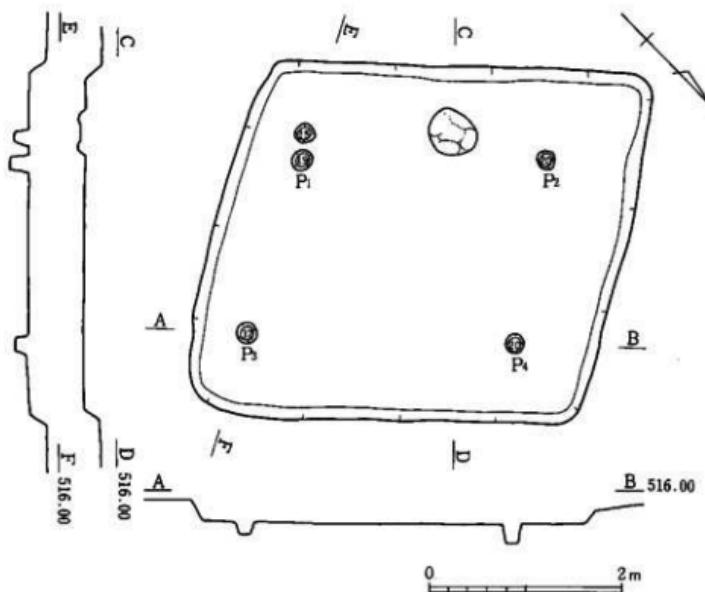
遺物 出土量は比較的多く、段をなす西側部の床面に集中して壺片が多く出土した。覆土中層に甕片があり、有肩扁状形石器が床面より出土した。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑩ 10号住居址（挿図21、第7・92図）

遺構 11号住居址と重複し、完掘した。3.7×4.3mのゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN115.5°Wを示す。壁高は22~15cmを測り、緩い壁面をなす。床面は黒褐色砂土で堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶであり、P1の南に支柱穴ともみる浅い穴がある。炉址は南西主柱穴間中央のやや壁寄りにあり、地床炉であるが、石を抜き取ったともみられる痕跡もあり、石閉炉であった可能性もある。

遺物 出土量は少なく、上層から壺・甕片・紡錘車片がある。打製石斧1ヶがあるが、縄文時代中期後半の58号住居址のものと考えられる。



挿図21 10号住居址

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑪ 11号住居址（挿図22、第7・8・93図）

遺構 10号・57号住居址と重複するが、完掘した。5.7×5.2mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN54°Wを示す。ローム層に掘りこみ、壁高は35~32cmを測り、やや緩い壁面をなす。床面は堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、P2・P4は袋状の掘りこみをなし、いずれも深い。炉址と入口施設を結ぶ線上のやや入口施設に寄って浅い穴がある。南東壁下の中央部に、1.5×1.3mのややゆがんだ隅丸方形を呈し、内部は二段の掘りこみとなり、西側に深さ25cmの穴を有する落ちこみがある。縁部に幅10cm前後、高さ5cm前後のロームによる土手状部を持ち、入口施設と考えられる。炉址は土器埋設炉で、北西側主柱穴の中間にある。

遺物 床面から床直上の出土が多く、土器では壺・甕・高杯片等があり、石器に打製石斧・横刃形石器・台石がある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑫ 12号住居址（挿図23、第8・93・117図）

遺構 中世の建物址5に切られ、弥生時代後期の13号住居址と重複し、南側が用地外にかかるため、½を調査した。東西方向が4.5mの隅丸方形の竪穴住居址である。壁高は17~15cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面はローム層まで掘られ堅い。主柱穴はP1~P3があり、未調査部に存在が予測されるものを合わせ、4本主柱穴と考えられる。

遺物 出土量は少なく、甕片が覆土・床直上より出土した。縄文時代のスクレイパー・剝片石器各1点があり、混入品である。

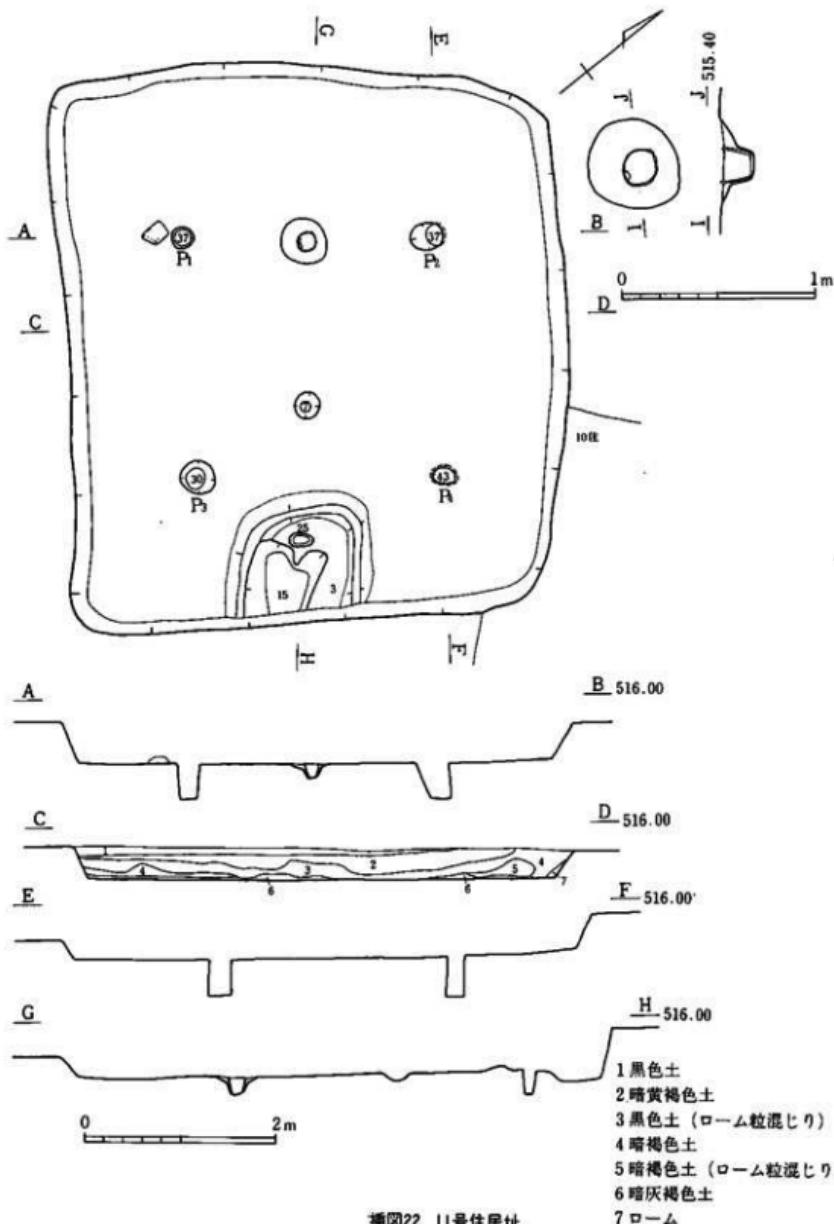
出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑬ 13号住居址（挿図24、第9図）

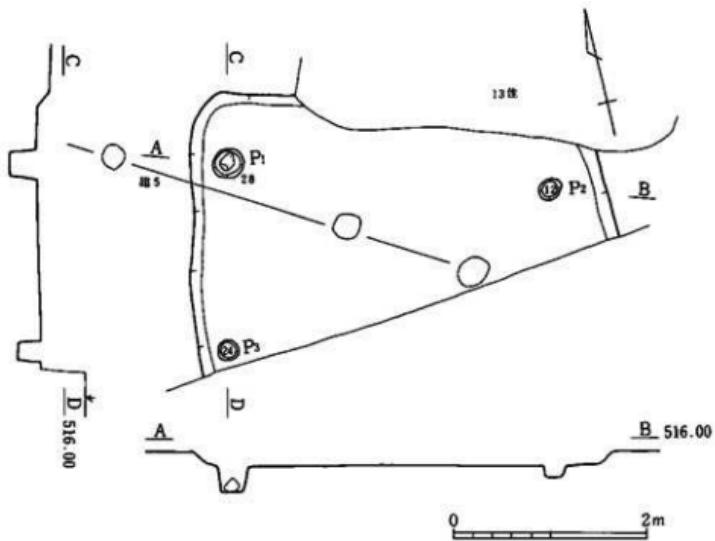
遺構 弥生時代後期の10号・15号住居址と重複し、完掘した。3.9×3.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN10°Eを示す。壁高は27~25cmを測り、やや緩い壁面をなす。床面はローム層まで掘られ、堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、この他中央西側東西方向に並ぶ2ヶの穴と、東側主柱穴間に1ヶ、南東隅に1ヶの穴がある。東壁中央より北に寄って70×40cmの半楕円形で、深さ12cmの掘りこみがある。入口施設と考えられるが、炉址との位置関係は、該期の他住居址例と異なり、その性格は検討を要する。炉址は地床炉で北側主柱穴間の西主柱穴寄りにある。

遺物 出土量少なく、西壁中央部北寄りの床面より出土した壺口縁部がある。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



插図22 11号住居址



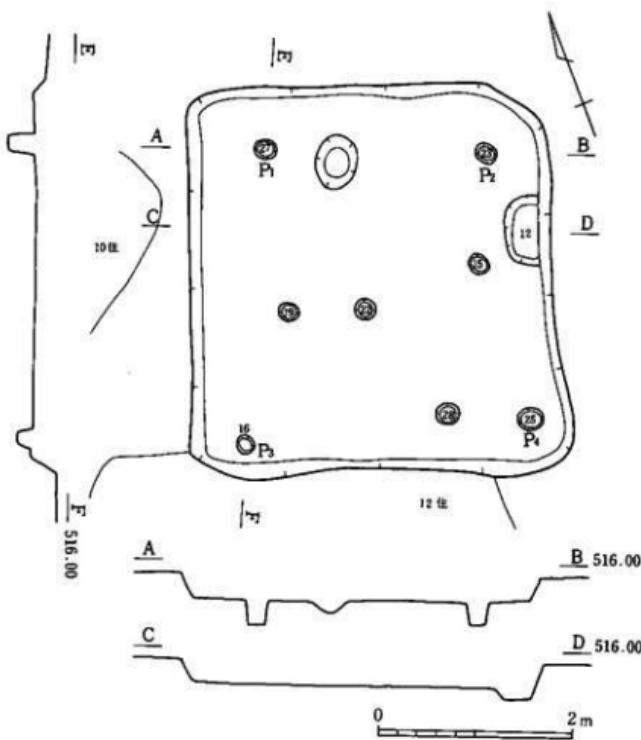
挿図23 I2号住居址

⑭ 15号住居址（挿図25、第9・10・93・94・116図）

遺構 弥生時代後期の13号住居址と重複し、充堀した。4.6×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN50°Wを示す。覆土は上層から暗黒色土、暗褐色土（黒色土でローム粒を含み）、暗黒色土、暗褐色、褐色土と堆積し、下層は木炭を含む。壁高は52~38cmを測り、ローム層まで掘られ、床面は堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、P1は袋状に掘りこまれ、P4は42cmと深い。浅い穴が中央部と南東側に点在した。南東壁下中央部に175×115cmの半円状をなし、南東壁を袋状となる掘りこみがある。内部は二段の掘りこみとなり、北西側に穴を持ち、幅20~25cm・高さ5~8cmのロームによる土手状縁部を有し、入口施設と考えられる。P1の南の壁と中間に台石1ヶが置かれている。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、P1・P2主柱穴間のやや北西壁寄り中央にある。

遺物 出土遺物が多い。壺・甕はP1の南側と入口付近に集中し、床面出土が大半を占める。高环は下層より出土した。石器は抉入打製石庖丁・打製石斧・横刃形石器・剥片石器・特殊磨石・台石がある。縄文時代の石器の混入品もみられるが、主体をなすのは弥生時代後期後半の遺物である。

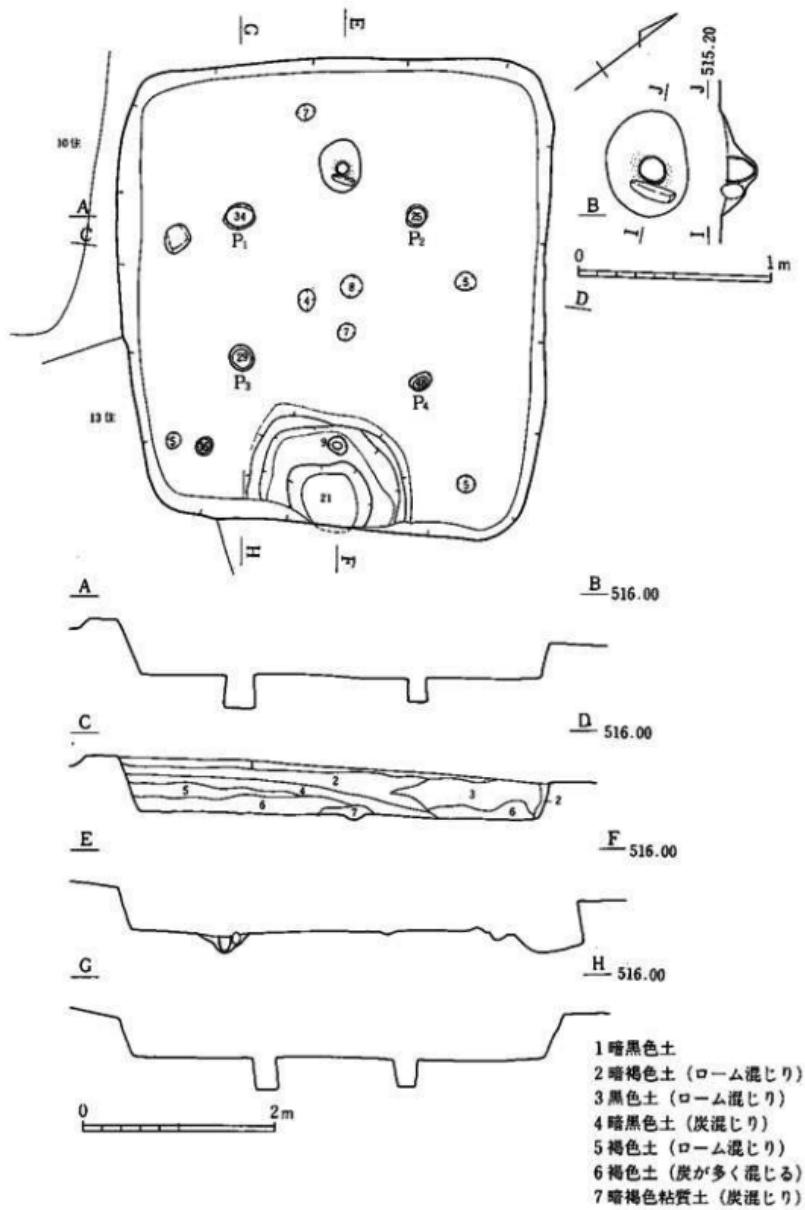
出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図24 13号住居址

⑯ 16号住居址（挿図26、第10・94図）

遺構 北側の一部を除き、ほぼ完掘した。4.7×4.6mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN36°Wを示す。壁高は23~18cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はローム層まで掘られ、堅い。主柱穴はP1~P3を検出したが、未調査部に存在が予測されるものを合わせ4本主柱穴と考えられる。P1・P3はあまり深くないが、袋状を呈する。中央部に2ヶ、西壁側に1ヶの浅い掘りこみがある。南東壁下中央のやや南に2ヶ並ぶ径45~50cm・深さ35~39cmを測り、袋状をなす掘り込みがあり、貯蔵穴と考えられる。入口部は南東壁下東寄りに、65×60cmの半椭円形で、深さ38cmを測り、北西部に深さ35cmの穴を有し、縁部に円形状の低い土手状部を持つ部分があり、入口施設と考えられる。炉址は南東側及び西側に1ヶずつの炉縁石を有する土器埋設炉で、

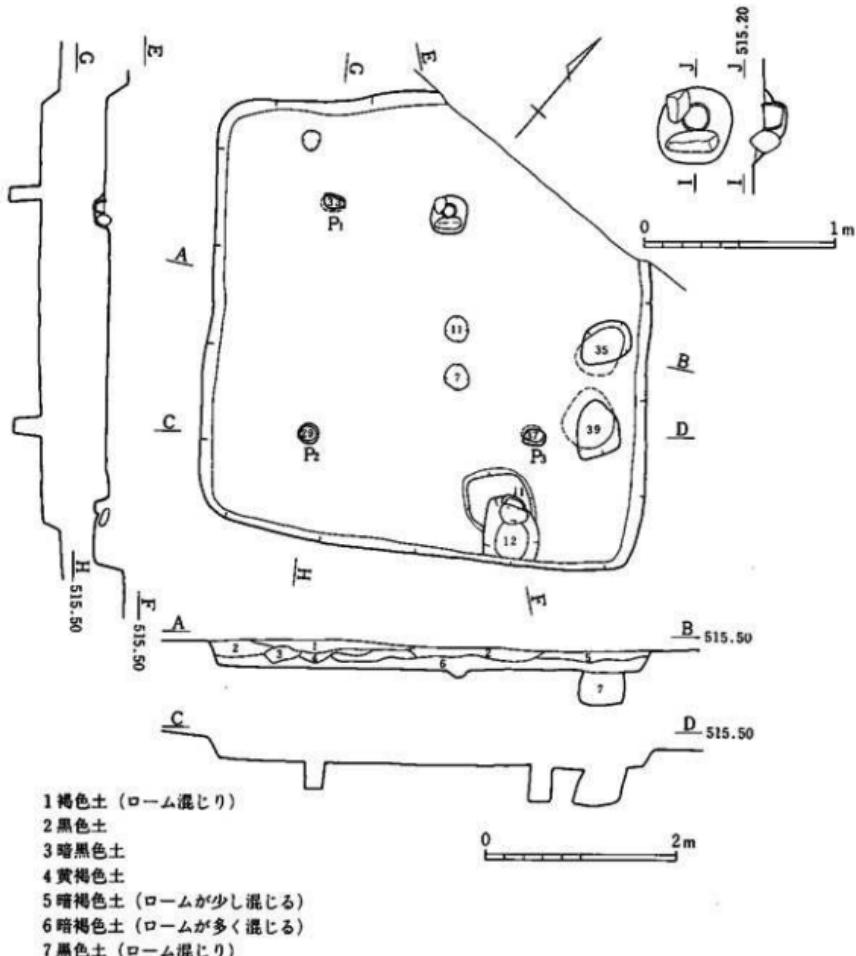


插図25 15号住居址

北西側主柱穴中間にある。

遺物 壺口縁部1点、多くの甕片が出土し、大半が床面上からであるが、上層からの出土もある。石器は、有肩刃状形石器・抉入打製石庖丁・打製石斧・乳棒状石斧があり、縄文時代の中・後期の混入品もある。

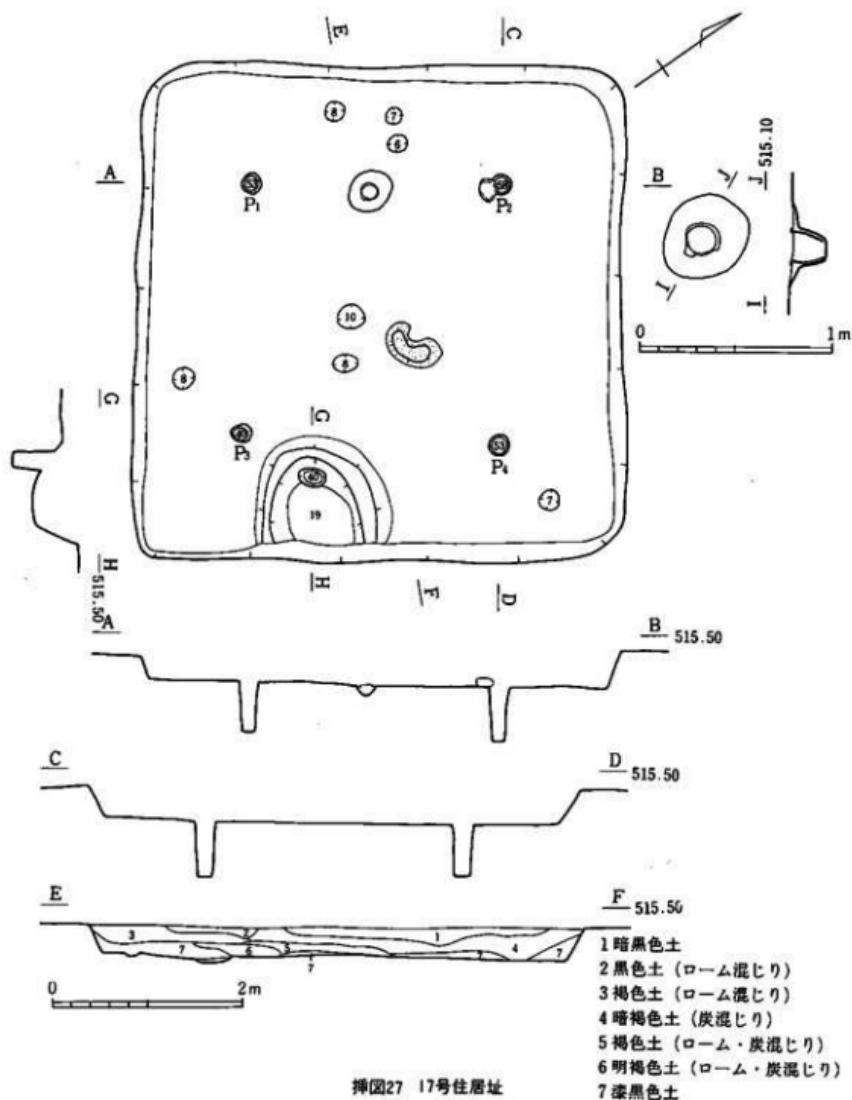
出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図26 16号住居址

⑩ 17号住居址（挿図27、第11・95・117図）

遺構 No42センター杭と南境界杭の中間部にあり、完掘した。5.1×5.0mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN56.5°Wを示す。覆土は上層から暗黒色土・褐色土・暗褐色土・漆黒色土で、上層にはロームが混じり、中・下層はロームと炭が混じる。壁高は40~25cm、ほぼ垂直の壁



挿図27 17号住居址

面をなす。床面はローム層まで掘られ堅い。主柱穴はP1～P4の4ヶで、40～58cmと深い。炉址の北西に3ヶ、中央部に2ヶの穴が並び、南西壁側と南東壁側に各1ヶの浅い穴がある。南東壁下のやや南寄りに、140×110cmの半円形で、19cmの深さの掘りこみをなし、北西端部に深さ40cmの穴があり、外周に幅15～30cm・高さ5cm前後のロームによる土手状縁部を有する部分があり、入口施設と考えられる。P2の南側に台石1ヶがある。炉址は土器埋設炉で、北西側主柱穴の中間にある。

遺物 出土量は多く、壺・広口壺・甕片・高坏等の土器、有肩属形状石器・抉入打製石庖丁・打製石斧・横刃形石器・台石などの石器がある。覆土中層から下層出土が多く、床面出土は少ない。縄文時代とみる石器もあるが、土器はいずれも弥生時代後期後半である。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑯ 18号住居址（挿図28・29、第12～15・95・96図）

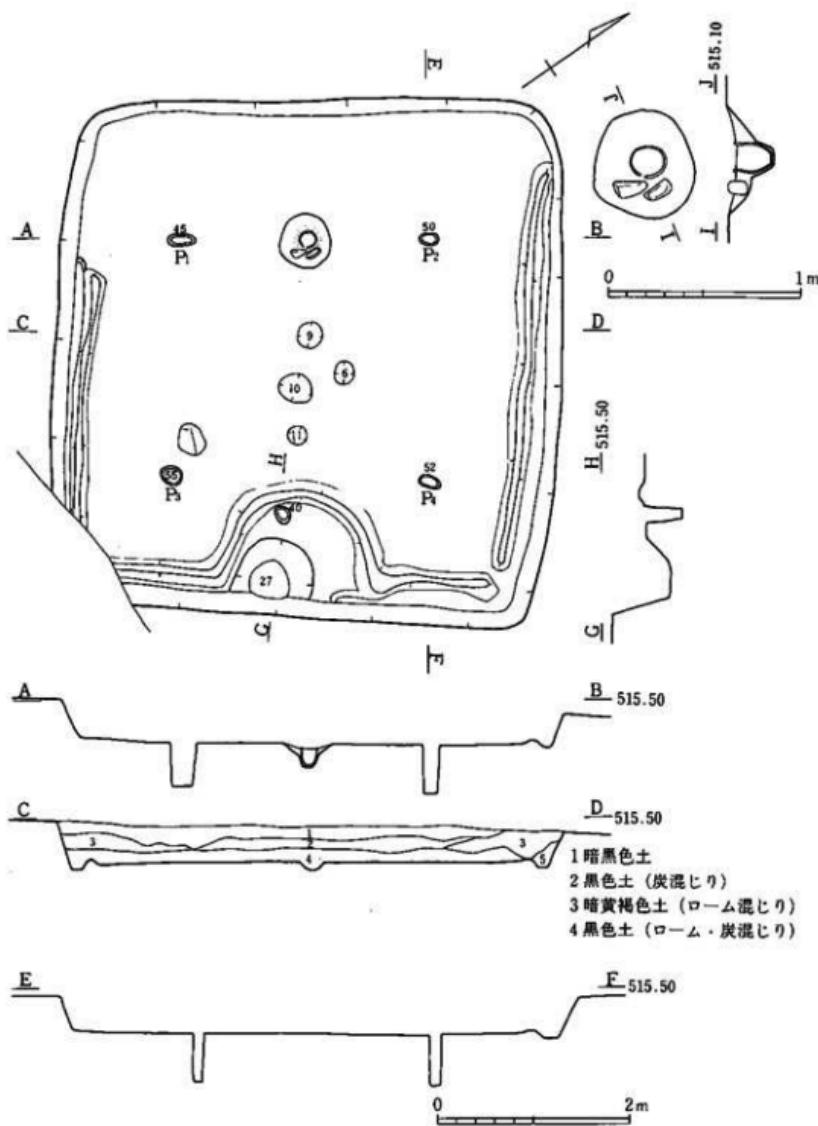
遺構 南端の一部が用地外にかかるが、ほぼ完掘した。5.3×5.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN54°Wを示す。覆土は中層・下層で黒色土に炭が混じる。壁高は40～35cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝が北東壁下と南西壁下の3ヶと、南東壁下にある。周溝の幅は、南北側で5～10cm、北東側で15cm前後、深さ10cm前後で、幅20cm前後・高さ3～5cmのロームによる土手状部を持つ。床面はローム層まで掘られ堅い。主柱穴はP1～P4の4ヶで長楕円形の深さ45～55cmを測るもので、割り材を用いたとみられる。炉址と入口部を結ぶ線上に3ヶの浅い穴が並び、間仕切と考えられる。南東壁下に170×120cmの半円形をなし、壁直下に深さ40cmの穴を持ち、幅25cm前後のロームによる土手状縁部を有する部分があり、入口施設と考える。P3の北に台石1ヶが置かれる。炉址は、炉縁石2ヶを持つ土器埋設炉で、北西側主柱穴の中間にある。

遺物 出土量は多く、入口部近くに集中し、覆土中層から床面にわたってある。土器には壺・甕・台付甕・高坏があり器形を知ることのできるものが多い。石器は抉入打製石庖丁・有肩属形状石器・打製石斧・横刃形石器・台石がある。縄文時代の石器の混入もあるが、主体は弥生時代後期後半である。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑰ 19号住居址（挿図30、第15・96図）

遺構 北東端部はバス置場に削平され、用地外となるがほぼ全体を調査した。3.7×4.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN43.5°Wを示す。覆土は下層に炭を多く含む。壁高は35～30cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。ローム層まで掘られ、床面は堅い。主柱穴はP1～P4の4ヶで、P1・P3・P4は袋状をなす。住居址中央部に浅い掘り凹みの穴1ヶがある。南東壁下の中央より南寄りにゆがんだ半円形を呈し、内部は浅い掘りこみに2ヶの比較的大きな穴状となり、縁部に幅15～25cm・高さ3～5cmのロームによる土手状部を有する部分があり、入口施設と



插図28 18号住居址

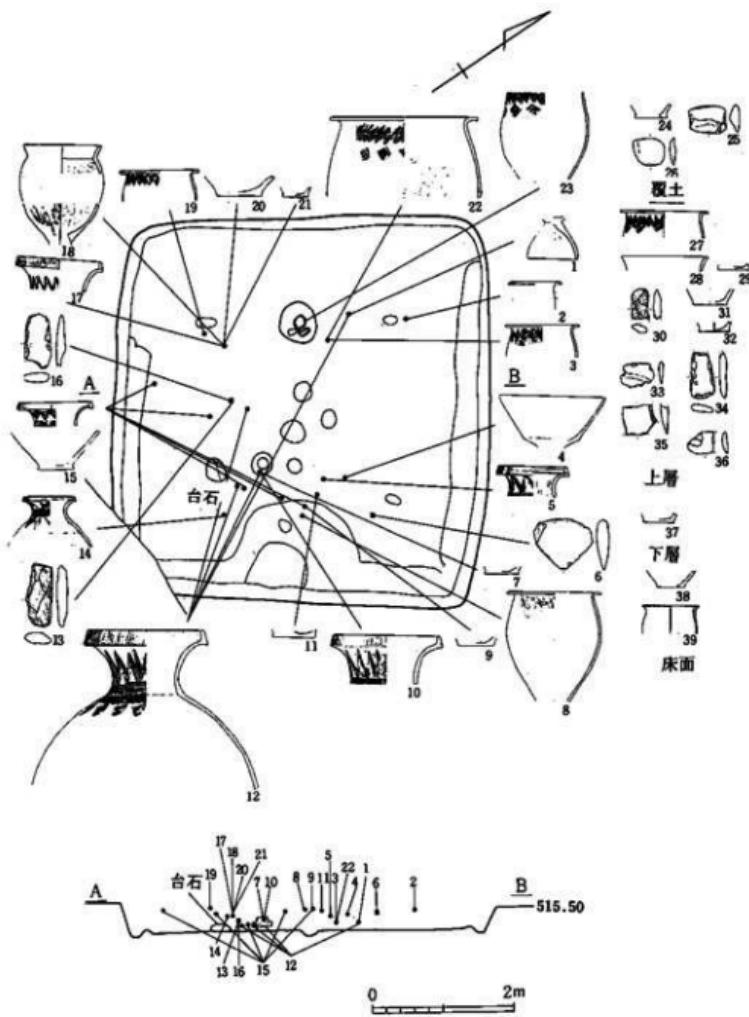
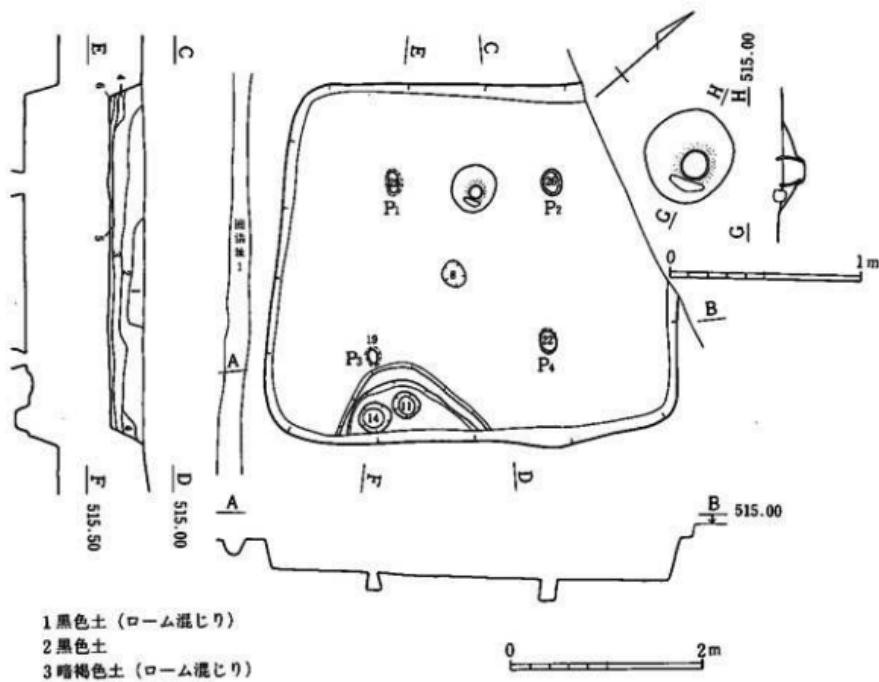


插圖29 18號住居址遺物出土狀態



- 1 黒色土（ローム混じり）
- 2 黒色土
- 3 暗褐色土（ローム混じり）
- 4 暗黒色土（炭混じり）
- 5 黒色土
- 6 黄褐色土

拵図30 19号住居址

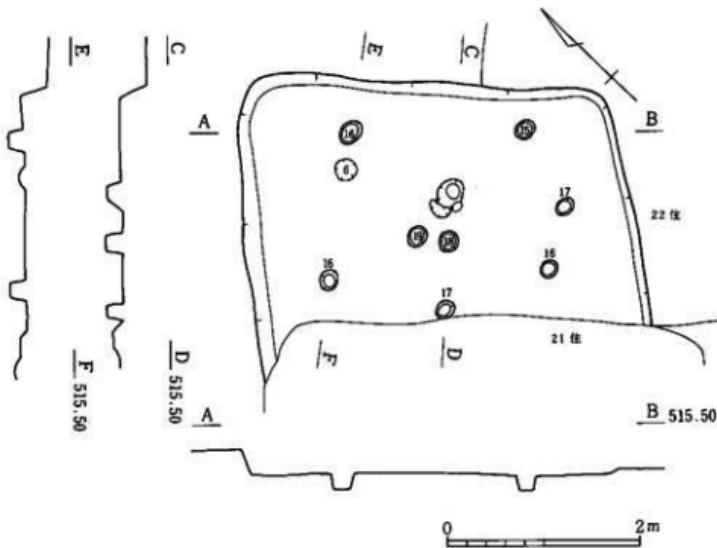
考えられる。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、北西主柱穴間の中央にある。

遺物 上層からの出土もあるが、壁ぎわの床面上に多い。土器には壺・甕・高杯があり、石器には抉入打製石庖丁・打製石斧・偏平片刃石斧がある。縄文時代の混入石器もあるが、主体は弥生時代後期後半である。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑯ 20号住居址（拵図31、第15・16・96図）

遺構 弥生時代後期後半の21号住居址により西側1/4を切られ、弥生時代後期の22号住居址を切る。半分を調査した。一辺の長さが4.1mのややゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址である。壁高は25cmを測り、ローム層まで掘られ、床面は堅い。主柱穴は北西壁ぎわの2ヶが考えられ、南西側は21号住居址に切られて不明である。住居址中央部と東・西壁ぎわに6ヶの穴があるが、性格等は不明である。北西主柱穴間の中央より中心部によって地床炉と考えられる。わずかに焼土をもつ掘り



挿図31 20号住居址

こみがあるが、炉址とは断定できない。

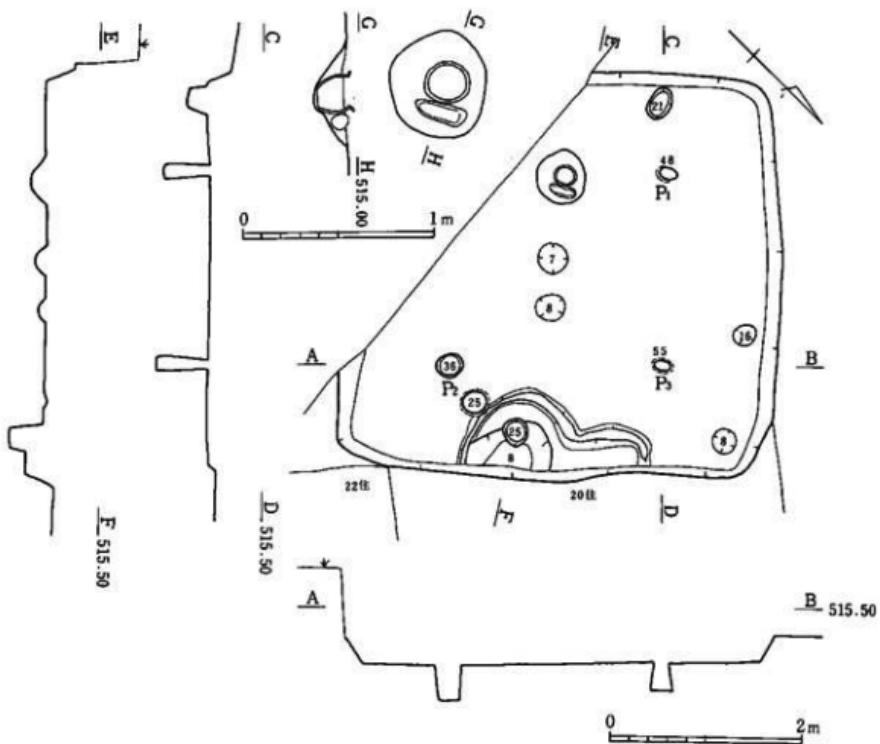
遺物 出土量は少なく、壺・甕片と高坏の脚部、抉入打製石庖丁・打製石斧などがある。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㊱ 21号住居址（挿図32、第16・97図）

遺構 弥生時代後期の20号住居址を切り、南側の一部は用地外にかかるが、ほぼ完掘する。4.2×4.6mの隅丸方形の堅穴住居址で、主軸方向はN131.5°Wを示す。覆土下層は炭を含む。壁高は30×27cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面はローム層まで掘られて堅い。主柱穴はP1～P3の3ヶを検出したが、用地外に存在が予測されるものを合わせ4本主柱と考えられる。P1・P3は横円形で深い袋状の掘りこみをなし、割り材を用いた柱が考えられる。炉址と入口部の線上に2ヶの浅い穴があり、間仕切と考えられる。壁に沿って3ヶの穴がある。北東壁下の中央よりやや北に寄って、120×80cmの半円形を呈し、2段の掘り込みとなり穴1ヶを持ち、北側縁部に80×40cmの半長楕円形で幅10～20cm・高さ5cm前後のロームによる土手状部で囲んだ部分があり、入口施設と考えられる。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、西側主柱穴間の中央にある。

遺物 土器は少なく、炉甕以外は覆土下層より甕片が出土したのみである。石製紡錘車がP1



挿図32 21号住居址

の南西床直上に、入口部北側の浅い掘りこみに密着して石棒状石製品が出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。遺物出土量の僅少に対し、石棒状石製品・紡錘車の出土は特殊な性格をもつ住居址の可能性もある。

㉑ 22号住居址（挿図33、第16・97・116図）

造構 弥生時代後期後半の20号住居址に切られているが、ほぼ完掘した。3.8×3.6mの隅丸方形の竪穴住居址である。壁高は10~9cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面はローム層にまで掘られ堅く、やや凹凸がある。主柱穴は4ヶであるが、1ヶは20号住居址内に発見された。南東側主柱穴間のやや内側に50×63cmの楕円形を呈し、外周を5cm前後の高さのロームの盛土で固め、内部を浅く掘り凹めた焼土をもつ施設が検出され、その形態は通状の該期炉址とは異なり、性格

等の断定はできない。

遺物 上層・覆土

からの出土が多い。

土器は壺・甌・高环

片があり、石器には

打製石斧・横刃型石

器・打製石鎌があり、

縄文時代からの混入

品もある。

出土遺物から弥生

時代後期に比定され

る住居址である。

㉙ 23号住居址

(挿図34、第16図)

遺構 No.37南境界

杭の北西にあり、完

備した。3.9×3.5m

の隅丸方形の竪穴住

居址で、主軸方向は

N76°Wを示す。壁高

は20~15cmと浅く、

やや緩やかな壁面を

なす。床面は灰褐色

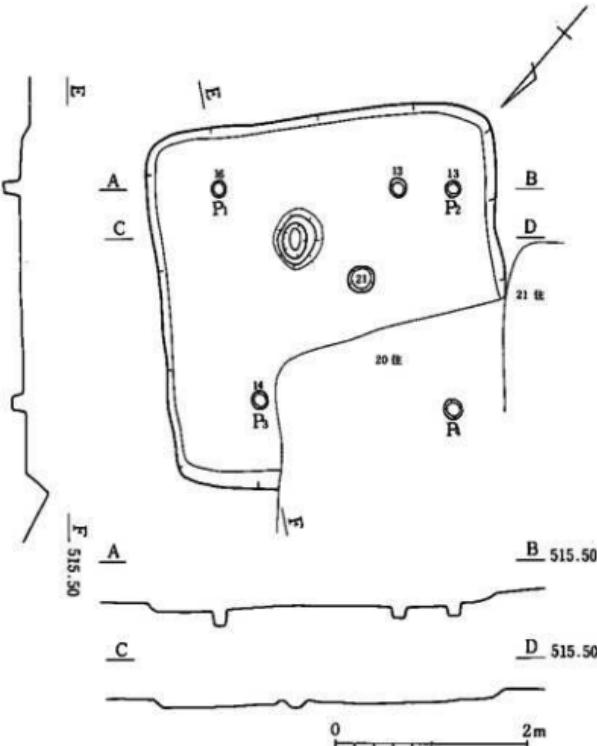
砂土に掘りこみ堅い。

主柱穴はP1~P4

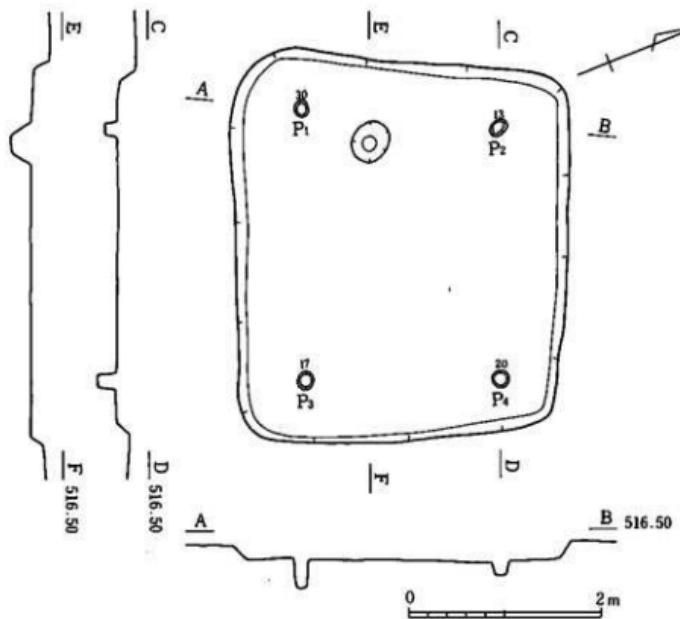
の4ヶで、掘りこみは比較的浅い。炉址は地床炉で、西側柱穴間やや内側のP1寄りにある。

遺物 壺・甌片が覆土・床面より出土したが量は少ない。

出土遺物等から弥生時代後半に比定される住居址である。



挿図33 22号住居址



挿図34 23号住居址

㉙ 24号住居址（挿図35、第16図）

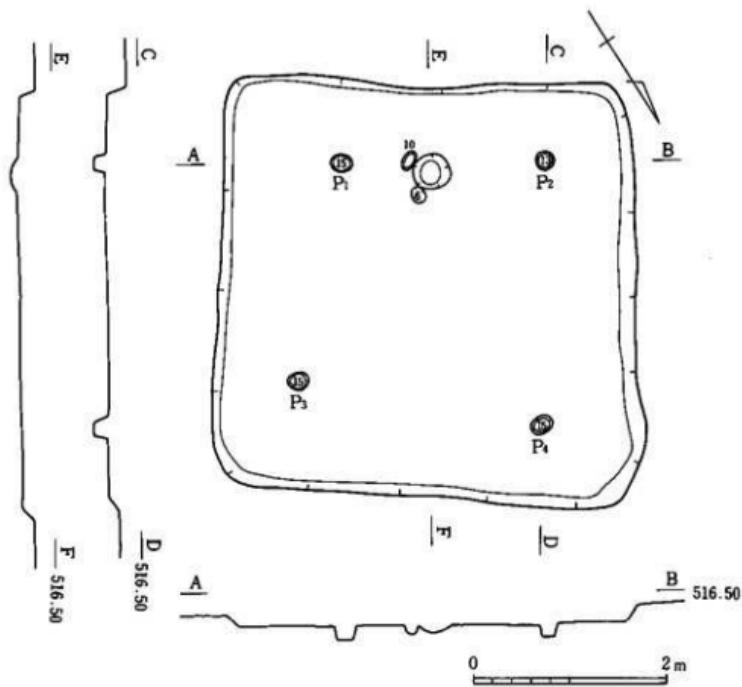
遺構 9号住居址の南に接し、完掘した。4.2×4.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN144°Wを示す。壁高は20~12cmを測り、灰褐色砂土に掘りこむ。床面は堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、浅い。炉址は地床炉で南西主柱穴間のほぼ中央にある。

遺物 出土量は少なく、床面より壺の頸部・底部片がある。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㉚ 25号住居址（挿図36、第17図）

遺構 東側の一部は弥生時代後期の26号住居址の覆土を切っており、完掘した。3.7×4.5mのややゆがむ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN49°Wを示す。壁高25~16cmを測り、緩やかな壁面をなす。北西壁下に壁から15cm前後あり、内側に幅15~20cm・深さ5~10cmの周溝があり、西側半分の縁部に低い盛土をもつ。床面は灰乳白色砂土層まで掘られ堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、深さ20cmを測る。南東壁下中央に径80×50の半楕円形で、深さ20cmの掘りこみがあり、



拵図35 24号住居址

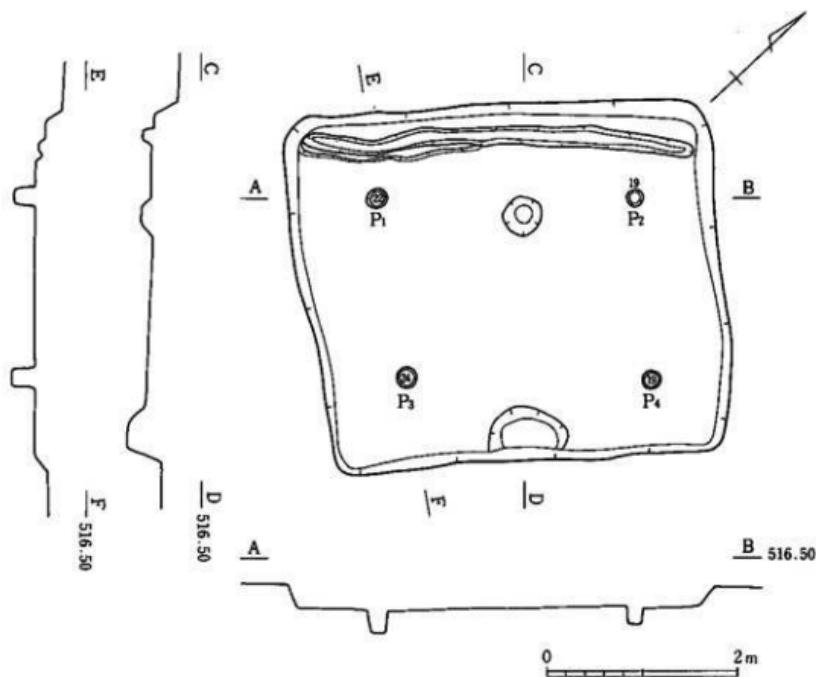
入口施設と考えられる。炉址は地床炉で北西主柱穴間中央やや内側寄りに位置する。

遺物 壱口縁部・高环脚部が床面より、甕小片が覆土より出土したが、量は少ない。弥生時代後期後半が主体である。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㉙ 26号住居址（拵図37、第17・97図）

遺構 弥生後期後半の25号住居址に切られ、弥生後期後半の27号住居址を切る。3.9×4.0mのゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN12°Wを示す。壁高は40~28cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は灰乳白色砂土まで掘られて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。南壁中央に径85~65cmの半円をなし、深さ13cmで北東隅に150×85cmの三角形に高さ10cm前後の土手状部を持つ掘り込みがあり、入口施設と考えられる。炉址は地床炉で、北側主柱穴間やや北壁寄りに位置する。



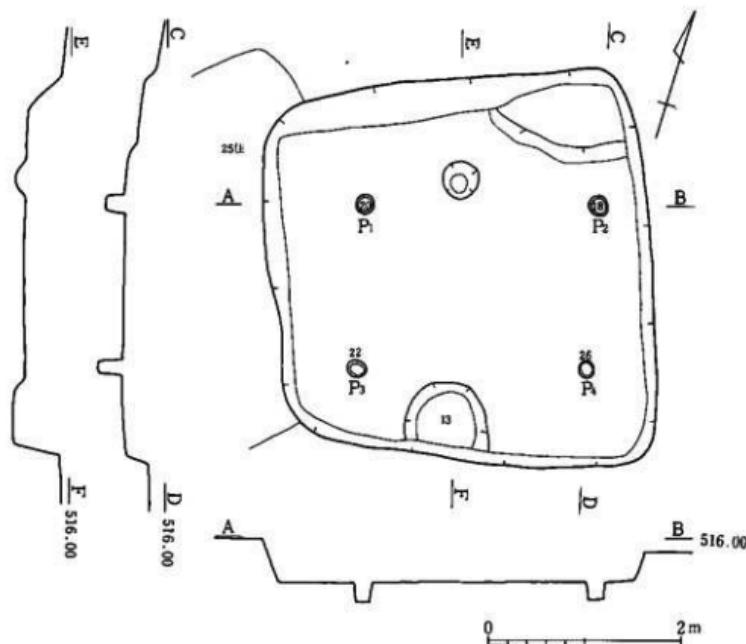
挿図36 25号住居址

遺物 土器には甕・台付甕の台部と壺の小片が下層より、上層より布留式甕が出土した。布留式甕は上部を切られる27号住居址のものと接合する。石器に挿入磨製石庖丁1点と横刃形石器1点がある。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㉙ 27号住居址（挿図38、第17図）

遺構 弥生時代後期後半の26号住居址に上層部を切られるが、完掘した。4.0×3.7mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN185.5°Eを示す。壁高は40~32cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は灰乳白色砂土層まで掘られ、たたき状に堅くやや凹凸がある。主柱穴はP1~P4の4ヶが配置され、主軸方向にやや細長い状態で検出された。炉址は地床炉で、南側主柱穴間中央よりやや住居址中央寄りにあり、2段の掘りこみをなし、土器を抜いた痕跡の可能性もあるが、断定できない。



挿図37 26号住居址

遺物 出土量は少なく、窓口縁部・頭部片、甕片などがある。

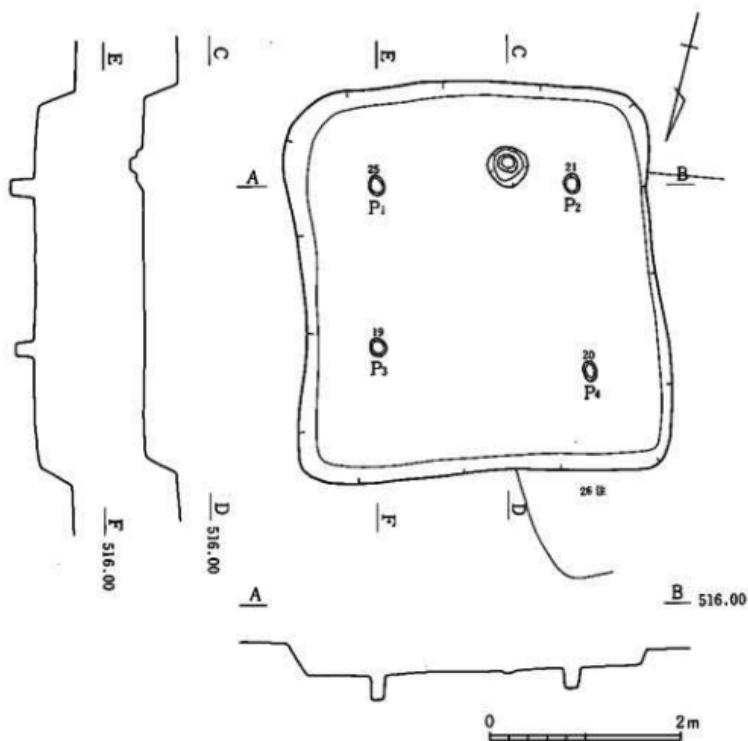
出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㉗ 28号住居址（挿図39、第17図）

遺構 弥生時代後期の29号住居址を切り、完掘した。3.9×4.1mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向は100°Wを示す。壁高は17~15cmを測り、暗褐色砂土に掘りこむ。床面は堅く、29号住居址と重複する南側にははり床となる。主柱穴はP 1~P 4の4ヶである。炉址は地床炉で西側主柱穴間の壁P 2寄りに位置する。

遺物 出土量は少なく、壺小片と甕が覆土より出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



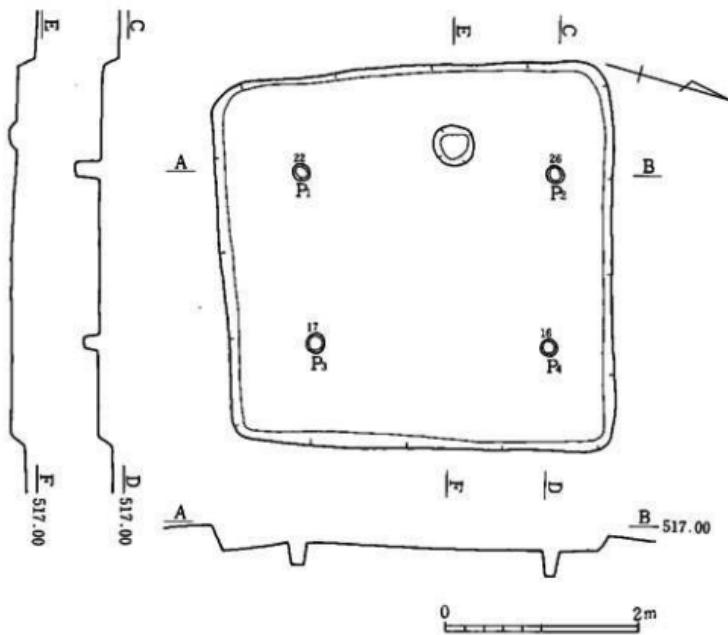
挿図38 27号住居址

㉙ 29号住居址（挿図40、第18図）

遺構 上部を弥生時代後期の29号住居址に切られるが、完掘した。3.1×3.7mのゆがんだ隅九方形の竪穴住居址で、主軸方向はN121.5°Wを示す。壁高は25~20cmを測り、黄色砂土に振りこむ。床面は堅い。炉址の北側に1.8×1.3mのゆがんだ隅九方形の範囲に、炭の薄い堆積がある。主柱穴はP 1~P 4の4ヶである。炉址は地床炉で南西主柱穴間P 2寄りに位置する。

遺物 出土量は少なく、覆土中に壺・甕片が出土した。

出土遺物等 から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



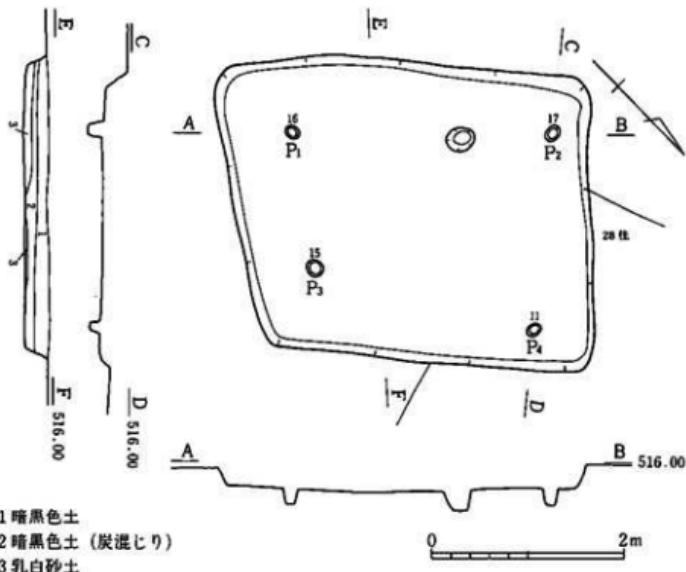
挿図39 28号住居址

㊱ 30号住居址（挿図41、第18・97図）

遺構 南側の一部が用地外にあるが、ほぼ完掘した。3.8×3.6mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向61°Wを示す。覆土は上層・中層は炭混じりの黒色・暗黒色土、下層は暗褐色砂土・砂礫混じりの明褐色土である。壁高は50~40cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は堅い。主柱穴はP1~P3を確認し、用地外に存在の予測されるものを合わせ4本主柱穴と考えられる。南東壁下中央のやや南に寄って、一部用地外となるが、70×70~100cm・深さ7cmの隅丸方形の落ち込みがあり、縁部に幅20~30cm・高さ5cmの土手状に三方を囲む部分があり、入口施設と考えられる。炉址は地床炉で、北西主柱穴間中央の住居址中央寄りにある。その北側に炭の堆積した部分がある。

遺物 壺・甕等があり、器形のわかる甕は北西壁ぎわの床面・下層・上層より、高壺は炉周辺より出土し、後者は34号住居址上層出土のものと接合した。石器は抉入打製石庖丁3点が上層・覆土より、北西壁ぎわ床面より横刃型石器が出土した。

出土遺物等から弥生時代後期終末に比定される。



挿図40 29号住居址

㉙ 31号住居址（挿図42、第19図）

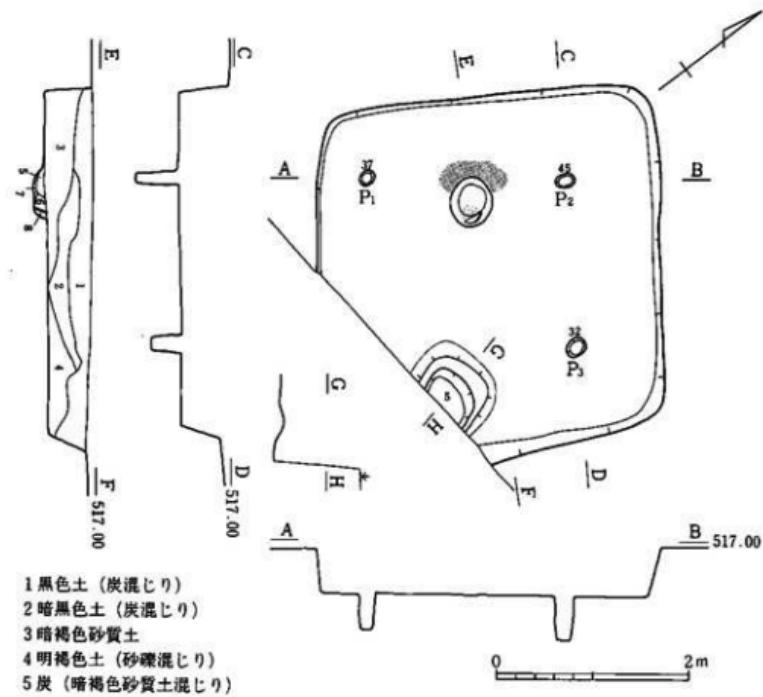
遺構 東側に弥生時代後期後半の32号住居址が隣接し、完掘する。3.5×3.6mのややゆがむ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN111°Eを示す。壁高は31~21cmを測り、西壁はほぼ垂直の壁面をなす。床面は黄色砂土層まで掘られ堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶがあり、P3・P4は支柱穴と考えられる穴が付く。ほかに、北と南壁ぎわに1ヶずつ穴がある。炉址は地床炉で東側主柱穴P1・P2間のP2寄りにある。

遺物 出土量は少なく、壺・甕の小片と高坏片を床面上から出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㉚ 32号住居址（挿図43、第19・97・116図）

遺構 弥生時代後期後半の31号住居址が西に隣接する。完掘した。3.6×3.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、N87.5°Wを示す。壁高は31~17cmを測り、北壁はやや緩い傾斜をなし、南壁はほぼ垂直の壁面をなす。床面黄色砂土層まで掘られ堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶと考えられるが、不規則である。東壁下中央のやや南に寄った位置に、径80~40cmの半楕円形で、深さ24cmの掘り



- 1 黒色土（炭混じり）
- 2 暗黒色土（炭混じり）
- 3 暗褐色砂質土
- 4 明褐色土（砂礫混じり）
- 5 炭（暗褐色砂質土混じり）
- 6 焼土
- 7 砂土
- 8 灰褐色土

挿図41 30号住居址

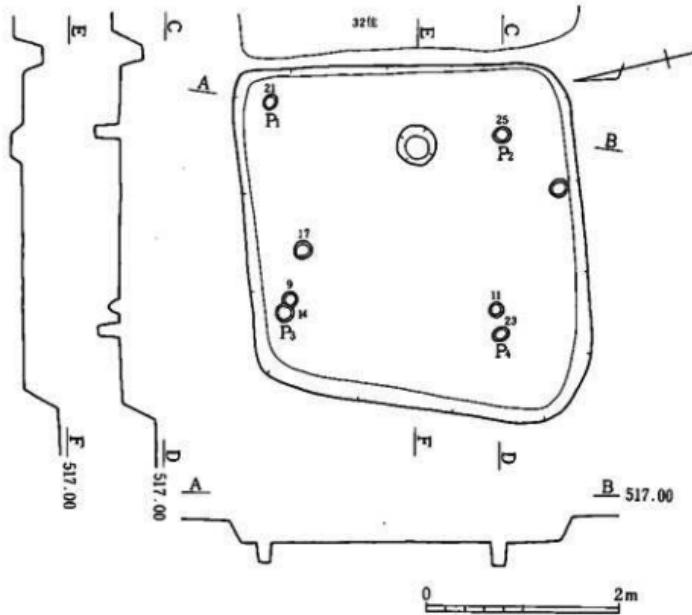
こみをなし、北西側に穴1ヶを有する部分があり、入口施設と考えられる。炉址は地床炉で、西側主柱穴中間の住居址中央寄りにある。

遺物 出土量は少なく、壺口縁片・甕片・砥石と考えられるもの、打製石斧・打製石鎌などがある。

石器には縄文時代の混入品もみられるが、出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

② 33号住居址（挿図44・45、第19~21・97図）

遺構 南側の一部が用地外にかかったが、ほぼ完掘した。4.8×4.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向N57°Wを示す。壁高は59~42cmを測り、垂直の壁面をなす。周溝が南東壁下を除き壁に接してめぐらされている。幅10~20cm、特に南東隅は40cmと広く、深さ20~30cmと明瞭に確

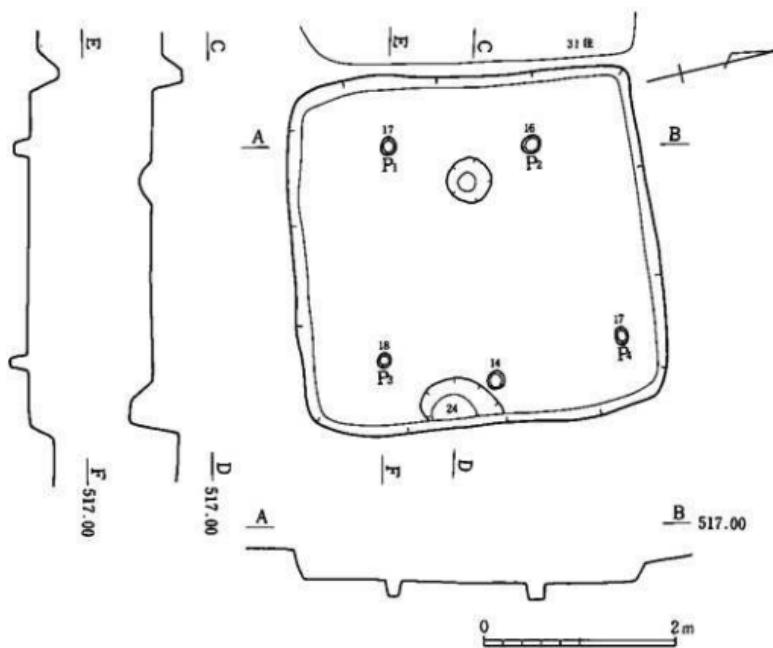


挿図42 31号住居址

認された。床面は乳白色砂土まで掘られ堅い。主柱穴はP1～P4の4ヶで、掘りこみは深い。炉址と南側入口部を結ぶ線上に二段の掘り込みとなる穴と浅い穴が4ヶ並び、間仕切と考えられる。南東壁下に3個所の掘りこみがあり入口施設と考えられる。東側は径15～65cmの楕円形に住居址壁まで掘り込まれ、21cmの深さをもつ。この南側は中央部に40×30cm・深さ17cmの隅丸方形状の掘りこみがある。さらにその南にわずか離れて隅丸方形の1辺が70cm・深さ30cmの掘りこみがあるが、用地外にかかり今は不明となる。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、北西側主柱穴間の中央にある。

遺物 壺・甕・台付甕・高环があり出土量が多い。上層出土の多くは、中央部南側に集中し、下層から床面出土の多くは壁ぎわに出土した。石器には打製石斧・有肩肩状形石器・抉入打製石庖丁・台石が出土した。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



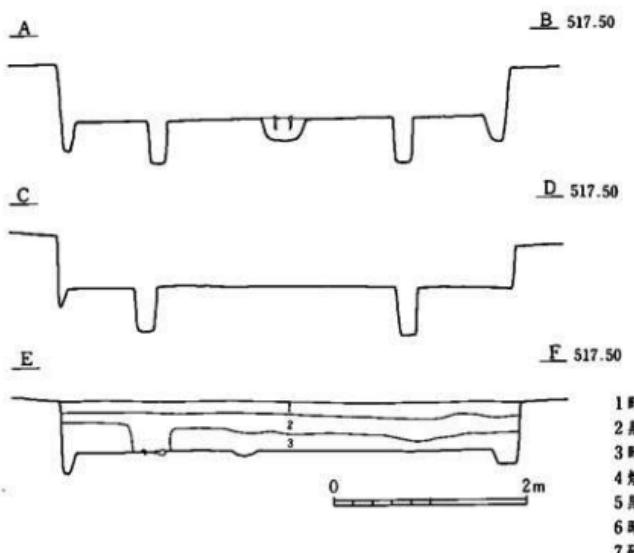
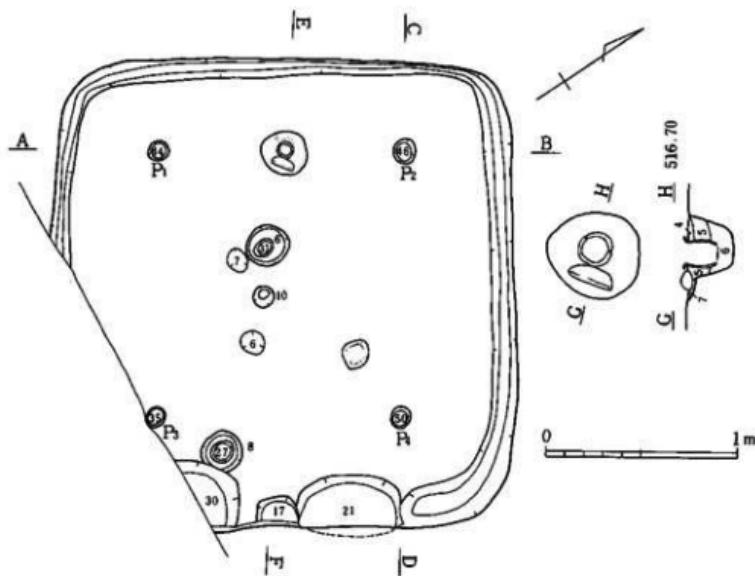
挿図43 32号住居址

㊯ 34号住居址（挿図46、第21図）

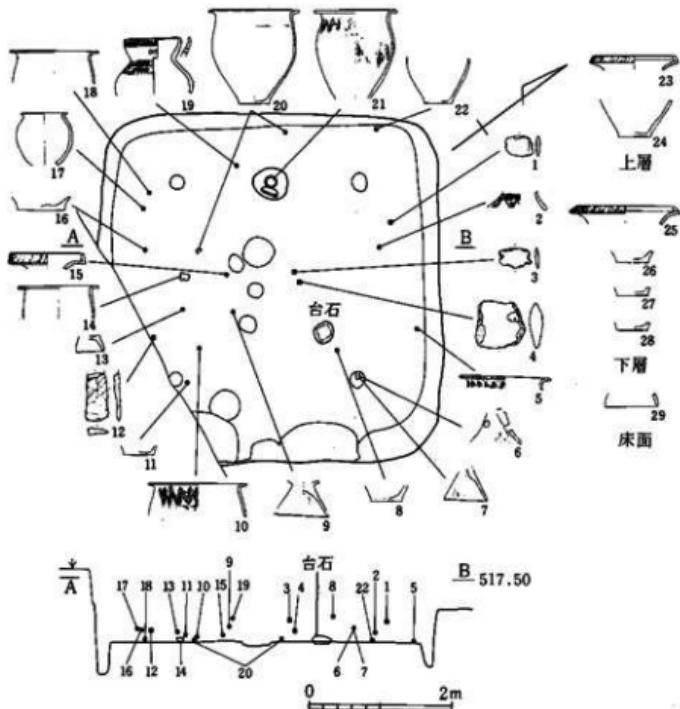
遺構 弥生時代後期後半の35号住居址に切られ、ほぼ半分を調査した。5.0×5.2mの隅九方形の竪穴住居址で、主軸方向はN37°Wを示す。壁高は49~40cmを測り、垂直の壁面をなす。周溝が西壁下の南側床面 $\frac{1}{3}$ と南西壁下にあり、幅15cm前後・深さ10cm前後を測る。床面は乳白色土層まで掘られ堅い。主柱穴はP1~P3の3ヶ検出されたが、未確認のものを合わせ4本主柱穴と考えられる。南東壁下中央部に、径145~100cmの半楕円形をなす掘り込みがあり、入口施設と考えられる。周囲に幅20~30cm・高さ8cm前後の土手状縁部を持ち、内部は二段となり、壁ぎわは42cmの深い掘りこみをなす。炉址は35号住居址内に位置すると考えられ、確認できなかった。

遺物 出土量は少なく、壺・甕・高坏がある。出土位置は入口部西側に集中し、上層から下層より出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



插図44 33号住居址



挿図45 33号住居址遺物出土状態

㊣ 35号住居址（挿図46、第22・98図）

造構 弥生時代後期後半の34号住居址を切り、完掘した。4.1×4.1mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN58°Wを示す。壁高は48~39cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は乳白色砂土層まで掘られ、はり床となって堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶの4本主柱である。南東壁下中央の南寄りにあり、径100~65cmの楕円形で、深さ40cmの掘りこみがあり、入口施設と考えられる。周囲は眉形状に長さ142cm・幅20~30cm・高さ5cm前後の土手状縁部を有する。炉址は地床炉で北西側主柱穴間中央にある。

遺物 壺・甕・東海系の高坏がある。壺片は中央部から南の床面より、高环脚部がP1内より、甕は覆土上層より出土した。石器は有肩扁状形石器が上層より、抉入打製石庖丁2点が床面より出土した。

出土遺物等から弥生時代後半に比定される住居址である。

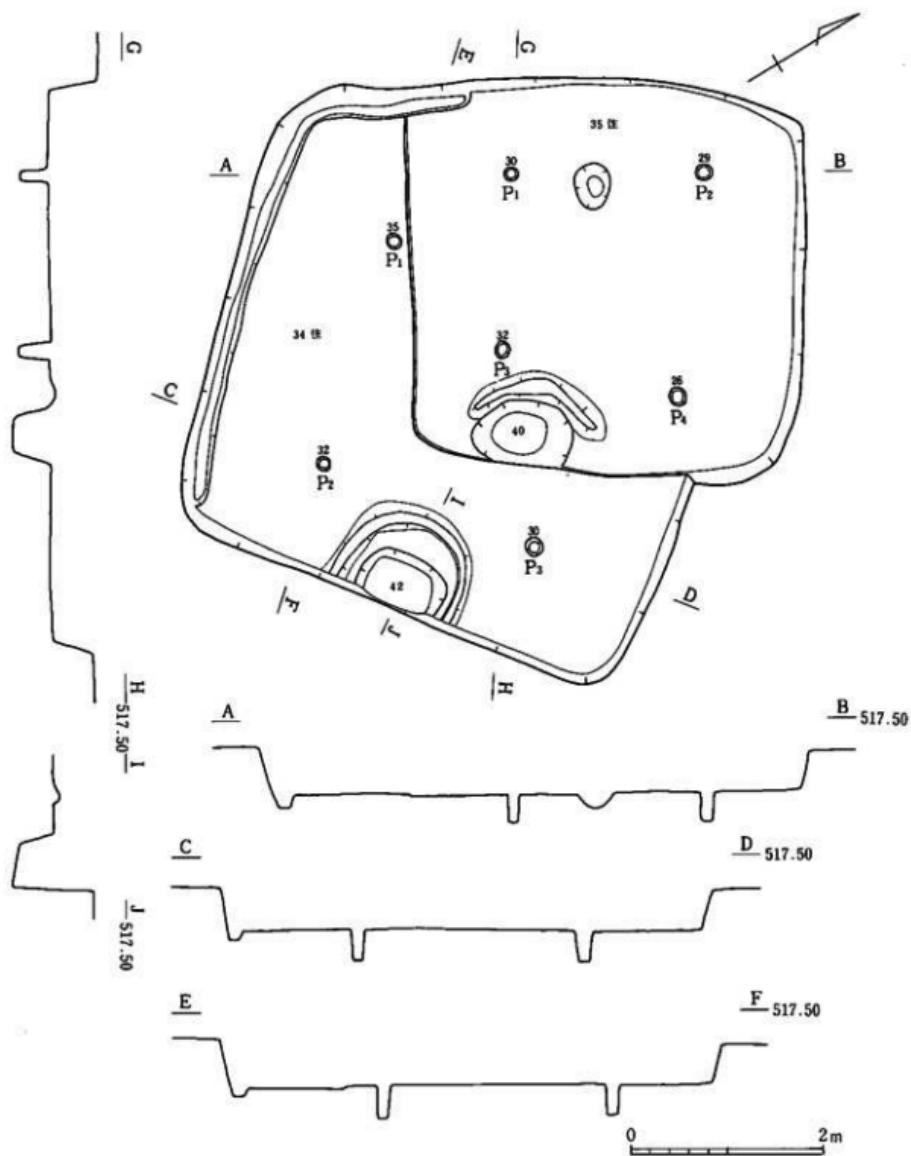


图46 34号·35号住居址

㊂ 36号住居址 (挿図47、第22・98図)

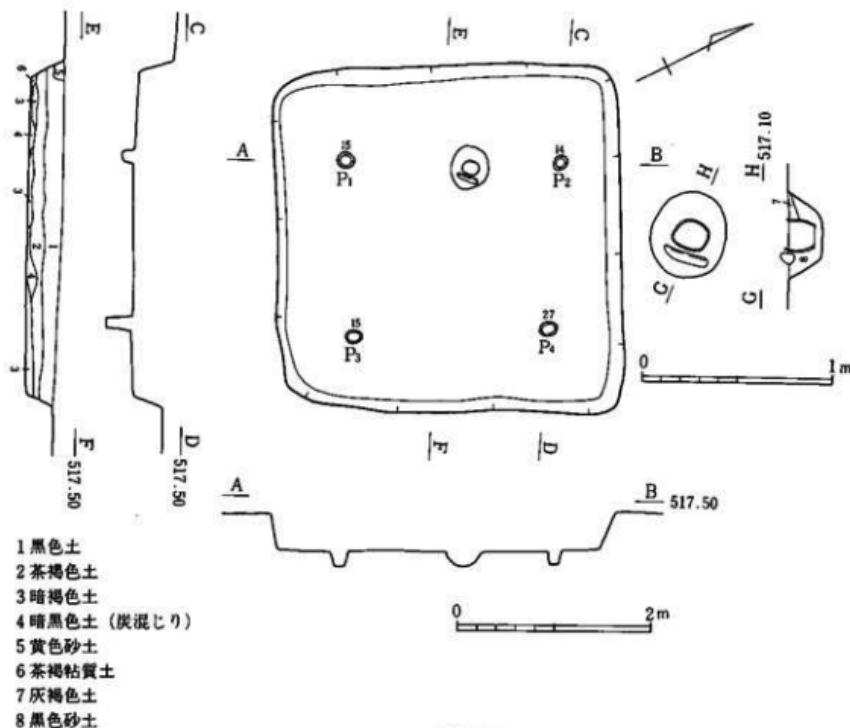
遺構 No35センター杭東3mにあり、同時期の39号住居址に接する。全体を調査し、 3.6×3.6 mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN56°Wを示す。覆土上層・中層は荒い砂を含む黒色土・茶褐色土で、下層は暗褐色・暗黑色土の砂と炭混じりとなる。壁高は38~26cmを測り、南西壁が垂直の他はやや緩い壁面をなす。床面は乳白色砂土まで掘られ堅い。主柱穴はP1~P4の4本である。炉址は炉緑石を有する土器埋設炉で、北西主柱穴間の中央やや北寄りにある。

遺物 壺・甕があり、炉甕以外は上層出土である。石器は上層から有肩扁状形石器、下層から有抉石器が出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㊃ 37号住居址 (挿図48、第23・98図)

遺構 No35センター杭付近で南隅が用地外となるが、ほぼ完掘した。 3.6×3.8 mの隅丸方形の



挿図47 36号住居址

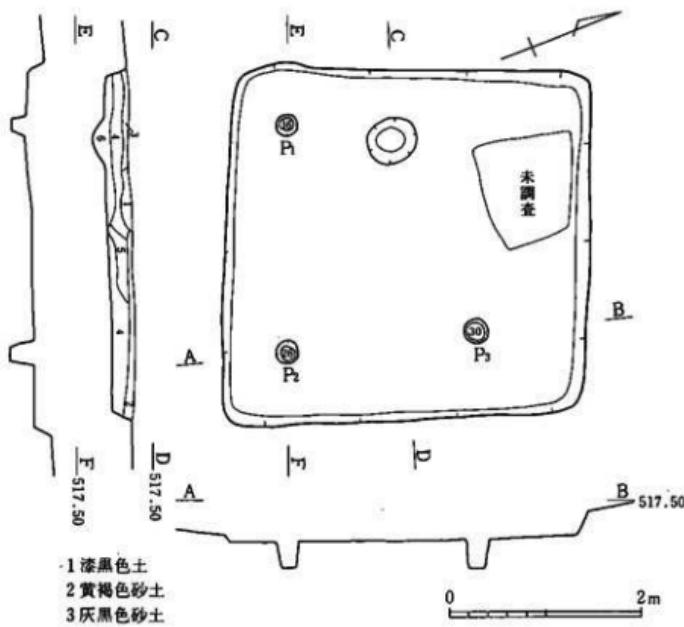
豊穴住居址で、主軸方向はN65°Wを示す。壁高25~16を測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は黄色砂土層まで掘られて堅い。主柱穴はP1~P3の3ヶを検出したが、中心杭下部の未調査ヶ所に1ヶの存在が予測され、4本主柱穴と考えられる。炉址は地床面で北西主柱穴間中央に位置する。

遺物 壺・甕・台付甕脚台部、有肩肩状形石器等がある。いずれも覆土上層から中層の出土である。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑦ 38号住居址（挿図49、第23・24・98図）

遺構 No.35とNo.36の南境界線中央付近に検出され一部用地外となるがほぼ全体を調査した。3.8×3.7mの隅丸方形の豊穴住居址で、主軸方向は48°Wを示す。覆土の大半は暗黒色粘質土と暗褐色粘質土で炭を多く含む。壁高は49~40cmを測り、垂直の壁面をなす。周溝は未調査部分を除き、入口部に至るまで壁下全体にあり、幅20~30cm・深さ7~15cmと明瞭に把握された。床面はリ床となり、きわめて堅い。主柱穴はP1~P3を検出し、南西側の用地外に1ヶの存在が予



- 1 漆黒色土
- 2 黄褐色砂土
- 3 灰黑色砂土
- 4 黑色土
- 5 暗黒色粘質土
- 6 暗黄褐色砂土

挿図48 37号住居址

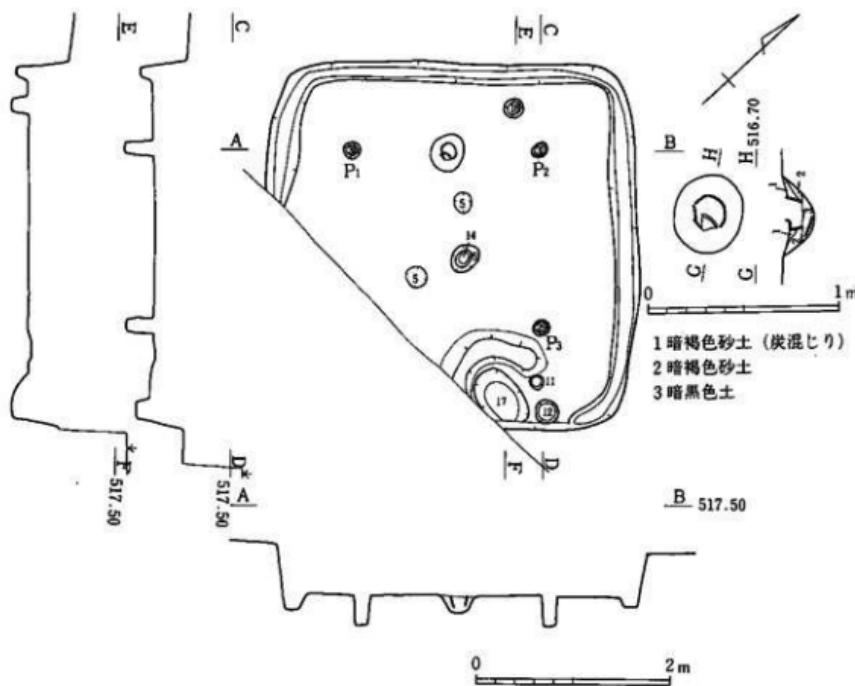
測され、4本主柱穴と考えられる。炉址と入口部を結ぶ線上に2ヶの穴が並び、間仕切と考えられる。南東壁下東寄りに、径70~50cmの楕円形で、深さ17cmの掘りこみで東側に、2ヶの穴を有し周囲に幅35cm前後・高さ5cm前後の土手状縁部を馬蹄形状に造る部分があり、入口施設と考えられる。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、北西主柱穴間中央にある。住居址中央部から西側に草を含む炭・灰が認められ、火事の住居址である。

遺物 壺・甕・高环片・抉入打製石庖丁・剥片石器などがある。覆土上層から床面にかけて住居址中央部を中心に出土した。抉入打製石庖丁1点、剥片石器1点は床面より出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㊯ 39号住居址（挿図50、第24・25・98図）

遺構 弥生時代後期後半の61号住居址を切り、31号住居址の北に接するが、完掘した。3.6×3~

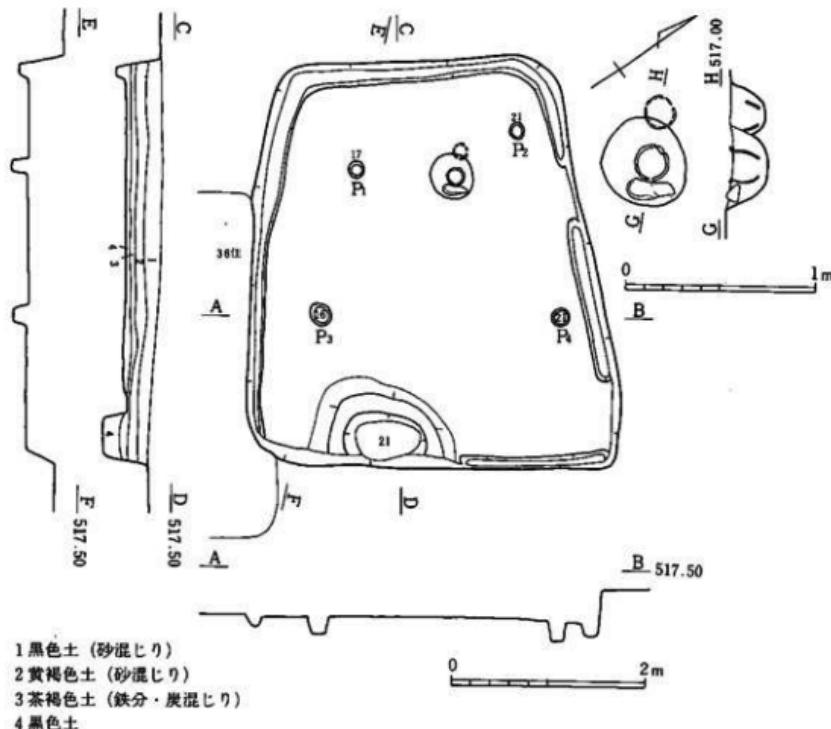


挿図49 38号住居址

4.2mのゆがんだ隅九方形の竪穴住居址で、主軸方向はN49°Wを示す。覆土中層から下層に炭を多く含み、火事の住居址と考えられる。壁高は38~23cmを測り、垂直の壁面をなす。幅10~25cm・深さ10cm前後の周溝が北東壁下の一部、南東壁下の入口部とその南側を除き、壁下全体に検出した。床面は黄色砂土層に掘りこまれて堅い。主柱穴はP1~P4の4本である。南東壁下中央の南寄りに径150~85cmの半楕円をなし、内部に径70~47cmの楕円形で、深さ25cmの掘りこみがあり、入口施設と考えられ、周囲は幅30~35cm、高さ6cm前後の土手状縁部を有する。炉址は炉緑石を有する土器埋設炉で、北西主柱穴中間よりやや内側にある。2ヶの甕が埋められ、造り替えがなされている。

遺物 出土量は多く、壺・甕・高坏、打製石斧・抉入打製石庵丁・抉入磨製石庵丁・磨石などがある。壁ぎわの下層からの出土が多い。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

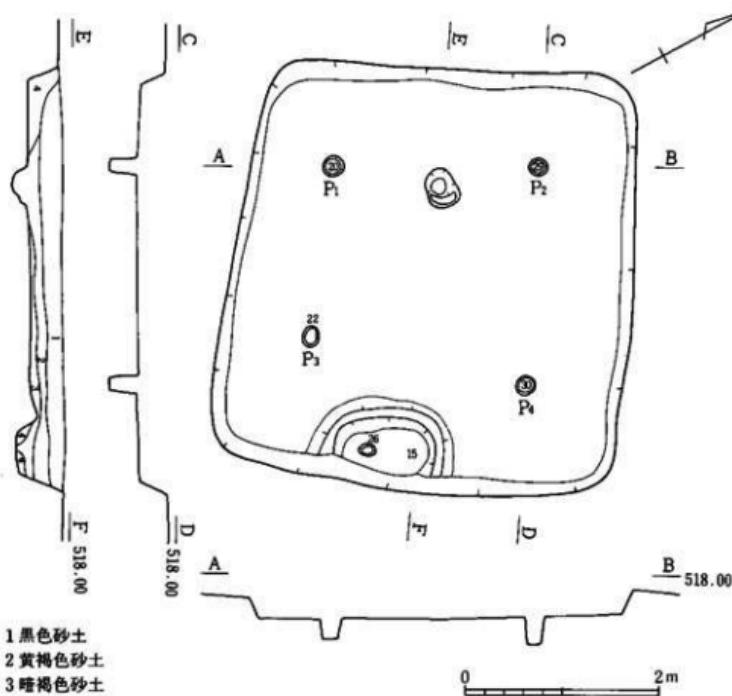


挿図50 39号住居址

㊭ 40号住居址（挿図51、第25・26・99図）

遺構 Na34センター杭南東3mにあり、完掘した。4.2×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN55°Wを示す。壁高は39~19cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は黄色砂土に掘りこんで堅いが、一部耕作による擾乱がある。主柱穴はP1~P4である。南東壁下中央に、径150~70cmの不整形な半精円形で、内部は100×50の隅丸方形の深さ15cmの掘りこみをなし、南側に深さ25cmの穴を有する部分があり、入口施設と考えられる。周囲は幅20~30cm・高さ7cm前後の土手状縁部を造っている。炉址は地床炉で北西主柱穴間中央の住居址中央寄りにあり、南東側に炉縁石の抜き取りの痕跡がある。

遺物 壺口縁片・甕片・打製石斧・抉入打製石庖丁・砥石等がある。床面上からの出土品もあるが、主体は覆土上層からの出土である。

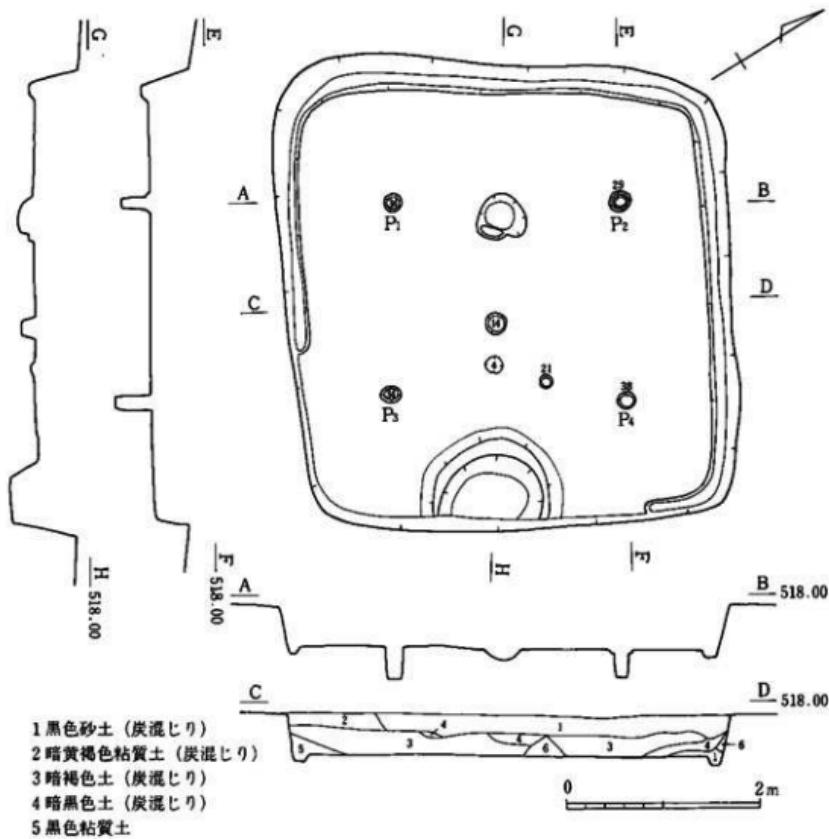


挿図51 40号住居址

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

④ 41号住居址（挿図52、第26・27・99図）

造構 Na34センター杭と南境界杭の間にあり、発掘した。4.8×4.6mの隅丸方形の堅穴住居址で、主軸方向はN60°Wを示す。覆土中層から下層は暗褐色土・暗黒色土に炭を多く含む。壁高は47~35cmを測り、垂直の壁面をなす。幅15cm前後・深さ7~10cmの周溝が、南北壁下南西と南東壁下の一部を除き、壁下全体に認められた。床面は黄白色粘質土に掘りこみ、砂礫のはり床をなし、きわめて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、P2は二段に掘られている。炉址と入口部を結ぶ線上に2ヶの穴があり、間仕切の可能性がある。南東壁下中央に全体が径150cmの半円形で、



挿図52 41号住居址

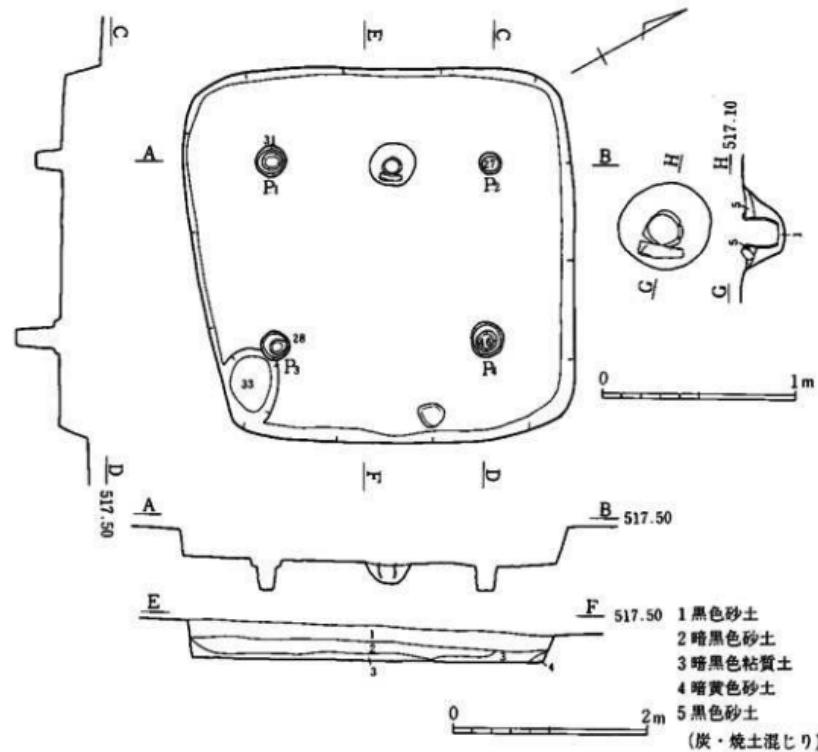
内部が径100cmの半円形で深さ25cm掘りこみ、周囲に幅20cm前後・高さ6cm前後の土手状縁部を持つ部分があり、入口施設と考えられる。炉址は地床炉で北西主柱穴間中央にある。内部より土器片3点が出土し、南側に炉縁石の抜かれた痕跡があり、炉縁石を有する土器埋設炉であった可能性もある。

遺物 壺・甕・高杯がある。炉址周囲の下層・床面の出土が多い。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑪ 42号住居址（挿図53、第27図）

遺構 No.35南境界杭の2m北にあり、完掘した。3.8×4.0mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向は58°Wを示す。壁高は41~24cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は黄色砂土まで掘られ、砂礫のはり床をなしきわめて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、P1・P3・P4は二段に掘られ、P4は42cmと深い。南隅に径120×60cmの楕円形で深さ34cmの穴があり貯藏穴と思われ



挿図53 42号住居址

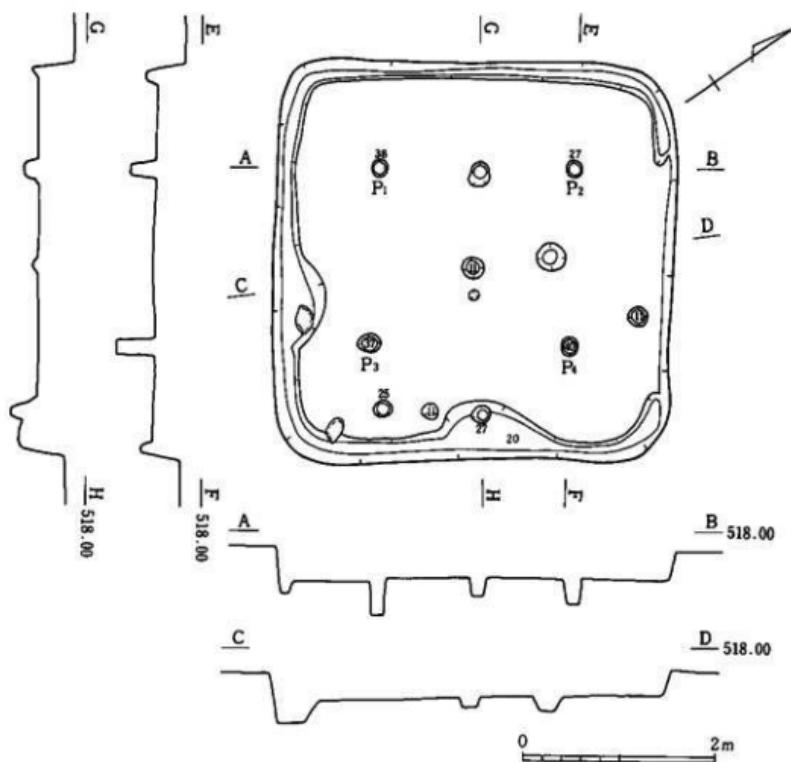
る。南東壁下中央に台石1ヶが置かれる。炉址は炉緑石を有する土器埋設炉で、北西主柱穴間中央にある。炉址の南東側から北西に105×70cmの楕円形に炭の入る浅い穴がある。

遺物 出土量は少なく壺・甕・高坏の脚部・台石等がある。出土位置は炉址北東側に多く、上層から床面にかけて出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

② 43号住居址（挿図54・55、第28・29・99図）

遺構 №34センター杭の東4mにあり、完掘した。4.1×4.1mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN55°Wを示す。壁高は40~24cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は北東壁下の3/4を

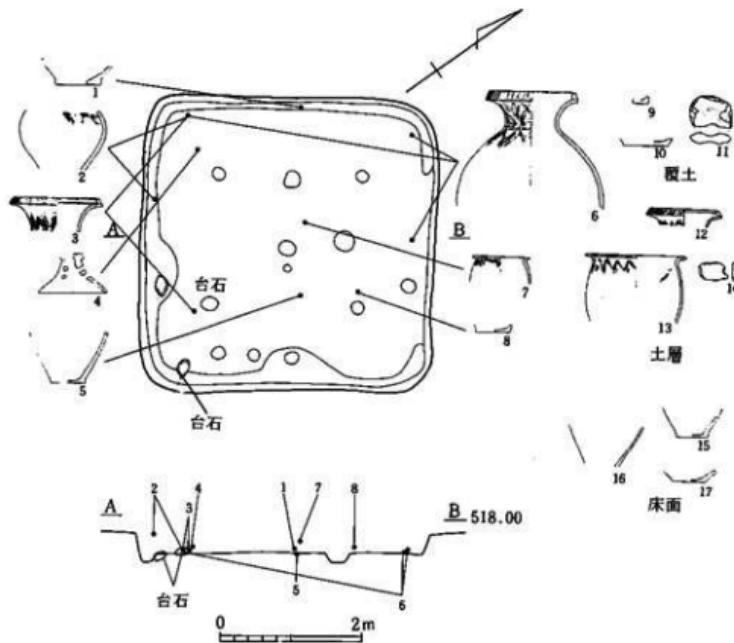


挿図54 43号住居址

除き、壁下全体から検出した。幅10~15cm・深さ10cm前後である。南東壁下中央と、南西壁下中央東寄りには深さ20~22cmで弧を画き、内側に大きく張り出す部分がある。床面は黄色砂土に掘りこみ、砂利混じりのロームで固めたはり床となり、きわめて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶでいずれも深い。住居址中央付近に1ヶ穴があり、間仕切と考えられる。周溝につながる2ヶ所の張出部は入口施設と考えられ、南東壁下のものは内側に穴が1ヶある。南西壁下の張出部には台石が置かれていた。台石は南隅の壁ぎわにも1ヶが置かれる。炉址は地床炉で北西主柱穴間の中央にある。北東壁主柱穴P2・P4間中央の住居址中心寄りにも焼土をもつ浅い穴があり、向かい合う二つの入口部とみる施設との関連から、新旧の炉址である可能性もある。

遺物 出土量は多く壺・甕・高坏・手づくね土器・抉入打製石庖丁・環状石器未成品等がある。下層・床面上からの出土が多く、南西壁ぎわに集中していた。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

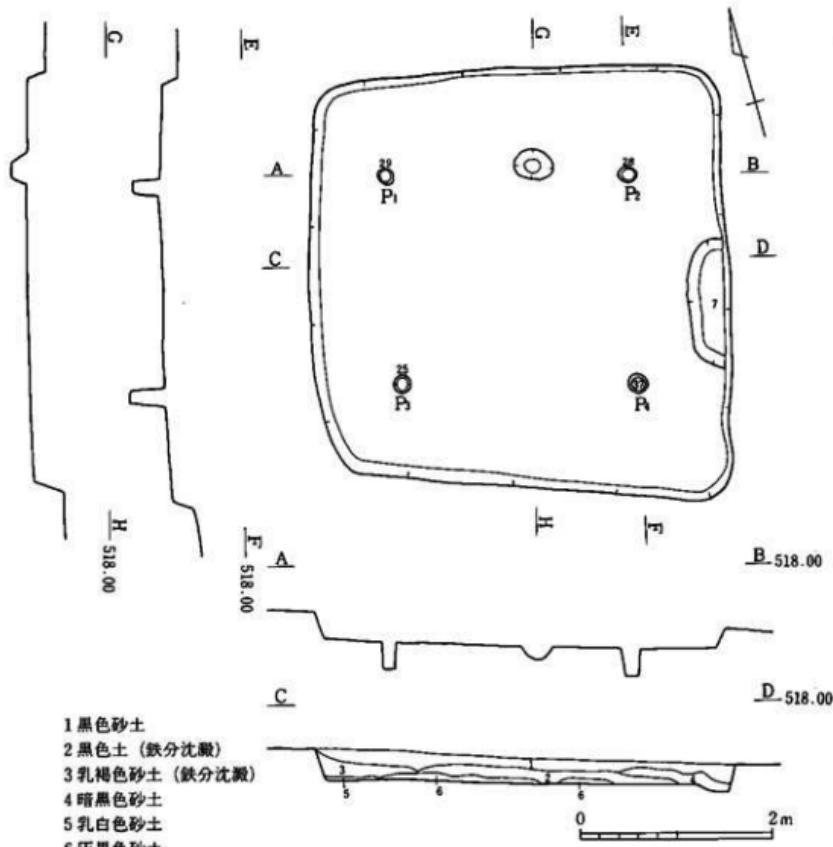


挿図55 43号住居址遺物出土状態

④ 44号住居址（挿図56、第30・99図）

遺構 弥生時代後期後半の43号住居址の東にあり、完掘した。4.3×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN19°Eを示す。壁高は33~16cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は黄色砂土に掘りこみ堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。130×40cmの長隅丸方形で、深さ7cmの掘りこみが東壁下中央にあり、入口施設と考えられる。炉址は地床炉で北側主柱穴間中央の北壁寄りにある。

遺物 出土量は比較的少なく、壺・甕・高环・横刀型石器、剥片石器がある。炉址の南に集中し、覆土上層からの出土が多い



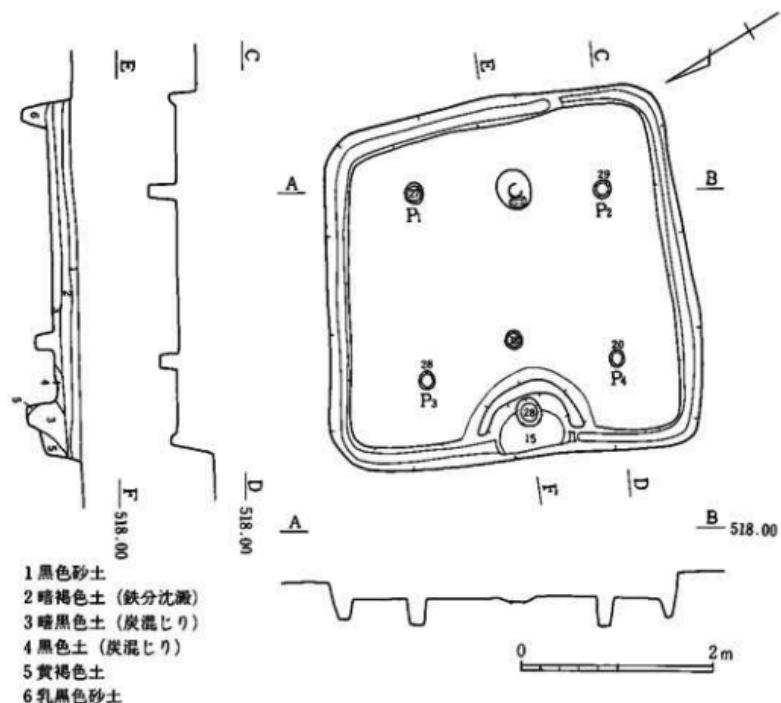
挿図56 44号住居址

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

④ 45号住居址（挿図57、第30図）

遺構 No.35センター杭西3.5mにあり、完掘した。3.7×3.8mの隅丸方形の整穴住居址で、主軸方向はN120°Eを示す。覆土中層は暗赤褐色土で酸化鉄を含み、下層の暗黒色土、黒色土には炭を多く含む。壁高は40~25cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は入口を除く壁下に認められ、幅10~15cm・深さ25~5cmと差があるが、大半は10~15cmの深さである。床面は黄灰褐色砂土に掘りこみ、はり床となり、きわめて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。西壁下中央に径170cmの半円形を呈し、内部は径80cmの半円に深さ5cmの掘りこみで、東端に深さ28cmの穴を有し、外周に幅20~25cm・高さ3~6cmの土手状縁部を施した部分があり、入口に施設と考えられる。炉址は炉碌石を有する土器埋設炉で、東側主柱穴間中央にある。

遺物 出土量は少なく、炉甕以外に甕片が覆土から出土したのみである。



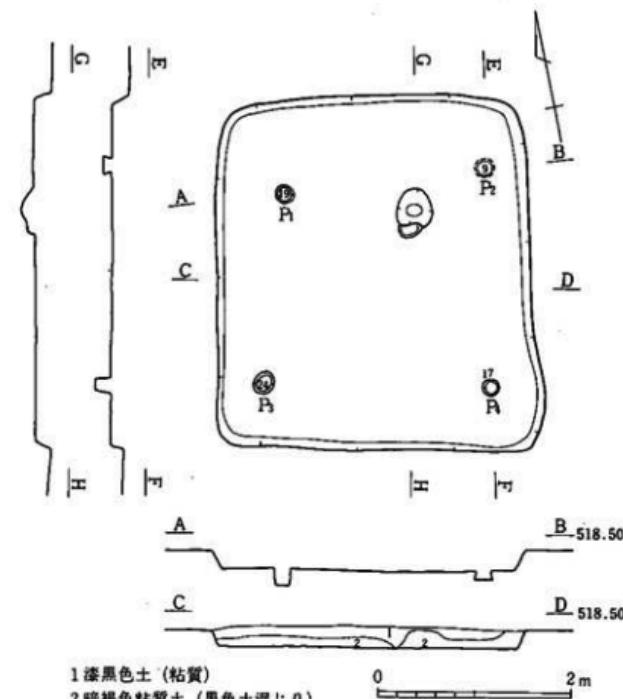
挿図57 45号住居址

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

④ 46号住居址 (挿図58、第30・117図)

遺構 No33センター杭の南に位置し、完掘した。3.6×3.3mの隅九方形の竪穴住居址で、主軸方向は23.5°Eを示す。壁高は21~13cmと浅く、緩やかな壁面をなす。床面は黄褐色粘質土に掘りこみ、軟らかい。主柱穴はP1~P4の4ヶで、P2は浅いが袋状をなす。炉址は地床炉で、北側主柱穴間の住居址中央寄りにある。南側に炉縁石1ヶが抜かれたとみる痕跡がある。

遺物 出土量は少なく、壺片・甕片・スクリレイバーがある。スクリレイバーは上層出土で縄文時代の混入品である。主体をなす遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



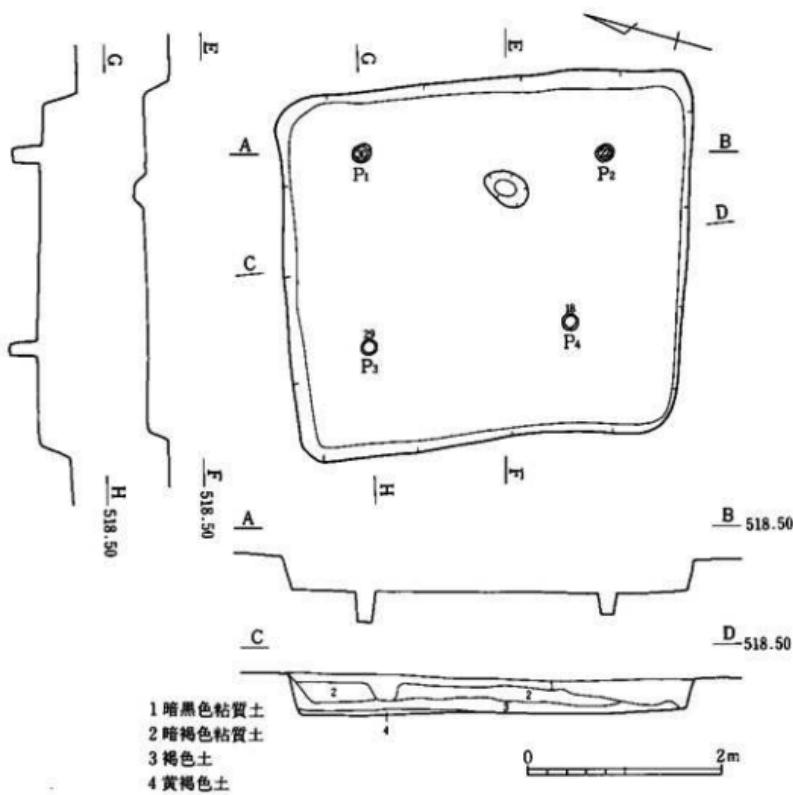
挿図58 46号住居址

⑤ 47号住居址 (挿図59、第31・99図)

遺構 No33南境杭の北東3.5mにあり、完掘した。3.7×4.2mのややゆがんだ隅九方形の竪穴住居址で、主軸方向はN90°Eを示す。壁高は38~29cmを測り、東壁はやや緩やかで、他はほぼ垂直の壁面をなす。床面は黄色砂土に掘りこみ、砂利混じりの黄色砂土のはり床となり堅い。主柱穴はP1~P4の4本である。炉址は地床炉で、東側主柱穴中間内側寄りにある。

遺物 出土量は少なく、壺片・甕片・抉入打製石庖丁・剝片石器が覆土より出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

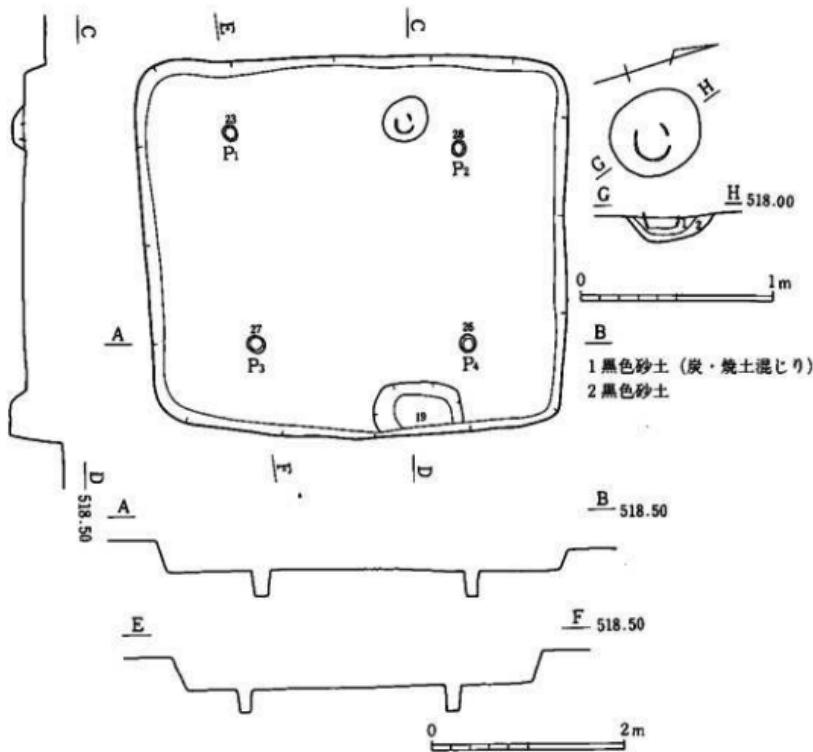


挿図59 47号住居址

⑦ 48号住居址 (挿図60、第31・99・116図)

遺構 駿原遺跡の最西端で発見され、完掘した。3.9×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN62°Wを示す。壁高は35~20cmで、やや緩やかな壁面をなす。床面は黄色砂土に掘り込み、砂と砂利のはり床となり極めて堅い。主柱穴はP₁~P₄の4本である。東壁下中央の東寄りに、径90~45cmの半楕円で深さ19cmの掘り込みがあり、入口施設と考えられる。炉址は土器埋設炉で、西側主柱穴間にやや壁寄りにある。

遺物 壺・ひさご壺・甕・高杯、打製石斧・打製石鎌等がある。出土位置は入口施設周辺に集中するが、上層・覆土の出土もある。石器は縄文時代の混入品とみられる。



挿図60 48号住居址

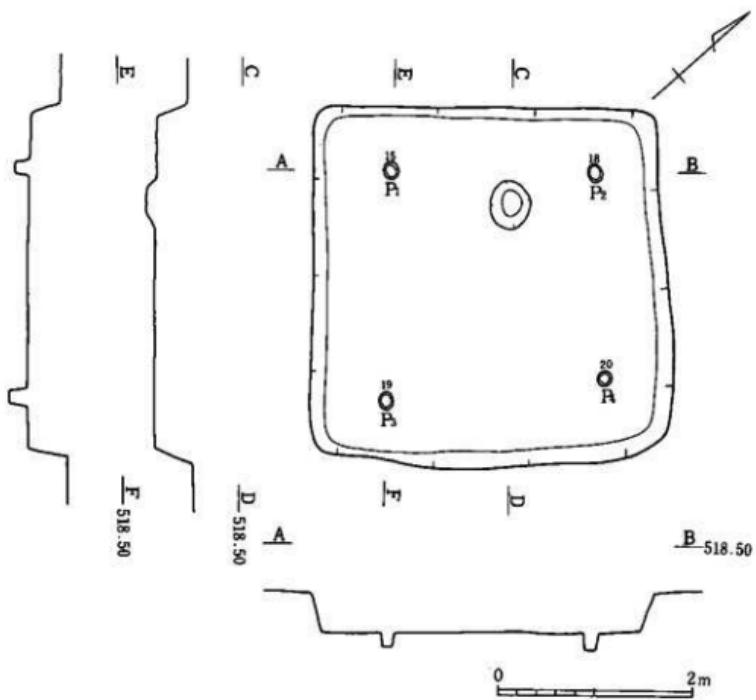
出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

④ 49号住居址（挿図61、第31図）

造構 弥生時代後期後半の51号住居址を切り、完掘した。3.7×3.7mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN44.5°Wを示す。壁高は41~30cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は暗黄褐色砂土に掘りこみ。暗黄褐色砂土に砂利混じりのはり床をし堅い。主柱穴はP1~P4の4本である。炉址は地床炉で、北西主柱穴間中央の住居址中央寄りにある。

遺物 出土量は少なく甕片のみである。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



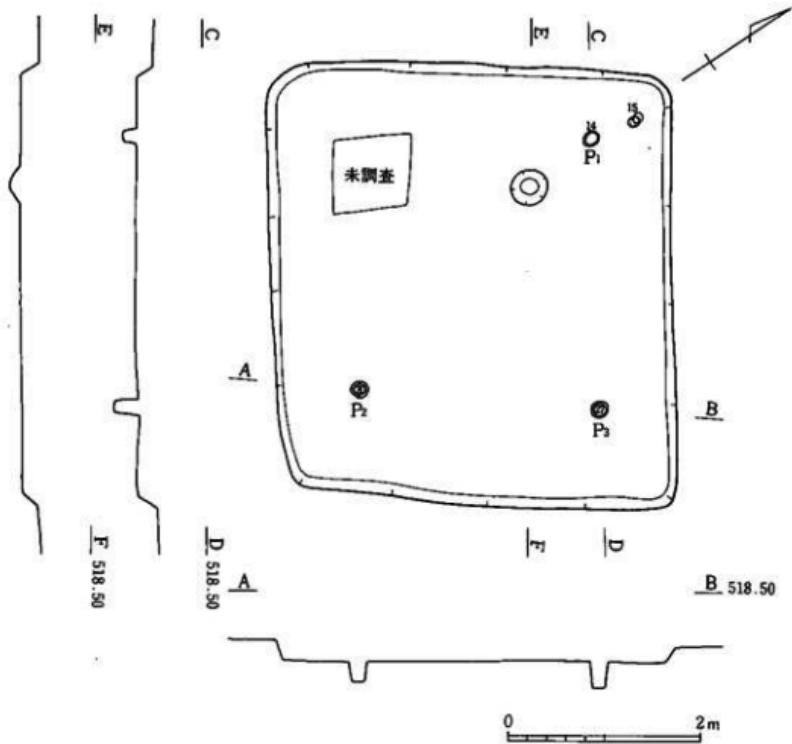
挿図61 49号住居址

④ 50号住居址（挿図62）

遺物 弥生時代後期の52号住居址を切る。一部を除きほぼ完掘した。4.5×4.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN42.5°Wを示す。壁高は22~13cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は黄色砂土となり、堅い。主柱穴はP1~P3の3本を検出し、未調査部に存在が予測される1本を合わせ4本主柱と考えられる。炉址は地床炉で、北側主柱穴P1の南中央部へ50cmの位置にある。

遺物 覆土から床面への遺物の出土はなく、グリット調査時に上層から甕の小破片を出土したのみである。

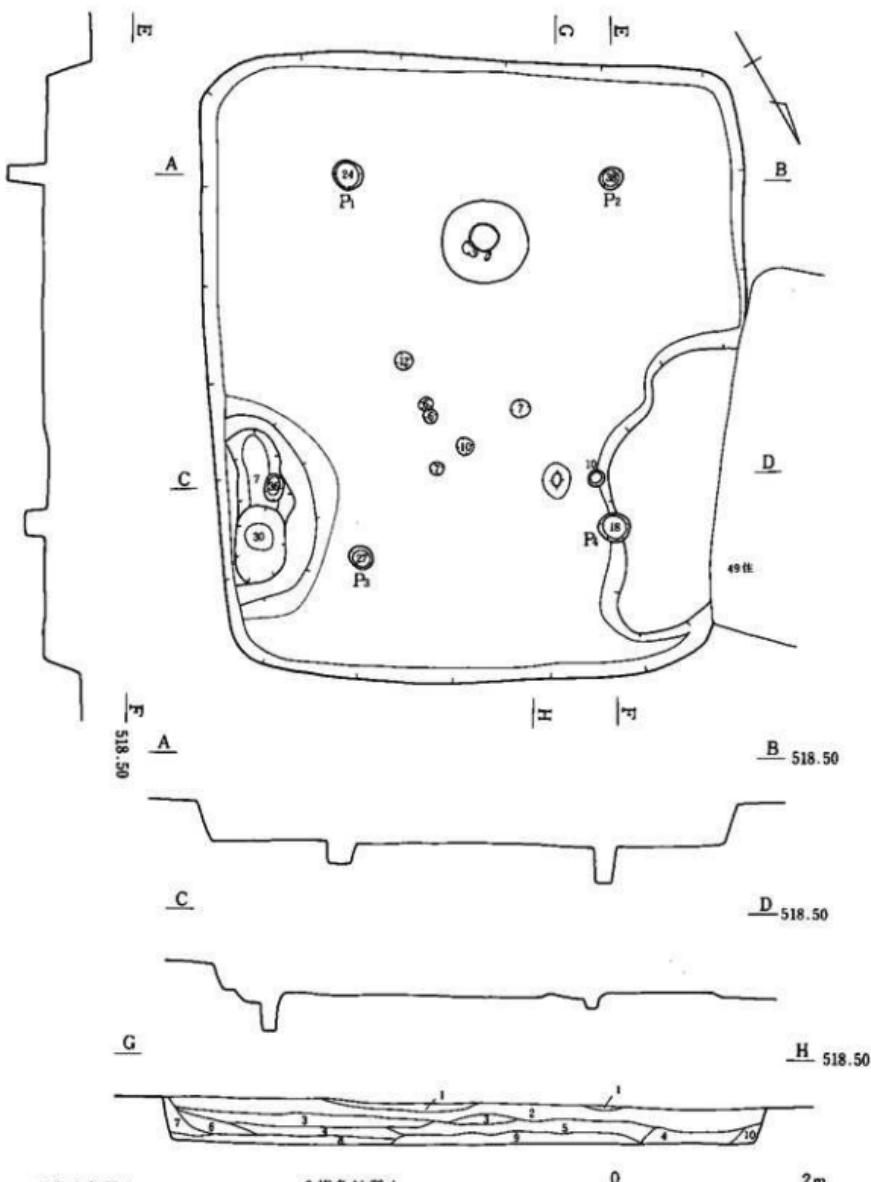
伴出遺物 がほとんどなく断定はできないが、住居址の形態等から弥生時代後期と考えられる。



挿図62 50号住居址

◎ 51号住居址（挿図63・64、第31～33・99図）

遺構 弥生時代後期後半の49号住居址に切られ、完掘した。6.4×5.6mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN150°Wを示す。覆土は上層に毛賀沢川氾濫の砂土があり、中層以下は黒色土・黒褐色土で炭を含む。下層南側は乳白色砂土、北側は漆黒色土で炭を多く含む。壁高は47～37cmで、やや緩やかな壁面をなす。床面は黄砂土を撹りこみ堅い。主柱穴はP1～P4の4本である。中央部北東側に浅い穴5ヶがある。南東壁下北寄りに2ヶ所の撹りこみがあり、入口施設と考えられる。北側は80×50cmの楕円形で、深さ27cmの撹りこみで、その南側は80×50cmの不整円内で、深さ9cmの浅い撹り込みで、北西端に深さ30cmの穴が付く。これらの外周に径2.3mの半円形に幅25～40cm・高さ5～7cmの土手状縁部を持つ。北隅に東西方向3m×1.2mの不整形で、高

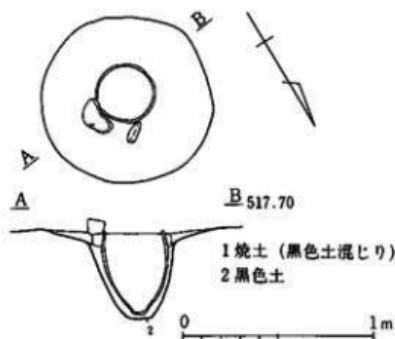


挿図63 51号住居址

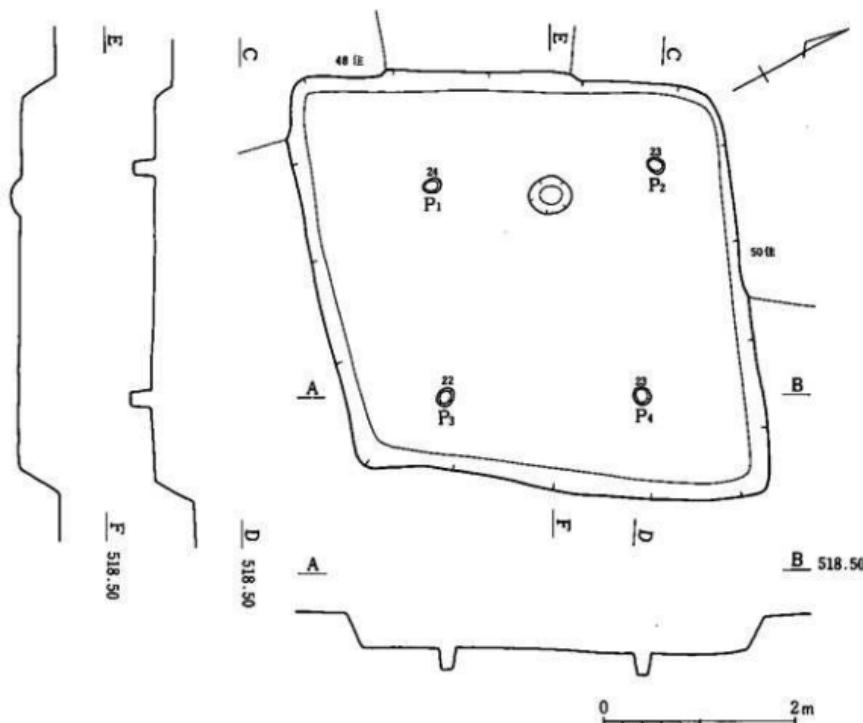
さ5~7cmのテラスがある。炉址は土器埋設炉で、南西主柱穴間中央の住居址中央寄りにある。埋設土器は口径37.2cm・高さ49.8cmを測り、弥生時代後期窯としては最大級のものとして注目される。

遺物 出土量は多く壺・壇・甕・台付甕、有肩肩状形石器・有孔磨製石庖丁・有抉石器・横刃型石器・剝片等がある。出土遺物の大部分は弥生時代後期後半のものである。出土位置は炉址の南東及び、入口施設周辺の上層から床面にわたった。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図64 51号住居址炉址



挿図65 52号住居址

⑤ 52号住居址（挿図65）

遺構 弥生時代後期の50号住居址に一部切られるが、ほぼ完掘した。4.3×4.5mのゆがんだ隅九方形の竪穴住居址で、主軸方向N60°Wを示す。壁高は46~30cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は暗黄褐色土に掘りこみ堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、深さ22~25cmを測る。炉址は地床炉で、北西主柱穴間中央の住居址中央寄りにある。

出土遺物がなく、断定できないが、住居址の形態等から弥生時代後期の住居址と考えられる。

⑥ 53号住居址（挿図66、第34・100図）

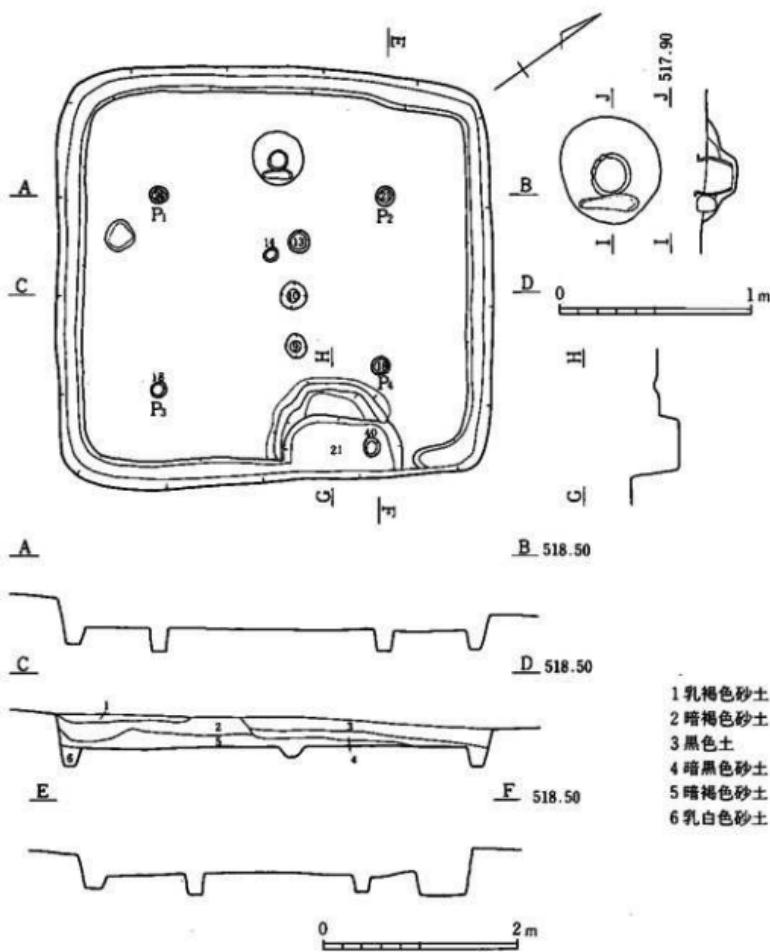
遺構 №34センター杭の西側1.5mにあり、完掘した。4.2×4.5mの竪穴住居址で、主軸方向は52.5°Wを示す。覆土は上層・中層は砂質土、下層は暗褐色粘質土となる。壁高は34~17cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。幅20cm前後・深さ12~18cmの周溝が、南東壁下入口部の一部を除き、壁下を全周する。床面は黄色砂土に掘りこみ、砂利混じりのはり床となり、極めて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。炉址と入口部を結ぶ線上に3ヶの並ぶ穴があり、間仕切と考えられる。南東壁下中央に径140cmのややゆがむ半円形をなし、内部が120×55cmの隅丸長方形で、深さ25cmを測り、東側に1ヶの穴を持つ掘り込みと、その北西側に段をなし径90cmの半円形の浅い掘りこみの外周に、幅15cm前後・高さ5cm程の土手状縁部を有する部分があり、入口施設と考えられる。P1の南側に台石1ヶを置く。炉址は炉緑石を有する土器埋設炉で、北西主柱穴間中の北西壁寄りにある。

遺物 壺・甕、有肩扁状形石器・抉入打製石庖丁がある。出土位置は覆土上層から下層にかけてあり、有肩扁状形石器・抉入打製石庖丁が入口部より出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑦ 54号住居址（挿図67、第34・35・100図）

遺構 弥生時代後期後半の55号住居址と接し、完掘した。4.7×4.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN64.5°Wを示す。覆土は上層は砂質土、中層は黒褐色土で酸化鉄分を含み、下層は粘質土の褐色土から黒褐色土となる。壁高は57~46cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝が東隅を除き壁下に検出された。幅15~20cm・深さ7~14cmを測り、北西壁中央西寄りに径80cmの半円形に弧を描き、張出部状となる。床面は黄色砂土に掘りこみ、砂利混じりのはり床をなし、極めて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、34~42cmと深い。炉址と入口部を結ぶ線上に浅い穴2ヶが並ぶ。南東壁中央南寄りに径150cmの半円形をなし、さらに内部が径108cmの半円形で深さ12cmに掘られ、やや北西寄りに小さな穴1ヶを有し、この北西側が斜めに長さ70cm・幅5cm程の段をなし、外周に幅20~27cm・高さ4cm程の土手状縁部を持つ部分があり、入口施設と考えられる。炉址は土器埋設炉で、北西主柱穴中間にある。なお、土器の上部は破損し、胴部のみであつ

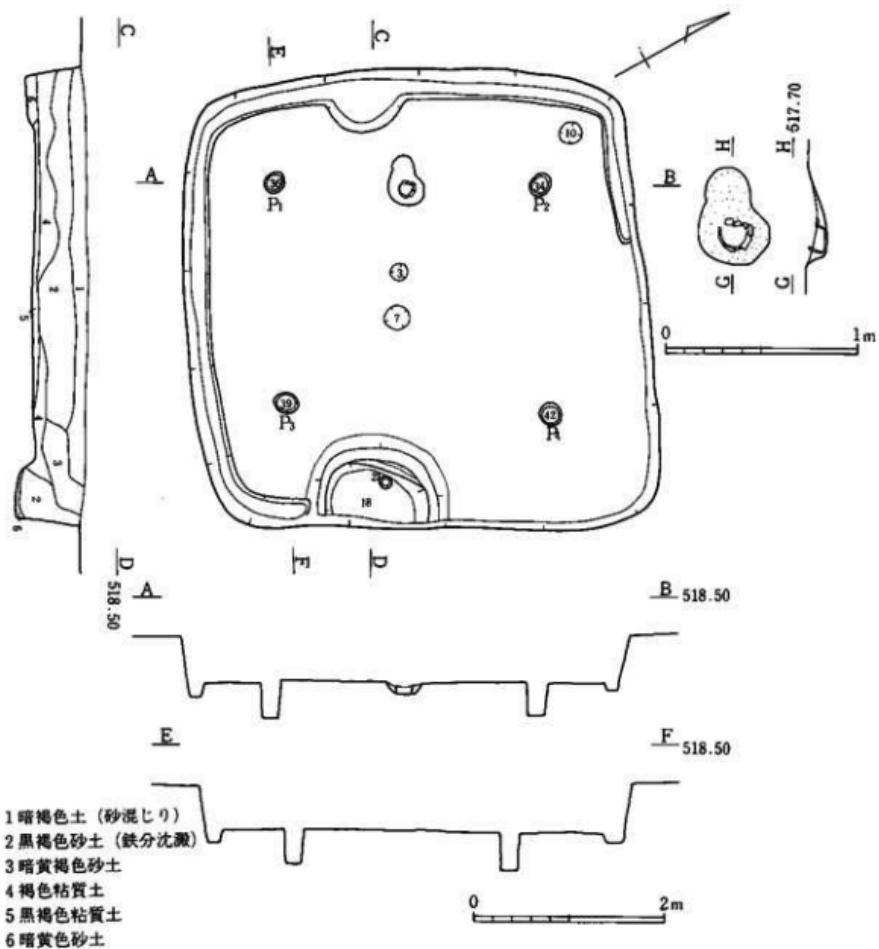


挿図66 53号住居址

た。

遺物 壺・壺・甕・高环片、有肩肩状形石器・有孔磨製石庖丁がある。全体的に壺片の出土量が多く、上層から床面にわたって出土した。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図67 54号住居址

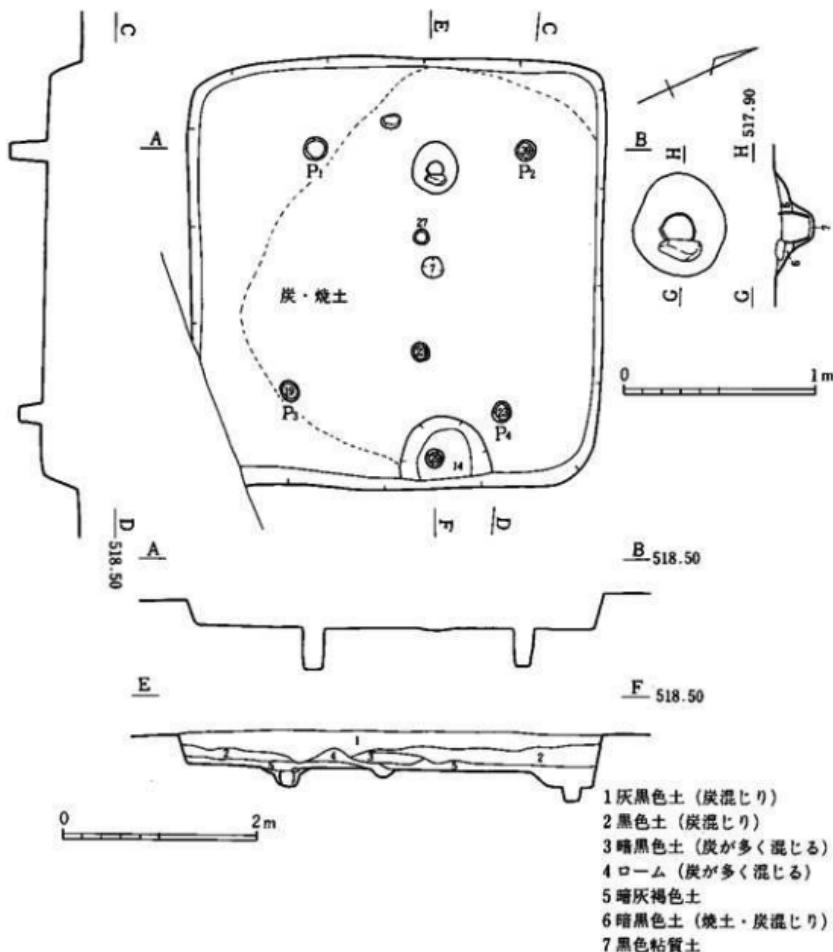
◎ 55号住居址（挿図68、第35・36図）

遺構 南側がわずかに用地外にかかるが、ほぼ完掘した。耕作によりかなりの搅乱を受けていた。4.4×4.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN55°Wを示す。覆土は上層から下層にわたり炭を多く含む。壁高は34~24cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。主柱穴はP 1~P 4の4ヶ

である。炉址と入口部を結ぶ線上に、2ヶの比較的深い穴と2ヶの浅い穴がならび、間仕切と考えられる。南東壁下中央に径98cmの半円形を呈し、深さ14cmを測り、中に深さ29cmの穴を持つ掘りこみがあり、入口施設と考えられる。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、北西側主柱穴間中央の住居址中央寄りにある。

遺物 壺・壺・甕がある。壺口縁が北東壁ぎわ床面上、壺が上層、甕が炉址及び入口部から出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図68 55号住居址

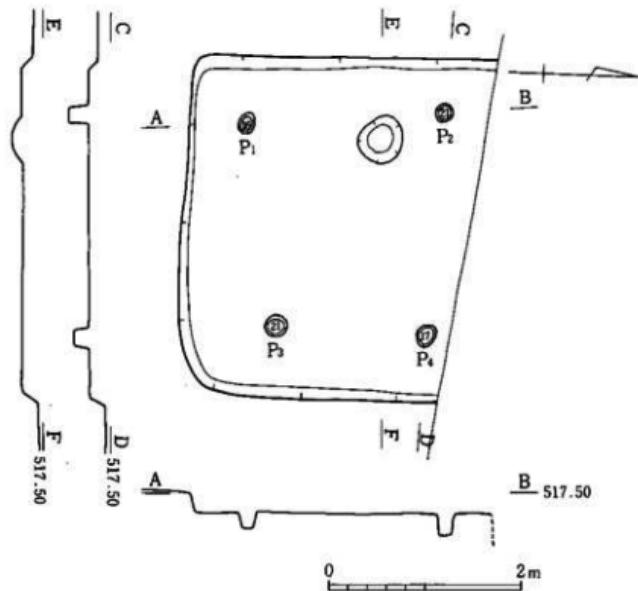
◎ 56号住居址（挿図69）

遺構 遺跡の最北西端部にあり、北側は毛賀沢川改修工事により破壊され、3ヶを調査した。主軸方向の長さが3.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向は82.5°Wを示す。壁高は24~10cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は黄褐色砂土に掘りこみ、堅い。主柱穴はP₁~P₄の4ヶである。炉址は地床炉で、西側主柱穴間のP₂寄り内側にある。

遺物の出土がなく、確定した時期を示すのは困難であるが、住居址の形態等から弥生時代後期と考えられる。

◎ 57号住居址（挿図70、第36図）

遺構 北西側は信南交通バス置場のため削平され、弥生時代後期の11号住居址に切られ、約半分を調査した。主軸方向の長さが4.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN128°Eを示す。壁高は26~12cmを測る。床面はローム層に掘りこみ堅い。主柱穴は2ヶ検出し、未調査部に存在が予測されるものを合わせ4本主柱と考えられる。北西壁下中央のやや西側寄りに、径58cmの半円形で、深さ26cmを測る掘りこみがあり、入口施設と考えられる。炉址は炉緑石を有する土



挿図69 56号住居址

春埋設炉で、南東側主柱穴の中間にある。一部二重に甕が埋められている。

遺物 出土量は少なく、炉の埋設土器の甕2個体のほか甕片があるのみである。

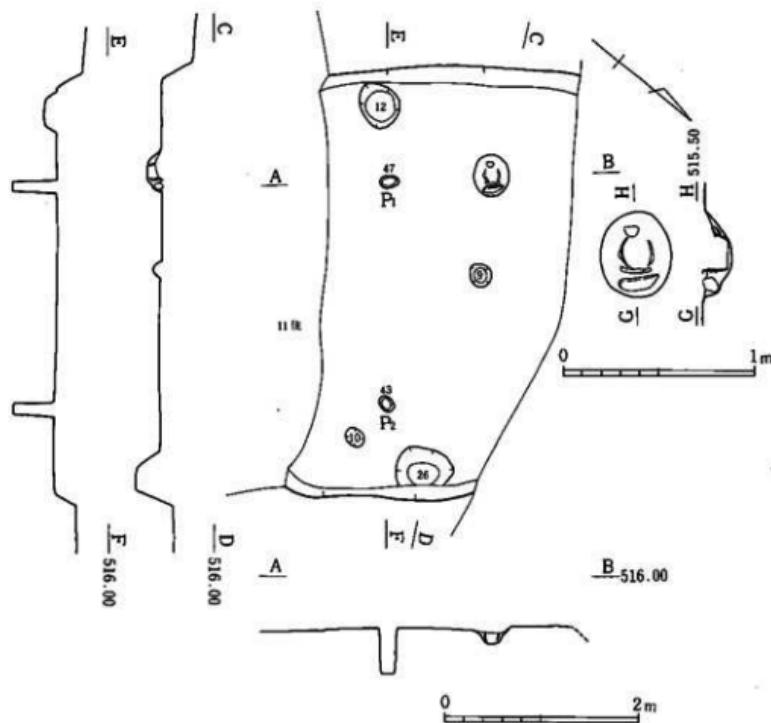
出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

⑤ 60号住居址（挿図71、第37図）

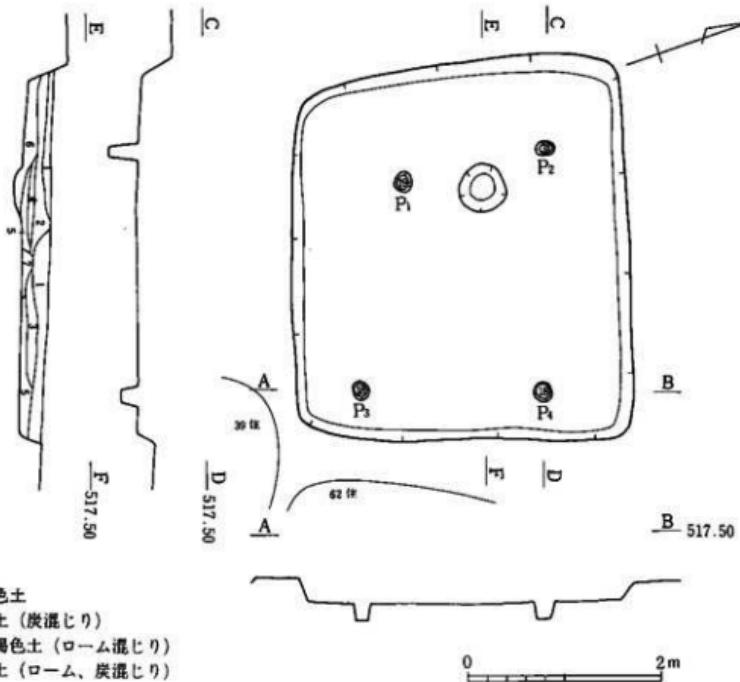
遺構 弥生時代後期の39号・62号住居址の北西に隣接し、完掘した。3.8×3.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN63°Wを示す。壁高は58~17cmを測り、やや緩やかな壁面をなし、西側が深く、東側は浅くなる。床面は黄褐色砂土に掘りこみ、堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。炉址は地床炉で西側主柱穴間の住居址中央寄りにある。

遺物 出土量は少なく甕・甕片がある。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図70 57号住居址



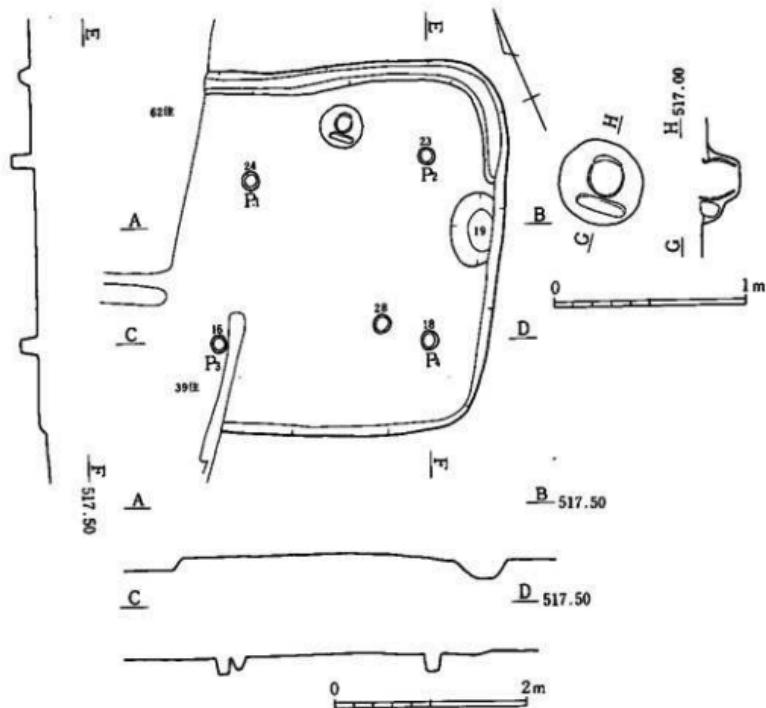
挿図71 60号住居址

⑩ 61号住居址 (挿図72、第37図)

遺構 弥生時代後期の62号住居址に切られ、弥生時代後期の39号住居址と重複するが、ほぼ完掘した。主軸方向の長さが3.8mの竪穴住居址で、主軸方向はN29.5°Eを示す。壁高は1.3mを測り、緩やかな壁面をなす。馬溝が南東壁入口部北寄りから北東壁にかけ検出され、幅15~20cm・深さ13cm前後を測る。床面は暗褐色砂土に掘りこみ、砂利混じりのはり床がなされ、極めて堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、P4の内側に支柱穴と考えられる穴がある。南東壁下中央のやや北寄りに、径7.3cmの半円形で、深さ13cmの掘りこみがあり、入口施設と考えられる。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、北東側主柱穴間の住居中央寄りにある。

遺物 出土量は少なく、炉甕1個体と甕底部1点のみである。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



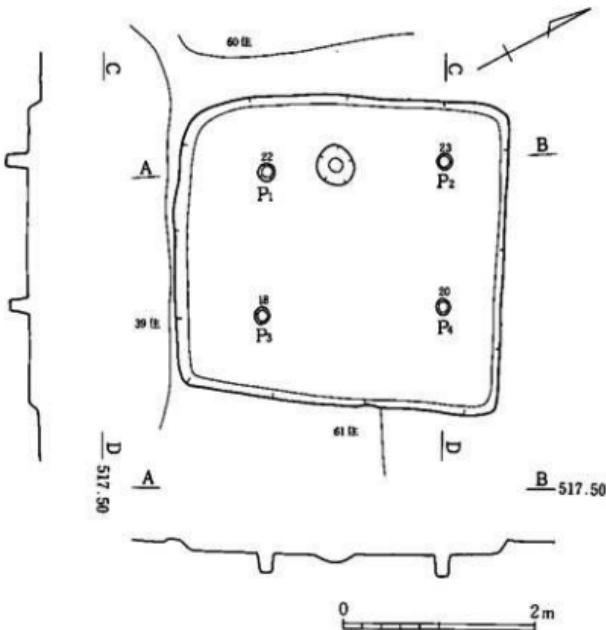
挿図72 61号住居址

◎ 62号住居址（挿図73、第37図）

遺構 弥生時代後期の61号住居址を切り、弥生時代後期の39号住居址と接し、完掘した。3.1×3.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN69°Wを示す。壁高は17~9cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は暗褐色砂土に掘りこみ、堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。炉址は地床炉で、北西主柱穴間の南西主柱穴寄りにある。

遺物 出土量は少なく、台付甕接合部1点と甕小破片のみである。

出土遺物が少なく断定はできないが、住居址形態等から弥生時代後期後半に比定される住居址と考えられる。



挿図73 62号住居址

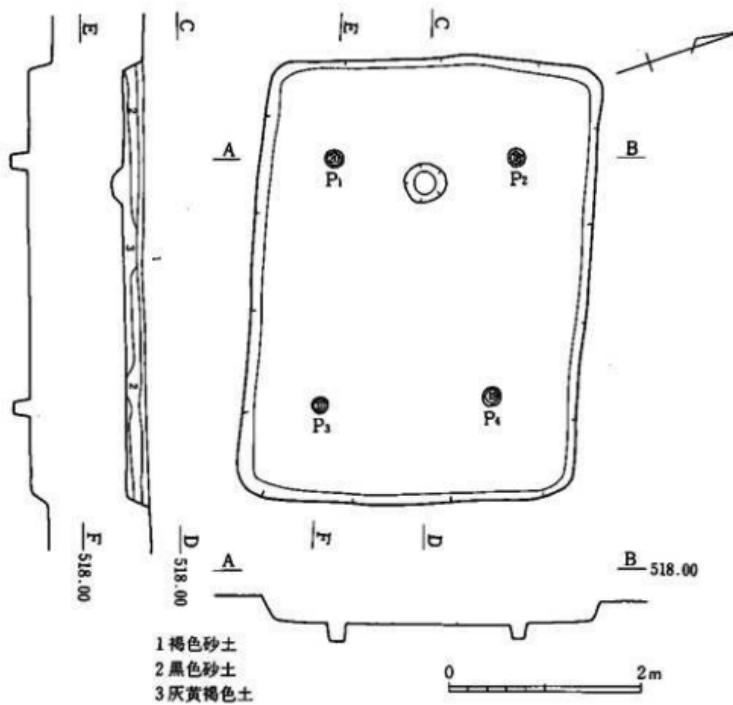
④ 63号住居址（挿図74）

遺構 弥生時代後期の51号住居址の北1mにあり、完掘した。4.6×3.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN66°Wを示す。壁高は24~16cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は茶褐色土（酸化鉄混じり）に掘りこみ、堅い。主柱穴P1~P4である。炉址は地床炉で、北西主柱穴間の住居址中央寄りにある。

遺物の出土はなく、時期は不明であるが、住居址の形態から、弥生時代後期と考えられる。

⑤ 64号住居址（挿図75、第37・100図）

遺構 No.42センター杭にかかる位置にあり、完掘した。4.3×4.7mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN48°Wを示す。壁高は18~7cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ、堅い。主柱穴P1~P4の4ヶで、P1・P3・P4に支柱穴ともみる穴がつく。浅い穴が中央と炉址北西にある。炉址は地床炉で、北西側主柱穴間にある。南西側に炉縁石の抜き取り痕とも考えられる穴がある。



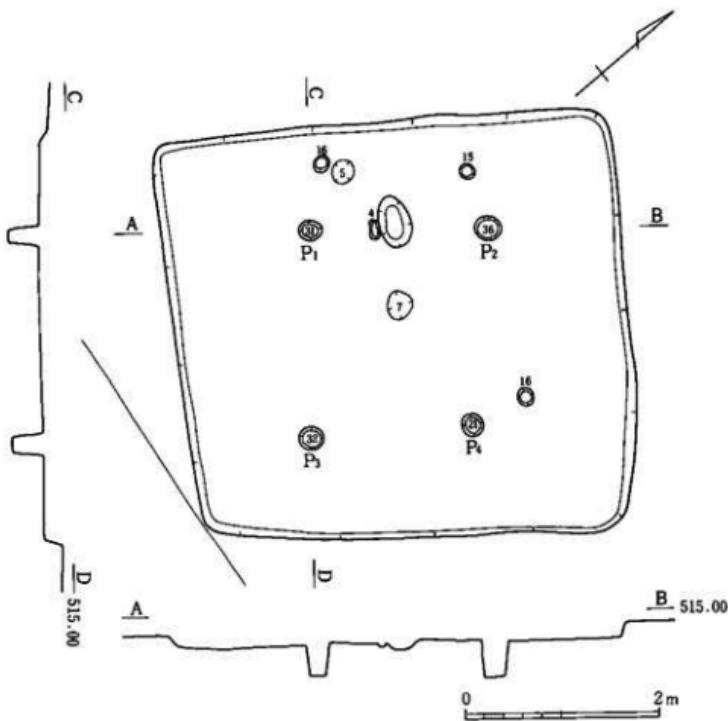
挿図74 63号住居址

遺物 出土量は少なく壺・甕・底部片・抉入打製石庖丁がある。覆土・床面上より出土した。出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

② 65号住居址（挿図76、第37・38・100・116図）

遺構 №42センター杭と北境界杭との間にあり、完掘した。4.3×4.6mのややゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN19°Wを示す。壁高は18~5cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ、堅い。P₁~P₄の4ヶが主柱穴と考えられ、炉址の西側に穴1ヶがある。南壁下中央のやや東寄りに136×60cmのゆがんだ隅丸長方形で、深さ14cmを測る掘り込みがあり、入口施設と考えられる。住居址のはば中央部に台石1ヶを置く。炉址は土器埋設炉で、北側主柱穴中間にある。

遺物 出土量は多く、壺・甕・高坏・環状石器・有肩肩状形石器・打製石鎌・台石等がある。



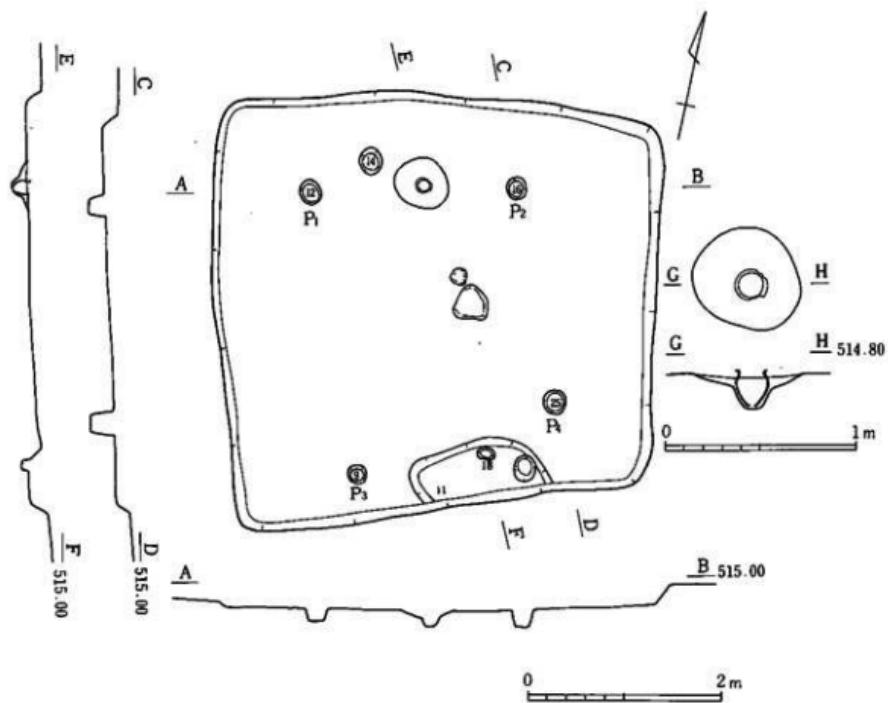
挿図75 64号住居址

遺物は覆土上面から床面上まで全般的に出土した。打製石器は縄文時代の混入品である。

出土遺物等から弥生時代後半に比定される住居址である。

③ 66号住居址（挿図77・78、第38~41・100図）

遺構 Na43センター杭の西側に検出され、完掘した。4.9×5.0mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN57°Wを示す。覆土上層が漆黒土（炭を含む）、中層は黑色土・暗褐色土・黄褐色でロームが混じり、下層は暗褐色土である。壁高は42~34cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ、堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶで、深さ36~45cmを測る。炉址を中心にして北西から南東へ4ヶが並ぶ。南隅の壁下に3.0×1.3mの三角形で、高さ2~4cmのテラスがある。これに連続してその東側に、径55cm・深さ18cmの円形と三角形で深さ12cmの掘り込みがあり、入口施設と考えられる。炉址は土器埋設炉で、北西主柱穴中间にある。



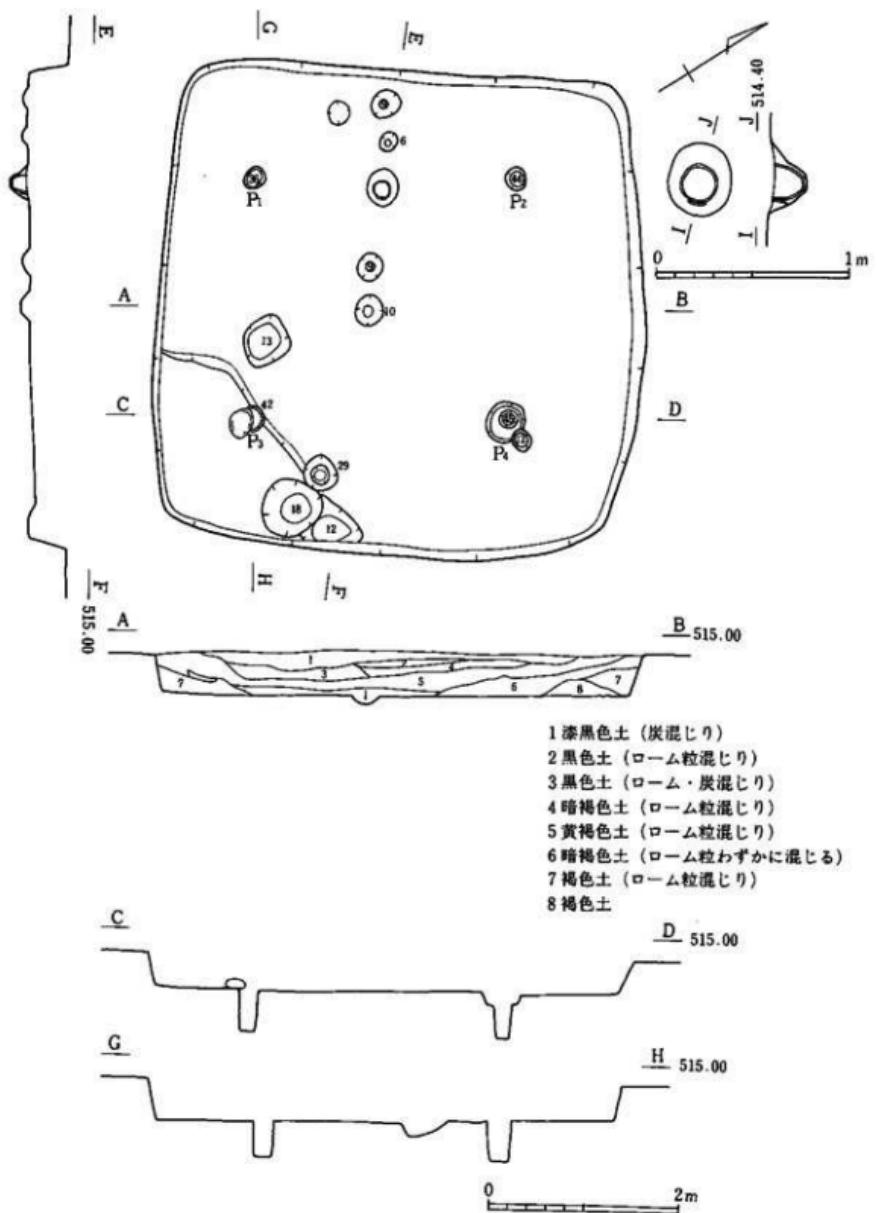
挿図76 65号住居址

遺物 出土量は多く、壺・壇・甕・高環・浅鉢・抉入打製石庖丁・打製石斧・有肩肩状形石器などがある。床面上および覆土下層からの出土が多く、北東壁ぎわに特に多い。小形の壺・完形品の甕2ヶ体・石器類など、一括性の高い良好な資料といえる。

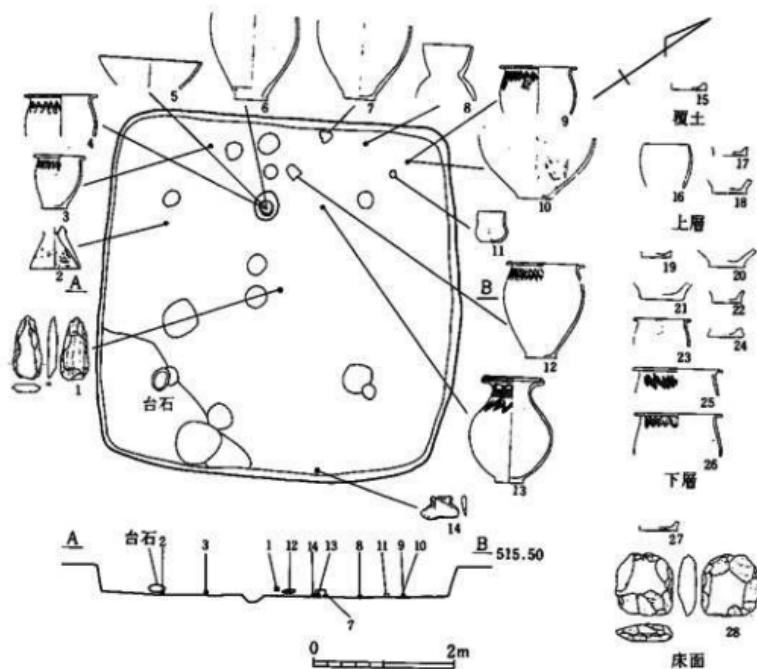
出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

④ 69号住居址（挿図79、第41・101図）

遺構 北西側を調査前まで使用されていた用水路の土管によって切られ、縄文時代の79号住居址を切り、全体の1/3程を調査した。東壁で長さ3.5mの隅丸方形の竪穴住居址である。壁高は16~14cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ、堅い。柱穴はP1・P2を検出したが、未調査部に存在が予測されるものを合わせ、4本主柱穴と考えられる。南東壁下南寄りに、径10.5cmゆがんだ楕円形で、深さ13cmの掘りこみがあり、掘りこみ部の西に深さ24cmの穴があり、南西側に眉状の長さ120cm・幅32~43cm・高さ4cm前後の土手状縁部を有するもので、入口



挿図77 66号住居址

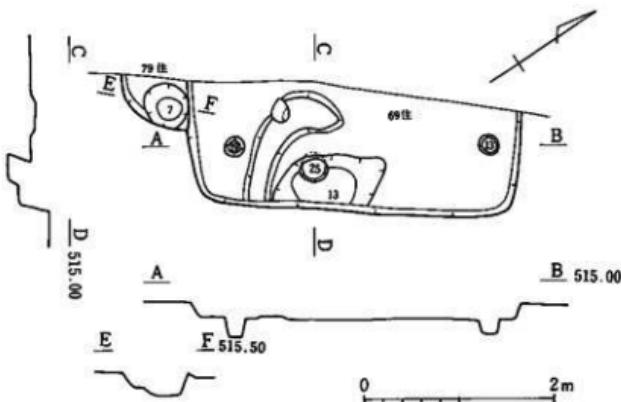


挿図78 66号住居址遺物出土状態

施設と考えられる。

遺物 壺・甕・高壺・
抉入打製石庵丁・打製
石斧等がある。覆土中
および床面上から出土
した。

出土遺物等から弥生
時代後期後半に比定さ
れる住居址である。



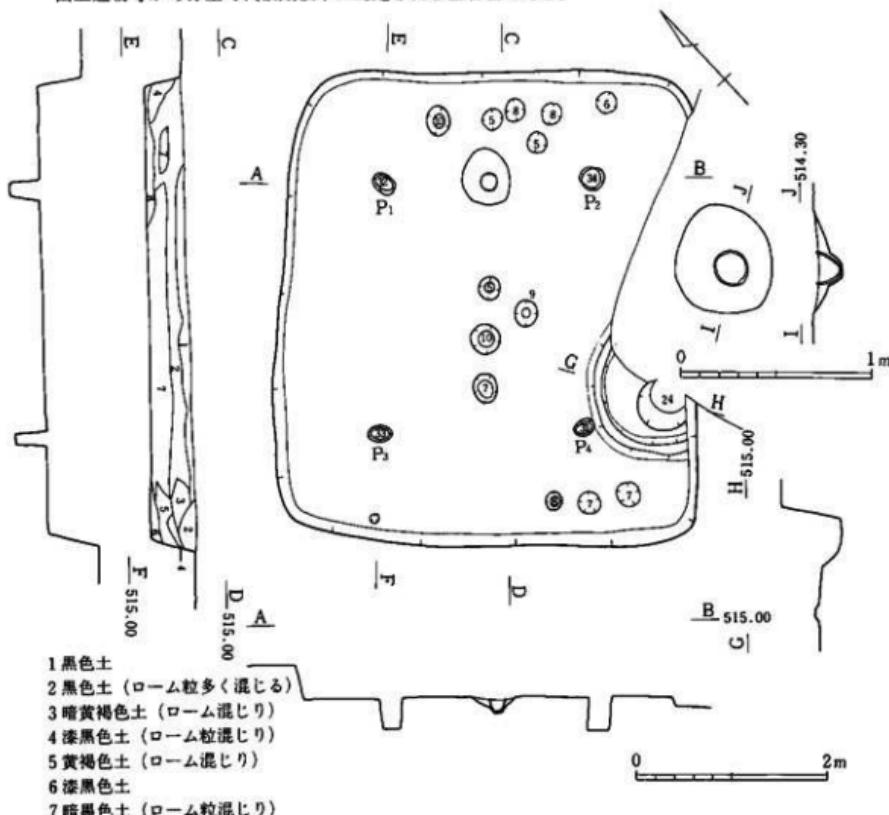
挿図79 69号・79号住居址

◎ 71号住居址 (挿図80、第41・42・101図)

遺構 古墳時代後期の70号住居址に南東側の一部を切られるが、ほぼ完掘した。4.4×4.8mの隅九方形の竪穴住居址で、主軸方向はN45.5°Wを示す。覆土は上層が黒色土、中層・下層は暗黒色土でローム粒が混じり、壁ぎわはローム粒を含む褐色土である。壁高は50~36cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。炉址と南東壁中央を結ぶ線上に3ヶの穴が並び、間仕切と考えられる。また、炉址の北西に5ヶの浅い穴がある。北東壁下中央のやや南寄りに北側½を70号住居址に切られて、径130cm程の半円形で内側は段をなし、径55cmの円形に深さ24cmの掘りこみがあり、入口施設と考えられる。なお、外周は幅15~22cm・高さ4cm土手状縁部を有する。炉址は土器埋設炉で、北西主柱穴中間にある。

遺物 壺・甕・打製石斧・抉入打製石庖丁等がある。覆土から床面上にかけて出土した。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。



挿図80 71号住居址

◎ 72号住居址（挿図81、第42・43・101図）

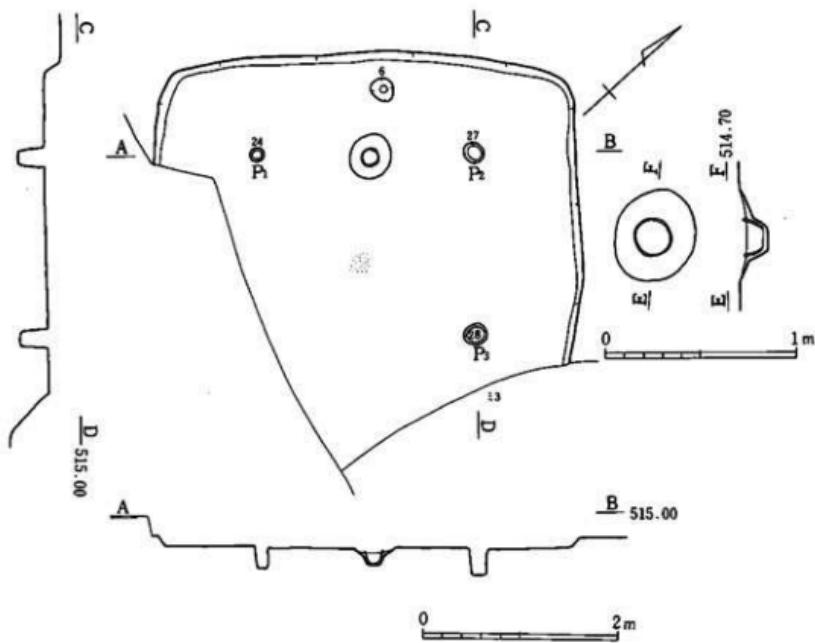
遺構 旧河道の溝辻3に切られ、南側は用地等の関係から一部未調査部があるが、ほぼ完掘した。主軸に直交する方向の長さ4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN49.5°Wを示す。壁高は15~10cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ堅い。主柱穴はP1~P3の3ヶが検出され、未調査部に存在が予測される1ヶを含め4本主柱と考えられる。炉址は妻側部のみを用いた土器埋設炉で、北西主柱穴中間にある。

遺物 炉址西側に多く、壺・甕・壇・高坏・打製石斧・有肩肩状形石器などがある。

出土遺物等から弥生時代後期終末に比定される住居址である。

◎ 73号住居址（挿図82、第43・44・111・116・117図）

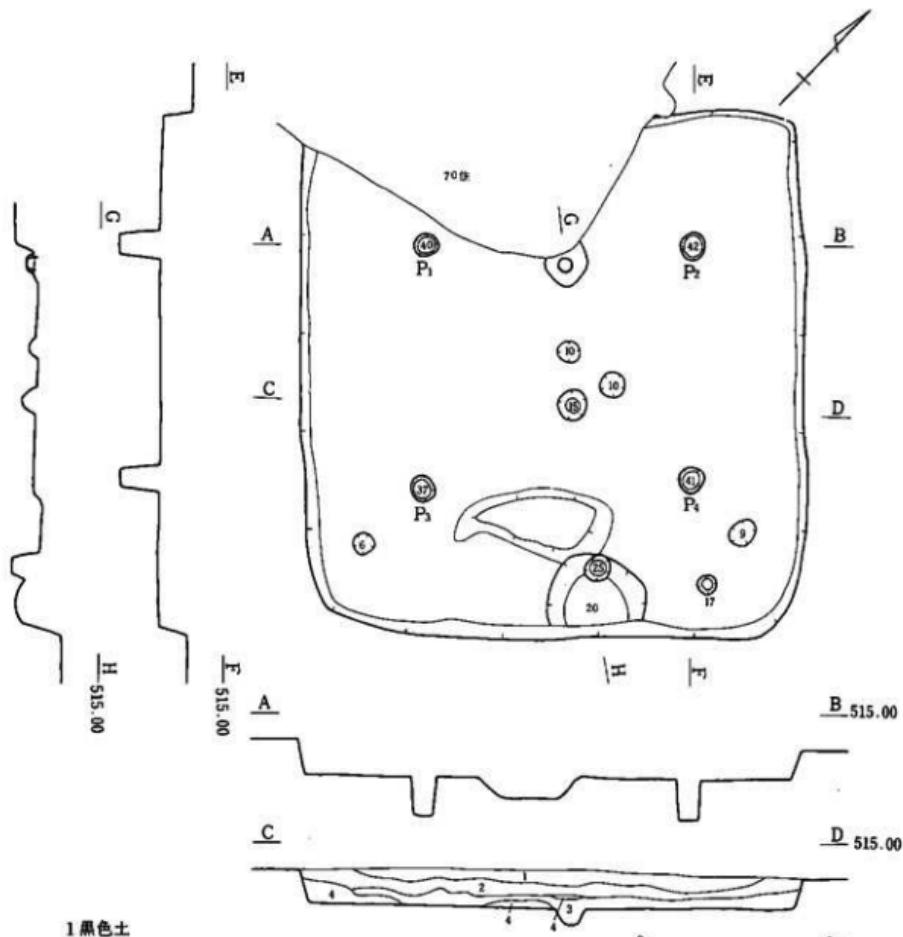
遺構 北西の一部を古墳時代後期の70号住居址に切られるが、ほぼ完掘した。5.4×5.2mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN42.5°Wを示す。覆土は上層から黒色土・暗褐色土（ローム粒混じり）・暗褐色土（ローム粒、わずかに炭混じり）である。壁高は37cm~27cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面はローム層に掘り込み堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。炉址と



挿図81 72号住居址

入口を結ぶ線上に2ヶの穴があり、間仕切りと考えられる。南隅と南東隅に支柱穴と考えられる穴がある。南東壁下のほか中央に、径130cmの半円形で、深さ20cmの掘りこみをなし、北西側に長さ160cm最大幅7.5cm、高さ4~9cmの中央部が高く、両端が低くなる眉状の土手状縁部を有する部分があり、入口施設と考えられる。炉址は土器埋設炉で、北西側主柱穴の中間住居址中央寄りにある。

遺物 出土遺物には壺・甕・高杯・打製石斧・有肩肩状形石器・抉入打製石庵丁などがある。

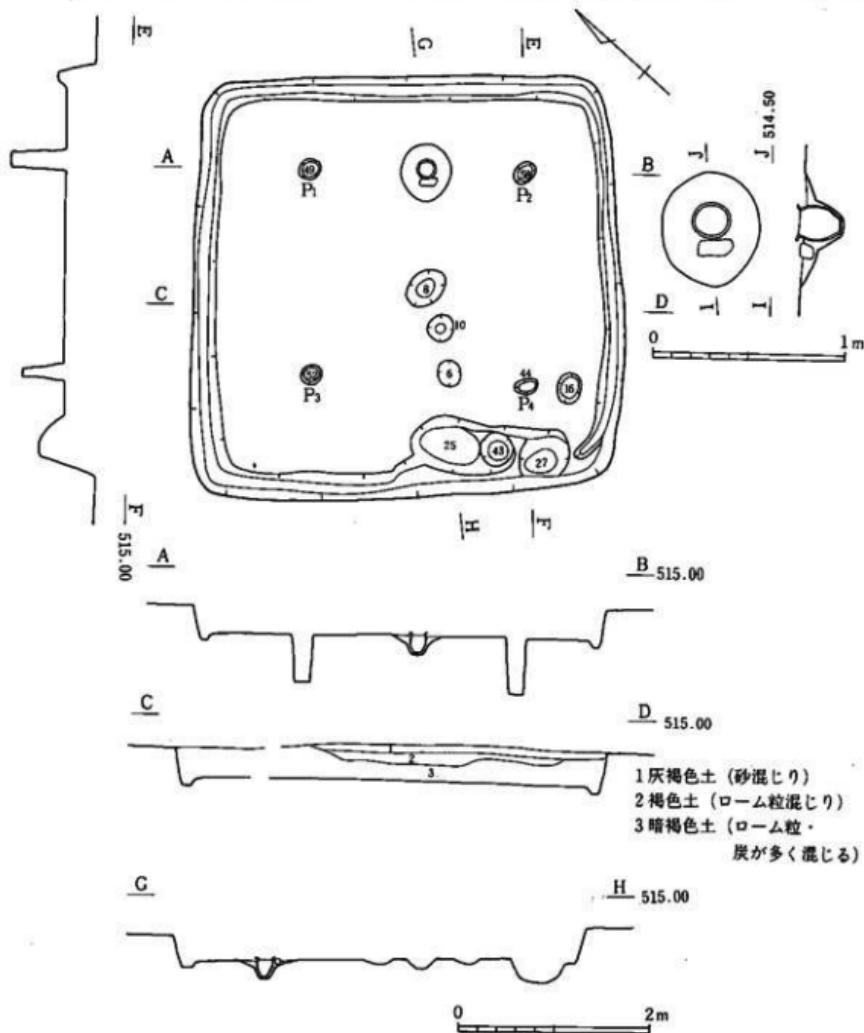


插図82 73号住居址

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㊯ 74号住居址（挿図8、第44・102図）

遺構 縄文時代の75号住居址を切り、北側の大部分が用地外にかかり、一部を調査した。規模・平面形とも不明である。壁高は35~32cmを測り、ほぼ垂直の壁高をなす。床面はローム層に據



挿図83 76号住居址

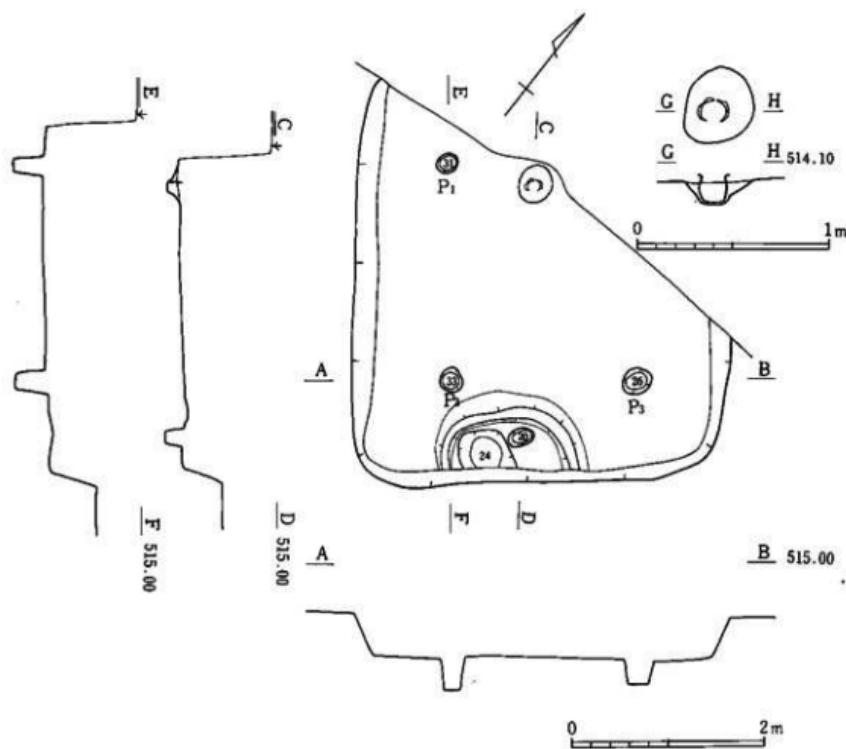
りこみたたき状に堅い。主柱穴は1ヶのみ検出したが、4本主柱穴と考えられる。東壁下南寄りに径65cm・深さ16cmで、西側と北東側に2ヶの穴があり、入口施設と考えられる。炉址等は未調査部にあり、形状等不明である。

遺物 出土量は少なく、床面・覆土から、甕片・打製石斧・有肩肩状形石器がある。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

㊂ 76号住居址（挿図83、第44・45・102図）

造構 完掘した。4.3×4.5mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向N49.5°Eを示す。覆土下層は厚く、暗褐色土でローム粒・炭が多く混じる。壁高は54~28cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は幅10~22cm・深さ5~9cmを測り、入口部を除き、全壁下にある。床面はローム層に掘りこみ堅い。主柱穴はP1~P4の4ヶである。炉址と入口部を結ぶ線上に3ヶの穴が並び、間仕



挿図84 76号住居址

切と考えられる。南西壁下中央東寄りに、 $165 \times 55\text{cm}$ の長楕円で深さ25・27・43cmの掘りこみがあり、入口施設と考えられる。炉址は炉縁石を有する土器埋設炉で、北東側主柱穴の中間にある。

遺物 壺・壺・鉢・有肩肩状形石器・石錐がある。出土位置は入口部周辺に多い。

出土遺物等から弥生時代後期終末に比定される住居址である。

⑩ 78号住居址（挿図84、第45・102図）

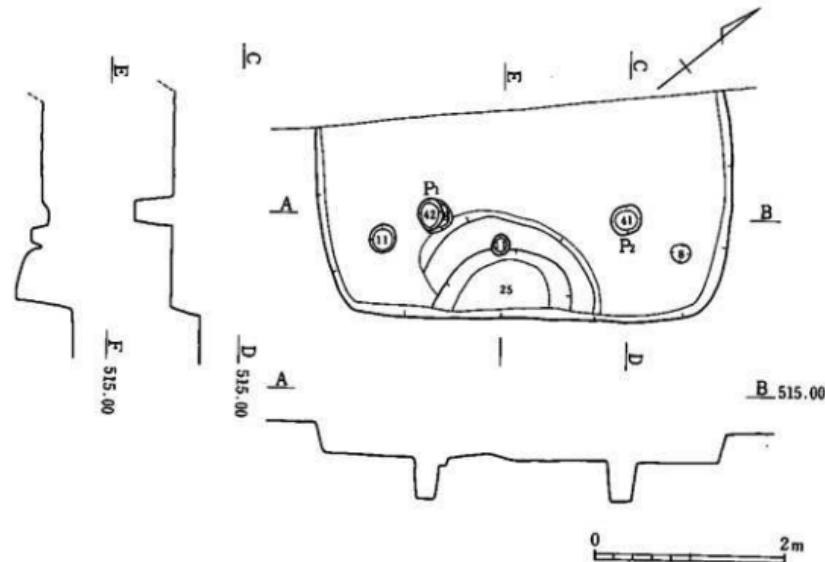
遺構 北側が用地外にかかり、全体の半分強を調査した。主軸に直交する方向の長さ3.9mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN43°Wを示す。壁高は61~40cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ堅い。主柱穴はP1~P3を検出した。南東壁下西寄りに径157cm・深さ24cmの掘りこみで、外周に幅12~30cm・高さ4cm前後の土手状縁部を有する部分があり、入口施設と考えられる。炉址は土器埋設炉で、北西主柱穴中間の住居址中央寄りにある。

遺物 壺・壺・有肩肩状形石器等がある。遺物は覆土から床面上にかけて出土し、入口部周辺の床面上に多い。

出土遺物等から弥生時代後期終末に比定される住居址である。

⑪ 81号住居址（挿図85、第46・102図）

遺構 西側を調査前まで使用されていた用水路の土管に切られ、縄文時代の土坑17を切る。全



挿図85 81号住居址

体の半分程を調査した。東壁で長さ4.3mを測る隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN43°Wと推定される。壁高は34~29cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状に堅くきわめて良好である。主柱穴はP1・P2を確認し、西側未調査部に存在が予測されるものと合わせ4本主柱穴と考えられる。東壁下ほぼ中央には146×60cmの横円形を呈する穴がある。30~20cmの土手状縁部と小穴を伴い、入口施設と考えられる。炉址などは調査範囲内で検出されなかった。

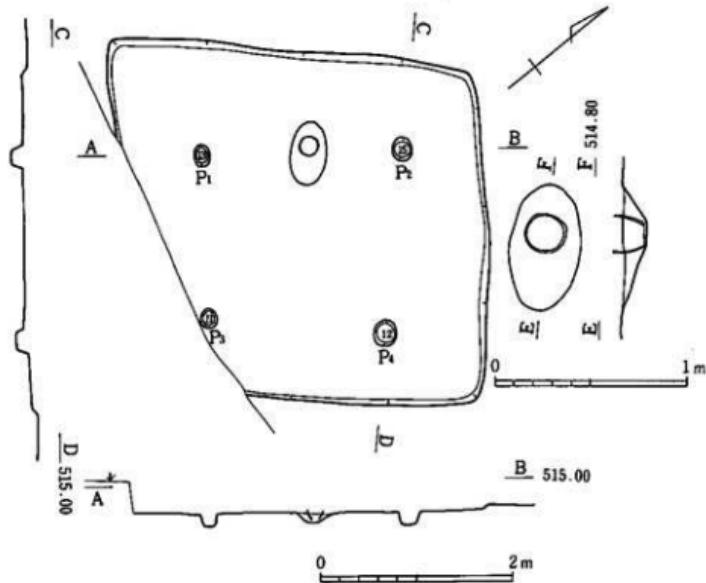
遺物 出土遺物は少ないが、入口付近からの出土が多い。甕・高坏・打製石斧・有肩扁状形石器・挿入打製石庖丁・石錐などがある。

出土遺物・住居址形態から弥生時代後期に比定されるが、詳細な時期の断定はできない。

② 82号住居址（拵図86、第46・102・116図）

遺構 南境界杭Na44と45の中央部付近にわずかに検出され、南端の一部を残し、ほぼ完掘した。3.6×3.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN46°Wを示す。壁高は9~3cmを測り、緩やかな壁面をなす。覆土の大半は信南交通KKバス置場建設時に削平されている。床面はローム層に掘りこみ堅い。主柱穴はP1~P4である。炉址は土器埋設炉で北西主柱穴の中間にある。

遺物 遺物は覆土から床面上にかけて出土したが、炉址北西側に多い。壺・甕・有肩扁状形石



拵図86 82号住居址

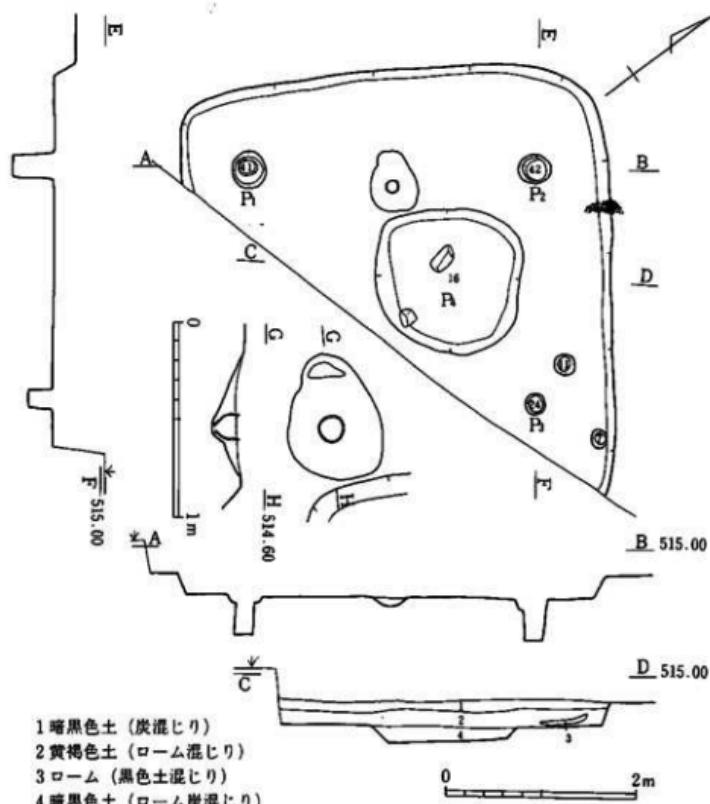
器・凹石・打製石鎌等がある。炉の埋設土器は口縁部の大半を欠くがほぼ完形品である。

出土遺物等から弥生時代後期後半に比定される住居址である。

(佐藤魁信)

② 83号住居址（挿図87、第46・47・89・103・117・118図）

遺構 南側が用地外のため、全体の半分強を調査した。4.5×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN53°Wを示す。壁高は26~22cmを測り、若干上面が削平された可能性があり、やや緩やかな壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状に堅くきわめて良好である。主柱穴はP1~P3で、南側に存在すると予測される1本と合わせ、4本主柱穴と考えられる。住居址中央部やや北側寄りに、1.5×1.5mの丸味を帯びた方形を呈し、深さ16cmの断面皿状を呈するP4がある。はり床は認められず、覆土も住居址のそれとの差は認められず、住居内施設と考え



挿図87 83号住居址

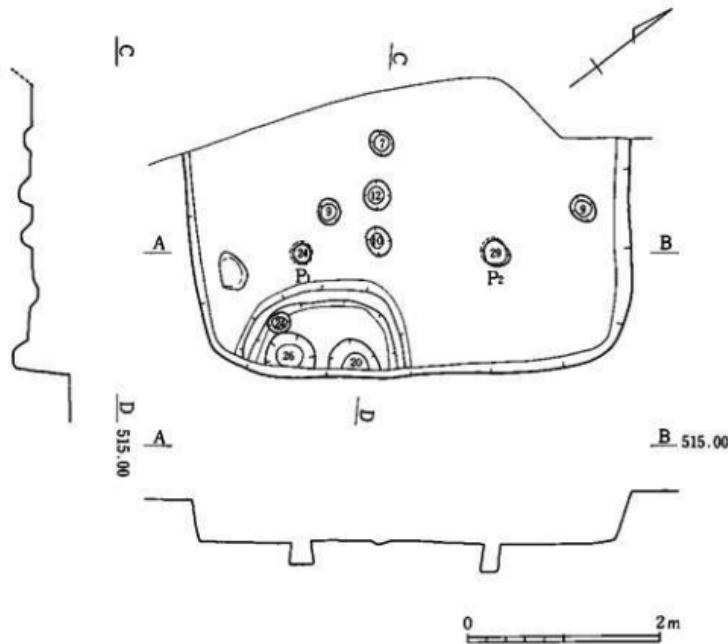
られるが、当地方の該期住居址中央にこうした穴がある例はほとんどみられず、性格等は不明である。炉址は北西側主柱穴中間のやや住居址中央寄りに位置する土器埋設炉である。床面を1.3×1.0mの楕円形に掘り凹め、口縁部と底部中央部を欠く甕を埋める。焼土・炭は余り認められなかった。

遺物 出土量が多いが、そのほとんどが縄文土器で、覆土中全体から出土した。第89図に選択して掲載したが、ほぼ縄文時代中期終末に限定される。ほかの該期住居址からの縄文時代遺物出土量に比べ本住居址からの出土量は多く、遺構としての把握はできなかったが、縄文時代中期の住居址等と重複していた可能性もある。弥生土器は少なく、壺・甕がある。石器は、打製石斧・磨製石斧・抉入打製石庵丁・横刃型石器・打製石鎌・ビエス・エスキューがある。

住居址形態、炉の埋設土器から弥生時代後期終末に比定される。

④ 84号住居址（挿図88、第47・48・103図）

遺構 西側を調査前まで使用されていた用水路などにより搅乱を受け、約1/2を調査した。南東壁の長さが4.6mを測る隅丸の竪穴住居址で、主軸方向はN52°Wと推定される。壁高は40～31cmを



挿図88 84号住居址

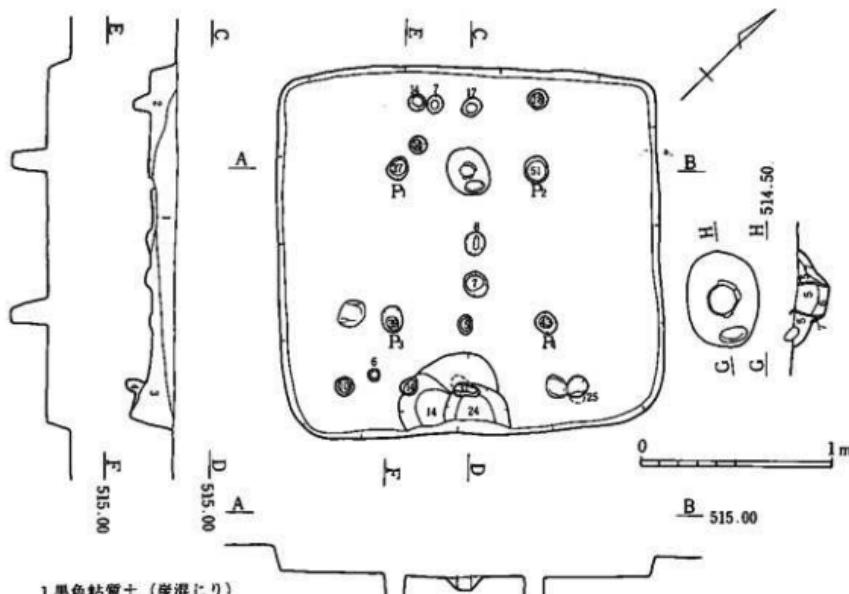
測り、北東壁がやや緩やかな以外はほぼ垂直の壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、たまたま堅くきわめて良好である。主柱穴はP 1・P 2で、西側未確認の2本と合わせ4本主柱穴と考えられる。住居址中央部から入口部にかけて3本の深い穴が直列し、その脇に1本の小穴もあり、間仕切り施設と考えられる。南東壁下南隅寄りに、 1.5×0.7 mの楕円形を呈する土手状縁部があり、その中に 50×40 cm・ 50×30 cmの半円形を呈する穴が並び、それ以外の小穴も合わせて4本ある。南隅には扁平な台石がある。炉址は調査範囲内では検出されなかった。

遺物 出土量はきわめて少なく、甕、打製石斧・横刃型石器・大型粗製石匙などがあり、石器は先行する時期の混入品と考えられる。

住居址形態・出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

⑦ 85号住居址（挿図89・90、第47・48・103・104・116図）

遺構 縄文時代の土坑33・34・48を切る。上面が若干削平されているが、全体を調査した。3.8×



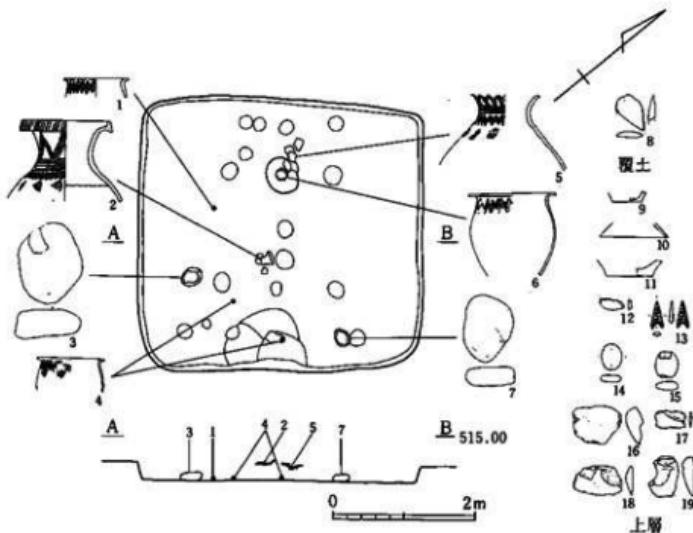
- 1 黒色粘質土（炭混じり）
- 2 黒褐色粘質土（炭混じり）
- 3 棕褐色粘質土（炭・ローム混じり）
- 4 ローム（褐色粘質土混じり）
- 5 棕褐色粘質土（多少の焼土・炭混じり）
- 6 褐色粘質土（焼土・炭混じり）
- 7 黄褐色土

挿図89 85号住居址

4.0mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN47°Wを示す。壁高は26~21cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、多少凹凸があるがほぼ水平で、全面がたたき状の極めて堅い良好なものである。主柱穴はP1~P4で、いずれも主軸方向に細長い形状で、20×10cmくらいの割り材使用の柱が考えられる。穴の底部はつきかためたかのように堅い。P6は斜めに掘られ、P4に対する支柱穴と考えられる。炉址から入口部にかけて3ヶの浅い穴が直列し、間仕切りと考えられる。そのほかの小穴は炉址から北西壁ぎわに集中している。南西壁中央やや南隅寄りの壁直下に、斜めに掘られる小穴を伴う穴があり、入口施設と考えられる。P3の南西側とP6の南西の2ヶ所に扁平な台石がみられた。炉址は北西側主柱穴の中間に位置する炉縁石を有する土器埋設炉で、床面を42×48cmの梢円形に掘り凹めて、底部を欠く甕を用いている。周辺に焼土・炭はほとんどないが、甕の内部には炭が認められた。

遺物 出土量は少なく、その大半は上層からの出土である。壺・甕・高坏・打製石斧・有肩肩状形石器・抉入打製石庖丁・横刃型石器・石錐・磨製石斧・台石などがある。石器には、先行する時期からのまぎれ込みと考えられるものが多い。壺2点は上層からの出土であるが、埋設土器などと明確な時期差は認められない。

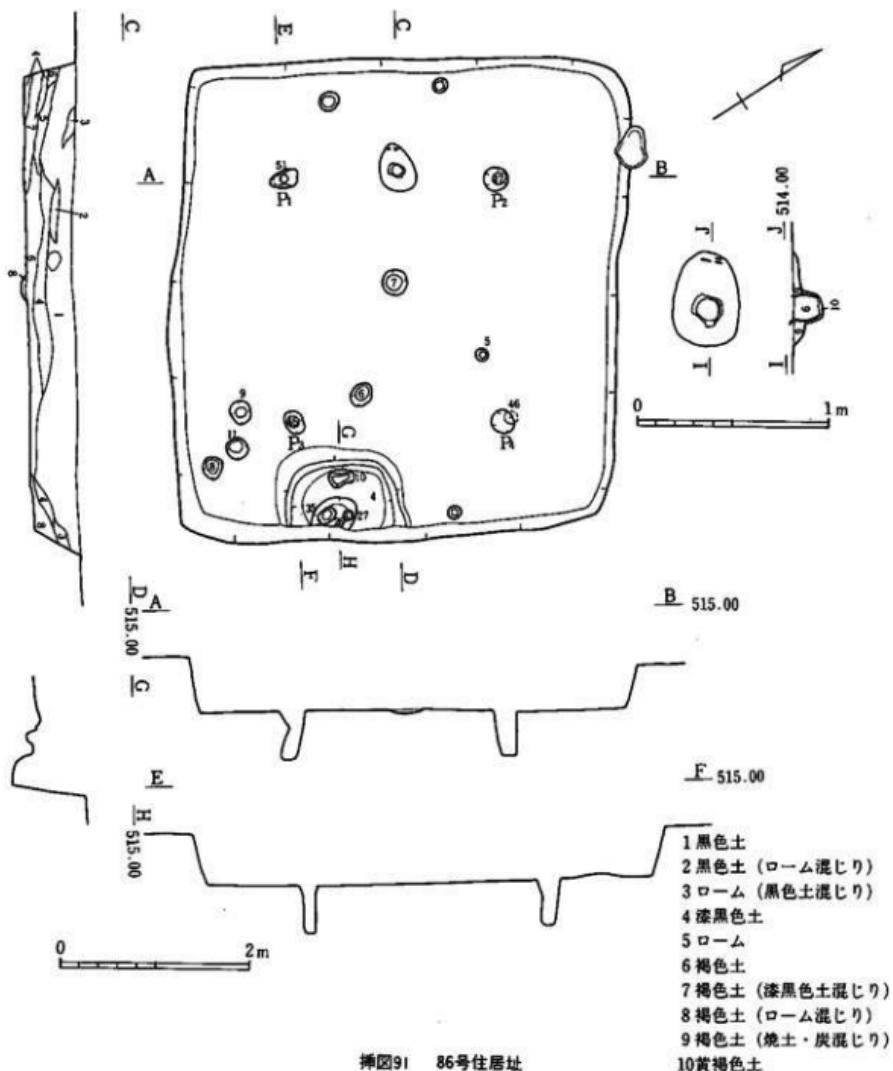
出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。



挿図90 85号住居址遺物出土状態

㊯ 86号住居址（挿図91、第49・50・104・105・117図）

造構 縄文時代の配石1、土坑38・39・40・142、ロームマウンド1を切る。全体を調査した。5.0×4.6mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN58°Wを示す。壁高は62~45cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状の極めて堅い良好なものである。主柱穴

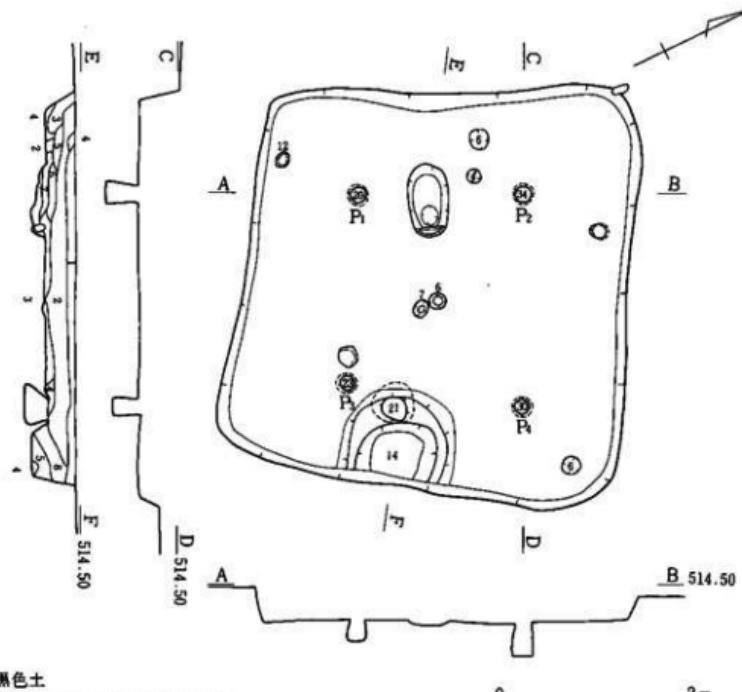


挿図91 86号住居址

はP1～P4で、主軸と直交する方向に細長い形状を成し、割り材使用の柱が考えられる。炉址から南東壁に2ヶの浅い穴が直列し、間仕切りと考えられる。南東壁南隅寄りの壁直下に、 $1.1 \times 0.7\text{m}$ の楕円形の土手状縁部を持ち、小穴を伴う穴があり、入口施設と考えられる。炉址は北東側主柱穴間のわずかに壁寄りに位置する土器埋設炉で、床面を $36 \times 48\text{cm}$ の楕円形に掘り凹め、底部を欠く甕を埋めている。焼土・炭が炉址周辺にわずかに認められたが、土器内部にはほとんどみられなかった。

遺物 石器に比べ土器の出土は少なく、いずれも上層からの出土が主体である。床面遺物はほとんどみられないが、東隅直下に挿入打製石庵丁が2点出土した。壺・甕・打製石斧・有肩石状形石・挿入打製石庵丁・横刃型石器などがある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。



- 1 黒色土
- 2 褐色土（ローム粒・炭混じり）
- 3 暗褐色土
- 4 黄褐色土
- 5 黑褐色土（ローム粒混じり）
- 6 暗褐色土（ローム粒混じり）
- 7 暗黑色土（ローム粒・炭混じり）
- 8 褐色土（ローム粒混じり）

挿図92 87号住居址

⑦ 87号住居址（挿図92、第50・105・116図）

遺構 繩文時代の配石1を切る。全体を調査した。4.1×3.9mのややゆがんだ隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN64.5°Wを示す。壁高は41~19cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状に堅くきわめて良好である。主柱穴はP1~P4で、いずれも断面形は袋状をなす。東壁下中央には、82×55cmの楕円形を呈する穴があり、26~6cmの土手状縁部と断面形が袋状をなす穴を伴い、入口施設と考えられる。P3の東側には扁平な台石がある。炉址は北西側主柱穴中間や南西主柱穴寄りに位置する地床炉で、床面を72×20cmの楕円形に掘り凹め、住居址中央部側に炉縁石を置いている。焼土・炭は余り認められなかった。

遺物 出土量はきわめて少なく、図化できる床面遺物は1点にすぎない。壺・甕・挟入打製石庖丁・横刃型石器・打製石鎌・台石がある。石器は先行する時期の混入品と考えられるものが多い。

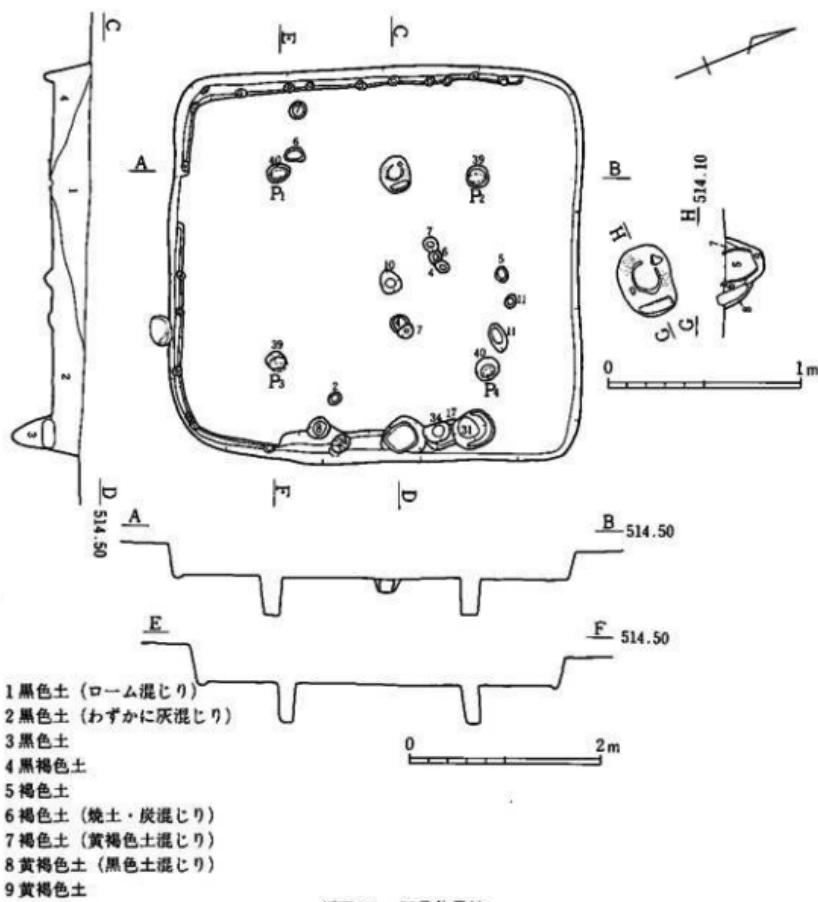
住居址形態、出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

⑧ 89号住居址（挿図93、第50・51・105図）

遺構 繩文時代前期終末の99号住居址、弥生時代後期の94号住居址、繩文時代の配石1、土坑71・141を切る。全体を調査した。4.0×4.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN65°Wを示す。壁高は39~27cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は北壁下を除く壁直下には全周し、幅6~18cm・深さ2~7cmを測る。周溝のない北壁直下は、94号住居址覆土中にはり床を認めた部分で、床面の検出がやや困難で把握できなかったとも考えられ、本来は存在した可能性もある。周溝内には10cm前後の円形もしくは楕円形で深さ10cm前後の小穴がある。斜めに掘られたものもあり、壁体を止める杭の存在が考えられる。床面は基本的にローム層まで掘られ、たたき状に堅く極めて良好であるが、94号住居址と重複する北側の一部が若干不良であった。主柱穴はP1~P4で、いずれも主軸に直交する方向で細長い形状をなし、16×8cmくらいの割り材使用の柱が考えられる。炉址から東壁方向に2ヶの浅い穴が直列し、間仕切りと考えられる。東壁北東隅寄りの壁直下に、44×36cm・28×20cmの楕円形を呈し深さ30cm余りの穴が2ヶ並び、南わきに扁平な台石があり、入口施設と考えられる。台石の下は深さ41cmの穴となり、穴を埋めもどして石を置いたと考えられ、入口施設が作り直されている可能性が強い。東壁下中央には斜めに掘られる穴があり、支柱穴と考えられる。炉址は西側主柱穴の中間に位置する炉縁石を有する土器埋設炉で、床面を36×30cmの楕円形に掘り凹め、口縁部のほとんどと底部を欠く甕を用いている。炉址周辺には焼土・炭がかなり認められた。

遺物 出土量は少ない。壺・甕・高坏・打製石斧・有肩肩状形石器・横刃型石器・台石などがある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。



挿図93 89号住居址

② 90号住居址 (挿図94、第51・117図)

遺構 縄文時代の土坑79・80を切る。南側の大部分が用地外のため、北隅と北西壁・北東壁の一部を検出したのみで、わずかな調査にとどまった。規模・平面形・主軸方向とも不明な竪穴住居址である。壁高は4cmときわめて浅く、緩やかな壁面をなす。床面は黄褐色土層まで掘られ、全体に軟弱であった。主柱穴、炉址等の諸施設は検出できなかった。床面上には炭が散在し、火事の住居址である。壁高、床面の状態など、通常の該期住居址とは異なっており、部分的な調査にとどまったため断定できないが、一般住居とは異なる特殊な遺構とも考えられる。

遺物 遺構に直接結び付くと考えられる遺物は、床面上から出土した外来系台付甕のみである。出土遺物から弥生時代後期と考えられるが、時期確定はできない。

◎ 91号住居址（挿図95、第51・106図）

遺構 縄文時代の配石2、土坑77・90・

94・95・96・99を切る。全体を調査した。

4.1×4.2mの隅丸方形の竪穴住居址で、

主軸方向はN65.5°Wを示す。壁高は

33~22cmを測り、緩やかな壁面をなす。

床面は全面ローム層まで掘られ、壁下か

ら24~8cmは掘り込み面をそのまま床面

としているが、住居址中央部は16~6cm

さらに掘り下げ、その上に黒色土にロー

ムが混じる土を埋め、ロームによるはり

床をしている。全体にたたき状に堅く良

好である。主柱穴はP1~P4で、P2・

P3は断面形が袋状をなす。北西壁ぎわ

には4ヶの小穴が直列し、中央の1ヶの

みが深いが、相互に関連する穴と考えら

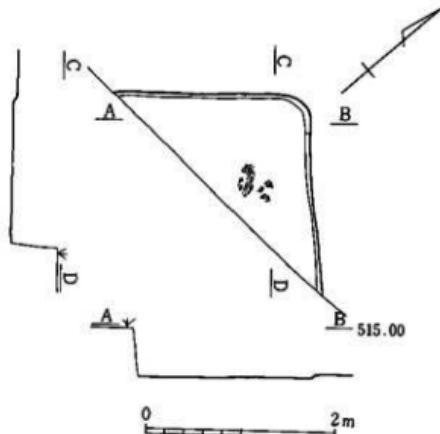
れる。南東壁下中央部に、1.4×0.8mの

半円形を呈する土手状縁部と4ヶの小穴を伴う96×66cmの精円形の穴があり、入口施設と考えられる。炉址は北西側主柱穴中間やや壁寄りに位置する土器埋設炉で、床面を58×52cmの円形に掘り凹め、底部を欠く甕を用いている。焼土・炭はほとんど認められなかった。

遺物 出土量は少なく、炉址埋設土器を除けば直接遺構に関連すると考えられるものはない。

甕、打製石斧・有肩肩状形石器・横刃型石器がある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

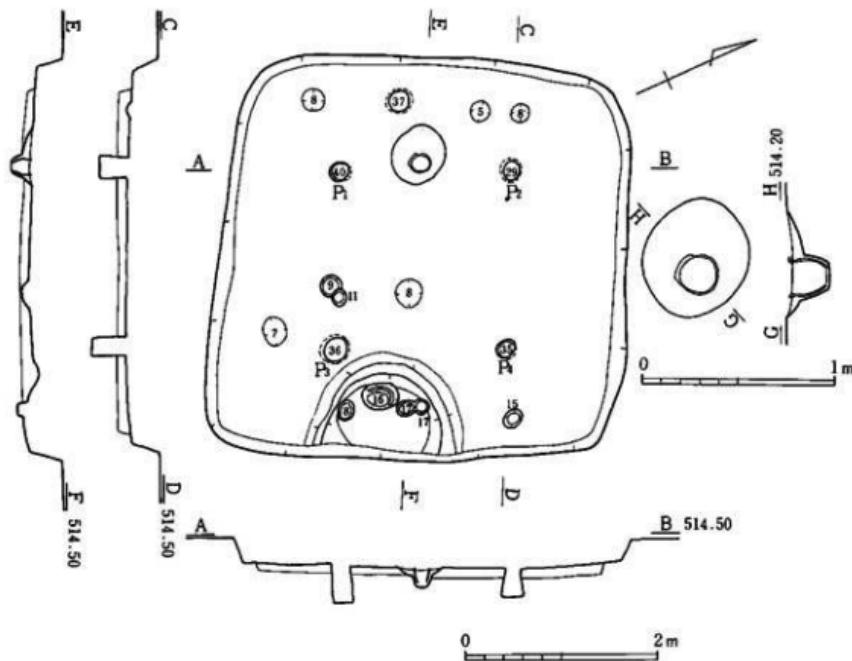


挿図94 90号住居址

◎ 93号住居址（挿図96、第51・52・106・107図）

遺構 弥生時代後期終末の95号住居址に切られ、縄文時代の配石2を切る。全体を調査した。

3.5×3.9mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN122.5°Eを示す。壁高は34~21cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状に堅くわめて良好である。主柱穴はP1~P4で、いずれも断面形が袋状をなす。炉址から入口部にかけて4ヶの浅い小穴があり、間仕切りと考えられる。そのほかの小穴は、北隅付近・炉址付近・南東壁下に多い。北西壁下中央部には、土手状縁部と小穴を伴う80×40cmの不整合台形を呈する穴があり、入口施設と考えられる。炉址は炉緑石を有する土器埋設炉で、南東側主柱穴中間のやや東主柱穴寄りに位置する床面を直径44cmの円形に掘り凹め、底部を欠く甕を埋め、南西脇には、口縁部が個体残る甕がみられた。焼土・炭はほとんど認められなかった。



挿図95 91号住居址

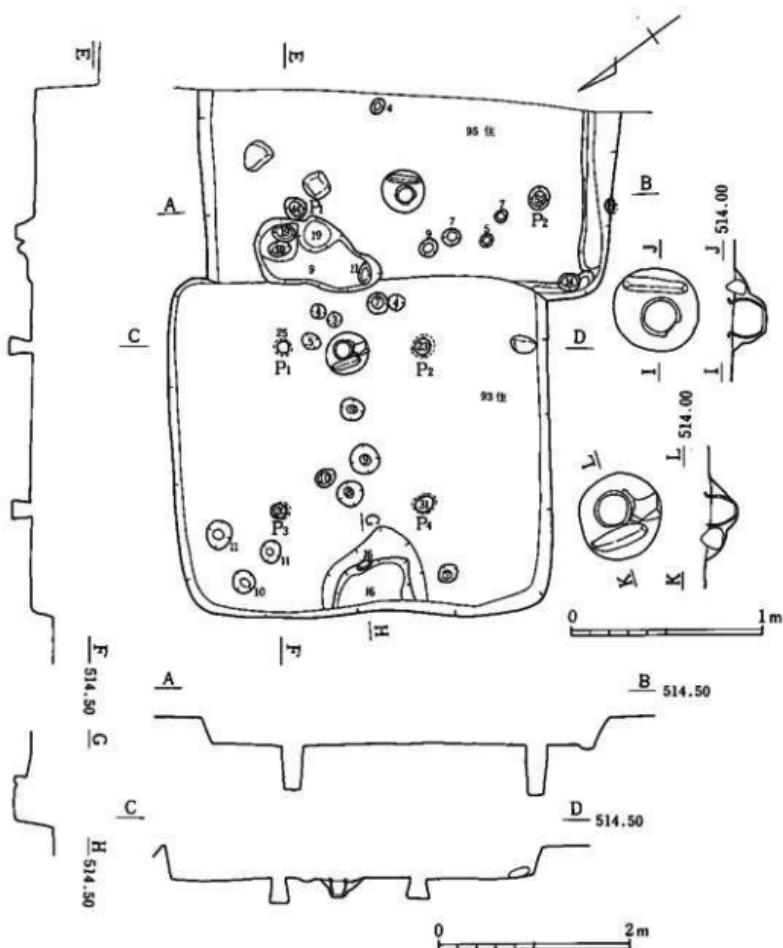
遺物 石器の出土量は比較的多いが、遺構に直接関係すると考えられるものは少ない。壺・甕・高坏、打製石斧・有肩肩状形石器・抉入打製石庖丁・磨製石斧・石錐があり、有肩肩状形石器は北隅の壁ぎわ上層の検出面から出土している。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

㉙ 94号住居址 (挿図97、第52・53・107図)

遺構 桶文時代の配石1、土坑140を切り、弥生時代後期の89号住居址に切られる。住居址中央部に信南交通KKの廃油焼却施設のコンクリート基礎があり、床面上まで擾乱を受け、床面そのものは残存したが、それをはがして調査するのは断念した。そのため、住居址全体の半分程を調査した。4.1×4.1mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN58°Wを示す。覆土中には径30cm前後を主体に多くの礫が出土した。壁高は89号住居址床面から18~18cm、それ以外で51~38cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。周溝は東隅部分を除く壁直下に周溝し、幅6~14cm・深さ4~15cmを測る。周溝内には10cm前後の楕円形で、深さ5~19cmの小穴があり、壁体を止める杭の存在が

考えられる。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状に堅くきわめて良好である。主柱穴は北西側のP1・P2の2ヶが確認でき、主軸方向に細長いプランを呈し、 14×8 cmくらいの割り材使用の柱が考えられる。南東壁中央東隅寄り直下が入口施設で、南隅寄りには扁平な台石がある。入口施設の大半が未調査部のため全体の構造などは不明である。炉址は北西側主柱穴の中間にある炉縁石を有する土器埋設炉で、床面を 64×52 cmの楕円形に掘り凹め、さらに土器を埋める部分



摺図96 93号・95号住居址

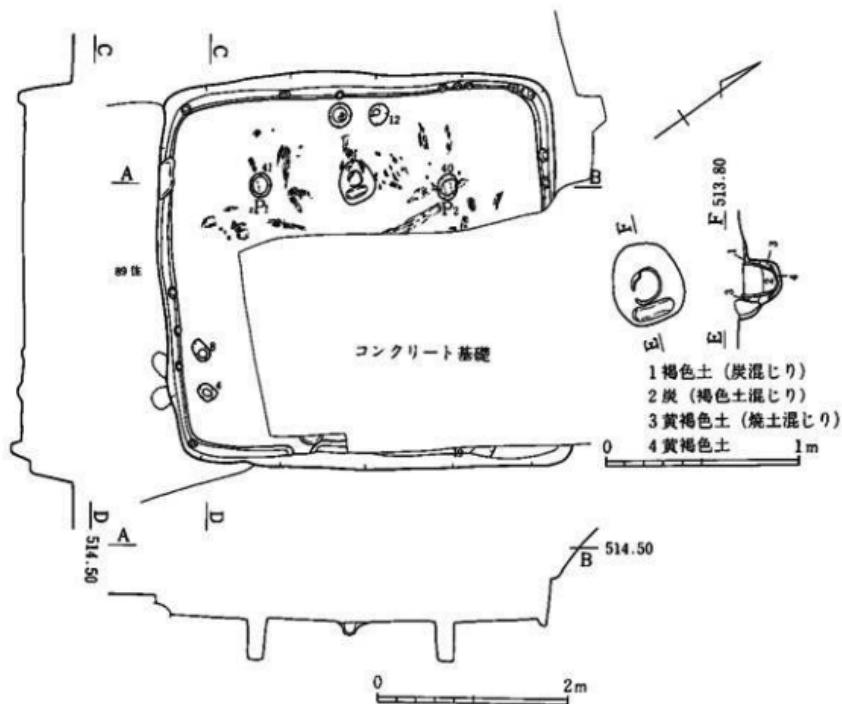
を深くして、口縁部と底部を欠く甕を用い、底には別個体の甕破片を置いている。周辺には焼土・炭がわずかに認められた。北西側の床面上には炭化物・焼土の散布が認められ、なかには柱材と考えられるものもあり、火事の住居址である。

遺物 住居址全体を調査しておらず、全体量は不明であるが、床面遺物はほとんどない。壺、打製石斧・台石があり、打製石斧は先行する時期からのまぎれこみも考えられる。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

㊭ 95号住居址（挿図96・98、第53・106・107図）

遺構 弥生時代後期後半の93号住居址を切る。南東側が現道路にかかるため、半分程度の調査にとどまった。主軸と直交する方向の長さが4.3mを測る隅丸の竪穴住居址で、主軸方向はN55°Wを示す。壁高は27~32cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。南西壁直下には、幅22~8cm・深さ5~3cmを測る周溝が認められた。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状に堅い。主柱穴は



挿図97 94号住居址

P1・P2を確認し、道路部分に存在が予測される2本を合わせ、4本主柱穴と考えられる。そのほかの穴は炉址と北西壁の間に多く、この東側には1.3×0.6mの不整格円形を呈し小穴を伴う穴がある。炉址から北西壁にかけて2個の扁平な石があり、台石と考えられる。炉址は北西側主柱穴中間のやや住居中央寄りにある炉縁石を有する土器埋設炉で、床面を直径44cmの円形に掘り凹め、底の欠ける甕を埋めている。焼土・炭はほとんど認められなかった。北東側を中心とする床面上には炭・焼土が散在し、火事の住居址である。

遺物 出土遺物は少ないが、すべて床面もしくはその直上から出土している。壺・甕・高坏・抉入打製石庖丁・横刃型石器・台石がある。

出土遺物から弥生時代後期終末に比定される。

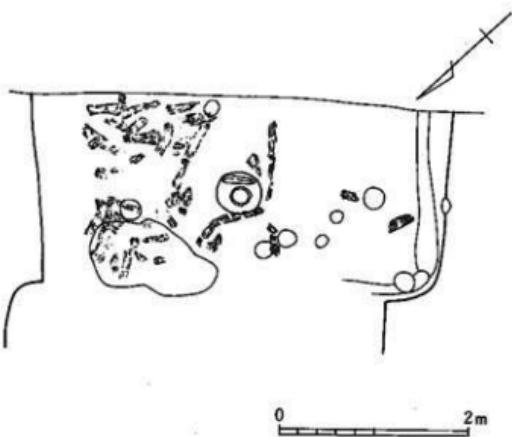
弥生時代後期後半の93号住居址と切り合い関係にあり、それぞれの土器の型式差が認められ、今後研究の一材料となる住居址であろう。

④ 96号住居址（挿図99、第96図）

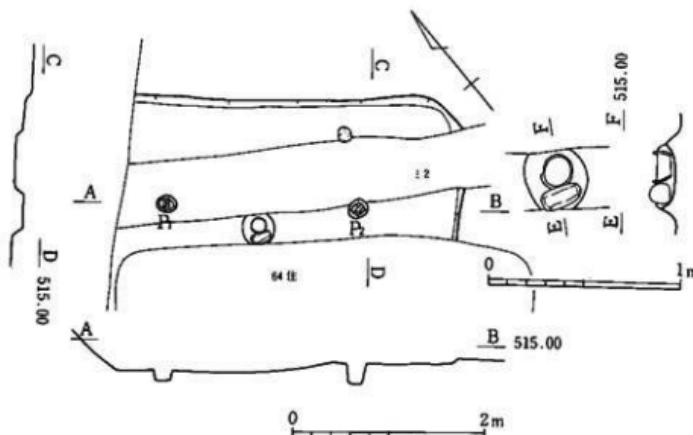
遺構 弥生時代後期の64号住居址と時期不明の溝址2に切られ、北西側が工事用道路下のため、一部の調査にとどまった。規模・平面形等は不明な竪穴住居址で、主軸方向は推定でN41°Eを示す。壁高は水田の造成で上面が削平されたために浅く9~5cmを測り、緩やかな壁面をなす。床面は全面ローム層まで掘られ、たたき状に堅くきわめて良好である。主柱穴はP1・P2で、64号住居址に切られる未調査部に存在が予測される2本を合わせ、4本主柱穴と考えられる。北東壁ぎわには焼土が認められた。炉址は北西側主柱穴中間のやや住居中央寄りにあり、北東側を溝址2に、南北側を64号住居址に切られるが、炉縁石を有する土器埋設炉で、床面を直径32cmの円形に掘り凹め、口縁部と底部を欠く甕を埋めている。

遺物 出土量はきわめて少なく、図示できる遺物は埋設土器の甕1点のみである。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。



挿図98 95号住居址炭分布図



挿図99 96号住居址

㊂ 97号住居址（挿図100、第54・107・108図）

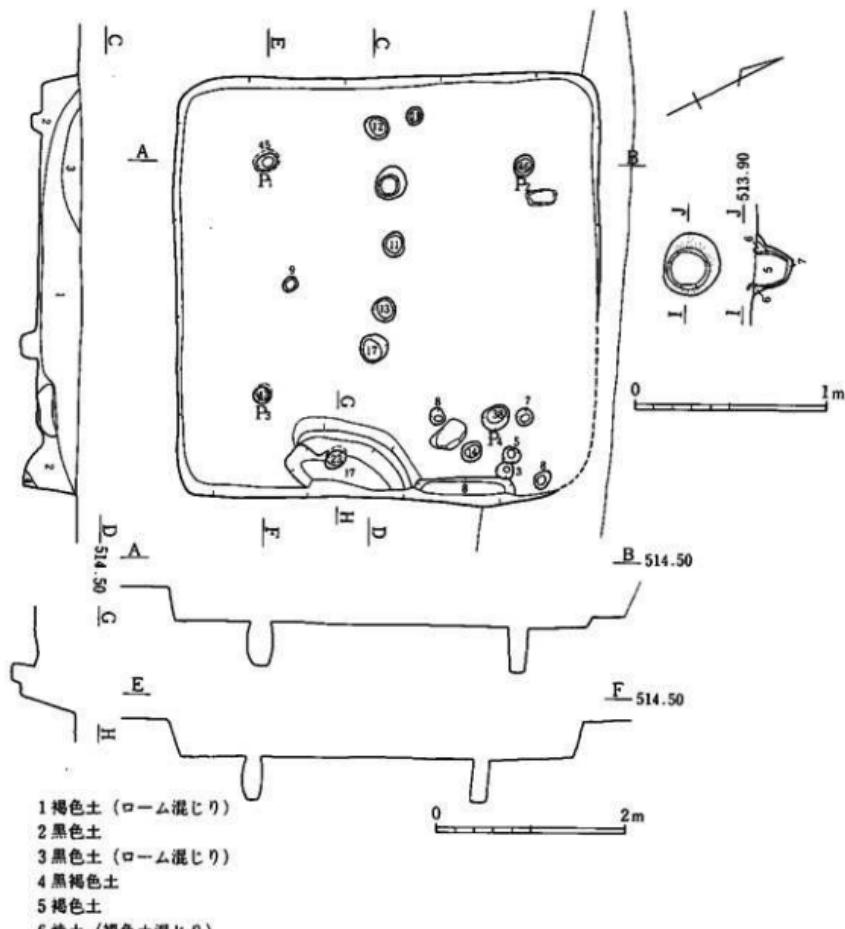
遺構 繩文時代の土坑152を切る。北壁は水田の造成のために削平されて確認できない部分もあるが、ほぼ全体を調査した。4.3×4.4mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN63°Wを示す。覆土はレンズ状の堆積をなし、10~50cmの石が多く出土した。壁高は削平された北壁以外では40~30cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面はローム層まで掘られ、全面がたたき状にきわめて堅く良好である。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向に細長い形状で、割り材使用の柱を考えられる。炉址から東壁にかけて3ヶの浅い穴が直列し、間仕切りと考えられる。そのほかの小穴は北東隅付近に多い。東壁中央やや南東隅寄りに、1.3×0.5mの楕円形を呈し、土手状縁部を持ち斜めに掘られる小穴を伴う穴があり、入口施設と考えられる。P2の東側に据え置き型の砥石、P4と入口部の間に台石がある。炉址は西側主柱穴の中間にある土器埋設炉で、床面を64×58cmの楕円形に掘り凹め、底部を欠く甕を用いている。炉址内から焼土・炭の出土量はあまり多くなかった。

遺物 出土量はきわめて少なく、床面遺物はほとんどみられなかった。壺・甕・打製石斧・抉入打製石庖丁・砥石・台石がある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

㊂ 98号住居址（挿図101、第54・55・108図）

遺構 暗渠1・性格不明の穴に切られ、北西壁と南西壁の上面が、近世以降の搅乱を受けて



挿図100 97号住居址

いる。北側は用地等の関係から、全体の行程を調査した。用地内において未掘部分が生じてしまった点は遺憾であった。3.7×3.8mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN135°Wを示す。壁高は擾乱を受けた部分で12~10cm、それ以外で46~40cmを測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面は全面黄色砂土層まで掘られ、平坦でたたき状に堅くきわめて良好である。主柱穴はP1~P3を検出し、未調査部の1ヶを含め4本主柱穴と考えられる。炉址から北東側へ2ヶの小穴が並び、間仕切りと考えられる。南西壁直下に3本の小穴が並ぶ。炉址は南西側主柱穴の中間にある土器埋設炉で、穴と暗渠に切られ、甕の破片がわずかに残ったのみで、きわめて残存状態が悪いものであ

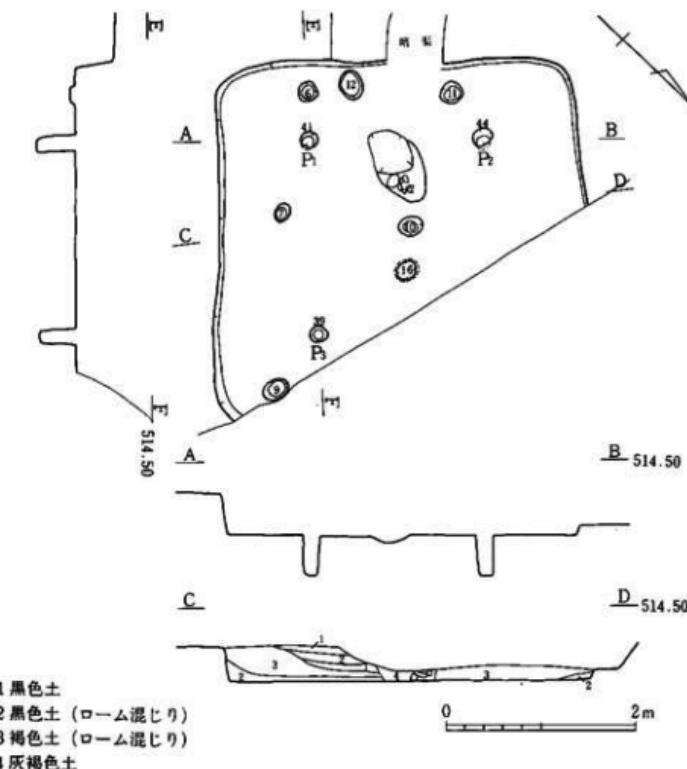
る。

遺物 出土量は少ないが、図化個体はすべて床面遺物である。甕・有肩肩状形石器・抉入打製石庖丁がある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

◎ 100号住居址（挿図102、第55・108・109図）

遺構 時期不明の暗渠 1 に切られ、北西側は近世以降の擾乱を受けている。3.9×3.7mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向は N40°Wを示す。壁高は擾乱を受けない部分では61~44cmを測り、やや緩やかな壁面をなす。擾乱を受ける北西側部分ではほとんど残存せず、2~3cmを測る



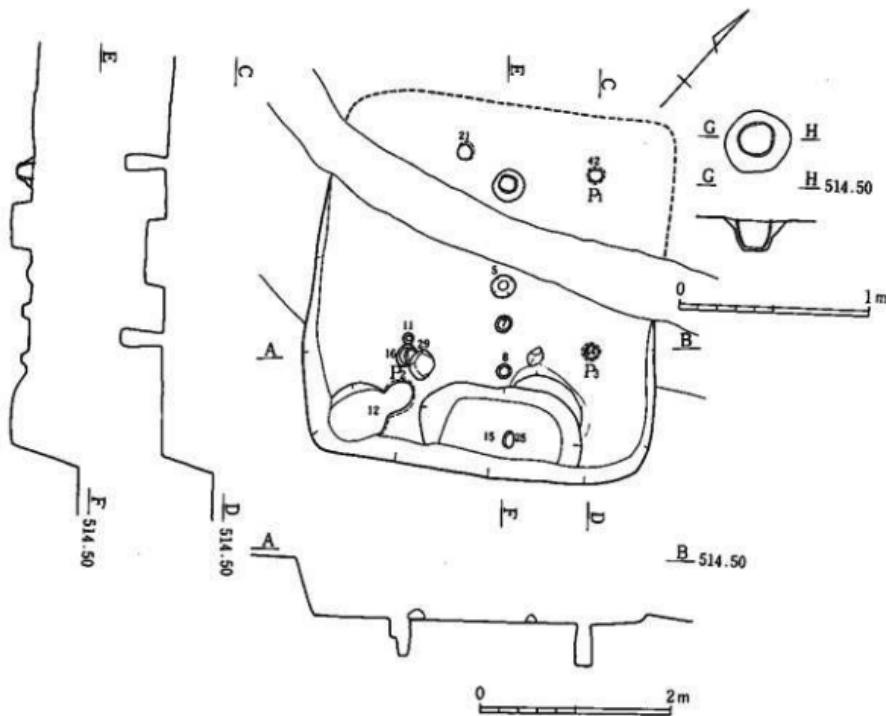
挿図101 98号住居址

のみである。床面は全面黄色砂土層まで掘られ、たたき状に堅く良好であるが、暗渠1より北東側の部分は軟かく、やや状態が悪い。主柱穴はP1～P3で、残り1本は暗渠1に切られる部分に位置すると考えられる。炉址から入口部にかけて3ヶの浅い穴が直列し、間仕切りと考えられる。南隅にはひさご形の穴がある。南西壁下中央部は、北側に土手状縁部をもち、 1.7×0.5 mの楕円形を呈する穴があり、入口施設と考えられる。P2の東脇には扁平な台石がある。

遺物 出土量は多くないが、入口部から東隅付近に集中する。壺・甕・高坏・打製石斧・有肩盾状形石器・礎器・台石がある。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される。

(山下誠一)



挿図102 100号住居址

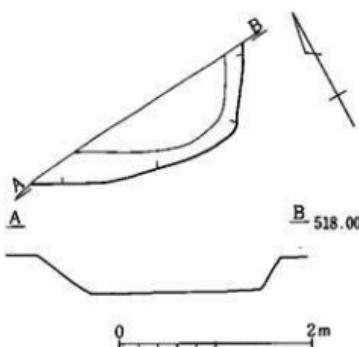
(3) 古墳時代

① 59号住居址（挿図103、第56・109図）

遺構 弥生時代後期の円形周溝墓 1 の北東 3 m にあり、毛賀沢川付替工事より発見され、部分的な調査に終わった。残部の形態からみると隅丸方形の竪穴住居址と考えられる。壁高 40~34 cm を測り、やや緩やかな壁面をなす。床面は黄褐色砂土に掘りこみ堅い。

遺物 土師器胴部片と磨製石鎌の未成品がある。

調査範囲も狭く、出土遺物も少ないため時期の断定はできないが、古墳時代後期の住居址と考えられる。



挿図103 59号住居址

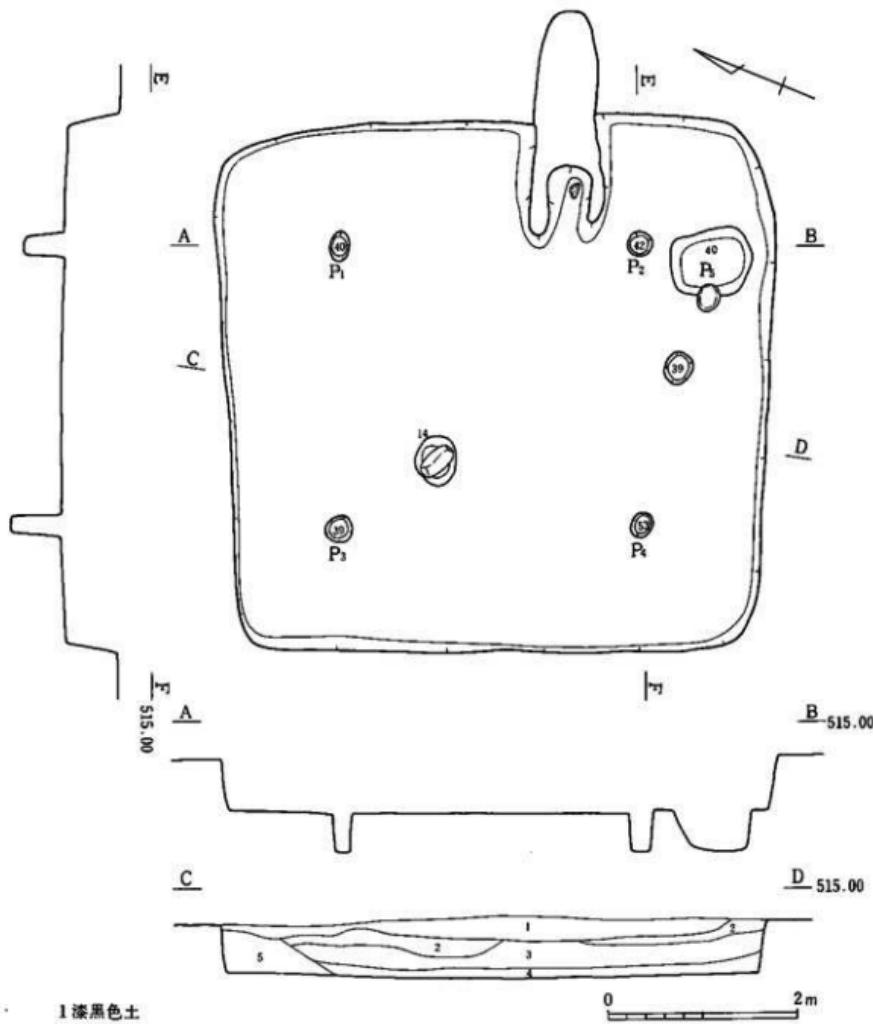
② 70号住居址（挿図104・105、第56・57・109・116図）

遺構 縄文時代の67号住居址・土坑151、弥生時代後期の71号・73号住居址を切る。完掘した。5.5×5.7 m の隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向は N82°E を示す。覆土は深く、上層は漆黒土、中層は黄褐色土となり、この中間にレンズ状に黒色土が入り、下層は漆黒土となる。北西壁ぎわの断面は褐色土が三角形状に入りこみ、いずれもローム粒が混じる。壁高は 60~50 cm を測り、ほぼ垂直の壁面をなす。床面はローム層に掘りこみ堅い。主柱穴は P 1 ~ P 4 の 4 ケで、いずれも深い。P 1・P 4 の中間壁寄りに 1 ケの穴があり、中に径 40 cm の石が入る。P 5 は P 2 の南側にあり、95×65 cm の深さ 45 cm の隅丸方形の穴で炭・灰が堆積し、灰だめ的な施設と考えられる。この南側の縁には扁平な台石がある。北隅から中央部までの 3.2×1.8 m の不規則な長方形の間に、径 20~60 cm の川原石をぎっしり置かれたかのように検出した。住居廃絶後のものと考えられ、祭祀的意味を持つ可能性があるが断定できない。石の間よりの遺物の出土はない。カマドは東壁南東隅寄りに位置する石芯粘土カマドである。両袖に石を 3 個ずつ用い、壁外に煙道が延びる。

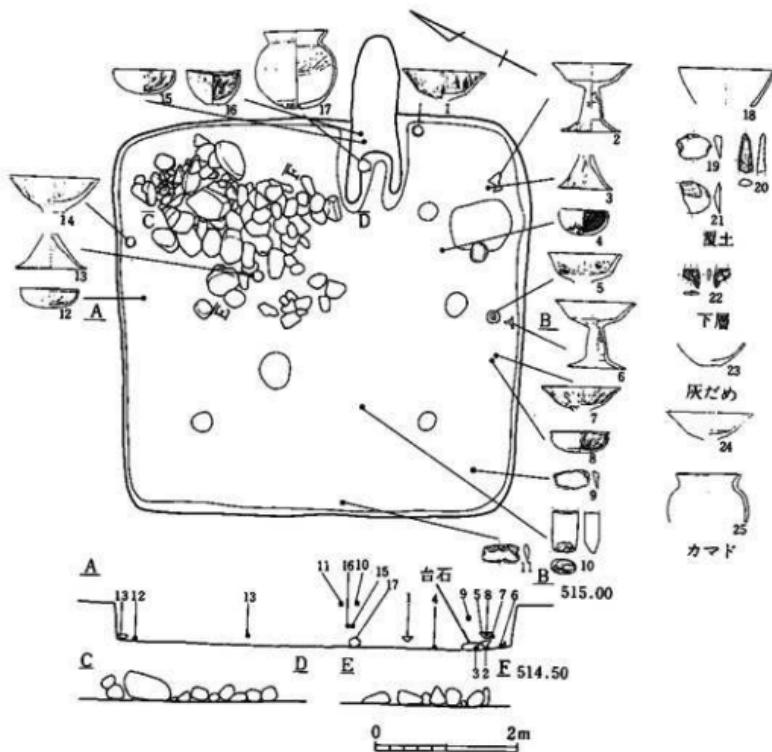
遺物 出土量は多く、カマド内、東壁ぎわの床面上から多く出土した。ほぼ一括性の高い良好な資料である。土師器甕・壺・高壺があり、壺・高壺の出土量に比べ、甕が少ない。ほかに先行する時期からの混入品の、高壺・打製石斧・抉入打製石庵丁・横刃型石器・打製石鎌などがあり、これらは上層・覆土からの出土が多い。

出土遺物等から古墳時代後期後半に位置づけられる住居址である。

（佐藤勝信）



押岡104 70号住居址



挿図105 70号住居址遺物出土状態

③ 88号住居址（挿図107～109、第57～59・109図）

遺構 縄文時代の配石1、土坑142・143・153を切り、中世以降の小穴に切られるが、ほぼ全体を調査した。5.5×5.3mの隅丸方形の竪穴住居址で、主軸方向はN67°Wを示す。壁高は62~37cmを測り、床面から20~30cmがほぼ垂直に立ち上がり、稜を持ってやや緩やかとなる壁面をなす。当初の掘り込みは垂直であったが、住居址が廃棄され埋没する過程で上部の壁面がくずれた結果と考えられるが、壁面構造による可能性もある。周溝はカマド設置部分を除く壁直下に全周し、幅10~26cm・深さ6~11cmを測る。南東隅・北東隅には、円形もしくは楕円形の、周溝部よりやや深い穴状をなす部分を認めた。床面は黄色砂土層まで掘られ、平坦でたたき状に堅く良好である。主柱穴はP1~P4で、主軸に直交する方向で細長い形状で、割り材使用の柱を考えられる。南西隅壁直下には、68×68cmの円形を呈し深さ49cmを測るP5、東壁北東寄り直下には90×90cm

の円形を呈し深さ50cmを測るP6があり、貯蔵穴と考えられる。東壁下には中央には、斜めに掘られるP8と椭円形を呈する小穴のP7があり、入口施設と考えられる。南壁側で2箇所、北壁側で2箇所、周溝から住居址中心部へ延びる小溝があり、断面形は前者がV字形、後者がU字形をなし、主柱穴を結んだ線上付近まで認められた。間仕切り施設と考えられる。ほかに、P9～P11は土層状況から住居址より新しい時期のものである。カマドは西壁中央やや北西隅寄りにある石芯粘土カマドで、左袖が3個、右袖が4個の石を用い、總体とすれば、きわめて残存状態が良好である。右袖は石を2重に組んだ部分を認めた。煙道は壁外に1.6m程を確認した。たき口部の焼土が少ないので比して壁内の煙道部に多い。なお、北側を中心とする床面上や覆土中に炭の散布が認められ、火事の住居址である。

遺物 出土量は多く、ほとんどが床面もしくはその直上から出土し、火事の住居址ということもあり、一括性の高い良好な資料である。土器を主体とするが、南壁・北壁の中央部直下に砥石が1点ずつ出土した。壺・甕・鉢・坏・高坏、砥石・打製石斧があり、打製石斧は先行する時期からのまぎれ込みである。

出土遺物から古墳時代後期後半に比定される。

④ 92号住居址（挿図106・110、第59・60・109図）

遺構 繩文時代の

土坑93・101を切る。

南側が用地外のため、
半分程を調査した。

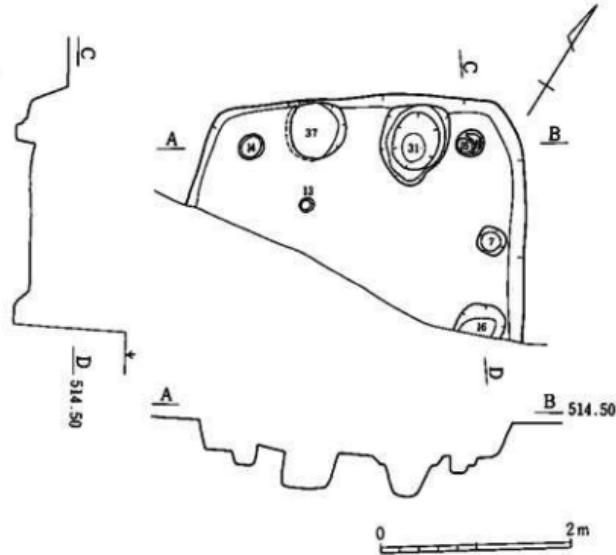
北東・南西方向の長
さが3.4mを測る隅
丸の竪穴住居址であ
る。壁高は38～33cm
を測り、やや緩やか

な壁面をなす。床面
は全面ローム層まで

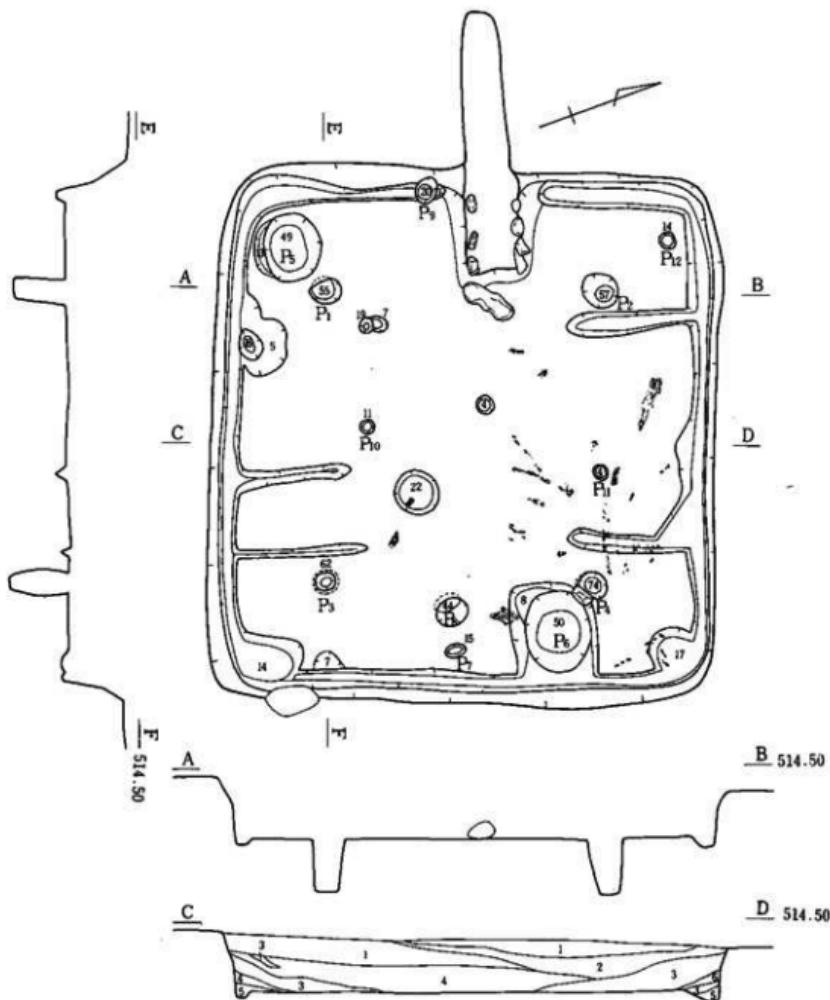
掘られ、軟らかく状
態は悪い。壁ぎわに

沿って大小の穴が6
本認められたが、性

格等不明である。主
柱穴等の施設は確認
できなかった。床面

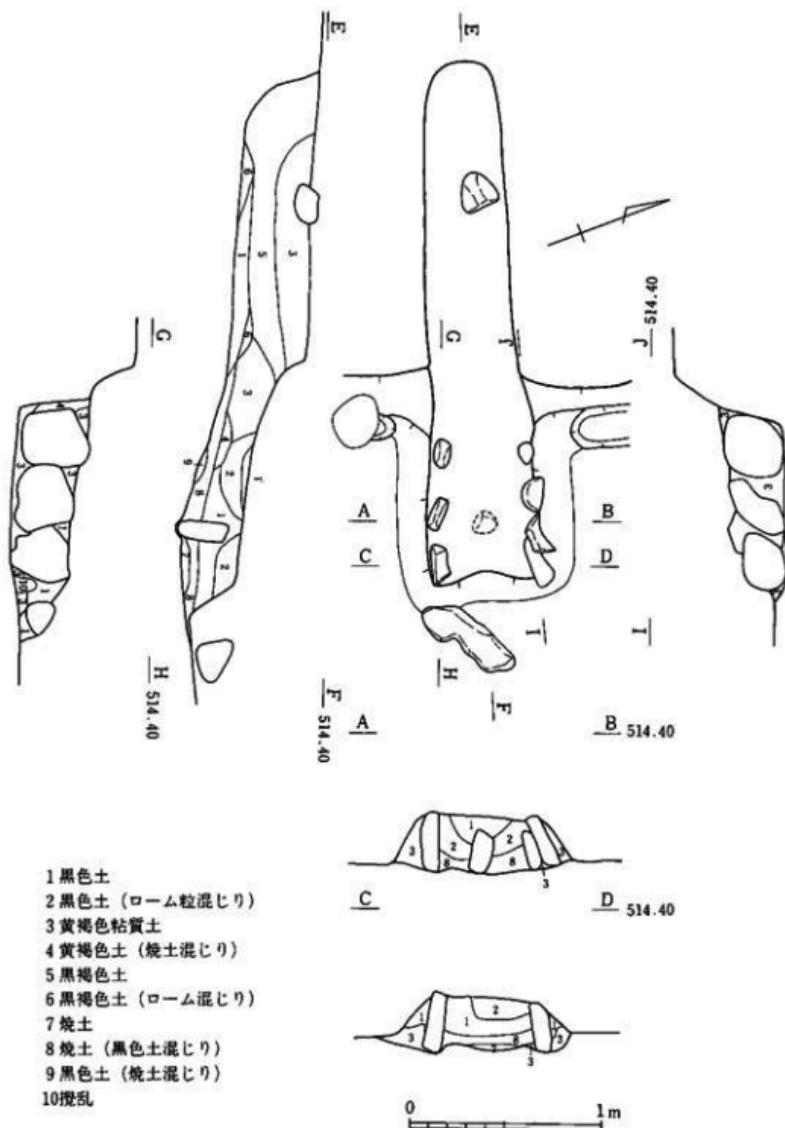


挿図106 92号住居址

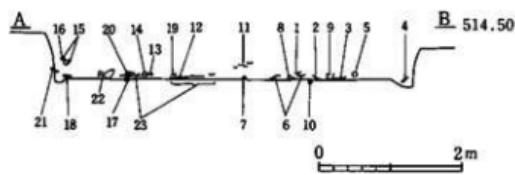
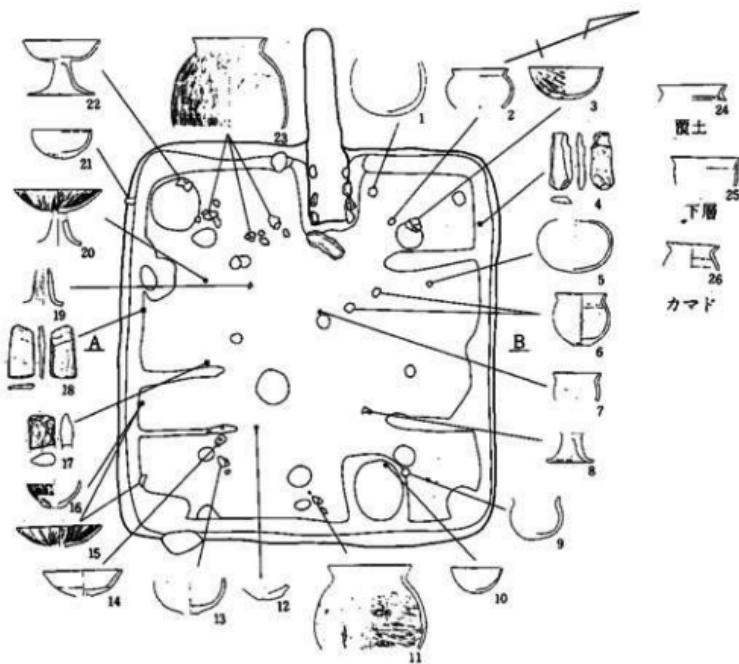


- 1 黒色土
 2 黒色土（褐色土混じり）
 3 漆黒色土
 4 褐色土（ローム混じり）
 5 漆黒色土（ローム混じり）
 6 褐色土（漆黒色土混じり）

摺図107 88号住居址



地図108 88号住居址カマド

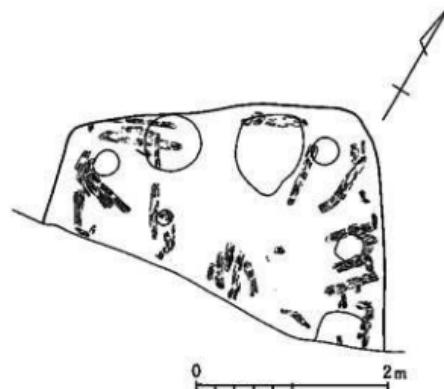


挿図109 88号住居址遺物出土状態

上から覆土中に炭・焼土がかなり認められ、火事の住居址である。覆土中に炭・焼土とともに、10~40cmくらいの礫が多く入っていた。

遺物 出土量は多く、土器・石器があり、石器は先行する時期からの混入品と考えられる。火事の住居址ということもあり、一括りの高い良好な資料である。しかし、遺構全体を調査しておらず、遺構に伴う全遺物内容を示すものでもない。壺・甕・鉢・环・高环、打製石斧・磨製石斧・石錐がある。

出土遺物から古墳時代後期前半に比定される。
(山下誠一)



挿図110 92号住居址炭分布図

2) 土坑

土坑としてとらえたものは、155基を数える。調査時に土坑としてとらえたものは、その径が概ね50cm以上の平面形を呈するものとし、それ以下のものを柱穴とした。調査範囲内での分布状況として、溝跡3の東側部分に集中し、その部分での重複が著しいため、遺物の出土したもの、平面形・掘り形などしっかりするものを主体としてとらえたため、それ以外にも土坑として把握すべきものもあり、問題を残す結果となった。遺構平面図は土坑と把握できなかったものも含め、振り上げ後の状況ですべてを掲載した。

検出面・土層などの調査時の状況及び出土遺物から時期を判断した。柱穴は弥生時代以降に属するものがほとんどを占め、土坑はほとんどが縄文時代と考えられる。

(1) 縄文時代

① 土坑4 (挿図111)

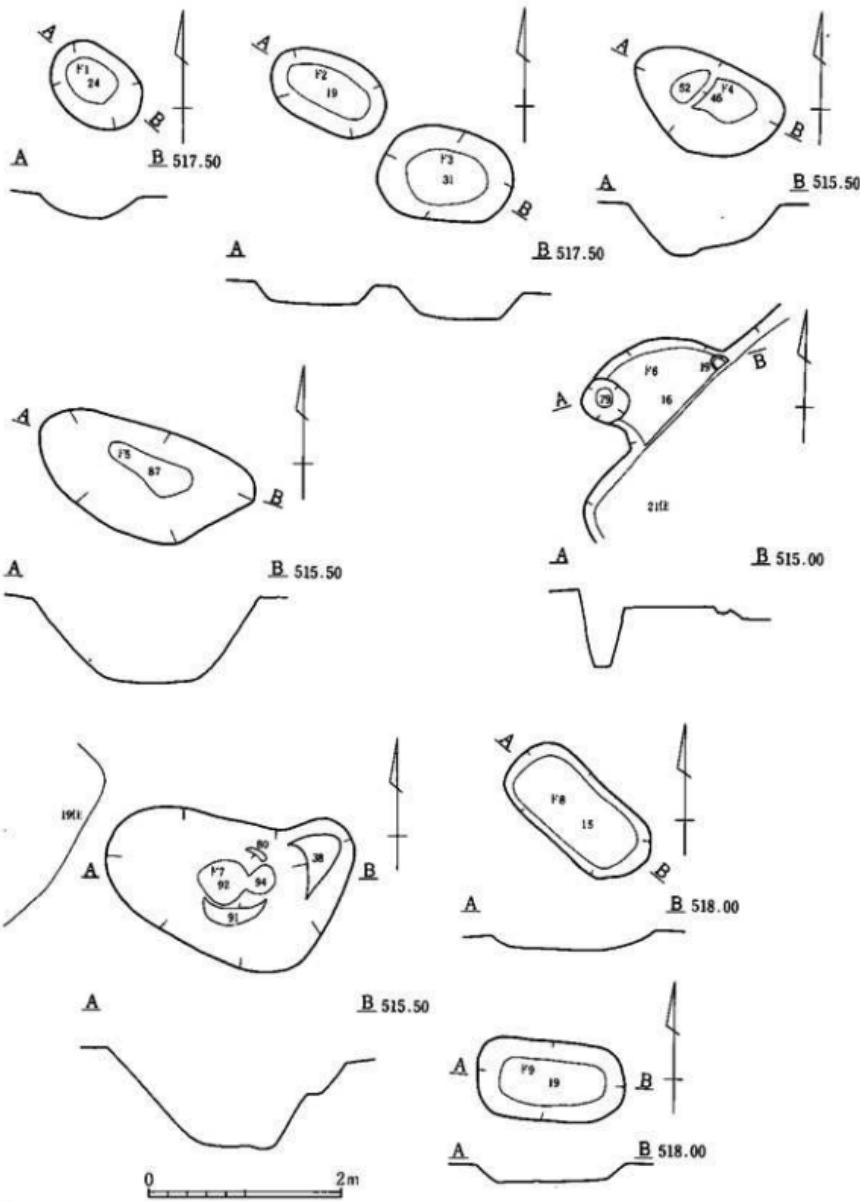
遺構 160×96cmのややゆがんだ楕円形をなし、内部は2段となり深さ46cmと52cmを測り、ローム層に至る。

遺物がなく、時期決定はできないが、形態・土層等から縄文時代と考えられる。

② 土坑5 (挿図111)

遺構 230×116cmの不整形の楕円形をなす。深さは87cmと深く、ローム層に掘りこむ。

出土遺物がなく、時代決定できないが、土層等から縄文時代時代に位置づくと考えられる。



插図III 土坑1・2・3・4・5・6・7・8・9

③ 土坑6（挿図111）

遺構 弥生時代後期終末の21号住居址に切られるが、ほぼ完掘する。長軸の長さ126cmのゆがんだ楕円形をなし、ローム層に16cm掘りこみ、南西隅に径48cm・深さ79cmの穴と、北東隅口径18cm・深さ19cmの穴がある。

遺物はなく、時代決定はできないが、切り合い関係・土層等から縄文時代と考えられる。

④ 土坑7（挿図111）

遺構 254×150cmの不整形圓形で、北東側に突出部をもつ。ローム層に深く掘りこみ、その中央はひさご形で深さ92・94cmを測る。南と北側に眉状の71・82cmの掘りこみとなる。

遺物はないが、形態等から縄文時代と考えられる。

⑤ 土坑10（挿図150、第61図）

遺構 350×170cmの不整形は楕円をなす。深さ52cm～81cmを測り、段をもちローム層まで至り、ゆるやかな壁面をなす。

遺物 縄文時代後期前半の土器片があり、突帯に押圧文をめぐらす。出土遺物から縄文時代後期前半の遺構である。

⑥ 土坑11（挿図148）

遺構 250×134cmの不整形圓形をなし、ローム層に緩い傾斜で掘りこまれる。深さ66cm・67cmを測り、中央に10～14cmの高さの段をもつ。

出土遺物はないが、形態等からみて縄文時代と考えられる。

⑦ 土坑12（挿図151）

遺構 弥生時代後期後半の68号住居址の南壁に切られる。204×126cmのゆがんだ隅丸形をなす。ローム層まで掘られ、深さ27cmを測り、内部に深さ56cmと、32cmの穴が東側に並ぶ。

遺物はなく、弥生時代後期の住居址に切られ、形態等の状況から縄文時代と考えられる。

⑧ 土坑13（挿図112）

遺構 縄文時代後期前半の67号住居址の東壁に接する。140×80cmのややゆがむ楕円形をなす。黒褐色砂土に14cm掘りこみ、北と北東隅に26cmと45cmの穴がつく。柱穴群の穴ともみられる。

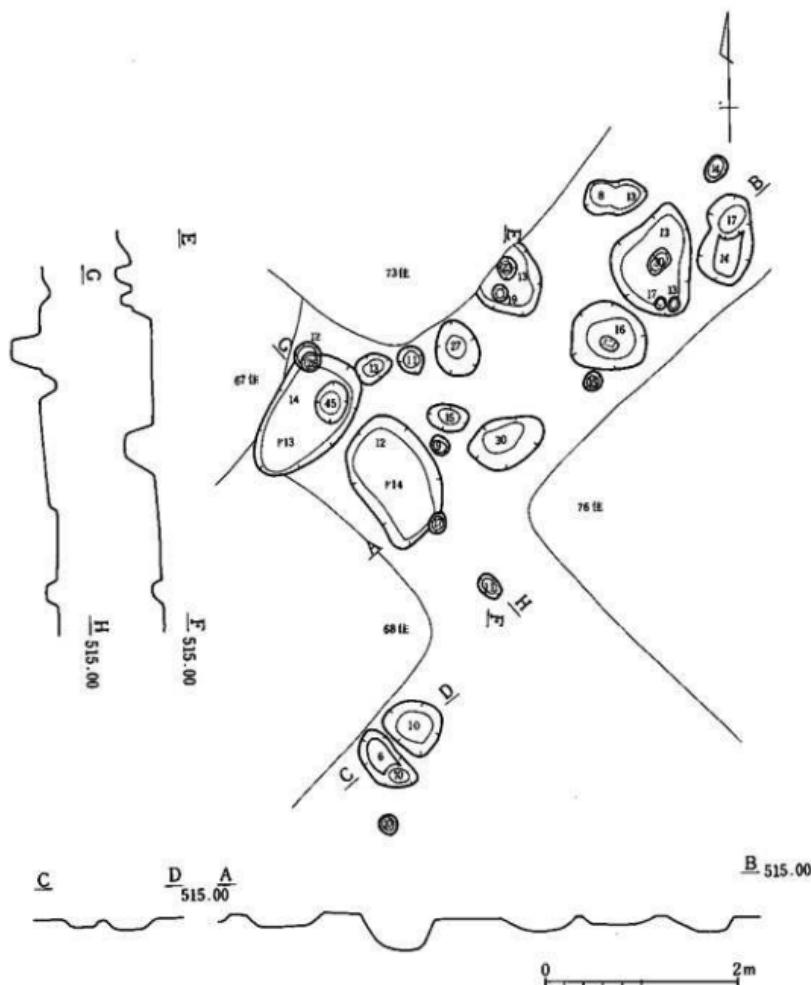
出土遺物はなく、時期の決定は困難であるが、周辺の遺構との関連等から、縄文時代と考えられる。

⑨ 土坑14（挿図112、第110図）

遺構 土坑13の南東に隣接し、120×84cmのゆがむ隅丸方形をなす。深さ12cm、黒褐色砂土に掘りこみ、覆土は黒色土である。遺物は凹石が出土したが、時代の決定はできない。

周辺遺構との関連等から縄文時代と考えられる。

（佐藤勝信）



挿図112 土坑13・14、柱穴群4

⑩ 土坑15（挿図10、第61図）

遺構 110×74cmの楕円形を呈し、深さ20cmを測り、北東側は直径35cmくらいの円形に深さ38cmと一段深くなる。断面形は逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

遺物 土器片が14点あり、縄文時代後期前半の口縁部片、無文土器片などがある。

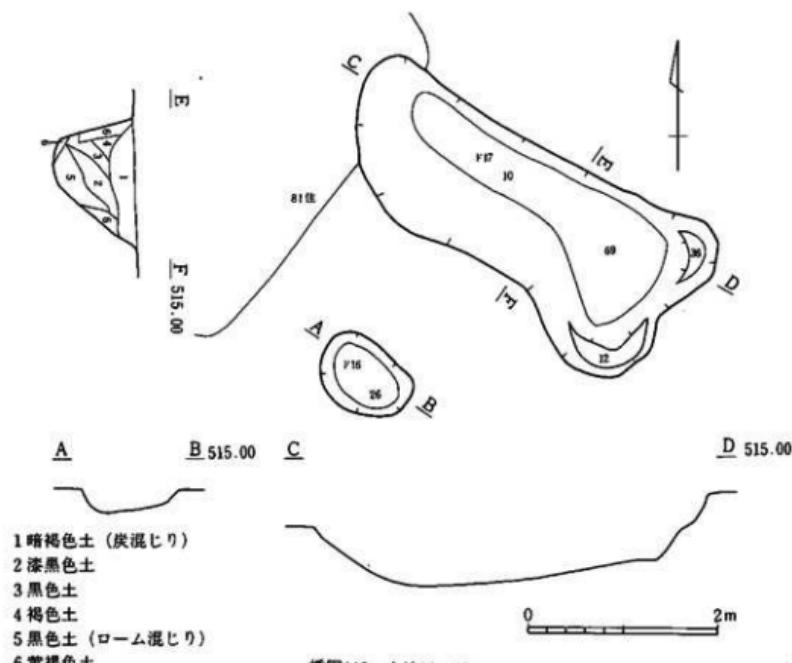
⑪ 土坑16（挿図113）

遺構 100×74cmの楕円形を呈し、深さ26cmを測る。断面形は逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

遺物 小破片のため掲載しなかったが、縄文時代後期前半の土器片が2点ある。

⑫ 土坑17（挿図113、第61・110図）

遺構 弥生時代後期の81号住居址に切られる。4.0×1.3mの南東側に2ヶ所の突出部をもつ不整椭円形を呈し、深さ68~60cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北東壁はほぼ垂直の壁面をなし、それ以外は緩やかな立ち上がりを示す。規格性のない掘り込みなどの状況から、人為的というよ



り自然要因によるものとも考えられる。

遺物 繩文時代後期後半を中心としてかなりの土器片があり、打製石斧・黒曜石の剝片もある。

⑬ 土坑18（挿図114・117、第62・63・110図）

遺構 直径1.5mの不整円形を呈し、深さ45cmを測る。北側で86×60cmの楕円形を呈し深さ44cmを測る土坑に切られるが、遺物の区別はできなかった。断面形は逆台形を呈し、底部は平坦である。下層を主体として覆土中には、20cm前後の礫が多く入り、検出面まで同一の黒色土である。土坑中央部の検出面よりやや浮いた位置にかなりの焼土を認めた。土坑を掘った後、礫を含む土を一気に埋め、その上で火を使用したと考えられる。

遺物 出土量はきわめて多く、重複する土坑のものが一部含まれるとしてもほとんどが土坑18に属すると考えてさしつかえ

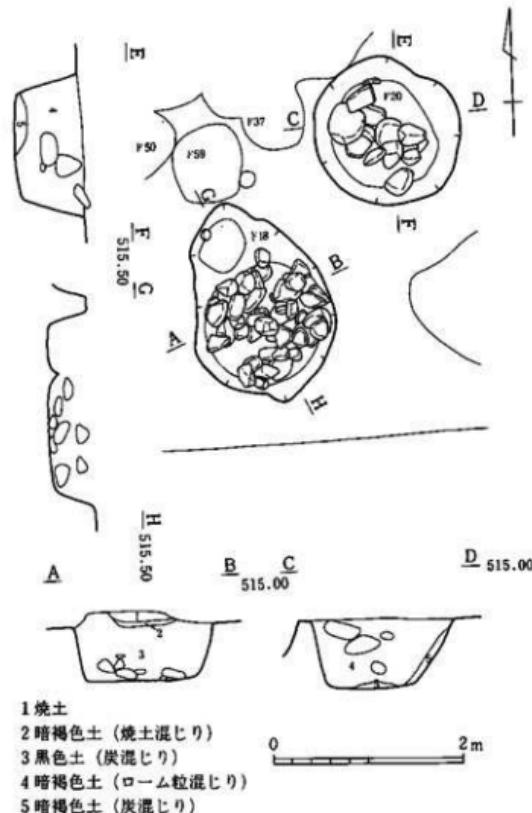
ない。繩文時代後期初頭のつ

(1) 手土器・網代底の無文の深鉢があり、土器片では、繩文時代前期終末のものが3点のほかは、同中期終末から後期初頭のものである。石器は打製石斧・横刃型石器・石錐・黒曜石の剝片がある。なお、つり手土器は土坑62のものと接合した。

⑭ 土坑19（挿図116、第64・110・115図）

遺構 1.9×1.0mの不整長楕円形を呈し、深さは54cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南西壁は両端の部分で段をもち、緩やかな壁面をなす。

遺物 出土量は多くはないが、土器・石器がある。土器は23点の破片があり、繩文時代前期終末1点を除いてほとんどが繩文時代後期初頭と考えられる。石器には打製石



挿図114 土坑18・20 磯分布図

斧・横刃型石器・打製石鎌がある。

⑯ 土坑20（挿図114、第64図）

遺構 直径1.5mの円形を呈し、深さは68cmを測る。断面形は逆台形を呈し、東側が緩やかな壁面をなす。覆土上層～中層にかけて20～40cmの疊が入り、土層はほぼ同一のローム粒が混じる暗褐色土である。土坑が掘られた後、一気に埋められ上面に石を配したと考えられる。

遺物 出土量は比較的多く、無文土器を主とし、有孔の把手などがある。

⑰ 土坑22（挿図115）

遺構 70×62cmの楕円形を呈し、深さ33cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南・西壁は稜をもつ。土層は水平の堆積をなす。

出土遺物はない。

⑱ 土坑23（挿図115）

遺構 1.0×0.7mの不整構円形を呈し、北側に深さ33cmの小穴を伴い、深さ23cmを測る。断面形は浅い逆台形をなす。

出土遺物はない。

⑲ 土坑24（挿図115、第64図）

遺構 繩文時代の土坑29と重複する。直径56cmの円形を呈し、深さは42cmを測る。南東側の深さ22cmの位置に平坦面をもつ。

遺物 無文の繩文土器2点、繩文が付けられるもの1点の計3点が出土した。

⑳ 土坑25（挿図115）

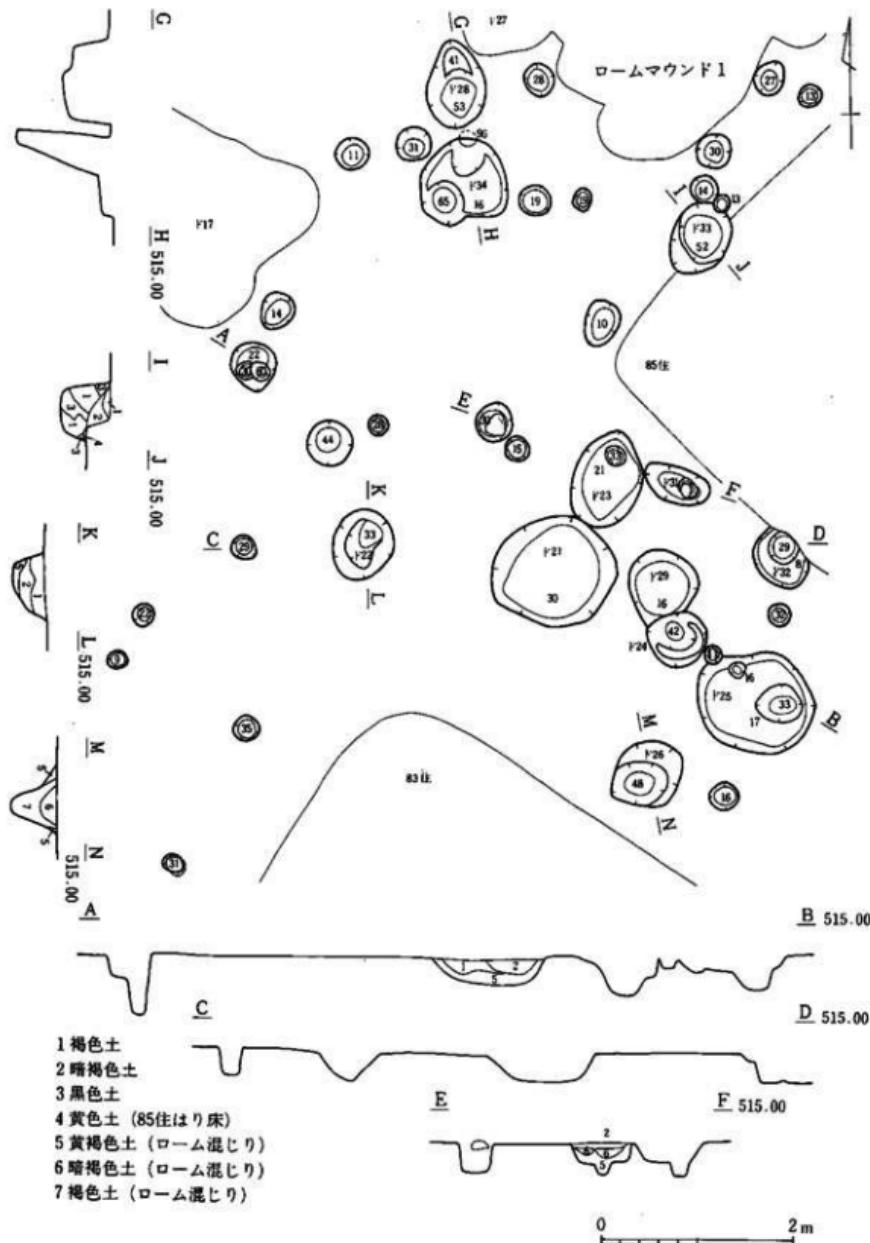
遺構 北西側を直径20cmの小穴に切られる。1.2×1.0mの丸味を帯びた五角形を呈し、深さは17cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。底部東側には50×40cmの楕円形を呈し、深さ33cmを測る穴がある。

遺物 小破片であるが、繩文土器の無文土器片が2点ある。

㉑ 土坑26（挿図115、第64図）

遺構 直径68cmの不整構円形を呈し、深さ48cmを測る。断面形は深い逆台形を呈し、西側を除いて稜をもつ。

遺物 繩文時代後期前半と考えられる土器片が1点出土した。



挿図115 土坑21・22・23・24・25・26・28・29・31・32・33・34

⑫ 土坑27（挿図116）

遺構 縄文時代のロームマウンド1と重複する。直径96cmの丸味を帯びた不整五角形を呈し、深さ21cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑬ 土坑28（挿図115）

遺構 88×60cmの不整橢円形を呈し、深さは北側で41cmの所に平坦面をもち、底は53cmを測る。断面形は逆台形を呈し、ほぼ垂直の壁面をなす。

出土遺物はない。

⑭ 土坑29（挿図115、第64図）

遺構 縄文時代の土坑24と重複する。直径70cmの不整円形を呈し、深さ16cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。

遺物 縄文時代後期初頭の土器片2点と手づくね土器がある。

⑮ 土坑30（挿図116、第64図）

遺構 直径84cmの円形を呈し、深さは45cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代の把手と無文土器片がある。

⑯ 土坑31（挿図115、第64図）

遺構 72×36cmの細長い椭円形を呈し、深さは20cmを測る。断面形は逆台形を呈する。東側には上面に礫をもつ小穴がある。

遺物 縄文時代中期終末の土器片などがある。

⑰ 土坑32（挿図115、第65図）

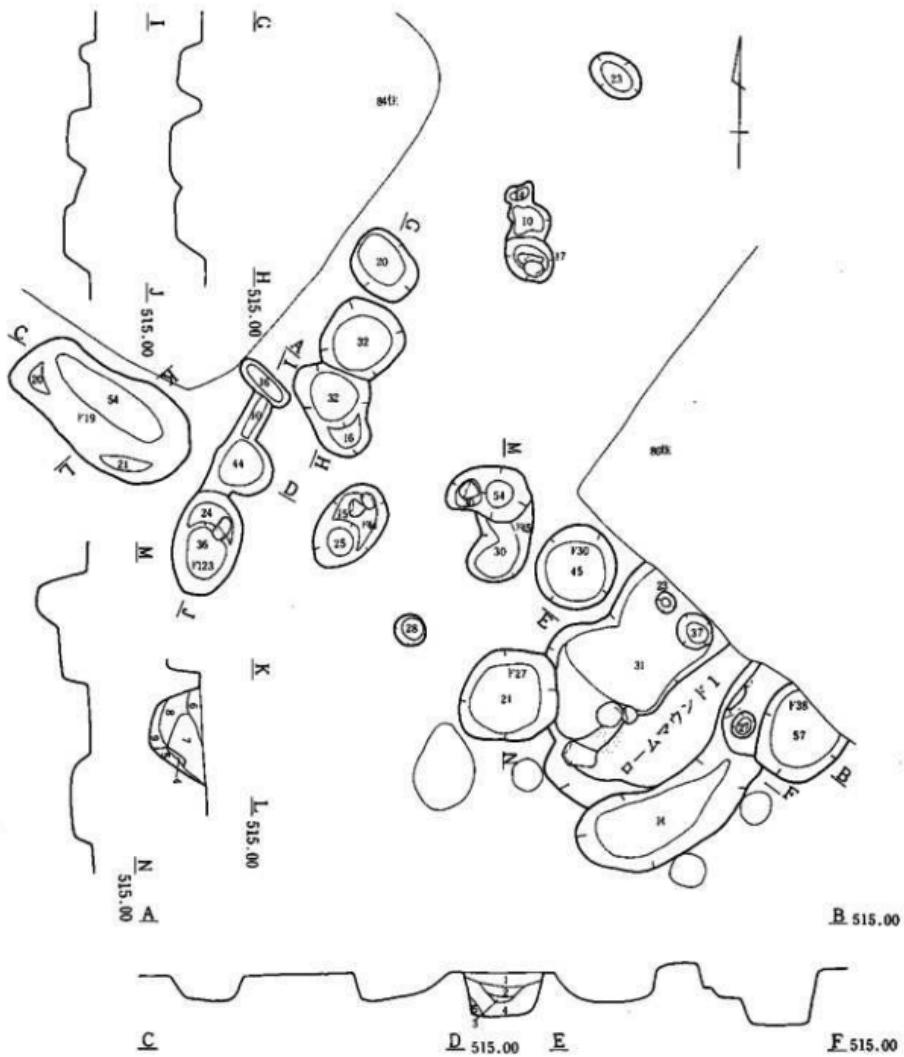
遺構 弥生時代後期の85号住居址に切られる。直径58cmの不整円形を呈し、中段で平坦面をもち、直径30cmの円形となる。深さはそれぞれ8・29cmを測り、断面形は基本的に逆台形を呈する。

遺物 縄文時代の無文土器片が3点ある。

⑲ 土坑33（挿図115、第65図）

遺構 弥生時代後期の85号住居址と小穴に切られる。74×58cmの椭円形を呈し、深さは52cmを測る。断面形は深い逆台形を呈し、南西側は棱をもって緩やかに立ち上がる。

遺物 縄文時代中期後半の土器片・無文土器片、チャートの剝片がある。



- 1 暗褐色土
 2 暗褐色土（ローム粒混じり）
 3 黒色土（ローム混じり）
 4 褐色土
 5 黄褐色土
 6 暗黒色土（炭混じり）
 7 漆黒色土（炭混じり） 摂図116 土坑19・27・30・38・44・45・123、ロームマウンド1
 8 暗褐色土（炭混じり）
 9 暗黄褐色土

② 土坑34（挿図115、第65図）

遺構 90×80cmの不整楕円形を呈し、南西側で直径40cmの柱穴と重複する。深さは16cmを測り、北側で斜めに掘られ96cmを測る穴をもつ。

遺物 土器片が26点あり、縄文時代後期前半を主体とする。

③ 土坑35（挿図117、第65・110図）

遺構 北側・底部などを柱穴に切られる。136×114cmの丸味を帯びた方形を呈し、深さは22cmを測る。断面形は浅く皿状を呈する。

遺物 縄文時代の沈線文・縄文を施した土器片、打製石斧が1点ずつある。

④ 土坑36（挿図117）

遺構 166×98cmの不整楕円形を呈し、深さは22cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑤ 土坑37（挿図117）

遺構 124×88cmの楕円形を呈し、深さは22cmを測る。断面形は皿状をする。

出土遺物はない。

⑥ 土坑38（挿図116）

遺構 弥生時代後期の86号住居址に切られ、縄文時代のロームマウンド1と重複する。直径90cmの不整円形を呈すると考えられ、深さ57cmを測る。断面形は逆台形を呈し、ほぼ垂直の壁面をなす。

出土遺物はない。

⑦ 土坑39（挿図118、第65図）

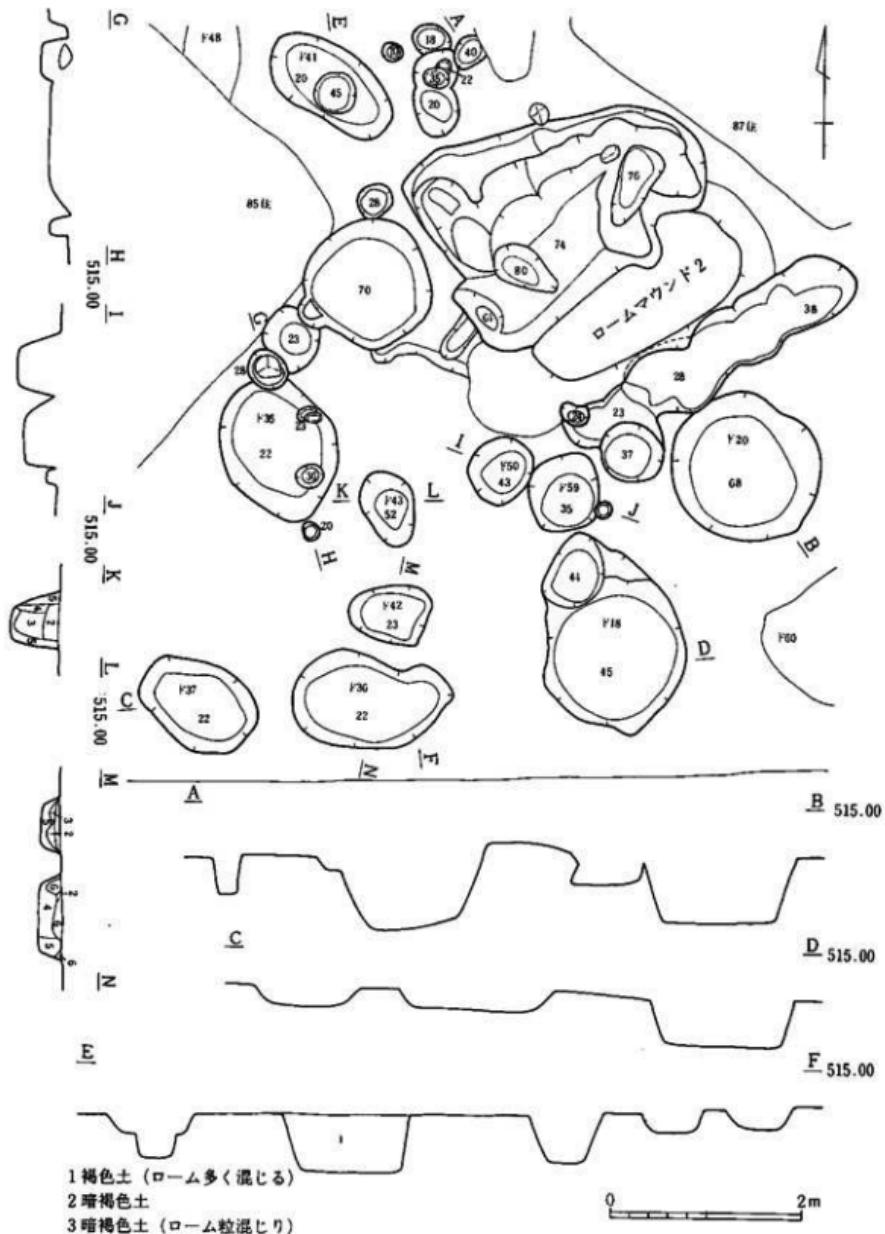
遺構 弥生時代後期の86号住居址に切られる。直径76cmの円形を呈し、深さは50cmを測る。断面形は底部が丸味を帯びる逆台形を呈する。

遺物 出土量は多く、そのほとんどが縄文時代中期終末の結節縄文が施されるものである。深体の底部も2点出土した。

⑧ 土坑40（挿図118）

遺構 弥生時代後期の86号住居址と20×10cmの楕円形を呈する柱穴に切られる。短軸の長さが84cmの楕円形を呈し、深さは29cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

出土遺物はない。



挿図117 土坑18・20・35・36・37・41・42・43・50・59、ロームマウンド2

⑧ 土坑41（挿図117、第66・110図）

遺構 142×74cmの長楕円形を呈し、深さは20cmを測る。中央部に、直径42cmの円形の穴がある。断面形は皿状を呈する。

遺物 繩文時代後期前半の土器片1点、打製石斧が2点ある。

⑨ 土坑42（挿図117）

遺構 80×60cmの丸味を帯びた不整方形を呈し、深さは23cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑩ 土坑43（挿図117）

遺構 80×54cmの不整楕円形を呈し、深さは52cmを測る。断面形は深い逆台形を呈し、東壁はほぼ垂直の壁面をなす。

出土遺物はない。

⑪ 土坑44（挿図116、第66図）

遺構 96×62cmの楕円形を呈し、南西側が直径54cmの円形で深くなり25cmを測り、そのほかは15cmを測る。北側には20cm前後の礫が2ヶ入る。

遺物 繩文時代後期初頭の土器片などが3点出土した。

⑫ 土坑45（挿図116、第66図）

遺構 86×58cmの楕円形を呈するものと短軸の長さが52cmを測るひさご形を呈するものの重複であるが、一つの土坑として扱った。前者の深さは西側が30cm・東側が54cmを測る2ヶ所に底部がある。後者は深さ30cmを測る。いずれも断面形は基本的に逆台形を呈する。

遺物 繩文時代後期の土器片が4点ある。

⑬ 土坑46（挿図118、第66図）

遺構 直径38cmの不整円形を呈する柱穴に切られる。130×68cmの丸味を帯びた不整長方形を呈し、深さは東側で35cm、ほかは30cmを測る。断面形はナベ底状をなす。

遺物 繩文時代後期の土器片が2点ある。

⑭ 土坑47（挿図118）

遺構 直径60cmの不整円形を呈し、深さは44cmを測る。断面は逆台形を呈し、南東側が緩やかな壁面をなす。

出土遺物はない。

⑫ 土坑48（挿図118）

遺構 弥生時代後期の85号住居址に切られる。短軸方向の長さが60cmの長楕円形を呈し、深さは16cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。

出土遺物はない。

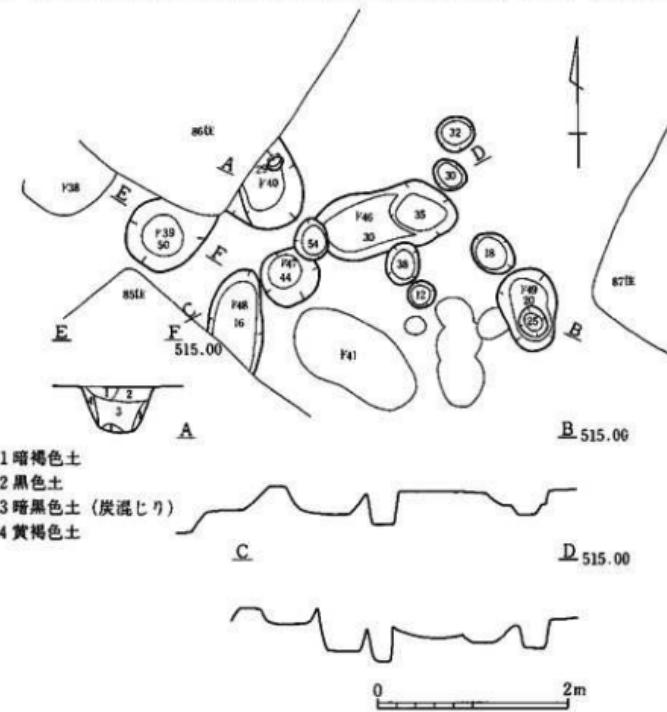
⑬ 土坑49（挿図118）

遺構 86×60cmの楕円形を呈し、深さは20cmを測る。底部には直径30cmの円形で深さ25cmの穴がある。断面形はナベ底状を呈する。

出土遺物はない。

⑭ 土坑50（挿図117、第66図）

遺構 直径64cmの円形を呈し、深さ43cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南東側がほぼ垂直の



挿図118 土坑39・40・46・47・48・49

壁面をなす。

遺物 繩文時代前期終末の土器片1、同後期前半の土器片などがある。

(山下誠一)

⑯ 土坑51（挿図139）

遺構 古墳時代後期70号住居址と弥生時代後期71号住居址に切られる。210×120cmのゆがんだ隅丸方形をなし、緩やかな傾斜で一部段をなして底部に至る。深さ75・81cmを測り、ローム層まで掘られる。

出土遺物はないが、周辺の遺構の関連等から縄文時代と考えられる。

⑰ 土坑52（挿図141）

遺構 268×124cmの隅丸方形をなし、北西に突出部をもつ。中心部の深さは67cmで、突出部は21・38cmの段をもちローム層まで掘られる。

遺物はなく、時期決定はできないが、形態等から縄文時代と考えられる。

⑱ 土坑53（挿図150）

遺構 170×120cmの変形の楕円形で、ローム層まで掘られ19×40cmの段をなす。

出土遺物はないが、周辺遺構との関連等から縄文時代と考えられる。

⑲ 土坑54（挿図150）

遺構 160×130cmのゆがんだ円形をなし、深さ9・19・37cmと段を持ってローム層まで掘られる。

出土遺物はないが、周辺の関連等から縄文時代と考えられる。

⑳ 土坑55（挿図119）

遺構 88×64cmの楕円形をなし、深さ15cmを測り、ロームまで掘られる。内部に入頭大の石が置かれる。

遺物はなく、周辺の関連等から縄文時代と考えられる。

㉑ 土坑56（挿図119）

遺構 78号住居址の南にあり、土坑57と重複する。90×82cmの円形をなし、深さ20cmを測り、ローム層まで掘られる。

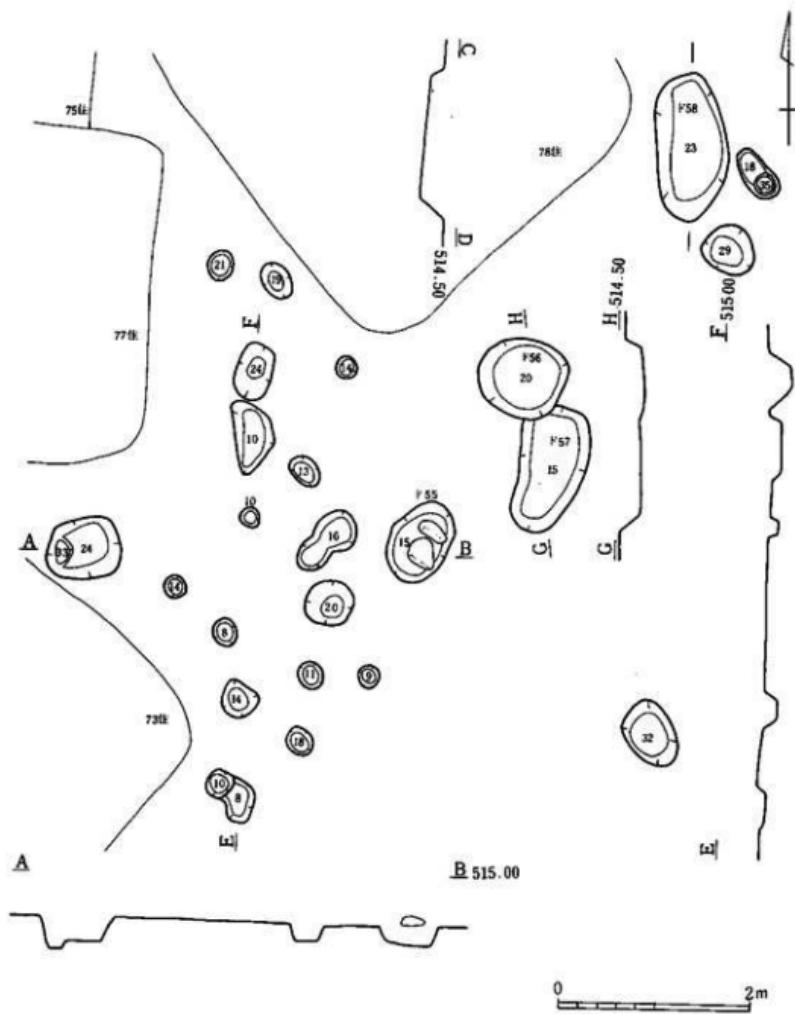
土坑57号との関連から縄文時代後期初頭と考えられる。

⑤ 土坑57（挿図119、第66図）

遺構 土坑56と重複し、130×74cmのゆがむ構円形をなし、深さ15cmを測り、ローム層まで掘られる。

縄文時代後期初頭の土器片があり、この期の土坑である。

（佐藤勝信）



挿図119 土坑55・56・57・58、柱穴群5

④ 土坑59（挿図117）

遺構 76×74cmの丸味を帯びた不整方形を呈し、深さ35cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南・東側がほぼ垂直の壁面をなす。

出土遺物はない。

⑤ 土坑60（挿図120、第66・110図）

遺構 縄文時代の土坑62と重複する。192×132cmの丸味を帯びた長方形を呈し、深さ40cmを測る。北東側には直径86cmの不整円形で深さ101cm、東側には46×40cmの丸味を帯びた方形で、深さ46cmの穴がある。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代中期後半土器片、同後期前半土器片、打製石斧・横刃型石器が各1点ある。

⑥ 土坑61（挿図120）

遺構 124×92cmの橢円形を呈し、深さは底部が2段をなし、東側が浅く19cm、ほかは41cmを測る。断面形は底部が丸味を帯びてナベ底状を呈する。

出土遺物はない。

⑦ 土坑62（挿図120、第66・67・110図）

遺構 縄文時代の土坑60・63と重複する。110×86cmの丸味を帯びた長方形を呈し、深さは60cmを測る。断面形は逆台形を呈する。下層には20~44cmの礫が5ヶ入る。

遺物 出土量はきわめて多く、土器・石器がある。土器は縄文時代前期終末・同中期終末~後期前半のものがあり、主体は後期初頭から前半である。つり手土器のつり手部分が出土し、土坑18出土品と接合した。石器は打製石斧・横刃型石器・黒曜石剝片などがある。

⑧ 土坑63（挿図120、第68図）

遺構 縄文時代の土坑62と重複する。直径1.3mの不整円形を呈し、深さ71cmを測る。断面形は箱形を呈し、ほぼ垂直の壁面をなす。

遺物 縄文時代後期初頭の深鉢があり、そのほかに無文土器片が8点ある。

⑨ 土坑64（挿図120）

遺構 118×114cmの丸味を帯びた不整五角形を呈し、深さは底部が2段をなし、北側が浅く28cm、ほかが56cmを測る。断面形は基本的に逆台形を呈し、北側の深い部分はやや深めの皿状をなす。

出土遺物はない。

◎ 土坑65（挿図120、第68・115図）

遺構 170×72cmの丸味を帯びた不整長方形で、深さは底部が2段をなし、南側が40cm、北側が75cmを測る。付近は他遺構との重複が著しく、連続した状況での遺構把握となつたために、本遺構も2つの土坑の重複とも考えられる。断面形は北側が半円形、南側が逆台形を呈する。

遺物 土器片9点とピエス・エスキューがあり、土器片は縄文時代後期の無文のものが多い。

◎ 土坑66（挿図120）

遺構 縄文時代の土坑84と重複し、東側・西側も他遺構と連続した状況での把握となつた。124×108cmの楕円形を呈し、深さは66cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南側が緩やかな壁面をなす。出土遺物はない。

◎ 土坑67（挿図120、第68・111図）

遺構 84×72cmの丸味を帯びた不整方形を呈し、深さは83cmを測る。断面形は南西側が袋状を呈し、東側は緩やかな壁面をなす。

遺物 縄文時代後期の無文土器片4点、同縄文土器片1点、ホルンフェルスの剥片がある。

◎ 土坑68（挿図121、第68図）

遺構 縄文時代の配石1の下にある。他遺構と重複が著しく、連続した状況での把握となつたため、本来の平面形をとらえられなかつたが、1.9×1.1mの不整椭円形を呈すると考えられ、深さは23cmを測る。断面形は盤状を呈する。

遺物 縄文土器の深鉢の底部、縄文時代後期前半の土器片などがある。

◎ 土坑69（挿図121）

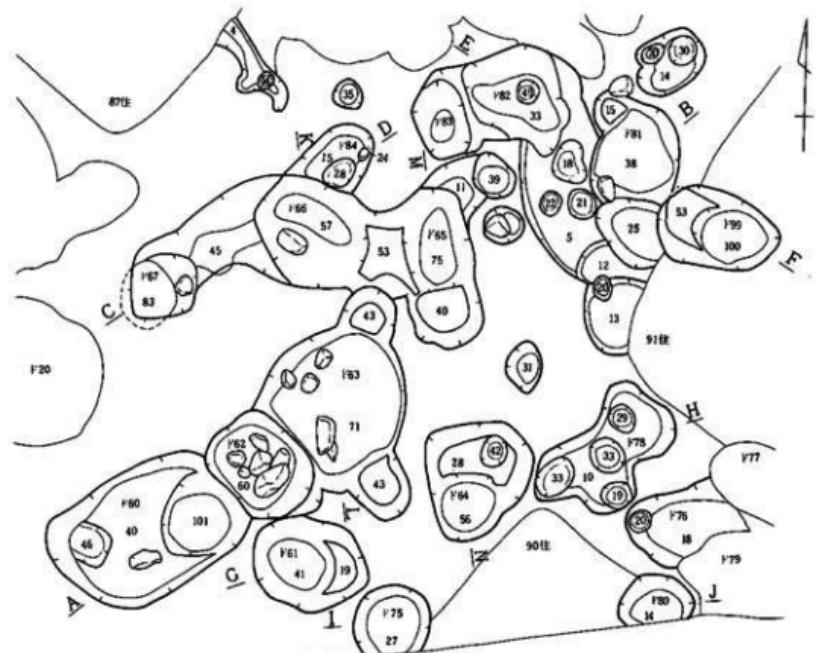
遺構 縄文時代の配石1の下にあり、弥生時代の土坑70に切られる。他遺構と重複が著しく、連続した状況での把握となつたため、本来の平面形をとらえられなかつたが、80×62cmの不整椭円形を呈すると考えられ、深さは底部が2段をなし、33cmと51cmを測る。

出土遺物はない。

◎ 土坑71（挿図121、第68図）

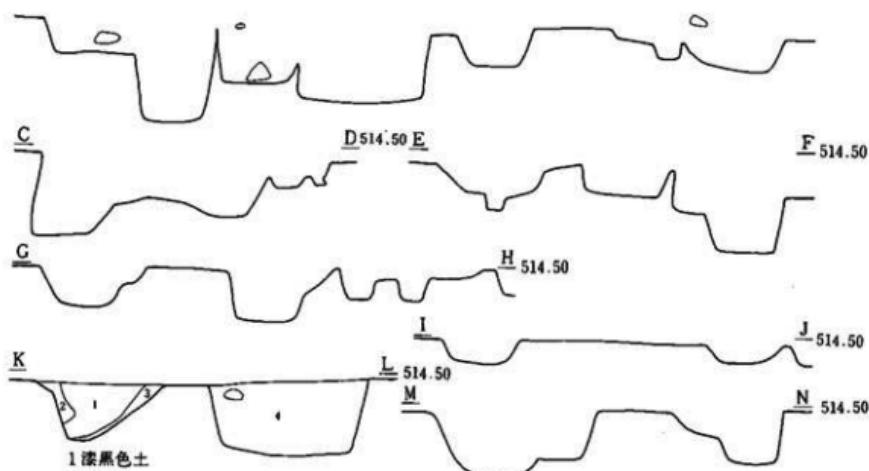
遺構 縄文時代前期終末の99号住居址を切り、弥生時代後期の89号住居址に切られる。短軸方向の長さが1mの丸味を浴びた不整方形を呈すると考えられ、深さは底部が2段をなし、13・35cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代前期終末の土器片、縄文時代の無文土器片が各1点ある。



A

B 514.50



1 漆黑色土

2 褐色土

3 黄褐色土

4 暗褐色 (ローム粒多い・炭混じり)

0 2m

插図120 土坑60・61・62・63・64・65・66・67・75・76・78・80・81・82・83・84・99

④ 土坑72（挿図121、第68図）

遺構 繩文時代前期終末の99号住居址を切る。92×72cmの不整楕円形を呈し、深さ40cmを測る。断面形は逆台形を呈し、西側が緩やかな壁面をなす。

遺物 繩文時代後期初頭の土器片がある。

⑤ 土坑73（挿図121、第111図）

遺構 時期不明の小溝・柱穴と重複する。直径82cmの不整円形を呈し、深さは50cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北側は稜をもち上面が緩やかな立ち上がりをなす。

遺物 打製石斧が1点ある。

⑥ 土坑74（挿図121、第68図）

遺構 時期不明の小溝に切られる。70×60cmと74×68cmの楕円形を呈する2つの土坑の重複と考えられ、深さは22cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 繩文時代深鉢の把手と同後期初頭の土器片がある。

⑦ 土坑75（挿図120、第68図）

遺構 弥生時代後期の90号住居址に切られ、南側は一部用地外にかかり調査できなかった。直径82cmの不整円形を呈し、深さは27cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 繩文時代後期前半の土器片が2点ある。

⑧ 土坑76（挿図120、第68図）

遺構 繩文時代の土坑77・79と重複する。規模・平面形とも不明で、深さは18cmを測る。断面形は皿状を呈する。

遺物 繩文時代後期前半の土器片2点と打製石斧1点がある。

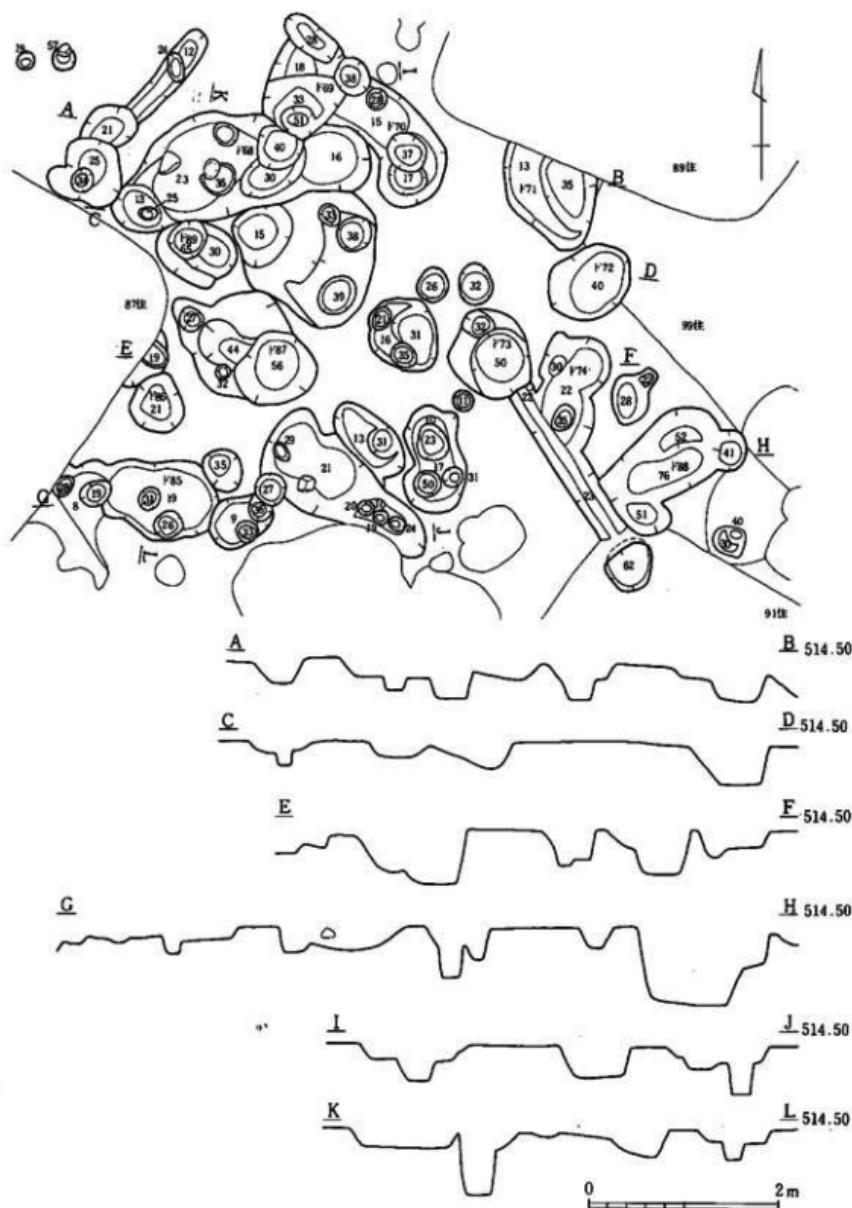
⑨ 土坑77（挿図122、第69図）

遺構 弥生時代後期の91号住居址に切られ、繩文時代の土坑76と重複する。直径74cmの不整円形を呈し、深さは120cmを測り、すべての土坑の中で最も深く、ローム層下層の黄色砂土層まで掘られる。断面形はやや袋状をなす。

遺物 繩文時代中期後半の台付土器の脚台部、同後期前半の口縁部片がある。

⑩ 土坑78（挿図120、第69図）

遺構 162×84cmの不整形を呈し、深さは10cmを呈する。断面形は皿状を呈する。



摺図121 土坑68・69・70・71・72・73・74・85・86・87・88・89

遺物 縄文時代中期後半・同後期前半の土器片が各1点ある。

⑦ 土坑79（挿図122、第69図）

造構 縄文時代の土坑76と重複し、南側が用地外にかかる。東西方向の長さが1mを測る不整形を呈し、深さは14cmを測る。断面形は皿状を呈する。北側には直径60cmの不整円形を呈し深さ53cmを測る穴がある。

出土遺物はない。

⑧ 土坑80（挿図120）

造構 弥生時代後期の90号住居址に切られ、南側が一部用地外にかかる。72×66cmの楕円形を呈し、深さは14cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑨ 土坑81（挿図120、第69図）

造構 他造構との重複が著しく、連続した状況での把握となった。110×90cmの楕円形を呈し、深さ38cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代後期前半の土器片などが7点ある。

⑩ 土坑82（挿図120）

造構 他造構との重複が著しく、連続した状況での把握となった。118×96cmの不整台形を呈し、深さは33cmを測る。断面形はナベ底状を呈する。

出土遺物はない。

⑪ 土坑83（挿図120）

造構 76×54cmの不整楕円形を呈する。

出土遺物はない。

⑫ 土坑84（挿図120）

造構 縄文時代の土坑66と重複する。短軸方向の長さが60cmの楕円形を呈し、深さは15cmを測る。断面形は皿状を呈する。

出土遺物はない。

⑬ 土坑85（挿図121）

造構 124×82cmの不整楕円形を呈し、深さ19cmを測る。断面形は皿状を呈する。底部の2ヶ所

に穴がある。

出土遺物はない。

⑩ 土坑86（挿図121、第69図）

遺構 60×54cmの丸味を帯びた不整五角形を呈し、深さは21cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。

遺物 縄文時代後期の土器片などが6点ある。

⑪ 土坑87（挿図121）

遺構 108×108cmの不整ひし形を呈し、底部は2段をなし、深さ44・56cmを呈する。2つの土坑の重複とも考えられ、断面形は西側が半円形、東側は逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑫ 土坑88（挿図121、第69図）

遺構 弥生時代後期の91号住居址に切られ、東側・南側は小穴と重複する。1.4×0.8mの不整橢円形を呈し、深さは北西側の52cmの所で平坦面を持ち、76cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代の無文土器片が多く、同中期末、同後期前半の土器片がある。

⑬ 土坑89（挿図121、第69図）

遺構 84×62cmの不整橢円形を呈し、深さは底部が2段をなし、東側が30cm、西側が65cmを測る。断面形は逆台形を呈する。2つの遺構が重複する可能性もある。

遺物 縄文時代後期初頭の土器片などがある。

⑭ 土坑90（挿図122、第69・111図）

遺構 縄文時代後期の91号住居址に切られる。1.0×0.8mの橢円形を呈し、深さ29cmを測る土坑と、0.7×0.6m丸味を帯びた台形を呈し深さ45cmを測る土坑の重複関係にあるが、調査時に両者の遺物が混同してしまったので、一つの土坑として扱う。両者の新旧関係は不明である。

遺物 縄文時代後期前半の土器片、打製石斧、加工された黒曜石片などがある。

⑮ 土坑91（挿図122、第111図）

遺構 弥生時代後期の91号住居址に切られ、縄文時代の配石2の下にある。土坑・柱穴などの重複と考えられるが、連続した状況での把握となった。136×60cmの不整長方形を呈し、深さは31cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代後期の無文土器片が4点、石錐1点がある。

④ 土坑92（挿図122）

遺構 110×74cmの不整楕円形を呈し、深さ21cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈し、底部中央には直径32cmの円形で深さ42cmの小穴がある。

遺物 縄文時代後期の無文土器片が1点ある。

⑤ 土坑93（挿図122）

遺構 古墳時代後期の92号住居址に切られ、南側が一部用地外にかかる。長軸方向の長さが108cmの楕円形を呈し、深さは52cmを測る。断面形は逆台形を呈し、西側が緩やかな壁面をなす。

出土遺物はない。

⑥ 土坑94（挿図122、第69図）

遺構 弥生時代後期の91号住居址に切られる。直径86cmの不整円形を呈し、深さは65cmを測る。断面形は逆台形を呈し、西側が緩やかな壁面をなす。

遺物 縄文時代後期の無文土器片などが4点ある。

⑦ 土坑95（挿図122）

遺構 時期不明の小穴と重複する。104×84cmの不整楕円形を呈し、深さ47cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南側の底部には礫が2ヶある。

遺物 縄文時代後期の土器片が1点ある。

⑧ 土坑96（挿図122）

遺構 弥生時代後期の91号住居址に切られる。104×64cmの丸味を帯びた不整長方形を呈し、深さは33cmを測る。断面形は箱形を呈し、南西側には直径38cmの円形で深さ57cmの穴がある。

遺物 縄文時代後期の無文土器片が5点ある。

⑨ 土坑97（挿図122、第70図）

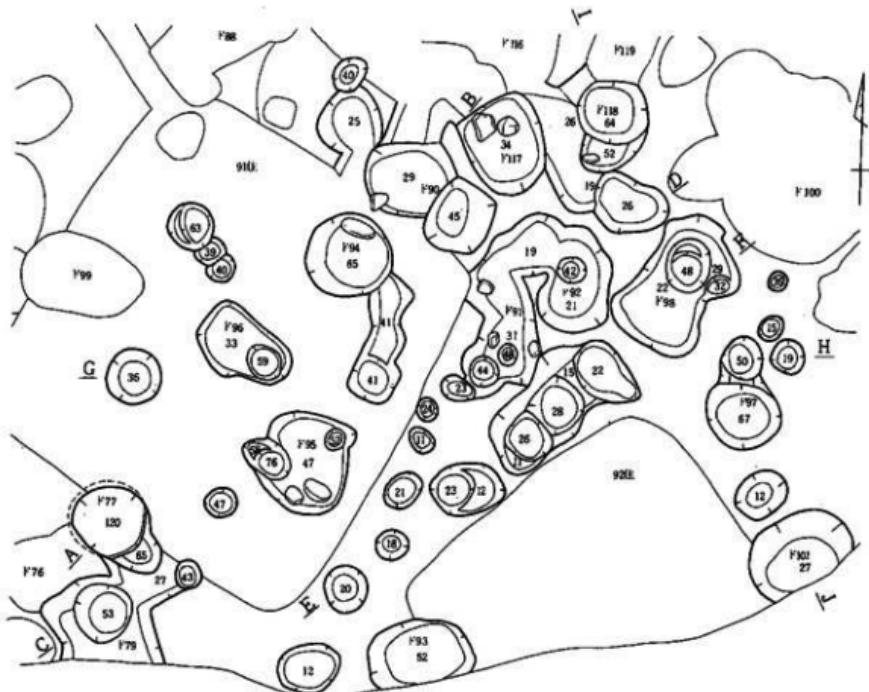
遺構 80×68cmの不整楕円形を呈し、深さは67cmを測る。断面形は深い逆台形を呈する。

遺物 縄文時代前期終末の土器片4点、同後期前半の土器片2点、同後期の無文土器片7点がある。

⑩ 土坑98（挿図122、第70図）

遺構 134×82cmの丸味を浴びた不整長方形を呈し、深さは北東側が深く29cm、南西側が12cmを測る。北側には直径48cmの円形で深さ48cmの穴がある。

遺物 縄文時代後期の土器片が2点ある。



A

B 514.50

C

D 514.50

E

F 514.50

G

H 514.50

I

J 514.50

0 2m

地図122 土坑77・79・90・91・92・93・94・95・96・97・98・101・117・118

◎ 土坑99（挿図120、第70・111図）

遺構 弥生時代後期の91号住居址に切られる。124×80cmの楕円形を呈し、深さは底部が2段をなし、東側が100cm、西側が53cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北東側が若干袋状をなす。

遺物 縄文時代後期の無文土器片5点、石錐1点がある。

◎ 土坑100（挿図123、第70・111図）

遺構 北西側、西側で土坑と重複する。182×162cmの丸味を帯びた方形を呈し、深さは56cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北東側の底部には直径40cmの円形で深さ67cmの穴がある。土層はほぼ水平の堆積をなし、プラン検出面には焼土が厚く認められた。

遺物 出土量は比較的多く、土器・石器がある。木葉痕をもつ縄文土器の深鉢底部2点、縄文時代前期終末土器片2点、同中期後半土器片2点があるほか、後期初頭から前半の土器片が多い。石器は打製石斧3点、磨製石斧1点、石錐1点がある。

◎ 土坑101（挿図122）

遺構 古墳時代後期の92号住居址に切られ、南側が一部用地外にかかる。長軸方向の長さが112cmの楕円形を呈し、深さは27cmを測る。断面形は逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

出土遺物はない。

◎ 土坑102（挿図123、第71図）

遺構 148×90cmの丸味を帯びた不整台形を呈し、深さは19cmを測る。断面形は皿状を呈し、北側に一辺28cmの方形で深さ42cmと、36×28cmの楕円形で深さ55cmの穴があり、南側には58×26cmの丸味を帯びた長方形で深さ28cmの穴がある。

遺物 縄文時代前期終末の土器片1点・同後期初頭の土器片2点、同後期の無文土器片3点がある。

◎ 土坑103（挿図123、第71・115図）

遺構 104×84cmの楕円形を呈し、深さは底部が2段をなし、南東側が34cm・ほかが55cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代前期終末土器片4点、同後期土器片3点、スクレイバー1点がある。

◎ 土坑104（挿図123、第71・111図）

遺構 縄文時代後期の土坑154と重複する。直径84cmの円形を呈し、深さは64cmを測る。断面形は逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

遺物 出土量は比較的多く、土器・石器がある。土器は縄文時代後期前半が主体を占めるが、同早期の押型文土器・同前期終末の破片がある。石器は打製石斧・横刃型石器が各1点ある。

⑦ 土坑105（挿図123、第71図）

遺構 80×76cmの不整円形を呈し、深さは58cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 縄文時代後期前半と考えられる土器片が2点ある。

⑧ 土坑106（挿図123）

遺構 86×64cmの楕円形を呈し、深さは南側が深く24cm、北側で14cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南西側に直径26cmの円形で深さ32cmの穴がある。

出土遺物 はない。

⑨ 土坑107（挿図123、第71図）

遺構 南側が用地外にかかり、一部調査できなかった。短軸方向の長さが118cmの不整楕円形を呈し、深さは19cmを測る。断面形は皿状を呈し、底部に4ヶ所小穴がある。

遺物 縄文時代後期前半の土器片などが3点ある。

⑩ 土坑108（挿図123、第72図）

遺構 120×70cmの不整楕円形を呈し、深さは20cmを測る。断面形は皿状を呈し、東側には直径30cmの円形で深さ35cmの穴がある。

遺物 縄文時代後期前半の深鉢口縁部片2点、同後期の無文土器片2点がある。

⑪ 土坑109（挿図126、第72・111図）

遺構 1.2×1.0mの楕円形を呈し、深さは77cmを測る。断面形は逆台形を呈し、西側がやや緩やかな壁面をなす。

遺物 縄文時代前期終末～中期初頭土器片、打製石斧などがある。

⑫ 土坑111（挿図131、第72図）

遺構 1.1×0.9mの楕円形を呈し、深さは27cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。プラン検出面は石を持つ小穴があり、土層などから同址を切り、中世以降と考えられる。

遺物 縄文時代前期末土器片が出土した。

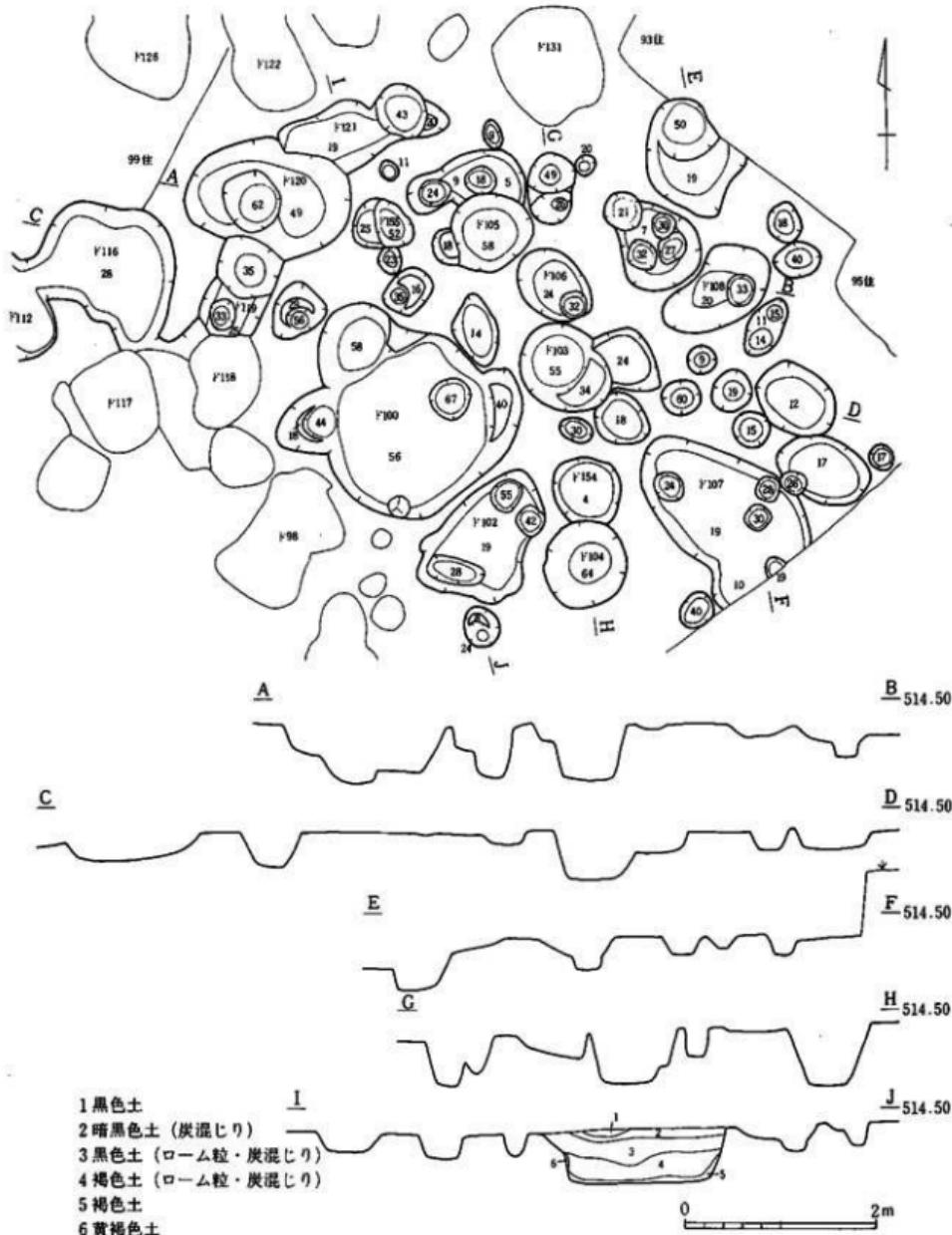


插圖123 土坑100・102 103・104・105・106・107・108・116・119・120・121・154・155

⑩ 土坑113（挿図124、第72・112図）

遺構 繩文時代前期終末の99号住居址を切り、繩文時代の配石の下にある。0.7×0.8mの不整楕円形を呈し、深さは32cmを測る。断面形は逆台形を呈し、やや緩やかな壁面をなす。

遺物 繩文時代前期終末土器片・同後期前半土器片、黒曜石の剥片がある。

⑪ 土坑114（挿図124、第72図）

遺構 繩文時代の配石2の下にあり、土坑・小穴との重複関係が著しいため、単独でのプラン確定ができず、他の遺構と連続した状況での把握となった。1.3×1.2mの丸味を帯びた方形を呈し、深さは20cmを測る。断面形は浅い台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

遺物 繩文時代前期終末土器片・同後期前半土器片、黒曜石剥片などがある。

⑫ 土坑115（挿図124、第111図）

遺構 繩文時代前期終末の99号住居址を切り、繩文時代の配石2の下にある。1.2×1.1mの丸味を帯びた方形を呈し、深さは45cmを測る。断面は逆台形を呈し、ほぼ垂直の壁面をなす。土層は全体がほぼ同一の黒褐色土であった。

遺物 打製石斧が1点出土した。

⑬ 土坑116（挿図123、第72図）

遺構 繩文時代前期終末の99号住居址を切り、弥生時代後期の土坑112に切られ、繩文時代の配石2の下にある。1.4×1.2mの不整楕円形を呈し、深さは28cmを測る。断面は浅い逆台形を呈し、底部も中央部がやや凹み、全体はナベ底状をなす。

遺物 繩文時代後期前半土器片、同時期と考えられる無文の土器片がある。

⑭ 土坑117（挿図122）

遺構 繩文時代の配石2の下にあり、1.0×0.8mの丸味を帯びた方形を呈し、深さは34cmを測る。断面形は逆台形を呈し、上層に2個の石がある。

出土遺物はない。

⑮ 土坑118（挿図122、第72図）

遺構 繩文時代の配石2の下にあり、土坑119と重複し、形状等把握できず切り合い関係不明の別土坑があったと考えられる。0.7×0.6mの楕円形を呈し、深さは64cmを測る。断面形は逆台形を呈し、ほぼ垂直な壁面をなす。

遺物 繩文時代中期後半土器片・同後期前半土器片、無文土器片などがある。

⑩ 土坑119（挿図123、第72図）

遺構 繩文時代の配石2の下にあり、土坑118と重複し、形状把握できない別土坑と重複し、平面形把握には若干の問題があった。一辺0.6mくらいの方形を呈すると考えられ、深さは25cmを測る。底部には深さ33cmを測る小穴がみられた。断面形は逆台形を呈する。

遺物 繩文時代後期前半の土器片が出土した。

⑪ 土坑120（挿図123、第72・111図）

遺構 繩文時代の配石2の下にあり、土坑121などと重複する。1.7×1.2mの楕円形を呈し、深さは49cmを測る。底中央部に、直径60cmの円形を呈する穴があり、底面から深さ21cmを測る。

遺物 繩文時代前期終末の土器片、同後期前半の土器片、打製石斧などがある。

⑫ 土坑121（挿図123、第72図）

遺構 土坑120・穴などと重複関係にあり、平面形把握に若干の問題があった。1.0×0.6mの丸味を帯びた方形を呈すると考えられ、深さは19cmを測る。断面は底中央部が低くなるナベ底状を呈する。

遺物 繩文時代前期終末の土器片がある。

⑬ 土坑122（挿図124）

遺構 繩文時代前期終末の99号住居址を切る。1.5×0.7mの丸味を帯びた不整長方形を呈し、深さは24cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

出土遺物はない。

⑭ 土坑123（挿図116、第72図）

遺構 北側で弥生時代後期以降と考えられる小溝址に切られる。106×70cmの楕円形を呈し、深さは底部が2段をなし、北側が24cm、ほかが36cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 繩文時代後期の土器片が2点ある。

⑮ 土坑124（挿図124）

遺構 0.9×0.8mの丸味を帯びた台形を呈し、深さは35cmを測る。断面形は逆台形を呈し、南側がやや緩やかな壁面をなす。

遺物 繩文時代の無文土器片が出土した。

⑯ 土坑125（挿図124）

遺構 東側で90×50cmの楕円形を呈する土坑と重複する。66×64cmの丸味を帯びた三角形を呈

し、深さは30cmを測る。断面形は逆台形を呈し、緩やかな壁面をなす。

出土遺物はない。

⑩ 土坑126（挿図124）

遺構 繩文時代前期終末の99号住居址を切る。1.1×1.1mの丸味を帯びた台形を呈し、深さは37cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑪ 土坑127（挿図124、第111図）

遺構 1.0×0.9mの丸味を帯びた三角形を呈し、18~21cmの部分で平端面を持ち、中央部が直径40cmの円形で、深さ64cmの穴状をなす。

遺物 上層から打製石斧が出土した。

⑫ 土坑128（挿図124、第72図）

遺構 北側が長さ1.2m、幅40cmの溝状遺構と重複する。0.8×0.5mの楕円形を呈し、深さは68cmを測る。断面形は柱状をなす。

遺物 繩文時代前期終末土器片が出土した。

⑬ 土坑129（挿図124、第112図）

遺構 繩文時代の配石2の下で検出された。土坑114・130と近接し、小穴などとも重複関係にあるため、近接遺構と連続した状況での把握となり、平面形に若干の問題が残った。1.2×1.2mの不整方形を呈し、深さは17cmを測る。断面形は中央部が凹む浅いナベ底状を呈する。

遺物 打製石斧の破片が1点出土した。

⑭ 土坑130（挿図124）

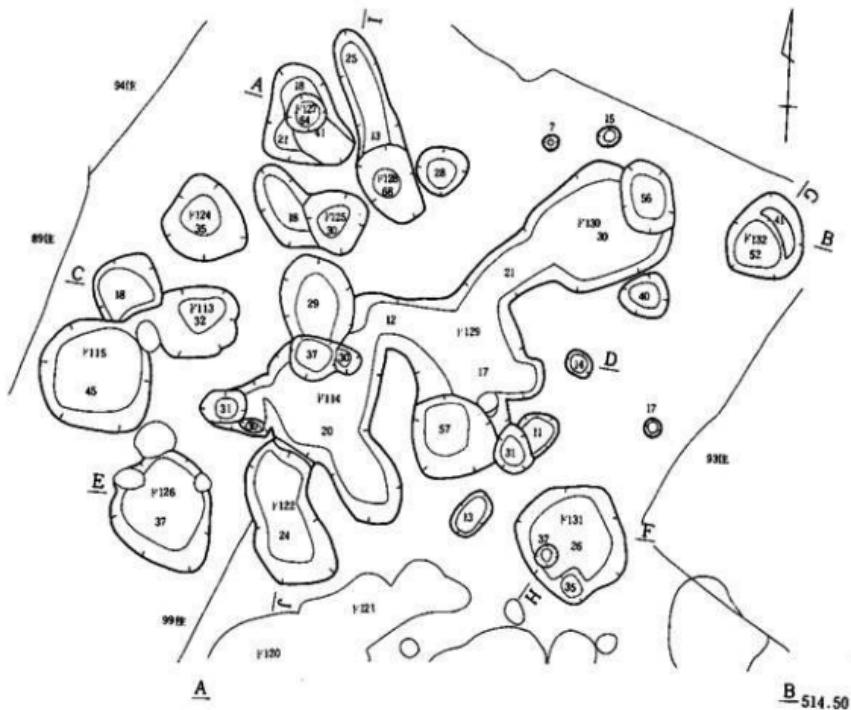
遺構 東側で0.8×0.5mの楕円形を呈する土坑と重複する。1.2×1.2mの丸味を帯びた方形を呈し、深さは30cmを測る。断面形は中央部が凹むナベ底状を呈する。

遺物 繩文時代の無文の土器片が出土した。

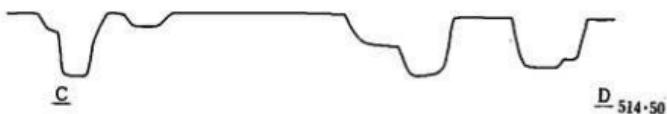
⑮ 土坑131（挿図124）

遺構 繩文時代の配石2の下で検出された。1.2×1.1mの丸味を帯びた不整方形を呈し、深さは26cmを測る。断面形は浅い逆台形を呈する。南西壁ぎわには、直径20cm前後の小穴が2本並ぶ。

遺物 繩文時代の無文の土器片が2点出土した。



A 514.50 B 514.50



0 2m

補圖124 土坑113・114・115・122・124・125・126・127・128・129・130・131・132

⑫ 土坑132（挿図124）

遺構 0.9×0.8mの楕円形を呈する。深さは、北東側で41cmの所で平坦面を持ち、52cmを測る。

断面形は逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑬ 土坑133（挿図125、第72図）

遺構 繩文時代の配石1の下にあり、繩文時代の土坑134に切られ、南西側で浅い穴と重複する。長軸の長さは切り合い関係のため断定できないが、1.4×1.0mの楕円形を呈し、深さは53cmを測る。断面形は深い椀状を呈し、やや緩やかな壁面をなす。

遺物 繩文時代前期終末の土器片が出土し、該期の遺構と考えられる。

⑭ 土坑134（挿図125）

遺構 繩文時代の配石1の下にあり、繩文時代前期終末の土坑133を切る。北東側で浅い穴と重複する。1.1×0.9mの楕円形を呈する。底部は北側で58cmの所で平坦部を持ち、0.7×0.7mの丸味を帯びた方形で再度落ち込む。断面形は基本的に深い台形を呈する。

遺物 繩文時代前期終末の土器片と繩文時代の無文土器片がある。

⑮ 土坑135（挿図125、第73図）

遺構 繩文時代の配石1の下にあり、繩文時代の土坑138・穴と重複する。直径1.2mの円形を呈し、深さ80cmを測る。断面形は箱形を呈し、ほぼ垂直の壁面をなす。壁ぎわには15~35cmの石が重なり合ってほぼ全面に入り、土坑中央部が円形に空白部分となる。断面観察によっても、空白部と周辺に違いが認められた。中央部に円形のものを置き、周囲を石で補強し、更に土を埋めたものと判断できる。底面はつき固められたかのように堅い。上面は配石1の中でも最もまとまりのあるI~IIIが乗り、何らかの関連が想定できる。

遺物 繩文時代前期終末土器片、同後期土器片があり、無文のものが多い。ほかに、黒曜石の剝片がある。

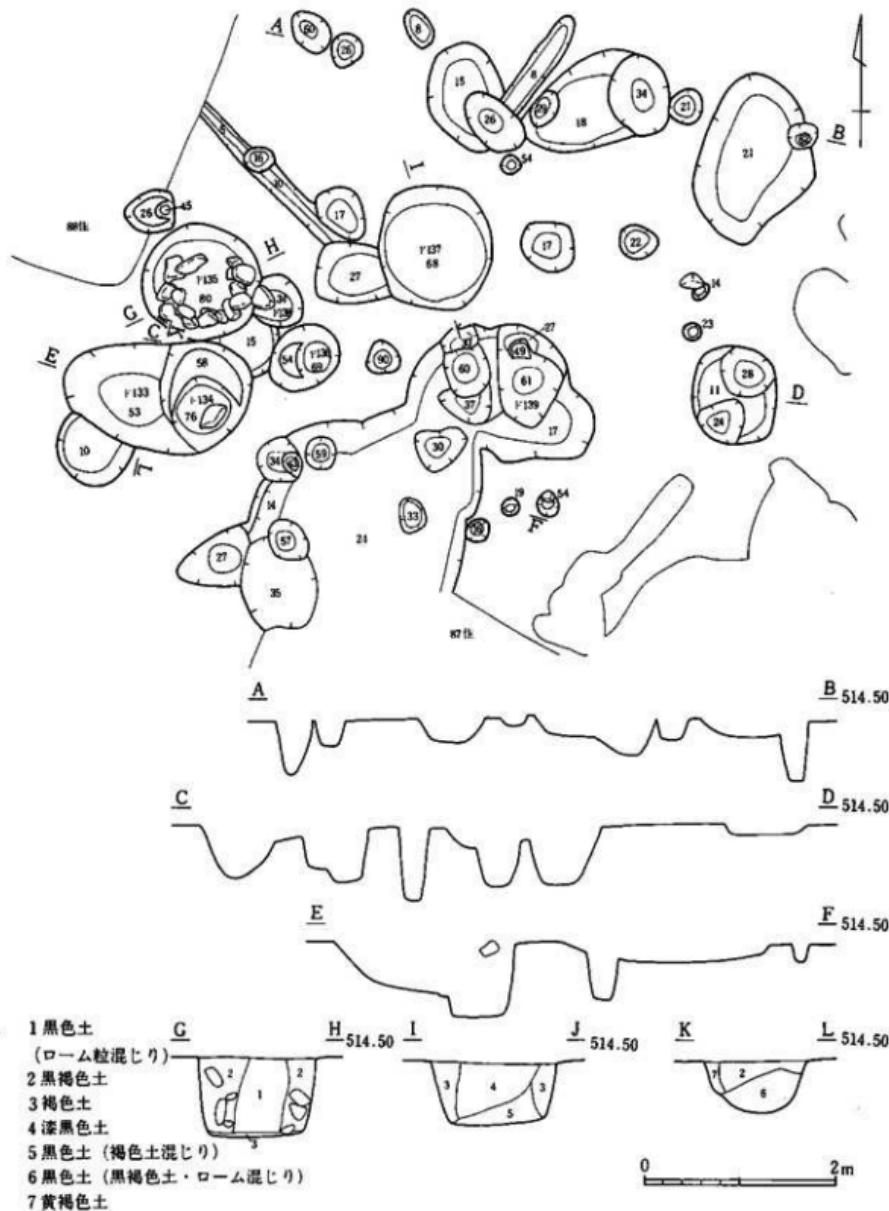
⑯ 土坑136（挿図125）

遺構 繩文時代の配石1の下にある。0.8×0.6m楕円形を呈し、底部は2段をなし、南西側が浅く54cm、ほかが69cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

出土遺物はない。

⑰ 土坑137（挿図125、第73・112・116図）

遺構 直径1.2mの不整円形を呈し、深さは68cmを測る。断面形は逆台形を呈し、北側がやや緩や



挿図125 土坑133・134・135・136・137・138・139

かな壁面をなす。

遺物 繩文時代前期終末の土器片・無文土器片・横刃型石器・円形石器・黒曜石剝片がある。

⑩ 土坑138（挿図125）

遺構 繩文時代の配石1の下にあり、繩文時代の土坑135、穴と重複する。0.6×0.5mの不整構円形を呈し、深さは34cmを測る。断面形は逆台形を呈し、西側には石が入る。

遺物 繩文時代前期終末土器片の小破片がある。

⑪ 土坑139（挿図125、第73図）

遺構 配石1の下にあり、周辺の小穴、土坑などと重複関係にあるため、連続した状態での遺構把握になり、プランに若干の問題を残した。0.9×0.8mのゆがんだ台形を呈し、深さは61cmを測る。北壁は27cm、49cmの所で段を持ち、小穴と重複関係にあった可能性がある。断面形は深い台形を呈する。

遺物 繩文時代前期終末の土器片が1点出土した。

⑫ 土坑140（挿図153、第73図）

遺構 繩文時代の配石1の下にあり、弥生時代後期の94号住居址に切られる。直径1.1mの円形を呈し、深さ70cmを測る。断面形は逆台形を呈し、やや緩やかな壁面をなす。底部には20~30cmの石が6個入り、中央部の中層には石皿がふせられた状態であり、西壁上層には立石状の石が出土した。覆土はほぼ同一であり、一気に埋められた可能性が強い。

遺物 底部から繩文土器の胴~底部が出土した。ほかに、前述した石皿があるが、熱を受けたためもろくなり、取り上げ時に破損し、固化はできなかった。

⑬ 土坑141（挿図153）

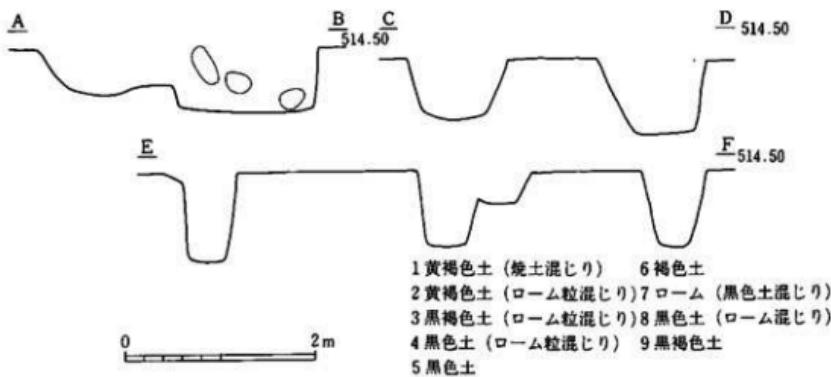
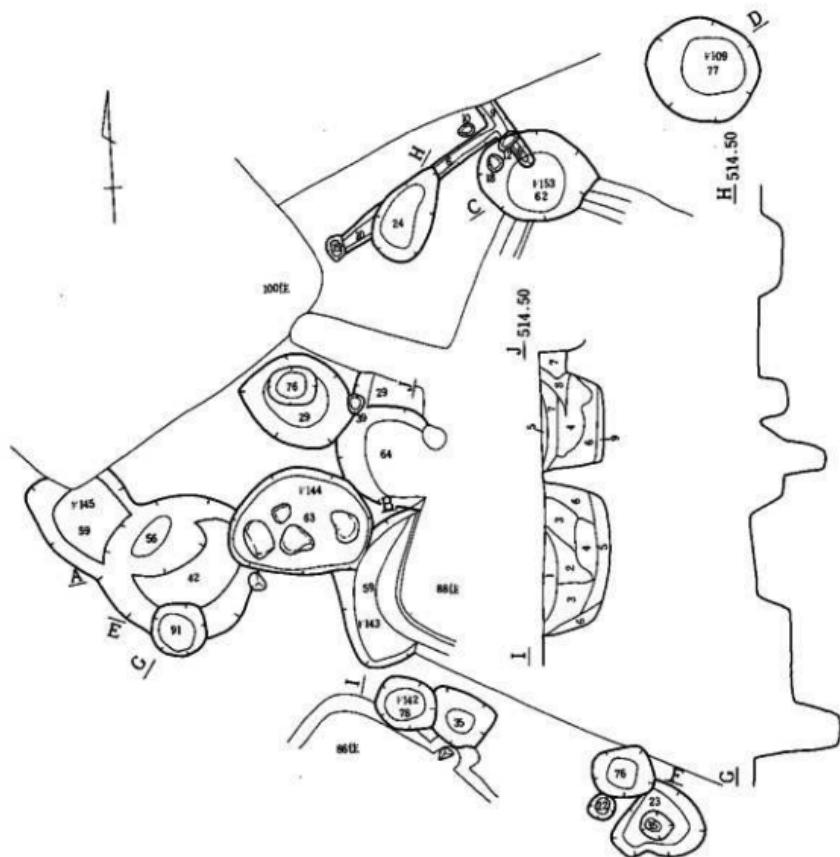
遺構 弥生時代後期の89号住居址に切られる。長軸の長さが1.1mの方形を呈し、北側が0.6×0.5mの構円形で深さ41cm、南側は深さ26cmで平坦面を持つ。断面形は逆台形を呈する。

遺物 繩文時代後期の無文土器片が2点出土した。

⑭ 土坑142（挿図126）

遺構 繩文時代の配石1の下にあり、弥生時代後期の86号住居址に切られ、東側で0.5×0.3mの方形を呈する土坑と重複する。0.6×0.5mの丸味を帯びた五角形を呈し、深さ78cmを測る。断面形は柱状を呈する。エレベーションE Fで示した1.4m離れた西側と東側に形状・深さ・覆土などが類似する土坑があり、何らかの関連が考えられる。

遺物 繩文時代中期後半の可能性の強い土器片が1点出土した。



挿図126 土坑109・142・143・144・145・153

⑩ 土坑143（挿図126、第112図）

遺構 古墳時代後期の88号住居址に切られ、縄文時代の土坑144を切る。切り合いのため全体形の確定はできないが、丸味を帯びた方形もしくは台形を呈すると考えられ、深さは59cmを測る。断面形は底部が丸味を帯びる台形を呈する。覆土は、ブロック状をなし、上面にかなりの焼土を認めた。

遺物 縄文時代中期後半の土器片を主体とし、打製石斧2点などがある。

⑪ 土坑144（挿図126、第73・112図）

遺構 縄文時代の配石1の下にあり、縄文時代の土坑143に切られ、西側に番号を付きなかったが土坑にも切られる。1.5×1.1mの不整規円形を呈し、深さは63cmを測る。断面形は箱形を呈し、垂直の壁面をなす。覆土はほぼ同一で、20~40cmの石が4個あり、西壁ぎわのものは立石状をなしている。意図的に入れられ、覆土も人為的に埋められたものと考えられる。

遺物 縄文時代中期後半の土器片、打製石斧などが出土した。

⑫ 土坑145（挿図126）

遺構 縄文時代の配石1の下にあり、弥生時代後期の100号住居址に切られ、南東側は直径1.6mの円形で、深さ42cmを測る土坑と重複し、同址に切られる可能性が強い。切り合いのため全体形は不明であるが、短軸の長さが1.0mの不整長方形を呈し、深さは59cmを測る。断面形は逆台形を呈する。

遺物 時期不明の無文土器片3点が出土した。

(山下誠一)

⑬ 土坑146（挿図127、第73図）

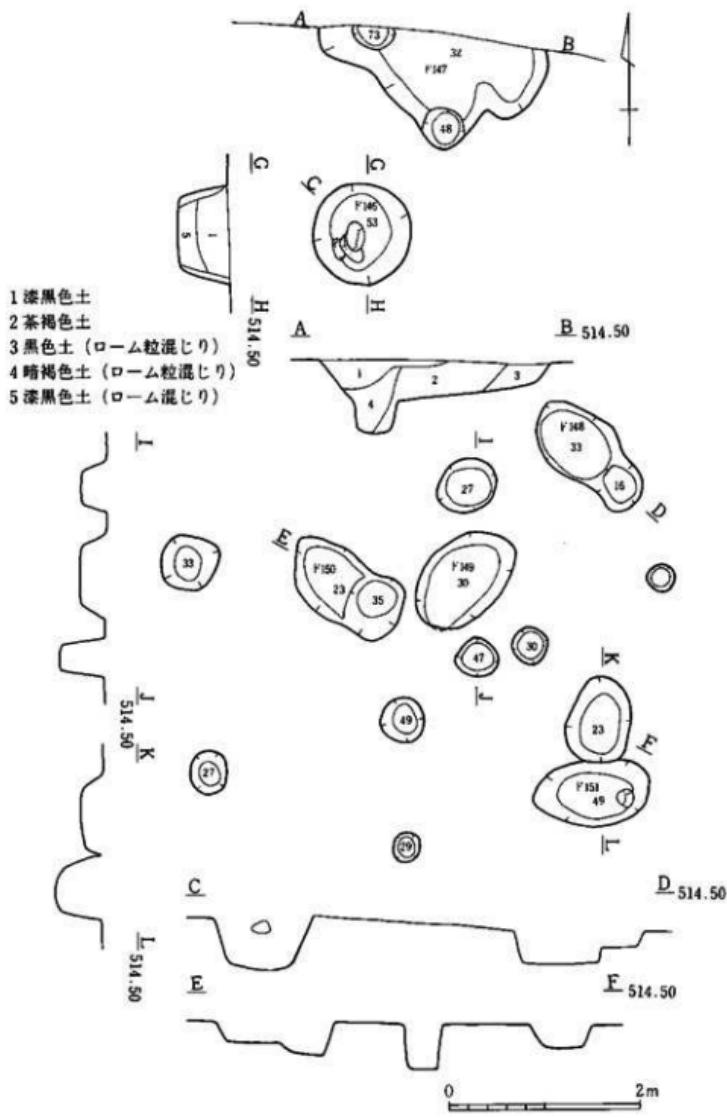
遺構 径100cmの円形で、深さ53cmを測り、ローム層まで掘られ、内部に人頭大の石3ヶが置かれる。

遺物 縄文時代後期初頭の土器片があり、条線文・沈線文等が施される。中期終末の結節縄文を施す土器片もある。

⑭ 土坑147（挿図127）

遺構 北側が用地外にかかる。長軸240cmで、三角形状をなすが全体形は不明である。深さ32cmを測り、ローム層まで掘られる。南隅と西隅に48cm・73cmの深さの穴がつく。

遺物はないが、形態等から縄文時代の土坑と考えられる。



挿図127 土坑146・147・148・149・150・151

⑩ 土坑150（挿図127、第74図）

遺構 土坑149の西に隣接し、 $130 \times 70\text{cm}$ のややゆがむ楕円形をなす。深さ23cm・35cmを測り、2段となってロームまで掘られる。

遺物 繩文のみを施した土器片があるが時期不明である。

出土遺物等から縄文時代の土坑である。

⑪ 土坑151（挿図127）

遺構 $120 \times 68\text{cm}$ の楕円形で、深さ49cmを測り、東隅に人頭大の石を置く。

遺物 縄文後期前半の土器片がある。

（佐藤魁信）

⑫ 土坑152（挿図153、第74・116図）

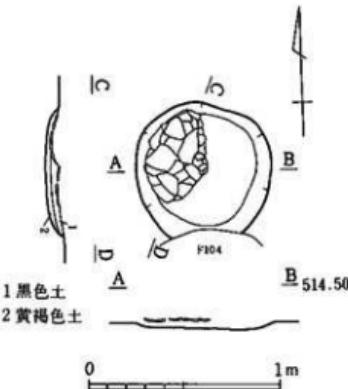
遺構 弥生時代後期の97号住居址、弥生時代以降の小穴に切られ、北側・東側は土坑と重複する。 $1.1 \times 1.0\text{m}$ の丸味を帯びた不整五角形を呈し、深さは60cmを測る。断面形は逆台形を呈し、やや緩やかな壁面をなす。

遺物 縄文時代前期終末の土器片が多く、黒曜石の剥片2点もある。

⑬ 土坑153（挿図126）

遺構 弥生時代以降と考えられる小溝・小穴に上面を、古墳時代後期の88号住居址に南を切られる。 $1.3 \times 0.9\text{m}$ の楕円形を呈し、深さは62cmを測る。断面は逆台形を呈し、やや緩やかな壁面をなす。

遺物 時期不明の無文土器の小破片が1点出土した。



挿図128 土坑154

⑭ 土坑154（挿図123・128、第74図）

遺構 縄文時代の土坑104と重複する。直径70cmの円形を呈し、深さは4cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。西側には、深鉢の調部片が、裏返しになって出土した。

遺物 縄文時代後期深鉢の無文調部片がある。配石の検出面より若干下がった位置で検出されたことを配慮すれば、当初の地表面は検出面より上層にあり、当時の地表面より円形の穴を掘り、底部に深鉢を置いたと考えられる。後の削平などによって壁高・深鉢とも失なわれ、底部付近が残ったものと考えられる。遺構の性格は、深鉢を使った墓の可能性がある。

④ 土坑155 (挿図123・129、第75図)

遺構 繩文時代の配石2の下から検出された。当初は配石の下に土器の口縁部がみられた。配石調査後下層を検出すると、埋設土器を伴う土坑であることが判明した。1.2×1.1mの楕円形を呈し、深さは西側で25cm、東側の深い部分で52cmを測る。土器は浅い西側の壁面に押しつけられるように埋められており、口縁部から底部まで残存するが、東側半分程を失している。断面調査時に土坑2基の重複を考えて検討したが、同一土層を呈し、重複とは考え難い状況であった。土層1の掘り込みを持つ土坑が掘られ、東側半分の土器が

こわされたことも考えられる。出土状況等から上面の配石2と何らかの関連を持つものと考えられる。2段の穴を掘り、その浅い方に完形の土器を埋め、東側も何らかの意味を持ち、その上に石を配したと考えられ、祭祀的な色彩が感じられる。

遺物 繩文時代後期前半の深鉢のほか、同後期初頭の土器片などがある。

(山下誠一)

(2) 弥生時代

① 土坑1 (挿図111)

遺構 102×74cmの楕円形で、深さ24cmを測り、褐色砂土に掘りこむ。

遺物の出土はなく、時期の断定はできないが、周辺の遺構との関係等から弥生時代後期と考えられる。

② 土坑2 (挿図111)

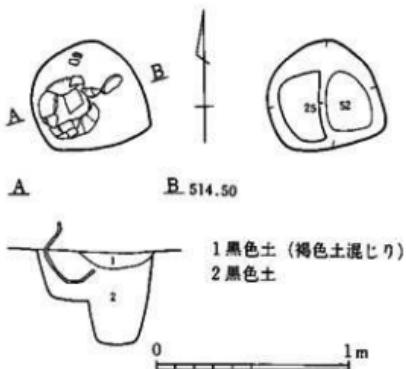
遺構 126×78cmの楕円形で、深さ19cmを測り、褐色砂土に掘りこむ。

遺物は検出されないが、周辺の遺構との関連等から、弥生時代後期後半の土坑と考えられる。

③ 土坑3 (挿図111)

遺構 140×96cmの楕円形で深さ31cmを測り、褐色砂土に掘りこむ。

遺物 繩文時代後期無文土器片があるが、弥生時代後期の土器小片3点もあり、弥生時代後期の土坑と考えられる。



挿図129 土坑155

④ 土坑8（挿図111）

遺構 168×78cmの隅丸長方形で、深さ15cmを測り、黄色砂土に掘りこむ。遺物はなく、時期の決定はできないが、形態及び周辺の遺構との関連等から、弥生時代後期と考えられる。

⑤ 土坑9（挿図111）

遺構 154×84cmの隅丸方形で、深さ19cmを測り、黄色砂土に掘りこむ。弥生時代後期の土器小片が出土し、この期の土坑である。（佐藤勝信）

⑥ 土坑21（挿図115）

遺構 118×114cmの丸味を帯びた方形を呈し、深さは30cmを測る。断面形はやや浅い楕状を呈する。

遺物 弥生時代後期甌の破片4点、抉入打製石庖丁1点・横刃型石器2点がある。（山下誠一）

⑦ 土坑58（挿図119）

遺構 150×74cmの楕円形で、深さ23cmを測り、ローム層に掘りこむ。弥生時代後期後半の土器小片が出土し、この期の土坑である。（佐藤勝信）

⑧ 土坑70（挿図121、第75図）

遺構 縄文時代の土坑69を切る。短軸の長さが58cmを測る丸味を帯びた方形を呈し、深さ15cmを測る。断面形は皿状を呈する。

遺物 縄文時代後期の無文土器片、弥生時代後期の壺頸部片がある。遺物から弥生時代後期と考えたが、検出状況からすれば縄文時代の可能性もある。

⑨ 土坑112（挿図130）

遺構 縄文時代前中期の99号住居址、縄文時代の土坑116を切る。1.9×0.9mの丸味を帯びた方形を呈し、深さは23cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は漆黒色土の單一層である。

遺物 縄文土器が14点と多く、弥生時代後期の土器片3点がある。縄文時代の土坑検出面より上で確認され、土層・出土土器からも弥生時代後期と考えられる。（山下誠一）



挿図130 土坑112

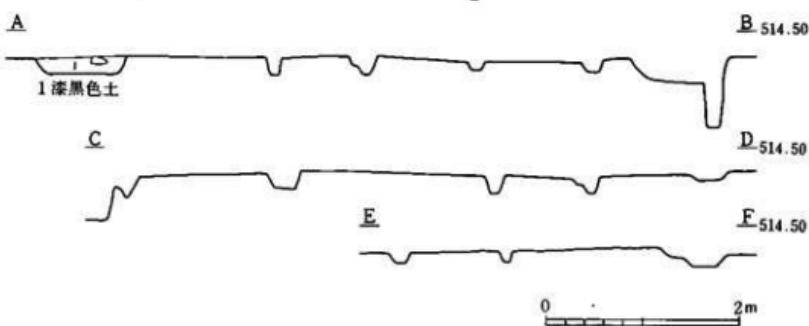
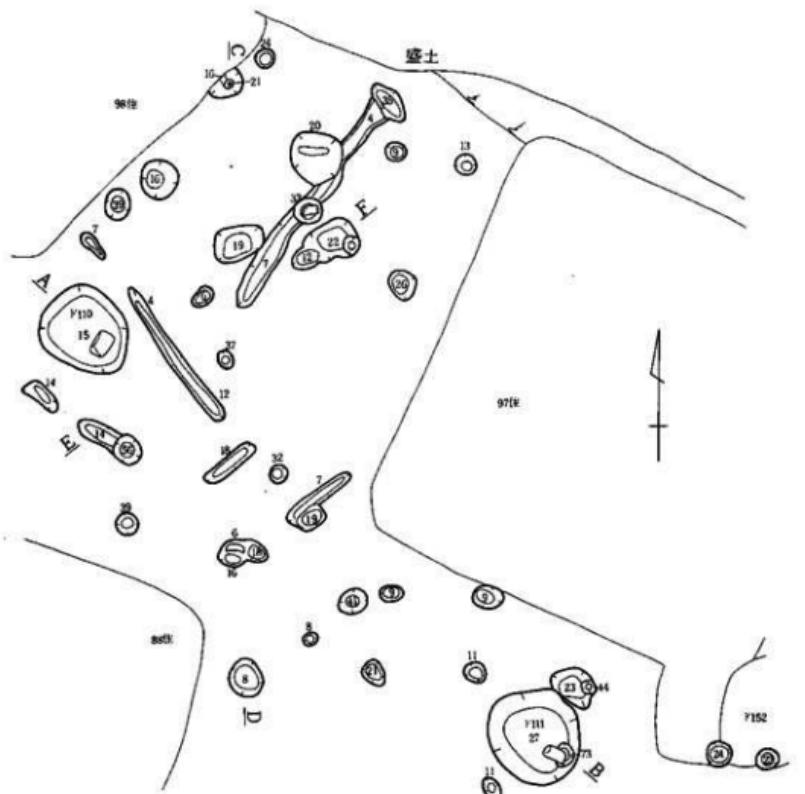


图131 土坑110+111

(3) 中世

① 土坑110 (挿図131)

遺構 1.0×0.8mの不整楕円形を呈し、深さは15cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。覆土は漆黒色土の單一で、南東側には20cm余りの石が入る。

遺物 沈線が入る中世陶器が出土した。

出土遺物から中世に比定される。

(山下誠一)

(4) 時期不明

① 土坑148 (挿図127)

遺構 136×76cmのゆがんだ楕円形で、深さ33cmを測り、2段となり、ローム層まで掘られる。

遺物 繩文土器の無文土器片・弥生土器甕片・横刃型石器がある。

時期は縄文時代の可能性が強いが、断定できない。

② 土坑149 (挿図127)

遺構 120×80cmの楕円形で、深さ30cmを測り、ローム層に掘りこむ。

出土遺物はなく、時期は不明であるが、縄文時代の可能性が強い。

(佐藤勝信)

3) 配石

① 配石1 (付図2、挿図132、第76・112・113図)

遺構 昭和60年度調査区のはば中央を横断する溝址3(旧河道)の東側に検出された。弥生時代後期の86号・87号・89号・94号・100号住居址、柱穴列1、古墳時代後期の88号住居址、弥生時代以降の溝址3、中世以降の柱穴に切られる。東側は溝址3に切られ、北側は水田造成のために削平されて段差がつき、なおかつ調査の土盛下となり、用地内全面の調査はできなかった。

配石の検出面は、弥生時代後期住居址を検出した茶褐色土上面からその上の黒色土層にかけてであり、縄文時代の土坑の検出面より上に遺構面すなわち当時の地表面があつたと考えられ、多少地表面を掘り凹めて石が置かれた可能性もある。100号住居址の南側から94号住居址の北東側にかけて、全体に弧状をなしながら連続するがその内5ヶ所のまとまりが見えられ、それぞれを配石1-I~Vとする。

配石1-I 100号住居址から86号・88号住居址の北・西隅の北西側の範囲である。100号住居址に切られているため全体形は不明であるが、10~40cmの石30ヶが、2.6×2.0mの範囲に散在している。南東側には立石がみられる。全体としての形状・性格等は不明である。

配石1-II 86号・88号の2住居址間の範囲である。両住居址に切られるため全体形は不明であるが、残存部分では40cm前後を主体に、石が16ヶ平坦面を上に列石状に並べられている。方向

はN68.5°Wを示す。全体形から北側の88号住居址に切られる部分は本来石ではなく、南側の86号住居址に切られる部分に連続して石が配された可能性が強く、孤状をなす内側の配石が残存したものと考えられる。

配石1-III 88号住居址南東隅の南東側の範囲である。88号住居址に一部切られているが、ほぼ全体が残存すると考えられる。一部に石のない箇所もあるが、10~60cmくらいの石が1.4×1.5mの方形に配され、中央部に大きな石を置き、中央部がやや高くなっている。各ブロックの中で最もまとまりを感じさせる。

配石1-IV 87号住居址の北側から柱穴列1の西側部分の範囲である。柱穴列1や小穴には一部切られるが、全体形はほぼ把えられたといえる。範囲内で2ヶ所の小範囲が把えられる。一方は北側部分で、50cm前後の大きな石を主体に、平坦面を上に列石状に並べている。方向はほぼN77.5°Eを示す。他の方は範囲内南側にあたり、3.0×4.0mの範囲に石が散在し、石の規模も30cm前後とやや小さいものが主体となる。範囲内において部分的に集石状や列石状となる箇所がみられる。なお、この北側には立石が倒れたかと考えられる石もみられる。配石1-IIIとIVの間に埋設土器1がある。

配石1-V 94号住居址の西側部分の範囲である。94号住居址、水田の造成に切られるため、全体形は不明である。残存部分で幅0.8m・長さ5mの範囲に30cm以下の石がまばらではあるが、列石状をなし、方向はほぼN37.5°Wを示す。

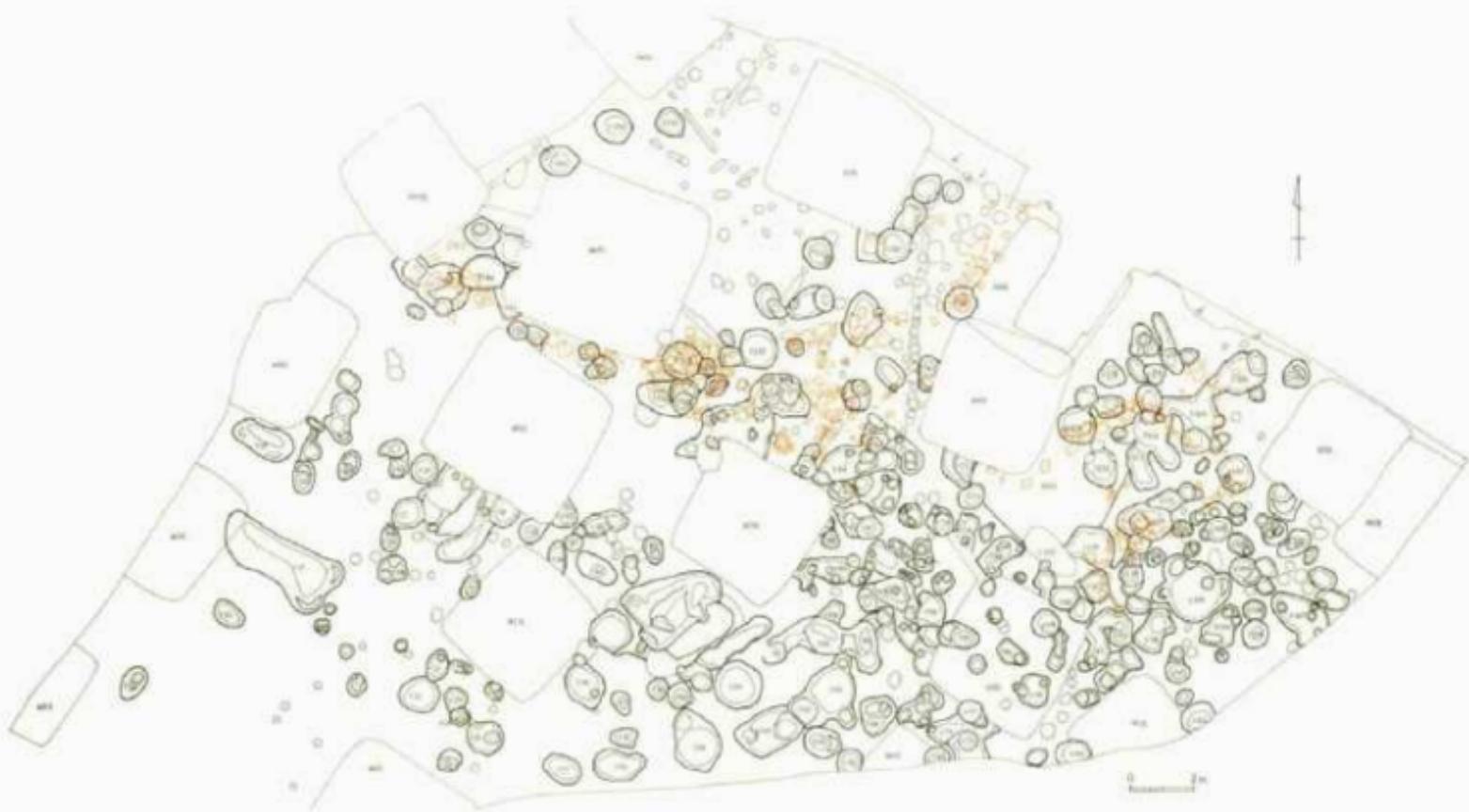
以上のように、大きくは5ヶ所のまとまりをみせながら、総体とすれば100号住居址の西側から94号住居址の西側にかけて、孤状をなしている。全体形を復元するには、未調査部と切り合い関係で失われた部分が多いため困難であるが、半径13m弱の環状もしくは孤状をなしていたと考えるのが自然であり、環状とすれば全体の1/3ほどが明らかにできたと考えられる。

遺物 直接結び付くと考えられる遺物は少ないが、配石1-IIIの石の間から出土した砥石(113-3)、配石1-IVから出土した磨製石斧(113-2)などがある。土器は石の間などからの出土で破片を主体としており、遺構の時期を決定し得るものはない。

② 配石2 (付図2、挿図132、第77・113・116図)

遺構 配石1の南東側、89号・91号・93号住居址の間に挟まれた箇所で検出された。弥生時代後期の89号・91号・93号住居址、土坑103に切られる。検出面は配石1と同様に黄褐色土から黒色土層にかけてであり、当時の地面面に置かれていた可能性が強い。全体とすれば、5.0×8.0mくらいの範囲に2ヶ所のまとまりが考えられ、それぞれに配石2-I・IIとする。

配石2-I 89号住居址東側部分でL字状をなす。89号住居址南側部分を基点にして北西方向へ4.7m、南西方向へ2.8m検出された。89号住居址南側部分で40cm前後の石が2ヶ並び、そこから30~50cmくらいの石を用いて2重もしくは3重の列石としている。南西側へほぼ90°曲がり、直線的に1列に配石される。いずれも偏平な石の平坦面を上面にして並べられている。



图四二二 西周都城平面图

配石 2-II 91号住居址南東側部分から98号住居址北隅北西側部分の範囲である。全体としては 2.2×5.6 mの範囲であるが、その中でさらに2ヶ所のまとまりが考えられる。1つは91号住居址南東側部分で、 1.2×3.4 m範囲に、10~40cmの石が置かれる。もう1つは93号住居址北東部分で、30cm前後の石が7ヶ所散在し、その中央部には立石と考えられる石が置かれる。規則性が薄く、石が抜かれている可能性があり、両者が一体をなしていたものかもしれない。なお、西側のまとまりの最も南東側の石の下には埋設土器を伴う土坑155があり、配石との関連や時期を検討する材料となる。

配石 2 の全体規模は、切り合ひ関係が著しいため原形の復元は困難であるが、石の配置状況からみて、これ以上の規模は想定しにくい。しかし、他遺構に切られた部分に配石が存在していた可能性は強く、何らかの意味を持つ施設であったと考えられる。

遺物 直接結び付くと考えられる遺物はないが、石の間などから、土器片、石器が出土した。

(山下誠一)

4) 埋設土器

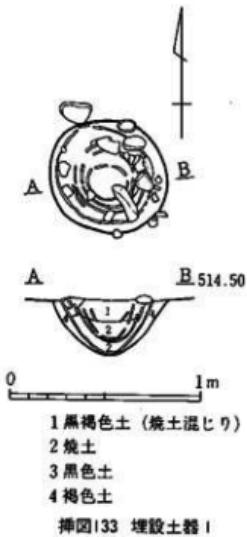
① 埋設土器 1 (挿図133、第78・79図)

遺構 配石 I の III・IV の間、87号住居址の北側で検出された。配石の検出面とほぼ同一の黄褐色土層から直径58cmの円形に掘り凹められ、その中に、外側から 53×47 cm・ 37×28 cm・ 30×28 cm・ 20×18 cmの部分的には断続する箇所が認められるが、円もしくは椭円形に深鉢が埋められ、基本的に4重をなしている。しかし、部分的にみれば4重以上の箇所も認められた。部内には厚く焼土が認められ、かなりの火の使用をうかがわせた。

遺物 埋設土器としていた6ヶ体の縄文時代後期の深鉢がある。3ヶ体が底部から胴部まで残存し、残り3ヶ体は胴部片で、文様は無文4ヶ体、沈線と縄文を持つものが2ヶ体である。

周囲にみられる配石や土坑と密接な関連を持ち、居住空間における火使用、煮たきのための施設というよりも、祭祀的な性格の強いものと考えられる。松川町前田遺跡(酒井・(2) 横井1982)、正永寺原遺跡など、配石を伴う遺跡に同様な例がみられる。

(山下誠一)



挿図133 埋設土器 I

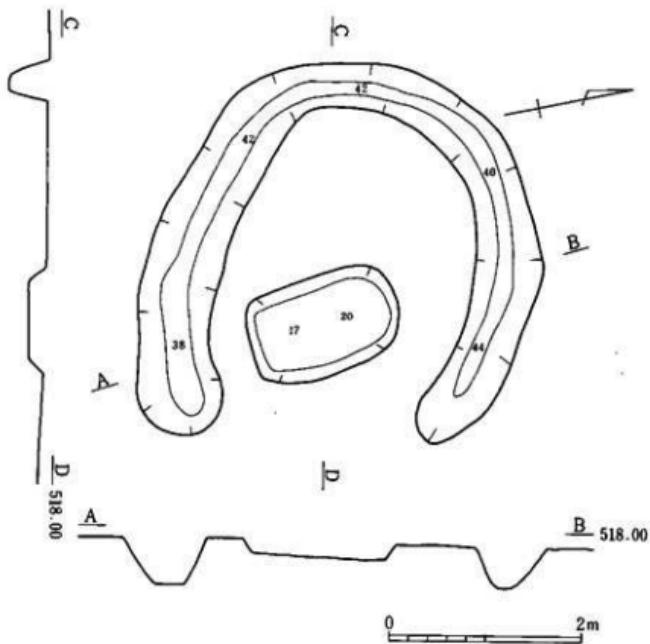
5) 円形周溝墓・方形周溝墓

① 円形周溝墓 1 (挿図134、第113図)

遺構 №34・35センター杭の中間にあり、完掘する。径4.0cmの馬蹄形に溝をめぐらし、南東側が幅2mの断絶部となり、土橋状となる。長軸方向はN70°Wを示す。円溝幅50~75cm・深さ40~50cmを測る。黄色砂土に掘りこむ。主体部は土橋状部の北西にあり、160×100cmのややゆがむ隔丸方形をなし、深さ20cmを測る。

遺物 土器は弥生時代後期後半の小片の出土をみたのみである。石器は快入打製石包丁1点が溝覆土より出土した。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される遺構と考えられる。



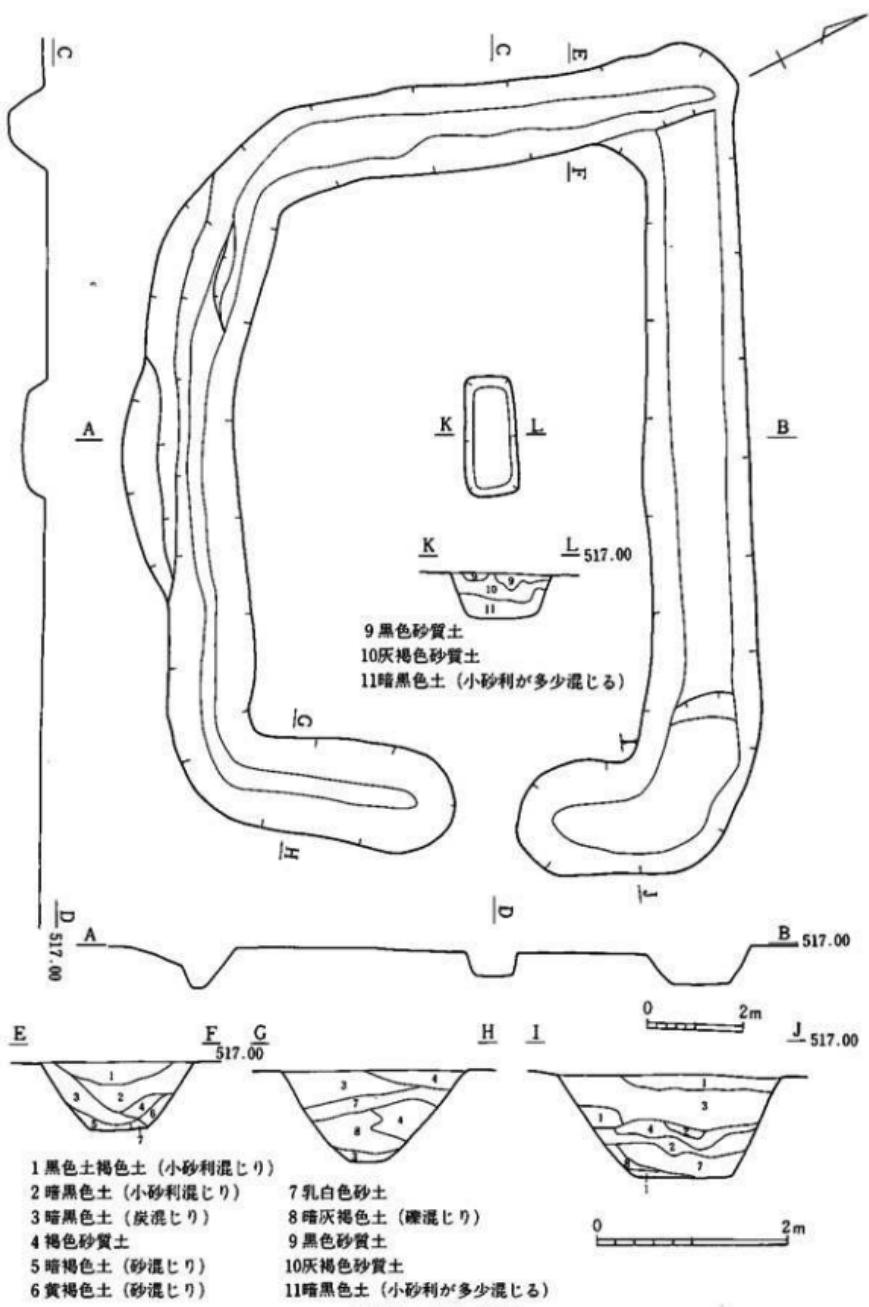
挿図134 円形周溝墓 1

② 方形周溝墓 1 (挿図135、第80・81・113図)

遺構 №36センター杭の北3mにあり、北側は毛賀沢川の川岸にかかるが、全体を調査した。全体形は12.5×16mのややゆがんだ隔丸方形である。周溝規模は最小幅1.5m・最大幅2.3m、平均的には2m前後の幅をもち、深さは南東100cm・北75cm・西80cm前後を測る。東側に幅1.4mの土橋がつく。主軸方向はN62°Wを示す。周溝覆土は場所によって異なるが、黒色砂土・黒褐色砂土・暗褐色砂土が主体となり、下層に炭混じりの暗黑色土・暗褐色土砂利混じりの暗褐色土等の堆積が認められた。周溝の掘りこみは、小砂利混じりの黄色砂土及び乳白色砂土まで達していた。

溝内からの遺物出土状態としては、各隅部を主体に壺・甕等が出土した。

主体部は中央のやや北西にあり、110×245cm・深さ50cmの隔丸長方形をなす。覆土は黒色砂土・



地図135 方形周溝墓!

灰褐色砂土・暗黒色土（小砂利混じり）で、暗灰褐色砂土に掘りこむ。遺物の出土はみられなかった。

遺物 土器には壺1ヶ体分があり、壺の図になるもの2点高杯脚部1点等の出土をみる。石器には有肩扁状形石器2ヶがあり、1ヶは溝底に付き、他は覆土より挿入打製石包丁1点が出土した。

出土遺物から弥生時代後期後半に比定される遺構である。

（佐藤赳信）

6) 囲溝址

① 囲溝址1（挿図136、第113図）

遺構 南側がわずかに用地外にかかるが、ほぼ完掘した。5.8×7.4mの長方形を呈し、幅18~27cm・深さ14~20cmの溝で囲む遺構である。黒褐色砂土に掘りこみ、覆土は黒色土である。溝南隅に径50cm・深さ18cmの掘りこみが、溝西隅は35cmの円形の穴がある。溝内側には深さ10~20cmの穴が19ヶある。これら溝ぎわのものは直線的に並び、内部のものについて規則性は認められない。いくつかの穴については、二重の掘りこみをなす。囲溝内側の穴については性格等不明で、今後の検討課題であり、調査範囲内にかなりの性格不明の柱穴群も存在しており、本遺構と切り離して扱るべきものとも考えられる。

出土遺物はほとんどなく、打製石斧1点が上層より出土したのみで時期の断定はできないが、土層等から弥生時代後期の遺構と考えられる。

② 囲溝址2（挿図137、第113図）

遺構 弥生時代後期終末の30号住居址に切られ、南側は用地外にかかる。全体の半分程を調査した。北西辺6.3cmを測り、幅18~25cm・深さ25~30cmを測る溝で囲む遺構と考えられるが、全体形は不明である。方形ないしは長方形に黄色砂土に掘りこまれる。囲溝内側に4ヶの浅い穴がある。

遺物 有肩扁状形石器・挿入打製石包丁が各1点ある。

出土遺物・土層等から弥生後期後半の遺構と考えられる。

③ 囲溝址3（挿図138、第81・114図）

遺構 弥生時代後期後半の33号・34号住居址に切られ、北東側は水田造成時に削平され、全体を把握することはできなかった。6.8×5.0mの範囲に黄褐色砂土、黒色土が溝状に掘られる。幅15~30cm・深さ10~20cmの溝により4~5ヶのゆがみのある矩形状に区画している。しかし、未調査部分及び他遺構と重複する部分における形状が不明な点はあるが、連続する区画といつても溝の途切れる箇所があり、それぞれの形態は一様ではない。全体形及び溝址の形状からみて、各区画が個々で存在したものとは考え難く、連続する各区画全体で一つの施設と考えられる。当地方における類例はほとんどなく、しいて挙げれば、本調査も含め近年弥生時代後期集落内から発

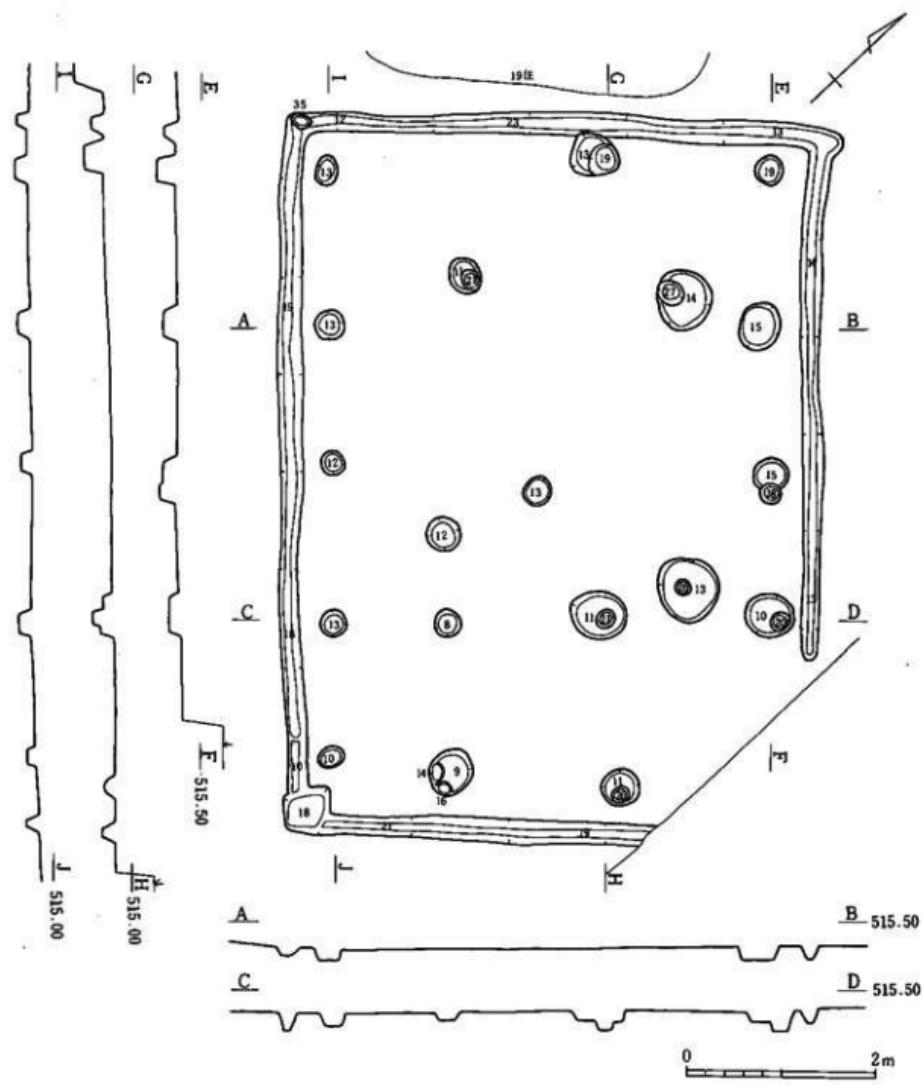
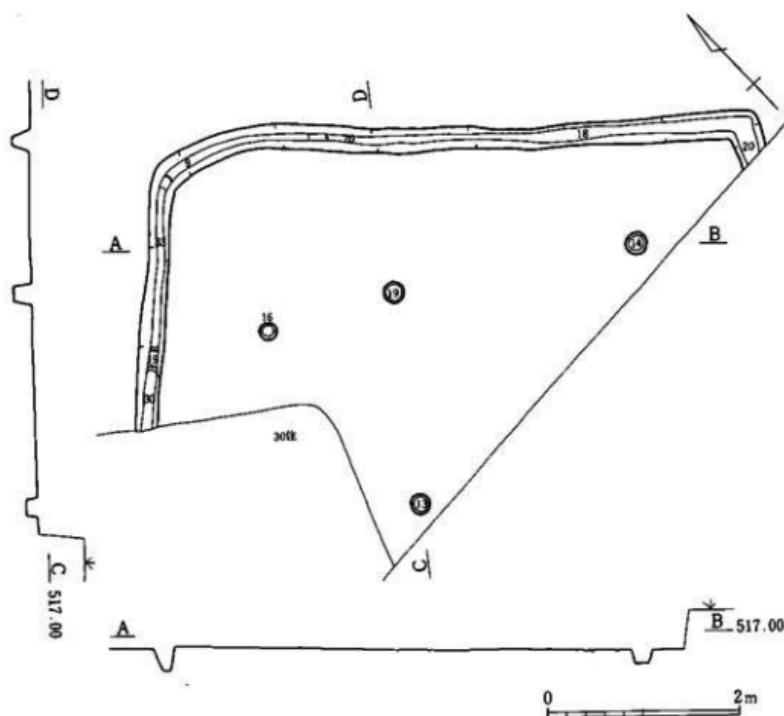


插图136 圆沟址 I

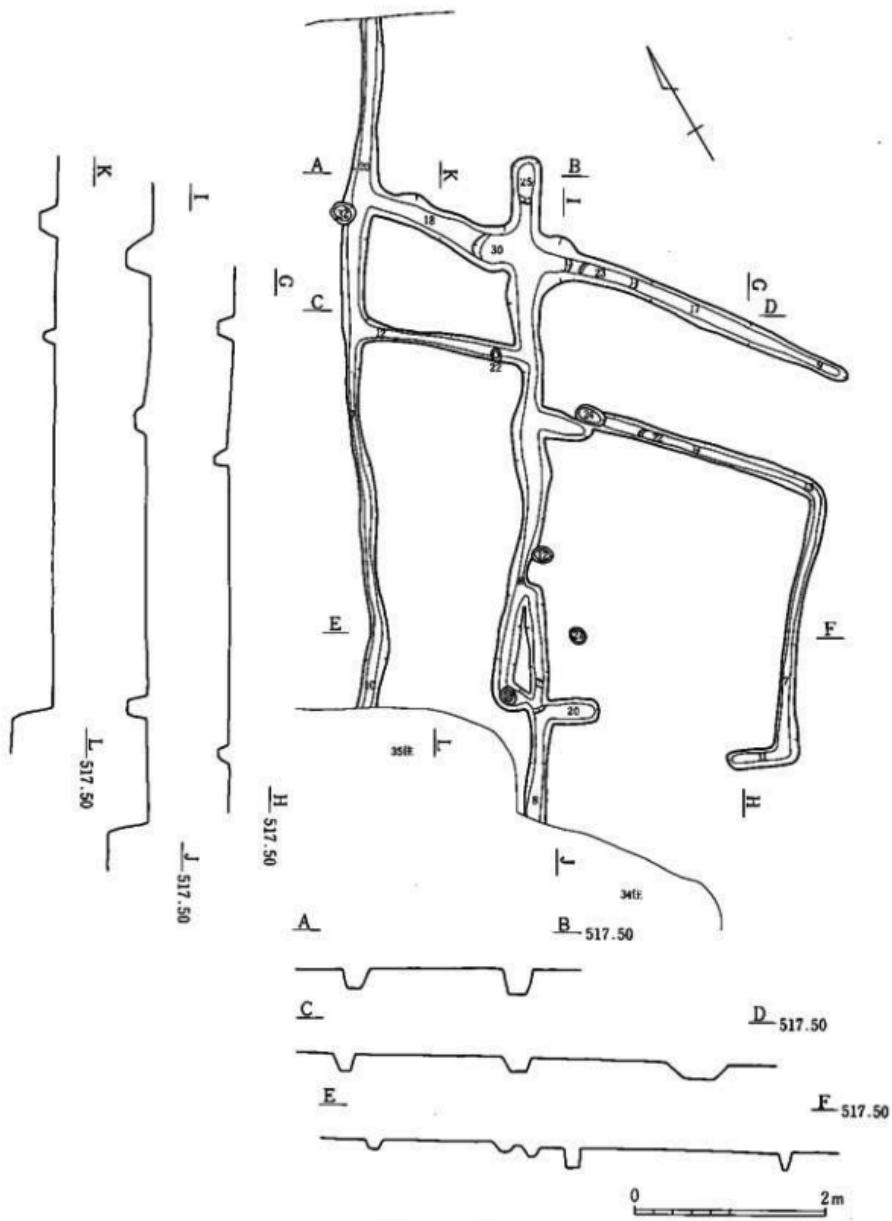


挿図137 囲溝址 2

見されている。長方形の区画施設である圓溝址があるが、性格の異なる遺構と考えられる。本例のように連続的に認められる例は本調査による圓溝址 4 と合わせ 2 例のみである。具体的に本遺構の性格等について結論づけることは困難であり、集落内での位置等総合的に判断しなければならないことはいうまでもないが、一つの可能性として、集落内における耕地の区画であるとも考えられる。他遺跡における類例の増加が望まれる遺構といえる。

遺物 弥生時代後半の土器小片、打製石斧 1 がある。

出土遺物がわずかであり、時代の決定は困難であるが、土層状態等から、弥生時代後半に比定されると考えられる。

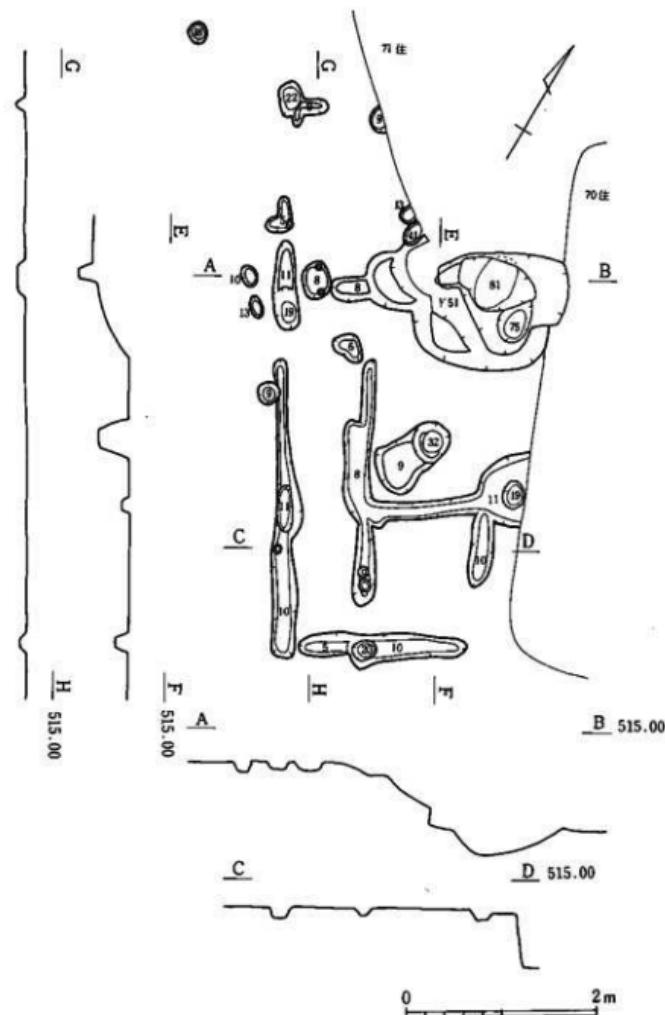


摺図138 圈溝址3

④ 囲溝址 4 (挿図139)

遺構 弥生時代後期後半の71号住居址、古墳時代後期の70号住居址等と重複し、全体形は不明であるが、確認範囲内において $5.8 \times 2.2\text{m}$ の長方形に、幅30~12cm・深さ10~15cmを測る溝で区画された遺構である。基本的には外溝と内溝の2本による区画があり、いずれも断続的ではあるが、連続し矩形をなす。外溝のみであれば、前記の囲溝址1・2と共に通するが、南側の内溝から外溝に向か枝状に伸びる溝があり、各所に小穴が点在することなどと合わせ、囲溝址3との共通性も認められる。住居址等他の遺構との重複もあり、全体形等が不明であり、時期・性格等を断定することはできないが、確認された状況と他の類似遺構との関連から、弥生時代後期に位置づく可能性が強い。

(佐藤勝信)



挿図139 囲溝址 4、土坑51

7) 溝址

① 溝址1 (挿図140)

遺構 弥生時代後期の36号住居址の南に隣接し、ほぼ南北方向の溝址である。長さ11.1m・幅2~1.5m・深さ40~50cmを測り、黄色砂土に掘りこむ。南北の両端は、中央部より10cm前後深い掘りこみとなる。

弥生時代後期後半の甕片が出土しており、この期の遺構と考えられる。

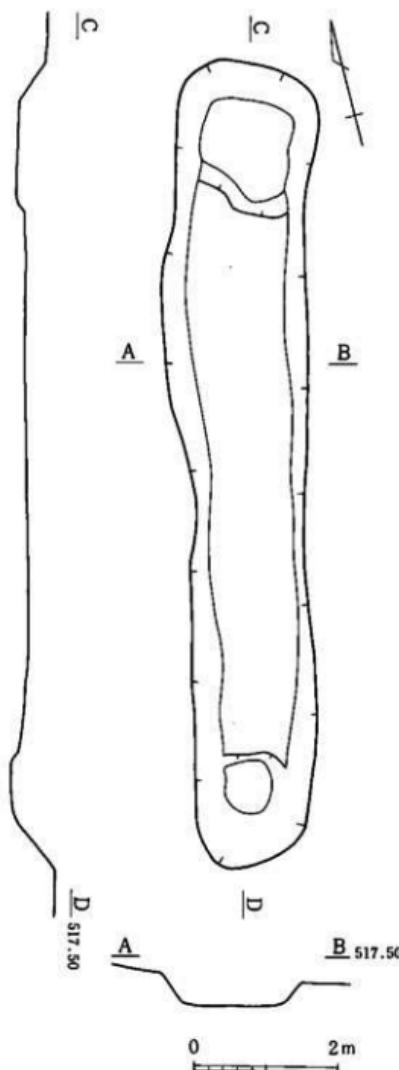
② 溝址2 (挿図141)

遺構 弥生時代後期後半の96号住居址を切り、北西側は用地等の関係から未調査となつた。全体的には幅65cm前後、深さ北西側で19cm、南西側で12cmを測るが、幅47~55cmのくびれ部が2ヶ所ある。南東端部は屈折し終結するが、深さ14cm~18cmと二段に掘りこみ、内部に小さな深さ20cm、27cmの穴がつき、他遺構との重複の可能性もある。

遺物はなく、弥生時代後半の96号住居址を切っており、それ以降の遺構であるが、時期の確定はできない。

③ 溝址3 (挿図142、第82・83・114図)

遺構 №44センター杭の東に位置し、旧河道の流路である。南側の段丘崖下から蛇行する流路跡が一段低位の水田となって認められる。調査範囲での延長は26mで、中程の7mが未調査となった。また、現在の用水路が斜めに上部をとおっている。幅8~12m・深さ最深150cmで底は砾層となる。壁面は両側が急に落ちこみ、東側は緩やかな段をもつ。地質学上にいう流路の蛇行により西岸は突撃斜面



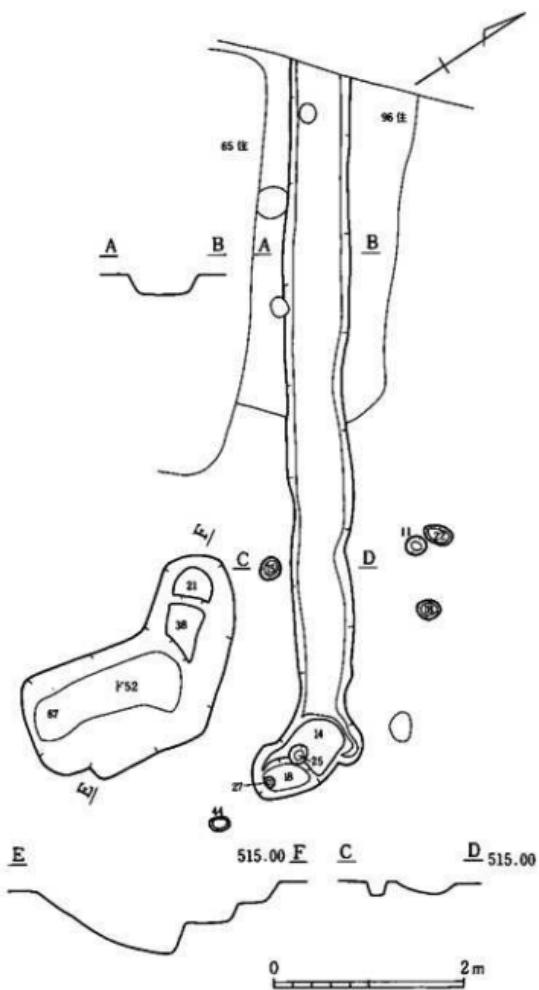
挿図140 溝址1

をなし、東岸は滑走斜面をなすものと考えられる。長期にわたる毛賀沢川の旧流路の1つと考えられる。

覆土は黒色土・黒色砂土・青味がかった黒色砂土・褐色砂土・暗黒色砂土・暗褐色土（ローム混じり）・漆黒色土・褐色砂土・黄褐色砂疊層となり、相当量の流水のあったことを示している。

遺物 繩文時代前期土器片1点・中期後半土器片2点、後期初頭前半土器片多数、弥生後期後半土器多数が中層から底部にかけて出土した。上層部から土師器壺1、須恵器片1点が、西岸上部から中世白磁片が出土した。弥生時代後期終末の72号住居址を切っており、それ以後の遺構であり、平安時代～中世前半の時期までにわたると思われる。

（佐藤勝信）



挿図141 溝址2、土坑52

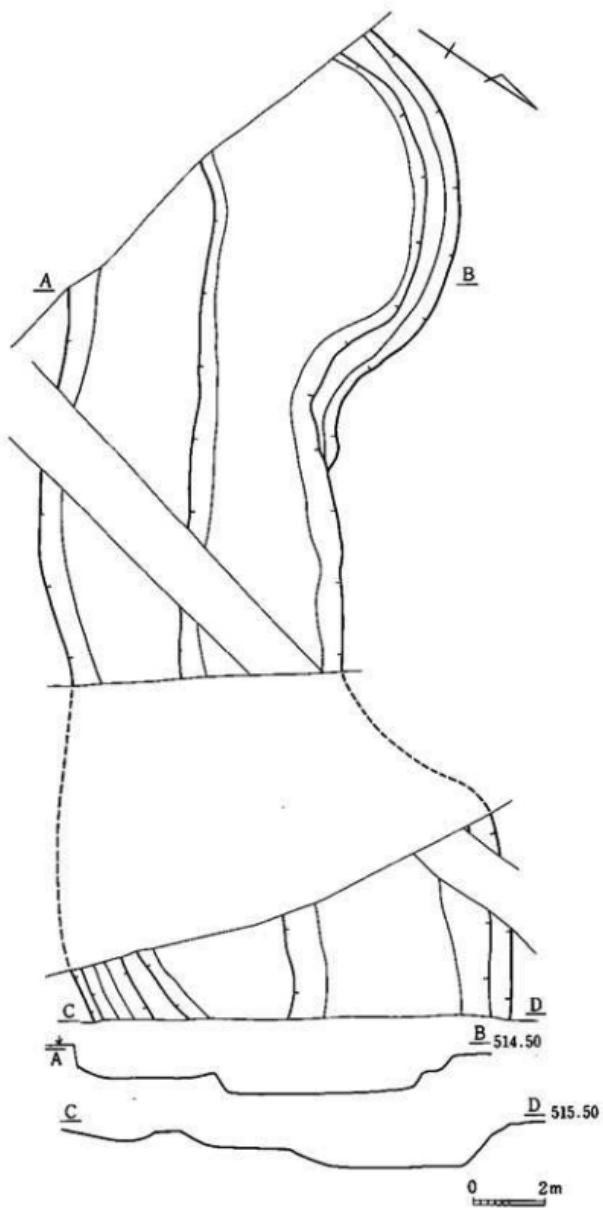


图142 满址 3

8) 建物址

① 建物址（挿図143）

遺構 弥生時代後期後半60

号住居址の北西に隣接し $3.0 \times 2.3m$ の長方形の2間×2間の建物址である。柱穴は黄色砂土に掘りこまれ、各柱穴位置は若干のゆがみをもつ。

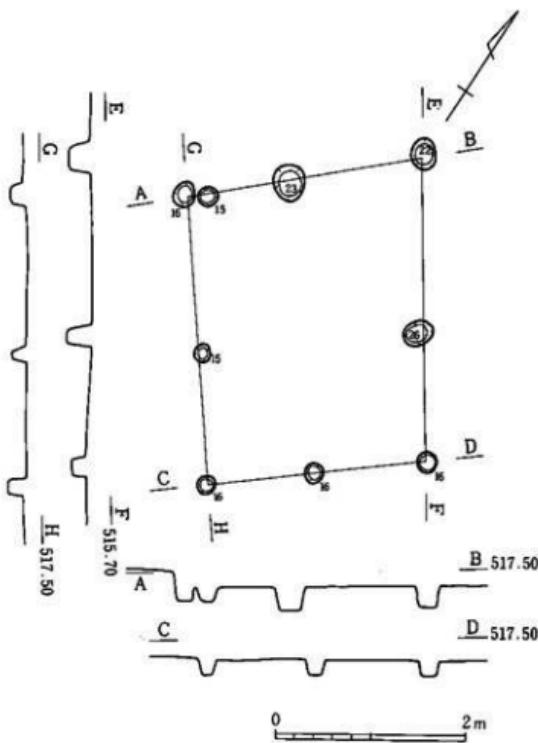
出土遺物はなく、時代の決定はできないが、柱穴内覆土等から中世とみられる。

② 建物址2（挿図144、

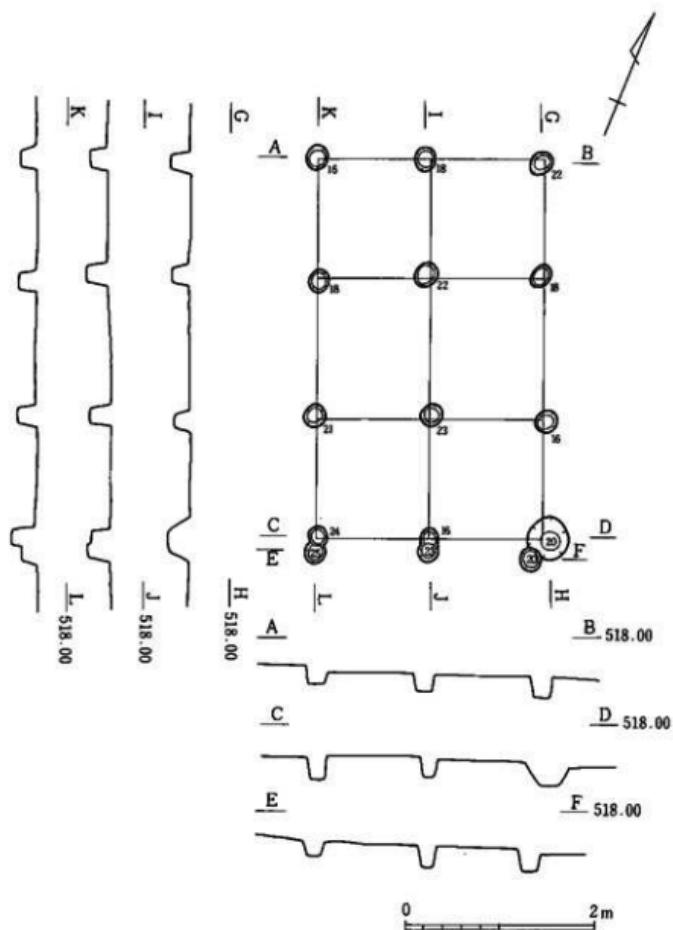
第83図）

遺構 弥生時代後期の1号住居址に隣接し、 $4.0 \times 2.5m$ の長方形で、2間×3間に束柱を有する総柱の建物址である。柱穴は黄色砂土に掘られる。

遺物 土師器甕片があるが、山茶碗が出土しており、中世前半期の建物址と考えられる。



挿図143 建物址1

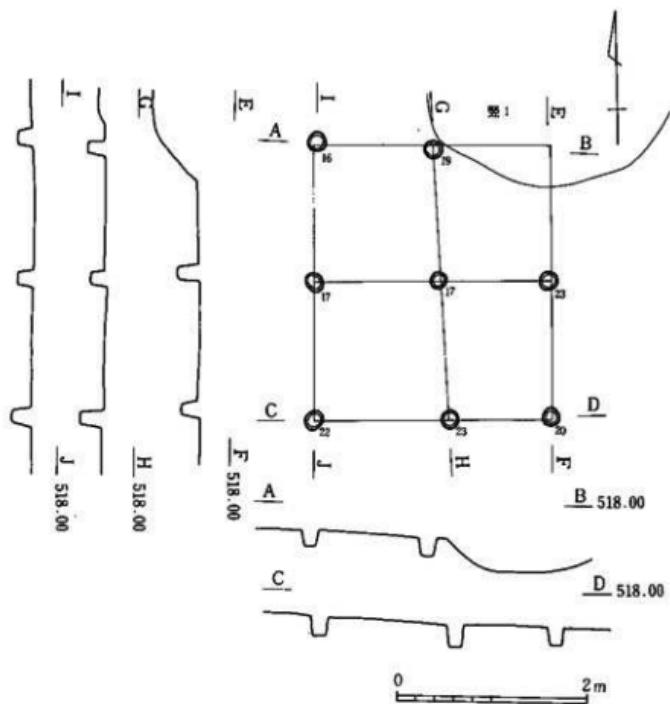


挿図144 建物址 2

③ 建物址 3（挿図145、第83図）

遺構 No.35センター杭の北になり、竪穴状遺構1と重複する。 $2.8 \times 2.5m$ を測る長方形で2間×2間の東柱を有する総柱の建物址である。黄色砂土に埋られ、北東隅1個は竪穴状遺構のため未確認である。柱穴の位置は全体として規則的であるが、南側中間の穴のみズレがある。

遺物 土師器片、弥生時代後期後半の土師器片がある。



挿図145 建物址 3

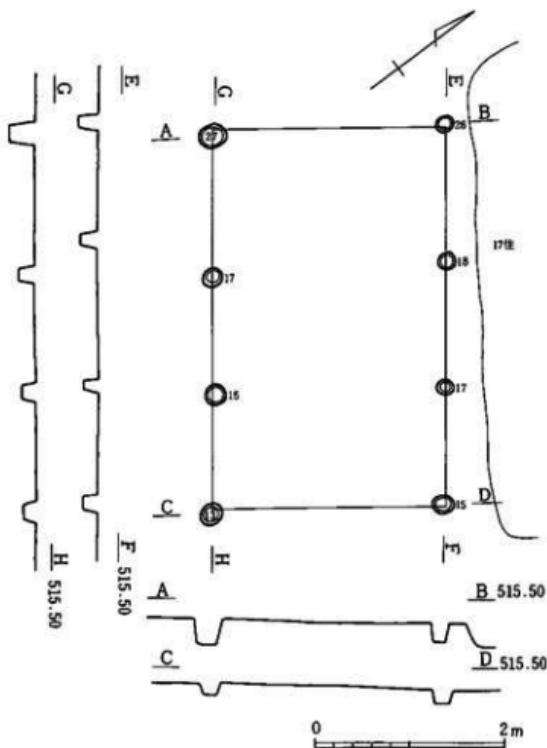
出土遺物が少なく、時期の決定は困難であるが、土層等の状況から弥生時代後期以降の遺構と考えられる。

④ 建物址 4（挿図146、第83図）

遺構 弥生時代後期後半17号住居址の南西に隣接する。4.0×2.5mの長方形で、3間×1間の側柱のみの建物址である。

遺物 中世スリ鉢片1点がある。

中世前半以降の建物址と考えられる。



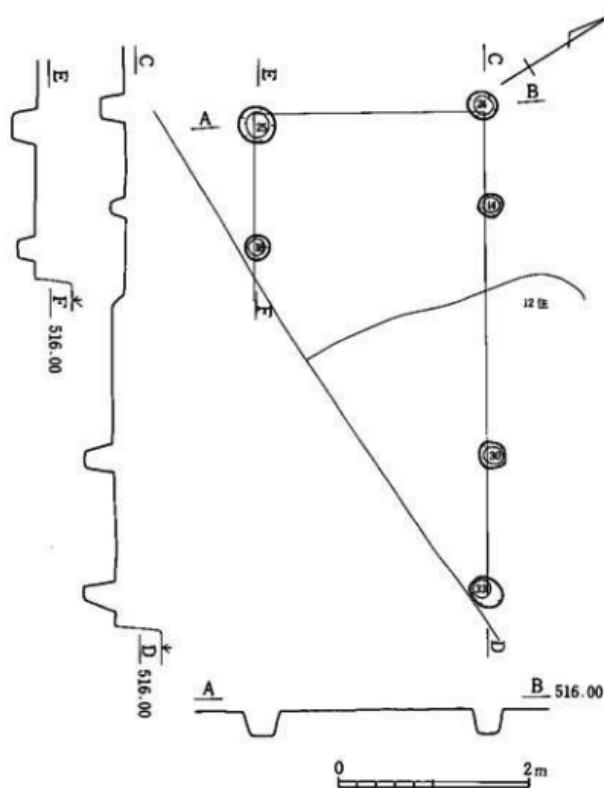
拵図146 建物址 4

⑤ 建物址 5 (拵図147、第83図)

遺構 弥生時代後期の12号住居址を切る。柱穴は黒褐色砂土に掘りこみ、覆土は黒色土で埋まる。南側約1/2は用地外で未調査である。調査範囲内で4.9×2.4mの長方形で、3間×1間の建物址で、柱間は不規則である。

遺物 山茶碗片が出土したのみである。

中世前半以降の建物址と考えられる。



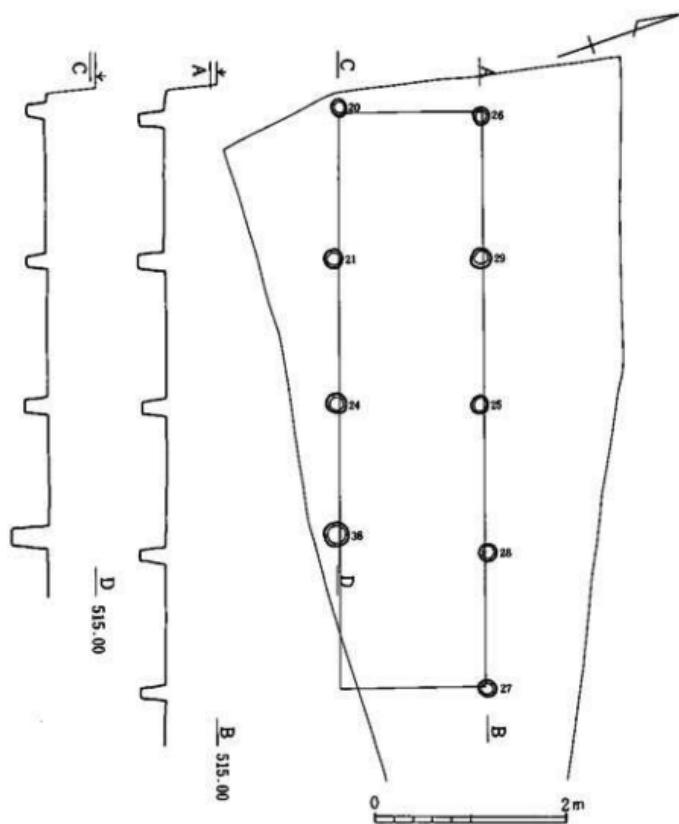
挿図147 建物址5

⑥ 建物址6（挿図148）

遺構 Na43南境界柱の東側にあり、一部用地外となり、北側は信南交通KKバス置場のため削平され、不明である。確認範囲では $5.9 \times 1.5m$ を測り、1間×4間の柱穴を柱間1.5mの等間隔に検出した。この確認した全体形がかなり縦長くなり、用地外の南もしくは削平された北側に建物範囲が伸びる可能性があると考えられる。

遺物 山茶碗が主体となり、盞明皿片1点もある。山茶碗の胎土は砂粒を含みやや粗く、高台に楕殻痕がつかない。

出土遺物等から中世前半以降の建物址である。

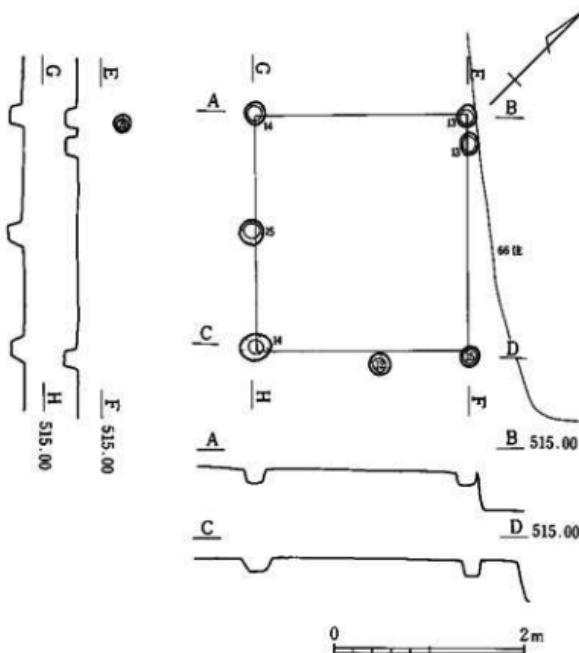


挿図148 建物址 6

⑦ 建物址 7 (挿図149)

遺構 弥生時代後期の66号住居址の南西に接してあり、 $2.4 \times 2.2m$ 、1間×1間を確認したが、周辺にいくつかの穴があり、東側の66号住居址内に延長部の存在も予測され、全体形の断定はできない。

遺物はなく、時期は不明であるが、周囲の状況等から中世前半以降と考えられる。



挿図149 建物址 7

⑧ 建物址 8（挿図150）

遺構 土坑11の南東に隣接し、 $2.8 \times 2.4\text{m}$ を測り、2間×1間の建物址である。

出土遺物はなく、周囲の状況等から中世前半以降と考えられる。

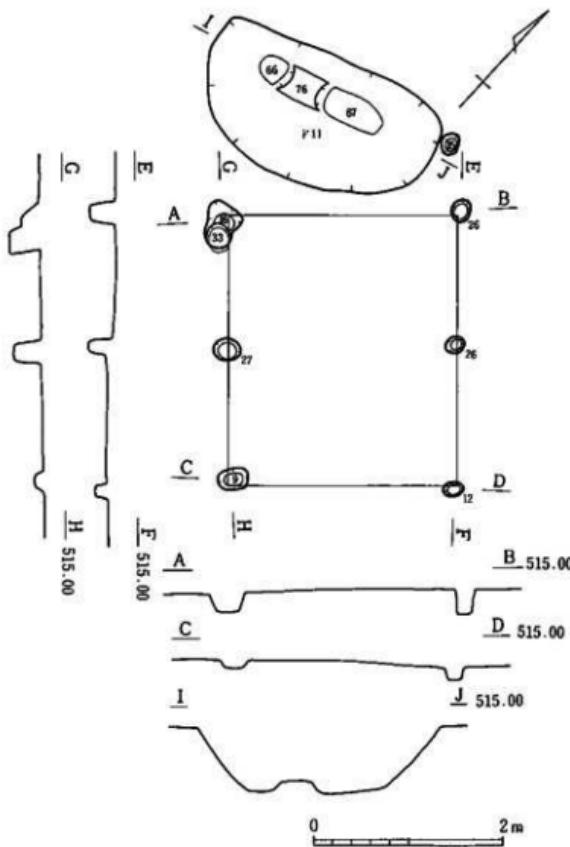
（佐藤勝信）

9) 柱穴群・柱穴列

① 柱穴群1（挿図151、第84図）

遺構 円形周溝墓1の西にあり、 $7.4 \times 4.8\text{m}$ の範囲に18個の穴が、さらにその北西に7個の穴が散在する。これら穴のうち、6個・4個・3個といくつかが直列し、何らかの遺構である可能性もある。

遺物は縄文時代土器小片、弥生時代後期後半の小土器片を出土するものもあるが、いずれも時期を決めるものはない。

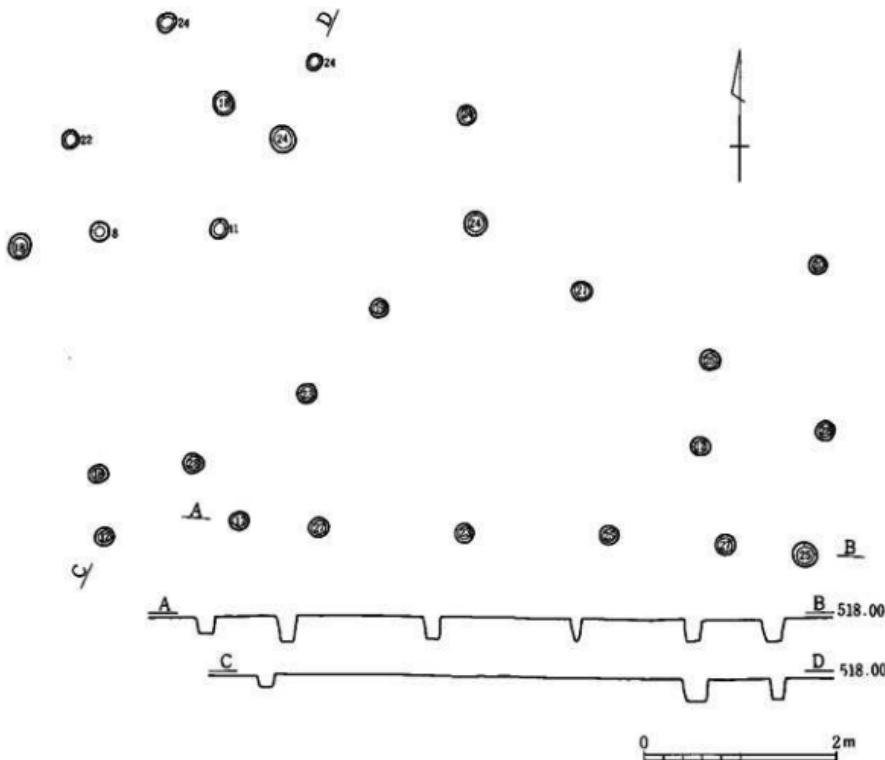


挿図150 建物址8、土坑II

② 柱穴群2（挿図152、第84図）

遺構 溝址2の北東に隣接し、土坑10の南にある。3.0×3.7mの範囲に13個の穴が散在する。
性格等は不明である。

遺物は縄文時代、弥生時代後期土器小片を出土するものもあるが、時期を決めるものはない。



挿図151 柱穴群 I

③ 柱穴群3（挿図153、第84図）

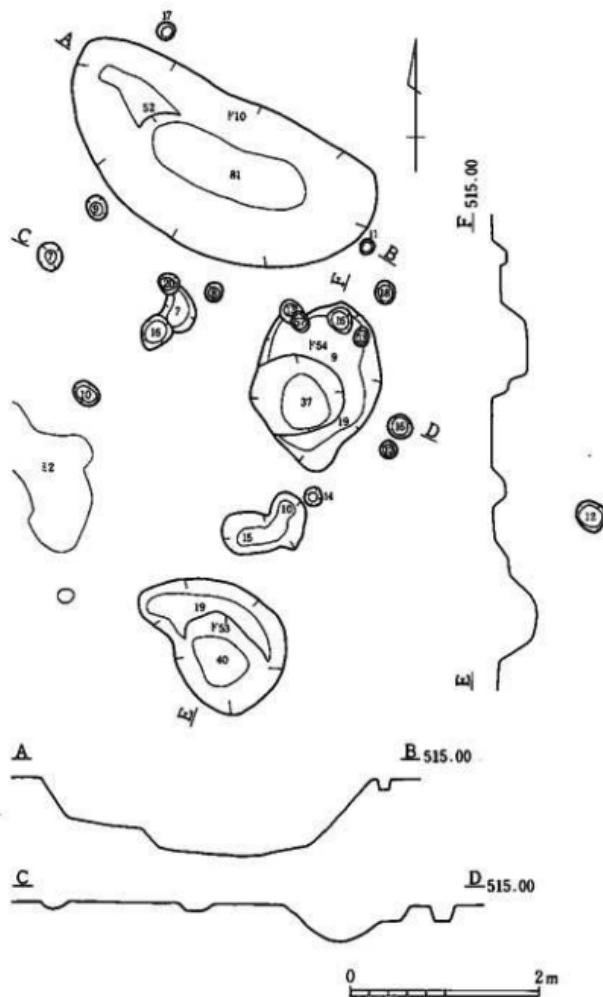
遺構 66号・68号住居址の南にあり、 $4.0 \times 3.0\text{m}$ 範囲に25個の穴が散在する。柱穴群3同様に性格等不明である。

遺物 繩文時代、弥生時代後期後半土器小片を出土するものもあるが、時期を決めるものはない。

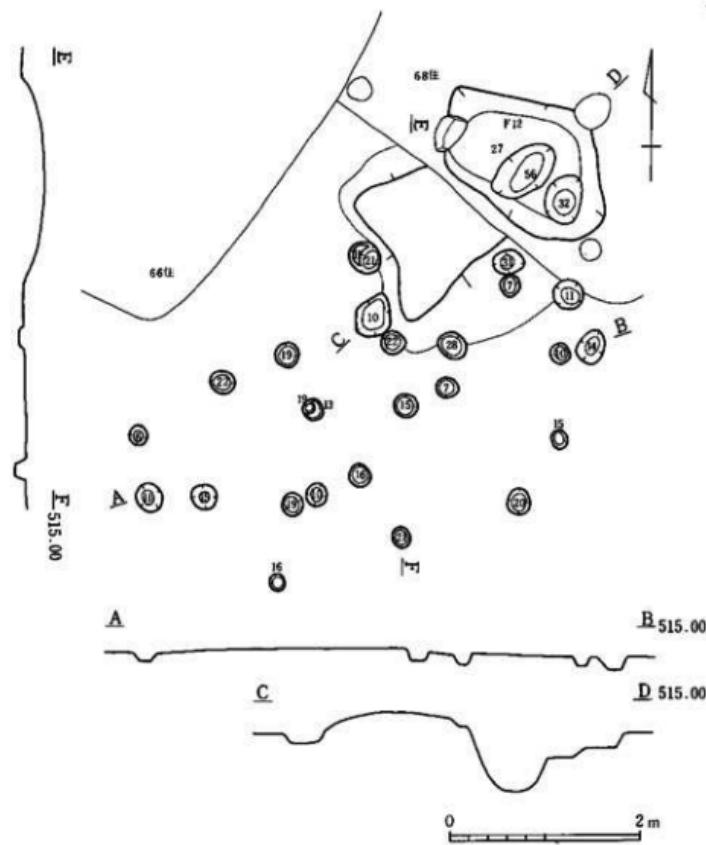
④ 柱穴群4（挿図112、第84図）

遺構 68号・73号住居址間 $1.8 \times 4.8\text{m}$ の長方形の範囲に、19個の穴が散在する。性格等不明である。

遺物 繩文期、弥生時代後期後半の土器小片が出土するものもあるが、弥生時代後期終末の住居址と重複し、全体形等不明であり、性格時期等の判断はできない。



補図152 土坑10・53・54、柱穴群2



挿図153 土坑12、ロームマウンド3、柱穴群3

⑤ 柱穴群5（挿図119、第84図）

遺構 73号・77号・78号住居址に囲まれた4.0×4.5mの範囲に18個が集中してある。

遺物は縄文後期後半の土器小片を出土した穴があるが弥生時代後半の住居址に切られ、全形等の把握も不十分であり、性格・時期等の決定はできない。

（佐藤透信）

⑥ 柱穴列1（挿図155、第114図）

遺構 97号住居址東側から89号住居址南東隅西側にかけて、ほぼ直線的に7.9m検出した。方向はN60°Eを示す。当初は北側部分で溝状にプランが判明し、掘り進めるうちに小穴が連続する状況となり柱穴列とした。縄文時代の配石1を切る。97号住居址東側の1.2mは、小穴もまばらで溝も2ヶ所で断続するが、それ以南では、20~30cmの溝の中に、直径20~30cmの円形もしくは橢円形を呈する小穴が、20cmくらいの間隔で列をなし、4.8mほど続く。89号住居址の南西側の1.4mは、溝はみられないが同様に小穴が連なっている。この部分はプラン検出がやや困難で、検出面をやや下げる把握したので、溝をとらえられなかったものと考えられる。両側に延長するかと精査したが、これ以上は検出できなかった。

遺物 小穴の中に、縄文土器片、弥生時代後期土器片がみられた。

時期を特定できる遺物に欠けるが、縄文時代の土坑よりやや上層で検出できたことや、覆土・切り合い関係からみて、弥生時代後期に位置づくと考える。

性格は、何らかの範囲を画するための柵址と考えられ、類例は同じ伊賀良地区の上の金谷遺跡（松永1972）にある。

（山下誠一）

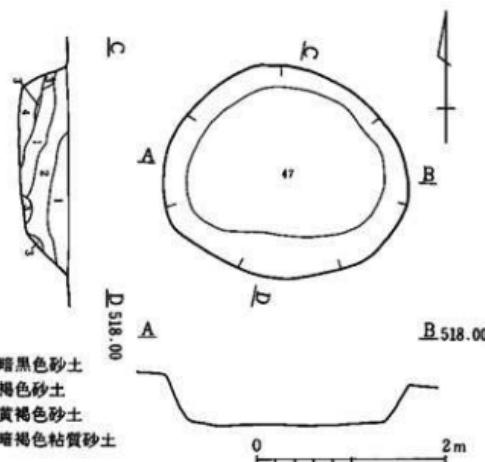
10) 竪穴状遺構

① 竪穴状遺構1（挿図154、第75図）

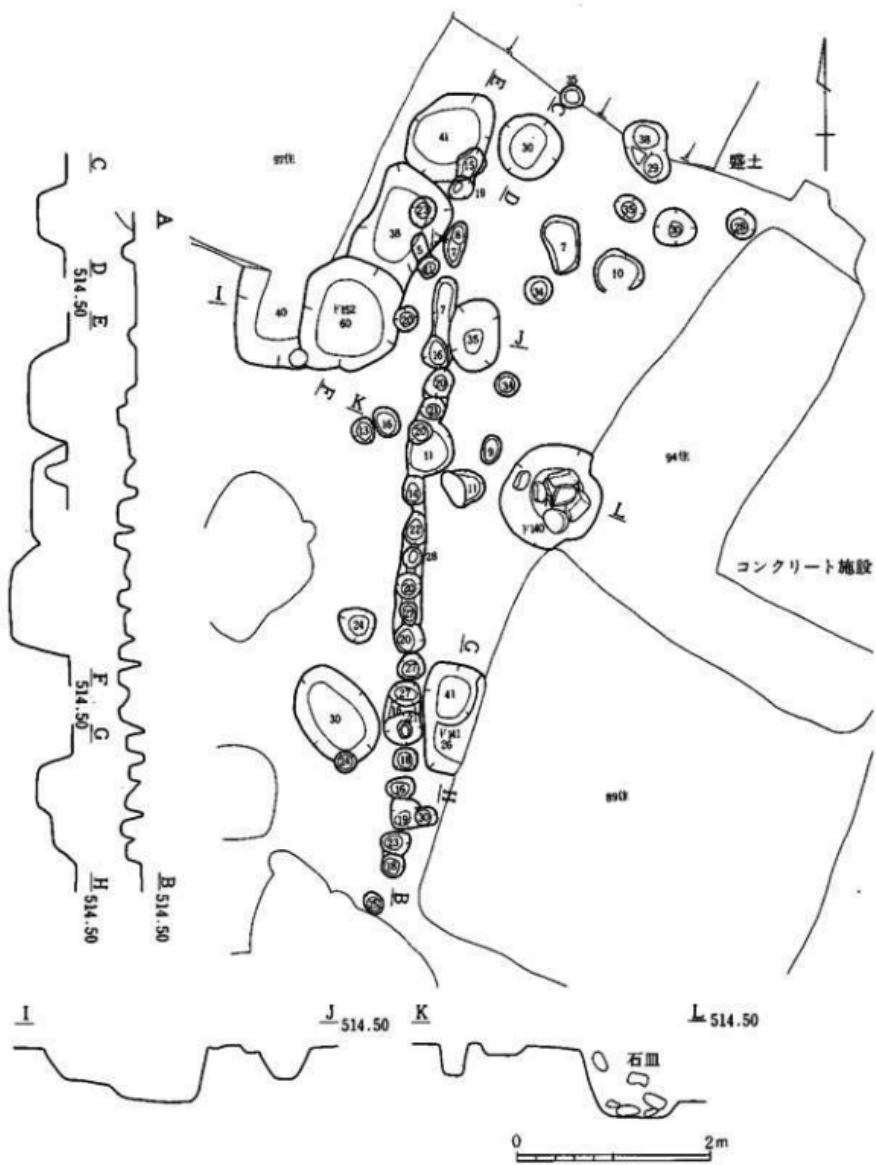
遺構 2.55×2.22mのややゆがむ円形をなし、壁高は北と西側で50cm、東と南は40cmを測り、やや緩やかに黄色砂土まで掘りこむ。覆土は北から南へと傾斜し、暗黒色砂土、褐色砂土、暗褐色粘質砂土となり、壁ぎわに黄褐色砂土が入る。

遺物 弥生時代後期の壺底部などがある。

出土遺物が少なく、時期決定はできないが、弥生時代後期に位置づく可能性が強い。
（佐藤駿信）



挿図154 竪穴状遺構1



摺図155 土坑140・141・142、柱穴列 I

11) ロームマウンド

① ロームマウンド1（挿図116、第79図）

遺構 弥生時代後期の86号住居址に切られ、土坑27・38と重複する。短軸方向が70~30cmの不整長方形のロームマウンドをなし、北東側が短軸方向の長さが116cmの不整ひきご形で深さ31cm、南西側が短軸方向の長さが84~40cmの不整構円形で深さ14cmの落ち込みとなる。マウンド南東側には3個の礫と焼土が認められた。規格性のない遺構の状態から、自然成因による可能性が強い。マウンド上にみられる礫・焼土は本址とは直接関係ないものと判断される。

遺物 マウンド両側の落ち込みから縄文土器片が出土した。縄文時代前期終末・中期初頭・中期終末のものなどがある。

② ロームマウンド2（挿図117、第79図）

遺構 230×86cmの不整長方形のロームマウンドをなし、北東側が300×218cmの不整台形で最も深い部分が76cm、南西側が長さ3.3m・幅80~58cmの溝状で、深さ38~23cmの落ち込みとなる。規格性のない遺構の状態から、ロームマウンド1同様に自然成因による可能性が強い。

遺物 マウンド両側の落ち込みから縄文土器が出土した。縄文時代前期終末・中期終末～後期前半のものがあり、特徴的なものを選択して掲載した。

（山下誠一）

③ ロームマウンド3（挿図153）

遺構 柱穴群3に切られ、縄文時代の68号住居址と重複する。1.3×1.1mの不整台形で、高さ20cm程のロームマウンドである。

出土遺物はない。

（佐藤勝信）

12) 暗渠

① 暗渠1（挿図157）

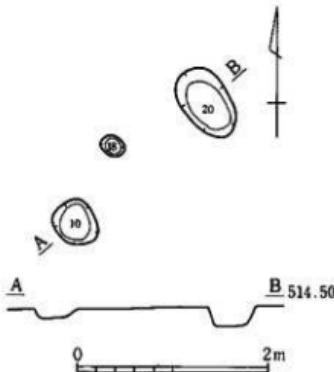
遺構 98号住居址床面上から100号住居址北東側にかけての、溝址3に落ち込む肩部で検出された。弥生時代後期の98号・100号住居址を切り、調査開始前まで使用されていた水路に埋設されていた土管によって切られる。この箇所は、河道である溝址3が形成されてから現代に至るまで水路的な役割を果たしていたらしく、灰色泥質土が堆積しており、それを除くと検出面となり、地山の黄色砂礫層を掘り込んでいる。検出した規模は14m余りで、98号住居址から100号住居址にかけては、ほぼ直線的で方向はN61.5°Eを示す。100号住居址東側で90°くらいゆるく曲がり、その先は土管によって切られる。98号住居址中央部から北東側でも、擾乱を受けて石が抜かれていた。地山に50~66cmの断面箱形の溝を掘り、その中に20cm前後の細長い自然石を用い内側の面を描えて10~15cmの溝状をなすようにしている。その上に、30cm前後の石をすき間なく置いて天井とし、

周囲に10cm前後の小礫を補強用につめている。天井石の上はロームで接着している。天井石は擾乱を受けて、両端で抜かれている部分が認められた。溝内部には細かい泥がたまり、水の流れたことをうかがわせた。98号住居址と100号住居址の間にみられる落ち込みも一体のものと考えられ、落ち込んで平坦面をなす基部につくられている。

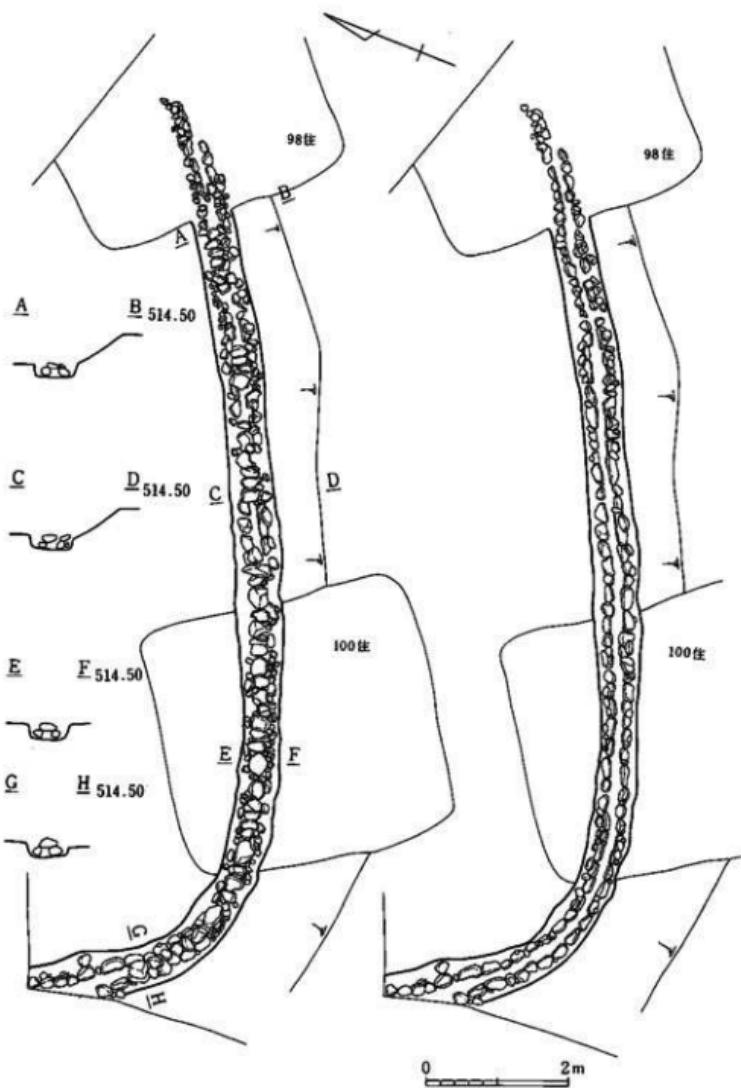
遺物は出土せず、確定した時期を示すことは不可能で、中世以降のものである。（山下誠一）

註

- (1) 深鉢形を呈する形態からみてつり手土器と区別すべきとの意見がある（宮城1982）。明らかに通常のつり手土器とは違いがあることは認められるが、本稿では大きな意味でつり手土器ととらえておく。
- (2) 1984年に飯田市教育委員会が調査をする。報告書は未刊行である。



挿図156 76号住居址南東側柱穴



附图157 暗渠 1

第1表 住居址一覧表

住居址 No.	遺跡名 No.	平面 形	規 模	主軸方向	調査範囲	半 島 レ イ シ ム カ マ ド 位		床面の状態 良 好	発生地 発生地
						形	態		
1	12	隅 九 方 形	3.6×3.8	17.5°W	完 壓	地床炉	北西側主柱穴中間やや内側 西主柱穴寄り	良	発生地
2	13	"	3.7×3.7	N 64° W	"	"	東側主柱穴中間	好	発生地
3	14	中央がんばんだ隅九方形	3.9×4.3	N 100° E	"	"	不明	好	発生地
4	15	(隅九方形)	-×	下 × 3.4	下 明	半 壓	西側主柱穴中間南主柱穴寄り	好	発生地
5	16	中央がんばんだ隅九方形	3.8×4.0	N 114° W	完 壓	地床炉	東側主柱穴中間	好	発生地
6	17	"	4.1×3.7	N 93° E	13.8°完壊	"	北西側主柱穴中間やや内側 西主柱穴寄り	好	発生地
7	18	中央がんばんだ隅九方形	5.1×4.6	N 40° W	完 壓	土器埋設炉場出2ヶ	北西側主柱穴中間やや内側 西主柱穴寄り	好	発生地
8	19	(隅九方形)	(4.2×4.2)	N 64° E	半 分 不 明	土器埋設炉	北西側主柱穴中間西主柱穴寄り	好	発生地
9	20	中央がんばんだ隅九方形	4.7×4.1	N 64° E	完 壓	地床炉	南西側主柱穴中間西主柱穴寄り	好	発生地
10	21	中央がんばんだ隅九方形	3.7×4.3	N 115.5°W	"	"	北西側主柱穴中間	好	発生地
11	22	隅 九 方 形	5.7×5.2	N 54° W	半 分 不 明	土器埋設炉	北西側主柱穴中間	好	発生地
12	23	(隅 九 方 形)	4.5×—	不 明	半 壓	地床炉	北西側主柱穴中間西主柱穴寄り	好	発生地
13	24	隅 九 方 形	3.9×3.8	N 10° E	完 壓	石窓・炉	住居社中央部から西寄り	好	発生地
14	4	中央がんばんだ四円形	"	N 36° W	13.1°完壊	土器埋設炉	北西側主柱穴中間北西寄り	好	発生地
15	25	隅 九 方 形	4.6×4.4	N 50° W	完 壓	地床炉	北西側主柱穴中間	好	発生地
16	26	"	4.7×4.6	N 36° W	13.1°完壊	"	(北西側主柱穴中間)	好	発生地
17	27	"	5.1×5.0	N 56.5° W	完 壓	"	北西側主柱穴中間	好	発生地
18	28 - 29	"	5.3×5.3	N 56° W	"	"	"	好	発生地
19	30	"	3.7×4.3	N 43.5° W	13.1°完壊	"	"	好	発生地
20	31	(中央がんばんだ隅九方形)	-×	4.4	13.1°完壊	半 分	(南西側主柱穴中間)	好	発生地
21	32	隅 九 方 形	4.2×4.6	N 31.5° W	13.1°完壊	土器埋設炉	西側主柱穴原やや内側南主柱穴寄り	好	発生地
22	33	"	3.8×3.6	"	"	"	西側主柱穴中間	好	発生地
23	34	"	3.9×3.5	N 76° W	完 壓	地床炉	西側主柱穴中間やや内側	好	発生地
24	35	"	4.2×4.3	N 144° W	"	"	北西側主柱穴中間	好	発生地
25	36	隅 九 長 方 形	3.7×4.5	N 49° W	"	"	北西側主柱穴中間やや内側	好	発生地
26	37	中央がんばんだ隅九方形	3.9×4.0	N 12° W	"	"	北西側主柱穴中間やや内側	好	発生地
27	38	隅 九 方 形	4.0×3.7	N 86.5° E	"	"	南西側主柱穴中間西主柱穴寄り	好	発生地
28	39	"	3.9×4.1	N 100° W	"	"	南西側主柱穴中間北西主柱穴寄り	好	発生地
29	40	中央がんばんだ隅九方形	3.1×3.7	N 121.5° W	"	"	西側主柱穴中間やや内側	好	発生地
30	41	隅 九 方 形	3.8×3.6	N 61° W	13.1°完壊	"	北西側主柱穴中間やや内側	好	発生地

登録番号 No.	通称名 Name	平面 形	断面 形	主軸方位 Axis direction	調査範囲 Survey range	形状 Shape	炉室もしくはカマド Chimney	床面の状態 Condition of floor	時期 Period	備考	
										東側主柱穴開き東柱穴寄り 西側主柱穴内側寄り 北西側主柱穴中間	北西側主柱穴中間 北西側主柱穴北東柱穴寄り (北西側主柱穴中間)
31	42	やや丸んじ鍋丸方形	3.5×3.6	N11° E	完 成	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
32	43	鍋丸 方 形	3.6×3.6	N 87° S	W	"	"	"	"	良 好	出生後 火事
33	44・45	"	4.8×4.8	N 57° W	131°光輝	土器焼成炉	不 明	"	"	良 好	出生後 火事
34	46	"	5.0×5.2	N 37° W	半 分	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
35	45	"	4.1×4.1	N 58° W	完 成	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
36	47	"	3.6×3.6	N 56° W	131°光輝	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
37	48	"	3.6×3.6	N 65° W	131°光輝	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
38	49	"	3.8×3.7	N 48° W	131°光輝	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
39	50	やがんだ鍋丸方形	3.6×3.4	N 49° W	完 成	土器焼成炉	半 分	北西側主柱穴中間やや内側寄り	"	良 好	出生後 火事
40	51	鍋丸 方 形	4.2×4.4	N 55° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
41	52	"	4.8×4.6	N 60° W	"	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
42	53	"	4.1×4.0	N 58° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
43	54・55	"	4.1×4.1	N 55° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
44	56	"	4.3×4.4	N 19° E	"	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
45	57	"	3.7×3.8	N 20° E	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
46	58	"	3.6×3.3	N 23.5° E	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
47	59	ややゆがんだ鍋丸方形	3.7×4.2	N 90° E	"	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
48	60	鍋丸 方 形	3.9×4.4	N 62° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
49	61	"	3.7×3.7	N 44.5° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
50	62	"	4.5×4.5	N 42.5° W	131°光輝	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
51	63・64	"	6.4×5.6	N 150° W	完 成	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
52	65	やがんじ鍋丸方形	4.3×4.5	N 60° W	"	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
53	66	鍋丸 方 形	4.2×4.5	N 52.5° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
54	67	"	4.7×4.8	N 64.5° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
55	68	"	4.4×4.4	N 55° W	131°光輝	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
56	69	(鍋丸 方 形)	3.5×—	N 82.5° W	"	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
57	70	(— "	4.5×—	(N128° E) 半 分	131°光輝	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
58	5	(鍋丸方円形)	4.2×4.0	N 24° E	131°光輝	地床炉	不 明	"	"	良 好	出生後 火事
59	71	不 明	不 明	—	—	地床炉	不 明	"	"	良 好	(古墳跡) 出生後 火事
60	71	鍋丸 方 形	3.8×3.5	N 63° W	完 成	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
61	72	(鍋丸 方 形)	3.8×—	N 29.5° E	131°光輝	土器焼成炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
62	73	鍋丸 方 形	3.1×3.4	N 69° W	完 成	地床炉	"	"	"	良 好	出生後 火事
63	74	鍋丸方円形	4.6×3.5	N 66° W	"	"	"	"	"	良 好	出生後 火事

出所地 No.	遺跡名 No.	平面形 式	範 围	主軸方向	調査範囲	経 带	位 置	埋めもしくはカマド	埋めの状態	時 期	備 考
64	75	隅 九 方 形	4.3×4.7	N 48° W	完 縫	北西隅主柱穴中間			良 好	発生後後 生後後 生後後	
65	76	ややのんびり隅九形	4.3×4.6	N 19° W	n	北西隅主柱穴中間			"	"	
66	77 - 78	隅 九 方 形	4.9×5.0	N 57° W	n	北西隅主柱穴中間			"	"	
67	6	(隅 九 方 形)	4.3×4.3	n	111P完縫	地底部			"	発生後後 古墳後	
68	7	(隅 九 方 形)	— × 3.7	n	"	"			"	"	
69	79	(隅 九 方 形)	— × 3.5	n	"	不 明			"	発生後後 古墳後	
70	18 - 19	隅 九 方 形	5.3×5.7	N 82° E	完 縫	東部地盤部	石芯粘土カマド		"	発生後後 古墳後	
71	80	"	4.4×4.8	N 45.5° W	n	131T完縫	土壘地盤部		"	発生後後 古墳後	
72	81	(隅 九 方 形)	— × 4.4	N 49.5° W	n	"			"	発生後後 古墳後	
73	82	隅 九 方 形	5.4×5.2	N 42.5° W	n	"			"	発生後後 古墳後	
74	8	不 明	不 明	不 明	一 部	不 明			"	発生後後 古墳後	
75	8	要 構 打	— × 5.6	N 16° W	半 分	北東隅主柱穴中間			"	発生後後 古墳後	
76	83	隅 九 方 形	4.3×4.5	N 49.5° E	完 縫	北東隅主柱穴中間	土壘地盤部		"	発生後後 古墳後	
77	9	"	3.7×3.5	N 75° W	111T完縫	地底部	北西隅主柱穴中間や内側寄り		"	発生後後 古墳後	
78	84	(隅 九 方 形)	— × 3.9	N 43° W	半 分	北西隅主柱穴中間	土壘地盤部		"	発生後後 古墳後	
79	79	不 明	不 明	不 明	一 部	不 明			"	発生後後 古墳後	
80	10	"	3.4×3.6	"	"	地底部			"	発生後後 古墳後	
81	85	"	— × 4.3	N 43° W	半 分	北西隅主柱穴中間	土壘地盤部		"	発生後後 古墳後	
82	86	隅 九 方 形	3.6×3.8	N 46° W	131T完縫	北西隅主柱穴中間	北西隅主柱穴中間や内側寄り		"	発生後後 古墳後	
83	87	(隅 九 方 形)	(4.5) × 4.4	N 53° W	半 分	北西隅主柱穴中間	北西隅主柱穴中間や内側寄り		"	発生後後 古墳後	
84	88	"	— × 4.6	N 52° W	"	不 明			"	発生後後 古墳後	
85	89 - 90	隅 九 方 形	3.6×4.0	N 47° W	完 縫	北西隅主柱穴中間	土壘地盤部		"	発生後後 古墳後	
86	91	"	5.0×4.6	N 58° W	n	"			"	発生後後 古墳後	
87	92	"	4.1×3.9	N 64.5° W	n	地底部	北西隅主柱穴中間や北西隅主柱穴寄り		"	発生後後 古墳後	
88	10 - 10	"	5.5×5.3	N 67° W	n	石芯粘土カマド			"	発生後後 古墳後	
89	93	"	4.0×4.3	N 65° W	n	土壘地盤部			"	発生後後 古墳後	
90	94	不 明	不 明	不 明	一 部	不 明			"	発生後後 古墳後	
91	95	隅 九 方 形	4.1×4.2	N 65.5° W	完 縫	北西隅主柱穴中間や北西隅主柱穴寄り	北西隅主柱穴中間や北西隅主柱穴寄り		"	発生後後 古墳後	
92	98	不 明	3.4	不 明	半 分	南東隅主柱穴中間	北西隅主柱穴中間や北西隅主柱穴寄り		"	発生後後 古墳後	
93	96	隅 九 方 形	3.5×3.9	N 122.5° E	完 縫	北西隅主柱穴中間	北西隅主柱穴中間や内側寄り		"	発生後後 古墳後	
94	97	"	4.1×4.1	N 58° W	一 部	北西隅主柱穴中間や内側寄り	北西隅主柱穴中間や内側寄り		"	発生後後 古墳後	
95	96 - 98	(隅 九 方 形)	— × 4.3	N 55° W	半 分	北東隅主柱穴中間や内側寄り	北東隅主柱穴中間や内側寄り		"	発生後後 古墳後	
96	99	不 明	不 明	(N 41° E)	— 部	"			"	発生後後 古墳後	

作原地		電機回路	平	圓	形	規	柄	主軸方向	調査範囲	形	被	地	も	し	く	は	カ	マ	Y	状	状態の状態	時	期	偏	考
No.	No.																								
97	98	99	100	11	12	13	14	N 63° W	完	圓	土器盤旋	北西側柱穴中間やや内側寄り 南西側柱穴中間 (柱底付中央部)	あわめて良好	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
								N 125° W	半	分	"	"													
								4.4×1	不	明	"	"													
								3.7×3.8																	
								4.4×1																	
								(3.9×3.7)	N 40° W	12.1坪完備	土器盤旋	北西側柱穴中間やや内側寄り	不	良	馬	好	良	好	良	好	良	好	良	好	良
								(3.9×3.7)																	

2 遺 物

1) 資料提示の方法

(1) 基本姿勢

今次調査により出土した遺物は、縄文時代から中世・現代に至るまでのきわめて長い期間にわたるもので、原始時代から続く殿原遺跡の歴史そのものを示してくれる資料といえる。しかし、殿原遺跡（集落）の変遷は一様でなく、それぞれの時代毎に遺物の出土量も異なり、好資料を得られた時代としては、縄文時代前期終末・同中期後半から後期前半・弥生時代後期・古墳時代後期が挙げられる。出土遺物の主体は土器・石器であり、ほかに土製品・石製品・金属器がわずかに出土した。

本報告書では、基礎的資料の提示を第一目的と考え、出土遺物のできるだけ多くを公開することを基本姿勢として、以下に示す基準によって資料の図化・掲載を行った。

(2) 遺構出土遺物

今次調査によって検出された遺構は、竪穴住居址・土坑・配石・埋設土器・円形周溝墓・方形周溝墓・圓溝址・溝址・建物址・柱穴群・柱穴列・竪穴状遺構・ロームマウンド・暗渠があり、遺物の大半は、竪穴住居址・土坑から出土した。竪穴住居址を中心とした遺構単位で把握した遺物が多く、資料価値が高いと考える。そこで、遺構単位の出土状況を最重要視して、資料提示することに努めた。

土器・石器・そのほかの遺物について、以下に選択基準を示す。

① 土器

口縁部 $\frac{1}{6}$ 個体・胴部から底部まで $\frac{1}{6}$ 個体以上残存するもののすべてと、それ以下で特徴的な個体や拓影図による表現が困難な破片を図化した。上記の基準以下の破片は拓影図で表現した。無文や小破片についても極力掲載に努めた。

遺構の中で、人為的要素が少ないが遺物出土が比較的多かった溝址3・ロームマウンド2に関しては、多少の選択を加えての資料提示とした。

② 石器

遺構単位の把握を最優先させ、小破片や使用痕の認められない剥片などを除き、ほとんどを図化・掲載した。省略した個体についても、遺物観察表には記載した。しかし、溝址3に関しては、完形・完形に近い個体を選択し、それ以下の破片の観察表記載も省略した。

③ そのほかの遺物

図化可能な出土遺物のすべてを掲載した。

(3) 遺構外出土遺物

遺構に直接関係しない包含層出土遺物と、弥生時代以降の遺構内出土の縄文土器など、明らかに遺構本来の時期と異なると判断される土器を遺構外扱いとした。

縄文時代の遺物が大半を占め、弥生時代以降の遺物が若干ある。

① 出土位置について

遺構外出土遺物はグリット等の小範囲での出土位置を記録できず、大まかな出土位置の把握となった。そこで、以下に示すI～III区を便宜的に設定した。

I区 8号・27号住居址以西の約100m間とする。調査範囲での西側に当たり、遺跡全体の北西端部分に相当する。遺構検出面は砂層であり、ローム層がみられない箇所である。

II区 14号住居址から溝址3までの約80m間とする。調査範囲での中央部に当たり、遺跡全体の北西側部分に相当する。ここからローム層があり、遺構検出面はローム層かその直上の茶褐色土層である。

III区 溝址3以東の約50mとする。調査範囲での東側に当たり、遺跡全体の北側中央部に相当する。遺構検出面はII区と同様である。III区の北側部分には配石があり、土坑が最も集中した箇所で、遺構外遺物とした中に、土坑との関連を考えるべきものもある。

なお、I区とII区の間には、約50mの凹地状をなす遺構の空白部が認められた。

② 資料の選択

土器 包含層出土土器および他時期遺構出土土器とともに、圧倒的多数が縄文土器である。すべてが破片で、完形に復元できるものはない。弥生時代以降の遺物はわずかであり、特に古墳時代のものは皆無であった。

縄文土器に関しては、特徴的な文様のものすべてを拓影図で掲載し、無文や小破片については省略した。なお、当地方で類例の少ない縄文時代前期終末のものは、小破片についても掲載した。

弥生土器は出土量が少なく、遺構出土土器の様相と共通しており、省略した。

奈良時代以降の遺物はすべてを図化・掲載し、タタキ・沈線など手法上の特徴を示す破片については拓影図によった。

なお、明らかに現代のものと判断できた遺物については省略した。

石器 小破片及び出土位置不明のものを除き掲載した。遺構内に比べその出土量はきわめて少ない。

2) 観察表の作製

本文中で遺物個々について記述ができず、観察表を作製した。記載内容は恒川遺跡群（飯田市

教委1986)に準じたが、若干の変更があり、変更部分を中心に説明する。

① 土器

項目は、遺構・図版No.・器形・法量・手法上の特徴・胎土・焼成・色調・出土位置・備考とした。手法上の特徴・色調の項目を変更し、出土位置をつけ加えた。

手法上の特徴 文様欄を省略した。記載の中心である弥生時代後期の文様は、壺の口縁折立部に範描文が施されるほかは描描文であり、文様構成もきわめて定型化している。実測図で判読できるよう表現に努めた。

色調 できるだけ客観的に表現するため、色度表「日本色彩社『新色名帖』」を使用した。

出土位置 住居址に関しては、上層・下層・床面・炉址・カマド・入口部・穴・覆土に分けて表現した。上層は逆三角堆土、下層は三角堆土とし、どちらか不明の場合を覆土とした。そのほかは、記載の諸施設から出土したことを意味している。しかし、厳密な意味での層位発掘とはいはず、基本的には各遺構単位の出土としてとらえた。

土坑などそのほかの遺構の出土位置は省略した。

② 石器

項目は、遺構・図版No.・器種・法量・石質・出土状態・備考である。出土位置をつけ加えたほかは恒川遺跡群と変更はない。

出土位置 土器の方法に準じた。

本書で用いる基本的用語規定、遺物の図化方法なども恒川遺跡群に準じている。なお、縄文土器・弥生土器・土師器・カワラケの断面は白ぬき、須恵器・陶器・磁器の断面は黒ぬきとした。

(山下誠一)

3) 縄文時代の遺物

縄文時代の遺物のほとんどは、調査区の東側に当たるII・III区からの出土である。遺構は竪穴住居址・配石・土坑等があり、それらに伴う遺物が得られた。

(1) 土器

① 早期

押型文土器片が1点(71-12)が土坑104より出土したが、混入品と考えられる。文様は格子目であるが、上部に若干横円文が認められる。

② 前期

99号住居址出土土器に代表される。半截竹管による条線文を、横位・斜位あるいは格子状に交差施文させるもの(4-12-33)が主体となる。浮線文に刻目を施すもの(4-35・37)などがわずかにある。

縄文時代前期終末に位置づき、下伊那地方では今洞遺跡出土土器（宮沢1966）に類似する。土坑109（72-3・5）、土坑111（72-6・9）、土坑137（73-5）、土坑150（74-1）、土坑152（同2-10）、配石1（76-1-12）出土土器は同系列のものである。

土坑109出土土器片のうち72-4は、口縁部に2条の爪形文をその下に数条の横位沈線文をめぐらし、前期終末から中期初頭への移行を示すものといえる。

③ 中期

中期中葉前半として58号住居址出土の土器（2-1-13）がある。4は隆帯と沈線により方形に区画し、区画内を籠状具による平行沈線文、半肉彫文、爪形文で加飾する。諏訪地方の藤内I式に比定される。3・5・6も同系列の土器である。2-7-9は地文の縄文を細い沈線で切る。10-13は上層出土の無文部破片であり、時期等不明である。

中期後半として14号住居址出土土器（第1図）がある。器形全体を把握できる資料はないが、深鉢が主体を占める。1・2・10等から見ると、口縁部は内湾しながら大きく外反するキャリバーフォームをなす。胴部はあまりふくらみをもたず底部にいたる。1の文様構成は斜縄文の地文を切って頭部に2条の沈線をめぐらし、胴部を波状の沈線文を縦に下方から、10は頭部に沈線を2条めぐらしその下に、ワラビ手文を施す。15の胴部は半截竹管による縦の条線と横位の波状に施文されたものである。これらは、東海系の中期後半の呪煙式に比定される土器であり、9・11・12・14-16はこの同系のものとみられる。13は棒状器具による沈線文で口縁部を埋めている。6-8は飯田地方の中期後半期に特徴的な口縁部文様で精円区画文の内部を沈線、結節縄文を埋めるものである。4の把手、2の無文土器も同時期のものである。

④ 後期

該期土器は、配石周辺に相当量出土し、大きく、初頭、前半に2大別できる。前半期はさらにI・II期に分けられる。後期初頭の土器は次の5分類に分けられる。

1類土器 磨消縄文土器でJ字文や対向弧状文を主とし磨消縄文帯を沈線で囲み、無文帯とを区画した文様構成である。65-1・6-8、66-20、67-8-17がある。67-6は磨消縄文の帯状施文土器である。

2類土器 中期末の伝統を残す土器である。連続する刺突文をもつ隆帯下に展開する沈線文は先端をワラビ状に曲げて中期の伝統を残している。63-17-21、67-18-22-27等がある。

3類土器 条線文土器-66-19にみると、櫛状具により縦の条線を施す粗製土器である。62-5、63-2-28-29、66-22等がある。

4類土器 中期段階ではみられない太い沈線文を施す土器で、63-12-13、67-23、埋設土器1出土の79-3-6がある。

5類土器 無文の粗製土器で62-9-11等がある。

後期初頭の土器に注目されるのに土坑18号出土の釣手土器（62-1）がある。深鉢に釣手部を付けたものである。釣手部の文様は頂部と深鉢の接続部近くに各1孔を穿ちその回りに5つの円

文をめぐらす。頂部孔の下両側にハの字状に長横円文を施し、その下に3この円文を並べる。さらにその下に長横円文が付き、接続部に磨消繩文がわずかに付く。深鉢脇部に弧をなす磨消繩文帯が施される。精選された胎土で色調は明るい褐色を呈する。当地方における後期初頭の類例稀は土器形態をなし、形態上からも中期の伝統を残すものといえる。

浅鉢形土器に土坑63出土（68-1）があり、口縁部は肥厚し、磨消繩文帯はJ字状をなす関西系土器とみられる。中期終末期の様相の強い土器（63-6～9）で、中期から後期への移行を示すものといえる。

後期前半Ⅰ期の土器は土坑155出土の深鉢に代表され、ほぼ完形に復元された。器高38.5cm脇部がふくらみ頸部はしまって、口縁部は緩やかに外反する。平口縁で端部はくの字状に内折し、円形の刺突文をめぐらす。頸部も刺突文をめぐらす。口縁部は無文、脇上半部に縦に下がる3条の沈線により8分割され、この内部を2または3条の斜沈線によって三角形の区画文を構成している。明るい黄褐色を呈し胎土に小石粒を含む。堀之内式に比定される土器である。本例以外はいずれも小破片である。

後期前半Ⅱ期後の土器片は、繩文・沈線文を施し、渦巻状文・ワラビ手状文を描く2-17～19、64-23、76-36・41・42、77-15・29-31があり、隆帯文を施す77-14・19があり、堀之内Ⅰ式に比定される1群である。口縁端部に刺突状をめぐらす（61-3・6）、沈線をめぐらす（61-17・18、76-16・18～20）などがあり、下部は無文となる。そのほか、無文土器がある。鉢（61-5）は口縁が大きく開き脇部のくびれる形態をなすとみられ、口縁部に沈線をめぐらす。堀之内式Ⅱ式とみられる。77-1の浅鉢は、口唇部に磨消繩文がみられる以外無文であり時期は不明である。手づくね土器64-21があり、伴出した土器（64-23）からみて堀之内式段階のものである。注口土器の注口部（86-1）が遺構外より出土したが、時期は確定できない。

後期土器は初頭から前半の堀之内Ⅱ式までであり、これ以後の土器はみられない。これら土器は東海・美濃・関西系の土器が多くみられることにこの地方の地域性が考慮される。

（2） 石器

該期の遺構から出土した石器は、打製石斧・横刃型石器・磨製石斧・石錐・打製石鎌・石錐・スクレイパー・ピエス・エスキュー・使用痕のある刺片・石皿・砥石などがあり、第2図で出土点数を示した。すべてが該期のものでなく、混入品と考えられるものも認められる。

① 前期

99号住居址出土石器が代表的である。打製石斧（92-1・2）、磨製石斧（92-3）、横刃型石器（92-4・5）、石錐（92-6）、石鎌（115-8）、ピエス・エスキュー（115-9）、原石・刺片等がある。器種は多く、中期との違いを指摘できる。打製石斧・横刃型石器は中期と同形態で、法量もほぼ一致しており、石質は硬砂岩である。石錐はチャート製で、刃部が短い。

② 中期

下伊那地方のこれまでの住居址出土例に比べると、本遺跡の出土量は少ない。14号住居址、58号住居址の2住居址は、時期的に差がみられるが、石器に違いはみられない。

打製石斧5点・横刃型1点と、この時期に卓越する石器が極めて少ないと指摘できる。

打製石斧(91-1～4)、横刃型石器(91-6)、スクレイパー(115-1)ビエス・エスキュー(115-3)、ダメージのある剝片(115-2)、加工された剝片(115-4)などがあり、58号住居址は黒曜石の剝片が多く認められた。

いずれにせよ、該期の石器の全組成を示すものなく、混入品等の存在も考慮に入れる必要があり、資料紹介のみにとどめる。

③ 後期

後期に比定される4軒の住居址から出土した。しかし、出土量は少なく、組成等を検討するには至らない。

遺構	器種	打	磨	研	凹	石	石	石	石	石	スクレイ	ビエス・エスキュー	使用後のある	加工された剝片	剝片	そのほか	
		製	萬	製	研	研	研	研	研	研	ペイ	エス・エスキュー	ある剝片				
14住	F 3										1						
58住	F 2	1															
67住	F 1																
68住	F 2					1					1						
75住																	
77住	F 2																
59住	F 2, 2	1						1			1	1					
F 14					1												
F 17	1																
F 18	2	1					1										
F 19	1	1						1									
F 33																	
F 35	1																
F 36																	
F 41	2																
F 60	1	1															
F 62	4	1															
F 65																	
F 67																	
F 73	1																
F 76	1																
F 90	1																
F 91	1						1										
F 99								1									
F 100	3		1					1									
F 103									1								
F 104	1	1															
F 109	1														2		
F 113																	
F 115	1																
F 120																	
F 127	1																
F 129	1																
F 133	1																
F 135																	
F 137																	
F 142																	
F 143	2																
F 144	1																
F 148	1																
F 152	1	6	1	1	1		1	1	1	1			2				
	2	1															
計	47	10	3	2	1	1	7	2	3	2	4	4	3	7	14	10	120

第2表 縄文時代の遺構出土石器一覧表

打製石斧は5点(91-7・9・10・12)あり、1点は固化しなかったが、いずれも基部・刃部等を欠く。形態・法量とも中期のものと違いは余り認められない。

そのほかに、打製石鎌(115-6)、使用痕のある剥片(115-5)、加工された剥片(115-7)、砥石(91-11)、石棒(91-8)が各1点ずつある。

石棒は67号住居址の床面から出土した。長さ9.4cm・幅1.3cm・厚さ1.0cm・重量23gを測る小石棒で、面は磨かれ、両端部に2~3条の彫をめぐらして飾る。装飾品ともみられるが、祭祀的なものといえよう。

④ 土坑出土石器

土坑の確定した時期を示すことは困難であるが、大半が縄文時代中期終末から後期前半のものと考えられ、出土石器も同時期のものと考えてよいが、他時期からの混入品も含まれる可能性がある。

器種は打製石斧が27点と多く、ほかに磨製石斧1点、横刃型石器6点、凹石1点、石皿1点、石錐5点、打製石鎌1点、スクレイバー1点、ピエス・エスキュー2点、使用痕のある剥片1点、黒曜石の剥片12点がある。

⑤ 配石出土石器

配石の石の間などから出土したものを配石出土石器としたが、出土状態等から考えれば直接遺構に結び付くものは少なく、土坑出土例と同様に、他時期からの混入品を含む可能性がある。

打製石斧7点(112-12~16、113-1、10)、磨製石斧1点(113-2)、横刃型石器1点(113-6)、砥石1点(113-3)、石錐1点(113-9)、スクレイバー1点(116-3)、石錐1点(116-4)、使用痕のある剥片(113-7・8)などがある。このうち、磨製石斧・砥石は出土状態から直接遺構に結び付く可能性が高く、いずれも白っぽく風化が進み、遺存状態は悪い。

再三指摘してきたように、縄文時代中期・後期を通して、下伊那地方のこれまでの発掘調査出土例に比して、量的に少ない。良好な出土状態を示す竪穴住居址がなく、遺物の出土が土坑・配石という石器の組成を知るには不適切な遺構からが多かったということもあり、明らかにできない点が多い。しかし、後期に関していえば、当地方においてはかなりまとまった資料であることも事実であり、石器出土点数が少ない点などについては、今後の課題を提示するものといえよう。

(佐藤勝信)

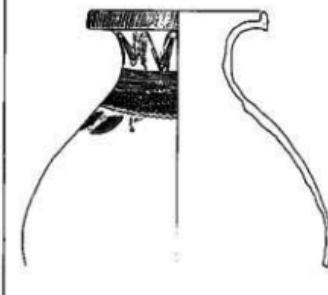
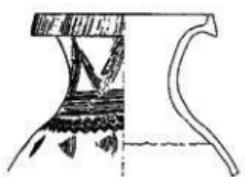
4) 弥生時代の遺物

該期の遺構は、整穴住居址・方形周溝墓・円形周溝墓・圓溝址・建物址・土坑・柱穴列があり、出土遺物は住居址からのものがほとんどを占め、きわめて良好な資料が得られた。そこで、該期に特徴的な遺物である土器・石器に関して分類し、若干の考察を試みたい。

(1) 土器

器種は壺・甕・高坏・鉢・手づくねがあり、口縁部などの形態差により、壺A・B、甕A～D、高坏A～Dに細分した（挿図158～161参照）。

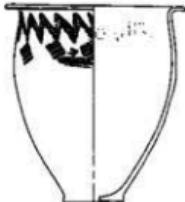
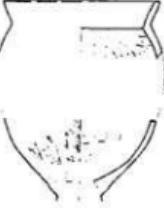
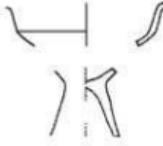
分類に当たっての基本姿勢は、恒川遺跡群（飯田市教委1986）と変化ないが、器形の表現方法の順序に若干の変更がある。恒川遺跡群では、器種・器形・器形の小差異・手法・法量の順とした。法量による分類ができたのは、出土土器の主体を占める壺A・甕A・Bのみであった。

壺 A		a	太い頭部から外湾しながら外反し、口縁端部が折立するもの。胴部は丸味を帯びる。 I … 口径20cm以上の超大型品 II … 口径13～20cmの中・大型品 III … 口径13cm以下の小型器
		b	
			

挿図 158 弥生土器形態分類図（1）

	A _a		a 端部が丸くもしくは尖り気味に仕上げられるもの。	折立部が内傾するもの。	太い頸部から外湾しながら外反し、口縁端部が折立するものの。胴部は丸味を帯びる。 I…口径20cm以上の超大型品 II…口径13~20cmの中・大型品 III…口径13cm以下の小型品
	b		端部に平坦面のあるもの。		
B _a			短く直線的に外反する口縁部を持つもの。		
壺	B _a		長く直線的に外反する口縁部を持つもの。		
B _a			短く内湾する口縁部を持つもの。		球形もしくは下ぶくれの胴部を持つ中・小型の壺、いわゆる壺。口縁部形態で細分した。
B _a			長く内湾する口縁部を持つもの。		
A _a			口縁部に最大径を持つもの。	a 頸部から胴上部にかけて横描の波状文と斜走短線文が施されるもの。	外湾気味に緩く外反する口縁部を持ち、砲弾形の胴部を呈し、平底となるもの。口縁部と胴部の関係で細分した。 I…口径20cm以上の超大型品 II…口径15~25cmの大型品 III…口径15cm以下の中・小型品
甕	A _a		胴上部に最大径を持つか、口縁部と等しいもの。	b 頸部から胴上部にかけて横描波状文が施されるもの。 c 無文のもの。	

挿図 159 弥生土器形態分類図（2）

	B _a		口縁部に最大径を持つ胴部と等しいもの。	a 頸部から胴上部にかけて櫛描の波状文と斜走短線文が施されるもの。 b 頸部から胴上部にかけて櫛描波状文が施されるもの。 c 無文のもの。	a 頸部から胴上部にかけて櫛描の波状文と斜走短線文が施されるもの。短く強外反する口縁部を持ち、砲弾形の胴部を呈し、平底となるもの。 b 口縁部と胴部の関係で細分した。 I … 口径20cm以上の超大型品。 II … 口径15~25cmの大型品。 III … 口径15cm以下の中・小型品
腰	B _b		胴上部に最大径を持つもの。胴部が丸味を帯び、口縁部の外反がやや緩くなるものが多い。	c	
C			腰Aもしくは腰Bに脚台部を付けたと考えられる古付腰		
D			外反する単純口縁を持つ古付腰		
高 環	A _a		底から深い形態で立ち上がり、棱を持って強く外反して口縁部が水平を呈するもの。		环部に棱を持ち、外湾して立ち上がるものの。外反する深い脚部を持つ。
	A _a		环底部が盤状を呈し、外湾して立ち上がるもの。		环部形態で細分した。

挿図 160 弥生土器形態分類図 (3)

	B ₁		内傾する平坦面を持つもの。	
高 坏	B ₂		丸く仕上げられるもの。	下部で棱を持ち、内湾もしくは直線的に立ち上がる深い坏部を持つもの。口縁端部の形態で細分した。
	C ₁		内傾する平坦面を持つもの。	
	C ₂		丸く仕上げられるもの。	下部で棱を持ち、内湾もしくは直線的に立ち上がる浅い坏部を持つもの。口縁端部の形態で細分した。
	D		脚部が大きく開き楕状の坏部をしのぐもの。いわゆる小型高坏。	

挿図 161 弥生土器形態分類図 (4)

② 出土土器

各器種等の傾向を概観すると以下のようである。

壺

壺A38点・壺B16点と壺Aが多数を占める。底部のみの破片は分類から除いたが、底部の72点のほとんどが、胎土・調整から壺Aと考えられ、これを含めれば、さらに壺Aの占める割合が増加する。

壺A 口縁折立部が直立気味で端部が丸くもしくは尖り気味のA_{1a}が11点、口縁折立部が直立気味で端部に平坦面があるA_{1b}が8点、口縁折立部が内傾して端部に平坦面のあるA_{2b}が3点ある。法量からいえば、口径20cm以上の超大型品のIが7点、口径13~20cmの中・大型品のIIが20点、口径13cm以下の小型品のIIIが6点ある。

胎土・調整・文様構成とも齊一性が認められる。

胎土はほとんど例外なく石英もしくは長石粒と考えられる白味を帯びた小石粒を含む。赤粒・雲母は含むものと含まないものがある。小石粒は大型品ほど多く含む傾向が認められる。

調整は、口縁部内・外面にヨコナデ、ほかはナデもしくはハケの後施文・ヘラミガキが施され

る。内面はヘラミガキが施されないものも多く、ほとんど例外なく剥落する。

文様構成は、口縁折立部に籠描刺突文、口縁部に横描波状文、頸部に横描横線文が施される。頸部以下の文様構成を確認できる例は少ないが、振幅の小さい横描波状文と横描円弧文の組合せ、振幅の大きな波状文を施文する2タイプがある。圓化できたうちでは、前者が4点、後者が6点である。ほかに、口縁折立部の刺突文が横状工具もしくはハケ状工具の例(38-4、52-12)、口縁折立部に横描縦線文が施される例(46-18)は、きわめて例外的である。とくに、後者は、当地方の弥生時代後期土器のすべてをとっても、2・3例しか見い出せない。

横描文の施文原体がイネ科植物の茎葉によるものが5点(12-1、28-1、32-1・2、55-5)ある。

施文方向は、右回り1回断絶のいわゆる巣内型(佐原1959)であるが、38-4のみは左回り1回断絶と逆になる。

壺B 胎土に小石粒を含まず、だいだい色や白っぽい色調を呈するものが多く、破片のみでも壺Aと区別できる。口縁部が短く直線的に外反するB₁が2点、長く直線的に外反するB₂が1点、短く内湾するB₃が2点、長く内湾するB₄が4点である。

胎土に小石粒を含み、茶系統の色調を示す例(7-12)がわずかに認められる。

文様はB₁(19-26、54-5)の外面に、横描横線文・籠描刺突文が施され、文様部とその付近は丹彩される。

そのほか 分類に該当しなかった壺は2点ある。

11-2は、口縁部が折れ曲がるように外反し、胴部が大きくふくらむ。口縁部形態は壺Bに類似するが、これほど胴部が張る例はなく、壺として把えた。

34-17は、外反する口縁部が端部で折立する形態で、壺Aに類似するが、文様構成・胎土・細部の形態で壺Aとは異なる。

いずれも、当地方の該期土器では初例のものである。

要

壺A 7点・壺B 101点・壺C 3点・壺D 13点あり、壺Bが圧倒的多数を占める。胴部・底部の136点も大部分が、胎土・調整から壺Aもしくは壺Bであり、両者の出土割合からほとんどが壺Bと判断される。

壺A ゆるく外反する口縁部を呈する。口縁部に最大径を持ち横描の波状文・斜走短線文が施されるA_{1a}が1点、横描波状文のみのA_{1b}が1点、無文のA_{1c}が2点あり、胴部に最大径を持ち横描波状文のみのA_{2b}が1点、無文のA_{2c}が1点ある。

壺A_{1a}(33-1)は、口径37.2・器高49.8cmの超大型品であり、胎土には壺と同様に小石粒の混入が多く、大型品を製作するうえの特徴と考えられる。外面はハケ調整のみでその上にヘラミガキをせず、内面は剥落する部分が多い点も、一般的な壺とは様相が異なる。

壺B 圧倒的多数を占め、本遺跡該期における煮沸形態の主役をなしている。

折れ曲がるように強外反する口縁部に最大径を持ち、櫛描の波状文と斜走短線文が施されるB_{1a}が19点、櫛描波状文のみのB_{1b}が36点、無文のB_{1c}が18点あり、口縁部の外反がやや緩くなり胴部に最大径を持ち、櫛描の波状文と斜走短線文の施されるB_{2a}が2点、櫛描波状文のみのB_{2b}が15点、無文のB_{2c}が7点ある。法量からいえば、口径25cm以上の超大型品のIが3点、口径15~25cmの大型品のIIが89点、口径15cm以下の中・小型品のIIIが15点である。

胎土・調整・文様構成ともきわめて齊一性が認められる。

胎土は白色の小石粒を若干含み、赤粒・雲母は含むものと含まないものがある。色調はほとんど例外なく茶系統の色調をなす。

調整は、口縁部がヨコナデ、そのほかがハケもしくはナデの後施文・ヘラミガキが施され、ヘラミガキの方向も内面は横方向、外面は縱方向のものが多い。

文様構成は、櫛描の波状文・斜走短線文、櫛描波状文のみ、無文の3種類に限られる。施文方向は、確認できるもののうち3点(19-6、45-12、46-15)が左回り1回断絶であるが、ほかはすべて右回り1回断絶の巻内型である。

甕C 総数で3点と少なく、すべて脚台部のみの破片で、全体形を復元できるものはない。甕A・Bと同様な胎土を持ち、外面がヘラミガキ調整されることで甕Dと区別できる。盛行する時期が若干古く、前時期からの残存形態と理解される。

甕D くの字の外反する単純口縁の台付甕である。小石粒をあまり含まない精選された胎土で白っぽい色調を呈し、外面調整がハケもしくはナデで施されることから、破片のみでもほかの甕と区別できる。

外来系土器で、大部分が東海からの搬入品と考えられる。

そのほか 分類に該当しなかった甕は2点ある。

17-17は、内湾する口縁部が端部で肥厚し、外面がハケ調整、内面がヘラケズリ調整されるいわゆる布留式の甕である。県内では、恒川遺跡群で4点、伊那市⁽¹⁾の堂垣外遺跡で1点(桐原・御子柴)松本市の石行遺跡で1点などがある。

34-15は、くの字に外反する口縁部の端部が面取り気味となるもので、内・外面ともヘラミガキ調整される。口縁部形態はタタキ甕に類似しているが、調整が異なるため、タタキ甕と断定できない。

高坏

高坏A 6点・高坏B 19点・高坏C 6点・高坏D 2点で、Bが最も多い。

高坏A 坯部が深いA₁が3点、坯部が浅く盤状を呈するA₂が2点ある。全体形を復元できるものはない。

A₁(11-30、15-14、44-7)は、甕A・Bと似た胎土・焼成を呈する。A₂(16-18、19-4)は脚部に櫛描横線文が施される。前者は当地方独自の型式であり、後者は東海に普遍的な型式であり、外来系土器と理解される。

高坏B 坏部の口縁端部に内傾する平坦面を持つB₁が3点、丸く仕上げられるB₂が8点ある。いわゆる欠山型の高坏に類似する。

脚部形態は、内湾するものが6点あるが、外湾するものも1点(10-13)ある。脚部のみでは分類に該当させなかつたが、外湾もしくは直線的にひらく脚部を持つ17点の中にも、Bが存在すると考えられる。

胎土・色調・焼成により次の3タイプに分類できる。小石粒を含まない精選された胎土で、白っぽい色調を呈し、焼成良好なもの。小石粒を含まない精選された胎土で、ぶいだいだい色の色調を呈し、焼成不良なもの。小石粒を含む胎土で、茶系統の色調で焼成普通のもの。

脚部形態などを含めて考えれば、東海からの搬入品とそれを在地でまねた模倣品が存在し、在地化したなかでの展開を考える必要があろう。

高坏C Bより坏部が浅い形態で、口縁端部に内傾する平坦面を持つC₁が2点、丸く仕上げられるC₂が3点ある。

C₁の18-18は、胎土・色調・焼成から明らかに東海からの搬入品である。

高坏D 2点(25-13、55-18)のみの出土であり、完形に復元できず、分類も推定によっており、ほかの器形の可能性もある。

43号住居址出土の脚部(29-17)は、Dの可能性があり、坏部が欠けた後蓋に転用している。

鉢 41-1は、口縁部が外反し、頸部がくびれて底部に至る形態を呈する。ほかに、44-14は、平底の底部から内湾して立ち上がる形態の鉢の可能性がある。

全体で2点のみであり、該期に普遍的な器形ではない。

③ 器種構成

形態分類に該当させ、遺構ごとに示したのが第3表である。住は竪穴住居址、方周は方形周溝墓、圓溝は圓溝址を表わしている。弥生時代と考えられても、圓化個体が出土しなかつた遺構は省略した。時期は、弥生時代後期後半を後後、同時期終末を後終とし、そのいずれかに属すると考えられるが、詳細な時期を決定できなかつた遺構は、単に後とした。

個々の遺構の出土状態に差がみられ、遺構単位での器種構成について本来の姿は見え難いが、全体をみれば、弥生時代後期の器種構成を示していると考えられる。

総計446点のうち、壺130点で29%、甕263点で59%、高坏50点で11%、そのほか3点で0.7%である。甕が主体を占め、壺がやや多く、それに高坏が混じるという構成である。そのほかの器種はきわめて少數であり、普遍的な存在ではない。

個々の遺構で良好な出土状態を示すものとして、圓化個体29点が出土した18号住居址、同25点が出土した33号住居址、同26点が出土した66号住居址を取り上げると次のようである。これらは、床面もしくはその直上からの遺物が多く、本来の器種構成を示している可能性が高いものと考える。

器 形 構	壹												貳							高坏							鉢	時 期	手 段	
	A	A	A	A	B	B	B	B	高 坏	底	A	A	B	B	C	D	高 坏	A	A	A	B	B	C	C	D	高 坏				
18	19	20	21	1	2	3	4			1						1	2													
1住																												後		
2住																												後		
3住																												後		
5住																												後		
6住																												後		
7住																												後		
8住																												後		
9住	1																											後		
10住																												後		
11住																												後		
12住																												後		
13住	1																											後		
15住																												後		
16住	1																											後		
17住																												後		
18住	2	3	1																									後		
19住																												後		
20住																												後		
21住																												後		
22住																												後		
23住																												後		
24住																												後		
25住																												後		
26住																												後		
27住																												後		
28住																												後		
30住																												後		
31住																												後		
32住																												後		
33住	1	2	1																									後		
34住																												後		
35住	1																											後		
36住																												後		
37住																												後		
38住			1																									後		
39住																												後		
40住																												後		
41住			1	1																								後		
42住																												後		
43住	1	1	1	1																								後		
44住																												後		
45住																												後		
47住																												後		
48住																												後		
51住	1			1																								後		
53住																												後		
54住																												後		
55住	1																											後		
57住																												後		
60住																												後		
61住																												後		
62住																												後		
64住																												後		
65住																												後		
66住	1																											後		
69住											3	1	4	1													後			

第3表 弥生時代遺構出土土器一覧表

器 形 構	壺										甕					高环					手 づ く ね	時 期														
	A	A	A	A	B	B	B	B	甕	壺	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕																
71住											1	2										後														
72住		1									3	2										後終														
73住	1											1	5	1	1						2	1														
76住											3	1										1														
78住											1																									
81住											2	1	3																							
82住																																				
83住																																				
84住																																				
85住	1										3	1	2									1														
86住	1										2	2	1	3																						
87住											1			1																						
89住											3	2	1	2																						
90住																																				
91住																																				
93住											1	2	1	1																						
94住	2	1									3	2	1	1																						
95住												1	1																							
96住																																				
97住																																				
98住																																				
100住																																				
方跡1																																				
圓跡3																																				
計	11	8	7	3	9	2	1	2	4	7	2	72	2	5	2	78	24	3	13	20	16	2	3	2	1	3	8	6	1	2	3	2	17	2	1	446

18号住居址は壺10点で34%、甕17点で59%、高環2点で7%である。33号住居址は壺6点で24%、甕15点で60%、高環4点で16%である。66号住居址は壺9点で35%、甕14点で54%、高環2点で8%、鉢1点で4%である。多少の増減はあるが、遺跡全体の示した傾向に類似している。

こうした傾向は、恒川遺跡群の弥生時代後期後半から終末の恒川V期・VI期でも同様であるが、本遺跡の方がやや甕の比率が高く、そのほかが低くなる。

④ 出土土器の時期差

89号の弥生時代の遺構から出土した土器は、すべて同一の時期に属するものでなく、弥生時代後期の中でも時間幅を有するものである。こうした土器の先後関係を決定する方法は、遺構相互の切り合い関係による層位学的方法と、土器の型式差で推測する型式学的方法によるものがある。当然、前者による方法が最終的な決め手となるが、本遺跡ではこれだけの遺構がありながら、良好な重複関係を有するものは少なかった。そうした中で、89号と94号住居址、93号と95号住居址の重複関係は、一つの材料を与えてくれるものである。そこで、それぞれの遺構の出土土器を概観し、型式学的比較検討を加え、土器の時期差を抽出してみたい。

切り合い関係のある住居址

89号・94号住居址 94号住居址を89号住居址が切る。器形を確定できるのは、89号住居址で壺B・甕B_{1b}・甕B_{1c}・甕D・高環B₂、94号住居址で壺A_{1a}・壺A_{1b}・甕B_{1a}・甕Cである。

93号・95号住居址 93号住居址を95号住居址が切る。器形を確定できるのは、93号住居址で壺B_{1c}・壺C、95号住居址で壺B_{1c}・壺B_{2b}・高环C₂である。

出土資料の分析

分析する器種は、本遺跡で最も多い壺A・Bを選び、そこから全体的な傾向を考えたい。壺A・Bは炉址の埋設土器として利用されている例が多く、住居址構築時の遺物として遺構の時期を端的に示すものといってよい。これに組成する遺物は、床面などに残された住居廃棄時以降のもので、時期差があることも考えられる。しかし、こうした前提に立っても、器種構成等から壺A・Bを埋設土器とする遺構の組成を比較することが、最も有効な方法と考える。

壺B_{1a} 壺B_{1b}を埋設土器とする住居址は9軒あり、それに組成する遺物は第4表で示した。

壺はA_{1a}・A_{2b}が多く、壺はB_{1a}が最も多く、Dがこれに次ぎ、B_{1b}・B_{1c}・B_{2a}などが若干みられる。高环はAとBに限られる。

器 形 組 成	壺								壺								高环											
	A _{1a}	A _{1b}	A _{2a}	A _{2b}	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	A _{1a}	A _{1b}	A _{2a}	A _{2b}	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	B ₅	B ₆	C	D	A ₁	A ₂	B ₁	B ₂	B ₃	C ₁	C ₂	D
9住																												
11住																												
36住	1																											
17住																												
18住	1	4	1														2	2				1	2					
55住	1																											
61住																												
84住	1																2					1						
94住	2	1																				1						
計	5	6	1	1	1				2	1	5	2	1	1		1	1	3	1		2	1						

第4表 壺B_{1a}と組成する器形一覧表

器 形 組 成	壺								壺								高环											
	A _{1a}	A _{1b}	A _{2a}	A _{2b}	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	A _{1a}	A _{1b}	A _{2a}	A _{2b}	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	B ₅	B ₆	C	D	A ₁	A ₂	B ₁	B ₂	B ₃	C ₁	C ₂	D
15住																												
33住	1	2	1			1										1	2	3			1	1	1		1	4		
39住																												
41住		1	1													1	1	2			1		1		1			
42住																												
48住																												
53住																												
54住																												
57住																												
66住																												
85住	1		1													1	4				1							
89住																	1	1										
96住																												
97住																												
98住																												
	1	1	3	1	3	2	4	3	1	1	1	1	3	25	9	1	2	1	2	1	1	1	3	4	1	1		

第5表 壺B_{1b}と組成する器形一覧表

甕B_{1c} 甕B_{1b}を埋設土器とする住居址は15軒あり、それに組成する遺物は第5表で示した。

壺はA・Bともにあり、A_{2a} 3点・B₁ 4点・B₂ 2点・A_{1a}・A_{1b}・A_{2b}が各1点である。甕はB_{1b}が10点と最も多く、B_{1c}も9点と多いが、ほかはB_{1a} 3点・B_{2c} 2点・A_{1b}・A_{1c}・A_{2b}・B_{2b}が各1点ずつである。高环はBが計8点で最も多いが、A・C・Dも各1点ずつある。

甕B_{1c} 甕B_{1c}を埋設土器とする住居址は2軒と少なく、それに組成する遺物は第6表で示した。

出土遺物も少ないが、甕B_{1c}・C、高环Aが1点ずつある。

甕B_{2b} 甕B_{2b}を埋設土器とする住居址は6軒あり、それに組成する遺物は第6表で示した。

壺はA 1点・B₁ 1点・B 3点と、器形を確定できるものは少ない。甕はB_{1c} 2点・B_{2b} 2点・B_{2c} 1点である。高环はCに限られて2点ある。

そのほかに、甕B_{2c}を埋設土器とする住居址が2軒あるが、器形を確定できる遺物の出土はない。また、甕A_{1a}を埋設土器とする住居址が1軒あり、壺A_{1b}・壺A_{2b}・壺B₁・甕B_{1b}・甕Cを1点ずつ出土している。

器形 遺構	壺								甕								高环										
	A	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	C	D	A	A	B	B	C
10	10	10	2a	2D	1	2	3	4	1b	1c	2b	1b	1c	2a	2b	2c	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
19住																											
93住																											

第6表 甕B_{1c}と組成する器形一覧表

器形 遺構	壺								甕								高环										
	A	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	C	D	A	A	B	B	C
10	10	2a	2D	1	2	3	4	1b	1c	2a	1a	1b	1c	2a	2b	2c	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
21住																											
65住																											
76住																											
78住																											
82住																											
95住																											

第7表 甕B_{2b}と組成する器形一覧表

甕の前後関係

先にみた切り合い関係を示す遺構の炉址の埋設土器から、甕A_{1a}と甕B_{1b}は前者が先行し、甕B_{1c}と甕B_{2b}は前者が先行することが確認できる。そのほかの器形の新旧関係を確定することは困難であるが、甕A_{1a}は甕B_{1a}に先行し、甕B_{1b}は甕B_{2b}に先行すると考えられる。こうした点と、それぞれの器形の埋設土器に組成する遺物を総合的に判断すると、甕A_{1a}→甕B_{1a}→甕B_{1b}→甕B_{2b}という前後関係が想定できる。甕B_{1c}の位置を確定するのは困難であるが、甕B_{1a}・甕B_{1b}の

両者に組成しているので、この両者と同時存在すると考えられる。

第8表は、それぞれの埋設土器に組成する遺物の出土量を埋設土器を含めて百分率で表わしたものである。ほかの器形の出土がない遺構があり、埋設土器のみで100%になってしまうものもあるが、出土遺物の傾向をおさえることはできる。特に、甕B・高坏などに変化が認められ、時期区分の指標となることを示している。

器形	壺										甕										高坏									
	A	A	A	A	A	B	B	B	B	A	A	A	A	B	B	B	B	B	C	D	A	A	B	B	B	C	C	D		
壺	In	1b	2b	2D	1	2	3	4	In	1b	1c	2b	In	1b	1c	2b	2b	2c	B	C	1	1	2	2	2	C	C	D		
A _{1a}	17	17	17	17					17				17						17											
B _{1a}	11	16	2	2	2	1			6	2	2	2	2	32	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	2	1
B _{1b}	3	3	4	3	4	1	3	5	4	1	3	3	3	3	3	4	3	3	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
B _{1c}																			60			20	20							
B _{2a}																			100											
B _{2b}																			11	42	6									
B _{2c}																			100											

第8表 埋設土器に組成する器形の比率表

段階区分

以上の結果を総合的に判断して、当遺跡の弥生時代後期は以下のように段階区分するのが適当と考える。

I段階 11号・18号・55号・94号住居址などを標式とする。

甕B_{1a}を組成の中心として、壺A_{1a}・A_{1b}・B₁、甕D、高坏Bなどが組み合わされる。壺A₂・甕B_{1b}・B_{1c}・B_{2a}、高坏Aなどが若干認められる。壺B₁、甕C、高坏Aは前段階に盛行するもので、古い形態の残存を示すものであろう。

II段階 15号・33号・41号・66号・85号住居址などを標式とする。

甕B_{1a}を組成の中心として、壺A₁・B₁・B₄・甕B_{1c}、高坏Bなどが組み合わされる。甕A_{1a}・A_{1c}・A_{2b}・B_{2b}・B_{2c}・D・高坏C・Dなどが若干認められ、甕A_{1b}・A_{1c}・A_{2b}は古い様相、甕B_{2b}・B_{2c}・高坏C・Dは次の段階に引き続く新しい様相を示す。

III段階 30号・65号・73号・76号・78号・82号・95号住居址などを標式とする。出土量が少なく、全体的に資料不足である。

甕B_{1a}を組成の中心として、壺B₁・甕B_{1c}・B_{2c}・高坏Cなどが組み合わされる。壺Aも当然組み合わされるが、良好な組成を示すものはない。他遺跡の出土例を参考にすれば、壺A_{2a}が主体となり、若干のA_{1a}が混じると考えられる。

I段階に先行すると考えられる遺構に51号住居址がある。壺A_{1b}・A_{1b}・B₁、甕A_{1b}・Cが1点ずつあるが、甕B_{1b}は上層からの出土であり、除外して考えてよい。しかし、1軒のみの検出であり、全組成を把握するに至らないので、I段階に先行する可能性だけを指摘しておきたい。

編年の位置づけ

I～III段階の位置づけについては、甕B・高坏などの変化を考えれば、II段階とIII段階の間に画期を設けるのが妥当と考える。そこで、I・II段階を弥生時代後期後半、III段階が弥生時代後期終末と位置づけられる。I・II段階は同時期の新旧関係を示すものととらえられる。

最後に、恒川遺跡群の弥生土器編年と比較してみたい。器形の比較・検討より、I・II段階は恒川V期、III段階は恒川VI期と併行関係を持つといえる。III段階は恒川VI期の古い部分を中心とするものであろう。

(山下誠一)

(2) 石器

該期の遺構から出土した石器は、打製石斧・磨製石庖丁・打製石庖丁・有肩肩状型石器・有抉石器・横刃型石器・磨製石斧・砥石・特殊磨石・台石・磨製石鎌・打製石鎌・石錘・石匙・環状石器・石棒状石製品・礫器・スクレイパー・ピエス・エスキュー・使用痕のある剝片があり、きわめて多様性に富む。しかし、すべてが該期のものでなく、先行する時期からの混入品も多い。

まず、出土石器を概観した後、該期における石器組成を考えてみたい。

① 出土石器

弥生時代の遺構から出土した石器は第9・10表のとおりである。住は竪穴住居址、ドは土坑、方周は方形周溝墓、円周は円形周溝墓、囲溝は囲溝址を表わしている。

本書で用いる形態分類は、恒川遺跡群の分類に準拠している。

打製石斧 総数77点が出土した。

完成品・ほぼ完成品が22点、破損品が55点と、破損品の量が多い。石質は硬砂岩60点、緑色片岩8点、輝緑凝灰岩4点、変輝緑岩2点、安山岩・斑玲岩・細粒斑玲岩各1点ずつである。

刃部には縦方向の使用痕、いわゆる土擦れ痕が認められるものが多い。100-10は刃部のA面・B面とも研磨し、磨製石斧として扱うべきものかもしれないが、一応打製石斧に含めた。

磨製石庖丁 有孔磨製石庖丁が2点、抉入磨製石庖丁が2点出土した。

有孔磨製石庖丁 背部が直線的なA類(100-5)と、背部が丸(カーブするB類(99-5))があり、前者は紐孔が確認できないが、形態から本類といえる。石質は前者が珪質片岩、後者は緑色片岩である。刃部は直線を呈するが、後者は磨滅のため若干内湾刃をなす。

抉入磨製石庖丁 研磨がほぼ刃部に限られるB類(97-7、98-14)で、いずれも刃部と背部を研磨している。石質は、前者がフォルンフェルス、後者は粘板岩である。

抉入打製石庖丁

総数57点が出土した。

礫表皮剥片の両側辺に抉入部のみを作出したA類19点、礫表皮剥片に背部調整を施したB類34点、自然面をほとんど残さず周囲に調整を持ち長方形を呈するC類2点、不明1点である。石質

は硬砂岩52点、緑色片岩2点、超塩基性岩・黒雲母片岩各1点である。

使用痕は、刃部に磨滅痕を持つものが多く、口一状光沢物が付着するもの(92-9, 98-11, 99-9, 102-9)も認められる。

92-7は、抉入部を研磨で作出する類例の少ないものである。

横刃型石庖丁 舟形もしくは鉗錐形・長楕円形を呈する横長なA類が2点ある。B類・C類の出土はないが、横刃型石器・剥片のなかに、これに分類すべきものがあるかもしれません。

97-6は剝離調整が施され、99-16は割取された剥片をほぼそのまま利用している。石質は前者が緑色片岩、後者がウォルンフェルスである。

有肩扁状形石器・有抉石器 有肩扁状形石器が45点、有抉石器が3点出土した。これらの石器との関連が考えられる有柄石器の出土はなかった。

有肩扁状形石器 扱りが大きく、刃部幅と比較

器種 道橋	折 裂 石 斧 石 有 孔 磨 石 抉 入 磨 石 庖 丁	有 柄 横 刃 型 石 器	磨 刀 型 石 器	磨 砥 石 器	台 磨 石 器	磨 石 器	横 状 石 器	石 制 器	石 制 器	その ほか	
1往		1									1
5往											1
7往		3									2
9往		1									2
10往	1										2
11往	1	1	4								3
12往											4
15往	4	1	1	3	1	1					14
16往	5	2	1	1	1	1					15
17往	4		3	1		1					10
18往	4	1	2	3	1						11
19往	2	2			1						6
20往	2	1									3
21往		2									4
22往	1		1	1							4
26往		1		1							2
30往	1	3									4
32往	1				1						3
33往	1	2	1			1					5
35往		2	1								3
36往			1	1							2
37往			1								1
38往			1								2
39往	1	1	5								8
40往	1	1			1						3
41往			1								1
42往						1					1
43往			1			2	1				4
44往					1						2
46往											1
47往			1								2
48往	1										2
51往	1		1	2	1						7
53往		1		2							4
54往	1			1							2
64往		1									2
65往			1			1		1			2
66往	2	1	1			1					4
69往	2		1								6
71往	4	1									3
72往	1						1				6
73往	3		1	3							10
74往	2			2							3
76往			1					1			2
78往			1								1
81往	1		1					1			5
82往				1							3
83往	3		1	2	1						9
84往	1		1		1	1					4
85往	2	1	1	2	1	2	2				14
86往	7	7	1	2							20
87往			1		2	1					5
89往	2			2							7

第9表 弥生時代の遺構出土石器一覧表(1)

して基部は細長く、肩部

が大きく張るA類5点。

A類に比べて抉りが浅く

基部は幅広で、全体に素

材剥片の形状をとどめる

B類15点、両側縁の抉り

の深さに差があり、基部

が刃部の中央から大きく

片側にずれるC類4点、

両側縁は直線的ないしは

緩く内湾する程度に浅く

抉られて、肩部の張りは

小さく継長で撥形をなす

D類11点である。E類・

F類は出土しなかった。

石質は硬砂岩が44点と圧

倒的に多いが、黒雲母片岩が1点あり注意される。

刃部は緩い円弧状を描く鋭い縁辺を利用したものが多く、若干刃こぼれ状の剥離痕が認められるものがある。なかに、刃部に剥離調整を施すもの(92-12、113-12・13・17)があり、刃部は鈍く、切断するという用途には適さないと考えられる。

刃部にロー状光沢物が付着するのは45点中13点と29%を占め、この石器の用途を示唆している。

有抉石器 中形剥片の鋭く幅広い縁辺を刃部とし、両側縁に抉りを持つ打製石器で、横長の剥片の両側縁に幅の狭い抉りを入れたA類が1点(99-14)、やや継長の剥片の両側縁に抉りを入れたB類が1点(93-12)ある。片側に大きな抉りをもつ98-5も有抉石器の範疇に含めたが、別形態の石器かもしれない。石質はすべて硬砂岩である。99-14の刃部にはロー状光沢物が認められる。

横刃型石器 総数25点が出土した。

割取された素材に左右され、形態はバラエティーに富む。単なる剥片と区別するのが困難なものもある。石質は硬砂岩23点、緑色片岩2点である。

94-1は背部を全面敲打調整し、その中央部敲打による抉入部が作出されており、全体に厚ばったい印象を受ける。

磨製石斧 5点出土した。すべて破片である。

扁平で方形を呈する片刃のいわゆる扁平片刃石斧のD類が1点(96-7)、乳棒状磨製石斧が2点(94-13、106-13)、両刃のノミ形磨製石斧が1点(103-4)、不明が1点(103-12)ある。

器種 遺構	打 製	有 孔 磨 製	抉 入 磨 製	横 刃 型 石 器	横 刃 型 石 器	磨 製	磨 製	磨 製	磨 製	磨 製	磨 製	そ の は か	計				
90住	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	使用痕のある剥片1	1				
91住	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	不明1	5				
93住	4	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	剥片1	11				
94住	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4				
95住	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4				
97住	3	-	2	-	1	-	1	1	-	-	-	-	6				
98住	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2				
100住	1	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	破片1	5				
F 21	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3				
方周1	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	3				
内周1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1				
西周1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1				
西周2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2				
西周3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1				
	77	2	2	56	2	45	3	25	5	3	21	1	10	2	2	44	300

第10表 弥生時代の遺構出土石器一覧表(2)

石質は、粘板岩（96-7）・班玲岩（94-13）・超塩基性岩（106-13）・綠色片岩（103-4）・珪岩（103-12）である。扁平片刀石斧は弥生時代中期の石器といえ（桜井1986）、弥生時代後期の造構から発見されたのは2例目であり、何らかの形で該期まで残存したものと考えられる。乳棒状磨製石斧は縄文時代からの混入品である。

砥石

3点ある。金属器との関係で重要な役割を占めようが、きわめて少ない。

99-3は当擦型の破片で、かなりの使用痕が観察される。石質はフォルンフェルスである。

108-2は据置型で、97号住居址の床面上に置かれていた。使用痕は余り認められず、出土状態でいえば、上面より側面の方が使われていた。石質は花崗岩である。

97-13は擦り切りによって切断されており、砥石は側面に若干認められる。石質はフォルンフェルスである。

台石

住居址の床面上にある扁平な自然礫を台石と考えた。大部分が造構図から判断したもので問題は残る。総数は21点あり、一住居址に複数持つ例（43号・85号・95号住居址）もある。

圓化し観察できた例からみれば、いずれも円形もしくは橢円形を呈し、使用痕はほとんど認められない。石質はすべて花崗岩である。

磨製石鎌

剥離調整段階の未成品が1点（92-8）あり、石質は珪質片岩である。

環状石器

孔の貫通した完成品（100-9）と未貫通の未成品（99-6）が1点ずつある。いずれも破損品で、石質は硬砂岩である。

完成品は扁平な円礫の中央部を敲打によって孔をあけ、周辺を剥離調整している。未成品は両側から敲打している。

礫器

2点ある。

100-12は礫の周辺を打ち欠いて刃部を作出したもので、109-1はB面全面が剥離調整された破損品で、石質はいずれも硬砂岩である。

石棒状石製品

21号住居址から1点（97-3）出土した。

中央部と端部に敲打痕が認められ、全体は研磨によって仕上げられている。先端部のやや内側を、横方向の粗い擦り切りで抉入部を作出する。

石錐

総数10点が出土した。

自然礫の両端を打ち欠いた礫石錐7点、両端に擦り切りによる抉入部を作出した切目石錐が3

点ある。石質は2点（107-3、109-2）が凝灰岩のほかは硬砂岩である。

いずれも縄文時代のものと形態・石質とも変化なく、混入品と考えられる。

凹石

2点（94-14、102-12）ある。

両者とも花崗岩の自然礫の中央部が凹み、風化して遺存状態は悪い。

縄文時代からの混入品の可能性が強い。

特殊磨石

15号住居址から1点（94-2）出土した。

細長い自然礫の側面になめらかな「機能磨面」を持ち、端部は剥離痕があり、片側は破損している。石質は硬砂岩で、風化がすすむ。

縄文時代からの混入品であろう。

小型石器

黒曜石・チャート・玻璃質安山岩などで製作された小型の石器を総称した。

打製石鐵9点・スクレイパー3点・ピエス・エスキュー1点・使用痕のある剝片3点が出土した。いずれも縄文時代からの混入品と考えられる。

打製石鐵 有茎鐵の1点（116-15）を除き、無茎凹基鐵である。石質は2点（116-7・12）がチャート、ほかは黒曜石である。

スクレイパー 3点ともサイド・スクレイパーと考えられる。石質は玻璃質安山岩（117-1・2）とチャート（117-3）である。

ピエス・エスキュー ややはっきりしない。石質は黒曜石である。

使用痕のある剝片 不定形な剝片に使用痕の認められるものである。3点（117-5・6・7）とも石質は黒曜石である。

② 石器の組成について

①で示した石器は、すべて弥生時代後期に属するものでなく、縄文時代からの混入品も多い。石器そのもので時期を判断できない場合が多いので、意図的な選択を加えずに資料提示した。しかし、明らかに縄文時代のものと考えられるものはよいが、縄文時代・弥生時代の両時期に共通し、あまり形態の変化が認められないものは、何らかの視点でもって時期が判断されなければならない。

ここでは、本遺跡における弥生時代後期の石器組成について考えてみたい。

遺構外出土遺物を扱う上で便宜的に設定されたI～III区で、所属時期が明らかな縄文土器の出土状況に差がみられる。当然、石器にも組成の違いがあることが予想され、それを比較・検討することによって組成を明らかにしたい。

I～III区の様相

I区では、縄文土器は3点しか出土せず、遺構も縄文時代のものはない。

II・III区では、縄文土器は多く、包含層のほか、弥生時代以降の遺構にもかなり認められた。縄文時代の遺構も存在し、特にIII区では縄文時代の配石・土坑と重複し、かなり多数の縄文土器が、弥生時代以降の遺構に含まれていた。

以上の点から考えれば、II・III区の弥生時代の遺構に含まれる石器は、縄文時代の混入を考えねばならないが、I区はそれをほとんど考えなくて良いといえる。

石器の組成

I区 第11表がI区にある住居址に組成する石器の点数を表わしたものである。住居址は48軒あるが、石器を保有しないのが24軒と半数を数える。

量的に多い器種は、21点の抉入打製石庖丁、13点の有肩肩状形石器・有抉石器であり、打製石斧・磨製石庖丁・横刃型石器・台石などが多い。明らかに縄文時代と考えられる石器も、打製石鎌2点・スクレイバー1点と少ない。

II区 第12表がII区にある住居址に組成する石器の点数を表わしたものである。住居址は23軒あり、石器を保有しないのが3軒あるが、ほかは何らかの石器を保有する。

量的に多い器種は、37点の打製石斧で、抉入打製石庖丁14点、有肩肩状形石器・有抉石器21点、横刃型石器8点、台石7点なども多い。縄文時代と考えられる石器は、打製石鎌4点・石錐3点など計12点あり、I区に比べて多くなる。

III区 第12表がIII区にある住居址に組成する石器の点数を表わしたものである。住居址は17軒あり、すべてが何らかの石器を保有する。

打製石斧が32点と最も多く、抉入打製石庖丁17点、横刃型石器13点、有肩肩状形石器・有抉石器11点、台石9点などが普遍的に存在する。縄文時代と考えられる石器は、石錐7点・打製石鎌4点など計16点あり、かなり多いといえる。

器種 遺構	打 製 石 斧	磨 製 石 庖 丁	抉 入 打 製 石 庖 丁	有 肩 肩 状 形 石 器	横 刃 型 石 器	磨 製 石 斧	古 石	そ の ほ か	縄 文 時 代 の 石 器																	
	1	5	7	9	26	30	32	33	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	51	53	54	計
1住	1																									
5住																										
7住			3																							
9住																										
26住	1																									
30住	1	3																								
32住	1																									
33住	1	2																								
35住	2																									
36住																										
37住																										
38住																										
39住	1	1	5																							
40住	1																									
41住																										
42住																										
43住																										
44住																										
45住																										
46住																										
47住																										
48住	1																									
51住	1																									
53住			1																							
54住																										
計	6	4	21	1	13	2	0	4	12	3																

I～III区の石器の数量を比較すると、打製石斧・横刃型石器・縄文時代からの混入品の量の違いが目につく。打製石斧は、I区では48軒のうち6点しかないのでに対して、II・III区では調査軒数が少ないので反し、最も数量が多い器種となる。横刃型石器も同様で、I区3点・II区8点・III区13点となる。反面、縄文時代の石器は、I区が3点であるのに対して、II区9点・III区16点と数が多く遺構外の縄文土器が示した傾向と一致する。ほとんど量的な差異は認められないのは、抉入打製石庖丁・有肩肩状形石器・有抉石器で、各区に普遍的に存在する器種といえる。

器種 遺構	打製石斧	磨製石斧	横刃型石器	有肩型石器	横刃石器	磨製石器	台石	その他	縄文時代の石器	
									打製石斧	磨製石斧
10住	1								69住	2
11住	1	1	4				1		81住	1
32住									82住	
15住	4	1	2	3	1	1	1		83住	3
16住	6	2	1	1	1	1	1		84住	1
17住	4		3	1					85住	2
18住	4	1	2	3	1				86住	7
19住	2	2			1				87住	
20住	2								88住	2
21住		2							90住	
22住	1		1	1			1		91住	2
64住		1							93住	4
65住			1				1		94住	4
66住	2	1	1	1					95住	
71住	4	1							97住	3
72住	1		1						98住	
73住	3	1	3				1	2		
74住	2		1							
76住			1							
78住			1							
計	37	0	14	1	21	8	2	7	8	12

器種 遺構	打製石斧	磨製石斧	横刃型石器	有肩型石器	横刃石器	磨製石器	台石	その他	縄文時代の石器	
									打製石斧	磨製石斧
69住	2								69住	2
81住	1						1		81住	1
82住		1							82住	
83住	3						1		83住	2
84住	1						1		84住	1
85住	2						1		85住	2
86住	7						2		86住	2
87住							1		87住	1
88住	2						1		88住	1
90住									90住	
91住	2						1		91住	1
93住	4						1		93住	3
94住	4								94住	
95住							1		95住	
97住	3						1		97住	1
98住							1		98住	
100住	1								100住	1
計	32	0	17	0	11	13	3	9	8	16

I区

第12表 II区・III区の住居址出土石器一覧表

問題となるのは台石で、I区とII・III区で出土量に差が認められる点である。この石器の性格上、混入は考えられず、ある程度普遍的に存在するはずである。大部分が遺構図から判断して認定したものであるという調査自体にも問題があり、存在するものを認定できなかったことも考えられる。そこで、該期の住居址には台石はかなり認められる可能性を指摘し、今後の調査ではこうした石器が見のがすことなく認定され、遺物として図化・観察されるよう反省をこめて提案したい。

こうした結果を総合的に判断すれば、打製石斧・横刃型石器のかなりの部分が縄文時代からの混入品といえる。

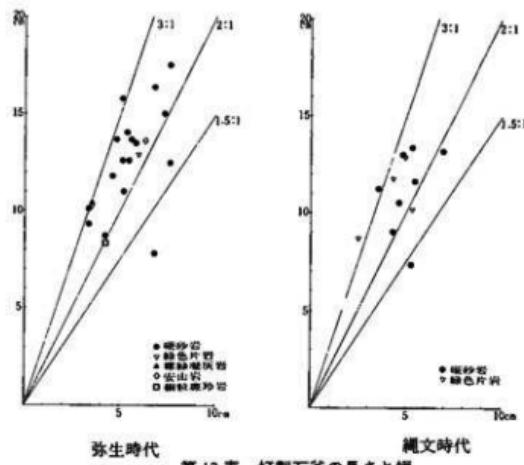
打製石斧に関して、もう少し別の視点から検討してみよう。第13表は弥生時代の遺構から出土した打製石斧の完形品の長さと幅とを表にしたものである。同様に、縄文時代の遺構から出土したものも第12表にした。弥生時代のものがバラツキをみせ、15cmを超える大型なものもあるが、これを除くと、両時期ともにほとんど同じ範囲にまとまるといえる。同様な方式で行われた恒川遺跡群の弥生時代のものは、かなり広範囲にバラツキ、15cmを超える大型品(同遺跡分類のA類)が多いという傾向とは、きわだつた違いをみせている。こうした結果も、本遺跡の弥生時代の打製石斧は縄文時代からの混入品が多いことを裏づけていると考える。

当遺跡における弥生時代後期の石器組成は、抉入打製石庖丁、有肩型形状石器・有抉石器・台石を主体とし、打製石斧・磨製石斧・横刃型石器・砥石・環状石器・礫器などを若干持つとい

える。

横刃型石斧丁・磨製石鎌
は当遺跡の主体となる時
期に先行して盛行する器
種であり、それが残存し
たものであろう。

従来から指摘されてい
た(神村1964)、弥生時代
後期における打製石器類
の卓越は、本遺跡に限っ
ていれば、収穫具の挿入
打製石斧丁・有肩属形状
石器・有挿入石器にいえる



弥生時代

第13表 打製石斧の長さと幅

縄文時代

ことで、打製石斧・横刃型石器に関しては当てはまらない結果となった。既存資料に関しても、縄文時代からの混入品があるかもしれないという視点から、見直しが計らねばならないと考える。

しかし、当遺跡とはほぼ同時期と考えられる的場遺跡(佐藤1973)、山岸遺跡(神村1971)など、打製石斧が石器の組成に主体を占める遺跡があり、これらは縄文時代の混入品と考えるよりも、大型品が多いという形態を考えれば、該期のものといえる。

打製石斧を畑の耕起具と考えた場合、こうした事実とどう適合するのであろうか。当遺跡の生産地は、遺跡北側に広がる凹地帯が水田、それ以外の周辺地域が畑作地と考えられ、かなりの稲作地帯があるとはいっても、畑作も十分に考えられる場所である。下位段丘面にあり、稲作指向が強いと考えられる的場遺跡・山岸遺跡などに打製石斧が多く、当遺跡やさらに上位段丘に位置する遺跡では少なくなる。より上位段丘に立地する遺跡に打製石斧が多くなければならないが、そうした事実は見受けられない。⁽³⁾ 打製石斧に関しては、遺跡立地と逆の傾向を示し、明らかに従来の考え方を修正すべきといえる。

遺跡立地と遺構そのものに組成する石器を洗い出し、使用痕などの観察を通じて石器の機能を明らかにし、新たな視点でもって石器を再考する時期に来ているといえよう。今回は以上の問題提示をし、今後の研究によって明らかになることを期待したい。

(山下誠一)

(3) 石製品

石製品は石製鋸齒車が2点ある。

120-4は21号住居址出土の完形品である。直径5.5cm・厚さ0.9cm・重さ34gを測り、石質は砂岩である。A・B面とも研磨調整による擦痕が全面に認められる。

120-5は10号住居址出土で少しがれ残存する。直径は5.6cmくらいと考えられ、厚さ0.5cmで4gを測り、石質は砂岩である。A面に文様が認められる。
(山下誠一)

(4) 金属器

37号住居址に鉄環が出土した。しかし、上層からの出土であり、該期のものと断定できず、混入品の可能性が強い。

法量は、直径5.6cm・内径4.4cmで、26gを測る。保存状態は良好である。
(山下誠一)

5) 古墳時代の遺物

該期の遺構は竪穴住居址が4軒ある。遺構外から遺物の出土ではなく、遺構内から比較的まとまつた資料が得られた。

(1) 土器

① 出土土器

器種は壺・甕・环・高环・鉢があり、遺構ごとの組成は第14表で示した。4軒ともほぼ同時期と考えられる。

壺

わずかに外反する短い直口縁で球形の胴部を呈するものが3点ある。底部は丸底(57-7、59-4)と平底(59-5)の二者がある。胎土は小石粒を含み、茶系統の色調を呈する。

甕

20点が出土した。

弥生土器の1点(60-11)を除き、くの字に外反する口縁部を持つ。胴部は球形(56-2・3、57-7、58-1・2、60-2・3)と、やや長胴(57-8、59-6・7・8、60-1)のものとがある。底部は4点(56-2、58-2、58-2・5)以外は平底である。法量による、大型(57-8、58-1、59-7、60-1)、中型(56-1・2・3、57-9、58-2、59-6・8、60-2)、小型(57-13)との区分も可能である。

住居址	壺	甕	环	高环	鉢
59住	1				
70住		3	5	10	
88住	1	7	3	7	5
92住	2	9	1	3	1
合計	3	20	9	20	6

第14表 古墳時代の住居址
出土土器一覧表

調整は、内面がナデもしくはハケが施され、外面はハケもしくはナデのものが多いが、ヘラミガキ（56-1、59-7）、底部付近をヘラケズリ（56-2、60-3）等もある。底部をハケ調整するもの（58-4）も認められる。

胎土は白色の小石粒を含み、茶系統の色調をなす。

60-3は胴下部に焼成後の穿孔がある。

坏

9点出土した。

丸底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反して内面に稜を持つものが4点（56-5・6、58-7・8）ある。前二者は内面に暗文のヘラミガキが施される。

丸底気味の平底もしくは丸底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反するものが3点（56-9、58-9、60-7）ある。調整はハケもしくはナデで雑なつくりである。

丸底の底部から内湾して立ち上がり、口縁部がわずかに内側に曲がるもののが2点（56-7・8）ある。いずれも内面に暗文のヘラミガキが施される。

高坏

20点が出土した。弥生土器分類の高坏B₂の1点（57-6）を除き該期のものである。

坏下部に稜を持ち、わずかに外湾して外反するものが7点（56-10-13、57-1・2、58-12）ある。中空の柱状脚部を持ち、裾部で屈折して開く。坏部内・外面に暗文のヘラミガキが施されるもの（56-12・13）が認められる。胎土は小石粒を少し含み、焼成は良好なものが多い。

坏下部に稜を持ち、わずかに内湾して立ち上がるものが3点（58-10・13、60-8）ある。中空の柱状脚部を持ち、裾部で屈曲して開く。坏部内・外面に暗文のヘラミガキが施されるもの（58-13、60-8）が認められる。胎土は小石粒を含み、焼成は普通である。

坏部が底部から内湾気味に立ち上がるものが2点（57-3、58-11）ある。いずれも坏部内・外面に暗文のヘラミガキが施される。

ハの字に開く脚部を持つものが3点（57-4・5、60-10）ある。坏部形態は分からぬ。60-10は外面に暗文のヘラミガキが施される。

全体形は不明であるが、内湾して立ち上がり、口縁部が外反する鉢を坏部としたと考えられるものが1点（59-1）ある。

ほかに、中空の柱状脚部が3点（59-2・3、60-9）あり、上記のいずれかの坏部形態の脚部となるものと推測される。

鉢

6点出土した。

わずかに外反する口縁部に最大径を持ち、砲弾形の胴部を呈するものが3点（58-5・6、60-6）ある。調整は口縁部がヨコナデ、ほかはナデが施される。胎土は小石粒を含み、茶系統の色調をなす。

わずかに外反する口縁部で、球形を呈する胴部に最大径を持つものが3点(57-10~12)ある。調整・胎土・色調とも上記の鉢とほとんど変わらない。

② 編年の位置づけ

編年の位置づけについて若干考えてみたい。

先述のように、形態・調整などの共通性から、4軒の住居址ともほぼ同時期に属する所産と考えられる。

直口縁を呈する壺、球形の胴部を持つくの字口縁の壺、中空の柱状脚部を持つ高环の存在など、古墳時代前期後半の様相を示しているが、バラエティーに富む环や、やや長胴化する壺は古墳時代後期に継続する要素といえる。

以上の点から、古墳時代前終末から後期初頭に位置づけられ、新しい様相を重要視し、古墳時代後期初頭とするのが妥当と考えられる。

個々の住居址をみれば、壺・高环の形態から、70号住居址が若干古い様相を示すことも事実であり、多少の時期差を示す可能性もある。しかし、70号住居址の遺物出土状況や壺・鉢が欠落する組成がやや特殊なことも考える必要があり、再三述べたように、4住居址ともほぼ同一の所産といえる。

(山下誠一)

(2) 石器

該期の住居址から出土した石器は、打製石斧3点・抉入打製石庖丁3点・横刃型石器1点・磨製石斧1点・砥石2点・敲打器1点・台石1点・磨製石鎌未成品1点・打製石鎌1点・石錘1点がある。

砥石以外は、先行する縄文時代・弥生時代からの混入品と考えられる。

砥石

88号住居址から当擦型が2点出土した。

109-10は南西壁下の周溝から出土した。A面はかなり使用され、B面は剥離痕が残り、底面はわずかにしか認められない。石質は粘板岩である。

109-11は北東壁下の周溝から出土した。A・B面とも縦方向に顕著な使用痕があり、全面に暗茶色を呈する付着物が認められる。石質は粘板岩である。

2点とも金属器を研いだものと考えられる。

(3) 金属器

70号住居址から1点(120-6)出土した。

刀身の細い刀子で、先端部を欠く。現存長15.6cm・幅1.4cm・厚さ1.1cm・重さ15gを測る。

(山下誠一)

6) 奈良・平安時代

該期の遺構は検出されず、断片的な資料が得られたのみである。

(1) 土器

須恵器のみがある。

高台壺 4点 (83-9、90-1~3) が奈良時代、糸切り壺 2点 (83-8、90-6) が平安時代と考えられる。甕の胴上部片 (83-5~7) もいずれかの時期のものである。 (山下誠一)

7) 中世・近世

量は多くないが、全地区にわたって中世の土器が出土した。据立柱建物址に伴うものもあると考えられる。

(1) 土器

カワラケ・山茶碗・天目茶碗・すり鉢・灰釉陶・白磁などがある。

カワラケ II区の遺構外から 2点 (90-13・14) 出土した。小石粒を含まない精選された胎土を呈する。

山茶碗 建物址 2から 1点 (90-12)、建物址 4から 2点 (83-21・22)、I区の遺構外から 1点 (90-4)、II区の遺構外から 4点 (90-7~10) 出土した。器種は大平鉢と碗と考えられる。

天目茶碗 建物址 5から 1点 (83-29)、II区の遺構外から 1点 (90-12)、III区の遺構外から 1点 (90-19) 出土した。後二者は暗い茶色を呈する鐵釉がかけられる。

すり鉢 建物址 5から 1点 (83-30)、I区の遺構外から 1点 (90-5)、II区の遺構外から 1点 (90-17)、III区の遺構外から 1点 (90-24) 出土した。いずれも暗い茶色を呈する鐵釉がかけられる。

おろし皿 II区の遺構外から、高台の内側にヘラによる刻みを施したものが 1点 (90-11) 出土した。全面に黄緑色の灰釉がかけられる。

白磁 溝址 3から 1点 (83-10)、III区の遺構外から 1点 (90-20) 出土した。後者は内面に簡状工具による文様が施される。

灯明皿 建物址 4から 1点 (83-23) 出土した。全面茶色の鐵釉がかけられる。

(2) 土製品

建物址 6 から天目茶碗の破片を転用した円板が 1 点 (120-3) 出土した。直径 2.7cm・厚さ 0.7 cm を測る。用途等不明である。

(3) 鉄製品

建物址 5 から器種不明のものが 1 点 (120-8) 出土した。出土状態などの検討が必要であり、該期のものと断定できない。

(山下誠一)

註

- (1) 直井雅尚氏の御好意により実見。
- (2) 壇瑪寺前遺跡中島 1 号住居址に 1 点ある。
- (3) 上の金谷遺跡・中島平遺跡・酒屋前遺跡・権現堂前遺跡・出早神社付近遺跡など同じ段丘面か上の段丘面に立地する遺跡にも打製石斧は少ない傾向がみられる。

IV ま と め

遺跡は毛賀沢川の蛇行流路に沿った緩傾斜の段丘面に立地し、毛賀沢川の氾濫の影響を何回か受けている。かつての主流路は現流路の北の凹地帯にあったとみられる。Ⅰ次調査の西側一帯は、ローム層ではなく、深い氾濫堆積層となり、検出面の最も深い住居址は地表下150cmに住居址の掘りこみがみられた。現毛賀沢川に沿って検出された遺構には川によって削取されたものもみられる。遺跡のはば中央部に凹地部があり、これにより外観上は西と東に分かれるが遺跡を二分するものではなく、氾濫堆積の上に立地する遺跡として注視される。

発掘調査された遺構は住居址100軒を数え、これらの主体は弥生後期後半中島式期の住居址である。縄文時代では前期終末1、中期中葉1、中期後半1、後期4、不明2、であり前期終末住居址以外の遺物の出土量は少ない。

飯田下伊那地方におけるこれらの時期の住居址出土遺物の多いのに対して、出土量の極めて少ないことが今後の課題といえる。

この期の住居址は集落をなすが当地方の一般的であるのに対して孤立の状態である。これら住居址は集落の北端部にあって、用地外の南側の水田地帯に集落の展開が予想される。

縄文後期初頭～前半の配石、土坑群は飯田下伊那地方においては類例の少ない遺構群である。配石は一抱大の石を数個、または十数個の単位構成をなして弧状をなし、北に延びると考えられるが、バス置場のため北側は一段低く削平されており、より北に続くかは不明となった。

配石をとりまいて100余の土坑がある。配石、土坑内出土土器は縄文後期初頭から前半にかけてのもので、後期初頭から前半（堀之内II式）に至る時期に継続活用された施設と思われる。

配石の単位構成と把えたものの中には配石下に土坑を持つものもあり、性格の断定は困難であるが、土坑群中には石・礫を検出し、遺物出土も多く、墓壙と推測されるものもある。

配石は宗教的、祭祀的なものと推測されるものといえよう。縄文後期の集落についてははっきりしないが用地外の南側に、また北側のバス置場の削平された地域に存在したものと予想され、今後南側の水田地帯は縄文時代を通じて注意すべきである。

弥生時代後期は大集落を構成している。90軒に及ぶ住居址、方形周溝墓、円形周溝墓、圓溝址等の遺構がある。出土土器は下伊那地方を中心にして発達したいわゆる中島式である。出土土器には一般的に中島式土器とされる一群一變形土器にみる櫛描波状文に斜行短線文を施すものに波状文のみを施す一群がある。これに対し終末期は波状文のみと無文の變が多くなり、東海地方の元屋敷式の堆、高壙が搬入されてき、古墳時代への移行期が迎えられる。この二時期にわたって集落が形成されている。さらに用地外の南側に広がりをみると推測される。

弥生後期の大集落を形成した生活基盤として駿河の土地が伊賀良地区の一等地の水田と評価さ

れており、水便はよく肥沃な土地である。現在の毛賀沢川の北にある旧流路とみられる凹地帯は水田の適地と考えられ、さらに東に続く毛賀沢川の広い浸蝕谷は水田の適地である。南側の緩傾斜面から東の知久町中村線を越えた段丘面は畑作の好適地といえる。この土地のもつ高い生産性が大集落形成を可能ならしめたと思われる。

古墳時代住居址ははっきりしたのは3軒で、いずれも後期初頭に位置づくものであり住居址の分布からみて、調査区の南東用地外に集落の広がりをみるとと思われる。

中世建物址7棟が検出され、信南バス置場の拡張の際出土し地主によって採集された鎌倉時代後半と考えられる山茶碗もある。

鎌倉時代伊賀良庄地頭は北条時政であり、その後は北条一族の北条江馬氏が地頭となり代々これを継いでいる。江馬氏の地頭代四条金吾は「とのおか」に居を構えたことが、日蓮と親交があり熱心な日蓮の信仰者でありこれらについて「日蓮聖人御遺文」に記載されている。四条金吾が居を構えた「とのおか」の地がどこであったかはっきりしないが中世殿岡を知る1資料が得られたといえる。

知久町中村線を隔てた東の地区は未調査であるが、集落の存在は予想される。調査区域の南側の道路に沿う水田地帯は既にガソリンスタンド、配送センター等の建設が予定されており、続いて工場、店舗の進出も考えられ東側の知久町中村線を越えた地域も開発が予想される。これら地域の今後の開発に伴う発掘調査は当然実施されなければならない。今次調査結果に合わせ周囲の開発に伴う調査を成し得た時に、伊那谷最大と目される弥生時代後期の大集落の具体的姿が明らかになり、他時期においてもかなり重要な資料集積がなされるといえる。それらを総合的に把えたとき、伊賀良地区的歴史を長期的にわたり解明することが可能といえ、さらには、伊那谷の原始古代史解明の大きな指針が得られるものといえる。

最後に本書は繩文前期から中世にいたる資料の紹介を主とし、今後の問題提示したものである。本書作成は山下調査員の努力によってなされたことを付記し深くお礼を申し上げたい。

(佐藤勝信)

引用・参考文献

『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』は『中央報告』と略記した。

- 市村 成人 1955 「下伊那史」第2巻 下伊那誌編纂会
- 飯田市教育委員会 1986 「恒川遺跡群」
- 大參 義一 1968 「弥生式土器から土師器へ」『名古屋大学研究論集(史学)』ⅡVII
- 岡田 正彦 1972 「酒屋前遺跡」「中央道報告—飯田市内その2—」 長野県教育委員会
- 神村 透 1964 「飯田地方における弥生時代打製石器」「日本考古学の諸問題」
- 神村 透 1968・69 「立野式土器の編年位置について(1)~(7)」「信濃」20巻10号~21巻7号
- 神村 透 1971 「施現堂前遺跡」「中央道報告—飯田地区—」 長野県教育委員会
- 神村 透ほか 1971 「山岸遺跡」「中央道報告—飯田地区—」 長野県教育委員会
- 加藤安信・高橋信明ほか 1982 「明日遺跡」 愛知県教育委員会
- 桐原健・鶴子榮泰正 1969 「長野県伊那市美篠笠原堂坂外遺跡調査概報」「信濃」21巻4号
- 小林行雄・佐原真 1964 「紫雲出」 銚門町文化財保護委員会
- 紅村 弘ほか 1981 「東海先史文化の諸段階 本文編補足改訂版」
- 佐原 真 1959 「弥生式土器製作技術に関する二・三の考察」「私たちの考古学」5巻4号
- 佐藤 駿信 1973 「的場」 松川町教育委員会
- 佐藤 駿信 1977 「伊賀良中島平」 飯田市教育委員会
- 佐藤 駿信 1983 「酒屋前遺跡」 飯田市教育委員会
- 酒井幸則・桜井弘人 1984 「前田遺跡—発掘調査報告書—」 松川町教育委員会
- 道郷藤麻呂ほか 1971 「出早神社附近遺跡」「中央道報告—高森町地区その1」 長野県教育委員会
- 道郷真周・道郷藤麻呂 1979 「信濃土器洞窟跡」 下伊那歴史考古学研究所
- 筒井 泰藏 1973 「室町時代の伊賀良」「伊賀良村史」 伊賀良村史編纂委員会
- 長野県教育委員会 1972 「中央道報告—飯田地区その2—」
- 伴信夫・宮沢恒之 1967 「長野県飯田市伊賀良西ノ原遺跡調査報告」「信濃」19巻12号
- 松永 満夫 1972 「上の金谷遺跡」「中央道報告—飯田市地内その2—」 長野県教育委員会
- 宮沢 恒之 1966 「縄文前期後半の一様相」「信濃」18巻4号
- 宮下 摂 1967 「下伊那史」第5巻 下伊那誌編纂会
- 宮城 孝之 1982 「縄文時代中期の釣手土器」「中部高地の考古学II」 長野県考古学会

第15表 繩文時代の遺構出土土器調査表

番 号	遺構名	層 位	法 令			法 令			内 面			外 面			地 点	地 質	色 調	内 面	外 面	底 面	出 土	地 質	
			口徑	底 径	高 さ	底 径	高 さ	壁 厚	内 面	外 面	底 面	小石粒多 少											
14	1-1	床	—	—	15.2	—	—	稍薄	—	—	—	不規											
15	1-2	床	—	—	14.7	—	—	ナテ	—	—	—	小石粒多 少											
16	1-3	床	—	—	—	—	—	ナテ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
17	1-4	床	—	—	—	—	—	ナテ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
18	2-1	井	—	—	6.2	—	—	ハナ模	—	—	—	ヘラミガキ模、ナチ模											
19	2-14	井	—	—	15.6	—	—	ヘタミガキ模	—	—	—	ヨコナメ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	3-17	床	—	—	—	—	—	ナテ?	—	—	—	不規	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	3-18	床	—	—	—	—	—	ナテ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	3-31	床	—	—	14.1	—	—	ヘタミガキ模	—	—	—	リコナメ、ナチ模、ヘラミガキ模											
23	3-32	床	—	—	—	—	—	ナテ	—	—	—	ヘラミガキ模、ナチ模											
24	62-1	ツラカ土器	—	—	9.4	—	—	ナチ模	—	—	—	ヘラミガキ模、ナチ模、ヘラミガキ模											
25	62-2	漆 桶	—	—	11.0	—	—	ナチ模	—	—	—	ヘラミガキ模、ナチ模											
26	62-3	漆 桶	—	—	8.6	—	—	ナチ模	—	—	—	ヘラミガキ模											
27	63-1	漆 桶	—	—	13.0	—	—	ナチ模	—	—	—	ヘラミガキ模											
28	64-2	—	—	—	—	—	—	不規	—	—	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
29	64-21	手くわね	3.6	—	2.6	2.0	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30	64-24	漆 桶	—	—	—	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
31	65-19	—	—	—	13.4	—	ナチ模	—	—	—	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	
32	65-20	—	—	—	9.5	—	ナチ模	—	—	—	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	
33	66-6	—	—	—	—	—	不規	—	—	—	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	ナチ模、ナチ模	
34	66-19	—	—	26.8	—	—	ヘラミガキ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
35	66-20	—	—	15.0	11.0	—	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
36	68-1	—	—	21.2	—	—	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
37	68-2	—	—	—	—	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
38	68-15	—	—	—	—	7.2	—	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
39	68-21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
40	70-15	—	—	—	7.8	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
41	70-17	—	—	—	7.3	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
42	70-18	漆 桶	—	—	9.2	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
43	73-13	漆 桶	—	—	8.4	—	ナチ模	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

名 称	底 盤	形 状	注 量 (cm)	手 法 上 の 特 徴		地 土	地 質	色 調		出 土 物	備 考
				内 面	外 面			内 面	外 面		
73-12 磐 盤	—	—	—	ナデ	ナデ	小石粒、砂粒	良好	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
75-1	U	—	25.0	—	9.8 38.4	ヘラミガキ面	小石粒多	不良	—	—	毛手
76-43	n	—	—	10.0	—	ヘラミガキ面	小石粒	—	—	—	毛手
77-1 汎 体	41.1	—	—	—	10.0	—	ヘラミガキ面	小石粒多	—	—	毛手
77-33 磐 盤	—	—	—	ナデ	ナデ	ヘラミガキ面	小石粒多	—	—	—	毛手
78-1	n	—	—	39.9	9.3	—	ヘラミガキ面	小石粒多、砂母	ナナフチ	ナナフチ	—
78-2	n	—	—	—	—	ナデ	小石粒	—	—	ナナフチ	毛手
78-3	n	—	—	—	—	ナデ	ナナフチ	ナナフチ	ナナフチ	ナナフチ	毛手
79-1	n	—	—	8.0	—	ヘラミガキ面	小石粒、砂母	良好	ナナフチ	ナナフチ	毛手
79-2	n	—	—	6.0	—	ナデ	小石粒多	不良	ナナフチ	ナナフチ	毛手

第16表 弥生時代後期の遺跡出土土器調査表

名 称	底 盤	形 状	注 量 (cm)	手 法 上 の 特 徴		地 土	地 質	色 調		出 土 物	備 考
				内 面	外 面			内 面	外 面		
1 5-13 團 盤	—	—	—	6.2	—	ナデ	小石粒少	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
2 5-19	n	—	—	7.2	—	ナデ	ナナフチ	—	ナナフチ	—	毛手
2 5-20	n	—	—	6.8	—	ナデ	ヘラミガキ面、ナナフチ	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
3 5-25 磐 盤	17.3	—	—	—	—	ヘラミガキ面	ナナフチ少	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
3 5-29 磐 盤	—	—	—	9.4	—	剥落	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
5 5-30 磐 盤	—	—	—	6.4	—	ナデ	ヘラミガキ面	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
6 5-40	n	—	—	7.0	—	—	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	小石粒少	ナナフチ	—	毛手
6 6-1 團 盤	—	—	—	6.2	—	ナデ	ナナフチ、剥落	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
6 6-2	n	—	—	6.3	—	ナデ	ナナフチ	ナナフチ	ナナフチ	—	毛手
6 6-7 團 盤	—	—	18.4	—	—	ヘラミガキ面、剥落	ヘラミガキ面	ナナフチ少	ナナフチ	—	毛手
6 6-8	n	—	—	6.5	—	ナデ	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	ナナフチ少	ナナフチ	—	毛手
7 6-9	n	—	—	6.4	—	—	—	—	—	—	毛手
8 6-10	n	—	—	6.4	—	—	—	—	—	—	毛手
9 6-11	n	—	—	6.0	—	—	—	—	—	—	毛手
10 6-12 磐 盤	—	—	13.8	—	—	ヘラミガキ面	不規	ナナフチ少	ナナフチ	—	毛手
11 6-13 磐 盤	D	—	20.2	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面	小石粒、砂母	ナナフチ	ナナフチ	毛手
12 6-14 磐 盤	B	—	20.5	—	—	ナナフチ	ヘラミガキ面	小石粒少、砂母	ナナフチ	ナナフチ	毛手
13 6-30 磐 盤	—	—	8.6	—	—	ナナフチ	ナナフチ	良好	ナナフチ	ナナフチ	毛手

番 号	地 名	緯 度	経 度	標 高 (m)	地 形		水 系		地 質		地 形		地 質		地 形		地 質	
					山 谷	河 床	谷 底	谷 壁	内 陸	外 陸	地 下	地 表	地 下	地 表	地 下	地 表	地 下	
6-21	谷	-	-	10.6	-	新潟	ヘラミガキ層、ヘラミガキ	不規	小石臼、砂岩	不良	小石臼、砂岩	少	少	少	少	少	少	少
6-22	谷 AII	-	-	14.3	-	ナメ	ヘラミガキ層、ナメ	ナメ	小石臼	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
6-23	谷	-	-	6.3	-	ナメ	ヨコナダ、ナメ、ヘラミガキ層、ナメ	小石臼、砂岩	小石臼多	良好	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-1	谷	16.0	22.1	-	ヨコナダ、ナメ、砂岩	ヘラミガキ層、新潟	不規	小石臼少、砂粒	小石臼少	不良	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-2	谷 B,I,B	-	17.4	6.3	-	ナメ	ヨコナダ、ナメ、ヘラミガキ層、ナメ	ナメ	小石臼少、砂粒	良好	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-3	谷	-	-	9.0	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-4	谷	-	-	7.4	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-5	谷	-	-	6.6	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-6	谷	-	-	7.1	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少、砂粒	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-10	谷	-	-	7.0	-	不規	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少、砂粒	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-11	谷 B,I	9.6	-	-	ナメ	シガリ、ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少、砂粒	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
7-12	谷 B	-	10.4	3.4	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少、砂粒	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
8-1	谷 A,III	-	15.8	5.8	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少、砂粒	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
11	谷 B,I,II	19.0	18.4	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ、ヘラミガキ層	ナメ	小石臼少、砂粒	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
8-3	谷	18.8	17.0	6.0	20.2	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
8-6	谷	-	-	6.2	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
8-7	谷	-	-	6.6	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
8-15	谷 C,B,I	20.9	-	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少	
12	谷	-	-	6.3	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
13	谷 A,II	13.4	-	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	ナメ	小石臼多、空隙、水孔	良好	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-2	谷	-	-	12.6	-	新潟	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼、砂岩	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-12	谷 B	-	8.8	-	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-13	谷 B,A,II	16.3	14.9	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	ナメ	小石臼少、砂岩	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-14	谷	-	17.1	17.0	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-15	谷 B,II	16.6	13.9	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	ヘラミガキ層、新潟	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-16	谷	-	-	7.0	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヘラミガキ層、新潟	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-17	谷	-	-	5.5	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヘラミガキ層、新潟	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-18	谷	-	-	6.8	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-19	谷	-	-	7.6	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
9-20	谷	-	-	6.9	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
10-1	谷 A,II	19.0	17.7	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ、ナメ	ヘラミガキ層、新潟	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少
10-2	谷	-	-	6.8	-	ナメ	ヘラミガキ層、新潟	ヨコナダ	小石臼少	普通	灰岩等	少	少	少	少	少	少	少

番 号	器物名	形 状	寸 法	施 工	内 面	外 面	色 調	施 工	出 土 地 點	備 考
					口径	断径	底径	高さ	内面	外面
15 往	10-3 瓶	—	—	6.5	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
往	10-13 瓶B ₁	24.0	—	14.4	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	下層
10-14	瓶A ₁ B ₁	14.9	—	—	ヨコナデ・ナデ	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
16 往	10-15 瓶	—	—	6.0	—	斜腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
往	10-19 (瓶B ₁ A ₁)	—	—	15.7	—	ヘラミガキ剥	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
16-20	瓶	—	—	6.8	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
11-1	瓶	—	—	10.6	—	ナ子腹・斜腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
11-2	"	—	—	14.2	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
11-15	瓶B ₁ H	17.1	16.5	—	—	ヘラミガキ剥	ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ剥	ヨコナデ・ナデ	ナ子腹	上層
11-16	瓶	—	—	6.8	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
17 往	11-17	"	—	5.4	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
11-17	瓶	—	—	17.1	—	ヘラミガキ剥・ヨコナデ	ヘラミガキ剥	ヘラミガキ剥	ヘラミガキ剥	未測
11-26	"	—	—	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
11-29	"	—	—	—	—	ヘラミガキ剥	ヘラミガキ剥	ヘラミガキ剥	ヘラミガキ剥	未測
11-30	瓶A ₁	—	—	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
12-1	瓶A ₁ A ₂	24.0	—	—	ナ子腹・斜腹	ヨコナデ・ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	ナ子腹	ナ子腹	未測
12-2	瓶A ₁ H	14.2	—	—	—	ヨコナデ・ハヤシ腹ナ子腹	ヨコナデ	ナ子腹	ナ子腹	未測
12-3	瓶A ₁ B ₁	17.4	—	—	—	ヘラミガキ剥	ヨコナデ・ヘラミガキ剥	ヨコナデ	ナ子腹	未測
12-4	瓶A ₁ A ₂	15.6	—	7.0	—	ナ子腹・斜腹	ヨコナデ・ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	ナ子腹	未測
12-5	瓶A ₁ H	10.3	—	—	—	ナ子腹	ヨコナデ・ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ	ナ子腹	未測
13-1	瓶A ₁ A ₂	21.7	—	—	—	ヘラミガキ剥	ヨコナデ・ナデ	ナ子腹	ナ子腹	未測
13-2	瓶	—	—	7.6	—	斜腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
13-3	"	—	—	7.2	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
13-4	"	—	—	9.0	—	斜腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
13-5	"	—	—	9.6	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
13-13	瓶B ₁ L	31.0	32.4	—	—	ヨコナデ・ナ子腹・ハケ腹・斜腹	ヨコナデ・ヘラミガキ剥・斜腹	ヨコナデ	ナ子腹	未測
13-14 (瓶B ₁ L)	—	18.4	—	—	—	ヘラミガキ剥	ナ子腹・ヘラミガキ剥	ナ子腹	ナ子腹	未測
13-15	瓶A ₁ H	11.9	11.4	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
13-16	瓶B ₁ H	11.2	—	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
14-1	瓶B ₁ H	19.7	19.7	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	下層・上層
14-2	"	18.4	—	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	上層
14-3	瓶B ₁ H	16.8	15.4	—	—	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	ナ子腹	未測
14-4	"	15.5	15.0	—	—	ヘラミガキ剥	ヨコナデ・ナデ・ナ子腹	ヨコナデ	ナ子腹	未測

編 組	固 定 層 底	地 形	波 浪 (cm)	波 高 (m)	航 道 (cm)	航 道 名	外 洋		航 道 地 域	航 道 外 面	航 道 斷 面	航 道 底 質	航 道 底 質
							内 洋	内 洋					
14-5	礁	—	—	7.1	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少、砂粒、他	良好	ナガ瀬等、ナガ	泥質	上層
14-6	x	—	—	5.8	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少、砂粒	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	底土
14-7	x	—	—	6.8	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少、砂粒	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	上層
14-8	x	—	—	6.5	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	下層
14-9	x	—	—	6.7	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少、砂粒	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	下層
14-10	x	—	—	6.4	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少、砂粒	良好	ナガ瀬等、ナガ	泥質	下層
14-11	x	—	—	5.4	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少、砂粒	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	下層
14-24	礁D	—	—	16.2	—	ナガ瀬	ヨコナデ、ヘラケタリ斜面	—	小石礁少	良好	ナガ瀬等、ナガ	泥質	上層
15-1	x	—	—	18.3	—	ナガ瀬	ヨコナデ	—	小石礁多	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
15-2	礁B	—	—	22.4	—	ナガ瀬	ヨコナデ、ヘラケタリ斜面	—	小石礁少	良好	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
15-3	礁B	—	—	10.5	—	ナガ瀬	ナガ瀬、ヘラケタリ斜面	—	小石礁少	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	上層
15-4	礁	—	—	9.0	—	ナガ瀬	ヨコナデ、ヘラケタリ斜面	—	小石礁少、砂粒、他	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
15-5	礁B, II	—	—	16.3	—	ナガ瀬	ヨコナデの第一期ヘラミガキ瀬	—	小石礁少、砂粒	良好	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
15-14	礁B, II	—	—	12.5	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬	—	小石礁少	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
15-15	礁	—	—	7.1	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少、砂粒	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	底土
16-1	礁	—	—	6.8	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬	—	小石礁少、砂粒	良好	ヨコナデ等、ナガ	泥質	底土
20	x	—	—	7.2	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ヘラミガキ瀬	—	小石礁少、砂粒	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	底土
21	x	—	—	6.8	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ヘラミガキ瀬	—	小石礁少、砂粒	良好	ヨコナデ等、ナガ	泥質	底土
16-3	x	—	—	15.3	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少	良好	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
16-7	(礁B, I)	—	—	10.8	—	ナガ瀬	シガリ、ナガ	—	小石礁少	良好	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
16-8	礁	—	—	17.6	—	ナガ瀬	ヨコナデ、ヘラミガキ瀬	—	小石礁少、砂粒	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
21	礁	—	—	18.4	—	ナガ瀬	ヨコナデ、ヘラミガキ瀬	—	小石礁少、砂粒	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	上層
16-10	礁	—	—	6.6	—	ナガ瀬	ヨコナデ、ヘラミガキ瀬	—	小石礁少	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	下層
16-12	礁B, II	—	—	16.5	—	ナガ瀬	ヨコナデ、ヘラミガキ瀬	—	小石礁少	普通	ヨコナデ等、ナガ	泥質	下層
16-14	礁	—	—	5.4	—	ナガ瀬	ナガ瀬、ナガ	—	小石礁少	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	上層
22	16-18 (礁B, I)	—	—	19.6	—	ナガ瀬	ナガ瀬、ナガ	—	小石礁少	普通	ナガ瀬等、ナガ	泥質	上層
23	礁	—	—	7.5	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ瀬ヘラミガキ瀬	—	小石礁少	良好	ヘラミガキ瀬等、ナガ	泥質	上層
23	礁	—	—	7.0	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬	—	小石礁少	普通	ヘラミガキ瀬等、ナガ	泥質	上層
24	礁	—	—	10.8	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ヘラミガキ瀬、ナガ	—	小石礁少	普通	ヘラミガキ瀬等、ナガ	泥質	上層
25	礁	—	—	6.4	—	ナガ瀬	ヘラミガキ瀬、ナガ	—	NIA, 砂粒	良好	ヘラミガキ瀬等、ナガ	泥質	上層
26	礁	—	—	6.6	—	ナガ瀬	ナガ瀬、ナガ	—	小石礁少	普通	ヘラミガキ瀬等、ナガ	泥質	下層
27	礁D	—	—	7.4	—	ナガ瀬	ナガ瀬	—	NIA	普通	ヘラミガキ瀬等、ナガ	泥質	下層

石 像	固有名	樹 木	口徑 横径 底径	周長 (m)	内 部 測 量	外 部 測 量	特 徴	地 土	地 成	色 調	表 面	外 面	内 面	出 土 地 點	備 考
					高さ	幅	厚さ								
36 2	17-17 腰	楓	16.7	—	—	—	ヨコナダヘラタケ類	ヨコナダヘラタケ類ナダヘラタケ類	上層 古墳道跡と結合						
37 2	17-22 腰	楓	—	—	6.3	—	ナチ根	ヘラミガキ類	南土						
38 2	17-25 腰	楓	16.1	16.1	—	—	ヘラミガキ類	ヨコナダヘラタケ類ナダヘラタケ類	下層						
39 2	18-9 腰B1	楓	29.0	30.0	—	—	ヨコナダヘラタケ類ナダヘラタケ類	下層							
40 生	18-10 腰B1	楓	17.8	16.5	—	—	ナチ根	ヘラミガキ類、ヘラミガキ類	南土						
41 生	18-11 腰	楓	—	—	5.6	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	上層
42 生	18-12 腰	楓	—	—	6.6	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	上層
43 生	18-18 腰C1	楓	23.4	—	—	—	ヘラミガキ類	ヘラミガキ類、ヘラミガキ類	34生上層と結合						
44 生	19-4 腰B1	楓	—	—	—	—	ヘラミガキ類ナダヘラタケ類	ヨコナダヘラタケ類	下層						
45 生	19-6 腰B1	楓	21.7	—	—	—	ヘラミガキ類	ヨコナダヘラタケ類	下層						
46 生	19-8 腰A1	楓	20.0	—	—	—	ナチ根	ヨコナダヘラタケ類	下層						
47 生	19-9 腰A1	楓	16.8	—	—	—	ナチ根	ヨコナダヘラタケ類	上層						
48 生	19-10 腰A1	楓	14.8	—	—	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	—
49 生	19-11 腰A1	楓	—	—	—	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	—
50 生	19-12 腰	楓	—	—	10.1	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	下層
51 生	19-26 腰B1	楓	11.8	16.4	—	—	ヘラミガキ類	外表面							
52 生	20-1 腰B1	楓	17.6	16.5	—	—	ヘラミガキ類	連合字							
53 生	20-2 腰B1	楓	9.9	11.9	—	—	ヘラミガキ類	ヨコナダヘラタケ類	下層						
54 生	20-3 腰B1	楓	17.1	15.0	—	—	ヘラミガキ類	ヨコナダヘラタケ類	下層						
55 生	20-4 腰B1	楓	21.0	—	—	—	ヘラミガキ類	下層							
56 生	20-5 腰B1	楓	10.4	—	—	—	ヘラミガキ類	下層							
57 生	20-6 腰B1	楓	18.7	17.2	—	—	ヘラミガキ類	ヨコナダヘラタケ類	下層						
58 生	20-7 腰	楓	19.2	17.7	6.6	19.4	ヘラミガキ類	下層							
59 生	20-8 腰	楓	—	—	6.8	—	ナチ根	ヘラミガキ類	上層						
60 生	20-9 腰	楓	—	—	13.2	6.0	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	—
61 生	20-10 腰	楓	—	—	6.9	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	下層
62 生	20-11 腰	楓	—	—	6.6	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	下層
63 生	20-12 腰	楓	—	—	6.4	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	下層
64 生	20-13 腰	楓	—	—	6.6	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	—
65 生	20-14 腰	楓	—	—	6.8	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	上層
66 生	21-14 腰D	楓	—	—	6.0	—	ナチ根	—	—	—	—	—	—	—	下層
67 生	21-15 腰E	楓	—	—	11.1	—	ヨコナダヘラタケ類	ヘラミガキ類	上層						
68 生	21-16 腰F	楓	—	—	11.6	—	ヨコナダヘラタケ類	ヘラタケ類、ヨコナダ	上層						

地質番号	緯度	緯度	標高 (m)	地質	外 壁 上 の 特 権		地質	内 地	外 地	断面	調 查	出土地點 参 考	
					内 壁	外 壁							
33	21-17	西	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	上層		
住	21-16	n	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
34	21-19	(東B.5)	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
住	21-20	西	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	人口部		
35	21-21	n	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	上層		
住	21-23	(西B.5)	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
36	22-1	西	11.0	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	上層		
住	22-11	東	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
37	22-12	n	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
住	22-19	西	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
38	22-20	(東B.1)	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
住	22-21	西	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
39	22-27	東	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
住	22-28	n	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
40	22-30	西	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
住	22-35	東	-	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
41	22-36	西	20.9	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
住	22-31	(東B.1)	16.2	-	ナデ・ハゲ壁	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・ハゲ壁	明るい灰	n		
42	23-2	(東B.1)	16.2	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	23-3	西	18.6	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
43	23-4	西	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	23-5	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
44	23-6	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	23-7	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
45	23-8	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	23-15	(東B.1)	20.6	19.4	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n	
46	23-16	西	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	24-1	(東B.1)	17.1	15.8	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n	
47	24-2	n	20.6	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	24-3	西	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
48	24-4	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	24-5	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
49	24-6	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		
住	24-7	n	-	-	ナデ・(構造物多い)	ヘラミガキ壁	小石粒少	良好	ナデ・(構造物多い)	明るい灰	n		

項 目	組 織名	形 状	法 規 (cm)	口透 底透	透透 底透	透透 底透	内 面		外 面		底 面		地 質	出土地點	備 考
							透	面	透	面	透	面			
15	24-18 開B.日	—	—	—	—	—	小字網、ヨコナメ	ヘラシガキ面	良好	うす質薄	明るい茶	良	—	上層	—
16	24-25 開B.日	17.4	—	—	—	—	ナデ縫、ヨコナメ	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
17	24-26 開B.日	17.3	15.9	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ナデ縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
18	25-1 開A.日	18.4	—	—	—	—	ナデ縫、ヨコナメ	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
19	25-2 開A.日	16.9	15.6	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ナデ縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	新しい織物が 現れる。
20	25-3 縫	—	—	6.2	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
21	25-4 縫	—	—	7.3	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
22	25-5 縫	—	—	6.8	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
23	25-6 縫	—	—	17.1	7.0	—	ヘラシガキ面、ナデ 縫、ヨコナメ	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
24	25-13 (高W.D.)	—	—	11.7	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	古い織物が 現れる。
25	25-14 開A.日	—	—	—	—	—	不規	ヨコナメ	普通	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
26	25-19 開B.日	17.1	—	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
27	25-20 開	—	—	6.0	—	—	ナデ縫	ナデ縫、ナデ 縫、ヨコナメ	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
28	25-21 縫	—	—	6.6	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ヘラシガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
29	25-22 縫	—	—	6.7	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ナデ 縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
30	25-23 縫	—	—	7.6	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ナデ 縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
31	25-5 開A.日	16.7	—	—	—	—	ヨコナメ、ナデ 縫	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
32	25-6 開A.日	—	—	21.4	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
33	25-7 縫	—	—	9.0	—	—	刺繡	刺繡	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
34	25-8 縫	—	—	7.5	—	—	ナデ (既存所する)	ナデ	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
35	25-13 開B.日	13.9	12.5	5.8	13.4	—	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
36	25-14 開B.日	18.0	16.6	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
37	25-15 開B.日	19.6	22.6	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
38	25-16 開A.日	17.4	—	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ナデ 縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
39	25-17 開B.日	19.2	—	—	—	—	ヨコナメ、ナデ縫	ヨコナメ、ナデ縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
40	25-18 開A.日	18.4	—	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
41	25-22 縫	—	—	6.2	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ナデ 縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
42	25-26 開B.日	20.4	—	—	—	—	ヘラシガキ面	ヨコナメ	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
43	25-7 開A.日	—	—	14.9	—	—	ヨコナメ	ヨコナメ	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
44	25-10 開B.日	16.8	16.0	6.8	20.2	—	ヨコナメ、ナデ縫	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
45	25-11 縫	—	—	16.6	—	—	ナデ縫	ナデ縫	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—
46	25-16 開A.日	—	—	10.4	—	—	ナデ縫	ヨコナメ、ヘラシ ガキ面	好	明るい茶	明るい茶	良	—	下層	—
47	25-21 開A.日	16.0	30.9	—	—	—	ナデ縫	ヨコナメ	好	明るい茶	明るい茶	良	—	上層	—

部類	分類地名	形	法 直 (cm)	口直・斜直		内・外 直		手 法 上 の 特 徴		地質	土	地盤	内 地	外 地	断面	造 壁	出土位置	備 考
				直	斜	直	斜	直	斜				直	斜	直	斜		
直	28-2 沢入山II	直	17.6	-	-	ヨコカキ直・内斜直	"	リコナデ・ナガキ直	"	小石枕少・赤粘	良好	土手直	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	表面	上層
	28-3 沢入山II	直	14.0	-	-	"	"	"	"	小石枕多・赤粘	普通	"	"	"	"	ナナ直	ナナ直	ナナ直
	28-4 沢入山	直	16.2	-	-	ハナガキ直・ナナ	"	ヘタミガキ直・ナナ	"	ナナ枕	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	表面	中層
	28-5 沢入山	直	-	-	7.0	-	ナナ直	"	ナナ枕	普通	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	下層	
住	28-6 沢入山	直	-	-	9.4	-	ナナ直	"	ナナ枕	普通	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	土手	
	28-7 沢入山	直	-	-	9.8	-	ナナ直	"	ナナ枕	普通	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	表面	
	29-5 溝底山	直	12.1	-	-	ヘタミガキ直	"	ヨコナデ・ナガキ直	"	小石枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	表面	上層
	29-6 溝底山	直	12.1	-	-	ヘタミガキ直	"	ヨコナデ・ナガキ直	"	小石枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	表面	中層
	29-7 溝底山	直	21.7	-	-	ヘタミガキ直・ナナ直	"	ヘタミガキ直・ナナ直	"	小石枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	上層
	29-8 溝底山	直	-	-	7.2	-	ナナ直	"	ナナ枕	普通	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	表面	
	29-9 溝底山	直	-	-	7.3	-	ナナ直	"	ナナ枕	普通	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	下層	
	29-10 溝底山	直	-	-	6.6	-	ナナ直	"	ナナ枕	普通	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	上層	
	29-16 手づくね	直	-	-	3.1	-	ナナ直	"	ナナ枕	普通	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	土手	
	29-17 高・坪	直	-	-	14.4	-	ヨコナデ・ナナ	"	ヨコナデ・ナナ直	"	小石枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	良好	表面
	44 住	30-8	直	-	-	5.5	-	ナナ直	"	ヘタミガキ直	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	下層
	30-9 溝底B	直	-	-	6.5	-	ナナ直	"	ヘタミガキ直	"	小石枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	良好	土手
	45 住	30-12 塵	-	-	16.7	-	ナナ直	"	ナナ枕め渡・ヘタミガキ直・斜め	"	ヘタミガキ直・ヘタミガキ直	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	上層
	47 住	30-13 塘	直	-	-	7.6	-	ナナ直	"	ヘタミガキ直・ヘタミガキ直	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	中層
	47 住	31-5 塘	直	-	-	8.0	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	土手
	47 住	31-7 塘	直	-	-	8.4	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	上層
	47 住	31-8 塘	直	-	-	7.6	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	中層
	48 住	31-9 塘	直	-	-	7.6	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	上層
	48 住	31-12 室B	直	7.0	-	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	人口部	
	48 住	31-13 室B	直	32.0	31.2	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	人口部	
	48 住	31-14 塗	直	-	-	6.4	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	中層
	48 住	31-21 高・C	直	19.9	-	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	土手	
	31-23 塗	直	-	-	7.5	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	下層	
	31-24 塗	直	-	-	7.9	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	上層	
	51 住	31-25 塗	直	-	-	5.0	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	土手
	51 住	32-1 塗A	直	22.4	-	-	ヨコナデ・ナガキ直	"	ヨコナデ・ナガキ直	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	上層	
	52 住	32-2 塗A	直	20.9	-	-	ヨコナデ・ナガキ直	"	ヨコナデ・ナガキ直	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	中層	
	52 住	32-5 塗B	直	11.3	-	-	ナナ直	"	ナナ枕少・赤粘	良好	"	リナ直	リナ直	リナ直	リナ直	良好	中層	

番 号	地 名	標 高(m)	緯 度	経 度	法 面		内 面		外 面		地 質	施 設	出土物置 け場	備 考	
					口透	側透	底透	側底	底底	側					
32-6	標B11	22.2	20.2	—	—	ヘラミガキ面	ヨコナダ・ナダ面、ヘラミガキ面	ナダ面	直角	無い茶 うす茶 ナダ茶	白 白 ナダ茶	外板 外板 外板	上層		
32-7	標	—	—	6.7	—	ナダ面	ナダ面	ナダ面	—	うす茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
32-8	—	—	—	5.0	—	ナダ面	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
32-9	—	—	—	7.0	—	ナダ面	—	—	—	—	—	外板 外板	下層		
32-10	—	—	—	7.7	—	ナダ面	ヘラミガキ面、ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	下層		
32-11 (壁C)	—	—	—	—	—	ナダ面	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	下層	複合構 造部分	
33-1	壁A11	37.2	11.3	40.8	—	ヨコナダ・斜面	ヨコナダ・ナダ面の傾斜ナダ	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
34-1	壁	—	—	5.7	—	斜面	ハラミガキ面、ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	無土	
34-2	—	—	—	7.7	—	ナダ面	ヘラミガキ面、ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
34-3	壁B11	14.4	—	—	—	ヘラミガキ面	ヨコナダ・ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	下層		
34-4	壁B11	10.2	—	18.7	—	—	ヨコナダ・ナダ面	ヨコナダ・ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	複合構 造部分
34-5	壁	—	—	15.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	上層	
34-6	壁B	—	—	15.7	—	—	ナダ面	ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	
34-7	壁	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	下層	
34-8	壁B11	—	—	11.3	—	斜面	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
34-9	壁B11	—	—	5.4	—	—	不明	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
34-10	—	—	—	7.0	—	ナダ面	ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
34-11	—	—	—	7.5	—	ナダ面	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
34-12	壁B11	21.8	20.3	—	—	ハラミガキ面	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	壁と部の隙間が半?	
35-1	壁A11	14.3	—	—	—	ヨコナダ・ナダ面	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
35-2	壁B11	—	—	5.6	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
35-3	壁B11	—	—	5.8	—	—	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
35-4	壁B11	18.5	18.6	—	—	—	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
35-5	壁B11	—	—	6.7	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ヘラミガキ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	
35-6	壁A11	19.3	19.2	—	—	ヘラミガキ面	ヨコナダ・ナダ面の傾斜ナダ	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
35-7	壁B11	20.5	19.9	—	—	ヘラミガキ面	ヨコナダ・ナダ面の傾斜ナダ	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
35-8	壁D	16.9	17.3	—	—	ヨコナダ・ナダ面	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
36-1	壁B11	20.4	19.8	—	—	ヘラミガキ面、ナダ面の傾斜ナダ	ヨコナダ・ナダ面の傾斜ナダ	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	複合構 造部分	
36-2	壁	—	—	6.2	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	
36-3	壁D	—	—	—	—	—	ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
36-4	壁	—	—	8.1	—	不明	ヘラミガキ面	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層	
36-5	壁B11	16.6	—	—	—	ヘラミガキ面	ヨコナダ・ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		
36-6	壁	—	—	8.4	—	斜面	ヘラミガキ面、ナダ面	ナダ面	—	ナダ茶 ナダ茶	ナダ茶 ナダ茶	外板 外板	上層		

地 点	剖 面	形 状	口 径	断 面	底 部	外 形	内 面		地 质	新 土	出 土	考 察	
							直 径 (m)	横 径 (m)	高 度 (m)	底 部 特 性	内 面 特 性	外 面 特 性	
37-17 剥B.n.10	17.1	-	-	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ面 ヘラミガキ面、ヘラミガキ ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	普通 小石粒 粗砂、砂岩 小石粒少、砂岩	ホ ホ ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類 分類	被覆砂 下層
37-19 剥B.n.10	12.5	-	-	6.2	-	ナデ面	ナデ	ヘラミガキ面	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
38-1 剥B.n.11	15.6	16.0	6.2	18.4	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
38-2 剥	-	-	6.4	-	-	ヘラミガキ面、ナデ	ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	風土
38-3 (剥C.n.1)	-	-	11.0	-	-	-	-	-	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	風土
38-4 剥A.n.10	12.0	6.0	21.7	ヘラミガキ面、ナデ面、斜面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
38-5 剥	-	-	7.5	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヘラミガキ面、ナデ	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
38-6	-	-	7.6	-	-	ナデ面	ナデ	ヘラミガキ面、ナデ	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
38-7	-	-	9.2	-	-	不規	不規	ヘラミガキ面、ナデ	小石粒少、砂岩、粗砂	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
38-8	-	-	8.2	-	-	ナデ面	ナデ	ヘラミガキ面、ナデ	小石粒少、砂岩、粗砂	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
38-9	-	-	7.7	-	-	ヘラミ	ナデ	ヘラミガキ面、ナデ	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
39-6 剥B.n.10	5.6	6.3	11.3	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 上層と混合
39-7	9.4	-	-	-	-	不規	不規	ヘラミガキ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 上層
39-8	-	-	10.2	12.7	-	ナデ面、斜面	ナデ	ヨコナデ、ナデ面、ヘラミガキ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
39-9 剥B.n.11	16.6	16.8	6.6	19.5	ナデ面+ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ面+ヘラミガキ面	粗砂、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層	
39-10 剥B.n.11	12.2	11.9	-	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
39-11	-	15.4	15.0	-	-	ナデ面+ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
39-12	-	18.8	18.5	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ面+ヘラミガキ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
39-13 剥B.n.11	16.3	16.0	-	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ面+ヘラミガキ面	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-1 剥B.n.10	10.9	9.8	5.4	11.0	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層	
40-2 剥B.n.11	19.0	-	-	-	-	-	-	-	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-3 剥	-	19.8	6.5	-	-	ヘラミガキ面、ナデ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ、ヘラミガキ面	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-4	-	18.7	7.0	-	-	ナデ面	ナデ	ヘラミガキ面、ナデ	粗砂、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-5	-	-	7.5	-	-	-	-	-	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-6	-	-	6.3	-	-	-	-	-	小石粒少、半砂	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-7	-	-	7.1	-	-	-	-	-	小石粒少	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-8	-	-	7.3	-	-	-	-	-	粗砂、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-9	-	-	6.2	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ、ナデ	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
40-21 露床B1	21.6	-	-	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ+ヘラミガキ面	粗砂、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 上層
40-22 (露床)	-	-	10.6	-	-	レギリ+バク利	ナデ	ヨコナデ+ヘラミガキ面	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
41-1 体	22.0	19.9	-	-	-	ヘラミガキ面	ナデ	ヨコナデ+ヘラミガキ面	小石粒少、砂岩	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	被覆砂 下層
41-2 壁	-	-	16.3	-	-	斜面	ナデ	ヨコナデ+ヘラミガキ面	小石粒	ホ	明るい茶 黄緑灰 明るい茶	分類 分類	風土

地 点	地 名	地 形	高 度 (m)	距 離 (m)	走 行 方 向	地 質	手 法 上 の 特 徴			地 域	地 質	地 域	地 質	地 域	地 質	
							内 面	外 面	底 土							
41-3	■	—	—	6.1	—	ナメル	ヘラミガキ層、ヘラミガキ層	小石粒少、砂利	良好	下層	良	良	良	良	良	
62 住	高子B1	21.0	—	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	小石粒少、砂利	良好	下層	良	良	良	良	良	
41-7	高子B	—	—	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	小石粒少、砂利	良好	下層	良	良	良	良	良	
71 住	41-11	■	—	7.3	—	ナメル	ヘラミガキ層、ヘラミガキ層	小石粒少、砂利	良好	下層	良	良	良	良	良	
42-1	42-12	■	—	7.5	—	ナメル	ヘラミガキ層、ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
42-3	42-13	■	—	7.5	—	ナメル	ヘラミガキ層、ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
42-5	42-15	■	—	18.0	6.6	—	ヨコナデ、ナメル	ヨコナデ、ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
42-3	42-16	■	—	23.9	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
42-5	42-17	■	—	20.4	21.2	—	ヨコナデ、ナメル	ヨコナデ、ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
42-6	42-18	■	—	18.8	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
72 住	42-19	■	—	10.8	—	—	ヘラミガキ層、ナメル	ヘラミガキ層、ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
42-10	42-20	■	—	—	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
43-1	42-21	■	—	15.0	15.3	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
43-2	42-22	■	—	—	6.7	—	ナメル	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
43-3	42-23	■	—	19.6	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
43-6	42-24	■	—	11.6	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	下層	良	良	良	良	良	
43-12	42-25	■	—	17.6	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
43-13	42-26	■	—	7.4	—	—	ヘラミガキ層、ナメル	ヘラミガキ層、ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
43-14	42-27	■	—	—	5.6	—	ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
73 住	43-15	■	—	—	—	7.7	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良
43-16	43-17	■	—	—	—	6.7	—	ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良
44-7	43-18	■	—	—	6.2	—	ナメル	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良
44-8	43-19	■	—	—	20.6	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良
44-11	43-20	■	—	18.2	—	—	ヘラミガキ層	ヘラミガキ層	良好	下層	良	良	良	良	良	
44-12	43-21	■	—	18.6	19.4	7.1	21.7	ヘラミガキ層、ナメル	ヨコナデ、ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良
76 住	44-13	■	—	—	8.0	—	ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
44-14	44-15	(住)	—	—	3.0	—	ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
44-15	44-16	■	—	—	7.2	—	ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
45-1 住	45-2	■	—	17.4	18.3	—	ヘラミガキ層、ナメル	ヨコナデ、ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
78 住	45-3	■	—	6.7	—	ナメル	ヘラミガキ層、ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	
45-4	45-5	■	—	12.6	4.7	—	ナメル	ナメル	良好	下層	良	良	良	良	良	

地 名	標 高 (m)	緯 度 (°)	経 度 (°)	北 半 球		南 半 球		地 形	地 質	地 理	出 土 遺 跡	備 考
				内 陸	海 岸	内 陸	海 岸					
45-9 頂B ₁	13.2	10.6	6.6	15.2	ナガキ類、ナダ、 ^{シカホ} ジカホ	ヘラミガキ類	*	小石畳	普通	うす苔	うす苔	無
75 45-10 頂B ₂	—	13.6	—	ナガキ類	—	ナガキ類	*	小石畳少	良好	うす苔	うす苔	無
45-11 " "	—	12.0	3.9	—	シカホ、ナダ	—	—	小石畳少	不良	うす苔	うす苔	無
45-12 頂B ₃ II	15.8	16.0	—	ヘラミガキ類、ハケ類	ヘラミガキ類	ヨコナデ、ハケ、ヘラミガキ類	*	小石畳少	良好	うす苔	うす苔	無
45-4 岩	—	—	6.8	ヘラミガキ類、ナダ類	ヘラミガキ類	ヨコナデ、ヘラミガキ類	*	小石畳少、赤粘、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-5 頂D	—	—	6.0	ヘラミガキ類、ナダ類	ヘラミガキ類	ヨコナデ、ヘラミガキ類	*	小石畳少、白粘	良好	うす苔	うす苔	無
45-9 岩、岸	—	—	11.0	—	—	—	—	小石畳少、紫砂	普通	うす苔	うす苔	無
45-10 岩AII	—	—	—	—	—	—	—	小石畳少、紫砂、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-15 頂B ₁ II	20.0	20.1	—	—	—	—	—	小石畠少、紫砂、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-16 "	21.4	22.3	—	—	—	—	—	小石畠少、紫砂、紫砂	良好	うす苔	うす苔	無
45-17 岩	—	—	7.3	—	—	—	—	小石畠少、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-3 (881nB)	—	12.9	6.0	—	ヘラミガキ類	ヘラミガキ類	*	小石畠少、紫砂	普通	うす苔	うす苔	無
45-4 岩	—	—	6.7	—	—	—	—	小石畠少、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-5 "	—	—	6.8	—	ナダ類	—	—	小石畠少、紫砂、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-6 "	—	—	6.9	—	—	—	—	小石畠少、紫砂、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-13 頂B ₁ II	18.2	—	—	ヘラミガキ類	ヨコナデ、ヘラミガキ類	ヨコナデ、ヘラミガキ類	*	小石畠少	良好	うす苔	うす苔	無
45-25 岩	—	—	10.0	—	ナダ類	ナダ類	*	小石畠少、赤粘、紫砂	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-26 "	—	—	6.5	—	—	—	—	小石畠少、赤粘	良好	うす苔	うす苔	無
45-1 岩A ₁ II	20.6	—	—	ヨコナデ、ナダ類	ヨコナデ、ヘラミガキ類	ヨコナデ、ヘラミガキ類	*	小石畠少、赤粘	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-2 岩AII	—	—	—	—	—	—	—	小石畠少、赤粘	良好	うす苔	うす苔	無
45-3 頂B ₁ II	18.5	17.9	—	ヘラミガキ類	ヘラミガキ類	ヨコナデ、ヘラミガキ類	*	小石畠少、赤粘	良好	明るい苔	明るい苔	無
45-4 岩	—	—	14.2	14.0	—	—	—	小石畠少、赤粘	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-5 頂B ₁ III	13.6	—	—	ヘラミガキ類	ヘラミガキ類	ヨコナデ、ナダ類	*	小石畠少	良好	うす苔	うす苔	無
45-11 岩、岸	—	—	14.4	—	ヨコナデ、ナダ類、赤粘	ヘラミガキ類	*	小石畠少、赤粘	普通	うす苔	うす苔	無
45-1 岩A ₁ II	14.0	—	—	ヨコナデ、ナダ類	ヨコナデ、ナダ類	ヨコナデ、ナダ類	*	小石畠少、赤粘	良好	うす苔	うす苔	無
45-2 岩	—	—	7.4	—	赤粘	—	—	小石畠少、赤粘	普通	うす苔	うす苔	無
45-3 "	—	—	7.6	—	—	—	—	小石畠少、赤粘	良好	うす苔	うす苔	無
45-15 頂B ₁ II	17.6	17.3	—	—	—	—	—	小石畠少、赤粘	普通	明るい苔	明るい苔	無
45-16 頂B ₁ III	10.6	—	—	—	—	—	—	小石畠少、赤粘	良好	うす苔	うす苔	無
45-17 岩	—	—	6.8	—	—	—	—	小石畠少、赤粘	良好	明るい苔	明るい苔	無
45-18 "	—	—	7.1	—	—	—	—	小石畠少、赤粘	良好	うす苔	うす苔	無
45-19 "	—	—	5.6	—	ナダ類	—	—	小石畠少、赤粘	普通	うす苔	うす苔	無

番号	標高(m)	地形	法線(°)	北緯	東緯	外		内		平面		地成	土	調査	測定面	測定面	出土地図	備考
						北	南	西	東	内面	外面							
往 49-20	標 D	一	—	7.4	—	ナチ閣	ヘラミガキ閣、ナチ閣 ヨコナデ、ナチ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-3	標 D	14.9	—	—	—	ナチ閣	ヘラミガキ閣、ナチ閣 ヨコナデ、ナチ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-6	基	—	—	8.2	—	利根	ヘラミガキ閣	良好	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-7 (東山口)	基	—	—	13.8	—	—	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-8	基	—	—	5.5	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-10	基	—	—	8.2	—	利根	ヘラミガキ閣、ナチ閣 ヨコナデ、ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-11	基 B	—	—	9.4	—	—	不規	不規	不規	不規	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-16	標 B	—	—	4.8	—	ヘラミガキ閣	ヘラミガキ閣、ナチ閣～ヘラミガキ閣 ナチ閣、ナチ閣、ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
往 50-17	標 B	14.4	12.6	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 50-18	標 D	—	—	12.2	—	利根	ヘラミガキ閣、ナチ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 50-19	”	—	—	6.8	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 50-20	標 D	—	—	9.3	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 50-21	高所 B	20.3	—	—	—	利根	ヘラミガキ閣～ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 51-1	標 B	18.8	18.7	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 51-1	標 D	—	—	6.2	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 51-11	高所 B	18.1	18.6	—	—	利根	ヘラミガキ閣、ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 51-12	基	—	—	6.0	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
往 51-16	基	—	—	6.4	—	利根	ナチ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-1	標 B	16.8	16.6	—	—	利根	ヘラミガキ閣～ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-2	”	16.7	16.1	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-3	基	—	—	7.4	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-9	標 C	—	—	—	—	利根	ヨコナデ	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-10	高 所	—	—	11.4	—	利根	ヨコナデ	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-11	標 A-II	17.4	—	—	—	利根	ヨコナデ～ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
S2-12	標 A-II	14.0	—	—	—	利根	ヨコナデ、ナチ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-13	標 A-II	15.2	—	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-14	基	—	—	6.8	—	利根	ヨコナデ	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	上層	—	—	—	—	—	
S2-15	”	—	—	8.8	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
S2-16	”	—	—	6.0	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
S2-17	標 B	17.8	—	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
S2-18	(標 B-II)	16.2	—	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
S2-19	”	—	—	18.8	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
S2-20	標 C	—	—	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	
S3-6	標 C	—	—	—	—	利根	ヘラミガキ閣	普通	明るい茶 良好	明るい茶 良好	冷根	下層	—	—	—	—	—	

地 名	固 定 形	法 角 (°)	手 法 上 の 特 殊			地 土	地 底	地 色	圖	地 表	川土空置	備 考
			口道	側道	横道							
53-11 駐B11日	16.8	19.3	—	—	—	ヘラミガキ面、ハサキ面へテミガキ面	リコナダ、ナデヘラミガキ面	小石砂少	うす黄茶	うす茶	うす茶	根掛炉
55-12 駐B12日	14.7	—	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ	小石砂多	灰好	灰い茶	灰い茶	床面
B 53-14 駐B14日	21.3	—	—	—	—	不明	ヘラミガキ面	小石砂多	不真	不真	不真	—
54-1 (駐Ball)	—	16.3	—	—	—	ヘラミガキ面	ナデ面、ヘラミガキ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
54-5 働B5	10.8	—	—	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ナデ面	小石砂少、赤粘	赤粘、粉	にじい茶	にじい茶	床面
57 54-6 駐B6日	22.0	20.0	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ、ナデ、ヘラミガキ面	小石砂少、赤粘	赤粘	にじい茶	にじい茶	根掛炉
54-7 調	—	—	—	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ナデ	小石砂少	灰好	にじい茶	にじい茶	上層
54-11 (駐Ball)	—	15.7	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ、ナデ、ヘラミガキ面	小石砂少	うす黄茶	うす黄茶	うす黄茶	根掛炉
55-5 駐A1	—	17.4	17.4	—	—	ヘラミガキ面	ナデ、ヘラミガキ面、ナデ	小石砂少	灰好	明るい茶	明るい茶	イネ特
55-7 収	—	—	—	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ナデ	小石砂少	灰好	灰好	灰好	床面
55-8 燐	—	—	—	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ナデ	小石砂少	灰好	灰好	灰好	床面
55-9 n	—	—	—	—	—	ナデ面	ヘラミガキ面、ナデ	小石砂少、赤粘、粉	赤粘	赤粘	赤粘	根掛炉
55-10 n	—	—	—	—	—	ナデ面	ヘラミガキ面	小石砂少、赤粘	赤粘	灰い茶	灰い茶	床面
55-11 n	—	—	—	—	—	ナデ面	ナデ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
55-12 n	—	—	—	—	—	ナデ面	ヘラミガキ面、ナデ	小石砂少、赤粘、粉	赤粘	うす茶	うす茶	上層
55-13 n	—	—	—	—	—	ナデ面	ヘラミガキ面、ナデ	小石砂少、赤粘	赤粘	うす茶	うす茶	根掛炉
55-18 (駐D)	10.6	—	—	—	—	ナデ面	ヘラミガキ面、ナデ	小石砂多	不真	うす茶	うす茶	上層
7 75-8 完	—	—	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ、ナデ面	小石砂少	灰好	うす黄茶	うす黄茶	根掛炉
80-1 駐A11日	13.0	—	—	—	—	リコナダ、ナデ面	リコナダ、ナデ面	小石砂少、赤粘	赤粘	灰好	灰好	根掛炉
80-2 駐A12日	12.6	—	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ	小石砂少	赤粘	赤粘	赤粘	根掛炉
80-3 駐A13日	—	—	—	—	—	ヘラミガキ面、ナデ面、ハサキ面	ヘラミガキ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
80-4 燐	—	—	—	—	—	ナデ面、粉	ナデ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
80-5 n	—	—	—	—	—	ナデ面	ナデ面、ナデ	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
81 80-17 駐B17日	20.2	20.0	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ、ヘラミガキ面	小石砂少	灰好	うす黄茶	うす黄茶	根掛炉
80-18 燐	—	—	—	—	—	ヘラミガキ面	ヘラミガキ面、ナデ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
80-19 n	—	—	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ、ナデ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
81-1 駐B18日	16.4	—	—	—	—	ヘラミガキ面	リコナダ、ナデ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
81-2 燐	—	—	—	—	—	ナデ面	ナデ面、ナデ	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
81-17 高帆5	—	—	—	—	—	ナデ面	リコナダ、ナデ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉
81-27 燐	—	—	—	—	—	ナデ面	リコナダ、ナデ面	小石砂少	灰好	灰好	灰好	根掛炉

第17表 古墳時代の遺構出土土器類調査表

品 名	出土地點	緯 度	経 度	高 度	地 質	面 積 (m)	手 法 上 の 特 徴		地 上	地 底	色 調	内 面	外 面	断 面	出 土 位 置	備 考
							内 面	外 面				内 面	外 面			
55 56-1 罐	-	19.9	-	13.2	16.9	-	15.8	ナマ目	ヘラミガキ面	小石粒、泥斑	普通	茶	うす黄茶	うす黄茶	灰土	外周部は少子セリ
56-2	レ	13.4	16.9	-	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	ヘラミガキ面	小石粒	良好	茶	茶	茶	カッド	
56-3	レ	12.5	-	4.2	-	4.3	4.0	ナマ目	ナマ目	小石粒多、茶粒	普通	茶	茶	茶	カッド	上層と結合
56-4	レ	12.2	-	12.6	-	5.0	5.2	ナマ目	ナマ目	小石粒	良好	茶	茶	茶	カッド	
56-5	レ	12.5	-	12.2	-	5.0	5.2	ナマ目	ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
56-6	レ	12.6	-	12.5	-	5.0	5.2	ナマ目	ナマ目	小石粒少	良好	茶	茶	茶	カッド	
56-7	レ	12.6	-	9.9	-	5.6	5.6	ナマ目	ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
56-8	レ	11.3	-	11.3	-	4.4	4.4	ナマ目	ナマ目	小石粒少	良好	茶	茶	茶	カッド	
56-9	レ	16.5	-	16.8	-	13.9	13.6	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒	普通	茶	茶	茶	カッド	
56-10	紅	16.5	-	16.5	-	12.3	12.3	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
56-11	レ	16.8	-	16.5	-	12.3	12.3	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
56-12	レ	17.4	-	17.4	-	17.4	17.4	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
56-13	レ	18.0	-	18.0	-	18.0	18.0	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-1	レ	15.3	-	15.3	-	15.3	15.3	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少、茶粒	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-2	レ	18.8	-	18.8	-	14.8	14.8	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-3	レ	14.8	-	14.8	-	11.4	11.4	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-4	レ	11.4	-	11.4	-	11.4	11.4	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-5	レ	19.9	-	19.9	-	19.9	19.9	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-6	レ	15.6	-	15.6	-	15.6	15.6	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-7	焼	22.3	-	15.6	22.3	-	15.6	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-8	焼	14.3	-	14.3	-	14.3	14.3	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-9	焼	14.0	-	14.0	-	14.0	14.0	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-10	焼	11.7	-	10.5	11.8	4.4	10.7	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-11	焼	11.7	-	10.5	11.8	4.4	10.7	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-12	焼	11.6	-	10.9	-	10.9	10.9	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
57-13	焼	11.0	-	11.6	-	11.6	11.6	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
58-1	焼	23.4	-	17.4	-	17.4	17.4	ヨコナデ・ナマ目	ヨコナデ・ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
58-2	焼	15.7	-	14.6	-	14.6	14.6	ナマ目	ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
58-3	焼	5.8	-	5.8	-	5.8	5.8	ナマ目	ナマ目	小石粒少	普通	茶	茶	茶	カッド	
58-4	焼	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

地 点	层 位	层 号	地 质			土 质			地 质			外 面			断 面			地 点	
			厚度 (cm)	岩性	厚度 (cm)	内 部	内 部	外 部	内 部	外 部	内 部	内 部	外 部	内 部	外 部	内 部	外 部		
56-5	新	14.5	13.3	—	—	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	下層	下層	
56-6	v	9.8	9.6	—	—	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	中層	中層	
56-7	下	15.6	—	6.5	—	ナガ層、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	中層	P1	
56-8	v	12.4	—	—	5.9	ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	中層	P1	
56-9	v	10.8	—	—	5.2	ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	中層	P1	
56-10	底	16.0	—	14.0	11.2	ナガ層、ナガ層、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	上層	上層	
56-11	v	18.2	—	—	—	ヘリガキ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
56-12	v	16.4	—	—	—	—	—	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
56-13	v	17.6	—	—	—	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	下層	下層	
56-1	v	—	—	—	—	ナガ層	ヘリガキ層、ヨコナデ	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
56-2	v	—	—	—	9.9	—	ナガ層、ヨコナデ	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
56-3	v	—	—	—	—	シガラ層、ナガ層	シガラ層、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
56-4	底	9.9	15.6	—	14.8	ヨコナデ層、ヘリガキ層、ナガ層	ヨコナデ層、ヘリガキ層、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	下層	下層	
56-5	v	—	13.8	4.9	—	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	中層	中層	
56-6	底	—	13.5	16.0	—	—	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層、ナガ層	ナガ層、ナガ層	中層	中層
56-7	v	—	14.9	25.4	—	—	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層
56-8	v	—	15.4	20.0	—	—	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層
60-1	v	15.2	24.6	—	—	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
60-2	v	12.8	18.0	7.2	17.9	ヨコナデ、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
60-3	v	—	20.9	4.8	—	ナガ層、ヘリガキ層	ヘリガキ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
60-4	v	—	—	5.3	—	—	ナガ層	ヘリガキ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層
60-5	v	—	—	—	—	ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
60-6	底	13.0	12.3	3.4	12.0	ヨコナデ、ナガ層	ナガ層、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
60-7	下	9.4	—	—	5.2	ナガ層、ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	中層	中層	
60-8	底	17.9	—	—	—	ヨコナデ、ナガ層	ヘリガキ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	上層	上層	
60-9	v	—	—	—	—	ナガ層	ヨコナデ、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	上層	上層	
60-10	v	—	—	12.1	—	ナガ層	ヘリガキ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	上層	上層	
60-11	壁	—	—	7.5	—	ヘリガキ層、ナガ層	ヘリガキ層、ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	良好	ナガ層	ナガ層	上層	上層	

第18表 案内時代以降の遺跡出土土器調査表

名 稱	出 土 地 點	形 狀	口 徑	底 徑	高 度	規 則	手 法 上 の 特 徴		地 質	地 形	色 調	内 面	外 面	底	出 土 位 置	備 考	
							内	外									
1	62-25 圓 体	—	—	7.4	—	ナデ	不明	小石粒、雲母	普通	うす青苔	うす青苔	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
2	62-27 圓 体	—	—	8.8	—	ナデ	ナデ	小石粒多、雲母	普通	うす青苔	青苔	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
3	62-28 圓 体	—	—	9.0	—	ナデ	ナデ	小石粒少、雲母	普通	うす青苔	青苔	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
4	62-29 圓 体	—	—	8.4	—	ナデ	ヘラミガキ鏡、ナデ	小石粒、雲母	普通	灰 色	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
5	62-30 圓 体	—	—	8.3	—	ヘラミガキ鏡	ヘラミガキ鏡、ヘラミガキ鏡	小石粒、雲母、雲母	普通	AN	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
6	62-31 圓 体	—	—	6.6	—	ナデ	ヘラミガキ鏡	小石粒少、雲母	普通	—" "	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
7	62-32 圓 体	—	—	7.8	—	ナデ	ヘラミガキ鏡	ヘラミガキ鏡、ヘラミガキ鏡	普通	うす青苔	青苔	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
8	62-33 圓 体	—	—	5.7	—	ナデ	ヘラミガキ鏡	小石粒、雲母	良好	うす青苔	青苔	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
9	62-34 圓 体	—	—	7.5	—	ナデ	ヘラミガキ鏡	小石粒、雲母、雲母	普通	灰 色	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
10	62-35 圓 体	—	—	6.0	—	ナデ	*	小石粒少、雲母	普通	うす青苔	青苔	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
11	63-4 圓 体	—	—	5.2	—	ナデ	ナデ	小石粒	普通	うす青苔	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
12	63-3 圓 体	—	—	6.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—" "	普通	灰 色	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
13	63-9 圓 体	—	—	8.4	—	ナデ	*	—" "	普通	灰 色	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
14	63-10 圓 体	—	—	11.6	—	ナデ	*	—" "	普通	灰 色	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
15	63-11 圓 体	—	—	14.2	20.6	—	ココナデ、ヘラミガキ鏡、ナデ	ココナデ、ヘラミガキ鏡、ナデ	普通	灰 色	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
16	63-12 圓 体	—	—	13.2	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	普通	灰 色	灰 色	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
17	63-13 圓 体	—	—	9.6	—	ナデ	ヘラミガキ鏡	ヘラミガキ鏡	普通	小石粒多	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
18	63-14 圓 体	—	—	6.2	—	ナデ	ナデ	小石粒少	普通	—" "	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
19	63-20 圓 体	—	—	5.8	—	ナデ	ナデ	小石粒	普通	—" "	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
20	63-21 圓 体	—	—	7.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	—" "	普通	白	白	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
21	63-22 圓 体	—	—	8.0	—	ナデ	*	—" "	普通	—" "	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
22	63-23 圓 体	—	—	7.2	—	ナデ	ヘラミガキ鏡	—" "	普通	—" "	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色
23	63-24 天日坏	—	—	5.2	—	ナデ	ヘラミガキ鏡	—" "	普通	—" "	—" "	分類	青灰色	白	白	青灰色	青灰色

第19表 通横外出土器物目録

通 番 号	形 態	法 量 (cm)	口径 幅	厚度	底 高	内 面	外 面	特 徴	地 点	土 質	色 調	斑 点	出 土 地 點	備 考
						内 部 構 造	外 部 装 飾							
90-1	片	13.4	—	9.0	4.1	ロクロナデ	—	—	小石巣	灰	灰	光沢	万葉1	須佐
1 90-2	片	—	—	12.7	—	—	—	—	小石巣少	灰	灰	光沢	6世	—
区 90-3	片	—	—	8.2	—	—	—	—	小石巣	灰	灰	光沢	万葉1	—
90-4	片	—	—	6.4	—	—	—	—	小石巣	灰	灰	光沢	山喜丸	—
96-1	ワリホ土器	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	普通	灰	灰	明るい灰	7世	萬代土器
86-9	片	6.6	—	7.2	—	不明	—	—	小石巣多、網状、穿孔	灰	灰	光沢	19世	—
86-10	片	6.6	—	6.2	—	—	—	—	小石巣多、網状、穿孔	灰	灰	光沢	73世	—
90-6	片	—	—	7.0	—	ロクロナデ	—	—	小石巣少	灰	灰	光沢	須佐	山喜丸
90-7	片	18.2	—	—	—	—	—	—	NA	—	—	—	—	—
90-8	片	—	—	5.3	—	—	—	—	NA、網狀	灰	灰	光沢	10世	—
90-9	片	—	—	6.2	—	—	—	—	NA、網狀	灰	灰	光沢	19世	—
90-10	片	—	—	8.1	—	—	—	—	NA	灰	灰	光沢	58世	須佐
90-11	片	—	—	8.4	—	—	—	—	NA	灰	灰	光沢	7世	須佐
90-12	天目	12.3	—	—	—	—	—	—	NA	灰	灰	光沢	13の西	ガツケ
90-13	片	11.8	—	—	—	—	—	—	ロクロナデ、ロクロヘタケズリ	灰	灰	光沢	—	—
90-14	片	8.4	—	—	—	不明	—	—	普通	灰	灰	光沢	—	—
87-27	往口土器	—	—	—	—	ナデ	—	ナデ	小石巣	灰	灰	光沢	67世	萬代土器
区 90-19	天目	12.6	—	—	—	ロクロナデ	—	—	ロクロナデ、クラッシュヘッタ	灰	灰	光沢	67世	須佐
90-20	片	—	—	5.7	—	—	—	—	ロクロナデ	灰	灰	光沢	67世	須佐

第20表 縄文時代の遺構出土石器観察表

遺構	面版No.	器種	法 質				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
14住	91-1	打製石斧	11.8	4.3	1.5	102	緑色片岩	床面	
	91-2	"	11.2	3.5	1.5	85	硬砂岩	"	
	115-1	スクリーパー	3.9	4.6	1.4	30	チャート	覆土	
	115-2	ダメージのある剝片	2.9	2.3	1.4	8	黒曜石	"	
58住	-	打製石斧	(7.3)	3.6	1.0	(25.1)	硬砂岩	"	
	91-3	"	(12.7)	(4.9)	(2.1)	(118)	"	床面	
	91-4	"	(7.8)	4.3	2.1	(78)	"	上層	
	91-5	抉入打製石庖丁B	4.1	6.1	0.8	25	"	"	
	91-6	横刃型石器	9.8	6.3	1.1	95	緑色片岩	"	
	115-3	(ビエス・エスキュー)	3.6	2.4	0.8	4.9	黒曜石	床面	
	115-4	加工された剝片	2.14	1.95	0.62	2.5	"	"	まぎれ込み?
	-	剝片	2.6	2.0	0.8	2.2	"	覆土	
	-	"	2.9	1.4	1.1	1.7	"	"	
	-	"	2.0	1.8	0.5	1.4	"	"	
67住	-	"	1.5	1.6	0.4	0.7	"	"	
	-	"	1.7	0.9	0.3	0.4	"	"	
	91-7	打製石斧	(7.9)	5.9	1.6	(122)	硬砂岩	覆土	
	91-8	石棒	9.4	1.3	1.0	23	緑色片岩	床面	
68住	115-5	使用歴のある剝片	1.8	1.1	0.35	0.6	黒曜石	覆土	
	91-9	打製石斧	(6.5)	(3.7)	1.8	(56)	緑色片岩	"	
	91-10	"	(6.7)	(5.1)	1.0	(45)	"	"	
	91-11	砥石	8.5	3.5	0.8	40	砂岩	"	
	115-6	打製石器	(1.6)	1.7	0.5	1.3	黒曜石	"	
	115-7	加工された剝片	2.8	1.8	0.8	3.5	"	"	
	-	剝片	3.5	1.8	0.7	2.1	"	"	
77住	91-12	打製石斧	(9.9)	4.5	2.1	(132)	硬砂岩	上層	
	91-13	抉入打製石庖丁C	3.4	5.6	0.6	10	"	覆土	まぎれ込み?
	-	打製石斧	(7.1)	6.1	2.0	(100)	"	"	
99住	92-1	"	13.0	4.8	1.9	100	"	床面	
	92-2	"	(7.9)	(4.3)	(1.2)	(38)	"	"	
	92-3	磨製石斧	(5.6)	(3.5)	(1.0)	(38)	瑪瑙岩	"	
	92-4	横刃型石器	5.0	6.7	1.4	42	硬砂岩	"	
	92-5	"	5.7	10.1	1.0	55	"	"	
	92-6	石錐	6.6	4.5	1.8	85	"	"	
	115-8	石錐	2.4	1.7	0.9	2.9	チャート	"	
	115-9	(ビエス・エスキュー)	2.2	1.5	1.1	3.4	黒曜石	"	
	-	原石	5.8	3.2	2.4	29.8	"	覆土	
F14	-	剝片	2.5	1.6	1.7	5.0	"	"	
	-	"	3.4	2.2	0.6	2.6	"	"	
	119-1	四石	11.1	11.3	7.0	820	花崗岩		
F17	119-2	打製石斧	(5.2)	(4.2)	(1.5)	(38)	硬砂岩		
	-	剝片	2.3	0.9	0.4	0.7	黒曜石		
F18	119-3	打製石斧	(6.4)	3.2	1.8	(40)	硬砂岩		
	119-4	"	(3.8)	(4.7)	(1.6)	(28)	"		
	119-5	横刃型石器	5.5	10.5	1.2	82	"		
	119-6	石錐	6.1	3.3	1.8	48	"		
F19	-	剝片	2.1	1.8	0.8	2.0	黒曜石		
	119-7	打製石斧	(4.5)	(4.0)	(0.6)	(20)	緑色片岩		

遺構	固有番号	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
F19	IIH-8	横刃型石器	4.1	9.4	1.4	39	硬砂岩		剝片かもしれない。
	IIH-10	打製石斧	2.3	(1.3)	0.3	0.7	黒曜石		
F33	—	剝片	3.6	2.6	0.7	4.2	チャート		
F35	IIH-9	打製石斧	(6.7)	(3.6)	(1.4)	(34)	硬砂岩		
F39	IIH-10	石錐	4.6	3.5	2.0	52	(安山岩)		
F41	IIH-11	打製石斧	(6.9)	(4.1)	(2.1)	(63)	安山岩		
	—	#	(3.7)	4.2	1.8	28	綠色片岩		
F60	IIH-12	#	10.2	5.3	1.9	135	#		
	IIH-13	横刃型石器	5.8	7.8	1.1	70	硬砂岩		剝片かもしれない。
F62	IIH-14	打製石斧	13.2	6.9	2.4	284	#		
	IIH-15	#	12.9	4.9	2.5	180	綠色片岩		
	IIH-16	#	(7.0)	3.6	(2.0)	(60)	硬砂岩		
	IIH-17	#	8.6	2.5	0.8	(22)	綠色片岩		
	IIH-18	横刃型石器	7.2	8.6	1.4	92	硬砂岩		
	IIH-19	剝片	3.4	6.9	0.5	12	#		
	—	棒状器	16.0	5.2	4.0	500	#		
	—	剝片	3.9	2.5	1.0	7.5	黒曜石		
	—	#	4.2	3.9	0.9	14.6	綠色片岩		
F65	IIH-11	ビエス・エスキュー	2.94	2.2	1.5	8.2	黒曜石		
F67	III-1	剝片	5.3	5.7	1.1	36	ホルンフェルス(砂質)		
F73	III-2	打製石斧	(10.9)	5.1	1.6	(96)	硬砂岩		
F76	III-3	#	(8.5)	4.5	2.4	(78)	綠色片岩		
F90	III-4	#	(9.0)	(3.9)	1.9	(78)	硬砂岩		
	IIH-12	加工された剝片	3.81	1.82	0.54	3.4	黒曜石		
F91	III-5	石錐	4.1	3.7	1.1	25	硬砂岩		
F99	III-6	#	5.0	4.5	1.6	42	#		
F108	III-7	打製石斧	(10.2)	(6.1)	(2.0)	(150)	#		
	III-8	#	(9.8)	(4.7)	2.0	(110)	#		
	III-9	#	7.3	5.2	1.0	45	#		
	III-10	磨製石斧	5.5	2.8	1.0		軟玉結晶岩		定角式磨製石斧
	III-11	石錐	5.5	3.2	1.6	35	硬砂岩		
F109	IIH-13	スクリイマー	5.2	4.6	0.9	15	安山岩		
F114	III-12	打製石斧	(5.4)	(8.2)	(1.5)	(78)	硬砂岩		
	III-13	横刃型石器	6.8	8.3	1.8	104	#		
F119	III-14	打製石斧	(11.0)	(4.0)	(1.9)	(88)	綠色片岩		
	—	剝片	6.1	3.8	0.9	23	#		
	—	#	6.9	5.8	0.8	33	黑色片岩		
F123	—	#	2.4	0.9	1.3	3.0	黒曜石		
F125	III-15	打製石斧	(5.2)	(4.8)	(2.1)	(48)	凝灰岩		
F126	III-16	#	9.0	4.3	1.5	76	硬砂岩		
F127	III-17	#	13.4	5.3	1.9	168	#		
F129	IIH-1	#	(10.6)	(5.2)	(1.9)	(148)	綠色片岩		
F133	IIH-2	#	(10.3)	(4.1)	(1.4)	(100)	#		
F135	—	剝片	3.3	2.9	0.5	3.4	硬砂岩		
F137	IIH-3	磨器	8.0	8.2	1.8	166	#		
	IIH-4	剝片	3.9	6.3	0.9	25	#		
	IIH-5	使用感のある剝片	3.0	1.6	0.5	2.0	黒曜石		
	—	剝片	2.9	1.7	1.1	4.0	#		
F142	—	石皿	—	—	—	—	花崗岩		
F143	IIH-5	打製石斧	(7.8)	(4.1)	(1.5)	(58)	硬砂岩		
	IIH-6	#	(5.4)	(3.6)	(1.5)	(37)	#		

遺構	団族No	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
F1H	H2-7	打製石斧	(5.5)	(4.2)	(1.1)	(42)	緑色片岩		
F1H	H2-8	横刃型石器	4.5	5.9	0.9	25	硬砂岩		剥片かもしれない。
F2E	H2-2	ピエス・エスキュー	2.6	2.2	1.1	3.6	黒曜石		
配石2 1-N	H2-12	打製石斧	10.5	4.6	2.1	113	硬砂岩		
	H2-13	#	12.1	(5.5)	2.0	(136)	#		
	H2-14	#	11.6	5.5	1.8	125	#		
	H2-15	#	(5.0)	(3.1)	(1.1)	(22)	緑色片岩		
	H2-16	#	(7.0)	5.1	(2.5)	(92)	輕燧灰岩		
	H3-1	#	(6.9)	4.4	(1.7)	(52)	硬砂岩		
	H3-2	磨製石斧	12.7	6.4	2.7	288	ホルンフェルス		
	H3-3	砥石	(13.3)	3.4	2.4	214	石英玢岩		
	H3-4	抉入打製石泡丁	4.3	(6.9)	0.8	(22)	(緑縞岩)		
	H3-5	#	3.9	(5.8)	1.1	(25)	硬砂岩		
	H3-6	横刃型石器	(5.9)	(4.7)	1.1	(38)	#		
	H3-7	使用痕のある剥片	(4.2)	4.7	0.7	1.8	緑色片岩		
	H3-8	#	(5.0)	(3.3)	(0.6)	(10)	硬砂岩		
	H3-9	石錐	4.8	3.2	1.4	24	砂岩		
	H6-3	スクレイバー	3.8	5.0	0.7	10	安山岩		
配石2	H3-10	打製石斧	(6.3)	(3.9)	(1.4)	(36)	硬砂岩		
	H3-11	抉入打製石泡丁A	5.0	6.2	1.2	47	#		
	H6-4	石錐	3.4	3.05	1.2	7.1	黒曜石		

第21表 弥生時代後期の遺構出土石器観察表

遺構	団族No	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
1住	92-7	抉入打製石泡丁A	3.5	8.25	1.0	42	緑色片岩	覆土	抉入部を研磨で作成。
5住	92-8	磨製石頭	6.3	2.9	0.6	12	珪質片岩	#	未成品
7住	92-9	抉入打製石泡丁A	4.2	6.5	1.3	44	硬砂岩	床面	万都にロ一枚光沢物
	92-10	# B	4.2	6.6	1.6	50	#	上層	
	92-11	# B	3.9	7.5	0.9	38	#	覆土	
9住	92-12	有肩形石器B	11.4	14.6	2.0	425	#	床面	
	—	すり石?	12.1	9.2	9.8	1520	花崗岩		使用痕認められず
10住	92-13	打製石斧	14.0	5.3	2.55	224	硬砂岩	上層	
	93-1	#	(5.9)	5.7	(1.9)	(62)	#	覆土	
	93-2	有肩形石器B	12.7	11.5	2.4	320	#	上層	
	93-3	# D	11.4	9.1	2.5	234	#	床面	
	93-4	# B	10.4	9.6	2.1	(212)	#	#	刀部にロ一枚光沢物
11住	93-5	抉入打製石泡丁	3.7	(6.1)	1.0	(38)	緑色片岩	覆土	
	93-6	剥片	3.8	9.1	1.0	44	硬砂岩	#	横刃型石器かもしれない
	—	合石?	—	—	—	—			直構造から判断
	—	有肩形石器	(6.3)	(3.8)	(1.8)	(43.8)	硬砂岩		
12住	93-7	剥片	(4.0)	6.9	0.9	(30)	#	覆土	
	H7-2	スクレイバー	3.5	4.5	1.28	16.8	玻璃質安山岩	#	
	93-8	打製石斧	(11.0)	6.8	2.7	(185)	硬砂岩	上層	
	93-9	#	(8.6)	6.2	2.6	(136)	#	下層	
	93-10	#	(7.9)	(3.7)	1.4	(50)	緑色片岩	覆土	
15住	93-11	#	(9.6)	(9.7)	(2.0)	(202)	硬砂岩	#	打製石斧でないかもしれない
	93-12	有抉石器B	10.1	10.8	2.5	355	#	上層	
	93-13	抉入打製石泡丁B	4.6	6.8	1.1	42	#	床面	
	93-14	剥片	4.5	(6.5)	0.8	(24)	#	横刃型石器かもしれない	

遺構	団体No.	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
15住	93-15	横刃型石斧	3.7	6.2	1.1	30	緑色片岩	覆土	
	93-16	"	4.6	6.4	0.9	22	硬砂岩	上層	
	94-1	"	11.4	6.2	2.8	225	"	床面	
	94-2	特異石	14.0	5.4	2.9	(310)	"	下層	苔部に敲打による抉入跡作出
	16-8	打製石器	1.3	1.2	0.2	0.2	黑曜石	床面	
	-	合石?	-	-	-	-	"		遺構区から判断
16住	-	有肩型彫形石器	(5.1)	(6.3)	(1.6)	(38)	硬砂岩	覆土	
	94-3	打製石斧	13.6	6.3	2.1	173	安山岩	"	
	94-4	"	13.5	5.9	2.2	226	硬砂岩	"	
	94-5	"	6.5	4.3	1.3	53	輝緑岩	"	
	94-6	"	(7.0)	(6.7)	(1.8)	(110)	硬砂岩	"	
	94-7	"	(6.0)	(6.2)	(1.4)	(59)	"	"	
	94-8	剥片	6.9	5.5	1.0	43	"	床面	
	94-9	打製石斧	(3.7)	(3.0)	(0.6)	(10)	緑色片岩	上層	
	94-10	有肩型彫形石器B	11.0	(9.4)	(2.2)	(300)	硬砂岩	床面	
	94-11	抉入打製石庖丁B	4.4	9.1	1.3	60	"	"	
	94-12	" A	3.6	(5.1)	0.9	(20)	"	覆土	
	94-13	磨製石斧	(5.2)	(4.6)	(3.2)	(148)	斑塊岩	"	孔棒状磨製石斧
	94-14	合石	13.2	6.3	4.1	620	花崗岩	床面	風化が進む
	-	合石?	-	-	-	-	"	遺構区から判断	
17住	95-1	打製石斧	(12.5)	3.8	1.4	(75)	硬砂岩	覆土	
	95-2	"	(8.4)	(4.3)	(1.3)	(72)	"	床面	
	95-3	"	(7.5)	(4.4)	(1.8)	(88)	斑塊岩	覆土	
	95-4	"	(7.3)	(4.2)	(2.2)	(82)	硬砂岩	上層	
	95-5	有肩型彫形石器A	(9.9)	(6.9)	2.7	(215)	"	"	
	95-6	" B	7.5	9.5	1.6	126	"	"	
	95-7	" B	9.8	9.5	2.0	238	"	"	
	95-8	横刃型石斧	89.3	10.8	2.7	258	"		刀部にロー状光沢物
	117-6	使用痕のある剥片	1.5	1.7	0.4	1.0	黑曜石	覆土	剥片かもしれない
	-	合石?	-	-	-	-	床面	遺構区から判断	
18住	95-9	打製石斧	12.6	5.5	2.1	190	硬砂岩	下層	
	95-10	"	(11.2)	5.6	1.9	(150)	"	"	
	95-11	"	(9.3)	5.3	1.7	(112)	"	上層	
	95-12	"	(6.1)	(3.8)	(2.2)	(45)	"	"	
	95-13	横刃型石斧	4.6	(5.6)	1.3	(39)	"	"	
	95-14	抉入打製石庖丁A	4.8	7.1	1.0	34	"	"	
	96-1	有肩型彫形石器	10.4	(12.0)	2.7	(378)	"	"	
	96-2	"	(6.1)	(7.0)	(1.5)	(89)	"	"	
	96-3	横刃型石器	6.8	7.2	2.3	134	"	覆土	
	96-4	"	5.6	6.3	1.3	47	"	"	剥片かもしれない 遺構区から判断
19住	-	合石?	-	-	-	-	床面		
	96-5	打製石斧	11.8	4.6	1.6	110	硬砂岩	下層	
	96-6	"	(7.3)	(4.2)	(1.9)	(90)	緑色片岩	上層	
	96-7	磨製石斧D	(6.0)	5.3	1.4	(70)	粘板岩	覆土	
	96-8	抉入打製石庖丁B	5.1	7.6	1.1	82	超基性岩	床面	
	96-9	" B	5.2	1.5	1.1	42	硬砂岩	下層	
20住	96-10	石錐	4.8	3.5	0.9	22	"	"	
	96-11	打製石斧	16.4	6.8	2.5	360	"	覆土	
	96-12	"	(7.1)	4.6	(1.2)	(64)	緑色片岩	"	
	96-13	抉入打製石庖丁A	4.7	7.1	1.2	48	硬砂岩	床面	
21住	97-1	" B	4.0	8.8	1.1	50	"	"	

盤構	図版No	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(回)	幅(回)	厚さ(回)	重さ(g)			
21住	97-2	抉入打製石庖丁B	4.9	7.7	1.2	62	硬砂岩	床面	
	97-3	石律状石製品	10.9	3.9	3.8	308	灰砂岩	"	
22住	97-4	打製石斧	(5.8)	(3.5)	(2.4)	(49)	硬砂岩	覆土	
	97-5	横刃型石器	7.7	7.4	1.4	42	"	"	
	97-6	横刃型石庖丁	8.5	4.0	1.2	50	綠色片岩	"	
	116-10	打製石鎌	(1.8)	(0.4)	0.3	(0.6)	黑曜石	下層	
26住	97-7	抉入磨製石庖丁B	3.4	7.7	0.65	28	ホルンフェルス	覆土	
	97-8	横刃型石鎌	6.85	10.0	1.85	165	硬砂岩	上層	
30住	97-9	打製石斧	(6.0)	6.0	(1.1)	(70)	"	下層	研削後背面をツブしている
	97-10	抉入打製石庖丁B	3.8	8.9	1.3	57	"	"	
	97-11	" A	4.2	5.2	0.8	26	"	"	
	97-12	" B	4.0	4.9	0.9	22	"	上層	
32住	97-13	砥石?	6.1	6.1	1.1	54	ホルンフェルス	下層	振り切りによって切断
	116-5	打製石鎌	2.2	1.6	0.4	0.9	黑曜石	上層	
	-	打製石斧	(5.8)	(6.1)	(2.5)	(122)	硬砂岩	覆土	
33住	97-14	"	(10.1)	5.0	1.4	(78)	"	上層	
	97-15	有肩肩状形石器D	(10.0)	10.6	2.9	378	"	"	
	97-16	抉入打製石庖丁B	4.4	5.7	0.9	28	黑曜母片岩	"	抉入部がわずかに認められる
	97-17	" B	4.3	6.7	0.7	26	硬砂岩	"	
35住	-	古石	-	-	-	-	床面	遺構図から判断	
	98-1	有肩肩状形石器D	11.2	13.1	3.0	390	硬砂岩	上層	
36住	98-2	抉入打製石庖丁B	4.3	7.4	1.1	42	"	床面	
	98-3	" B	4.3	7.2	1.3	55	"	"	
37住	98-4	有肩肩状形石器B	8.4	10.6	2.0	200	"	上層	
	98-5	有抉石器	7.7	8.4	1.7	150	"	下層	
38住	98-6	有肩肩状形石器A	12.7	16.2	2.2	505	"	上層	
	98-7	抉入打製石庖丁A	3.9	7.3	1.3	46	"	床面	
39住	98-8	剥片	4.8	6.4	1.1	38	"	"	
	98-9	打製石斧	(12.3)	(6.7)	(2.6)	(188)	"	上層	
40住	98-10	抉入打製石庖丁B	4.2	9.0	1.4	66	"	下層	
	98-11	" B	4.3	7.5	1.1	42	"	"	万部にロー状光沢物
	98-12	" B	3.4	5.5	0.6	14	"	床面	
	98-13	" B	4.7	9.0	1.1	65	"	"	
	98-14	抉入磨製石庖丁B	3.7	(7.5)	1.0	(45)	粘板岩	"	
	98-15	抉入打製石庖丁B	3.9	7.0	1.1	38	硬砂岩	上層	
	-	すり石?	(14.2)	9.7	7.2	1,420	花崗岩	覆土	使用痕認められず
41住	99-1	打製石斧	(8.7)	3.8	0.9	(44)	硬砂岩	"	
	99-2	抉入打製石庖丁B	4.3	8.1	1.3	60	"	"	
	99-3	砥石	(3.2)	(2.7)	1.3	(17)	(ホルンフェルス)	上層	
42住	99-4	有肩肩状形石器	(5.2)	(5.8)	(1.4)	35	硬砂岩	覆土	万部片、ロー状光沢物
	-	古石	-	-	-	-	床面	遺構図から判断	
43住	99-5	抉入打製石庖丁A	4.9	6.3	0.9	28	硬砂岩	上層	
	99-6	粗粒石器未成品	(6.8)	8.7	3.1	(202)	"	覆土	
	-	古石	-	-	-	-	床面	遺構図から判断	
44住	99-7	横刃型石器	8.8	10.8	1.5	125	硬砂岩	上層	剥片かもしれない
	99-8	剥片	5.1	6.5	1.0	31	"	"	
46住	117-1	ストレィパー	7.3	3.9	1.2	28	玻璃質安山岩	覆土	
	99-9	抉入打製石庖丁B	4.7	6.8	1.3	47	硬砂岩	"	刃部にロー状光沢物
47住	99-10	剥片	4.2	6.5	0.6	20	"	"	
	99-11	打製石斧	(6.5)	(5.5)	(1.4)	(70)	"	上層	

遺構	図版No.	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
48住	H6-15	打製石斧	2.5	1.8	0.4	1.1	黒曜石	下層	
	99-12	有肩屈状形石器A	12.7	12.6	2.0	288	硬砂岩	床面	刃部にローラー状光沢物
	" C	12.3	9.6	2.7	282	"	上層		
	99-14	有孔石器A	7.0	7.7	1.1	90	"	"	
	99-15	有孔屈状形石器B	3.1	10.2	0.8	43	緑色片岩	"	
	99-16	鐵刀型石庖丁	8.8	3.9	0.7	38	ホルンフェルス	入口部	刃部にローラー状光沢物
51住	99-17	剥片	4.3	6.9	0.8	25	黒雲母片岩	床面	
	-	"	6.6	4.3	1.3	30	硬砂岩	覆土	
	H6-1	有肩屈状形石器D	10.7	11.4	3.0	336	"	入口部	刃部にローラー状光沢物
	H6-2	"	(4.2)	(8.5)	1.5	(57)	"	下層	"
53住	H6-3	抉入打製石庖丁B	4.4	7.9	1.3	55	"	入口部	
	-	台石	-	-	-	-	床面	遺構図から判断	
	H6-4	有肩屈状形石器B	8.0	11.6	2.7	300	硬砂岩	下層	
54住	H6-5	有孔屈状形石器A	3.6	(3.7)	0.5	(10)	珪質片岩	"	
	H6-6	不明	9.6	(6.5)	2.3	147	硬砂岩	覆土	
64住	H6-7	抉入打製石庖丁A	4.0	6.5	0.7	20	"	下層	
	H6-8	有肩屈状形石器B	7.6	12.4	1.7	182	黒雲母片岩	床面	
65住	H6-9	環狀石器	(5.9)	8.8	(2.4)	(115)	硬砂岩	"	
	H6-10	打製石斧	(2.8)	(1.2)	0.3	(0.8)	黒曜石	覆土	
	-	台石	-	-	-	-	床面	遺構図から判断	
	H6-11	打製石斧	12.9	6.0	1.8	196	緑色片岩	下層	刃部を研磨する
66住	H6-12	抉入打製石庖丁B	4.9	7.8	0.9	34	硬砂岩	床面	
	-	鐵器	12.7	12.0	3.7	275	"	"	
	-	打製石斧	(3.2)	(6.7)	(1.6)	(47)	"		
	-	有肩屈状形石器	(5.5)	(5.7)	(1.3)	(32)	硬砂岩	床面	遺構図から判断
69住	H6-1	打製石斧	17.5	7.6	3.0	484	"	床面	風化が進む
	H6-2	"	7.8	6.8	1.4	(106)	"	覆土	"
	H6-3	抉入打製石庖丁B	4.4	7.6	1.2	44	"	"	
71住	H6-5	打製石斧	12.6	5.1	2.2	140	"	上層	
	H6-6	"	(11.3)	(5.0)	(2.6)	(200)	"	覆土	
	H6-7	"	(9.0)	5.4	(2.0)	(125)	"	床面	
	H6-8	"	(6.1)	(4.2)	(1.3)	(38)	"	覆土	
	H6-9	抉入打製石庖丁B	4.2	6.9	1.0	40	"	床面	
	H6-10	石鍬	4.0	7.3	1.8	80	"	下層	
72住	H6-4	打製石斧	13.7	5.6	1.6	120	"	"	
	-	有肩屈状形石器	(7.0)	(3.5)	(0.8)	(18)	"	覆土	
73住	H6-11	打製石斧	(9.3)	(6.7)	(2.3)	(190)	"	下層	
	H6-12	有肩屈状形石器D	7.8	10.2	1.4	112	"	床面	
	H6-13	" D	(8.7)	(8.1)	2.0	(170)	"	覆土	
	H6-14	抉入打製石庖丁A	4.8	7.2	1.5	65	"	"	
	H6-9	打製石斧	(1.6)	1.2	0.3	(0.4)	黒曜石	"	
	H6-7	使用痕のある剥片	4.6	1.44	1.2	4.3	"	下層	
	-	打製石斧	(7.1)	(5.0)	(1.1)	(40)	硬砂岩	覆土	
	-	"	(3.2)	(4.3)	(1.0)	(18)	"	"	
74住	H6-1	打製石斧	(11.1)	7.6	2.3	(248)	硬砂岩	床面	
	H6-2	"	(8.9)	(4.3)	(1.2)	(70)	輝綠岩	上層	
	H6-3	有肩屈状形石器D	7.5	(6.0)	1.8	(124)	硬砂岩	床面	
76住	H6-4	" B	10.5	12.7	1.8	264	硬砂岩	上層	

遺構	回版No	器種	法 量				石 質	出土位置	備 考
			長さ(寸)	幅(寸)	厚さ(寸)	重さ(s)			
76住	堤-5	石錐	8.0	4.6	2.0	110	硬砂岩	上層	
78住	堤-6	有肩圓形状石器B	(8.0)	(8.7)	(2.6)	(260)	"	"	
81住	堤-7	打製石斧	9.3	3.4	1.4	50	"	入口部	
	堤-8	有肩圓形状石器B	12.0	13.8	1.7	344	"	下層	刀部にロ一状光沢物
	堤-9	抉入打製石庖丁A	4.9	7.8	1.2	53	"	"	
	堤-10	石錐	8.1	4.2	1.8	88	"	"	
	-	剝片	8.5	3.9	0.9	35	"	覆土	
82住	堤-11	有肩圓形状石器C	(8.2)	(5.8)	2.1	(124)	"	床面	
	堤-12	凹石	7.5	8.1	6.4	580	花崗岩	"	
	堤-13	打製石錐	(2.3)	(1.3)	0.3	(0.5)	黑曜石	下層	
83住	堤-1	打製石斧	12.5	7.6	1.6	205	硬砂岩	床面	
	堤-2	"	(10.9)	7.3	(1.9)	(170)	"	"	
	堤-3	"	8.4	4.2	1.2	65	颗粒感角岩	上層	
	堤-4	磨製石斧	(8.8)	1.7	1.1	(33)	綠色片岩	下層	
	堤-5	抉入打製石庖丁A	4.7	5.6	1.3	55	硬砂岩	床面	
	堤-6	横刃型石器	5.0	8.0	1.3	50	綠色片岩	下層	
	堤-7	"	6.1	7.2	0.8	47	硬砂岩	床面	
	堤-8	打製石錐	(1.9)	(1.3)	(0.2)	(0.4)	チャート	上層	
84住	堤-9	ビエス・エスキュー	2.3	1.1	0.6	1.4	黑曜石	下層	
	堤-10	打製石斧	10.3	3.5	1.2	(62)	綠色片岩	上層	
	堤-11	横刃型石器	6.5	10.4	1.3	94	硬砂岩	入口部	
	堤-12	大型横刃石匙	6.6	5.6	1.0	26	"	上層	
	-	古石	-	-	-	-	床面	遺構図から判断	
85住	堤-13	打製石斧	(7.5)	(5.8)	(1.5)	(57)	硬砂岩	覆土	
	堤-14	磨製石斧	(5.0)	(2.2)	(1.0)	(15)	珪石?	"	刀部片
	堤-15	有肩圓形状石器B	8.7	(6.5)	2.3	(117)	硬砂岩	上層	刀部にロ一状光沢物
	堤-16	抉入打製石庖丁B	3.8	6.5	6.8	22	"	"	
	堤-17	横刃型石器	5.2	10.4	1.6	100	"	"	
	堤-18	"	7.5	10.2	3.7	320	"	"	
	堤-19	石錐	4.5	5.6	1.5	50	"	"	
	堤-20	"	4.8	5.4	1.7	70	"	"	
	堤-21	古石	32.8	27.4	12.8	花崗岩	床面		
	堤-22	"	20.6	26.9	9.2	"	"		
	堤-23	打製石錐	2.9	1.27	0.36	0.1	チャート	上層	
	-	打製石斧	(7.0)	(7.1)	(2.6)	(123)	硬砂岩	覆土	
	-	剝片	7.7	6.7	2.1	136	"	"	
	-	"	7.1	7.2	1.8	117	"	"	
86住	堤-3	打製石斧	15.0	7.3	2.3	235	"	上層	
	堤-4	"	(12.3)	6.9	1.7	(190)	"	床面	
	堤-5	"	(11.2)	(7.6)	(2.9)	(305)	"	上層	
	堤-6	"	(8.0)	(4.5)	(2.3)	(110)	"	"	
	堤-7	"	(7.5)	5.9	(1.9)	(98)	"	"	
	堤-8	"	(5.0)	(4.3)	(0.9)	(22)	"	覆土	
	堤-9	"	8.7	4.3	1.6	70	"	入口部	風化進む
	堤-10	有肩圓形状石器B	(12.6)	(12.6)	3.1	(680)	"	上層	
	堤-11	抉入打製石庖丁B	4.1	5.1	0.9	22	"	"	
	堤-12	"	B	4.2	7.5	1.4	54	"	
87住	堤-13	"	A	4.2	6.3	1.4	42	床面	
	堤-14	"	C	5.0	7.5	1.2	65	"	上層
	堤-15	"	B	4.3	7.1	1.1	45	床面	
	堤-16	"	A	4.2	8.3	1.3	58	"	上層

遺構	図版No	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
86住	M-2	横刃型石斧	5.6	9.7	1.3	80	硬砂岩	上層	
	M-3	"	6.7	9.8	2.5	208	"	"	
	M-4	刮片	3.9	6.4	0.9	24	"	"	
	M-5	抉入打製石庖丁C	5.6	7.1	1.0	42	"	"	
	M-7	スカラップバー	5.4	2.6	1.4	14.7	チャート	"	
87住	-	刮片	6.3	4.0	1.0	23	硬砂岩	覆土	
	M-6	抉入打製石庖丁B	4.4	7.1	1.2	50	"	上層	
	M-7	横刃型石斧	7.0	(9.9)	1.2	(100)	"	"	
	M-8	"	6.8	10.2	2.2	195	"	"	
	M-6	打製石器	2.0	1.6	0.3	0.7	黑曜石	覆土	遺構図から判断
88住	-	台石	-	-	-	-	床面		
	M-9	打製石斧	(9.4)	(7.7)	(2.0)	(144)	硬砂岩	上層	
	M-10	"	(6.1)	(3.3)	(1.1)	(33)	輝緑輝灰岩	"	
	M-11	有肩周彫影石器D	12.6	10.2	2.4	314	硬砂岩	"	刃部にロー状光沢物
	M-12	横刃型石器	6.6	5.8	1.4	47	"	"	
90住	M-13	台石	33.2	30.3	14.7		花崗岩	覆土	
	-	有肩周彫影石器	(30.2)	(5.0)	(1.9)	(87)	硬砂岩	"	
	H-5	使用歴のある刮片	2.8	1.5	0.4	1.8	黑曜石	"	
	M-1	打製石斧	10.1	3.4	1.2	50	硬砂岩	下層	
	M-2	"	(8.0)	(5.0)	(2.2)	(110)	"	床面	
91住	M-3	有肩周彫影石器A	12.6	17.3	2.9	464	"	上層	刃部にロー状光沢物
	M-4	不明	11.3	12.1	2.4	348	"	下層	
	M-5	横刃型石器	6.2	9.4	2.2	160	"	"	
93住	M-6	打製石斧	10.3	3.5	1.5	54	輝緑輝灰岩	床面	
	M-7	"	(8.8)	4.1	0.9	(50)	安輝緑岩	覆土	
	M-8	"	(11.2)	(5.4)	(2.2)	(150)	硬砂岩	"	
	M-9	"	(10.9)	(6.6)	3.1	250	"	床面	
	M-10	有肩周彫影石器D	11.2	13.0	2.2	384	"	上層	刃部にロー状光沢物
94住	M-11	抉入打製石庖丁B	3.8	5.8	0.8	20	"	下層	
	M-12	刮片	2.7	7.5	0.9	20	"	覆土	
	M-13	磨製石斧	(10.4)	5.1	4.1	335	燧岩基性岩	"	孔株状磨製石斧
	M-1	石錐	7.5	3.9	1.7	66	硬砂岩	"	
	M-2	"	7.2	4.0	1.6	73	"	床面	
95住	M-3	"	3.3	5.3	1.4	35	墨灰岩	覆土	
	M-4	打製石斧	11.0	5.2	2.6	165	硬砂岩	上層	
	M-5	"	(11.4)	4.9	1.6	(104)	安輝緑岩	覆土	
	M-6	"	13.7	4.8	2.2	160	硬砂岩	"	
	M-7	"	(8.1)	(6.0)	(2.5)	(128)	"	上層	
97住	M-8	台石	25.2	24.1	9.4		花崗岩	床面	
	M-9	抉入打製石庖丁B	4.4	(6.9)	1.0	(40)	"	下層	
	M-10	横刃型石器	5.2	9.5	1.3	65	"	"	
	-	台石	-	-	-	-			遺構図から判断
	-	"	-	-	-	-		"	
97住	M-11	打製石斧	(9.6)	(4.6)	(2.3)	(112)	硬砂岩	上層	
	M-12	"	(7.6)	(5.0)	(2.5)	(114)	"	"	
	M-13	"	15.8	5.1	2.1	195	"	床面	
	M-14	抉入打製石庖丁A	4.8	6.2	1.2	38	"	上層	
	M-15	" A	3.9	8.0	0.8	30	"	下層	
98住	M-1	横刃型石器	7.1	11.6	1.9	194	"	"	
	M-2	燧石	32.6	15.4	12.3		花崗岩	覆土	
	M-3	台石	39.5	25.8	12.0		"	"	使用痕余り認められず

遺構	因版No	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
98住	III-4	有肩扁状形石器A	12.2	19.3	2.9	594	硬砂岩	床面	万部にロー状光沢物
	III-5	抉入打製石庖丁A	4.5	7.1	1.0	40	*	*	
99住	III-6	打製石斧	(6.4)	(4.2)	(1.7)	(56)	*	覆土	
	III-7	有肩扁状形石器B	7.2	9.2	1.4	40	*	*	
	III-8	*	C	11.3	13.6	1.9	310	*	上層
	III-9	縦器	(8.5)	12.0	2.9	(450)	*	覆土	万部にロー状光沢物
	III-10	石鍬	5.1	4.6	1.2	35	板状岩	上層	
	-	古石	-	-	-	-	不明	床面	裏側面から判断
F21	II-9	抉入打製石庖丁B	3.5	8.5	1.3	58	硬砂岩		
	II-10	横刃型石器	7.3	(11.3)	1.9	(170)	*		
	II-11	"	6.2	8.5	1.9	110	*		
方間1	II-12	有肩扁状形石器D	9.9	12.4	2.1	(314)	*		
	II-13	*	D	7.9	9.0	2.3	186	*	
	II-14	抉入打製石庖丁A	4.1	7.5	1.3	54	*		
円窓1	II-15	抉入打製石庖丁B	4.0	(6.3)	1.0	(24)	*		
圓窓2	II-16	打製石斧	(5.5)	(3.5)	(1.0)	(32)	綠色片岩		
圓窓2	II-17	有肩扁状形石器C	12.0	12.9	3.1	560	硬砂岩		
圓窓3	II-18	抉入打製石庖丁A	3.7	6.0	0.8	22	*		
圓窓3	II-19	打製石斧	(8.5)	4.4	1.1	(70)	綠色片岩		

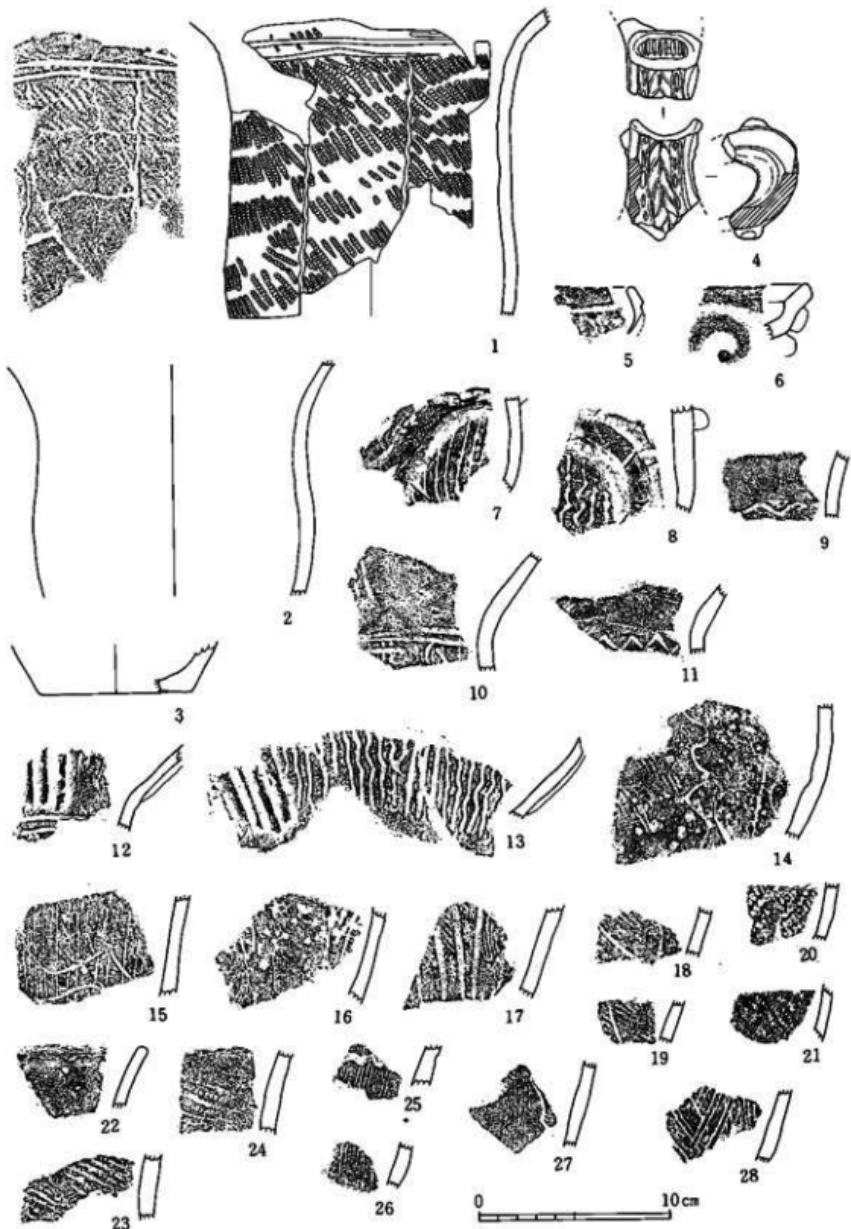
第22表 古墳時代以降の遺構出土石器観察表

遺構	因版No	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
59住	II-3	磨製石鋸	5.2	3.1	0.6	8.4	板状片岩	覆土	未成品
	II-4	打製石斧	(8.2)	(3.1)	(1.9)	(53)	摩縞板状岩	*	
70住	II-5	抉入打製石庖丁B	3.6	7.9	1.3	40	硬砂岩	床面	
	II-6	*	B	4.0	7.9	1.2	32	*	上層
	II-7	*	A	5.2	7.2	1.4	54	*	覆土
	II-8	横刃型石器	6.6	(5.5)	1.2	(50)	*	*	
	II-9	敲打器	(8.6)	5.5	3.3	(267)	*	下層	
	II-10	打製石鋸	(2.0)	(1.7)	(0.25)	(0.7)	周縞石	*	床面
88住	II-11	砾石	10.9	5.6	1.3	100	格板岩	通溝	
	II-12	打製石斧	(7.1)	(5.7)	(3.0)	(150)	硬砂岩	床面	全面に暗茶色の付着物
	II-13	*	10.4	5.9	2.0	130	摩縞板状岩	覆土	
92住	II-14	磨製石斧	(8.2)	5.6	2.7	(235)	超塗基性岩	*	
	II-15	石鍬	4.9	3.2	1.2	25	硬砂岩	*	
	-	(4.9)	4.1	1.0	(23)	*	*		
	II-16	打製石斧	20.2	7.8	3.0	554	*		
E3	II-17	"	14.4	4.4	1.3	108	綠色片岩		
	II-18	有肩扁状形石器D	(11.1)	(7.9)	2.1	(260)	硬砂岩		
	II-19	*	A	8.7	(7.2)	1.3	(103)	*	万部にロー状光沢物
	II-20	横刃型石庖丁	3.8	9.0	0.7	37	板状片岩		
	II-21	横刃型石器	5.1	10.5	1.3	78	硬砂岩		
	II-22	"	6.2	6.7	1.3	62	*		
	II-23	"	7.0	6.2	1.2	62	*		
	II-24	磨製石鋸	(4.1)	3.0	0.4	(9)	黑色片岩		未成品
壁4	II-25	抉入打製石庖丁A	4.8	5.8	0.7	29	硬砂岩		
柱穴	II-26	打製石斧	(5.3)	(4.1)	(1.2)	(30)	*		

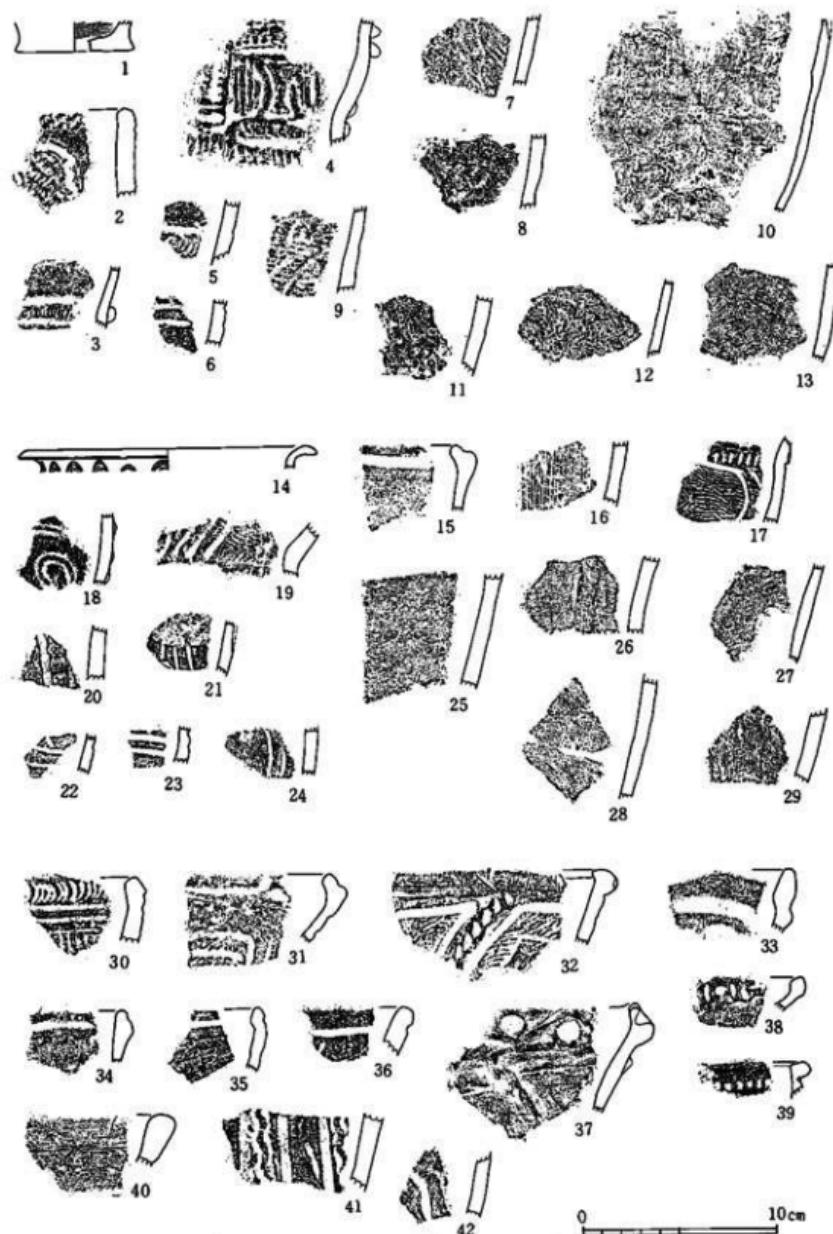
遺構	固版No.	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
柱穴	HII-13	打製石斧	10.9	3.9	1.2	69	硬砂岩		

第23表 造構外出土石器観察表

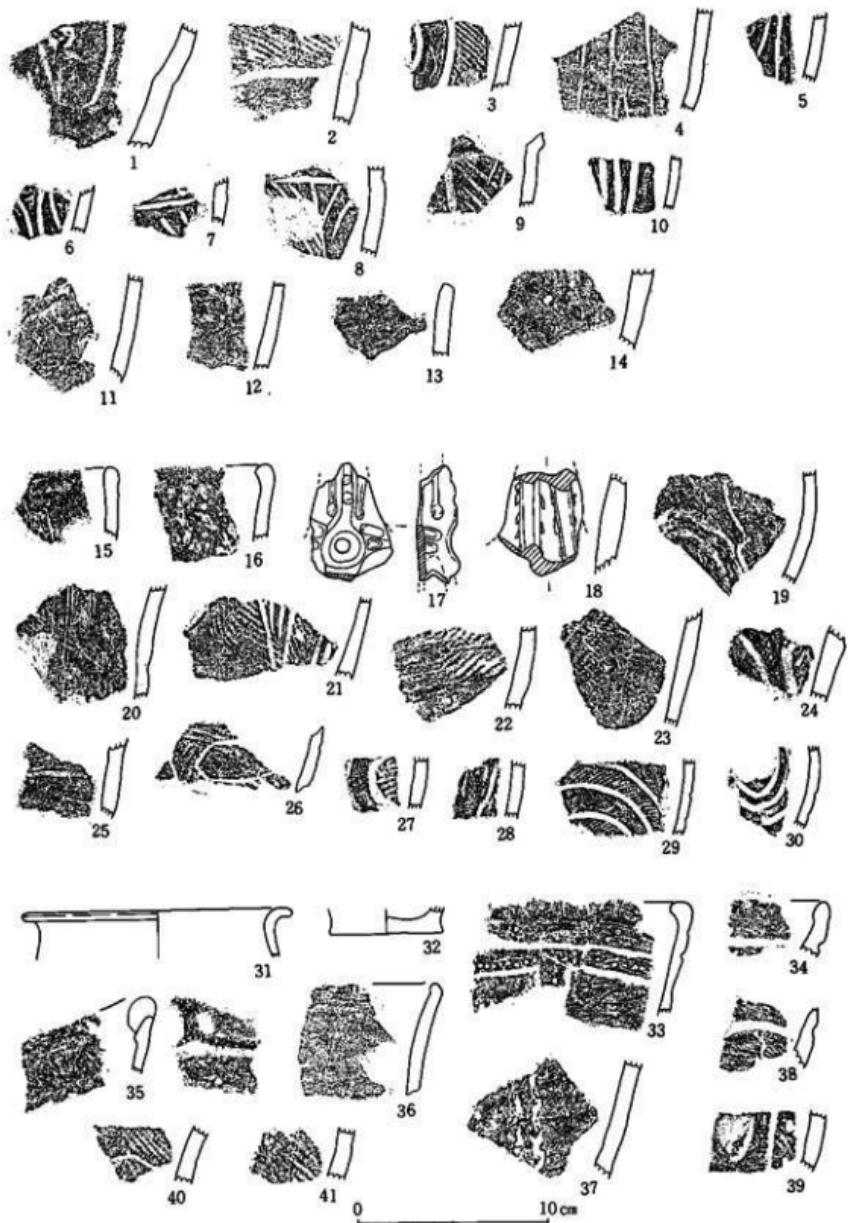
遺構	固版No.	器種	法量				石質	出土位置	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)			
I 区	HII-1	打製石斧	10.8	4.9	2.2	118	硬砂岩	41-42住の中間	
II 区	HII-2	"	16.2	6.8	2.6	350	"	F14周辺	
	HII-3	"	17.4	7.4	2.7	474	"	"	
	HII-4	"	13.9	6.9	2.6	235	"	"	
	HII-5	"	(14.9)	6.2	3.0	(220)	"		
	HII-6	"	(12.8)	(6.7)	2.8	(248)	"	F14周辺	
	HII-7	"	11.9	3.3	1.9	100	"		
III 区	HII-8	"	(9.8)	(6.0)	(2.3)	(220)	"	F14周辺	
	HII-9	"	10.0	3.8	1.4	85	緑色片岩	F3-4周辺	
	HII-10	磨製石斧	(7.0)	5.9	(2.0)	(126)	チャート	15住の東側	定角式磨製石斧
	HII-11	"	5.8	1.8	0.6	(12)	緑色片岩	F4周辺	
	HII-12	抉入磨製石庖丁	3.7	7.9	1.1	50	粘板岩	13の西側	
	HII-13	打製石斧	12.6	7.5	2.1	278	硬砂岩	99住の東側	
IV 区	HII-2	"	(12.2)	6.3	1.8	(167)	"	89住の南側	
	HII-3	"	12.3	4.0	1.7	115	粘晶片岩	F21の北側	
	HII-4	"	10.8	4.2	1.4	76	硬砂岩	89住の東側	
	HII-5	"	11.0	4.7	2.0	112	"	87住の南側	
	HII-6	"	10.0	3.7	1.3	75	緑色片岩	99住の東側	
	HII-7	"	10.4	4.1	10.3	82	硬砂岩	"	
	HII-8	"	10.4	3.4	1.3	60	斑状岩	"	
	HII-9	"	(8.5)	(4.2)	(2.1)	(106)	硬砂岩	88住の南東側	
	HII-10	"	(9.7)	4.8	2.2	(125)	"	99住の東側	
	HII-11	磨製石斧	(3.3)	(2.5)	(0.7)	(6)	緑色片岩	87住の南側	
	HII-12	抉入打製石庖丁	4.2	6.7	0.9	36	硬砂岩	"	
	HII-13	横刃型石器	6.0	10.2	1.5	110	"	87住の北側	
	HII-14	石錐	7.4	5.1	2.1	124	斑状岩	ロームランプの西側	



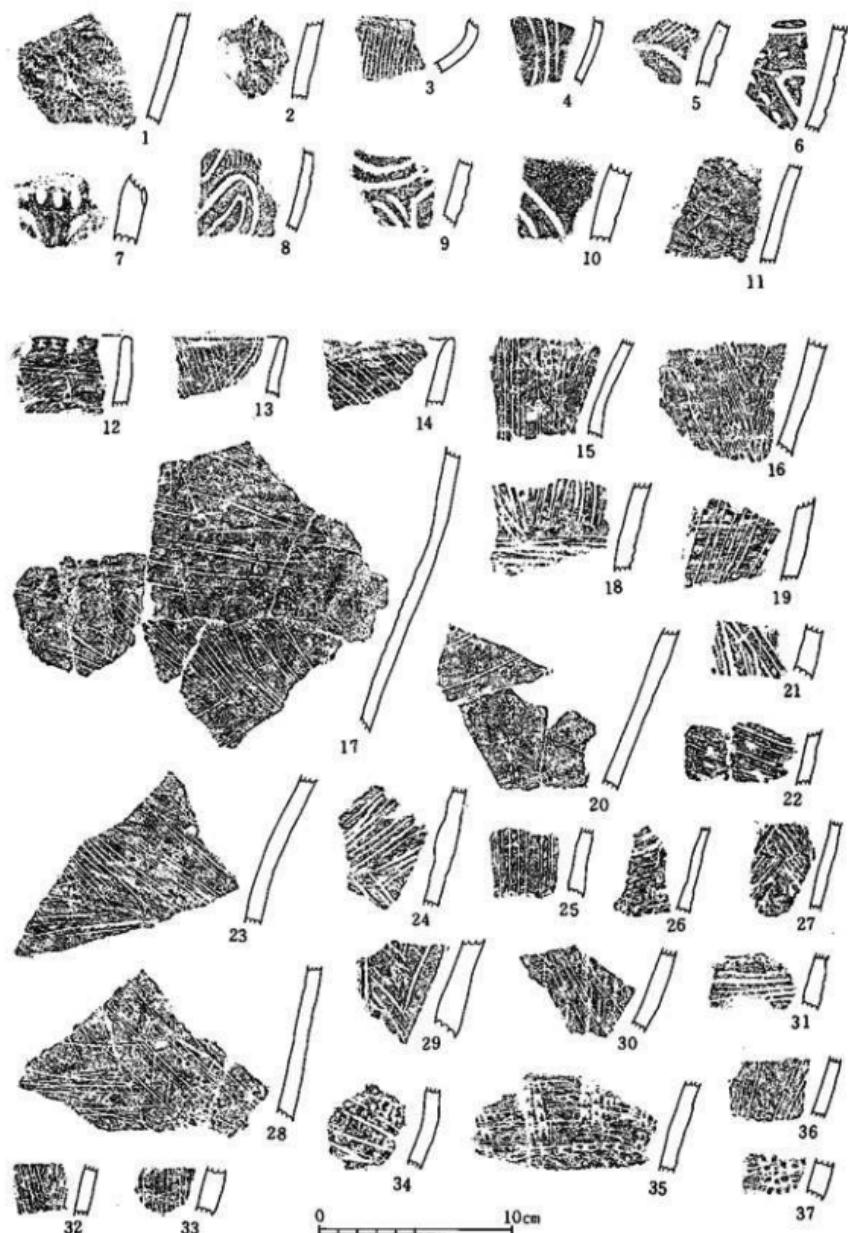
第1図 14号住居址出土土器 (1/3)



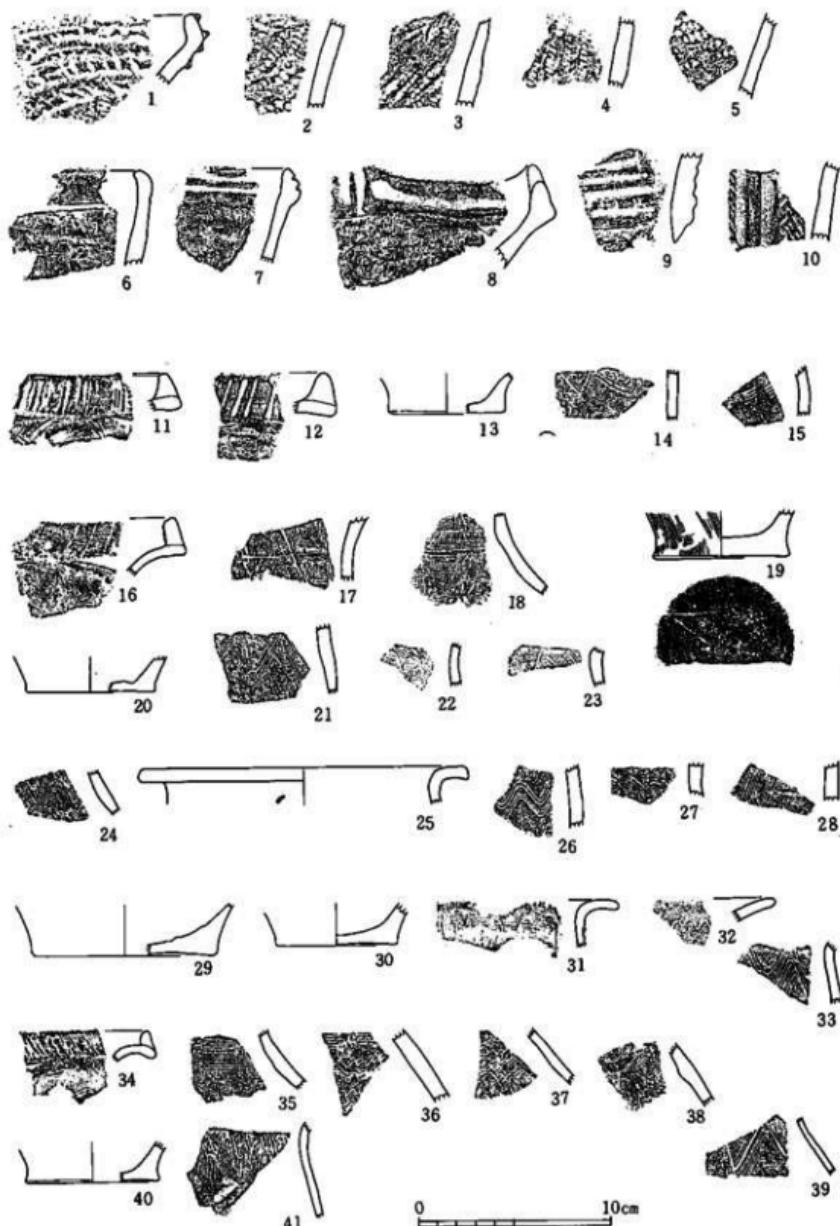
第2図 58号住居址(1~13)、67号住居址(14~29)、
68号住居址(30~34)出土土器(1/3)



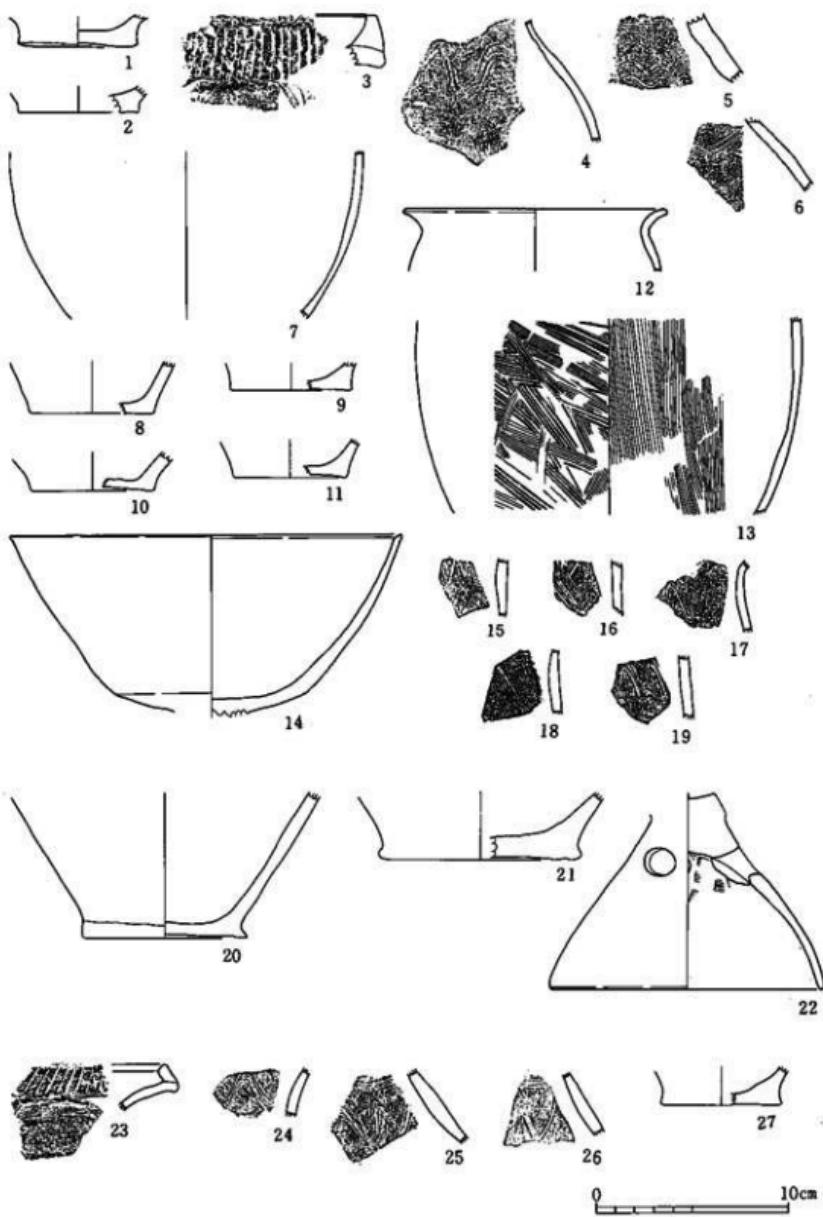
第3図 68号住居址 (1~14)、75号住居址 (15~30)、77号住居址 (31~41) 出土土器 (1/3)



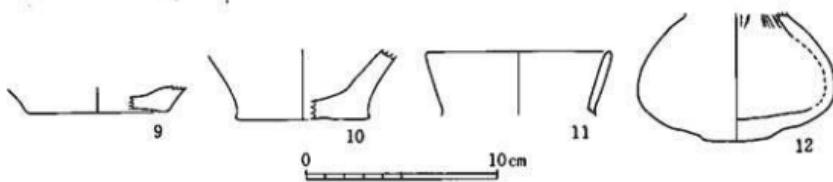
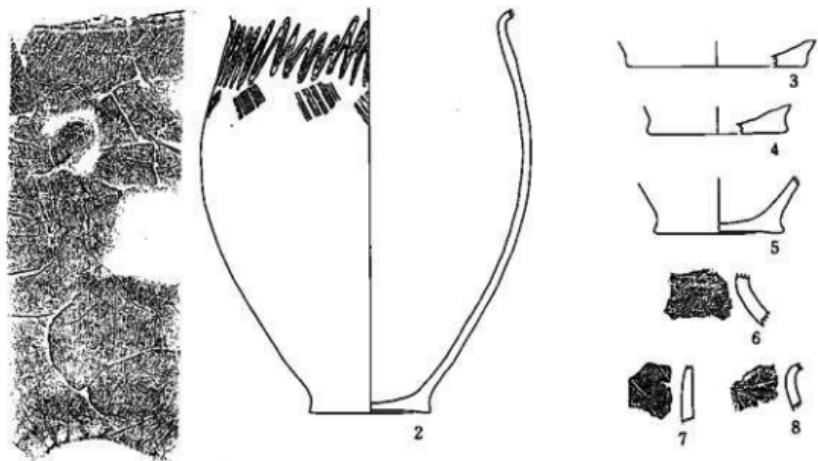
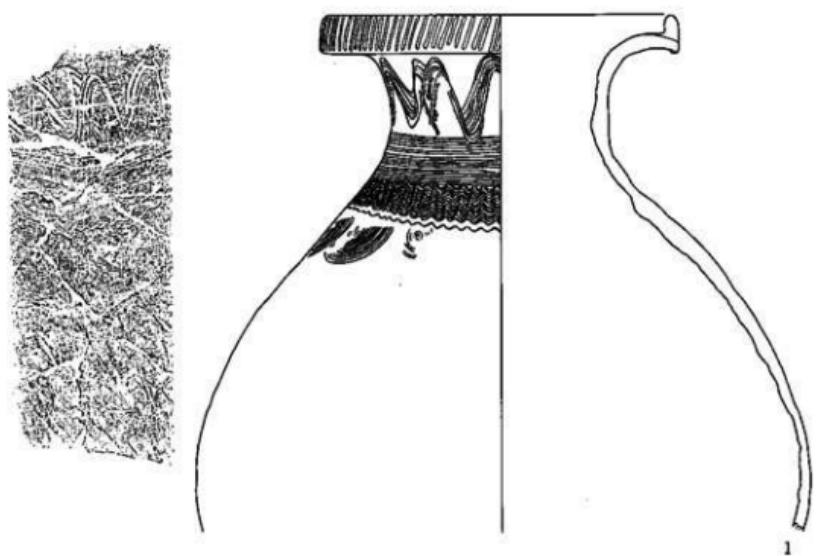
第4図 77号住居址(1~11)、99号住居址(12~37)出土土器(1/3)



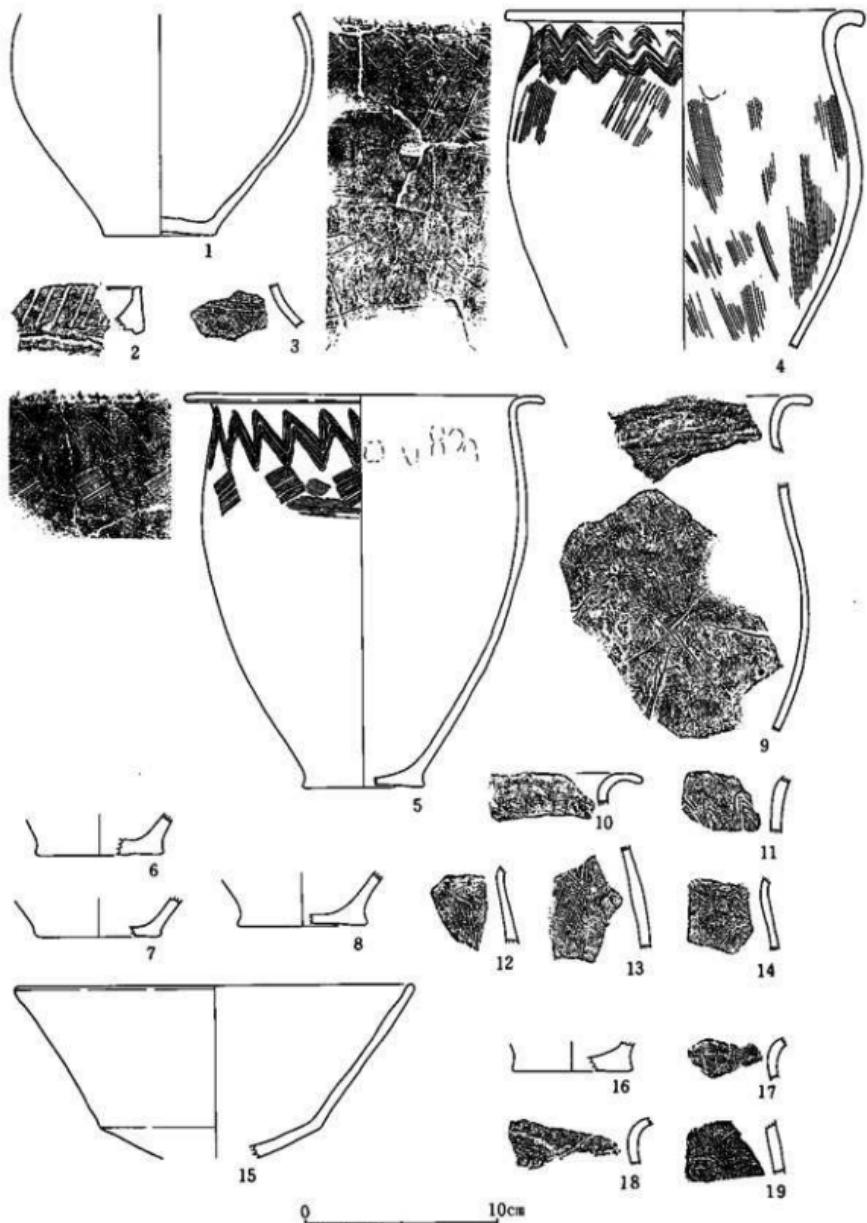
第5図 99号住居址（1～10）、1号住居址（11～15）、2号住居址（16～23）、3号住居址（24～28）、
5号住居址（29～33）、6号住居址（34～41）出土土器（1／3）



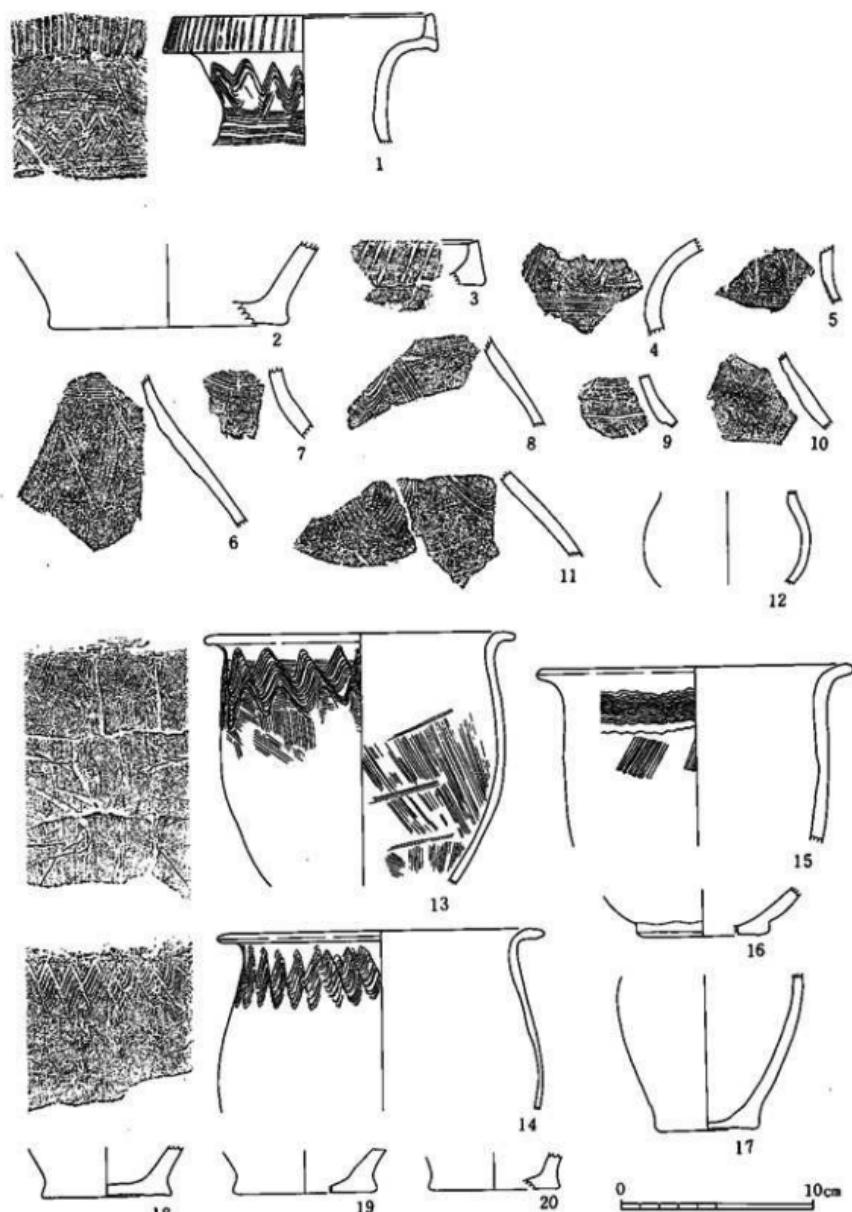
第6図 7号住居址（1～19）、8号住居址（20～22）、9号住居址（23～27）出土土器（1／3）



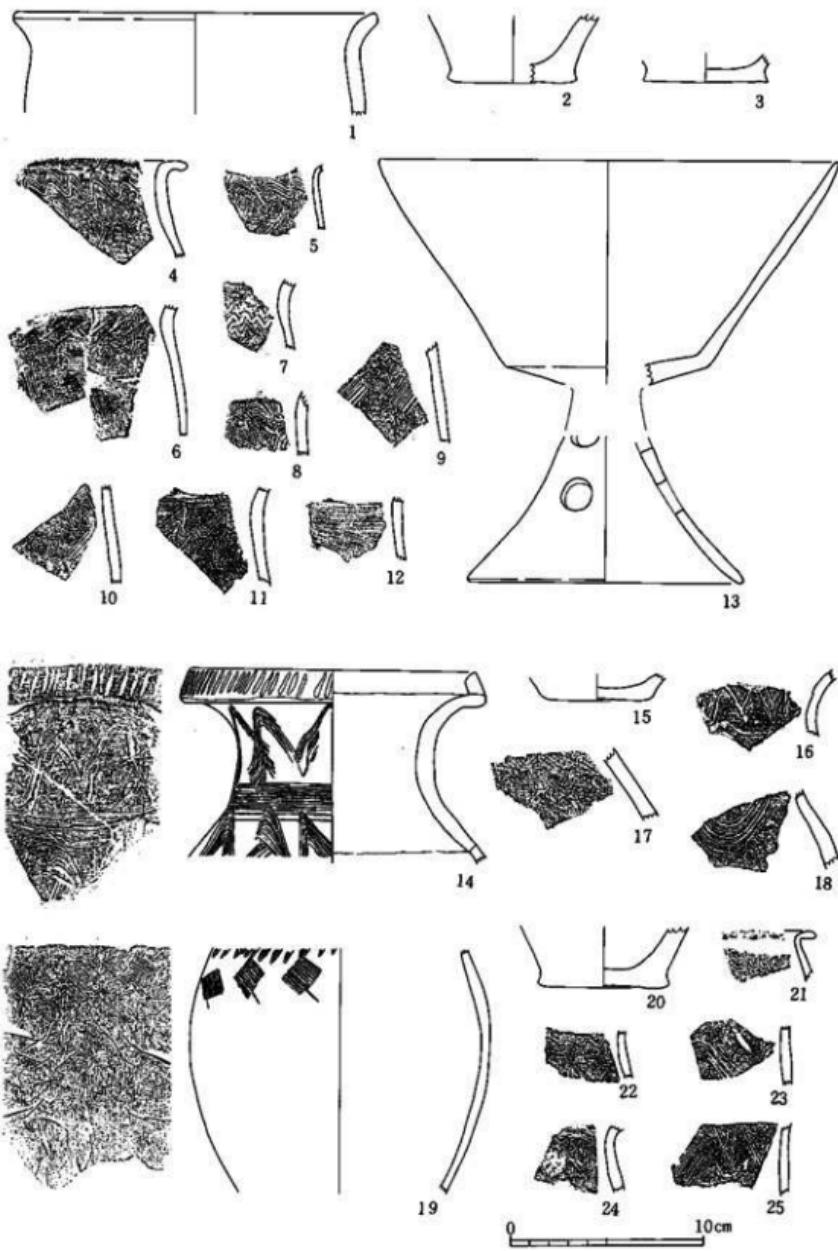
第7図 9号住居址(1・2)、10号住居址(3~8)、11号住居址(9~12)出土土器(1/3)



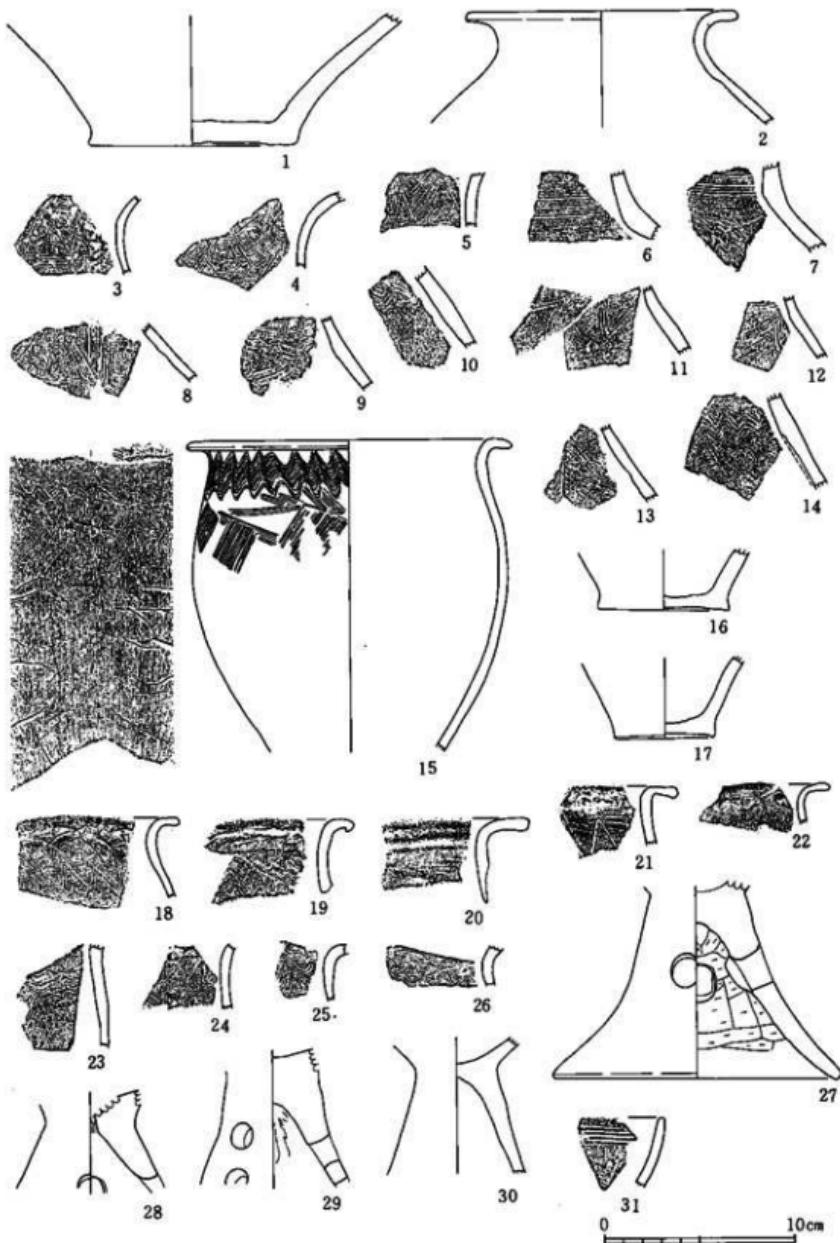
第8図 11号住居址(1~15)、12号住居址(16~19)出土土器(1/3)



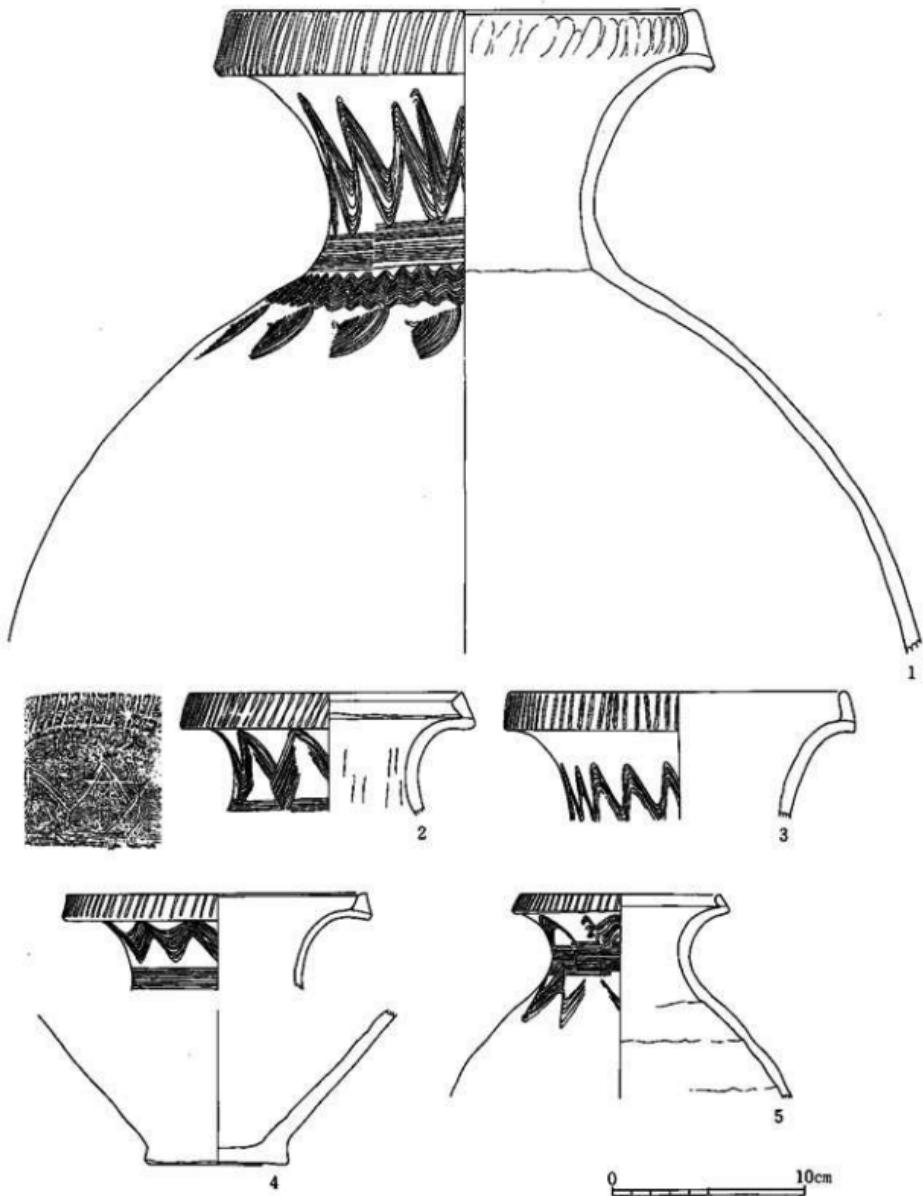
第9図 13号住居址(1)、15号住居址(2~20)出土土器(1/3)



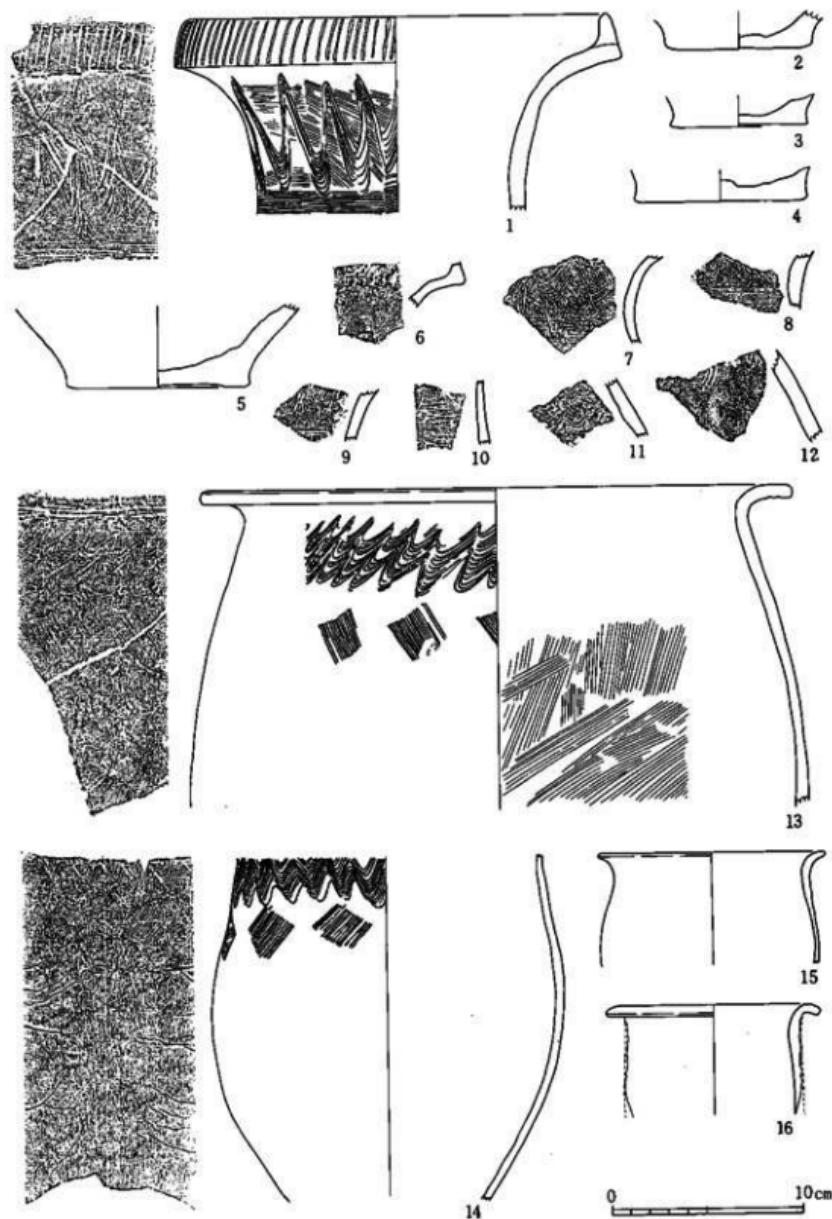
第10図 15号住居址 (1~13) J6号住居址 (14~25) 出土土器 (1/3)



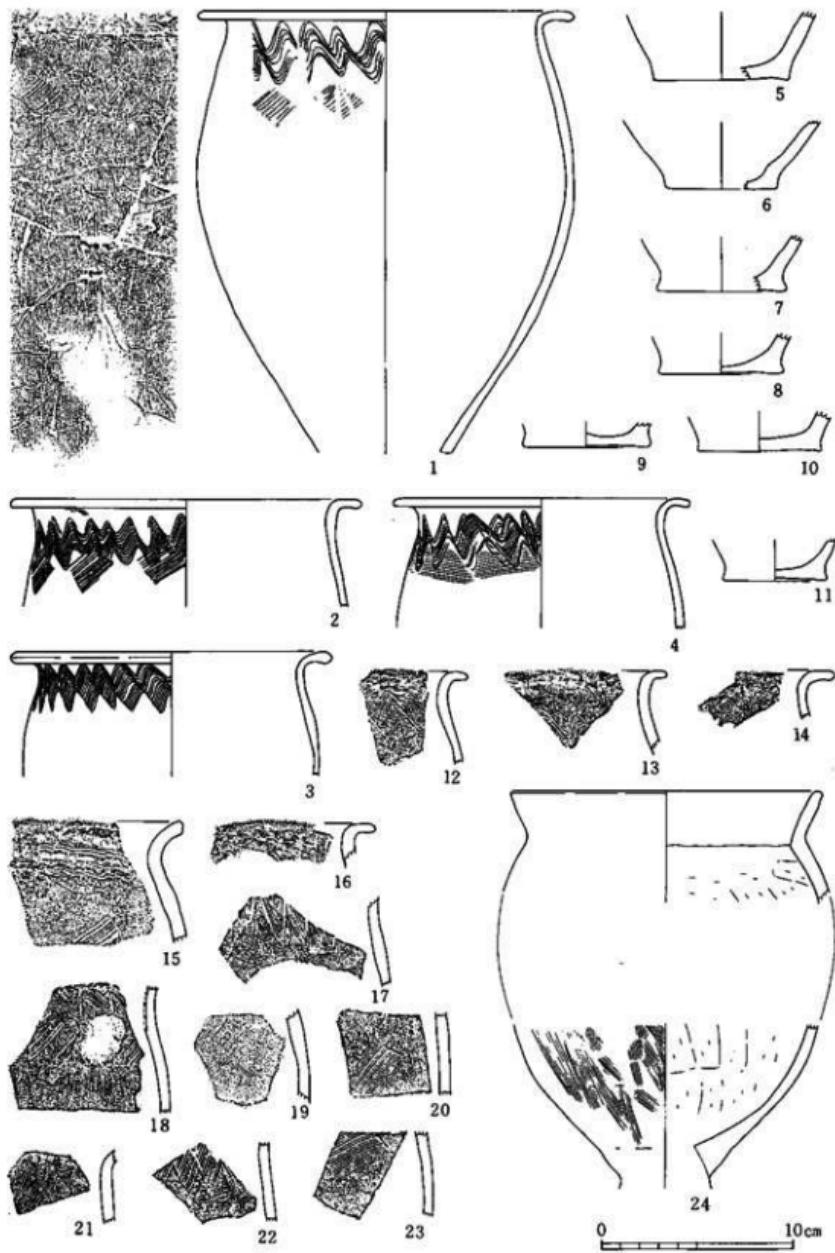
第II圖 17号住居址出土土器 (1 / 3)



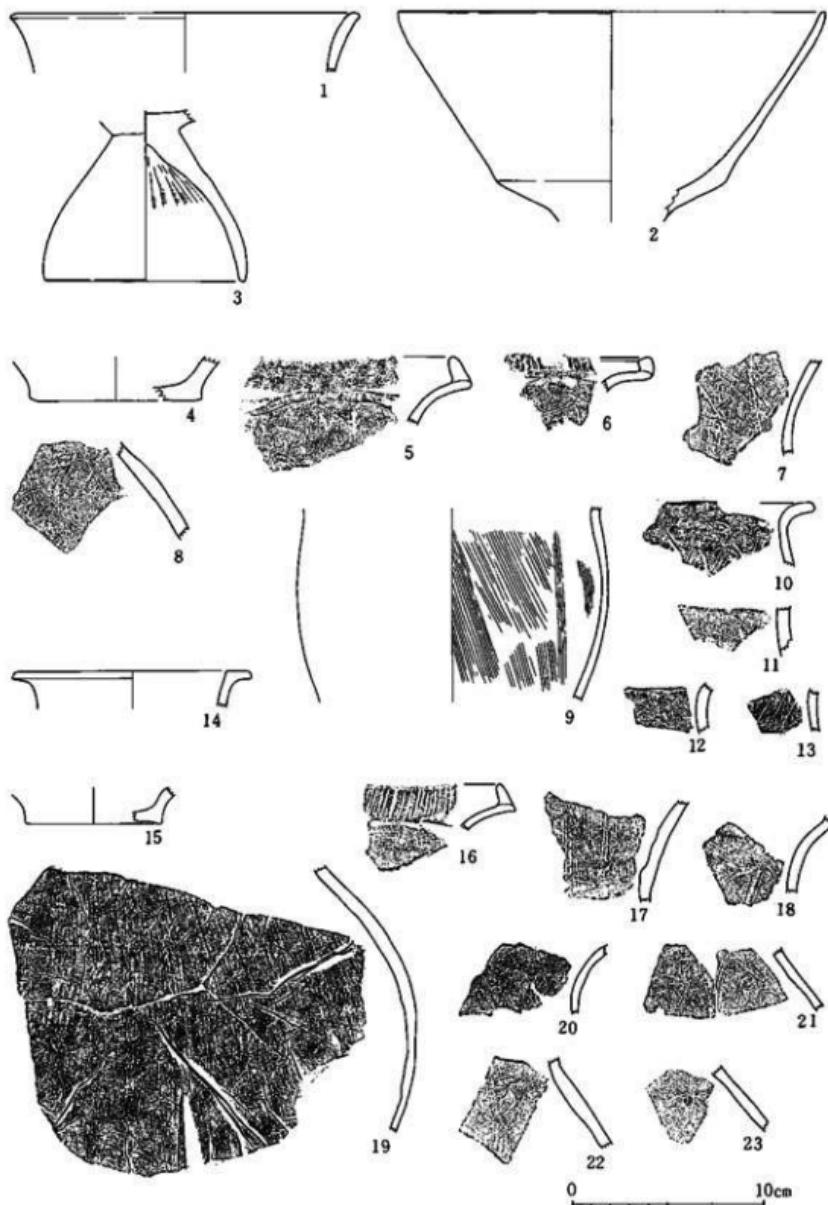
第12图 18号住居址出土土器 (1 / 3)



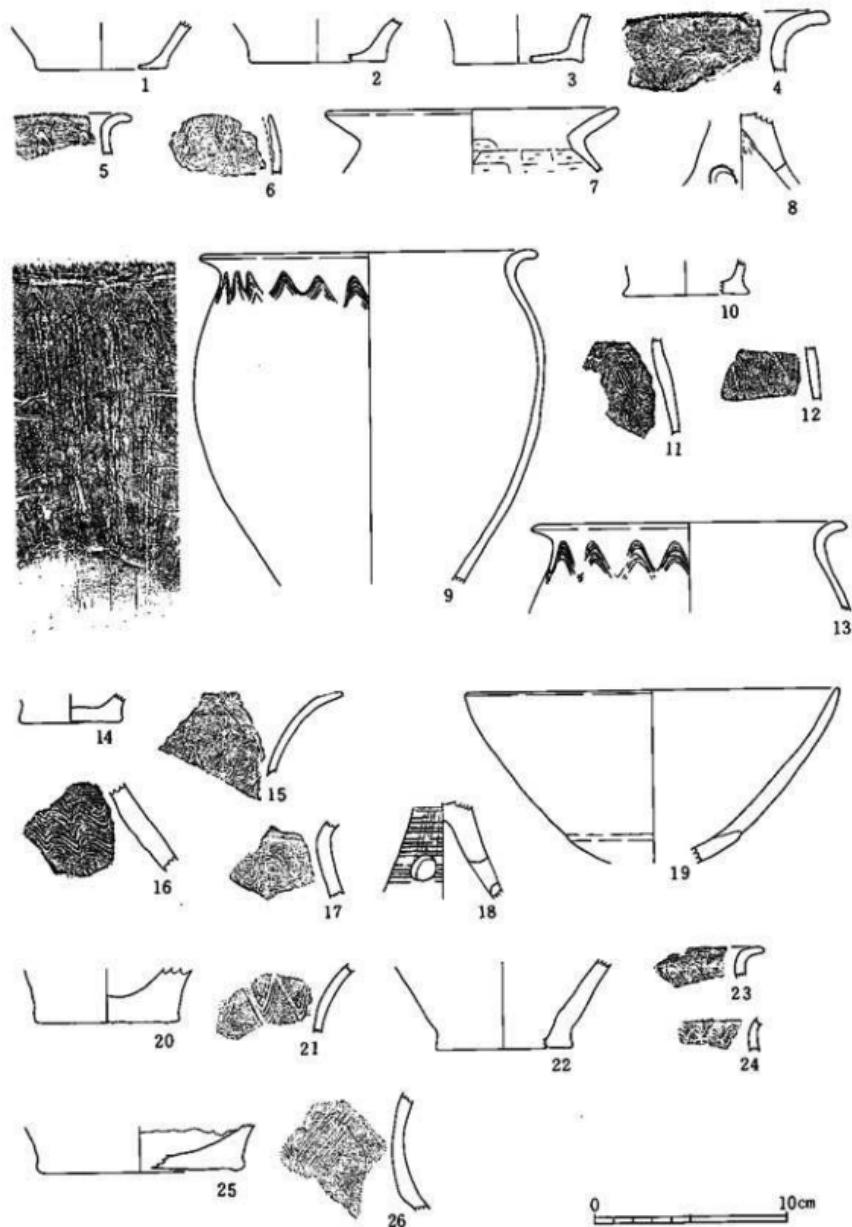
第13图 18号住居址出土土器 (1 / 3)



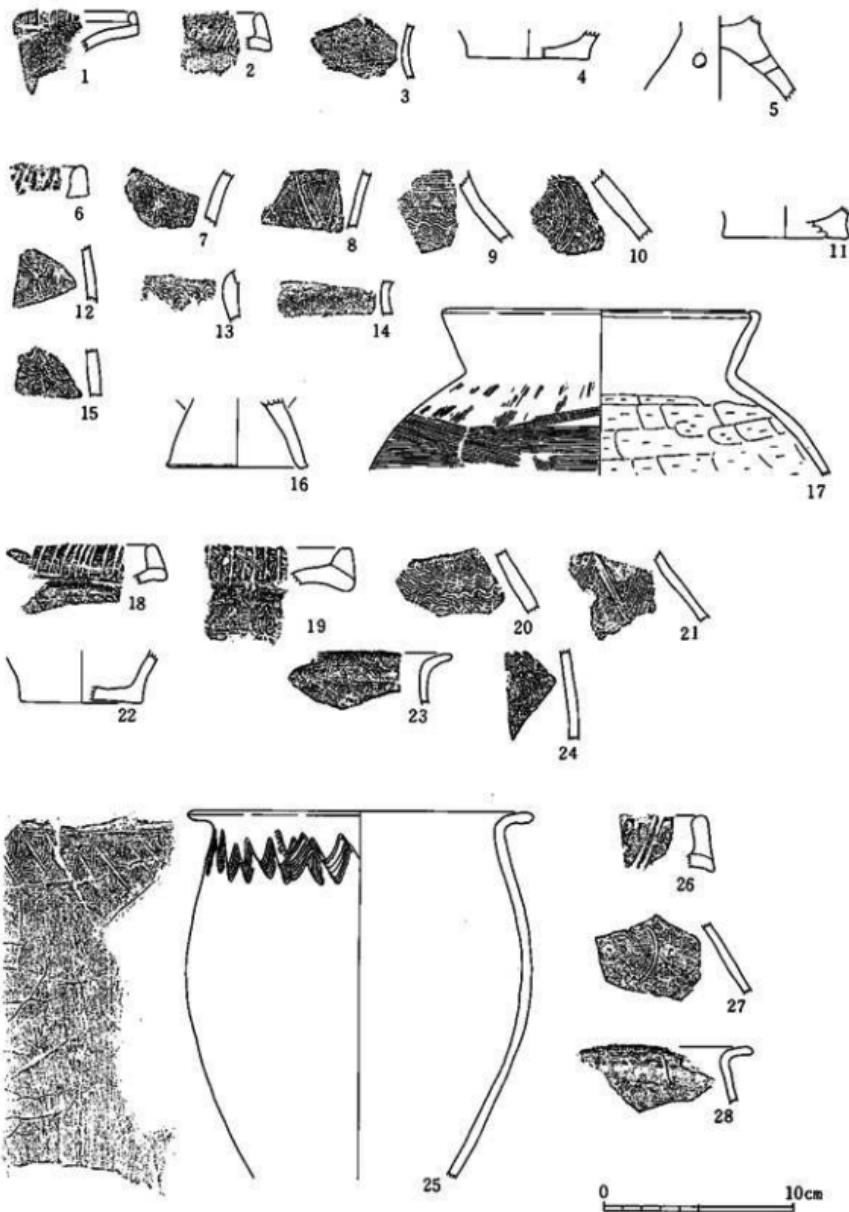
第14図 18号住居址出土土器 (1/3)



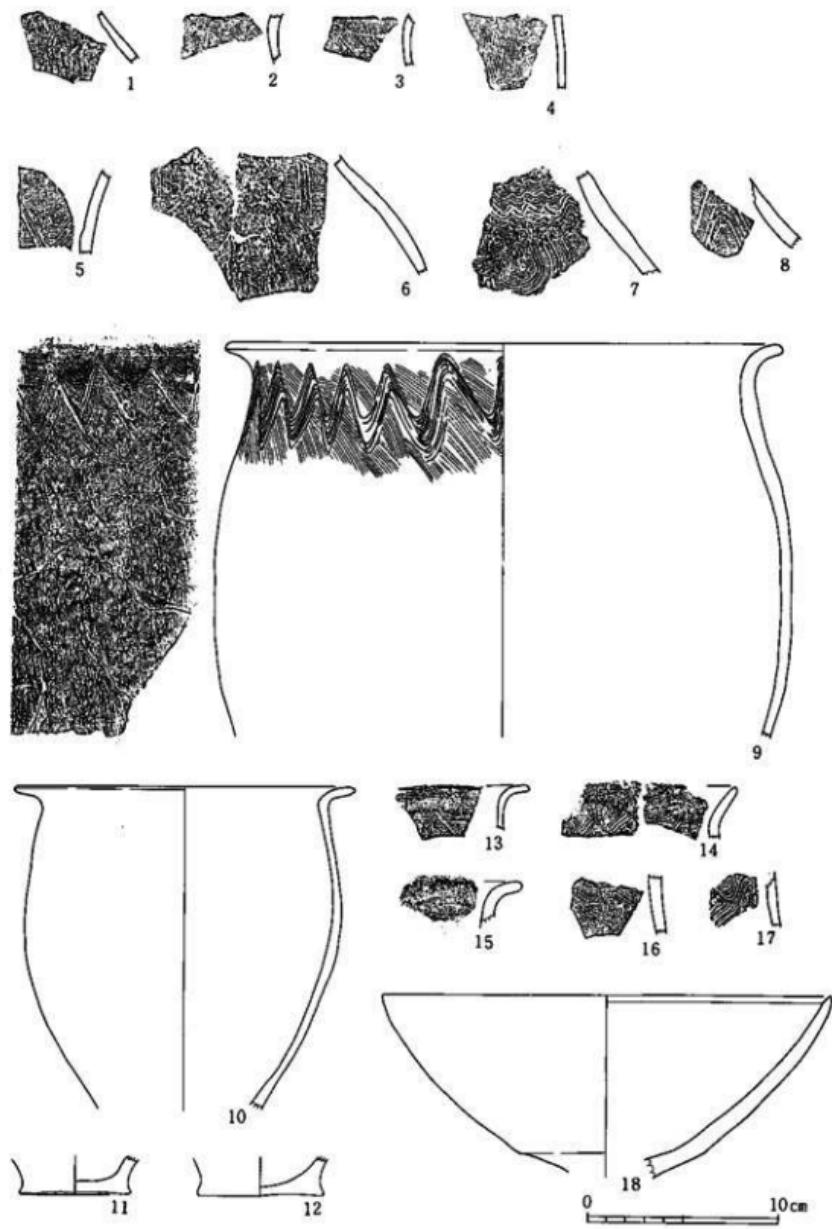
第15図 18号住居址(1~3)、19号住居址(4~14)、20号住居址(15~23)出土土器(1/3)



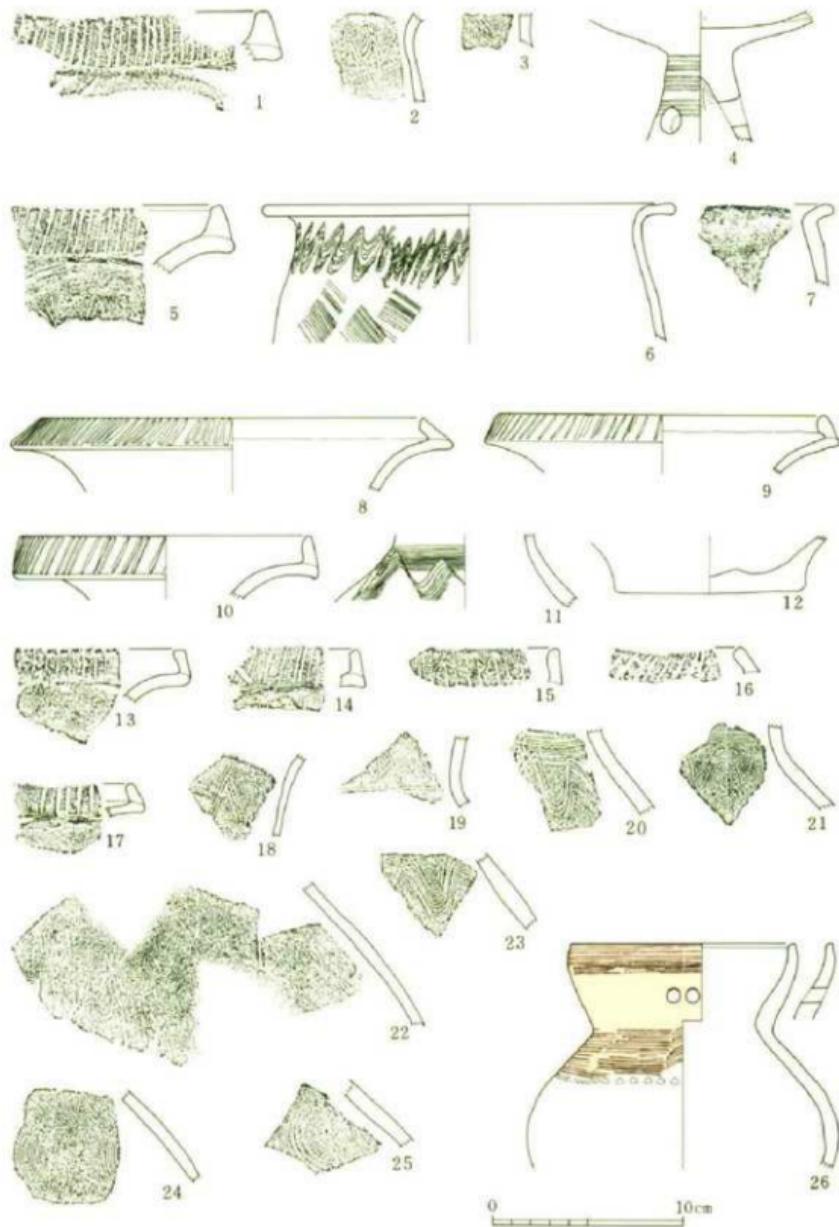
第16図 20号住居址（1～8）、21号住居址（9～13）、22号住居址（14～19）、
23号住居址（20～24）、24号住居址（25・26）出土土器（1／3）



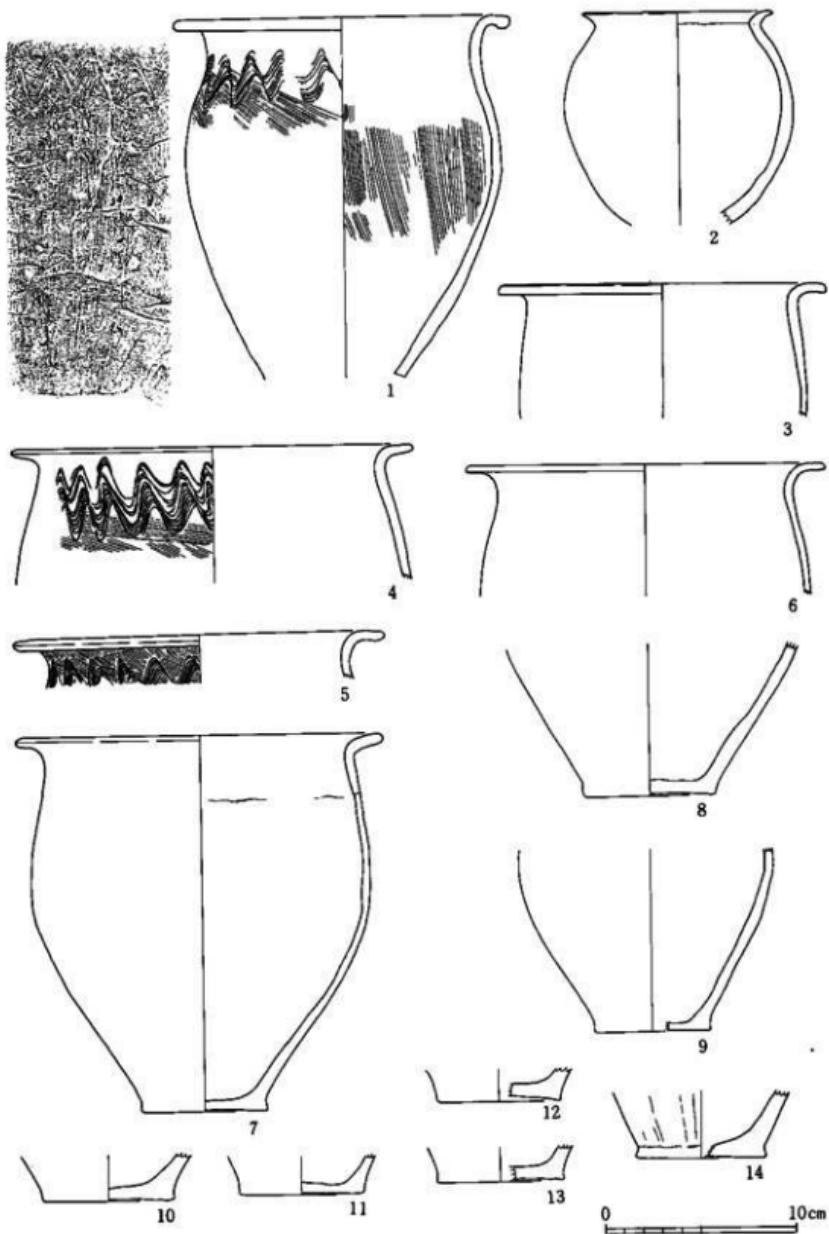
第17図 25号住居址(1~5)、26号住居址(6~17)、27号住居址(18~24)、
28号住居址(25~28)出土土器(1/3)



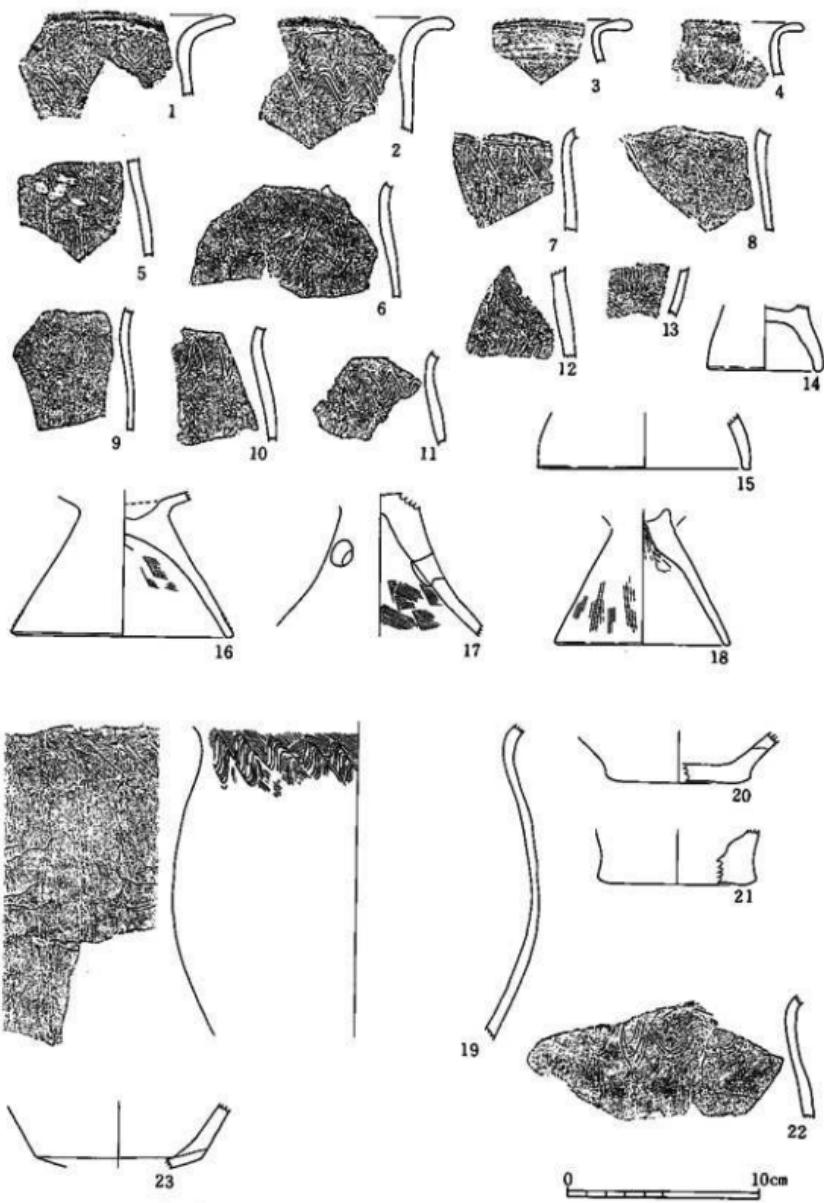
第18図 29号住居址（1～4）、30号住居址（5～18）出土土器（1／3）



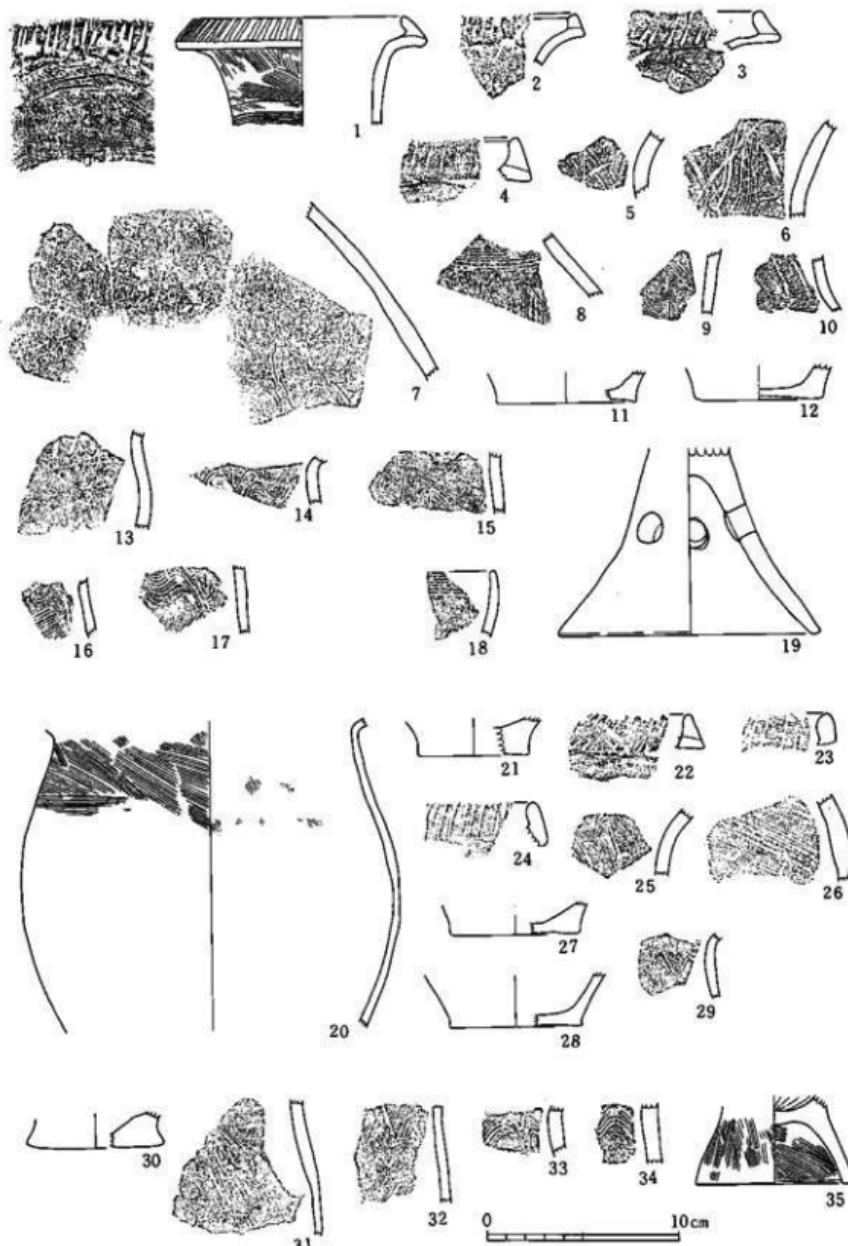
第19図 31号住居址（1～4）、32号住居址（5～7）、33号住居址（8～26）出土土器（1／3）



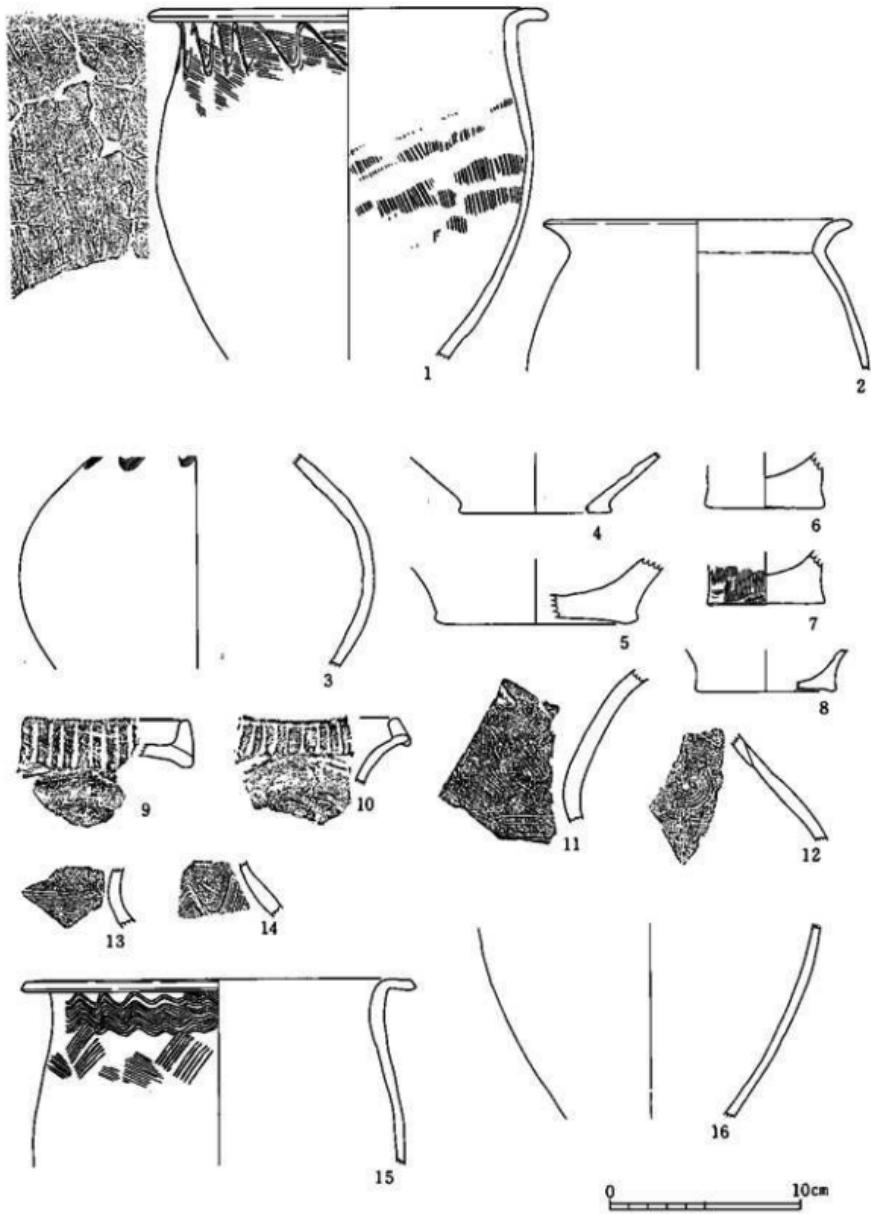
第20図 33号住居址出土土器 (1／3)



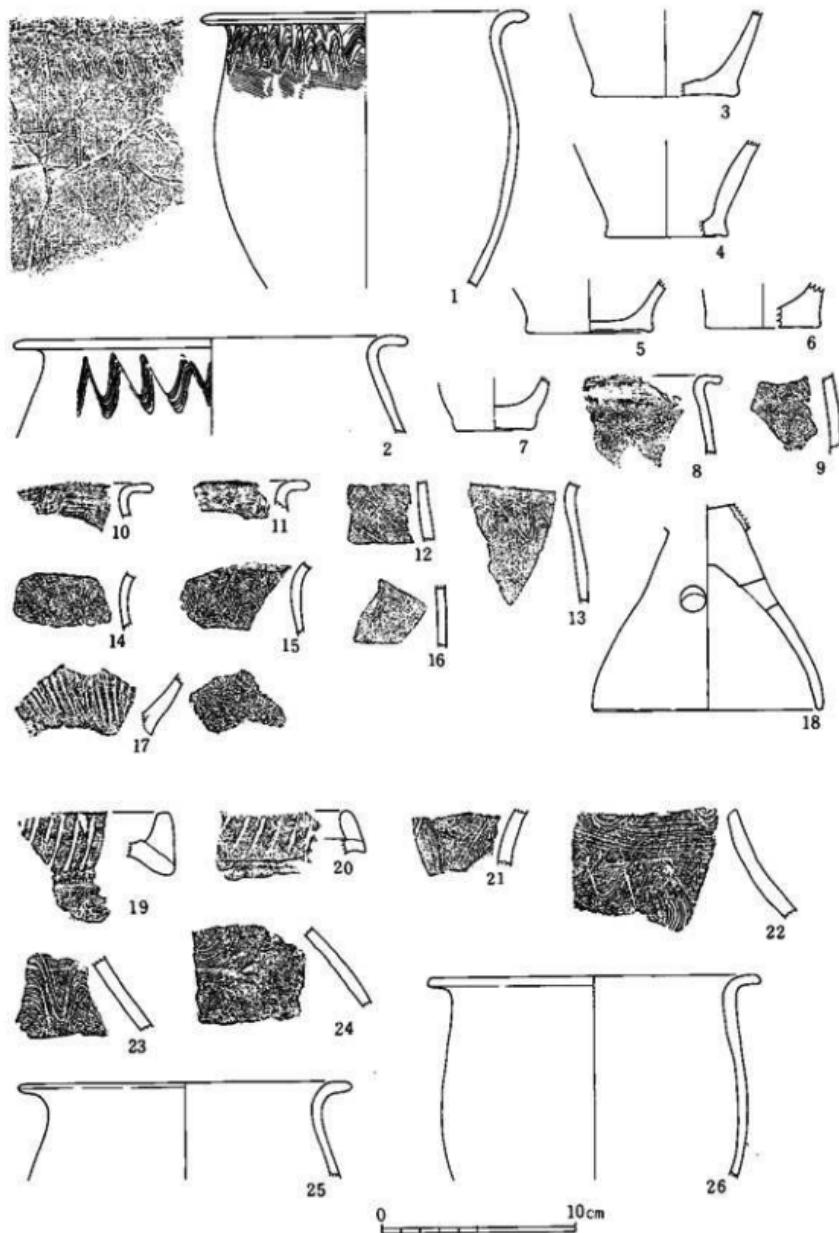
第21圖 33號住居址（1～18）、34號住居址（19～23）出土土器（1／3）



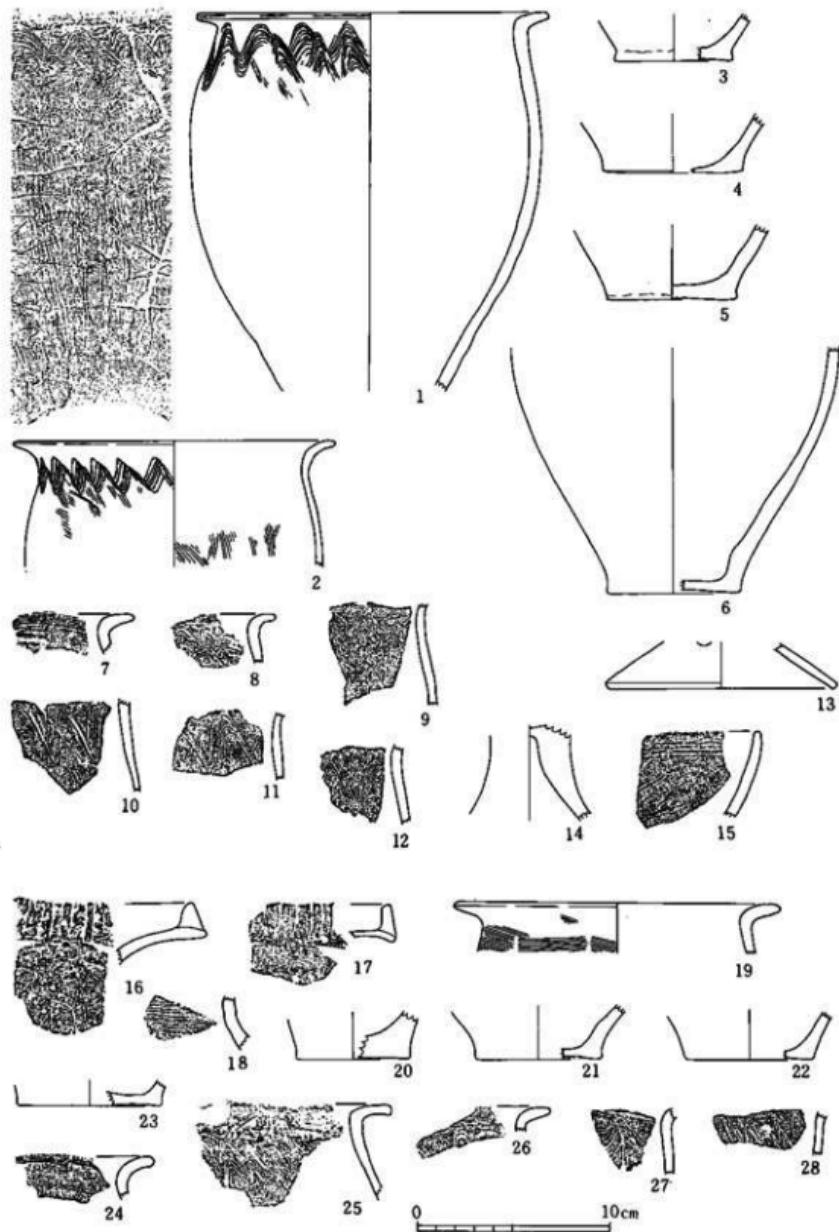
第22図 35号住居址 (1~19)、36号住居址 (20~29)、37号住居址 (30~35) 出土土器 (1/3)



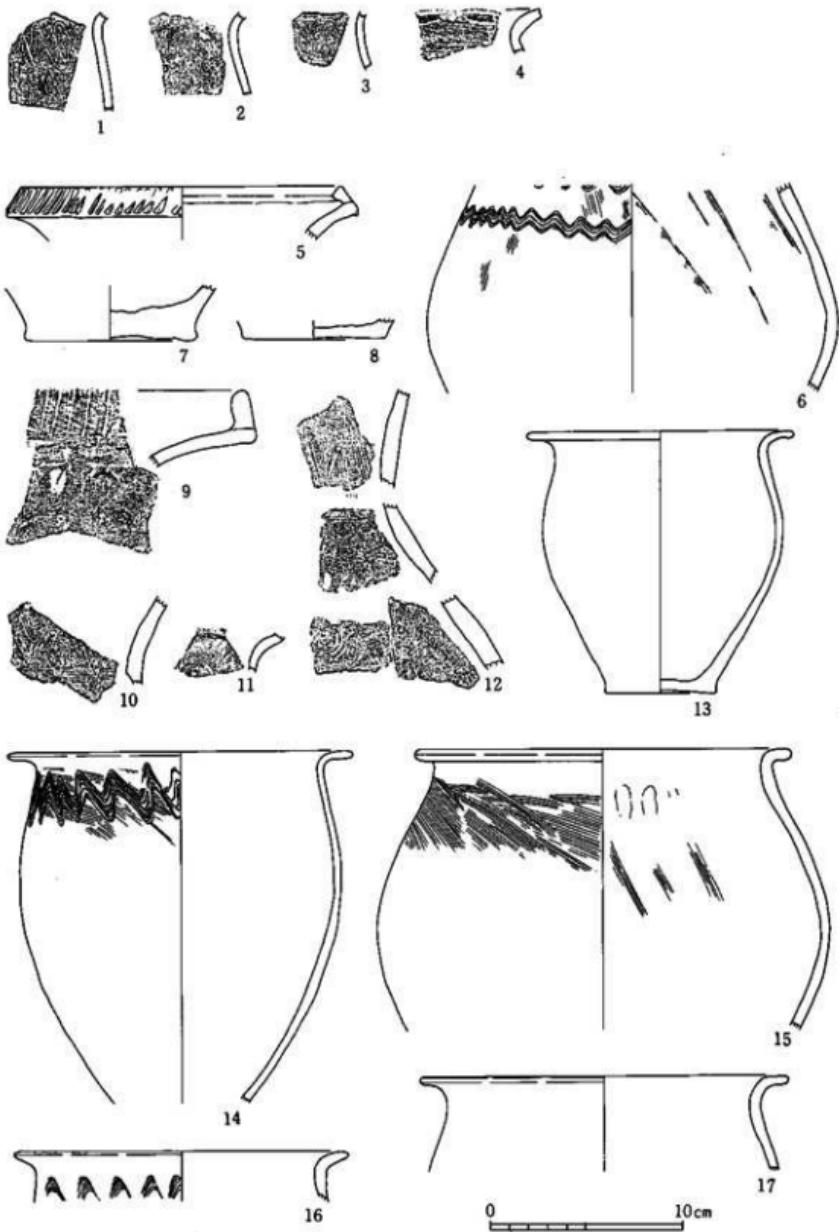
第23図 37号住居址（1・2）、38号住居址（3～16）出土土器（1／3）



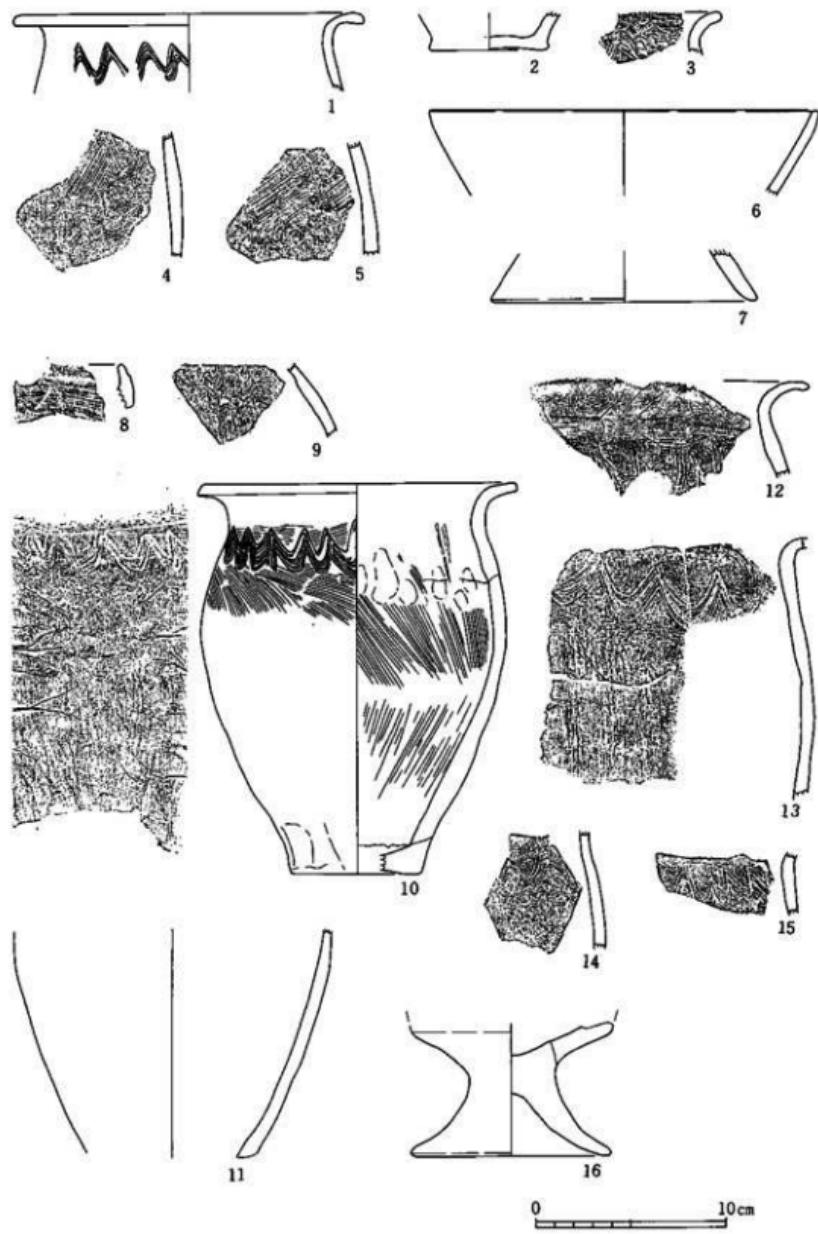
第24図 38号住居址（1～18）、39号住居址（19～26）出土土器（1／3）



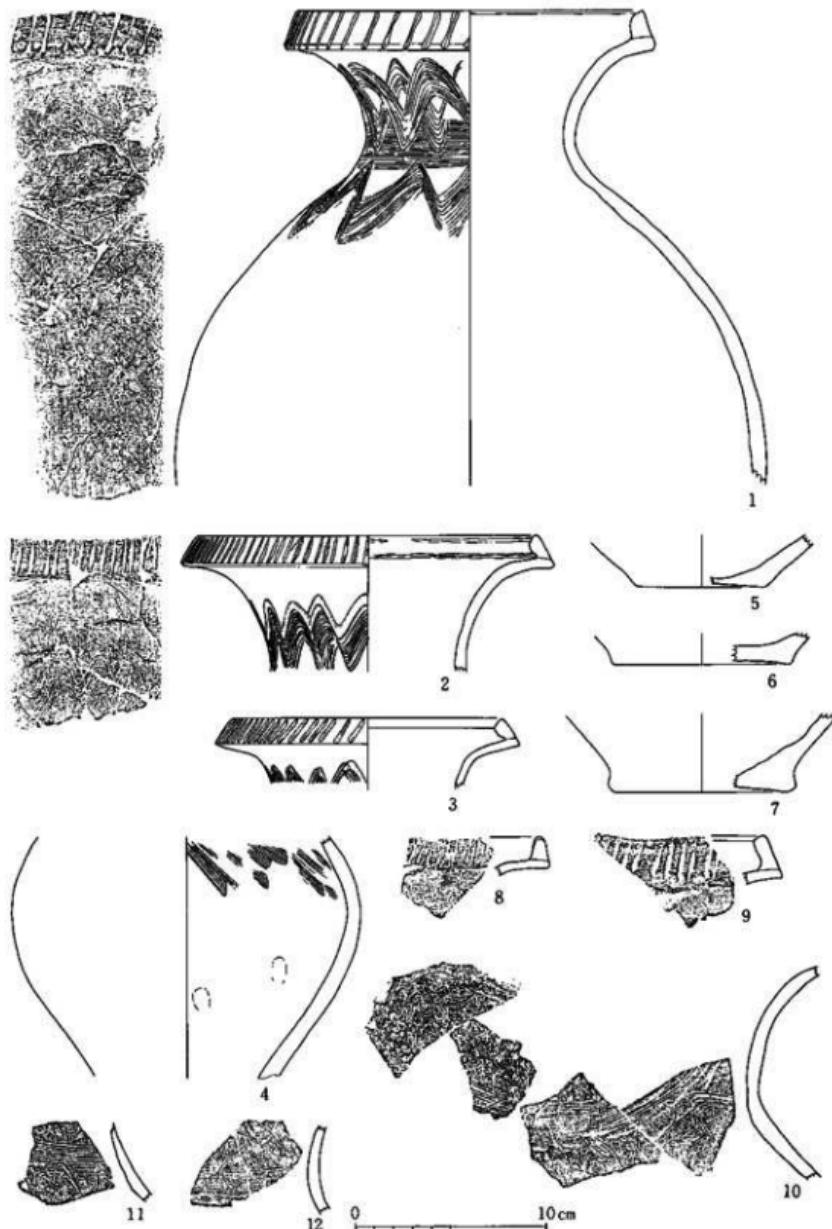
第25図 39号住居址（1～15）、40号住居址（16～28）出土土器（1／3）



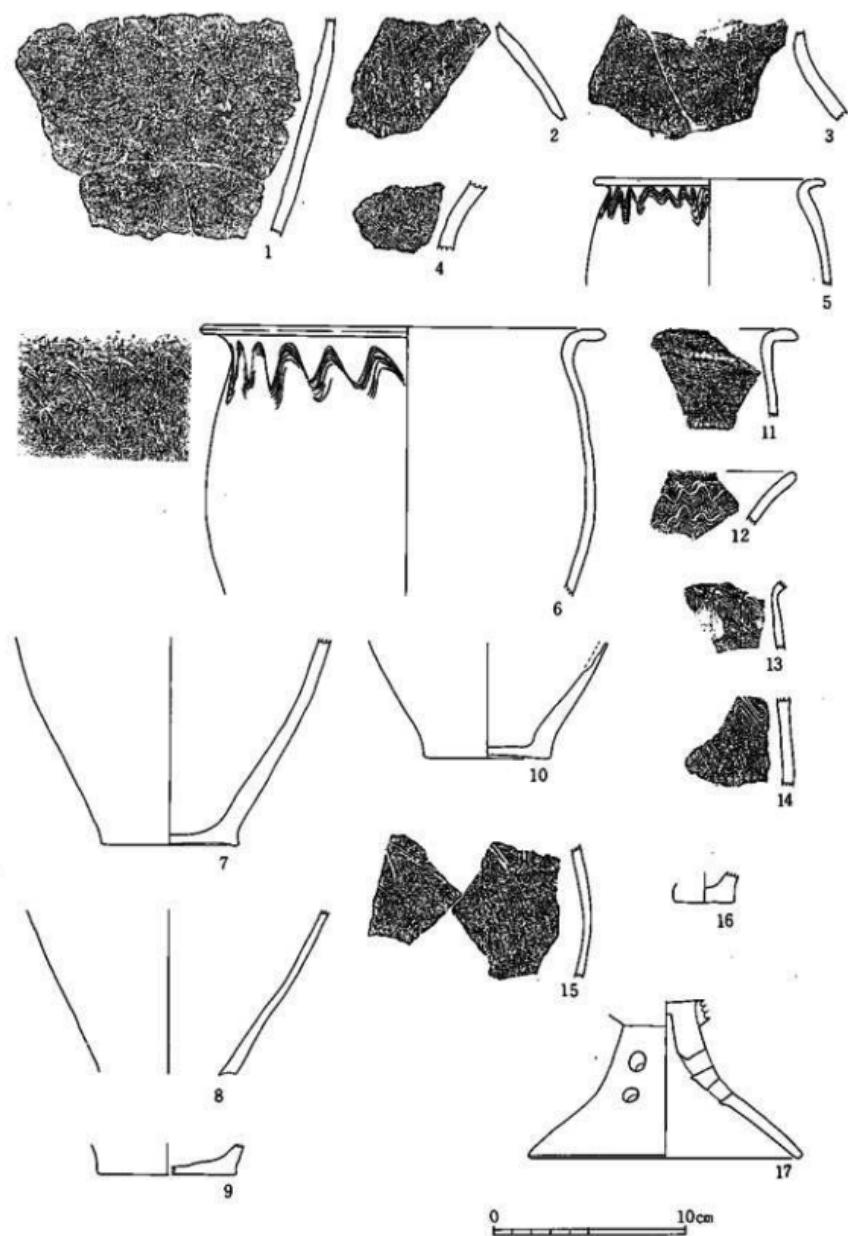
第26図 40号住居址（1～4）、41号住居址（5～17）出土土器（1／3）



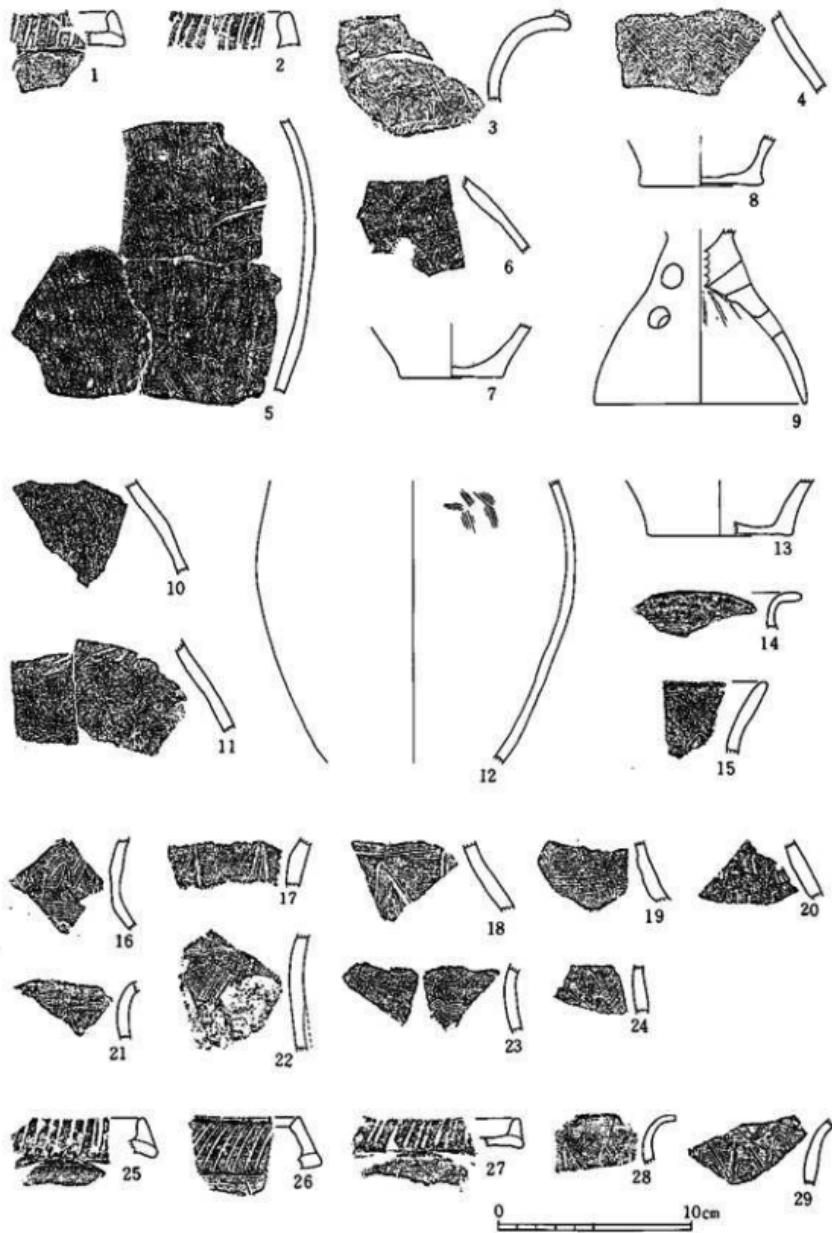
第27図 41号住居址（1～7）、42号住居址（8～16）出土土器（1／3）



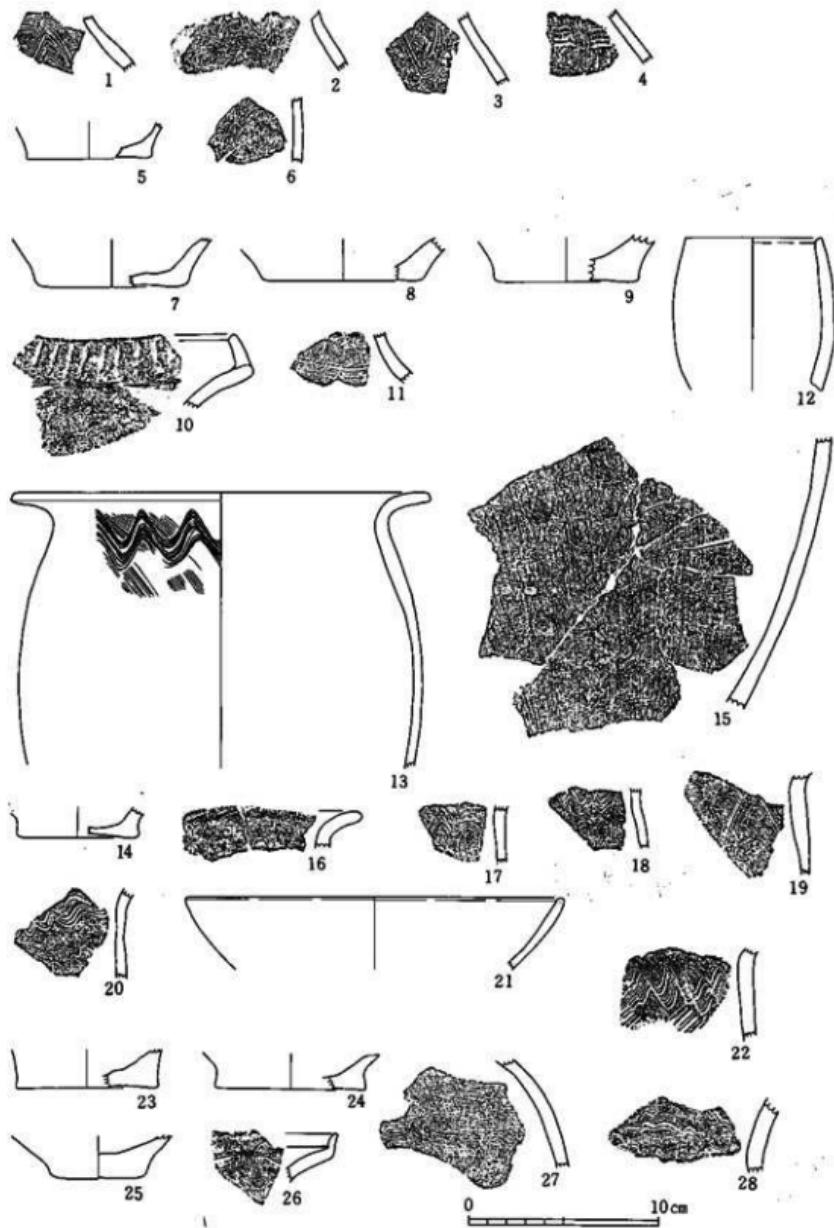
第28圖 43號住居址出土土器 (1 / 3)



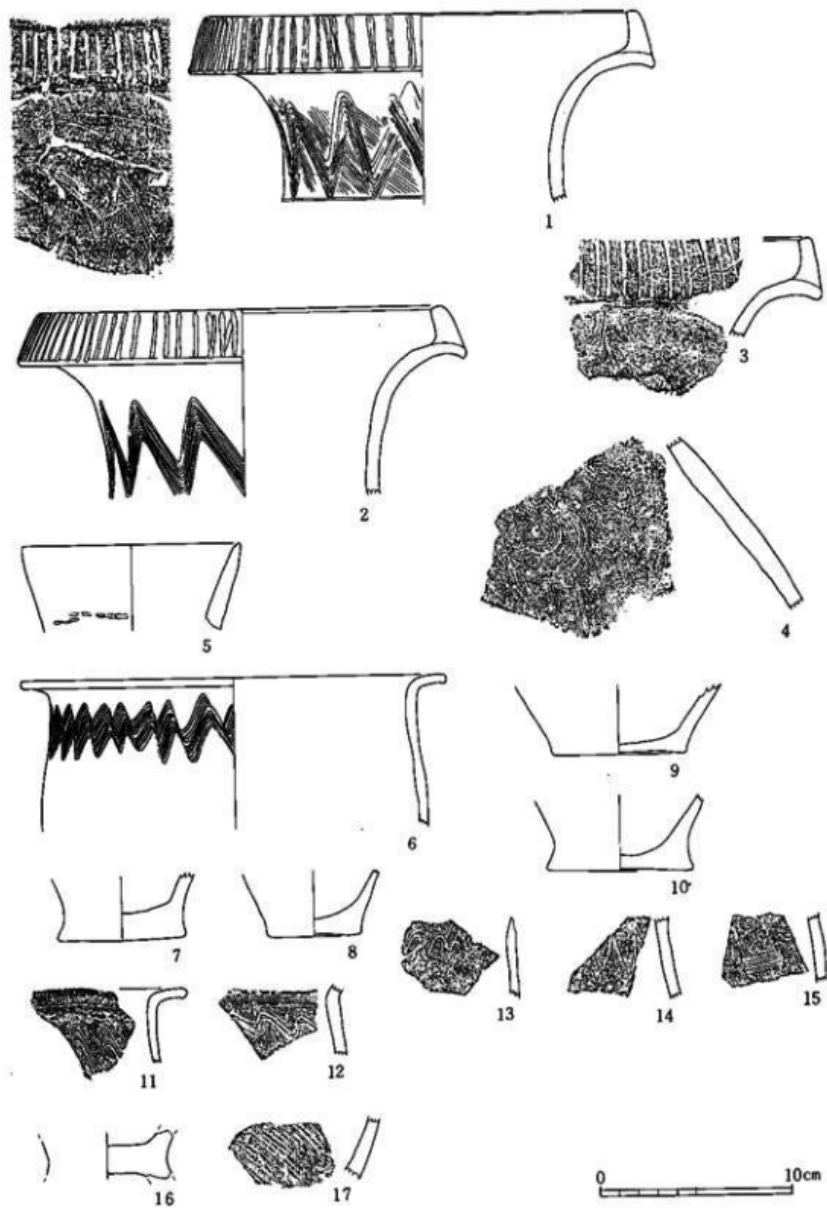
第29圖 43號住居址出土土器 (1 / 3)



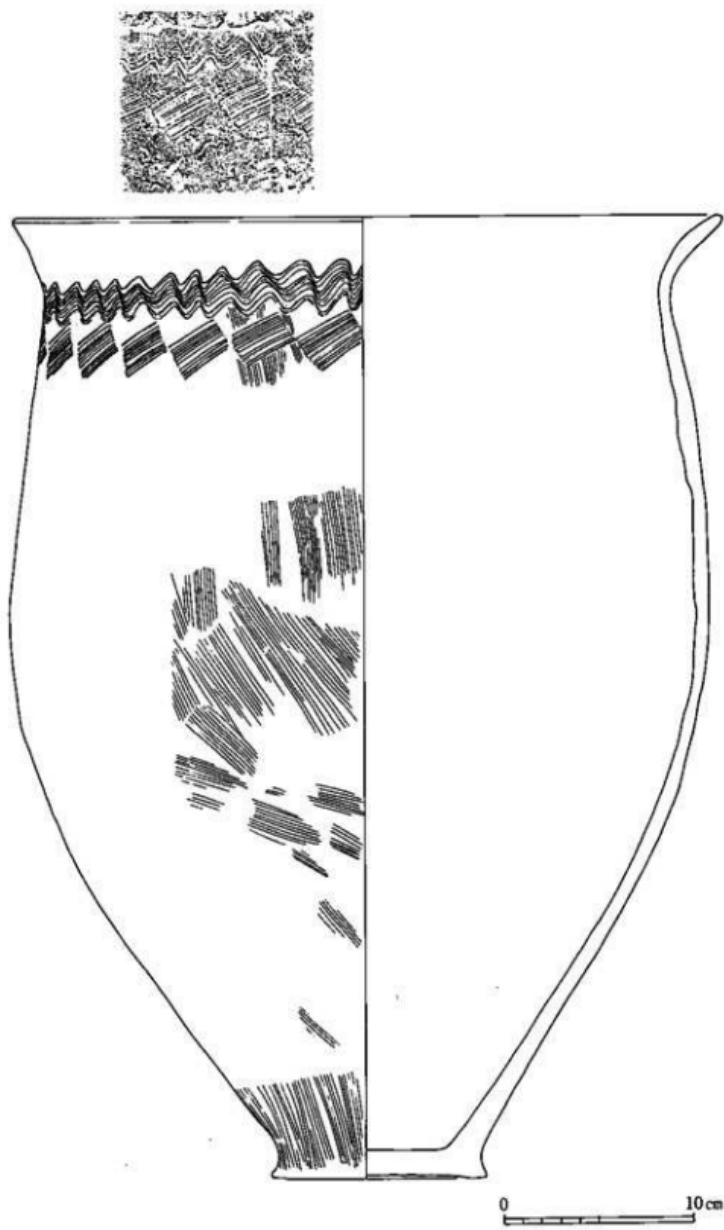
第30図 44号住居址（1～9）、45号住居址（10～15）、第46号住居址（16～24）、
47号住居址（25～29）出土土器（1／3）



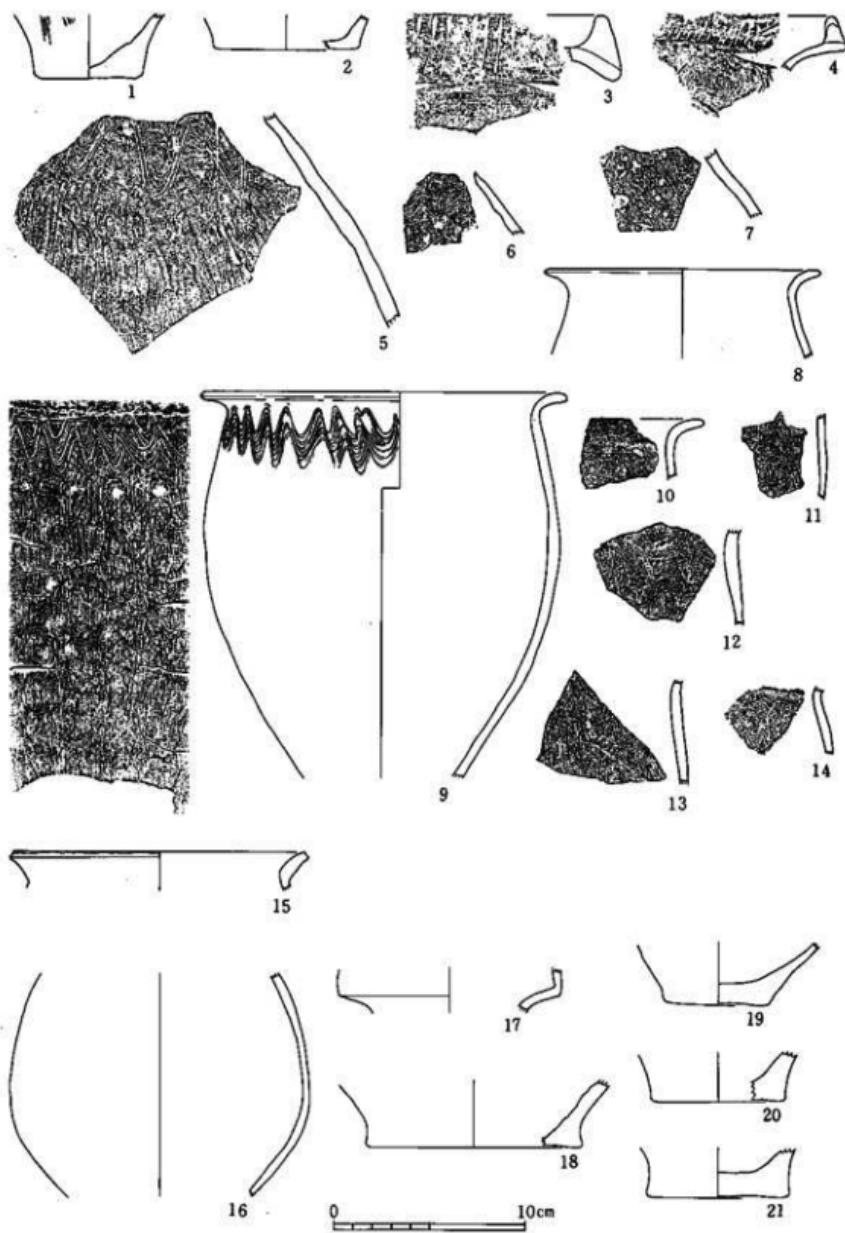
第31図 47号住居址(1~6)、48号住居址(7~21)、49号住居址(22)、
51号住居址(23~28)出土土器(1/3)



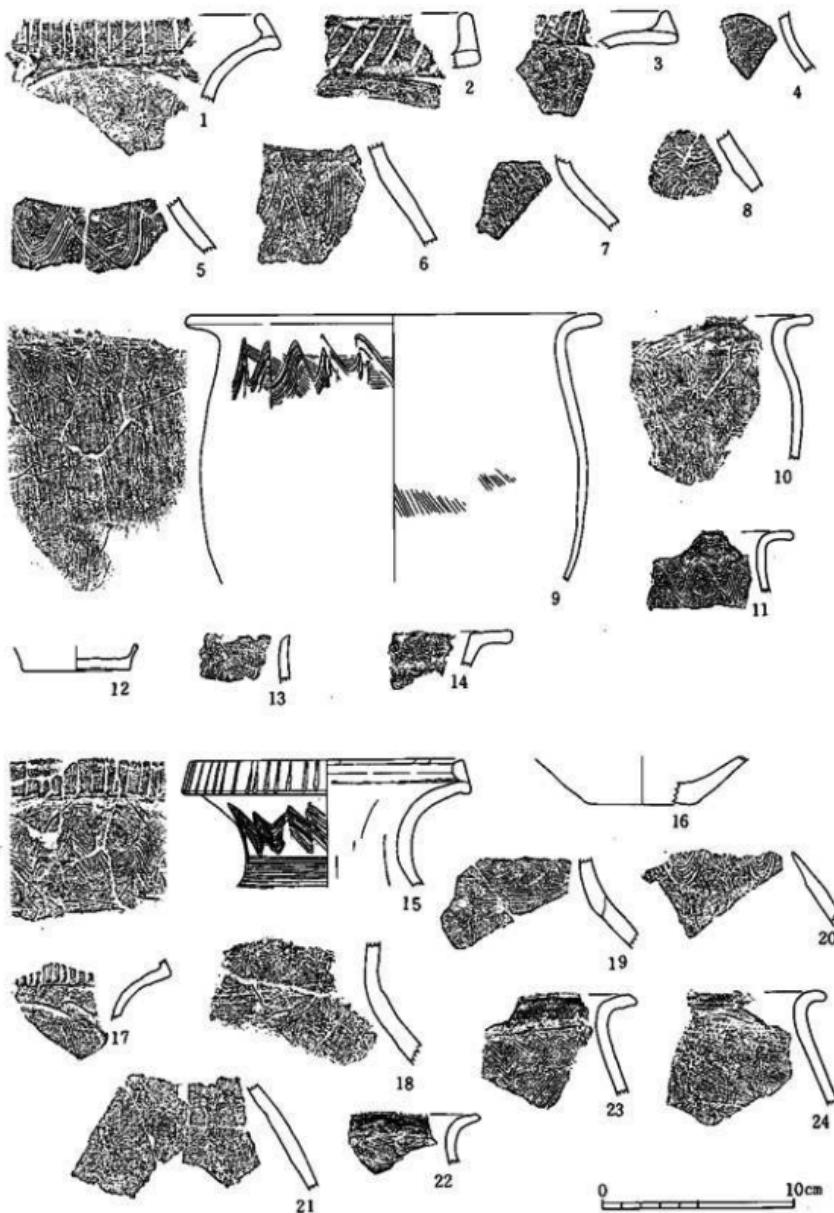
第32圖 51號住居址出土土器 (1/3)



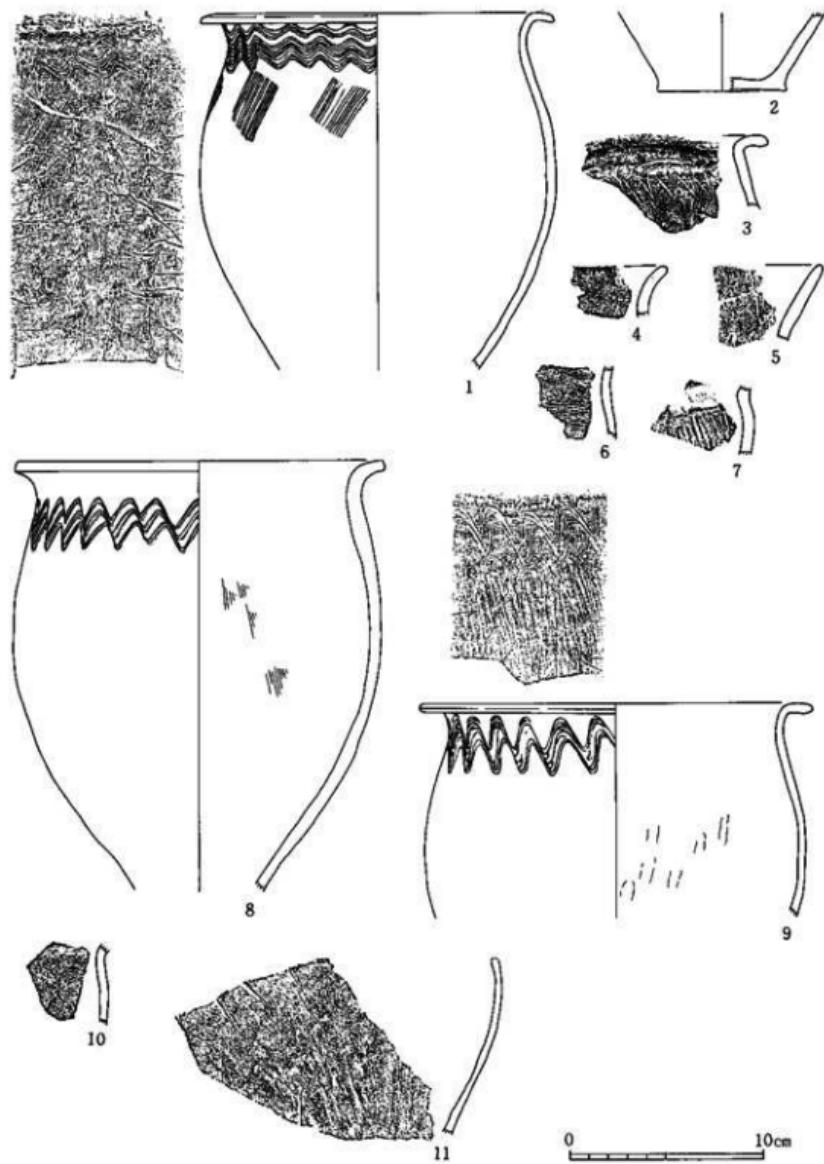
第33図 51号住居址出土土器 (1/3)



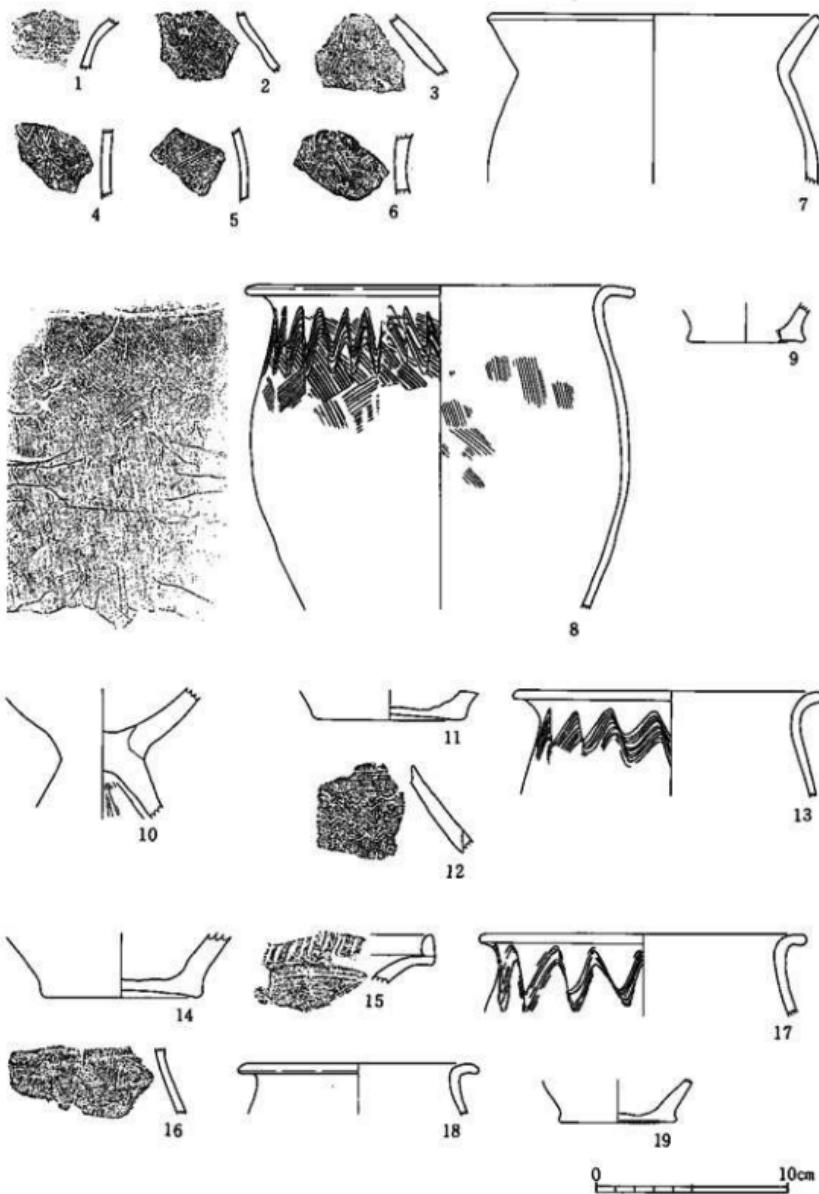
第34図 53号住居址（1～15）、54号住居址（16～21）出土土器（1／3）



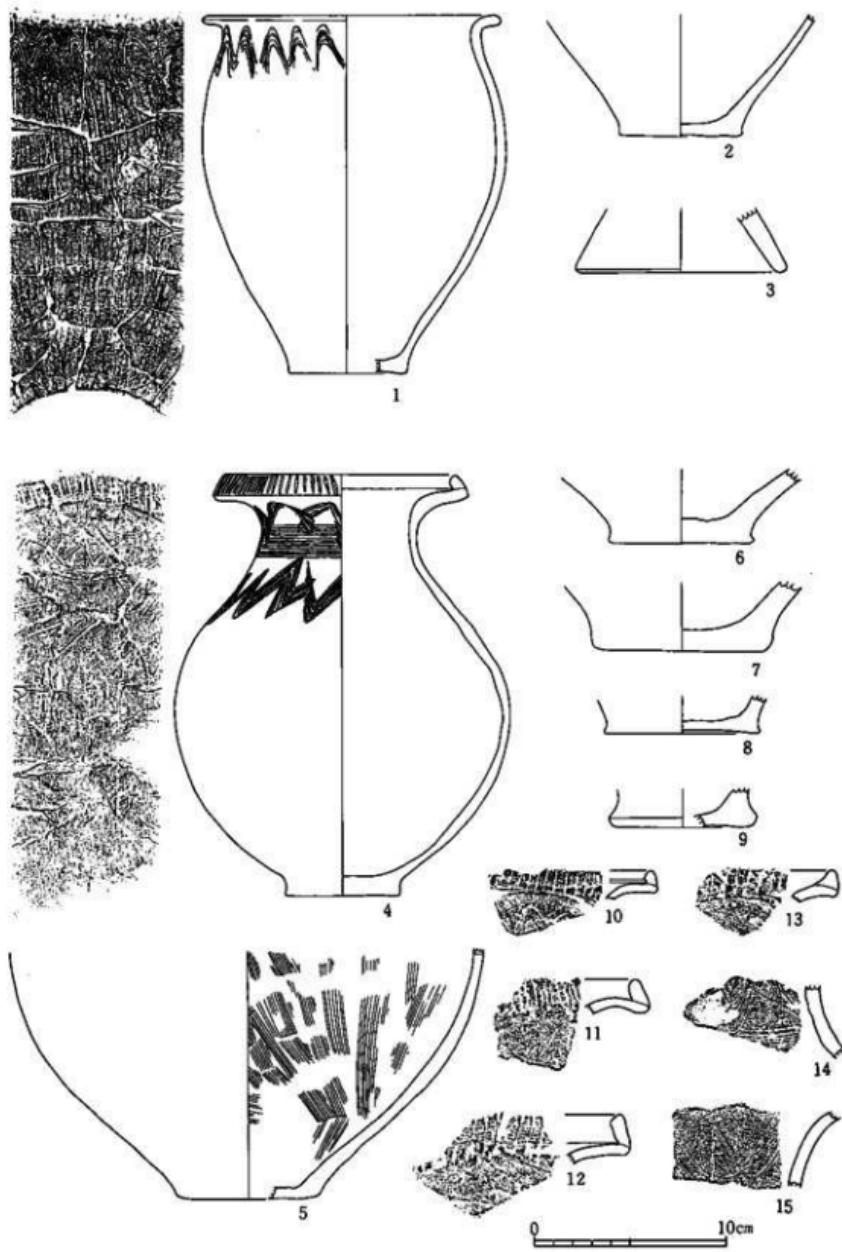
第35図 54号住居址（1～14）、55号住居址（15～24）出土土器（1／3）



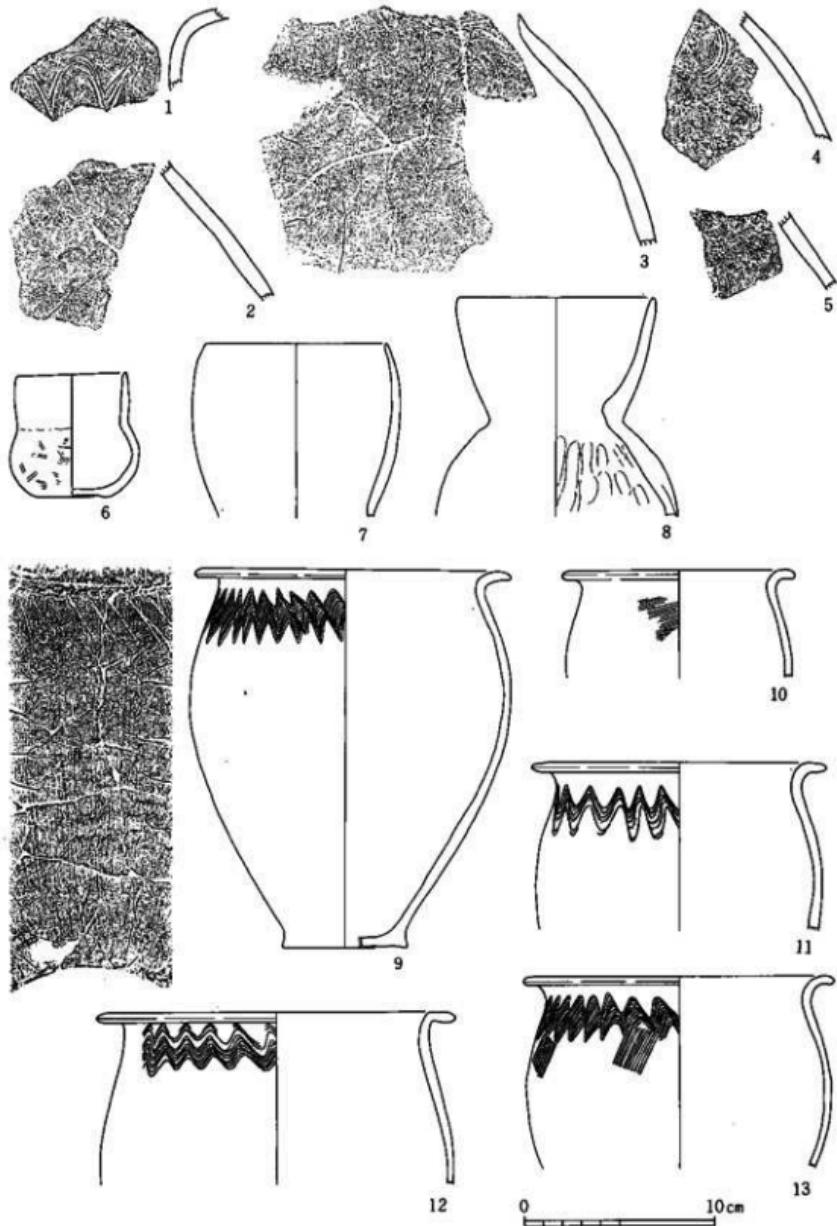
第36図 55号住居址(1~7)、57号住居址(8~11)出土土器(1/3)



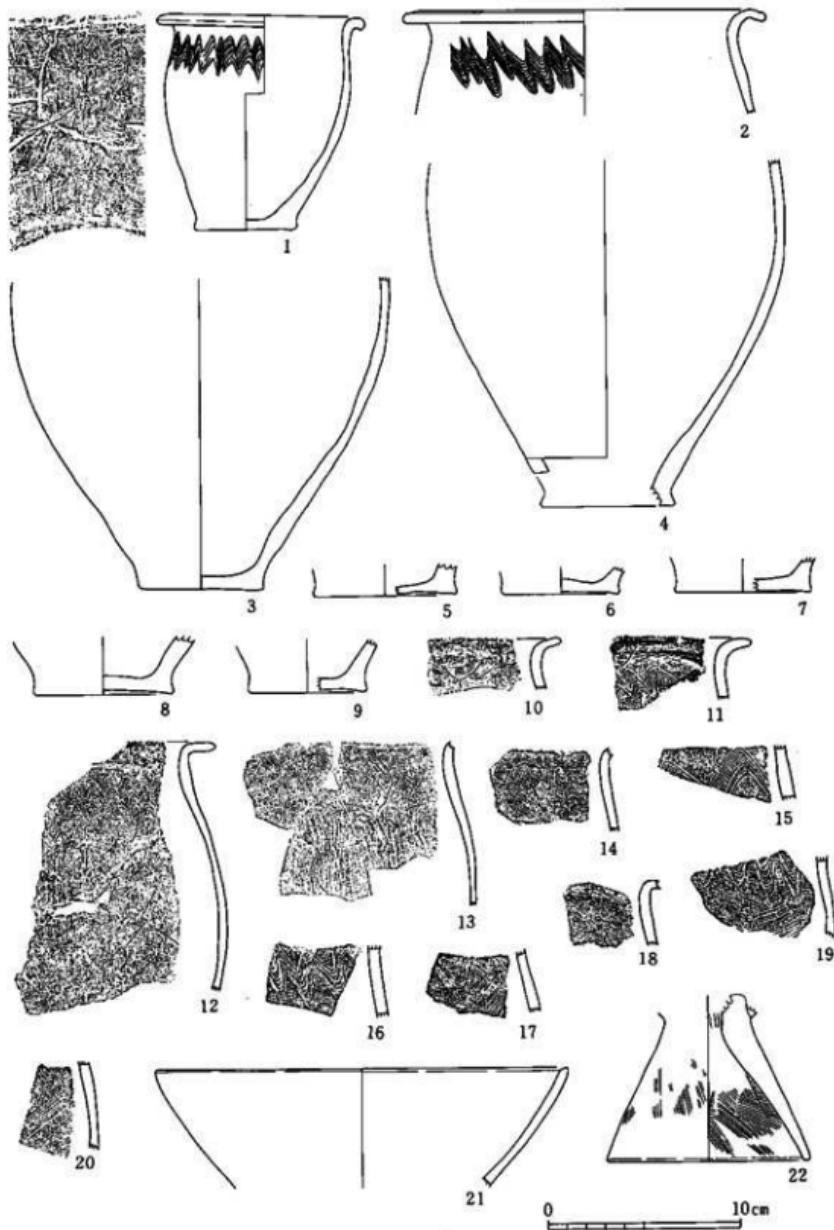
第37図 60号住居址（1～7）、61号住居址（8・9）、62号住居址（10）、
64号住居址（11～13）、65号住居址（14～19）出土土器（1／3）



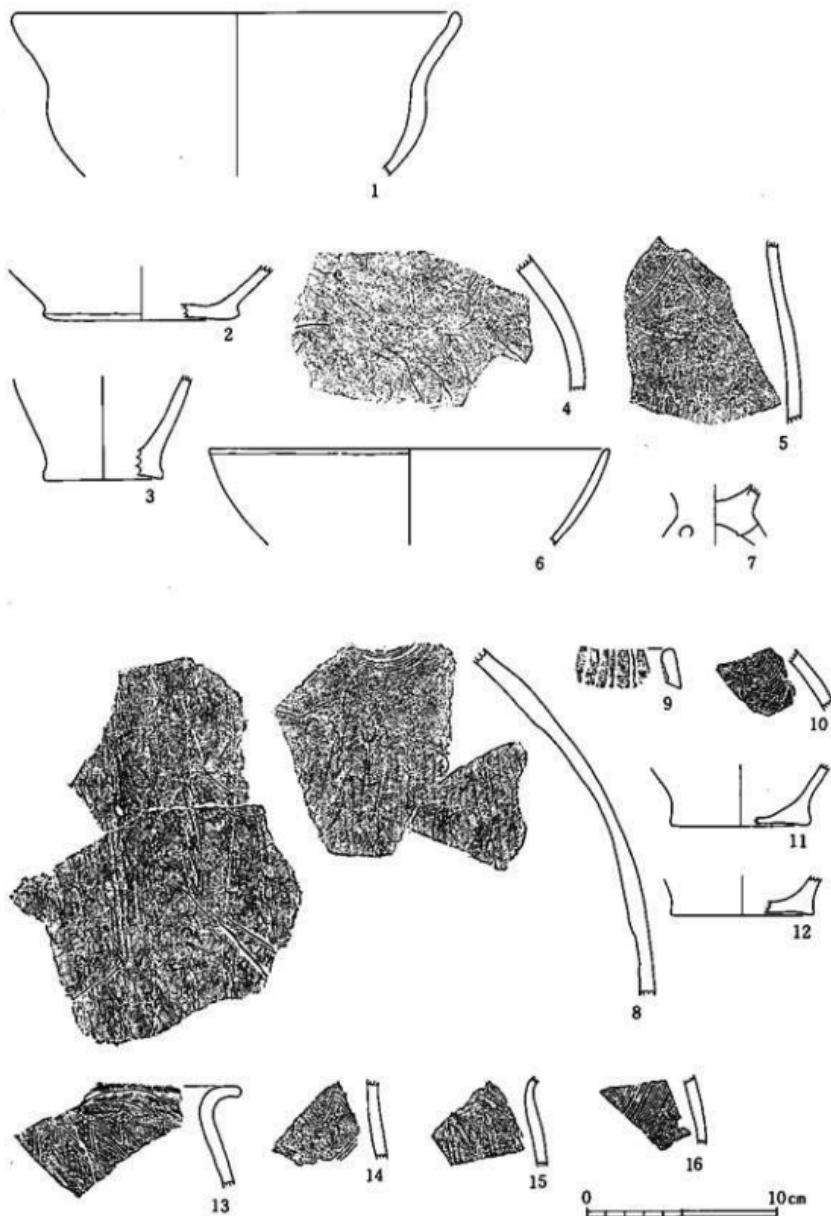
第38図 65号住居址（1～3）、66号住居址（4～15）出土土器（1／3）



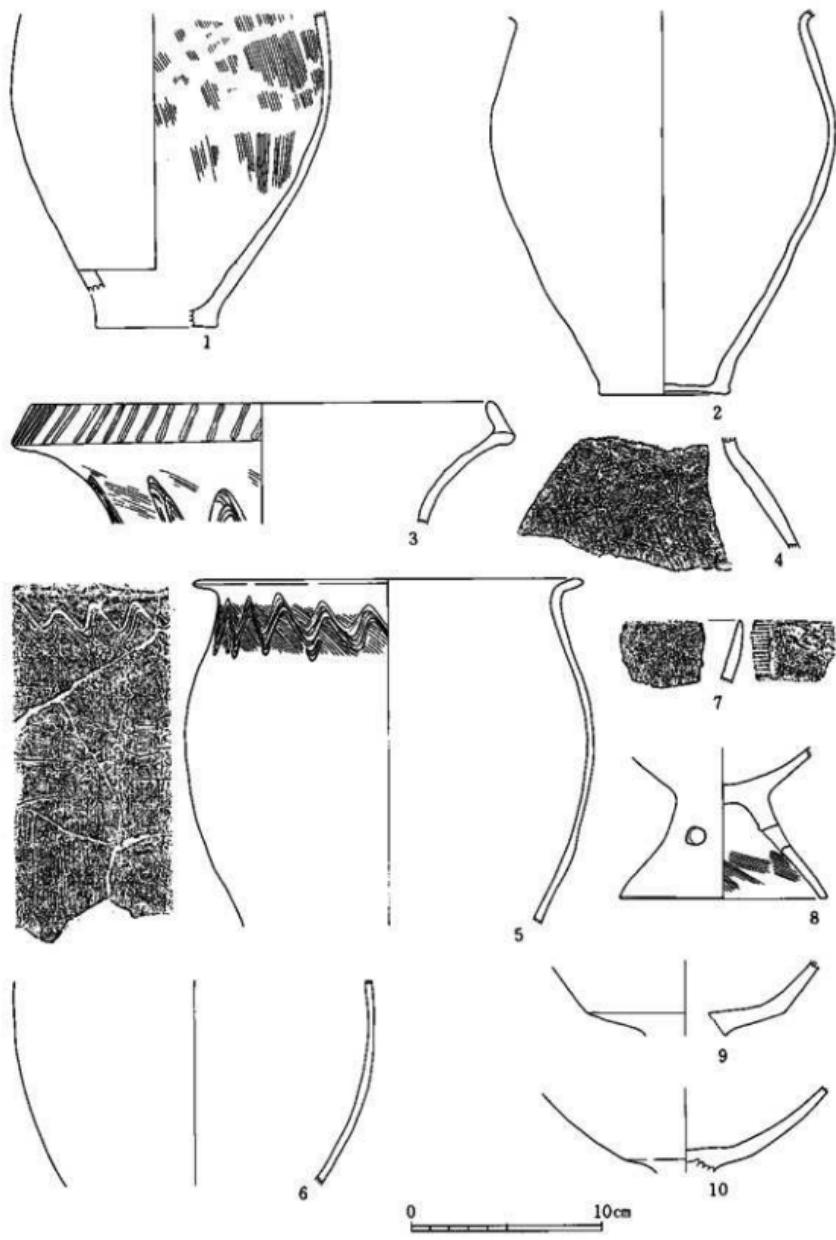
第39図 66号住居址出土土器 (1/3)



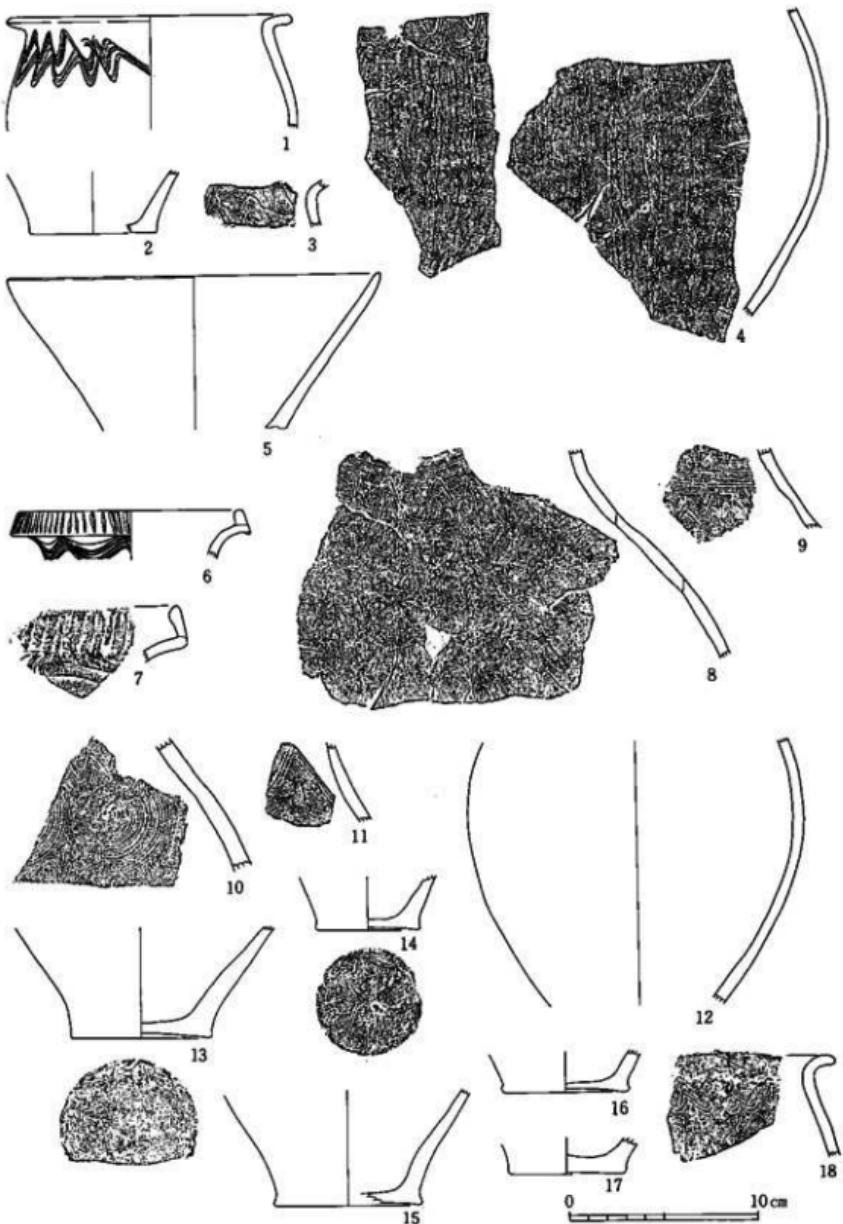
第40図 66号住居址出土土器 (1/3)



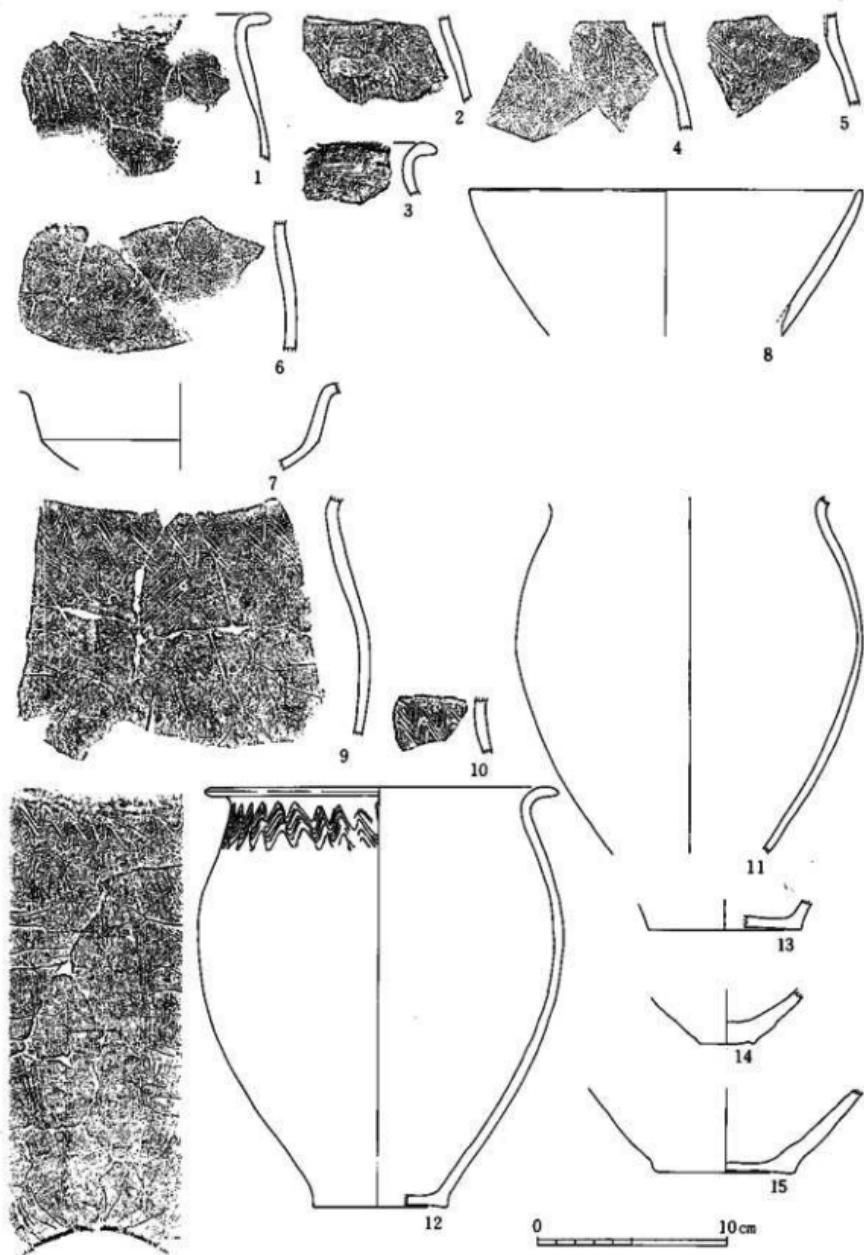
第41図 66号住居址(1)、69号住居址(2~7)、71号住居址(8~16)出土土器(1/3)



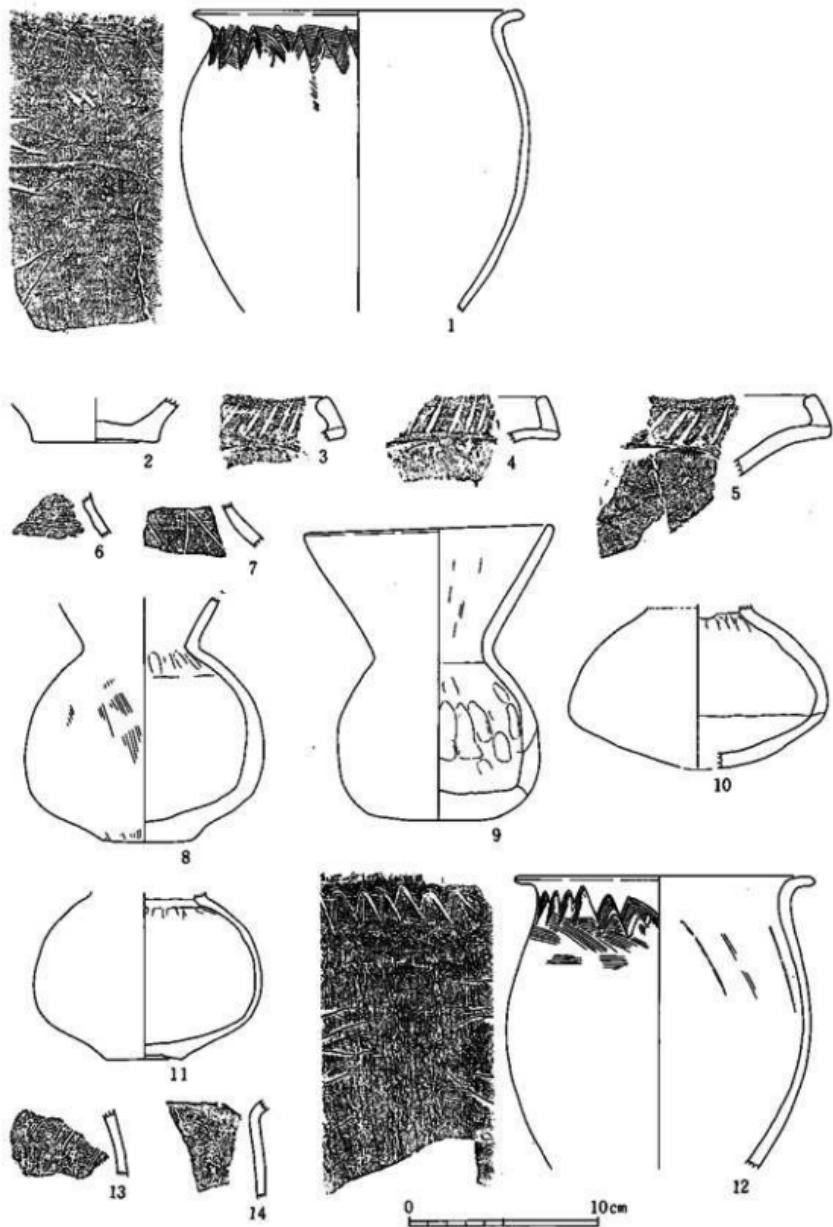
第42図 71号住居址(1)、72号住居址(2~10)出土土器(1/3)



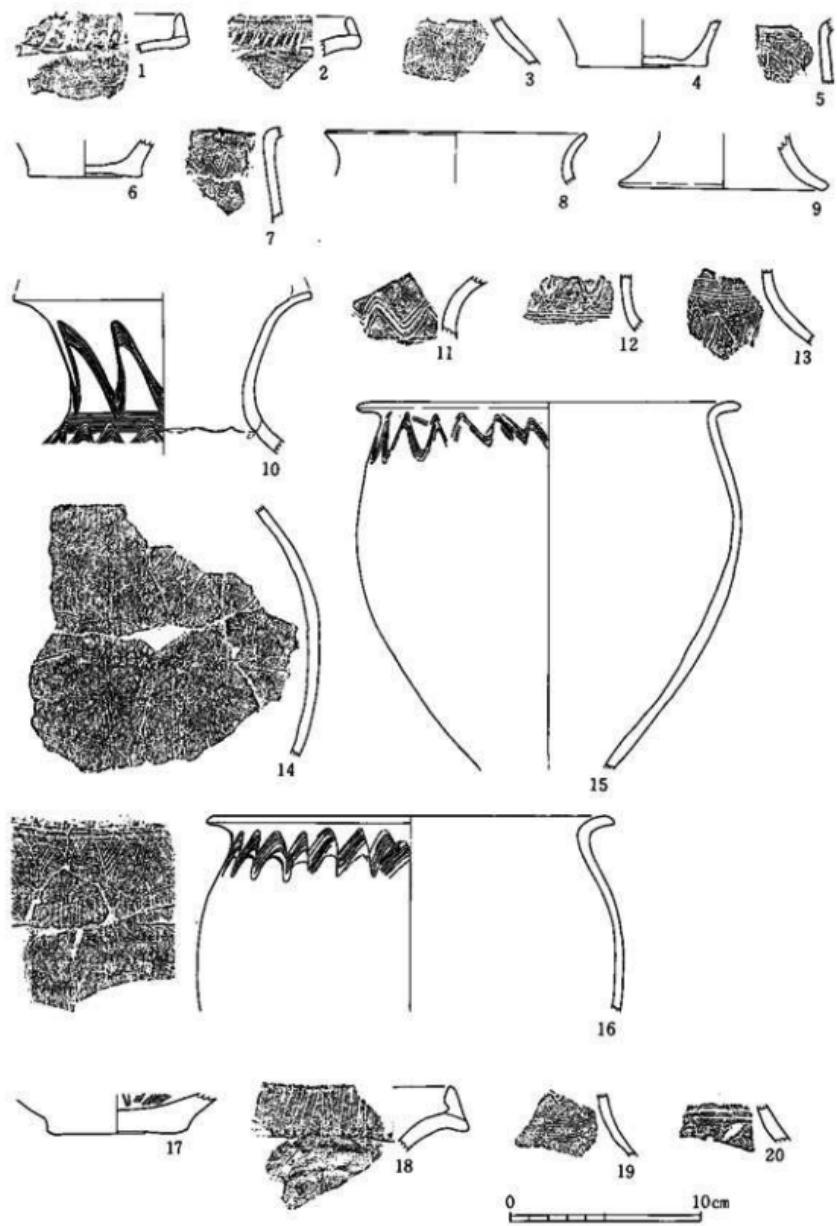
第43図 72号住居址（1～5）、73号住居址（6～18）出土土器（1／3）



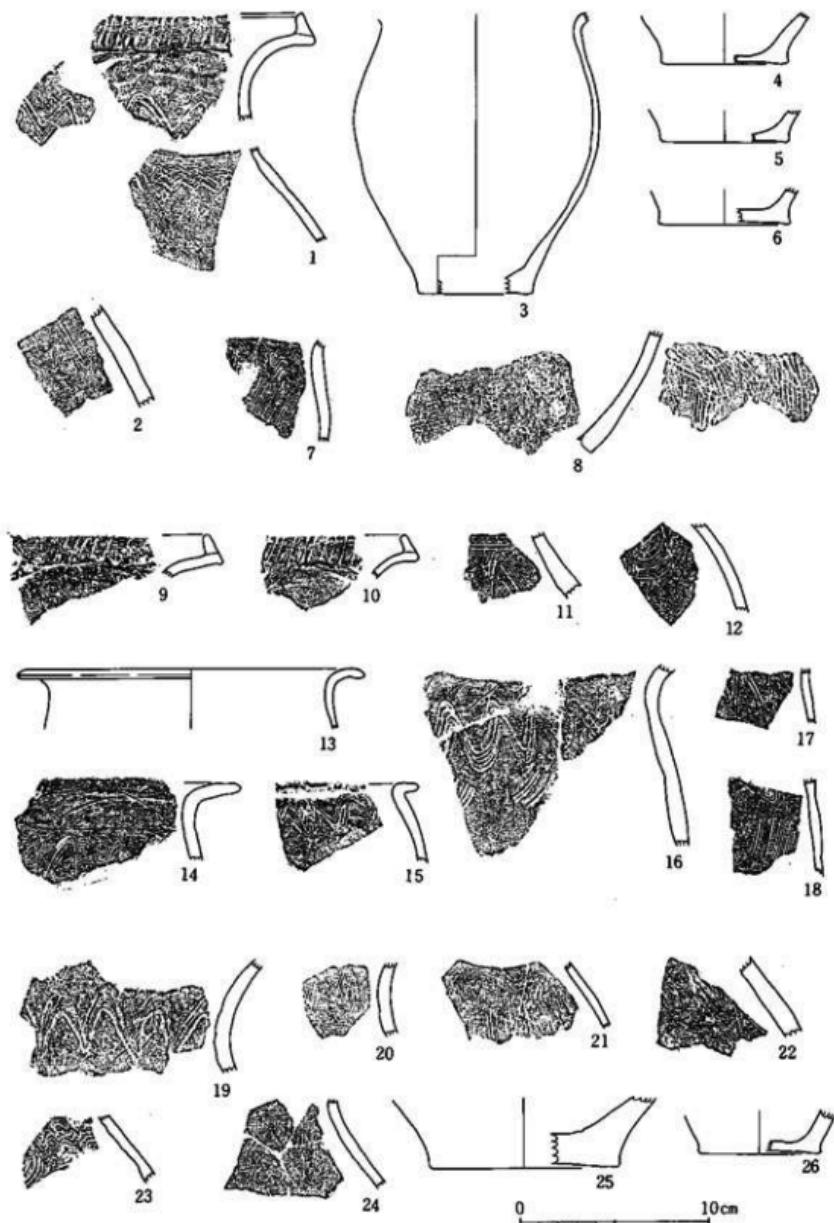
第44図 73号住居址（1～8）、74号住居址（9・10）、76号住居址（11～15）出土土器（1／3）



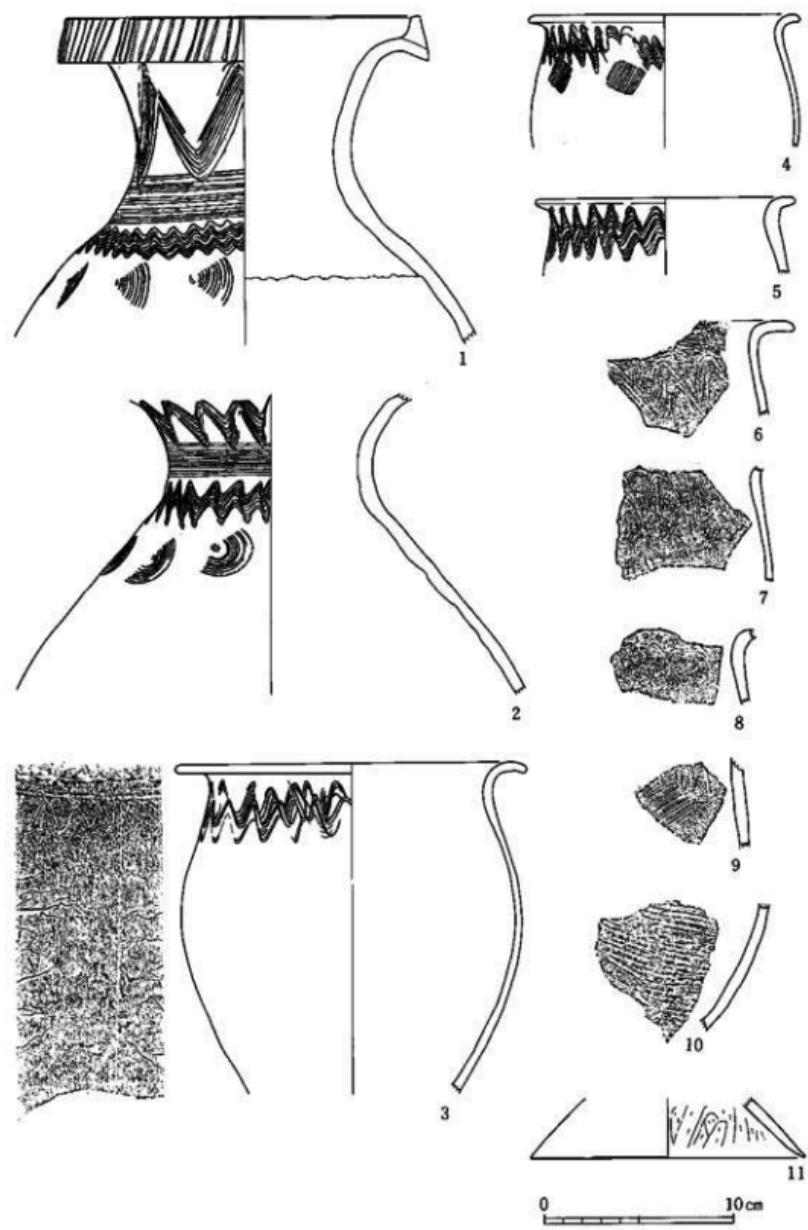
第45図 76号住居址(1)、78号住居址(2~14)出土土器(1/3)



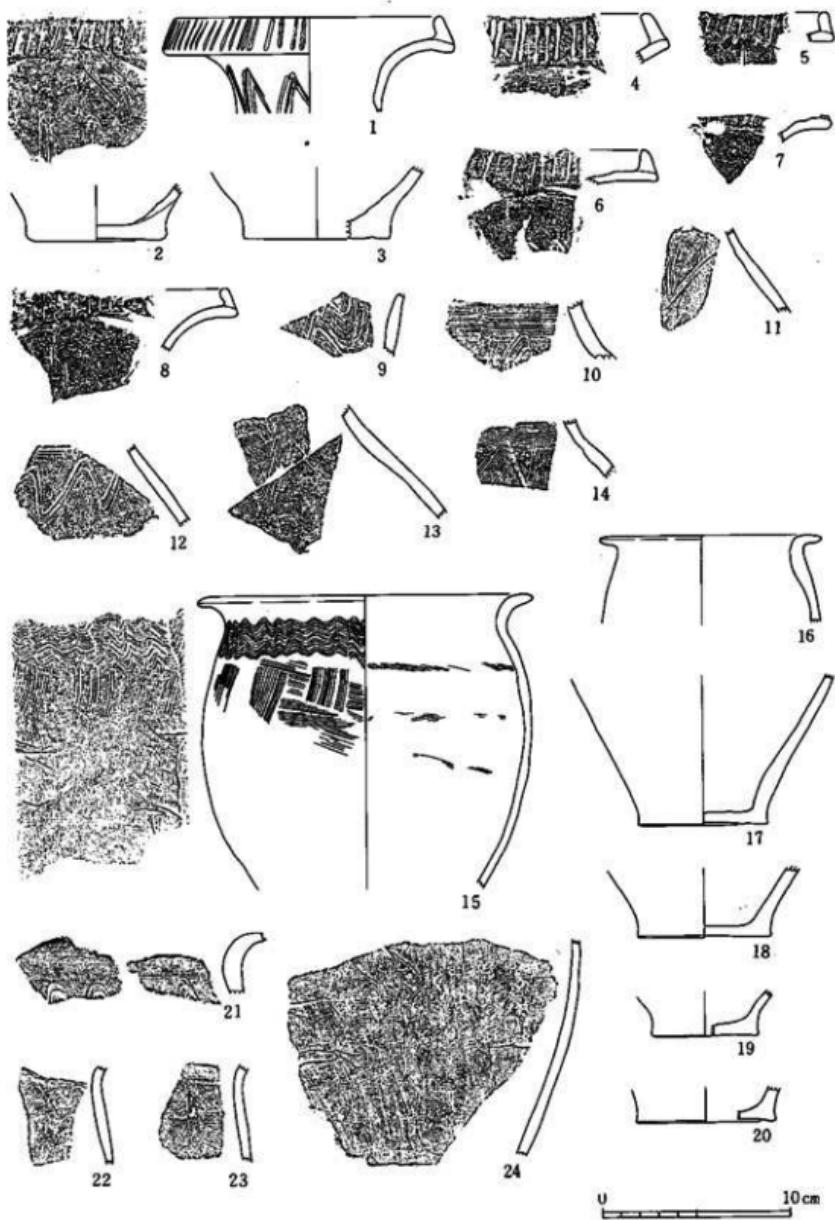
第46図 81号住居址（1～9）、82号住居址（10～16）、83号住居址（17～20）出土土器（1／3）



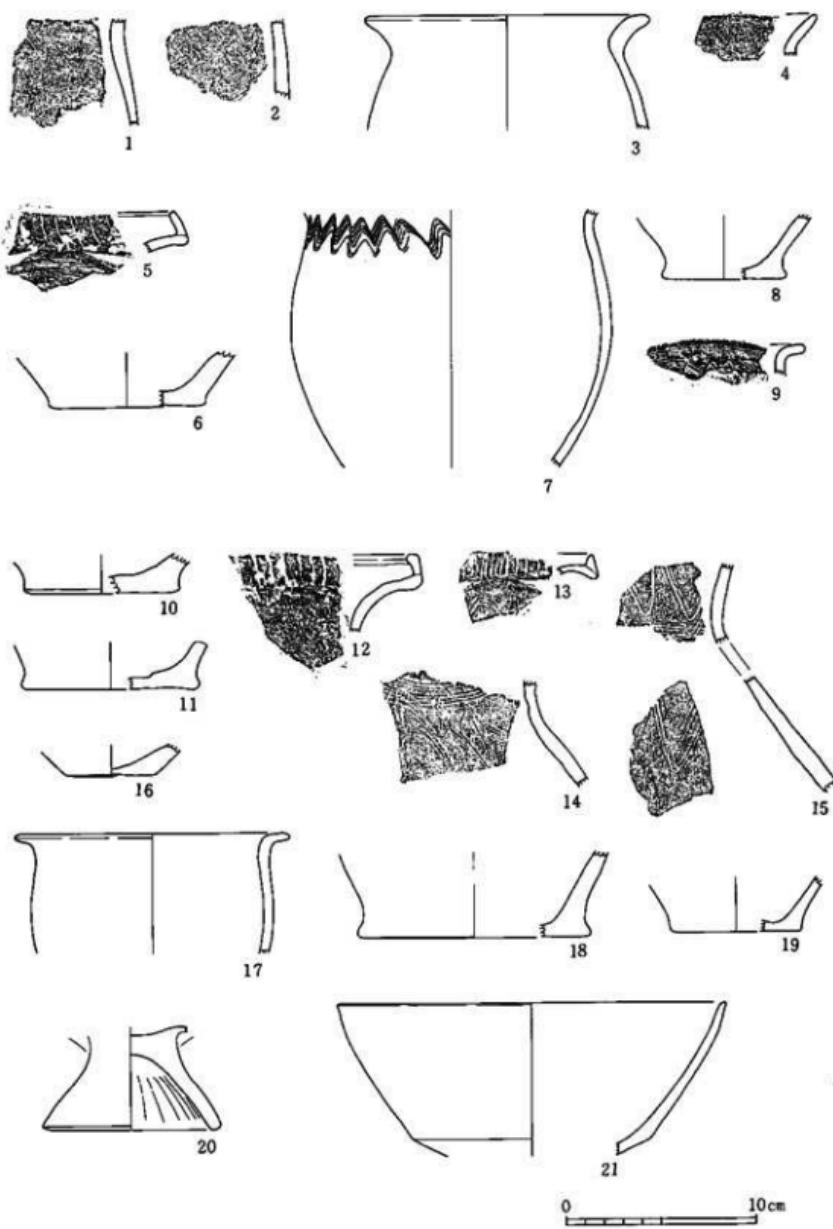
第47図 83号住居址 (1~8)、84号住居址 (9~18)、85号住居址 (19~26) 出土土器 (1/3)



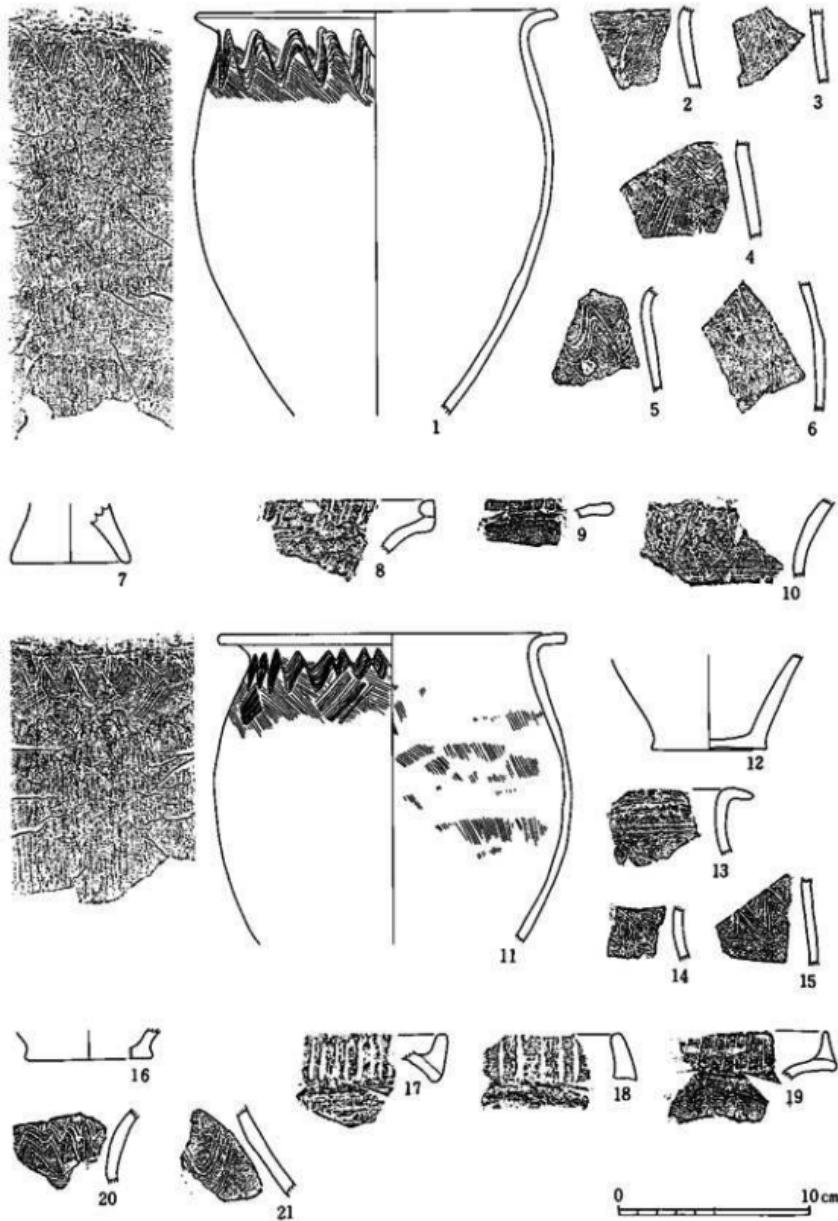
第48図 85号住居址出土土器 (1/3)



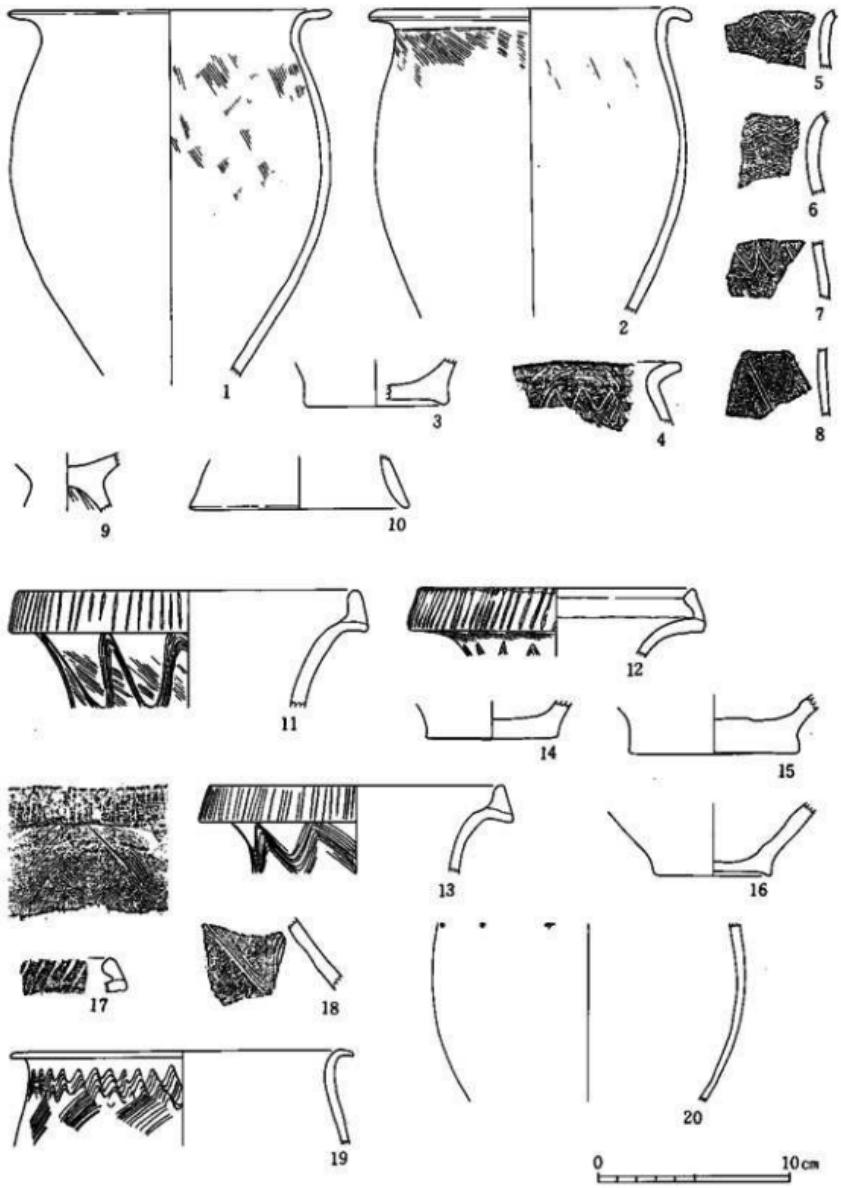
第49圖 86号住居址出土土器 (1 / 3)



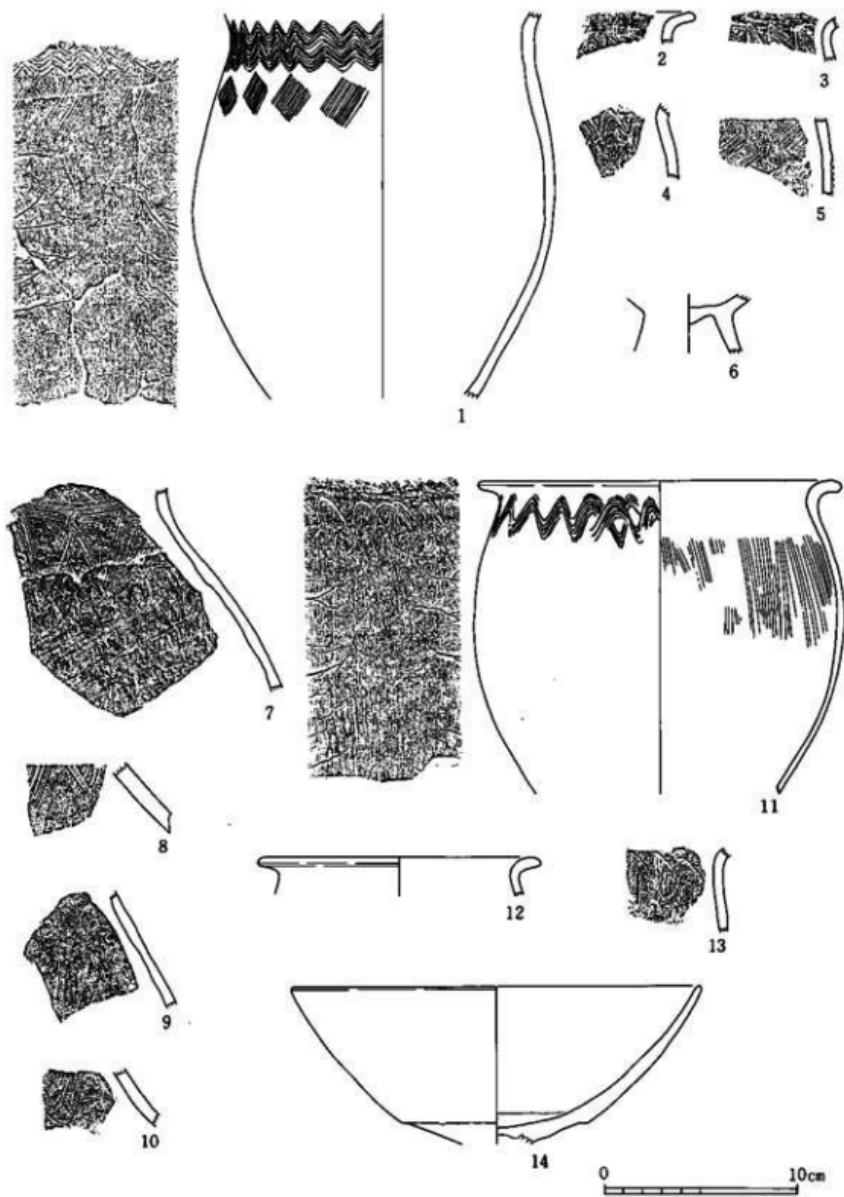
第50図 86号住居址（1～4）、87号住居址（5～9）、89号住居址（10～21）出土土器（1／3）



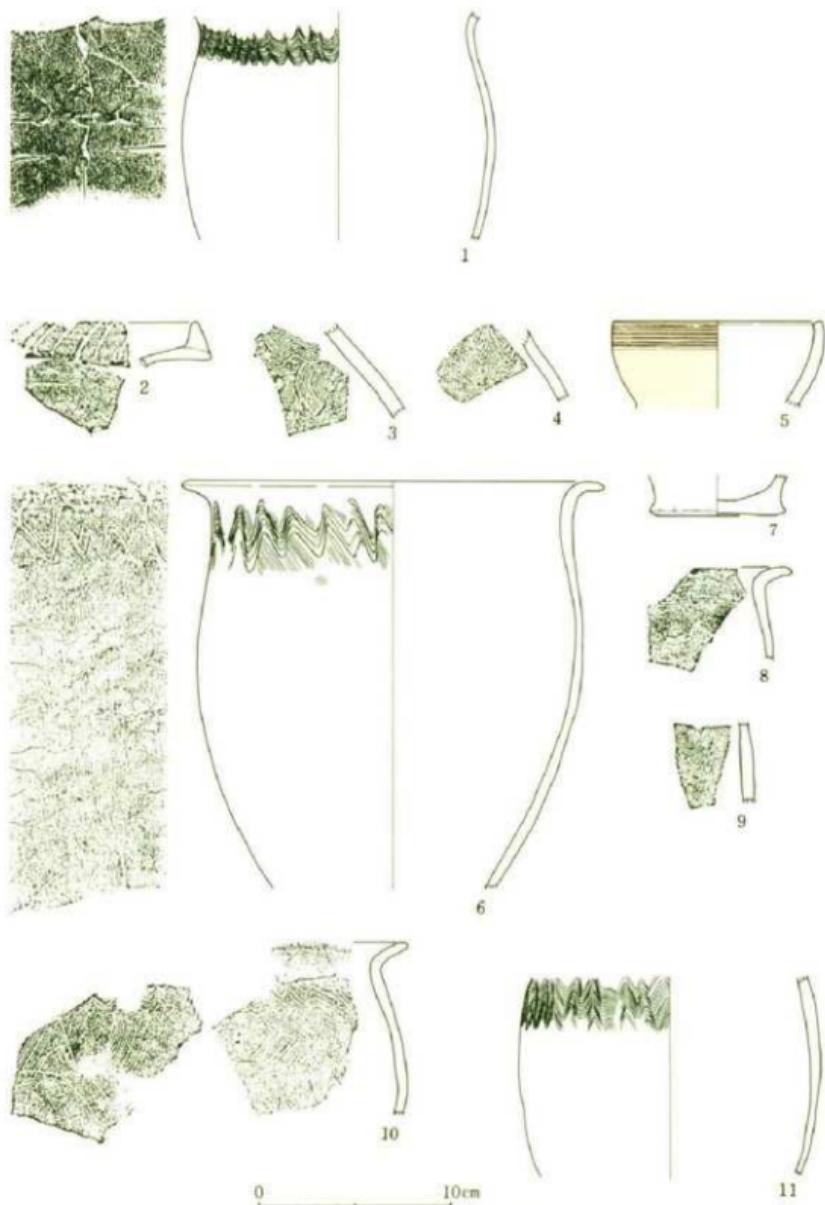
第51図 89号住居址（1～6）、90号住居址（7）、91号住居址（8～15）、
93号住居址（16～21）出土土器（1／3）



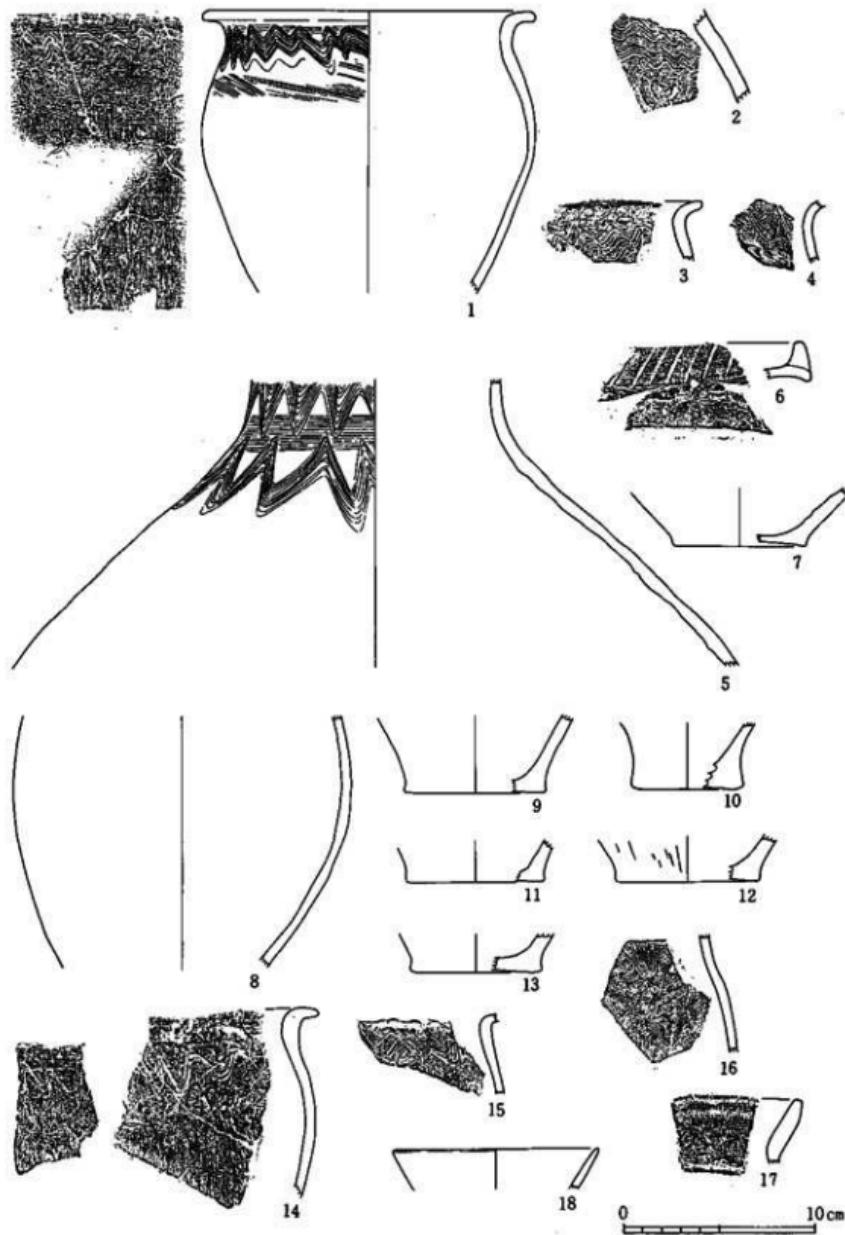
第52図 93号住居址（1～10）、94号住居址（11～20）出土土器（1／3）



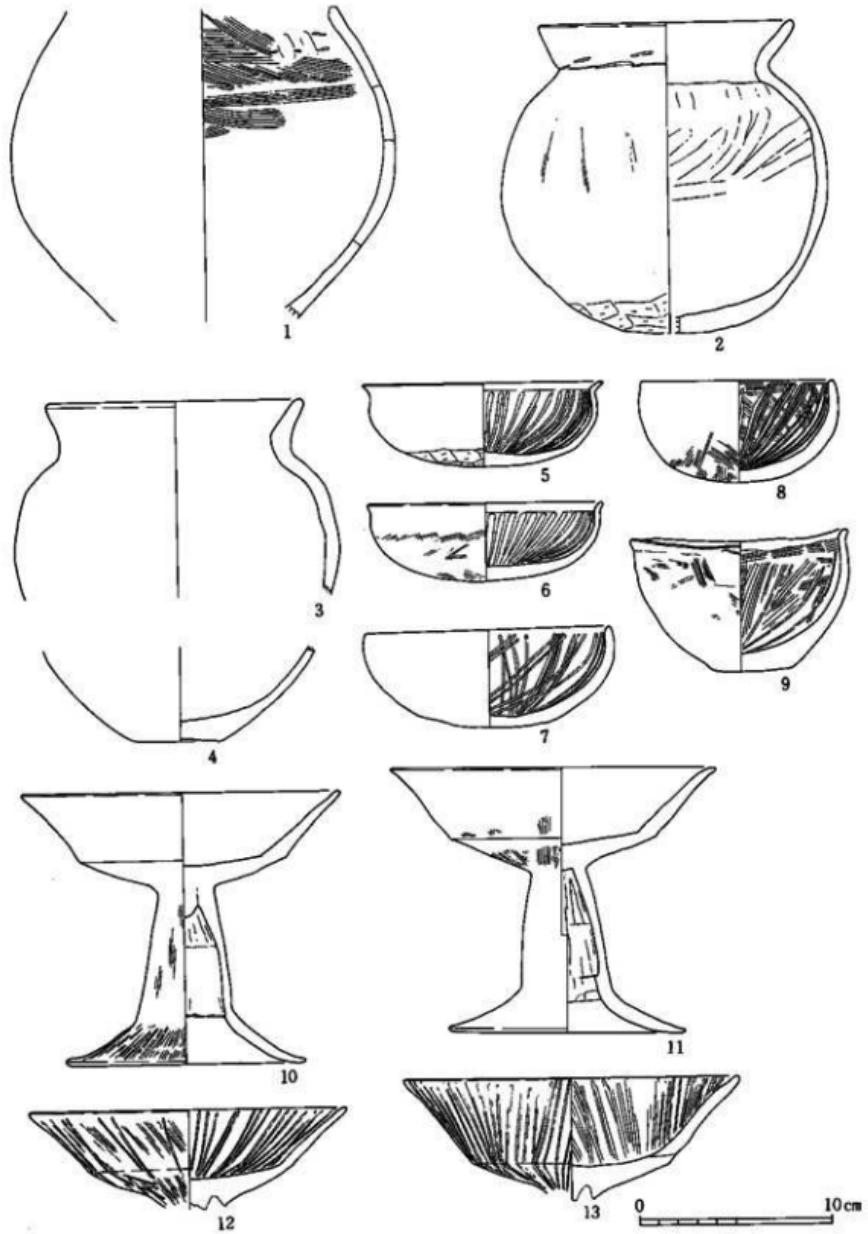
第53図 94号住居址（1～6）、95号住居址（7～14）出土土器（1／3）



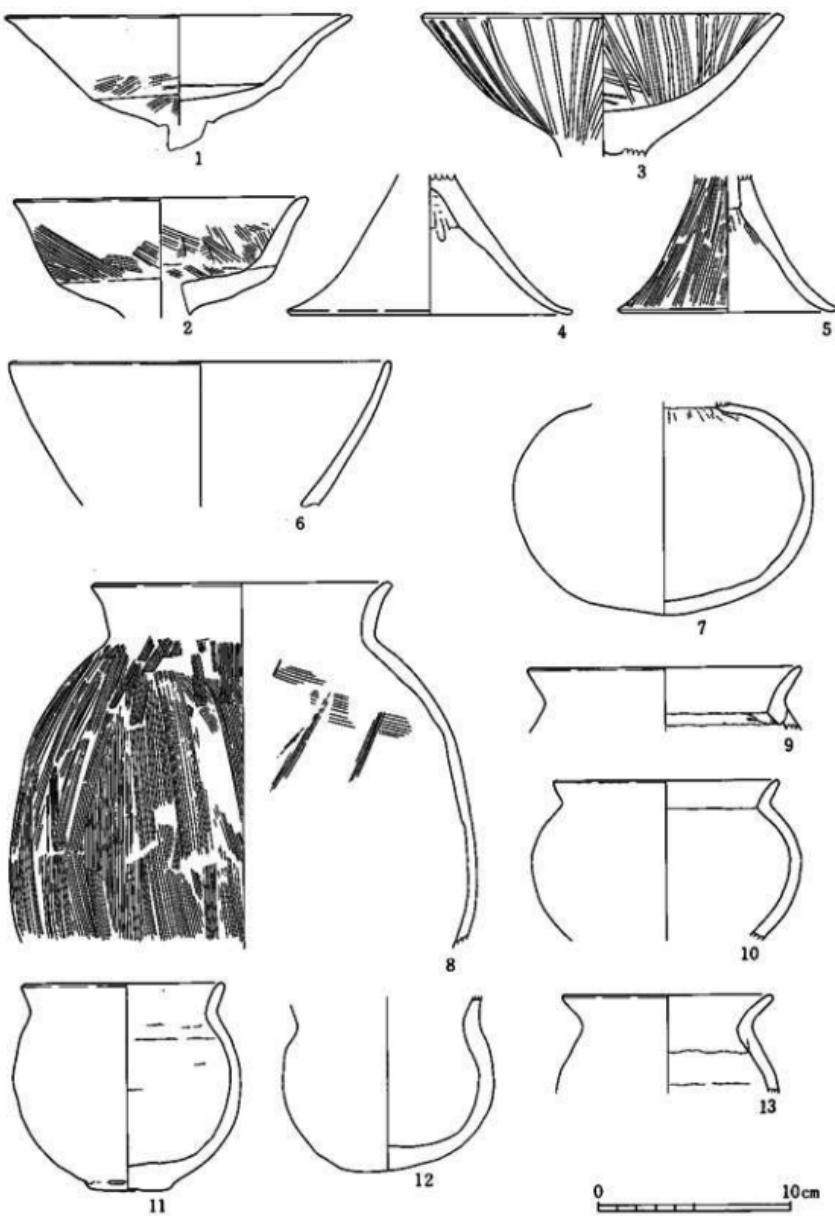
第54図 96号住居址 (1)、97号住居址 (2~10)、98号住居址 (11) 出土土器 (1/3)



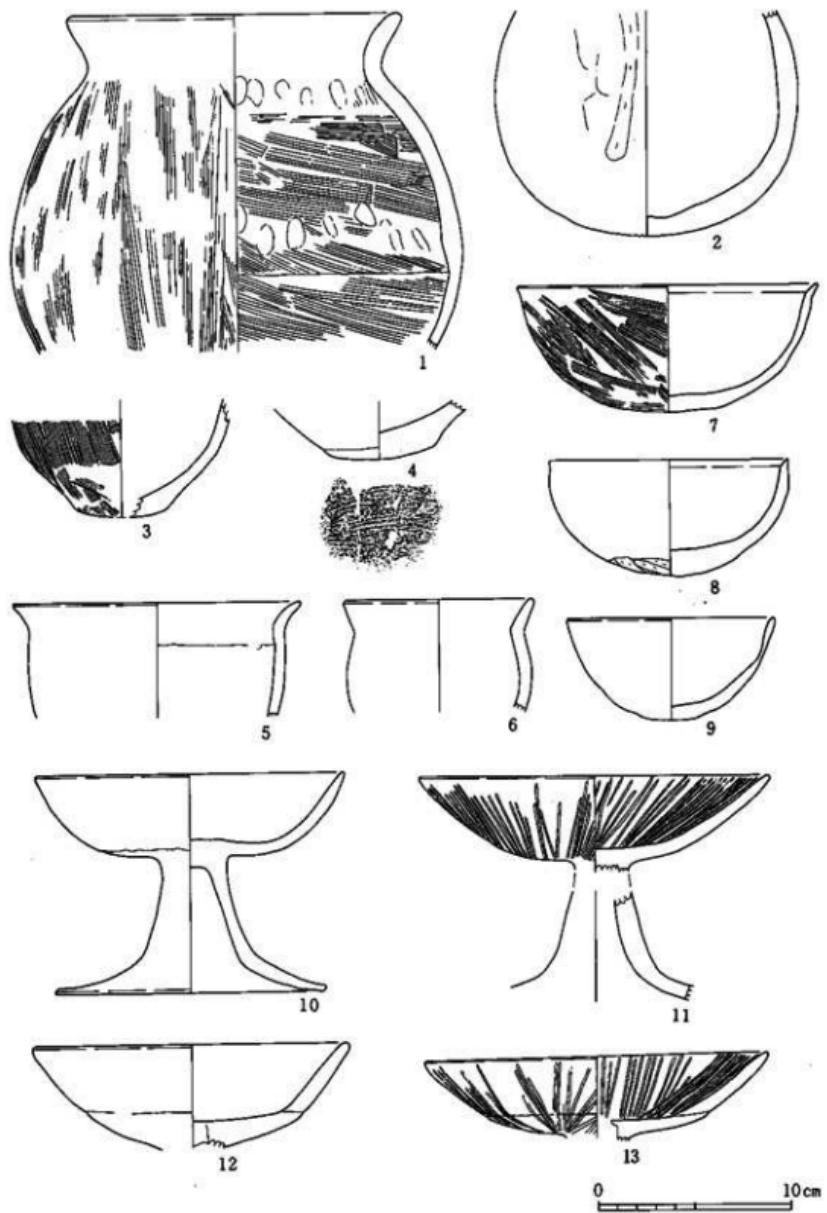
第55図 98号住居址（1～4）、100号住居址（5～18）出土土器（1／3）



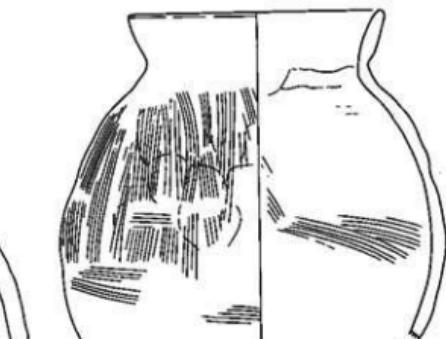
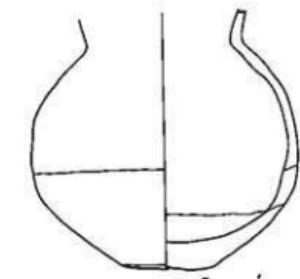
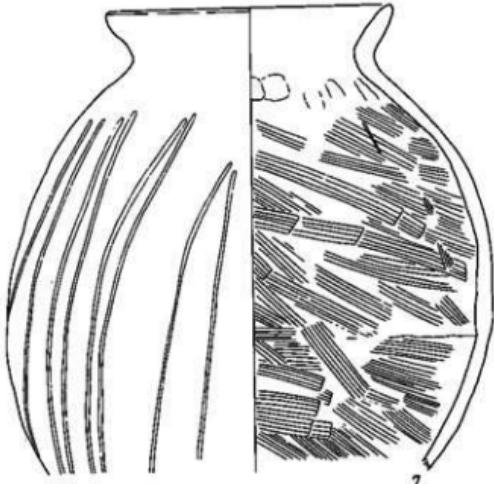
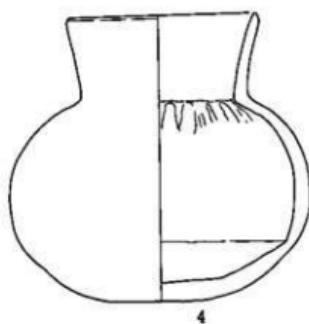
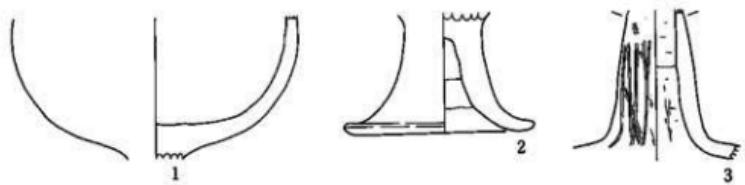
第56図 59号住居址(1)、70号住居址(2~13)出土土器(1/3)



第57図 70号住居址（1～6）、88号住居址（7～13）出土土器（1／3）

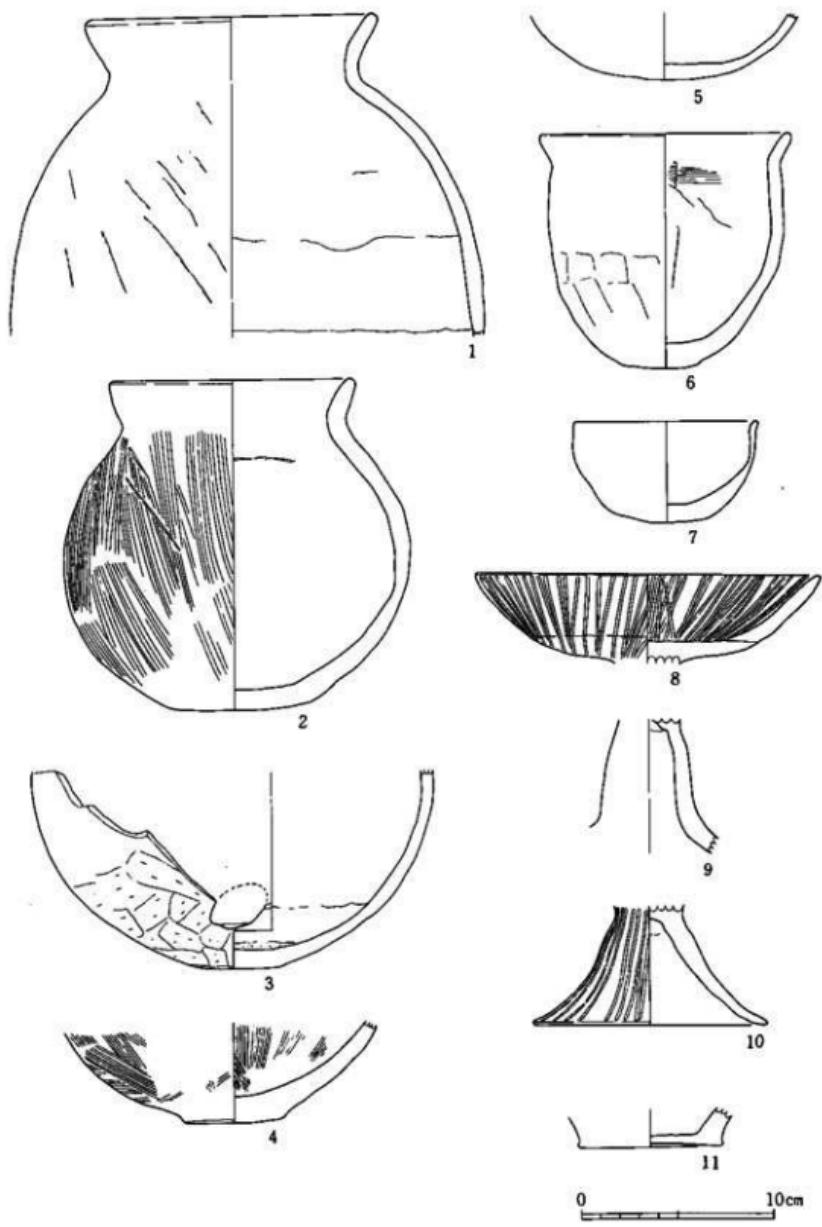


第58図 88号住居址出土土器 (1 / 3)

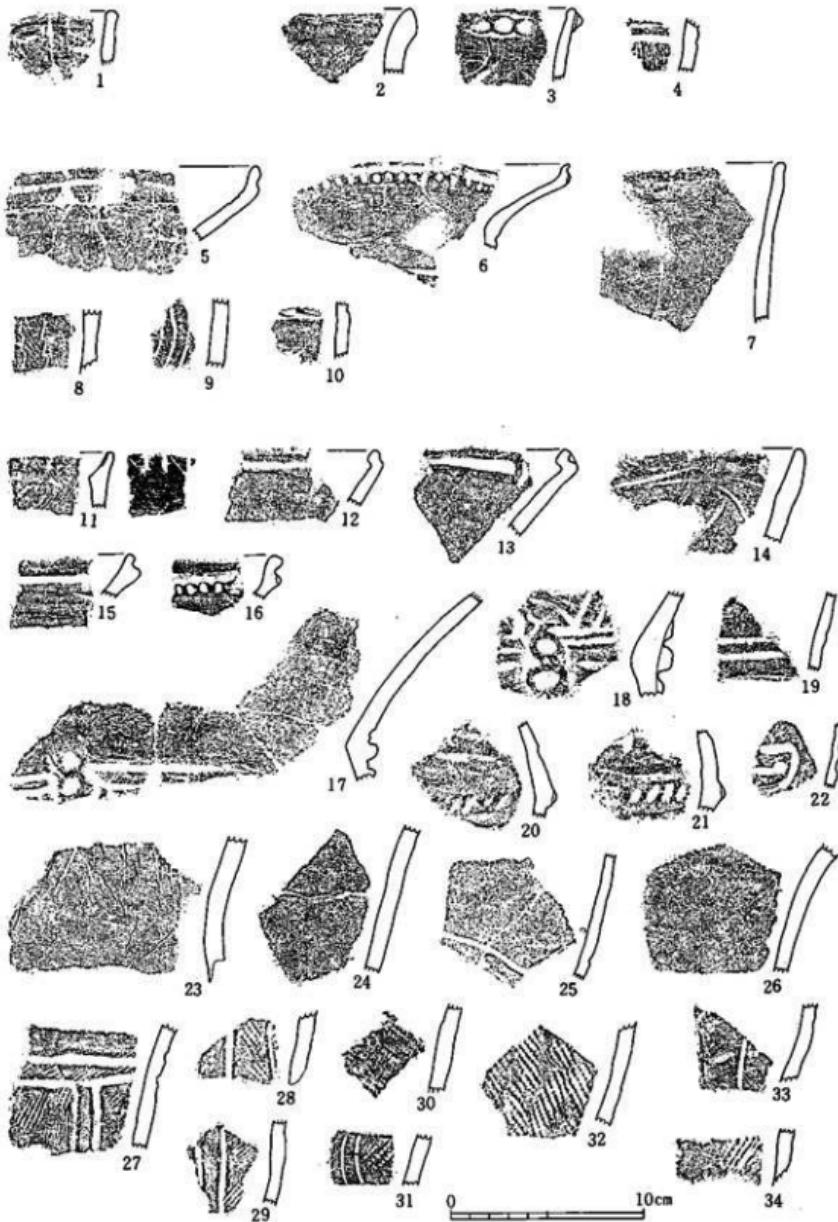


0 10 cm

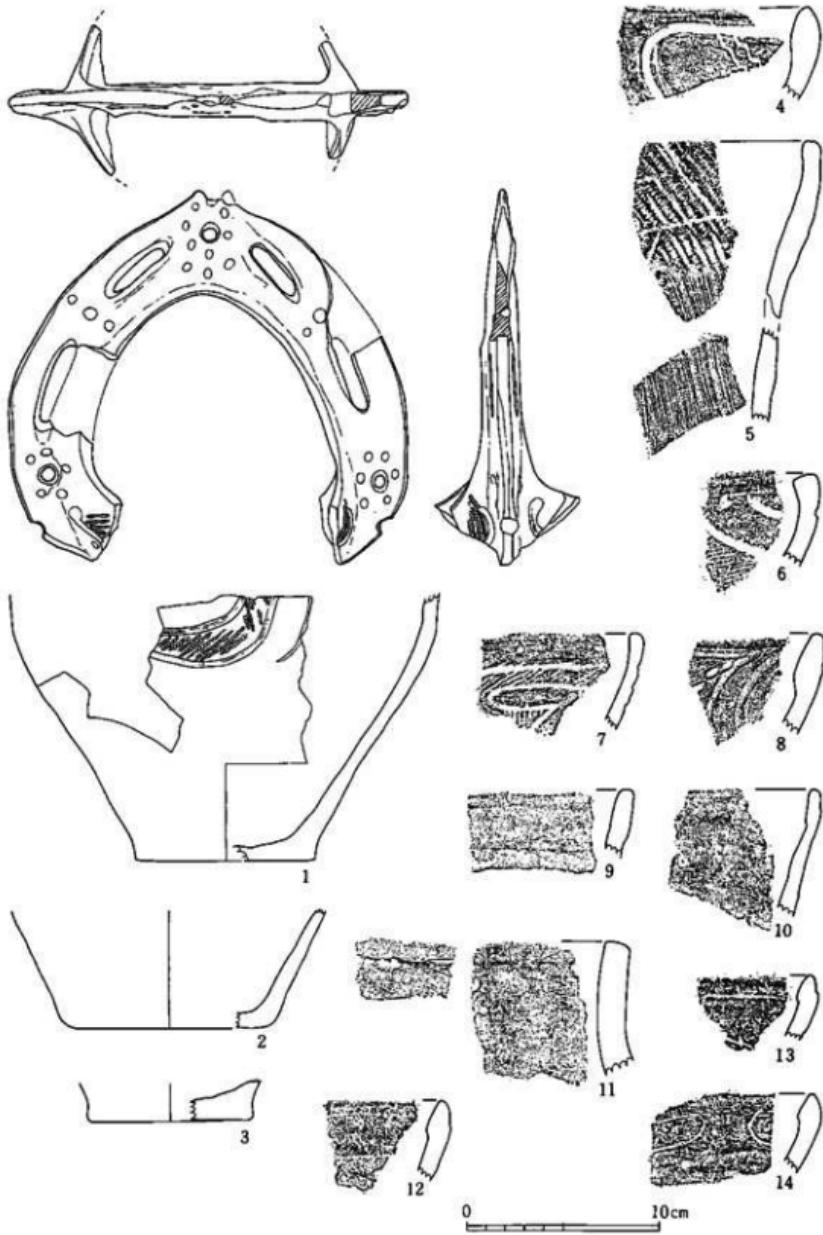
第59図 88号住居址 (1~3)、92号住居址 (4~8) 出土土器 (1/3)



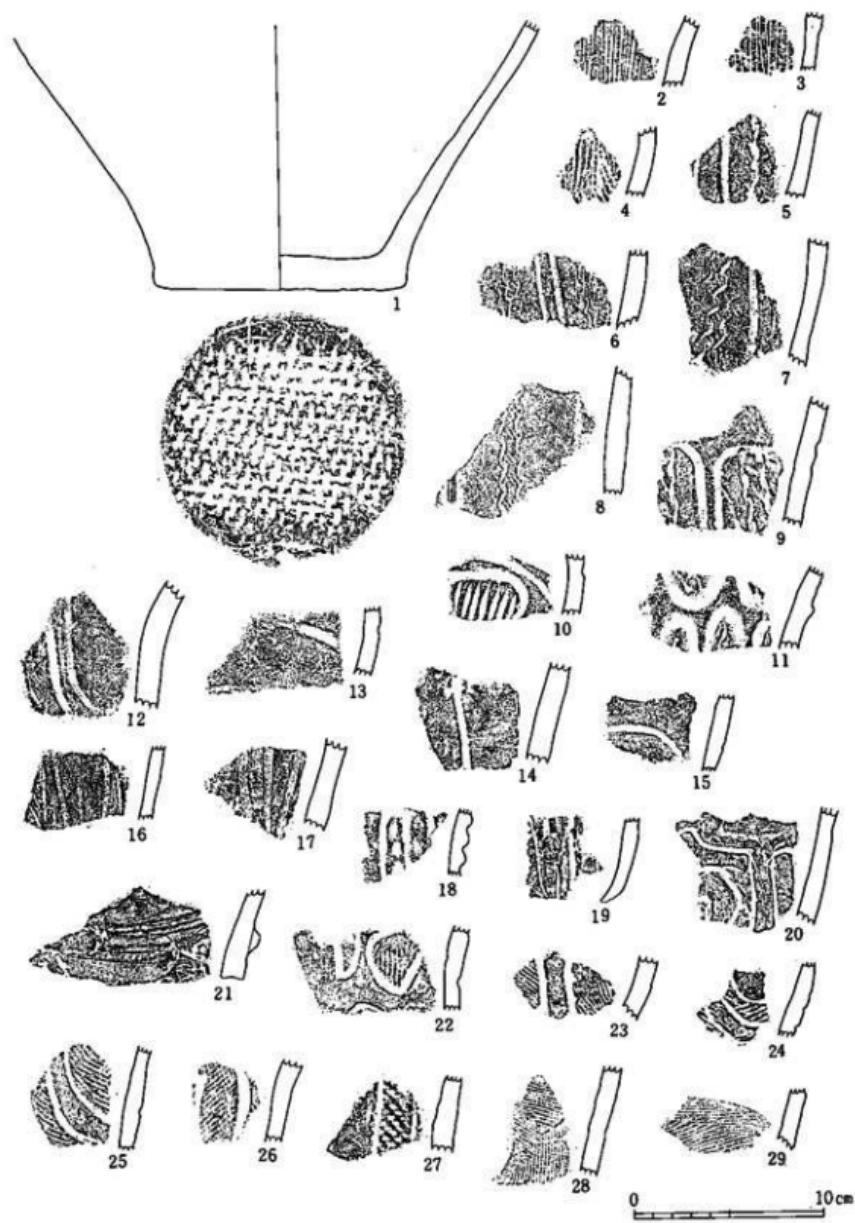
第60圖 92號住居址出土土器 (1 / 3)



第61図 土坑3(1)、土坑10(2~4)、土坑15(5~10)、土坑17(11~34)出土土器(1/3)



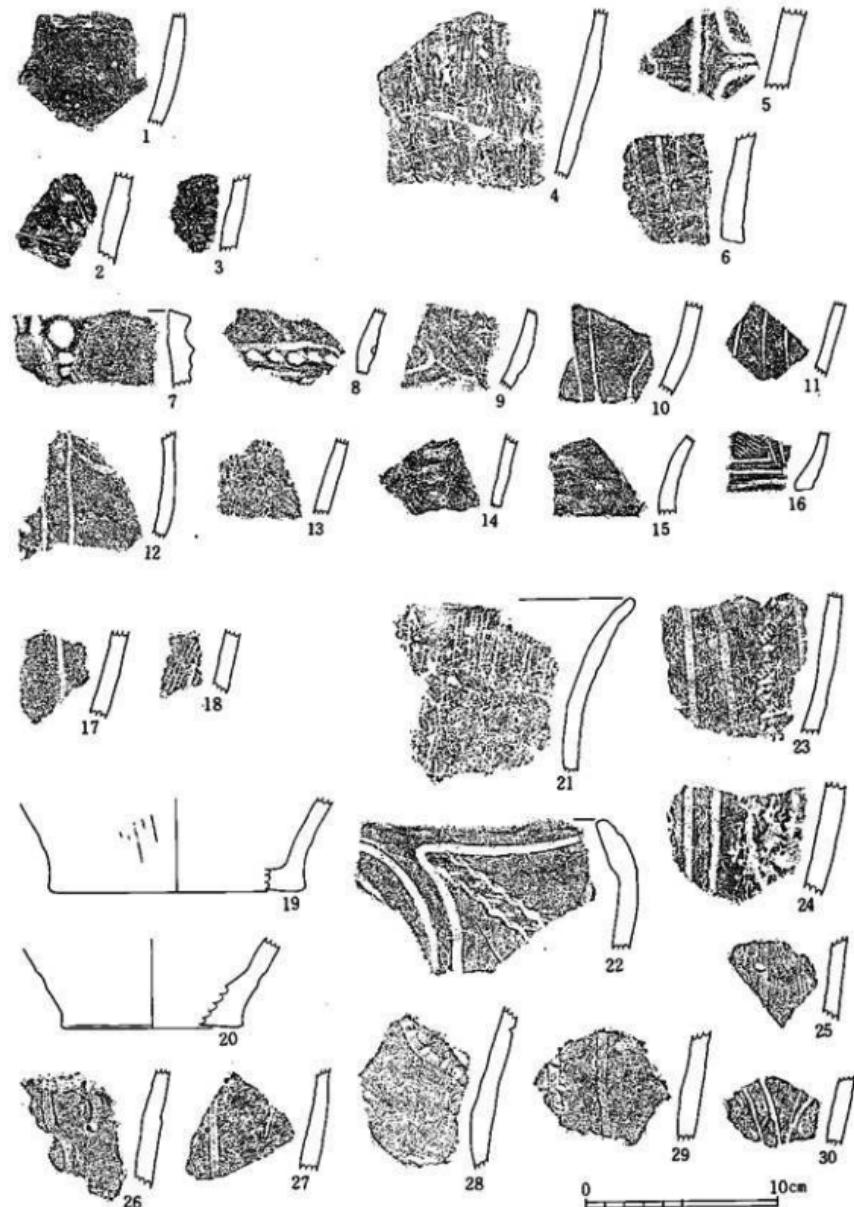
第62図 土坑18出土土器 (1/3)



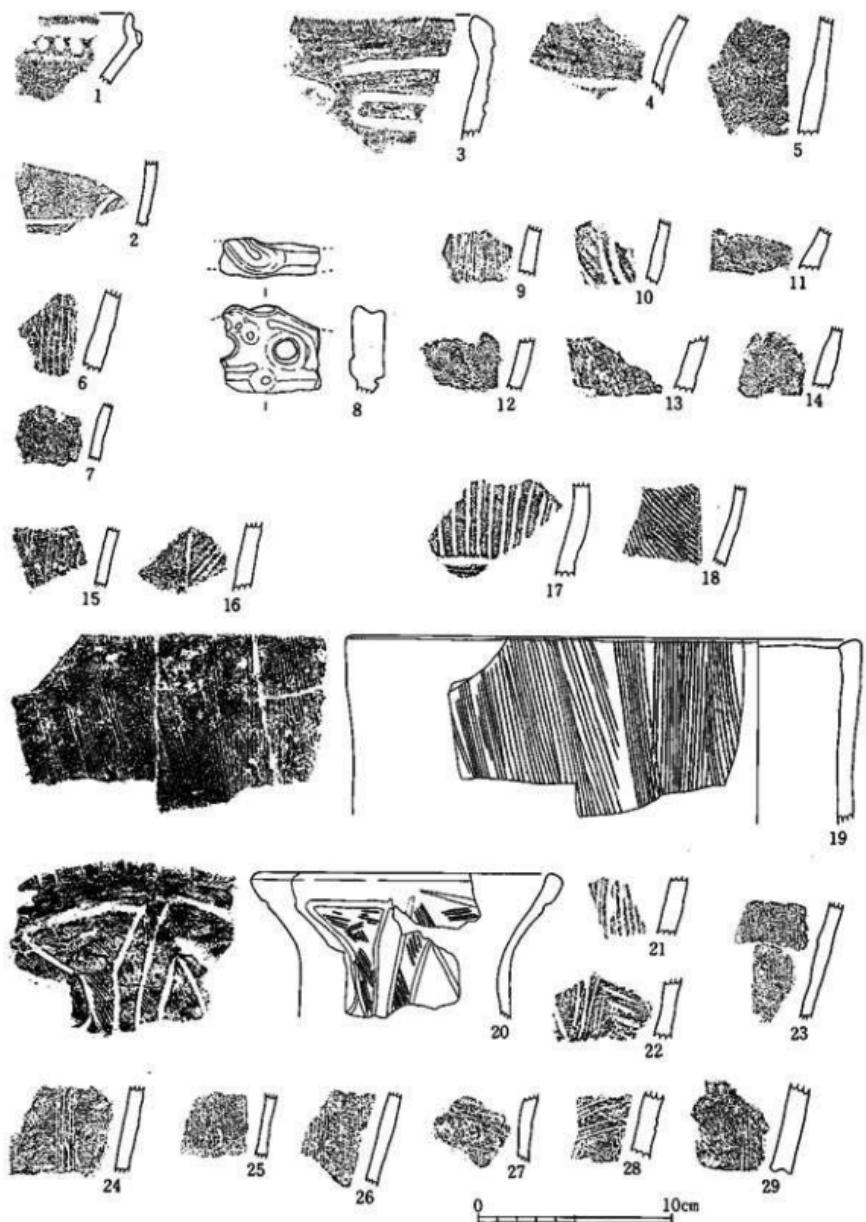
第63図 土坑18出土土器 (1 / 3)



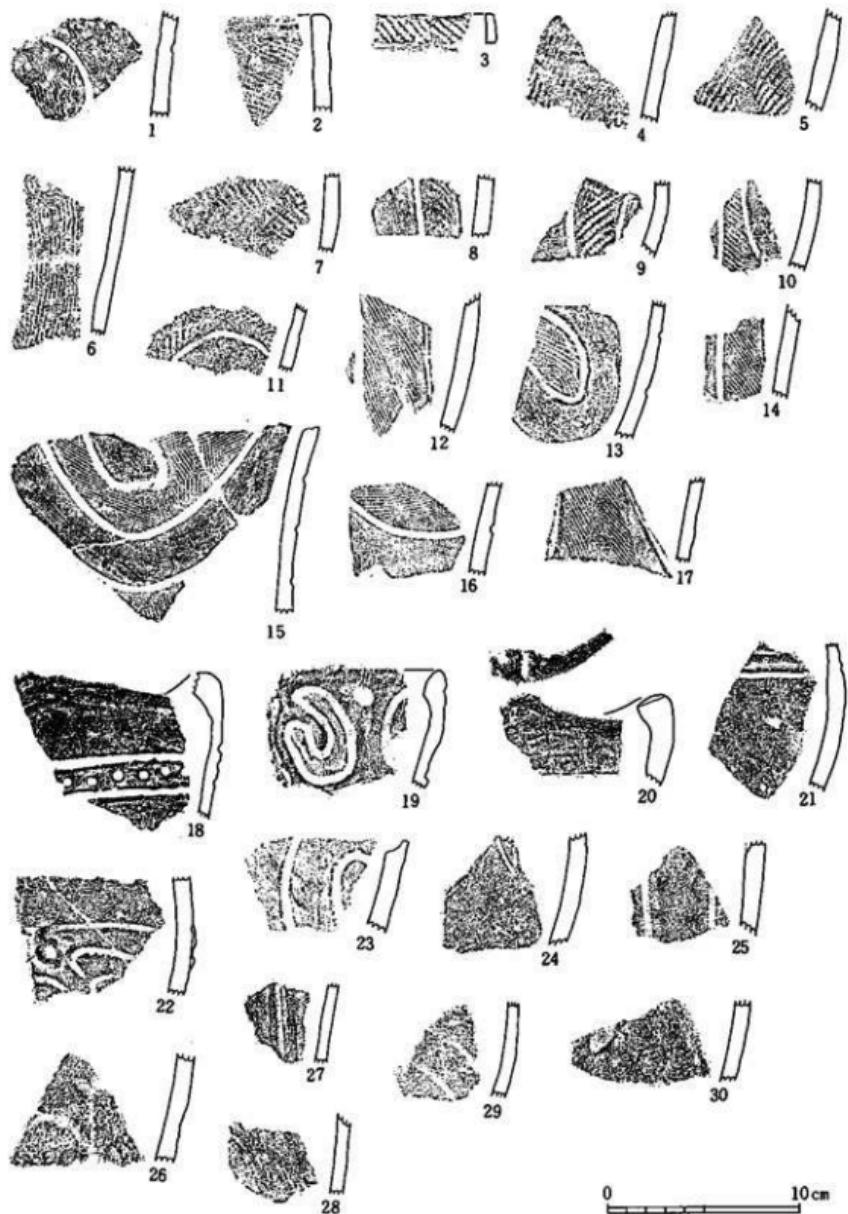
第64図 土坑19(1~6)、土坑20(7~17)、土坑24(18~19)、土坑26(20)、土坑29(21~23)、
土坑30(24~25)、土坑31(26~28)出土土器(1/3)



第65図 土坑32(1~3)、土坑33(4~6)、土坑34(7~16)、土坑35(17~18)、
土坑39(19~30)出土土器(1/3)



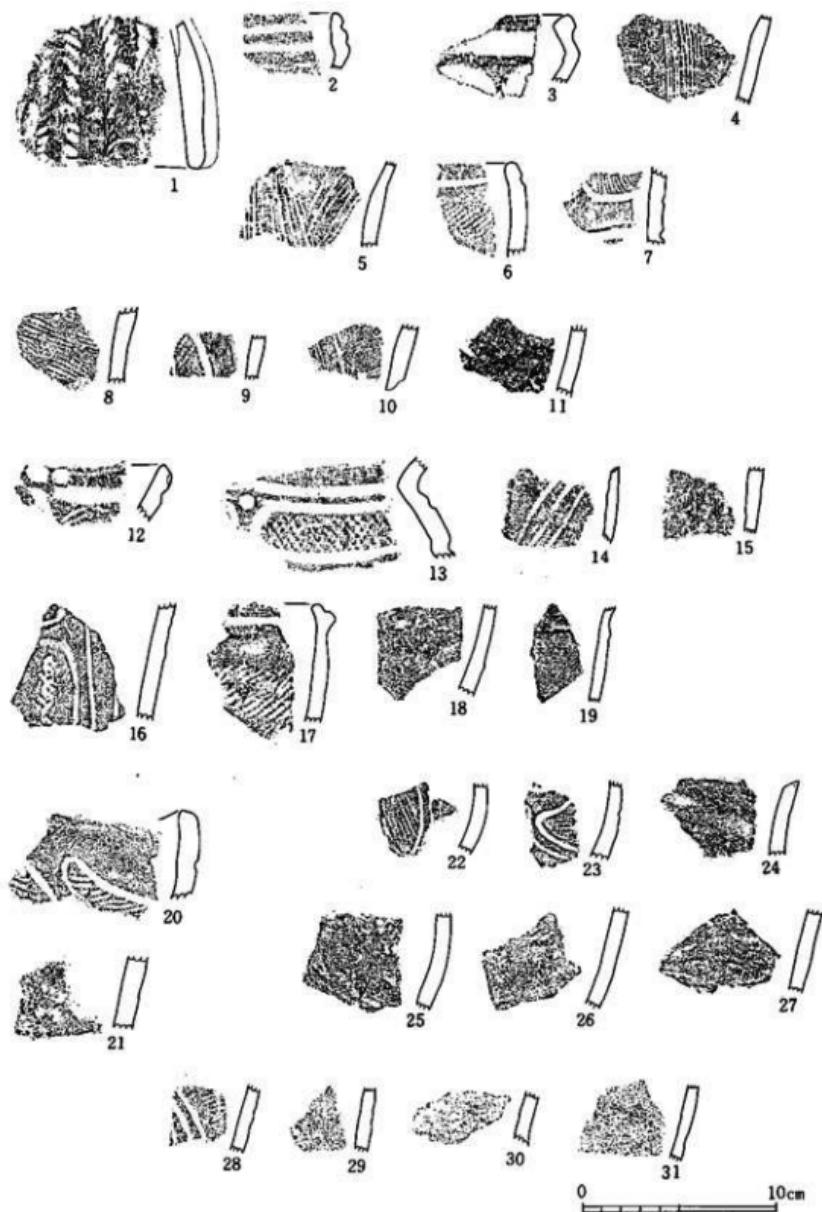
第66図 土坑41(1)、土坑44(2)、土坑45(3~5)、土坑46(6~7)、土坑50(8~14)、
土坑57(15~16)、土坑60(17~18)、土坑62(19~29)出土土器(1/3)



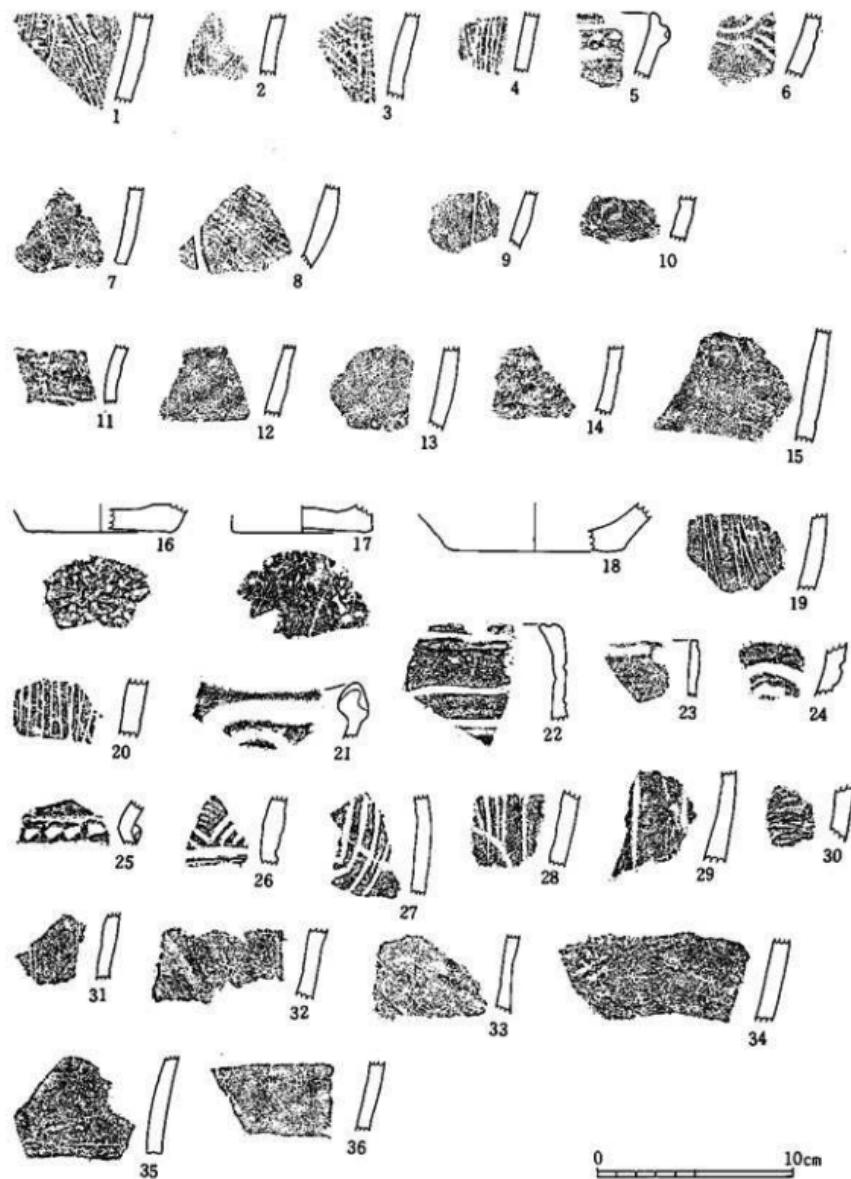
第67図 土坑62出土土器 (1 / 3)



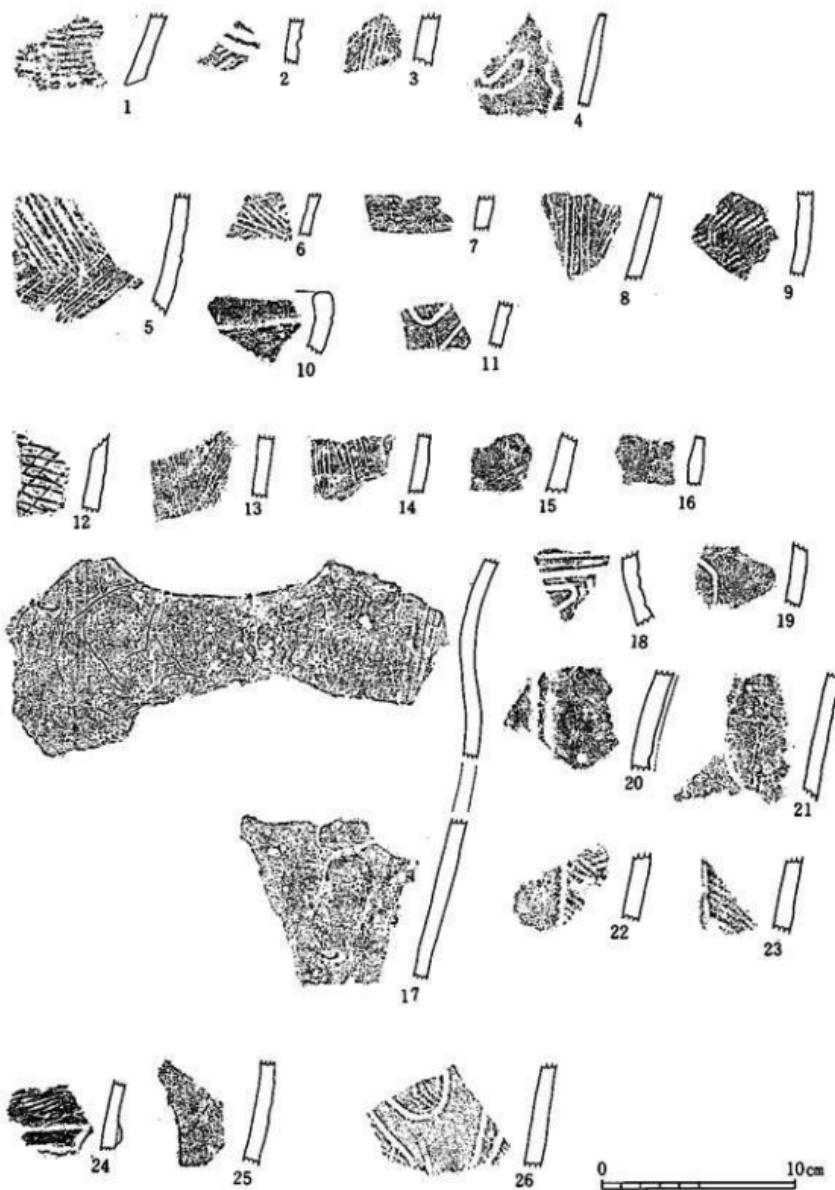
第68図 土坑63（1～6）、土坑65（7～11）、土坑67（12～14）、土坑68（15～18）、土坑71（19）、
土坑72（20）、土坑74（21・22）、土坑75（23・24）、土坑76（25～27）出土土器（1／3）



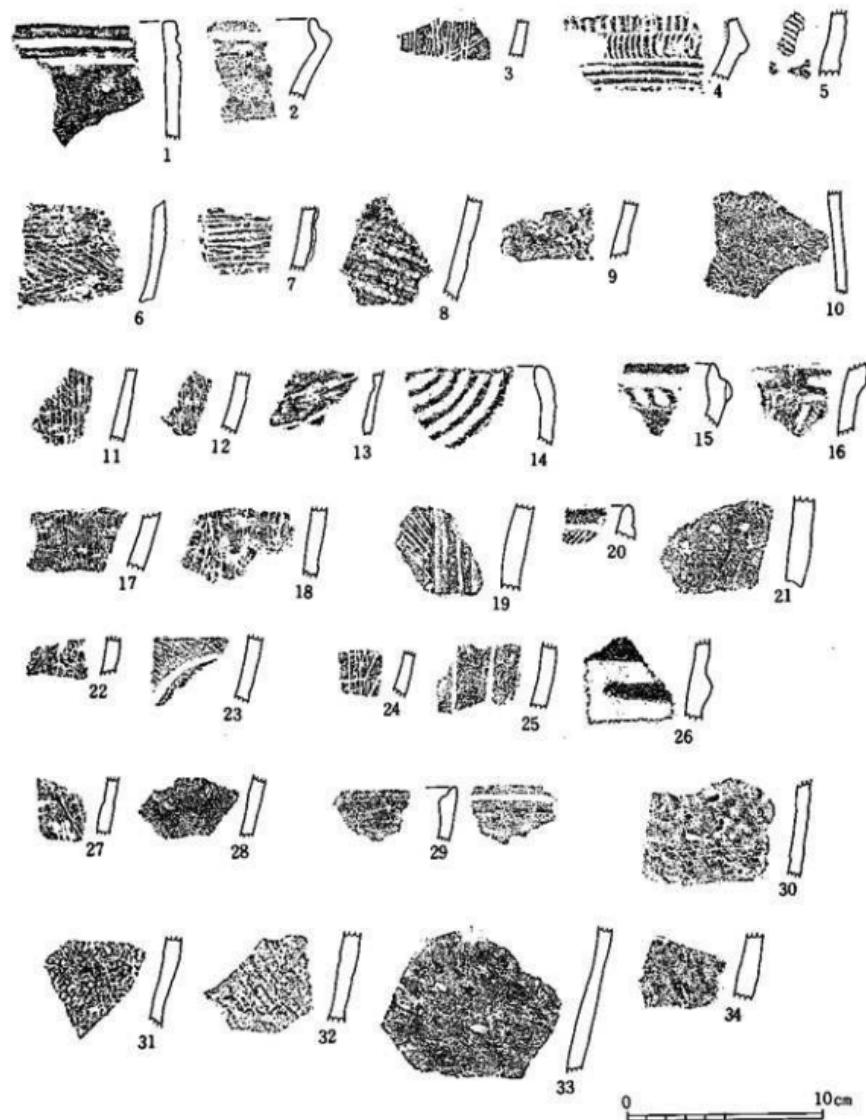
第69図 土坑77 (1・2)、土坑78 (3・4)、土坑79 (5~7)、土坑81 (8~11)、土坑86 (12~15)、
土坑88 (16~19)、土坑89 (20・21)、土坑90 (22~27)、土坑94 (28~31) 出土土器 (1/3)



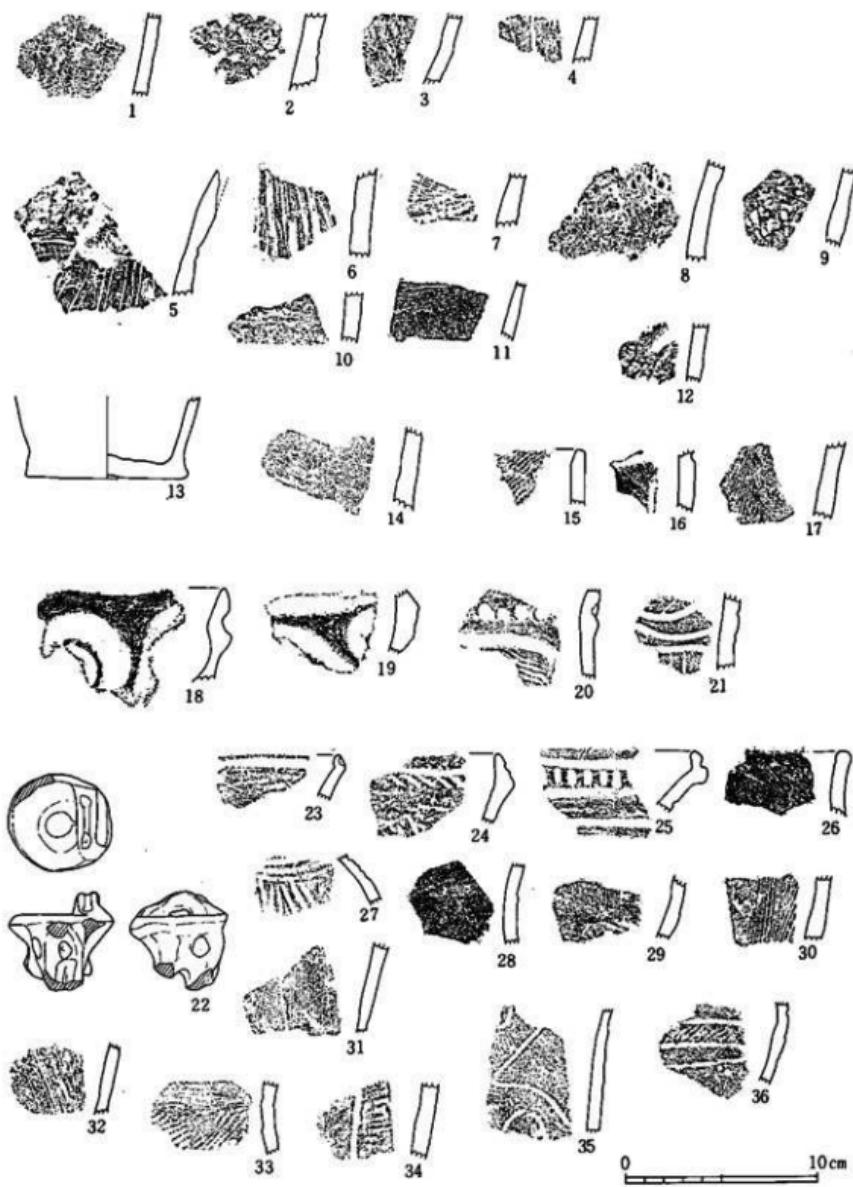
第70図 土坑97(1~8)、土坑98(9~10)、土坑99(11~15)、土坑100(16~36)出土土器(1/3)



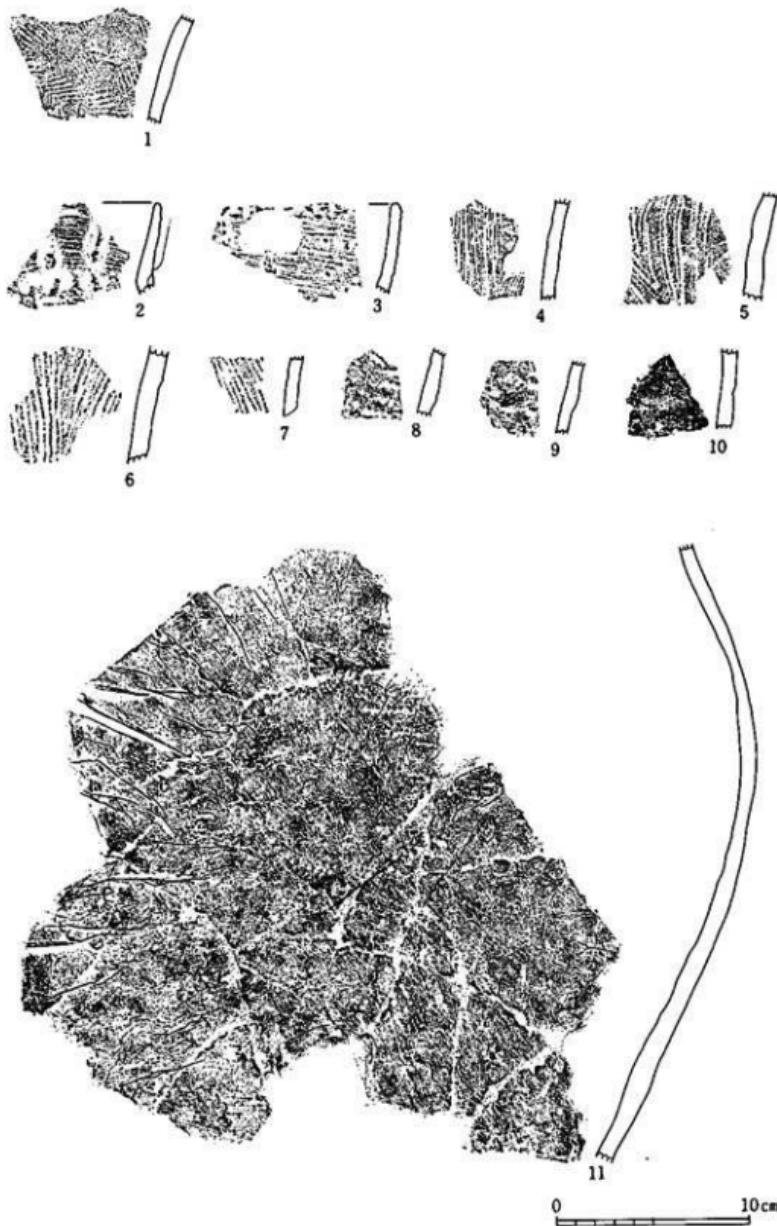
第71図 土坑102(1~4)、土坑103(5~11)、土坑104(12~23)、土坑105(24~25)、
土坑107(26)出土土器(1/3)



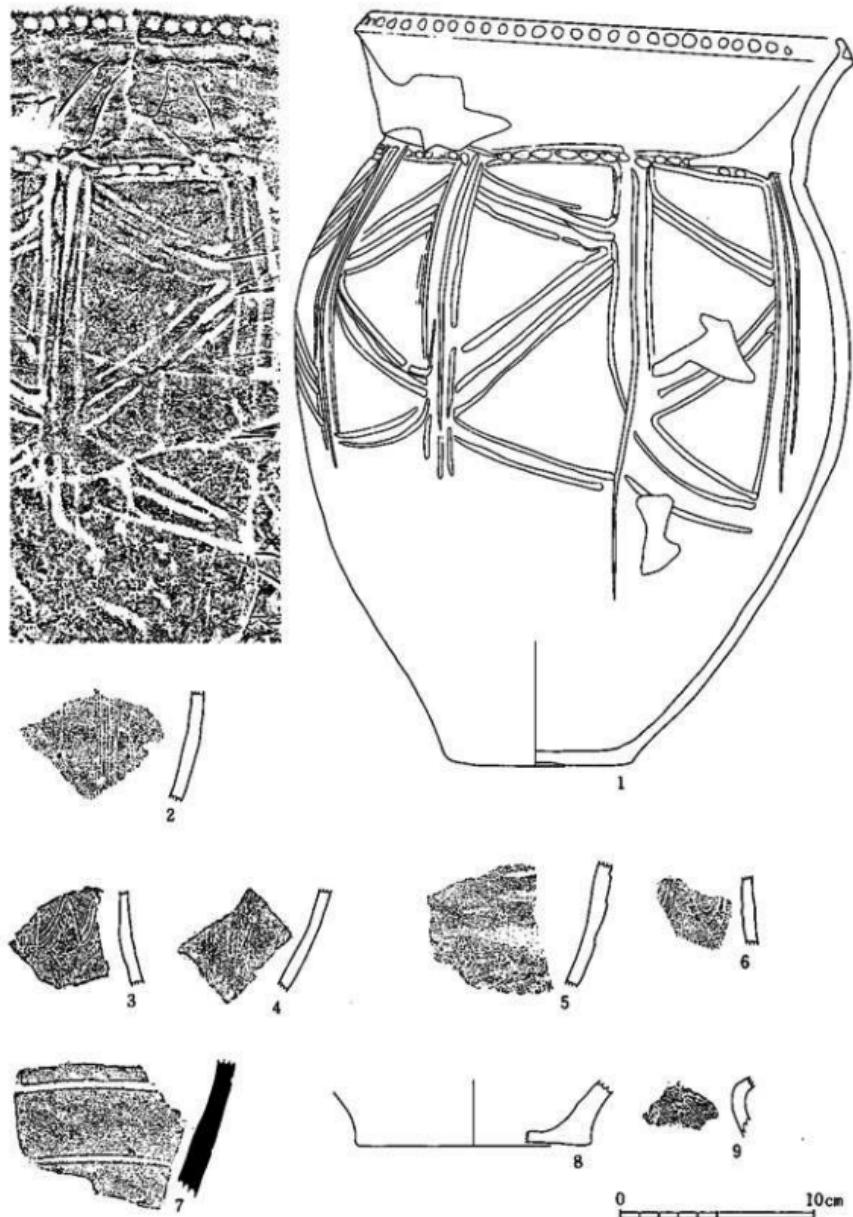
第72図 土坑I08 (1, 2)、土坑I09 (3~5)、土坑II1 (6~9)、土坑II2 (10)、土坑II3 (11~14)、
土坑II4 (17~18)、土坑II6 (15~16)、土坑II8 (19~21)、土坑II9 (22~23)、土坑II0(24~
26)、土坑II1 (27~28)、土坑II3 (29)、土坑II8 (30)、土坑II3 (31~34) 出土土器 (1/3)



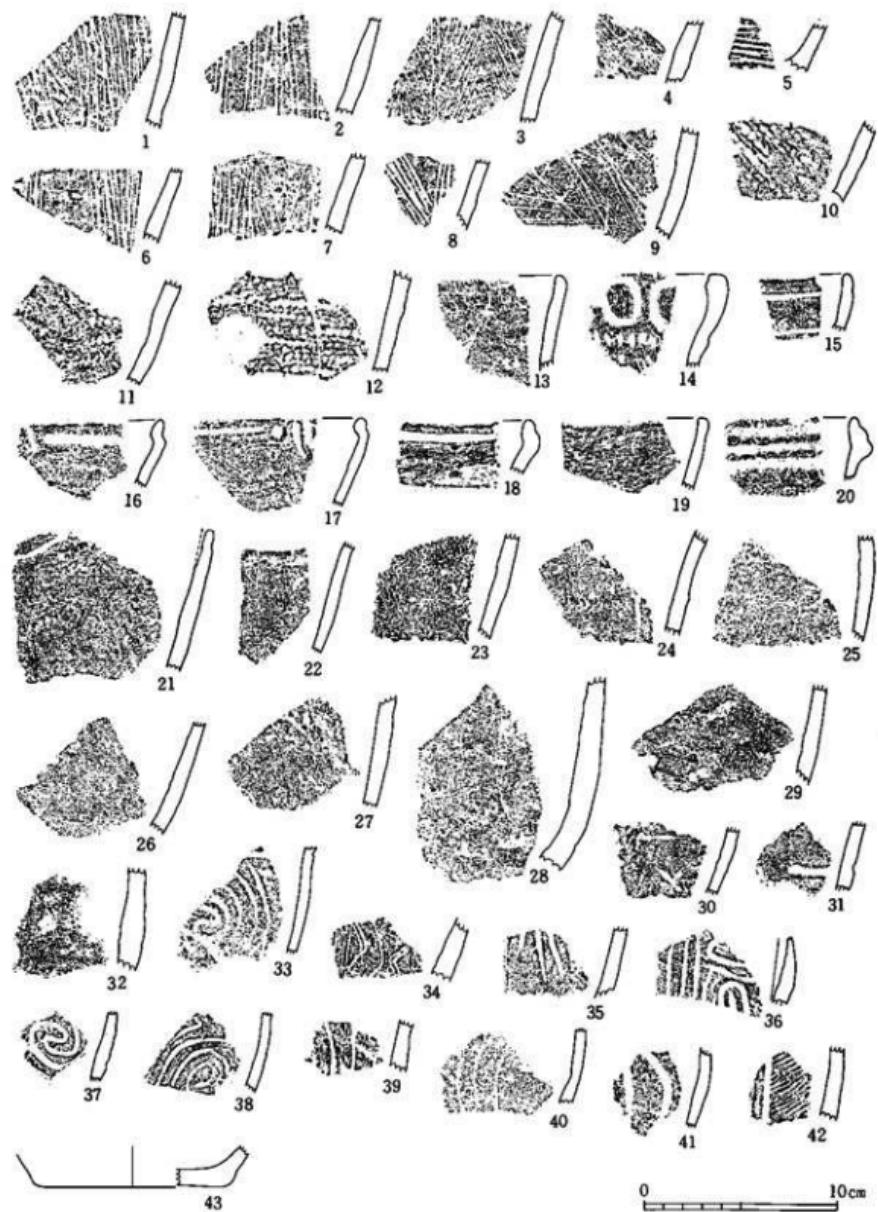
第73図 土坑135（1～4）、土坑137（5～11）、土坑139（12）、土坑140（13）、土坑142（14～17）、
土坑144（15～17）、土坑143（18～21）、土坑146（22～32）出土土器（1／3）



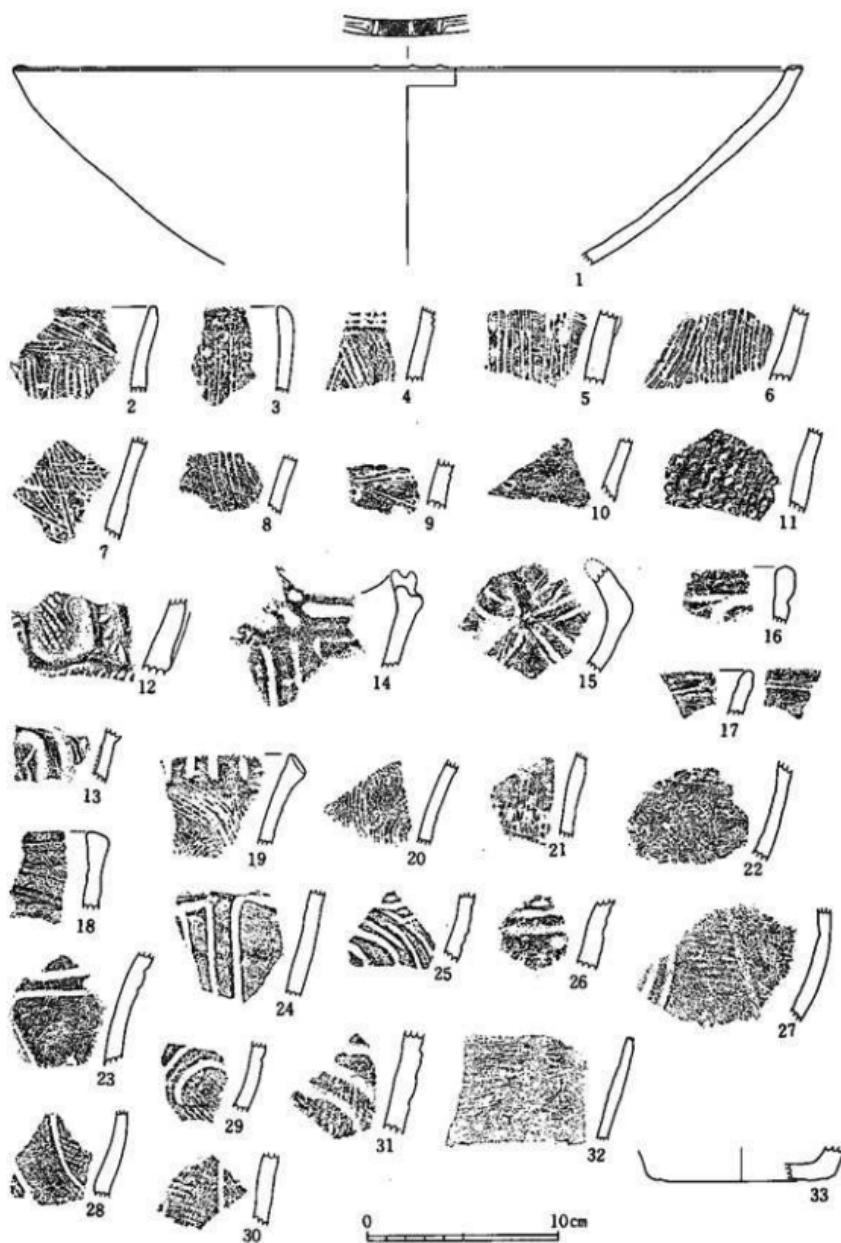
第74図 土坑150(1)、土坑152(2~10)、土坑154(11)出土土器(1/3)



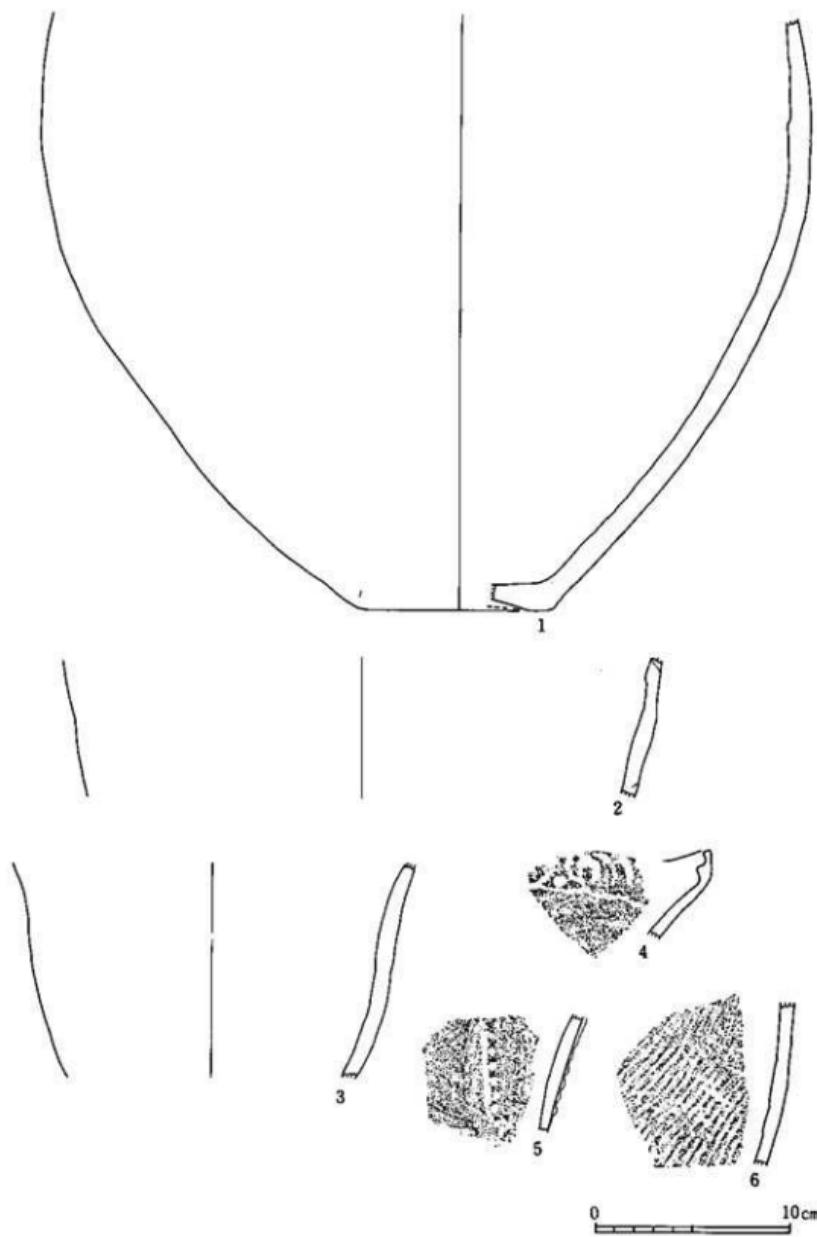
第75図 土坑155 (1・2)、土坑21 (3・4)、土坑70 (5・6)、土坑110 (7)、
竪穴状遺構1 (8・9) 出土土器 (1／3)



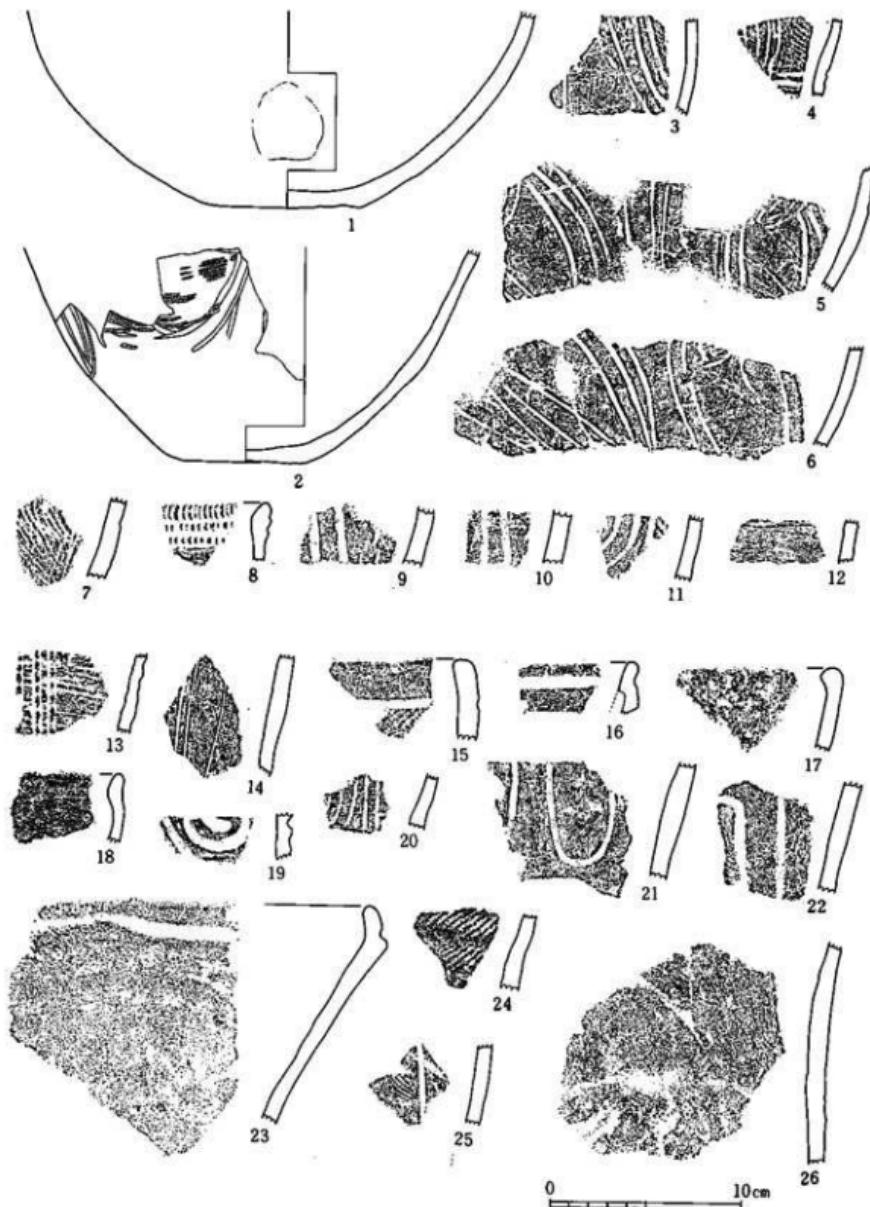
第76図 配石I出土土器 (1/3)



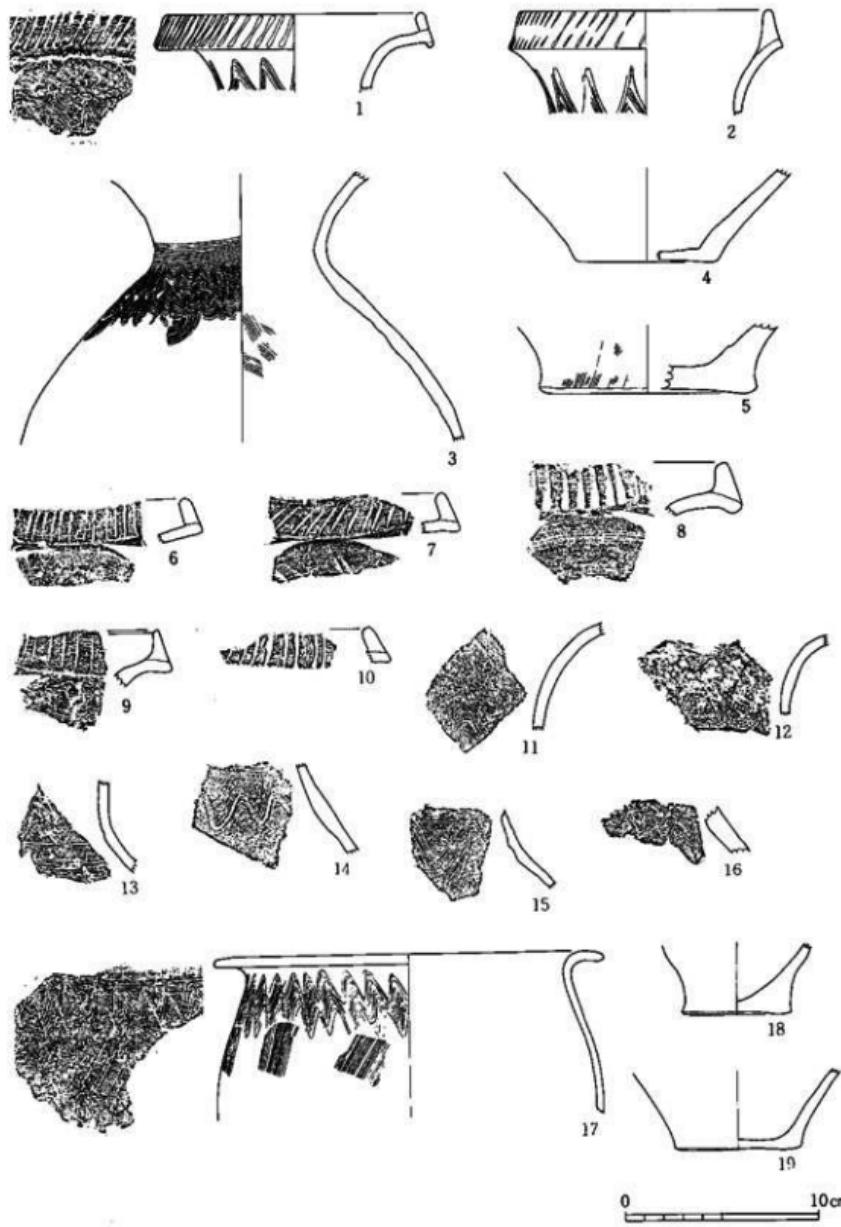
第77図 配石2出土土器 (1/3)



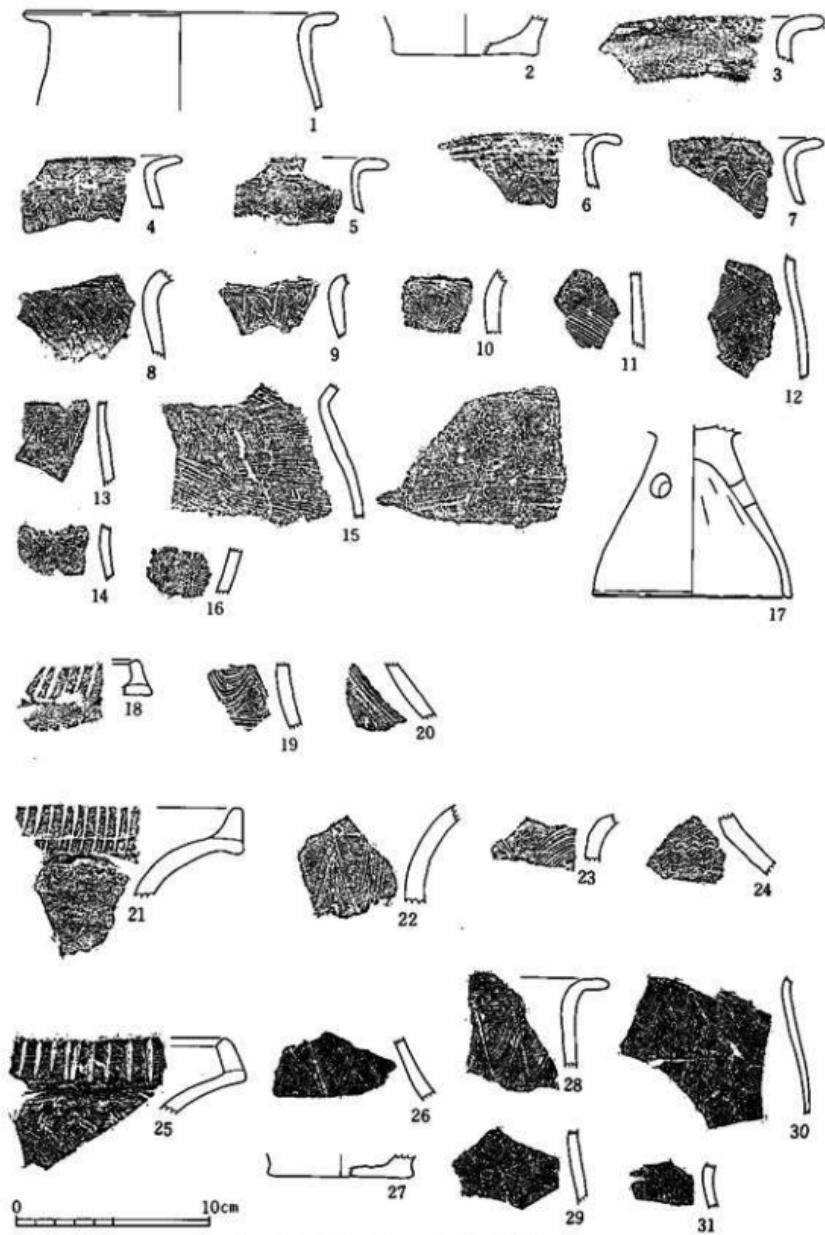
第78図 埋設土器Ⅰ出土土器 (1/3)



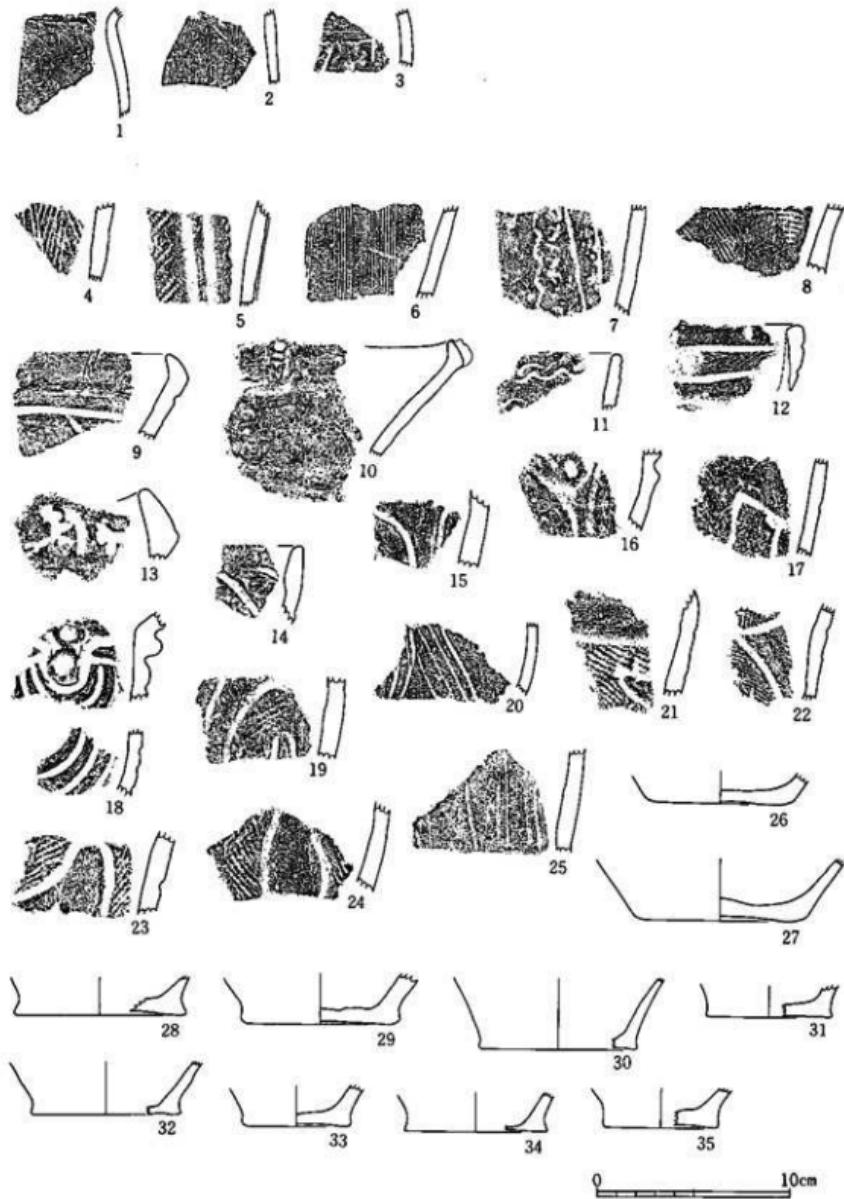
第79図 埋設土器 1 (1~6)、ロームマウンド 1 (7~12)、ロームマウンド 2 (13~26) 出土土器 (1/3)



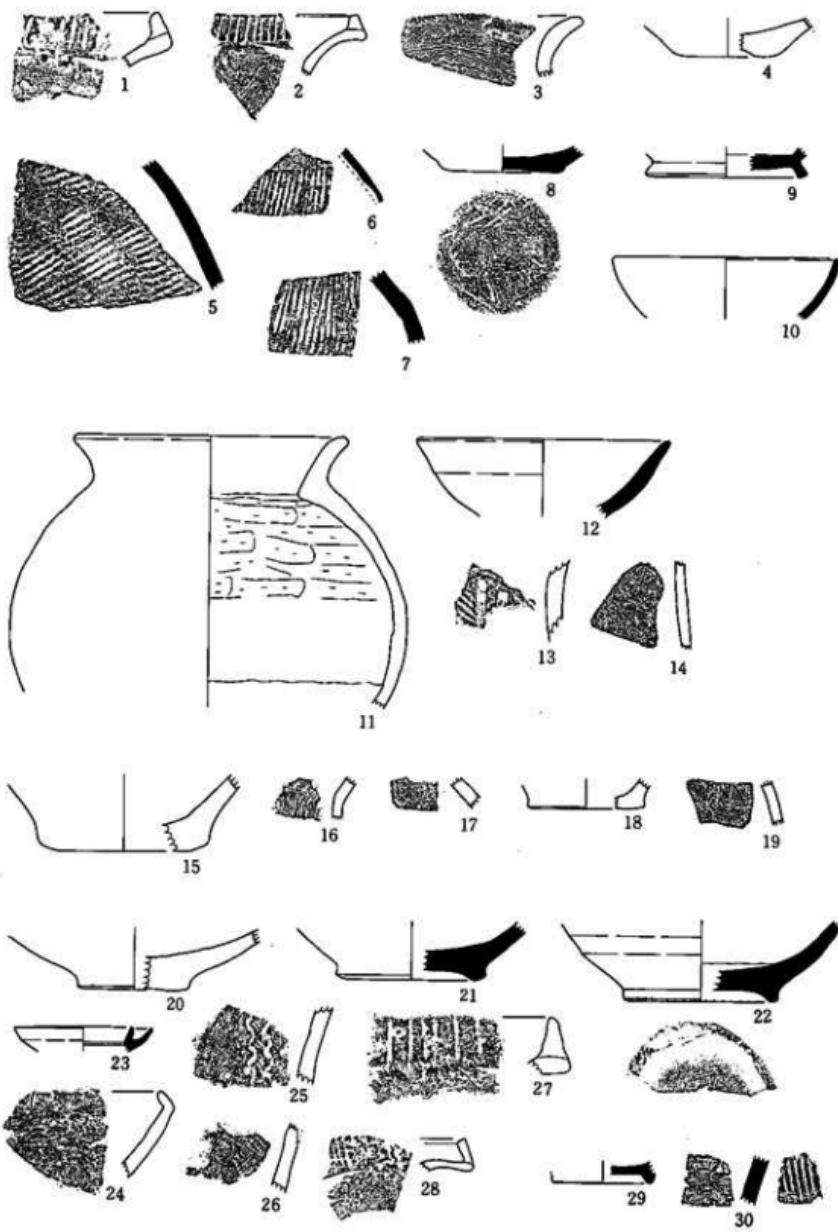
第80図 方形周溝墓I出土土器(1/3)



第81図 方形周溝墓I（1～17）、円形周溝墓I（18～20）、
圓溝址2（21～24）、圓溝址3（25～31）出土土器（1／3）



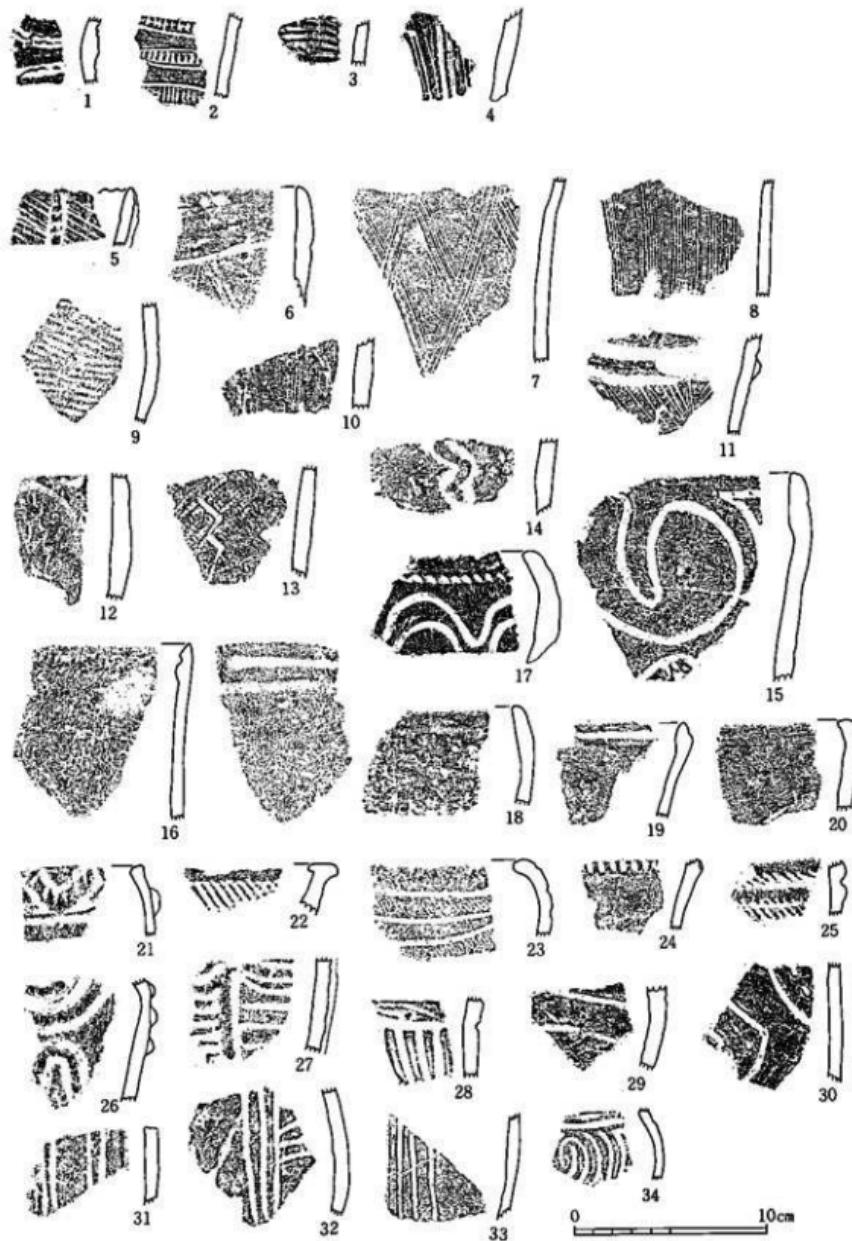
第82圖 圈溝址 3、溝址 3 出土土器 (1 / 3)



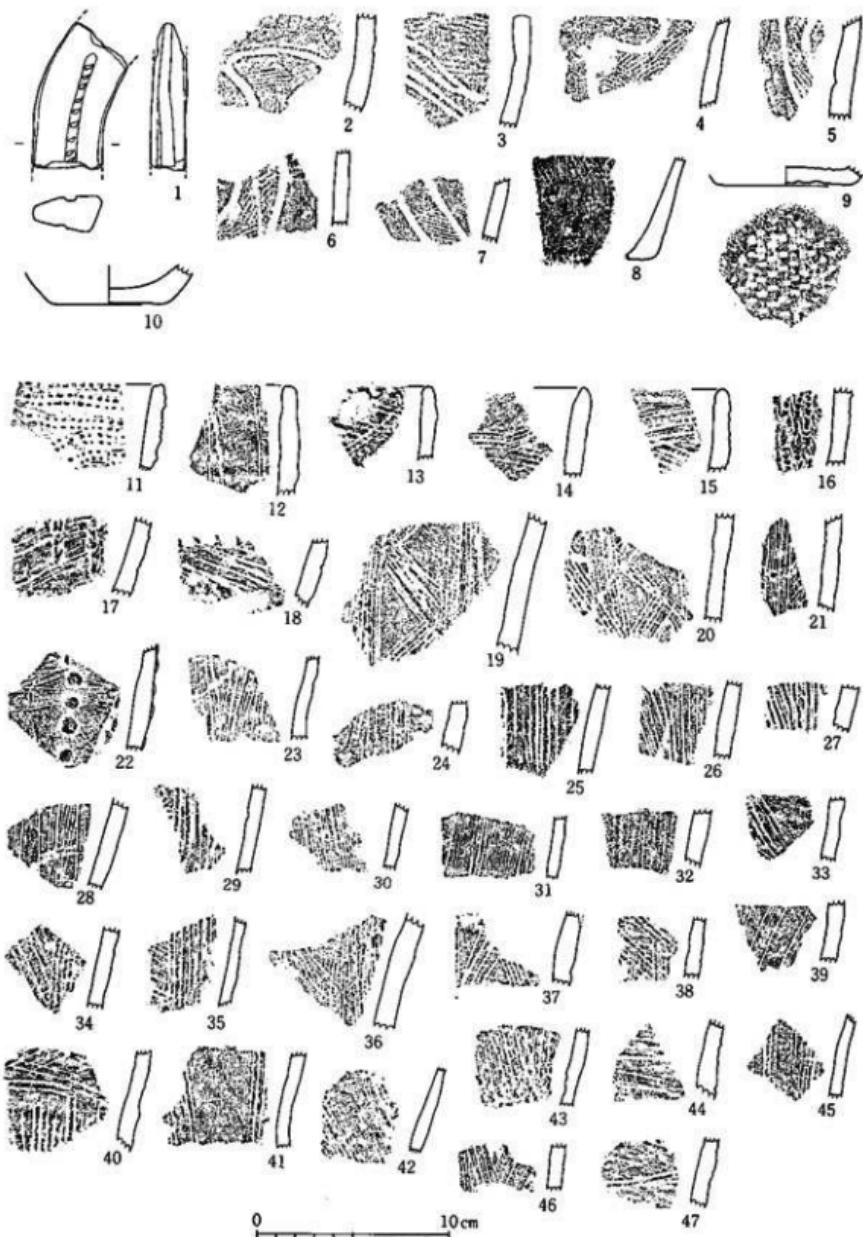
第83図 溝址3(1~10)、建物址2(11~14)、建物址3(15~19)、
建物址4(20~28)、建物址5(29~30)出土土器(1/3)



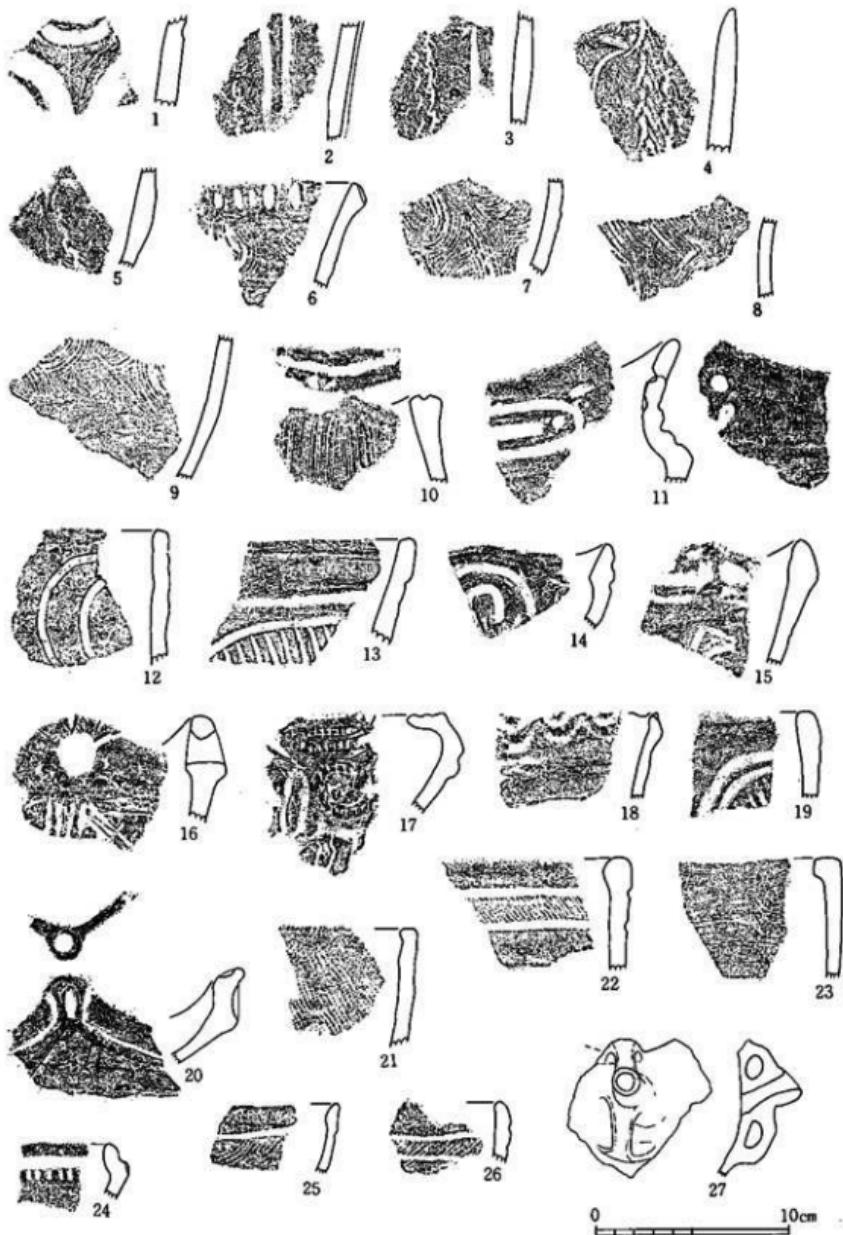
第84図 柱穴群1（1・2）、柱穴群2（3・4）、柱穴群3（5）、柱穴群4（9・10）、
柱穴群5（6～8）、IV区柱穴（11～23）、柱穴列1（24・25）出土土器（1／3）



第85圖 遺構外I区(1~4)、II区(5~34)出土土器(1/3)



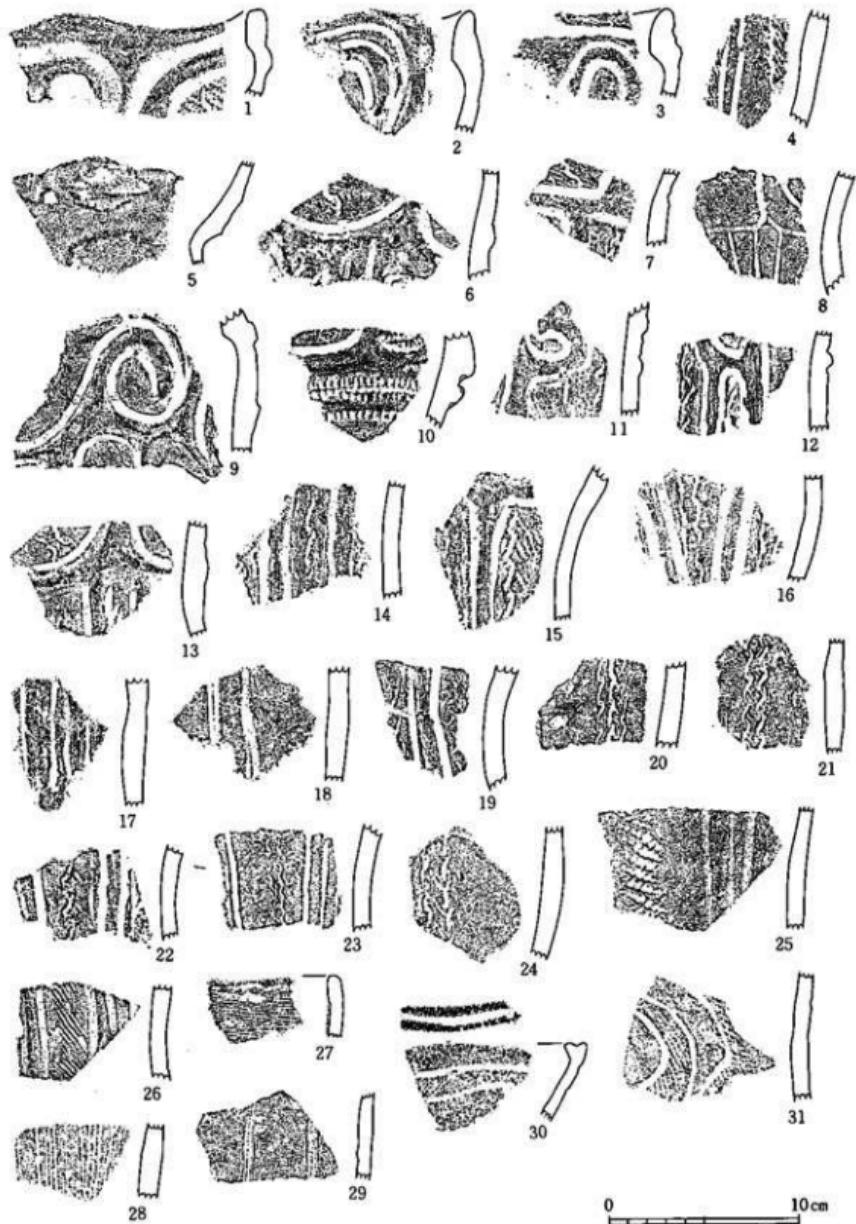
第86図 造縄外II区(1~10)、III区(11~47)出土土器(1/3)



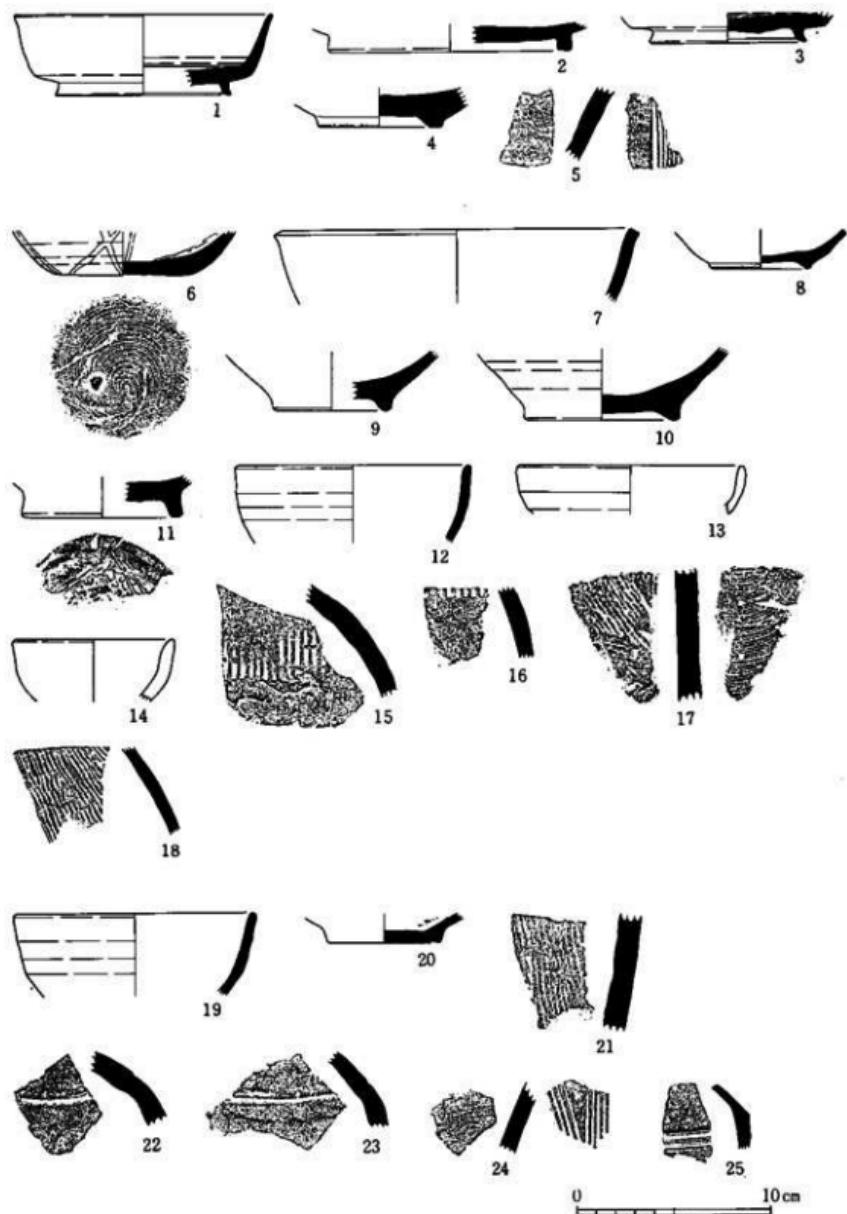
第87図 造横外Ⅲ区出土土器 (1/3)



第88圖 遺構外Ⅲ區出土土器 (1/3)



第89図 造模外（83号住居址内）出土土器（1／3）



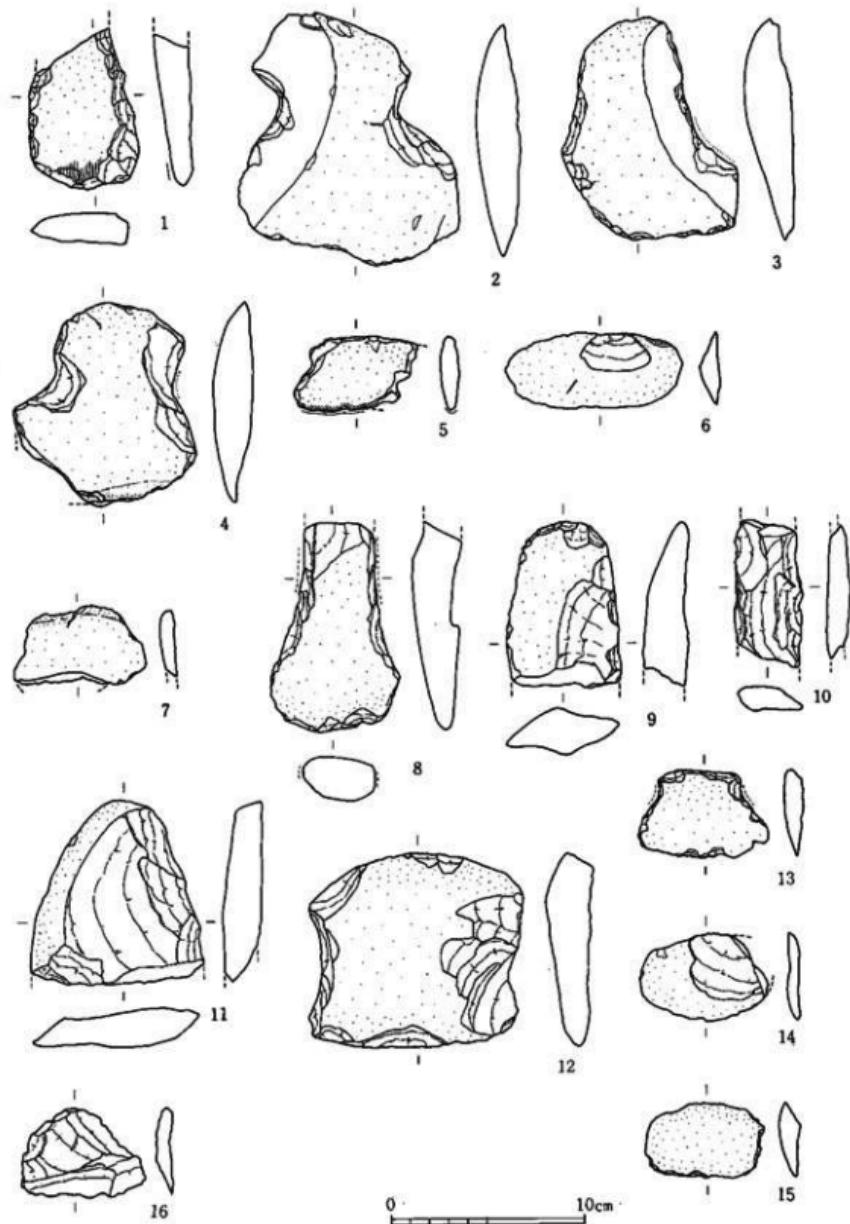
第90図 遺構外Ⅰ区（1～5）、Ⅱ区（6～18）、Ⅲ区（19～25）出土土器（1／3）



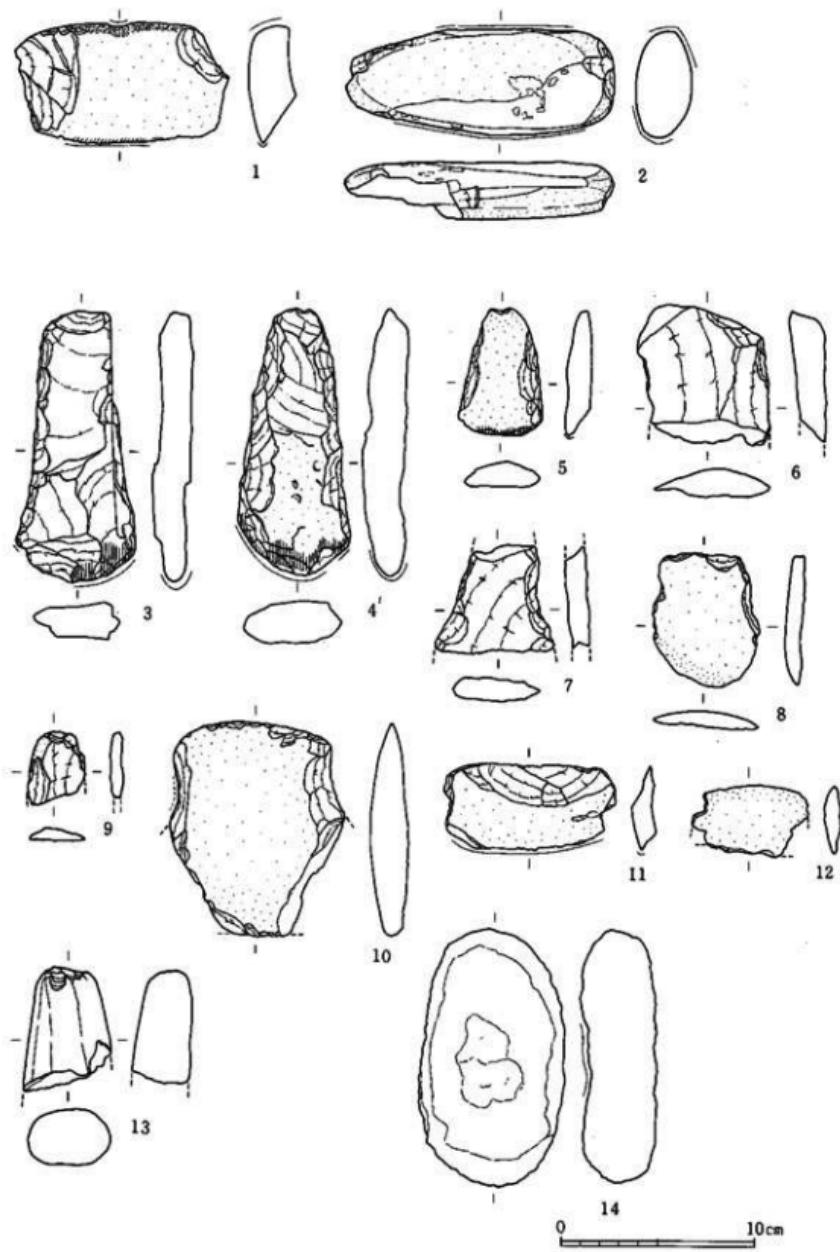
第91図 14号住居址(1・2)、58号住居址(3~6)、67号住居址(7・8)、
68号住居址(9~11)、77号住居址(12・13) 出土石器(1/3)



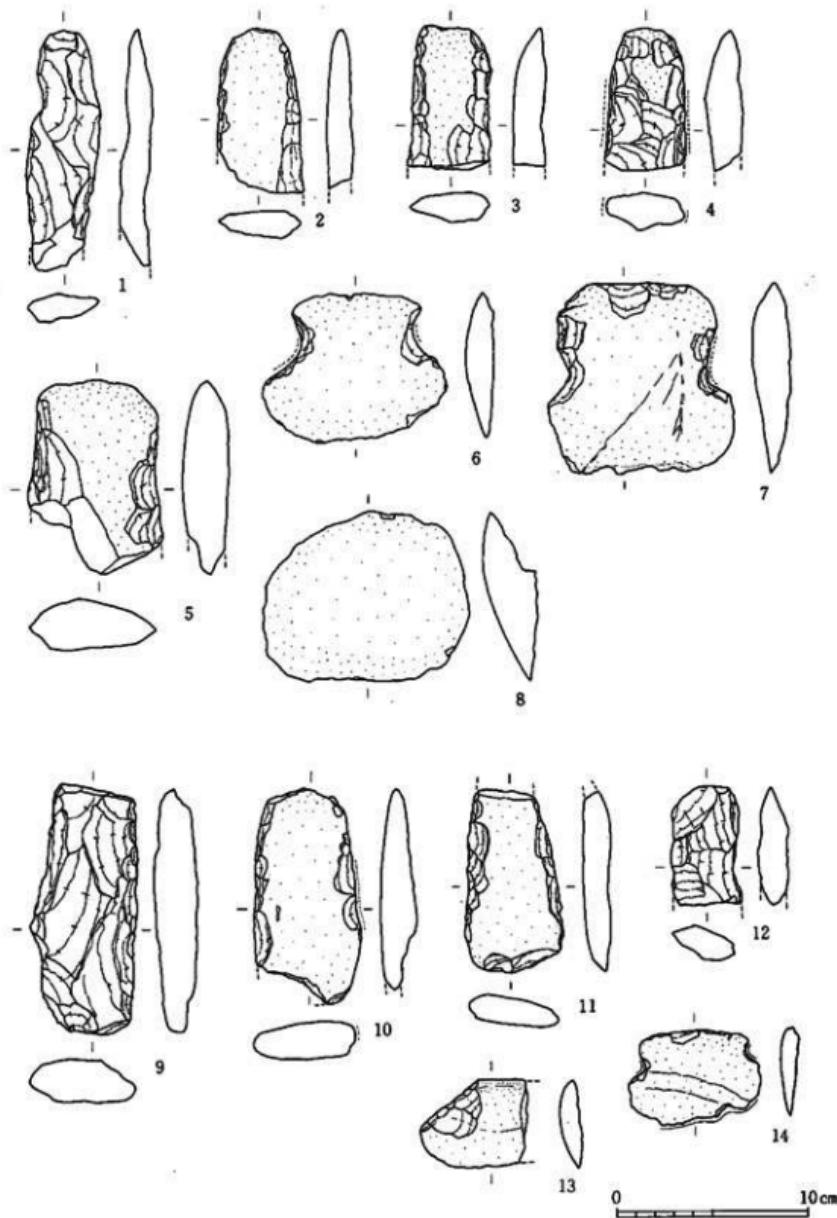
第92圖 99號住居址（1～6）、1號住居址（7）、5號住居址（8）、7號住居址（9～11）、
9號住居址（12）、10號住居址（13）出土石器（1／3）



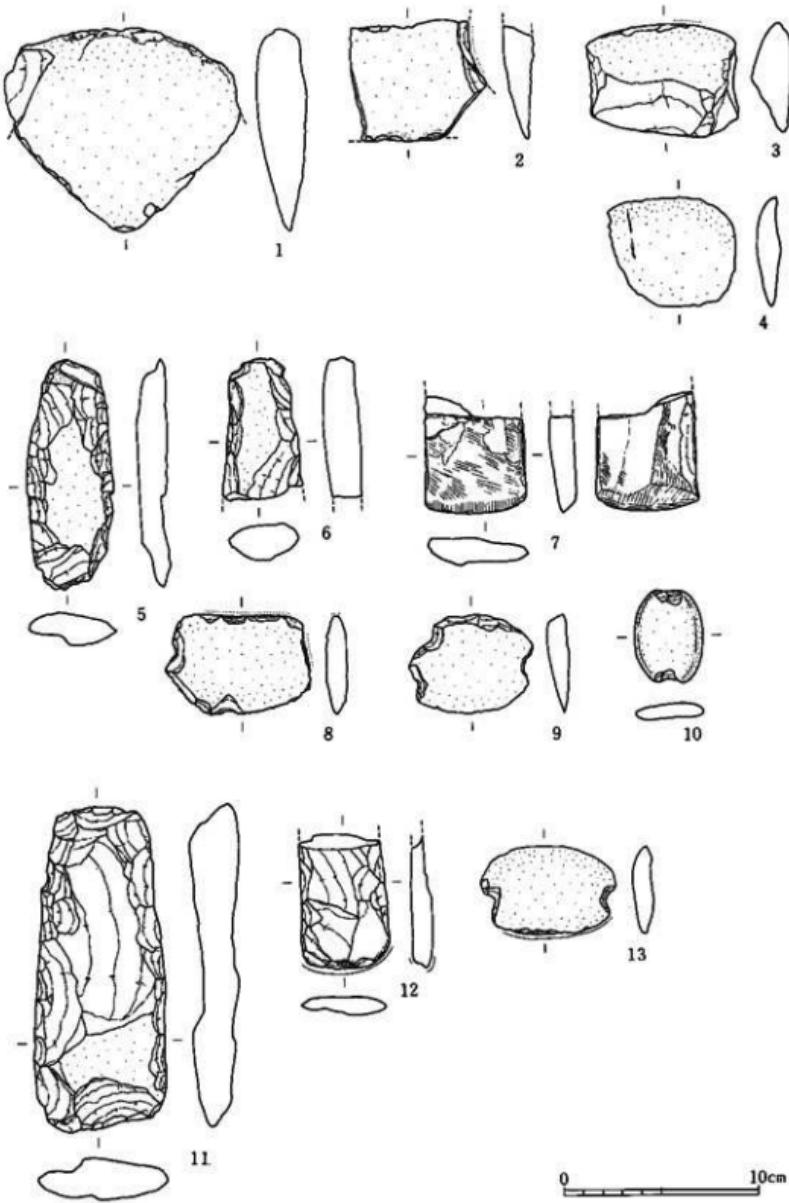
第93圖 11號住居址(1~6)、12號住居址(7)、15號住居址(8~16)出土石器(1/3)



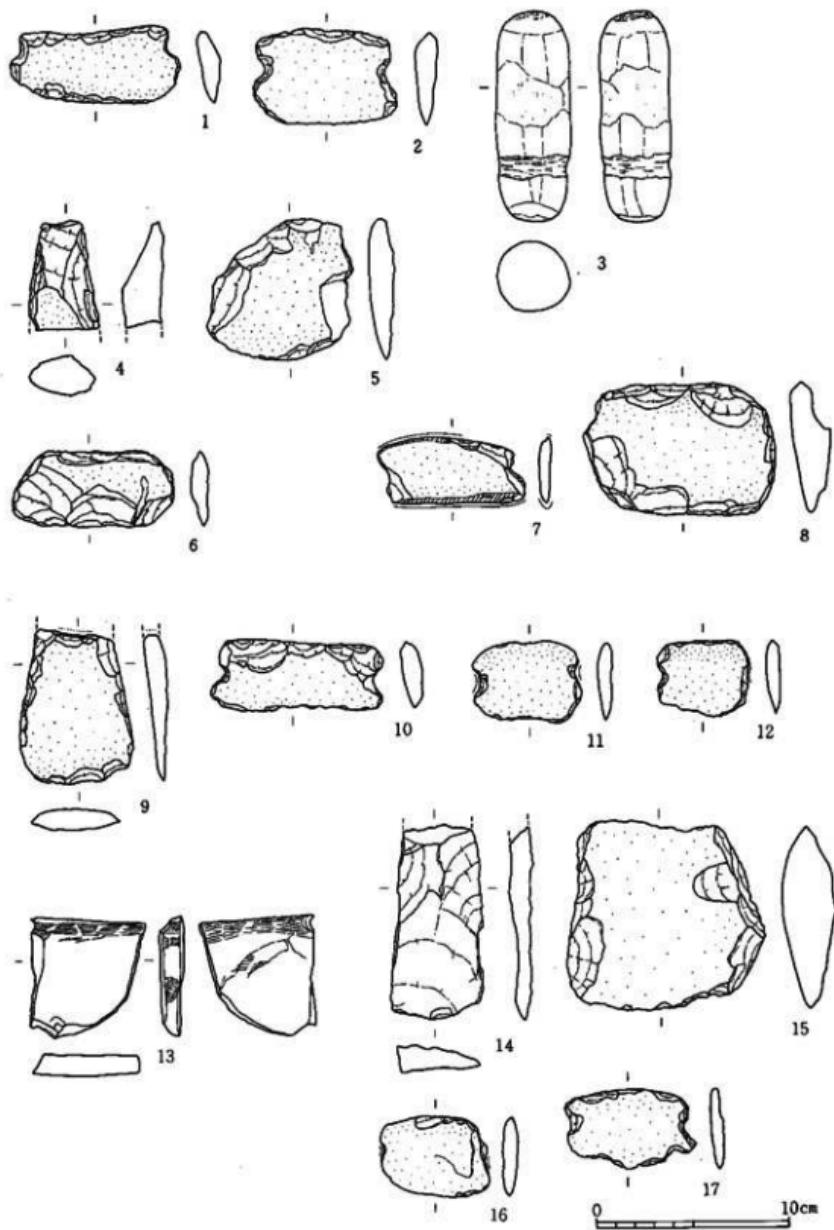
第94圖 15号住居址（1・2）、16号住居址（3～14）出土石器（1／3）



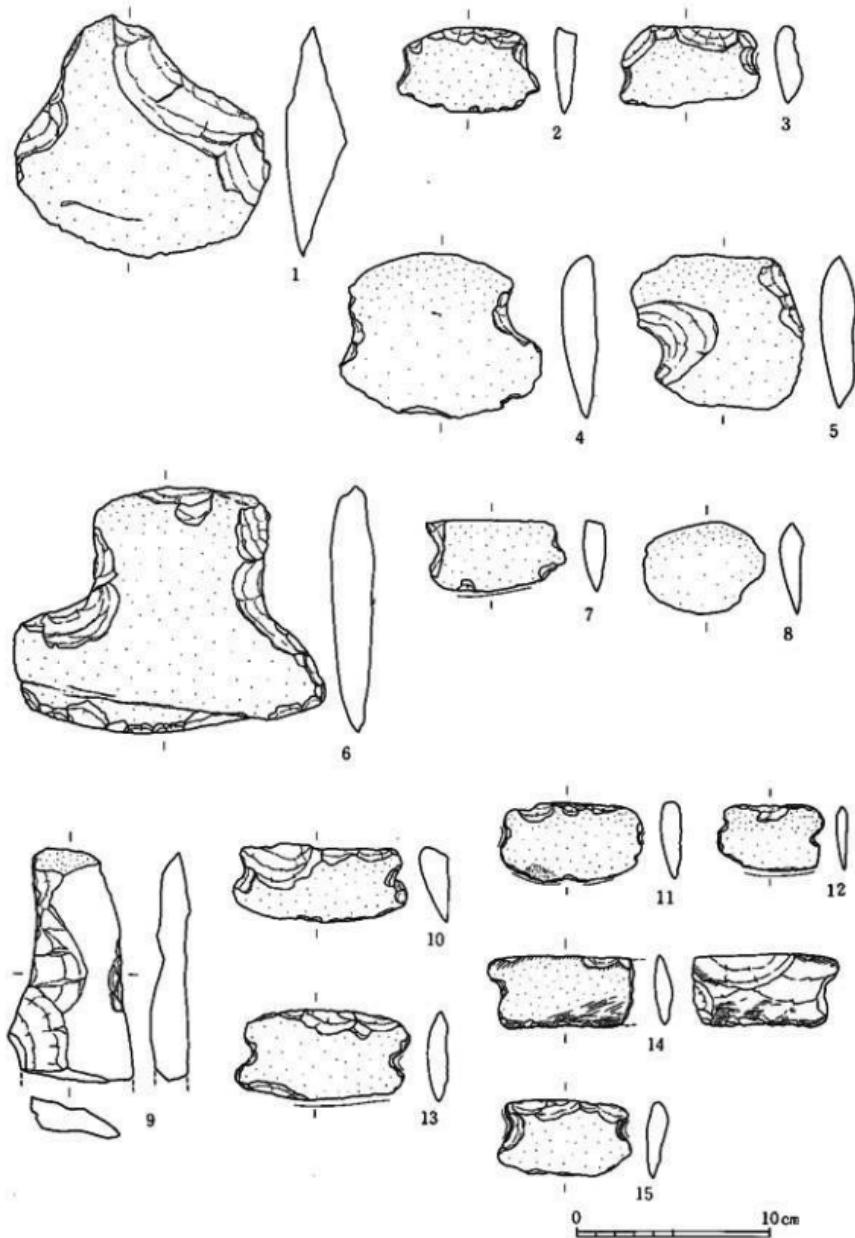
第95図 17号住居址（1～8）、18号住居址（9～14）出土石器（1／3）



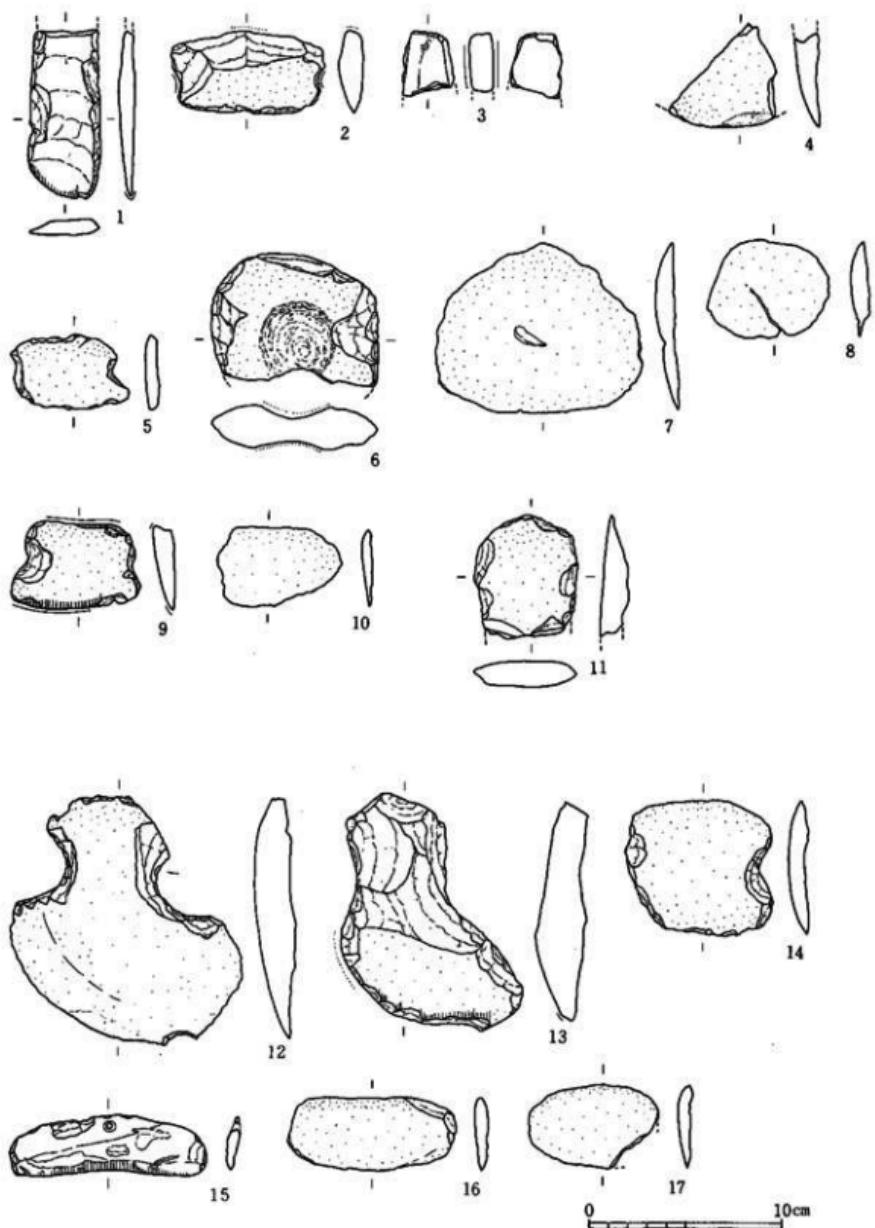
第96図 18号住居址（1～4）、19号住居址（5～10）、20号住居址（11～13）出土石器（1／3）



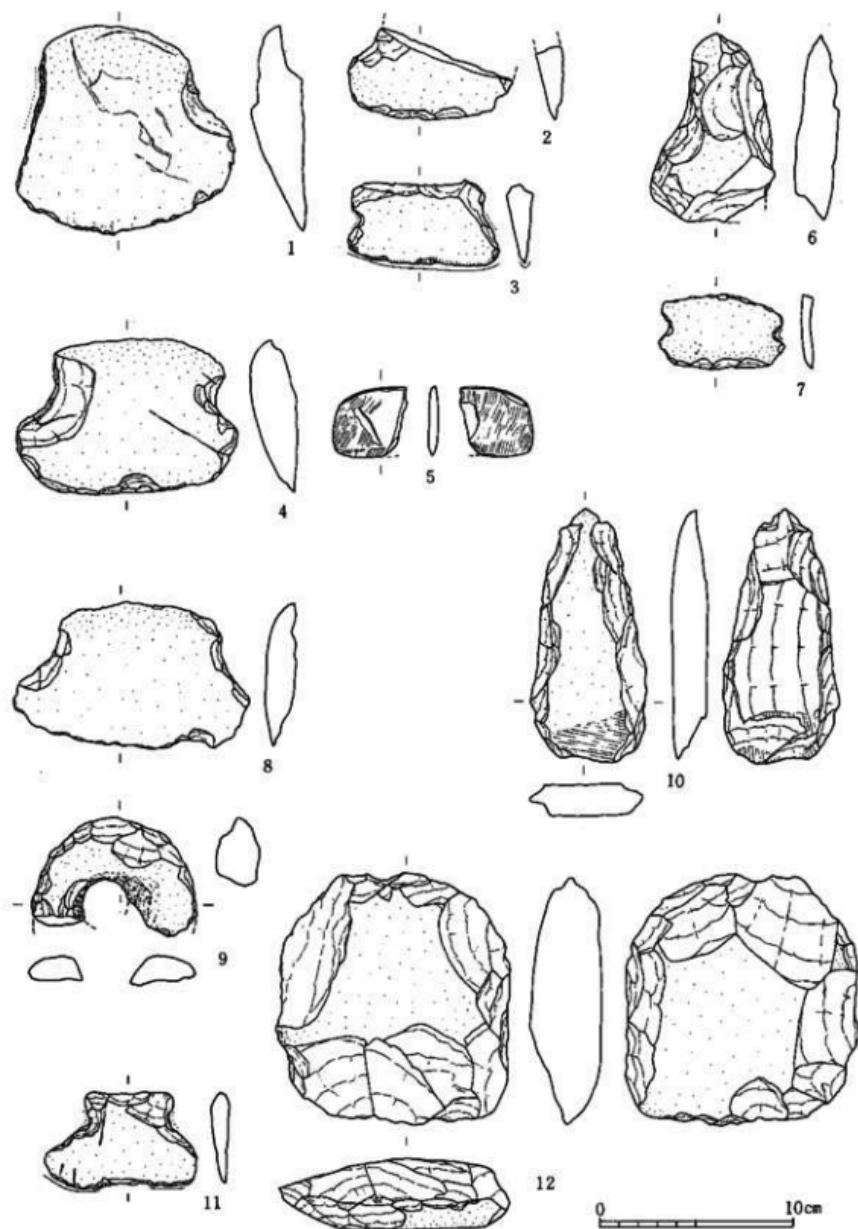
第97図 21号住居址 (1~3)、22号住居址 (4~6)、26号住居址 (7~8)、
30号住居址 (9~12)、32号住居址 (13)、33号住居址 (14~17) 出土石器 (1/3)



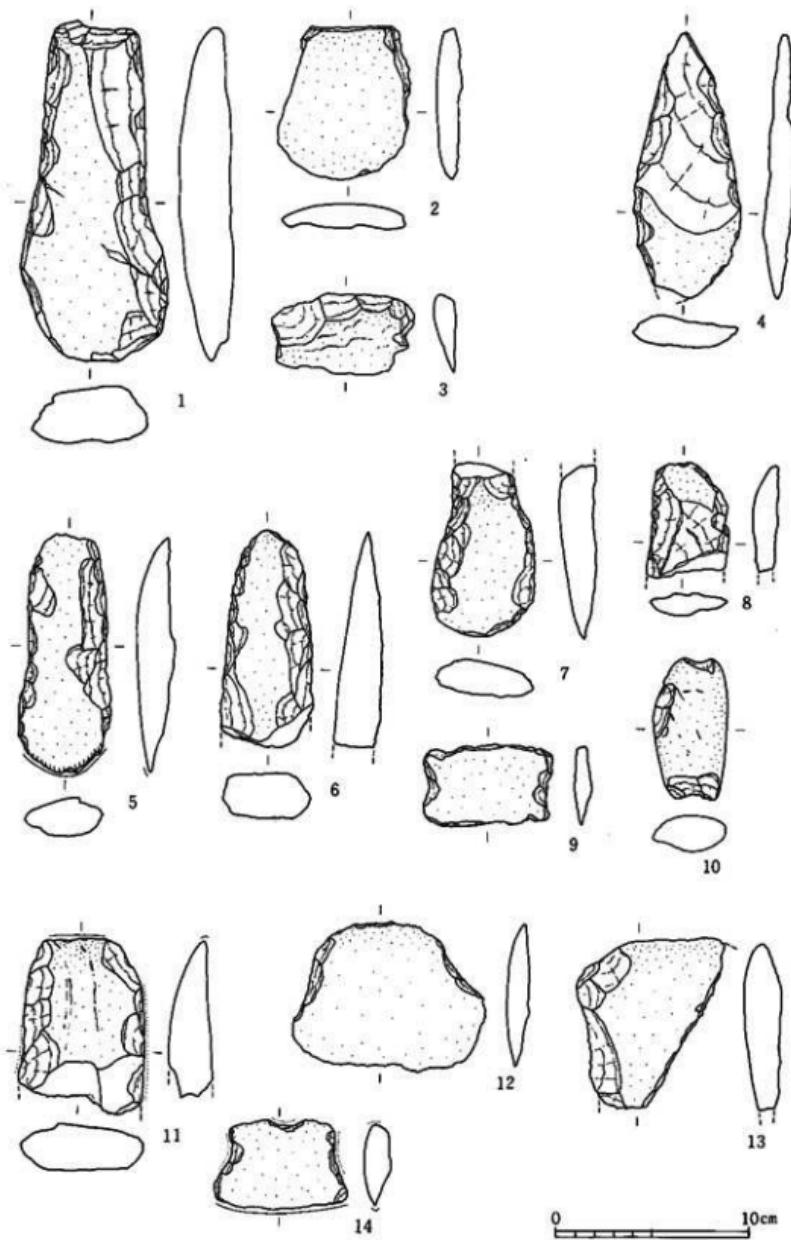
第98図 35号住居址 (1～3)、36号住居址 (4～5)、37号住居址 (6)、
38号住居址 (7～8)、39号住居址 (9～15) 出土石器 (1／3)



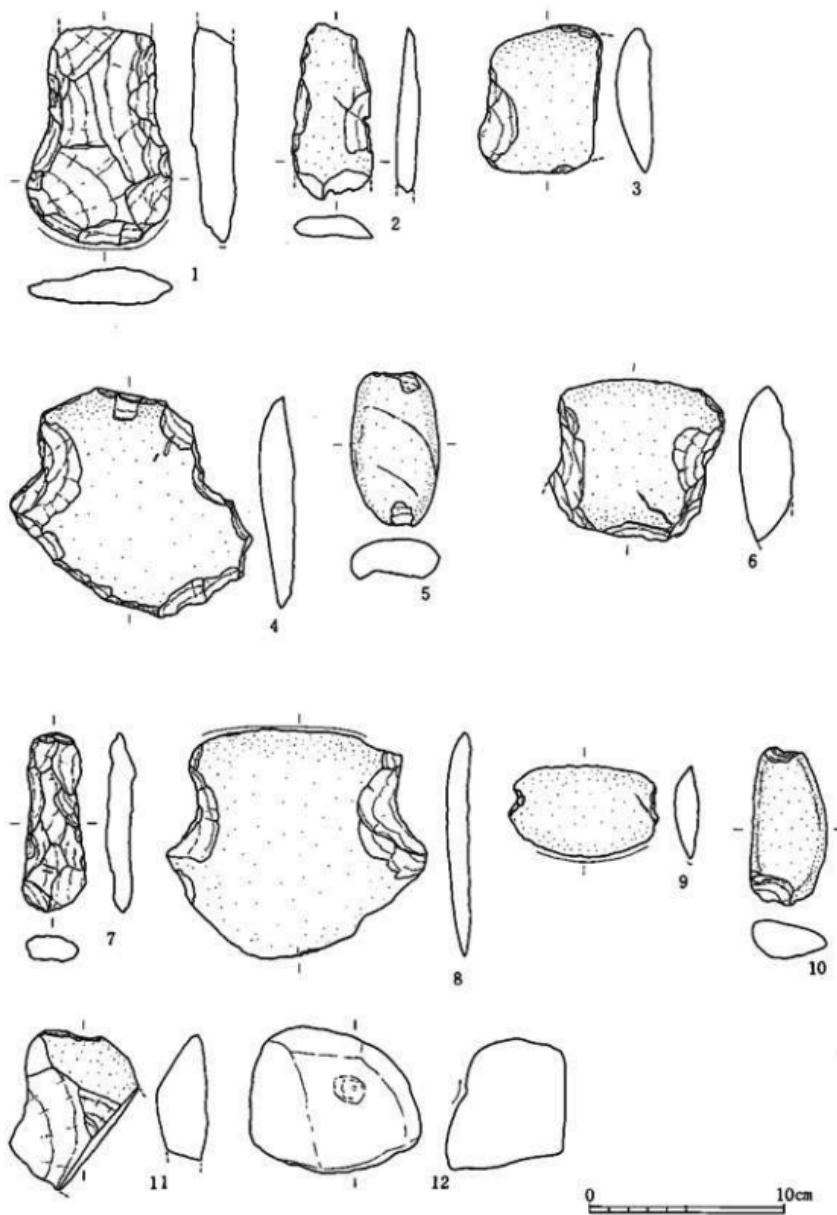
第99図 40号住居址（1～3）、41号住居址（4）、43号住居址（5・6）、44号住居址（7・8）、
47号住居址（9・10）、48号住居址（11）、51号住居址（12～17）出土石器（1／3）



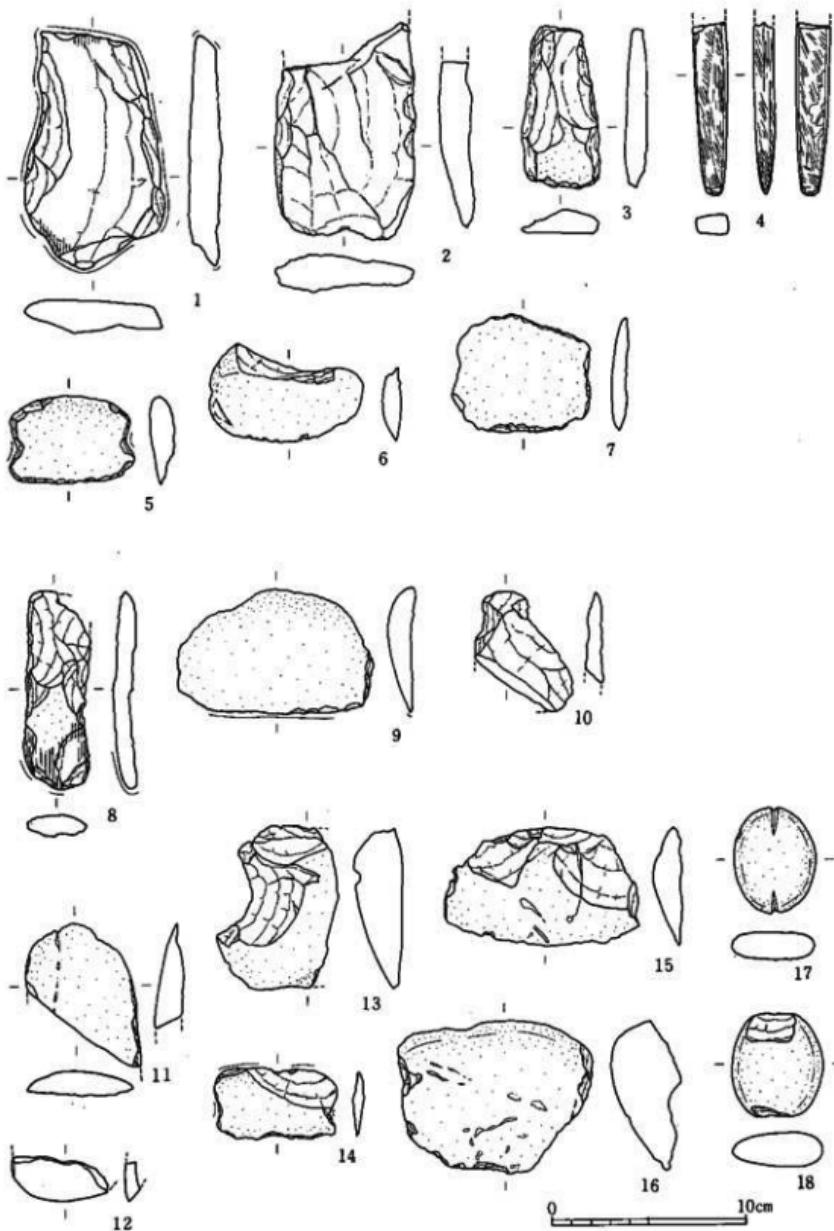
第100図 53号住居址（1～3）、54号住居址（4・5）、64号住居址（6・7）、
65号住居址（8・9）、66号住居址（10～12）出土石器（1／3）



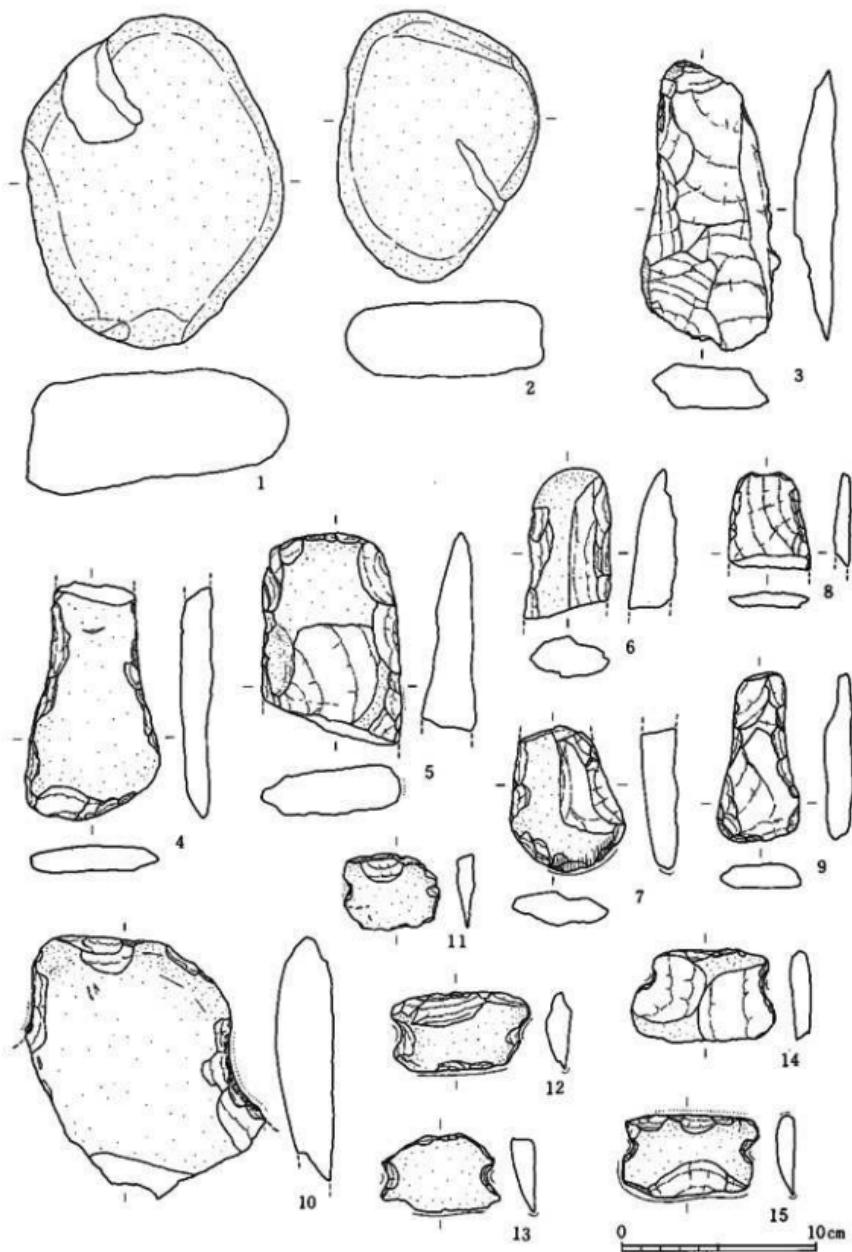
第101図 69号住居址（1～3）、71号住居址（4～10）、
72号住居址（11～14）出土石器（1／3）



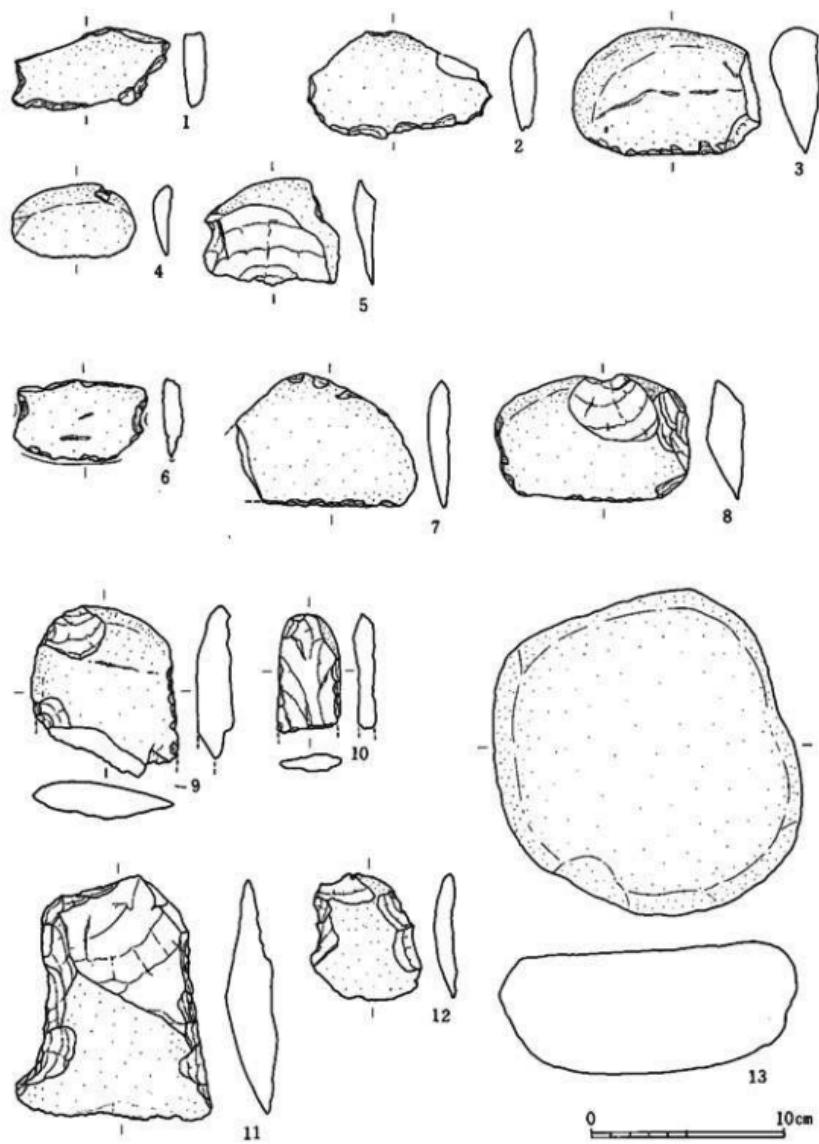
第102図 74号住居址（1～3）、76号住居址（4・5）、78号住居址（6）、
81号住居址（7～10）、82号住居址（11・12）出土石器（1／3）



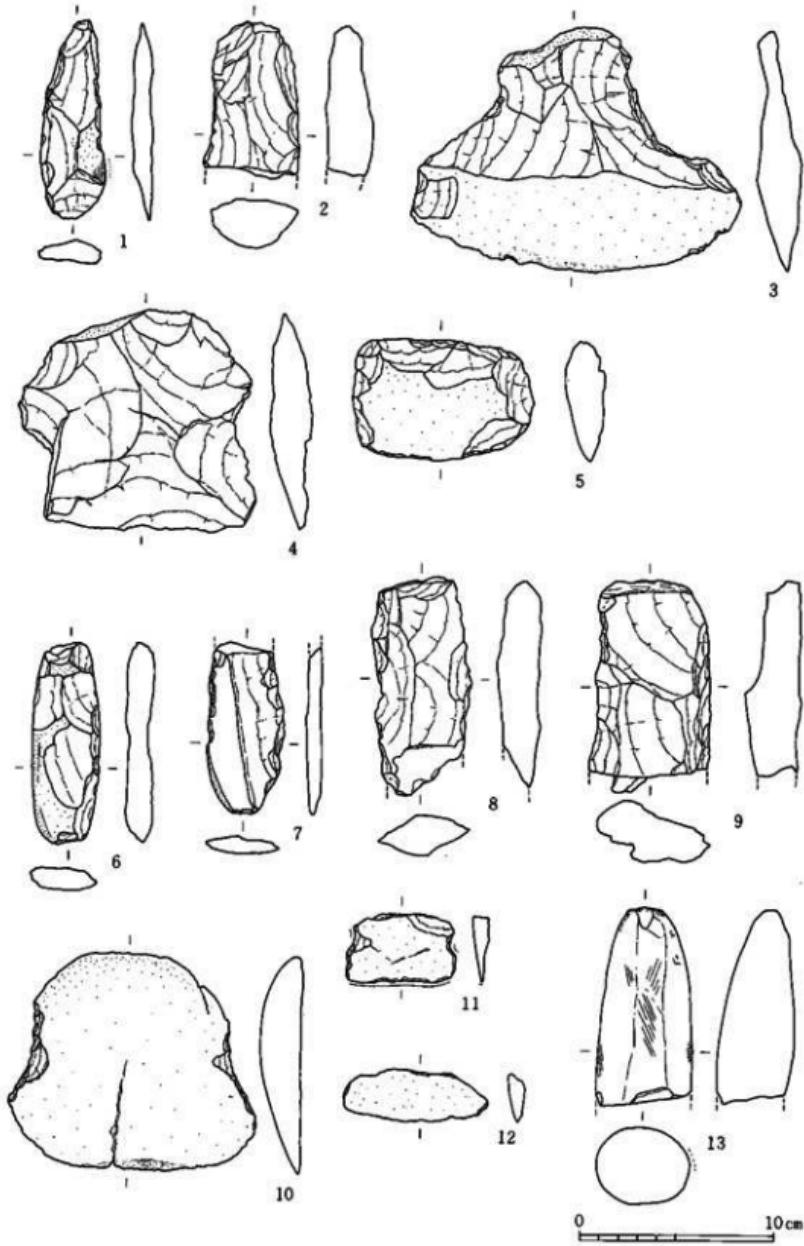
第103図 83号住居址（1～7）、84号住居址（8～10）、85号住居址（11～18）出土石器（1／3）



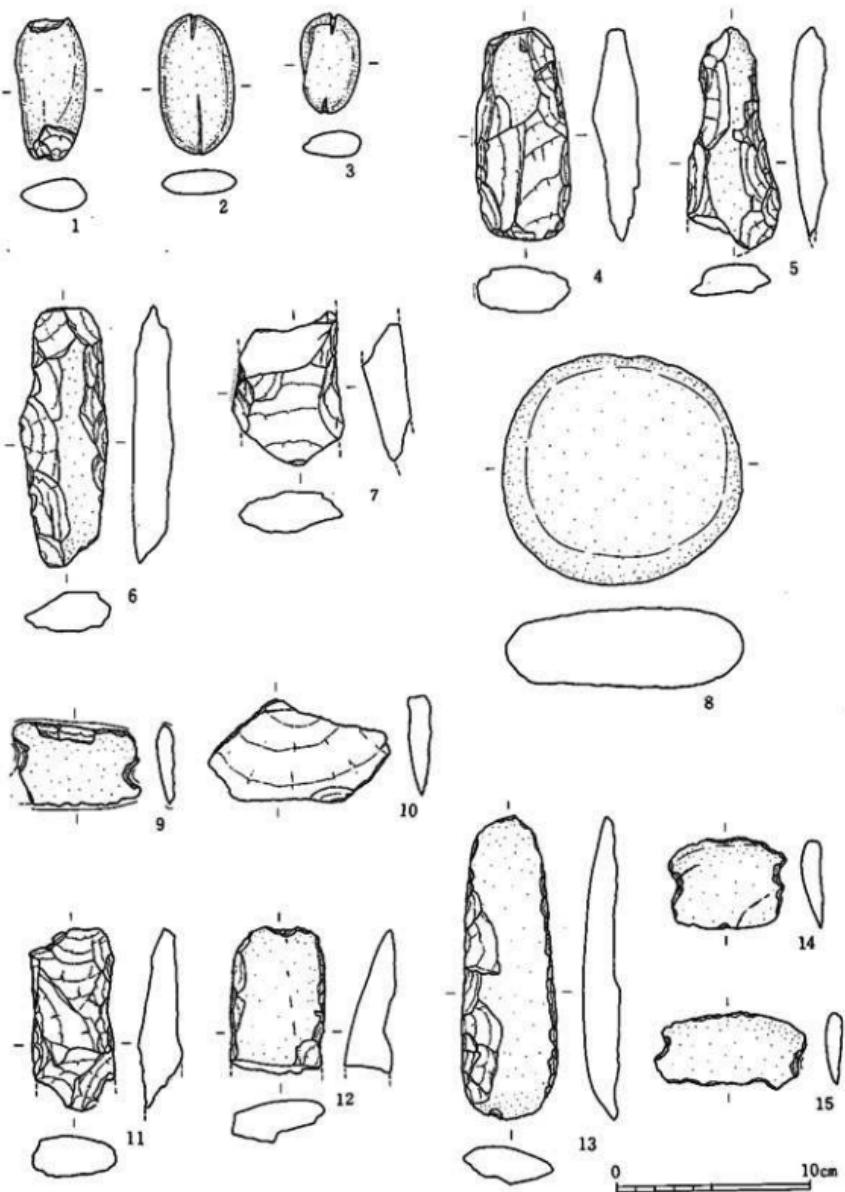
第104図 85号住居址（1・2）、86号住居址（3～15）出土石器（1／3、1・2は1／2）



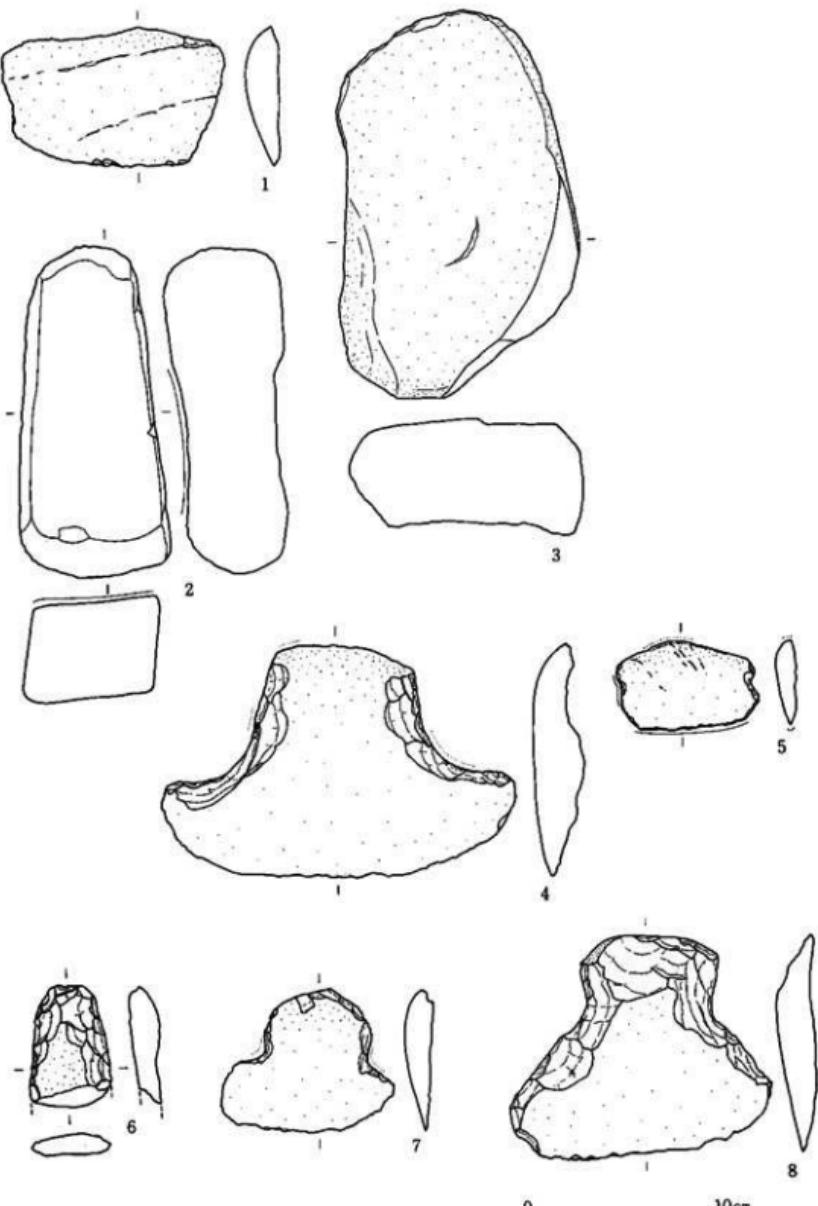
第105図 86号住居址（1～5）、87号住居址（6～8）、89号住居址（9～13）出土石器（1／3、13は1／6）



第106図 91号住居址（1～5）、93号住居址（6～13）出土石器（1／3）



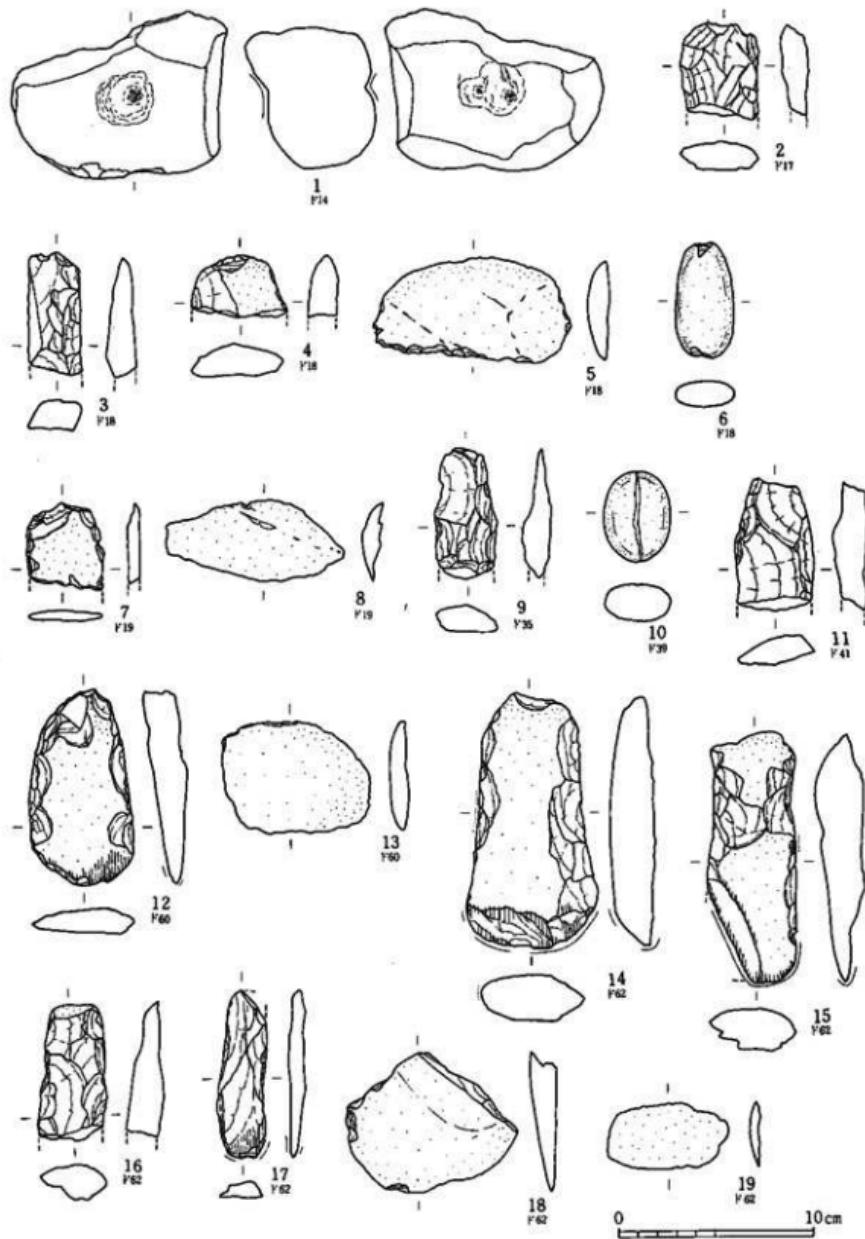
第107図 93号住居址 (1~3)、94号住居址 (4~8)、95号住居址 (9~10)、
97号住居址 (11~15) 出土石器 (1/3、8は1/6)



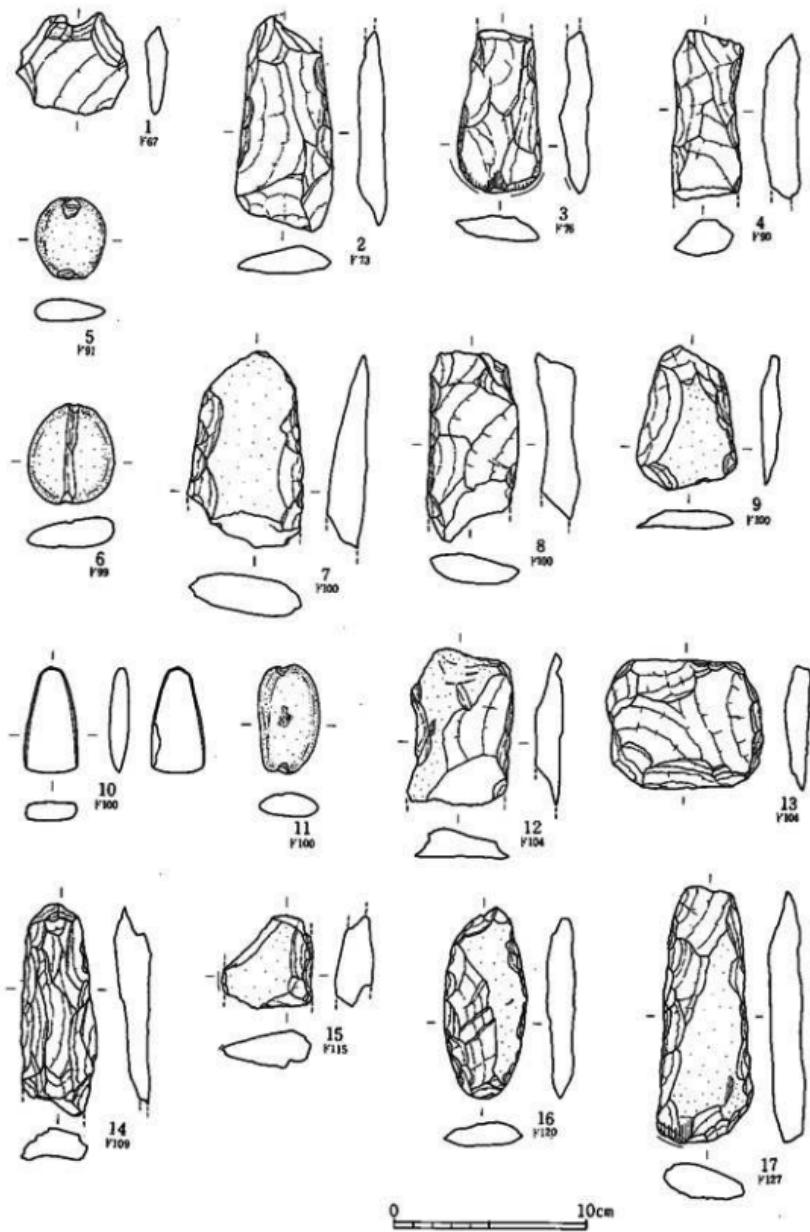
第108図 97号住居址（1～3）、98号住居址（4・5）、100号住居址
（6～8）出土石器（1／3、2・3は½）



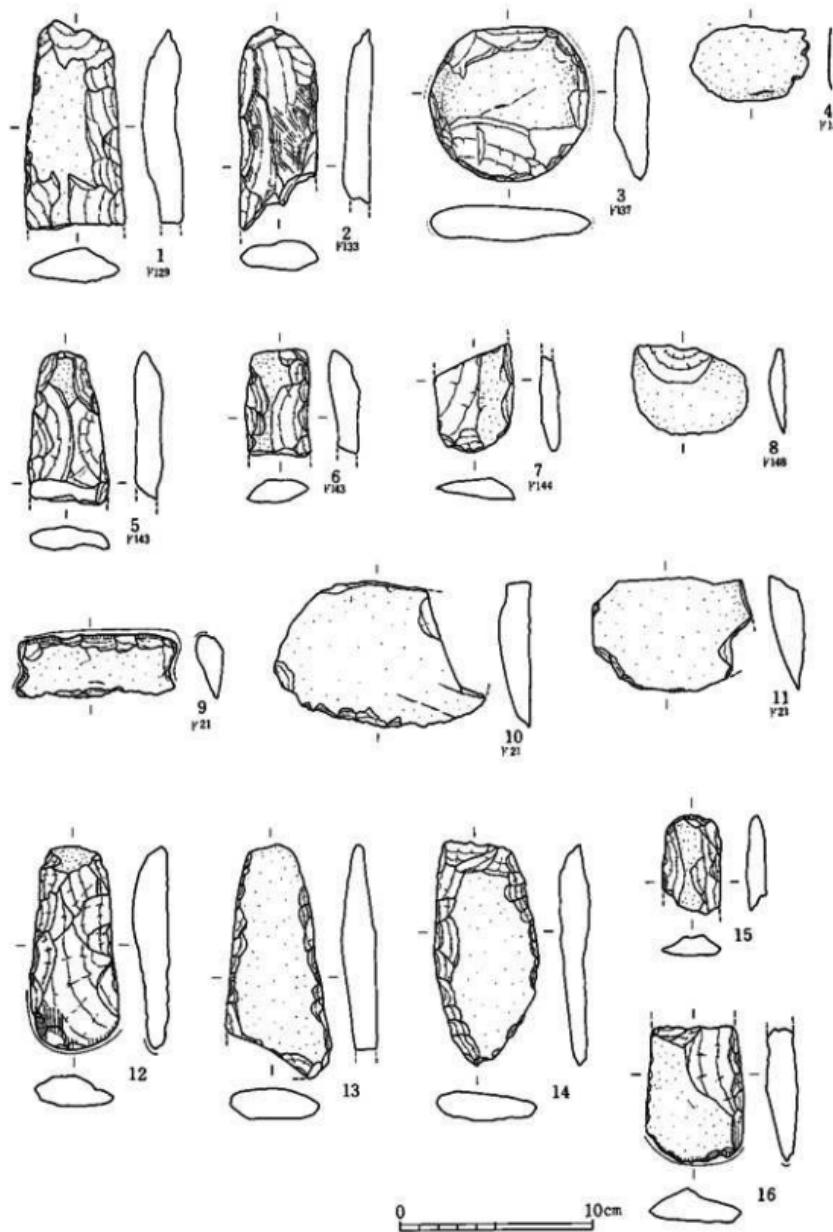
第109圖 100号住居址（1・2）、59号住居址（3）、70号住居址（4～9）、
88号住居址（10～12）、92号住居址（13～15）出土石器（1／3）



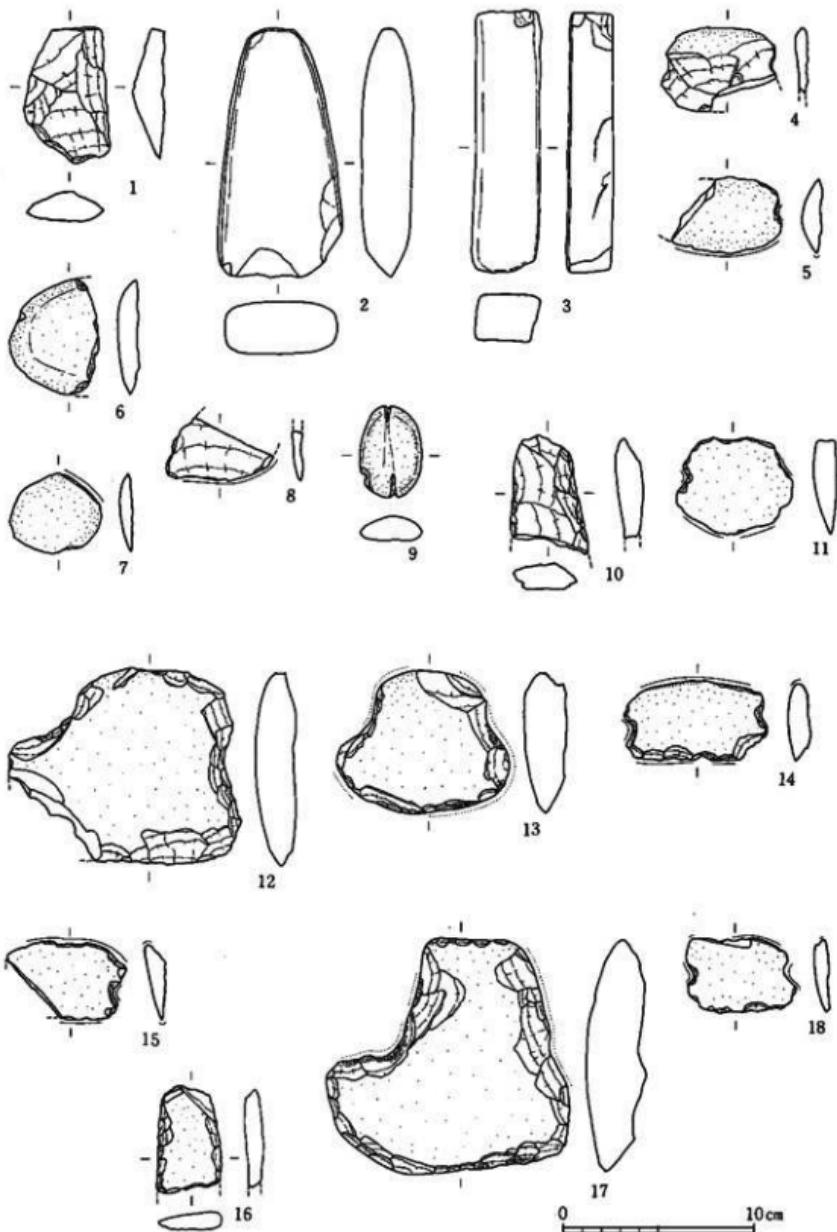
第110図 土坑出土石器 (1 / 3)



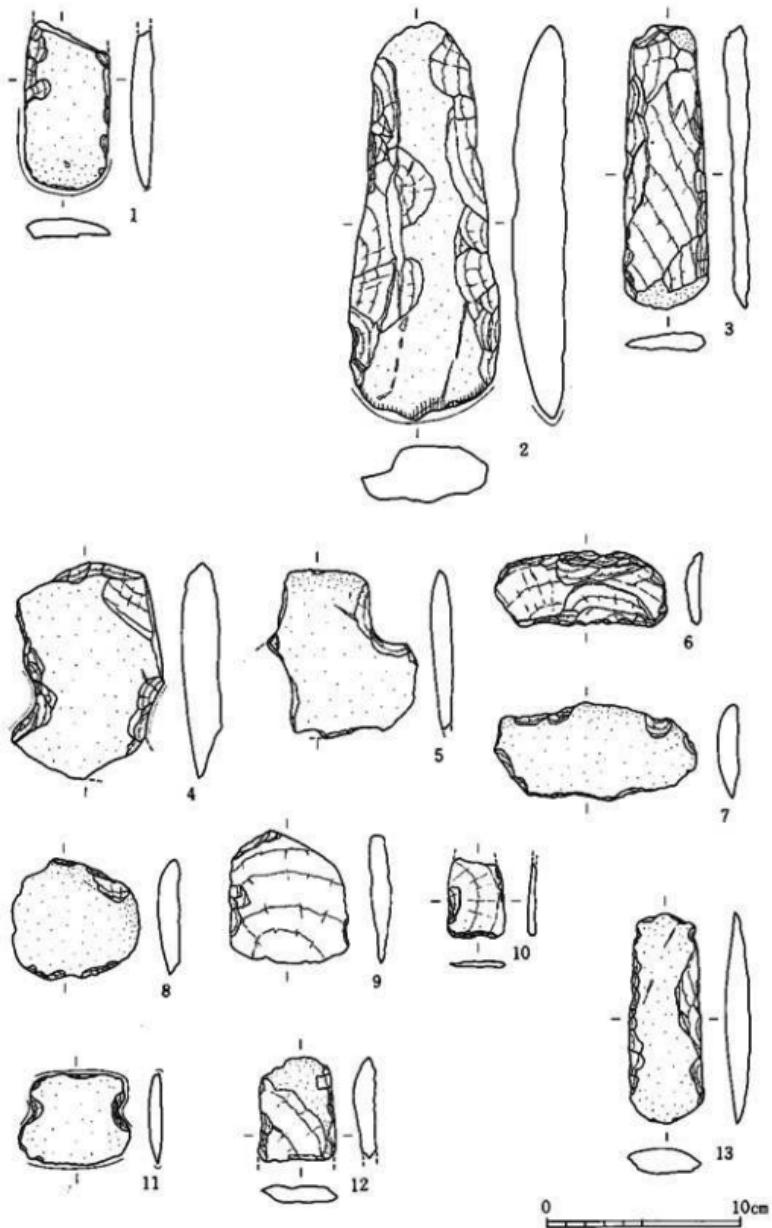
第III圖 土坑出土石器 (1 / 3)



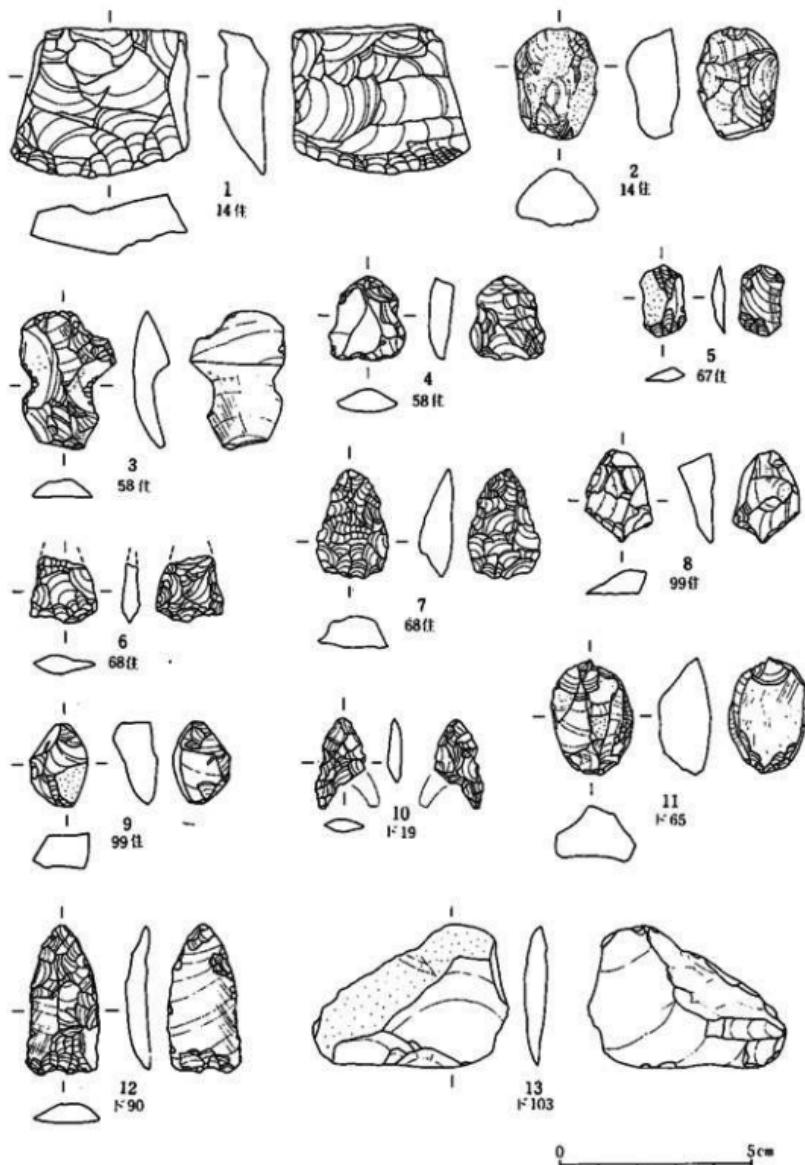
第112図 土坑（1～11）、配石 I（12～16）出土石器（1／3）



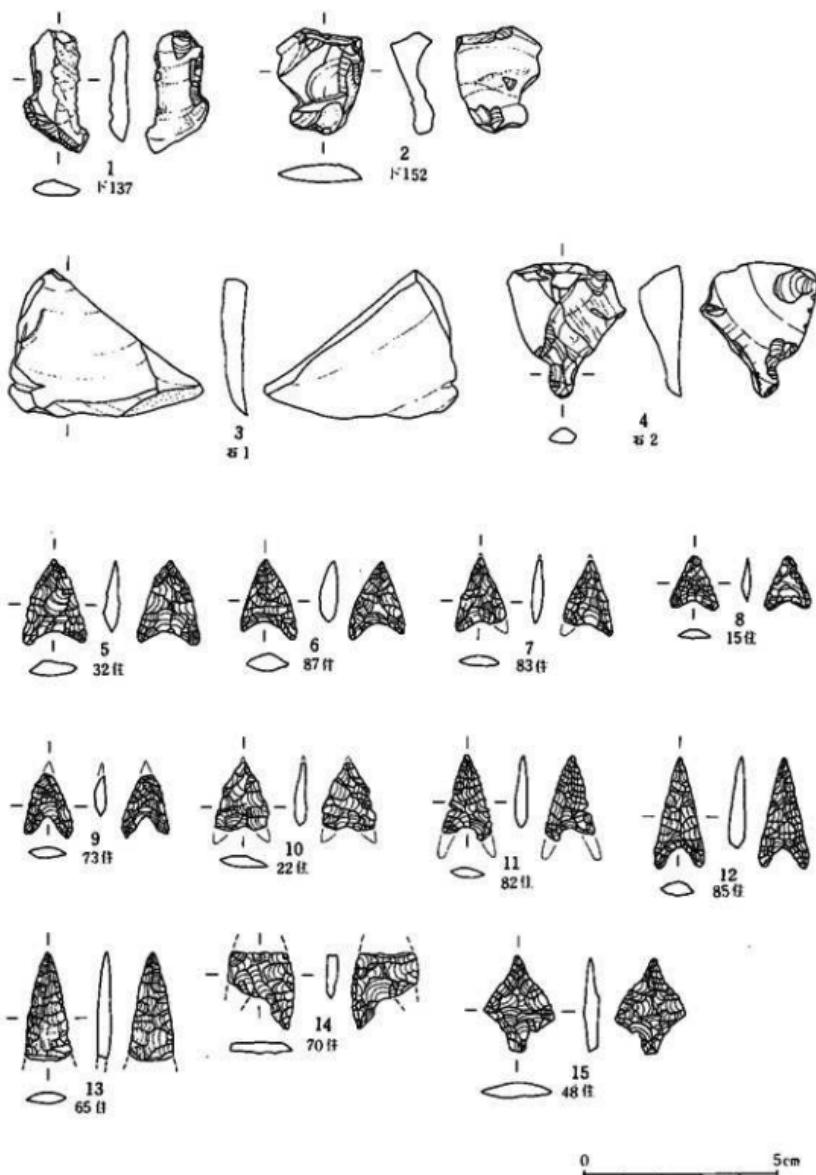
第113図 配石1（1～9）、配石2（10・11）、方形周溝墓1（12～14）、円形周溝墓1（15）、
圓溝址（16）、圓溝址2（17・18）出土石器（1／3）



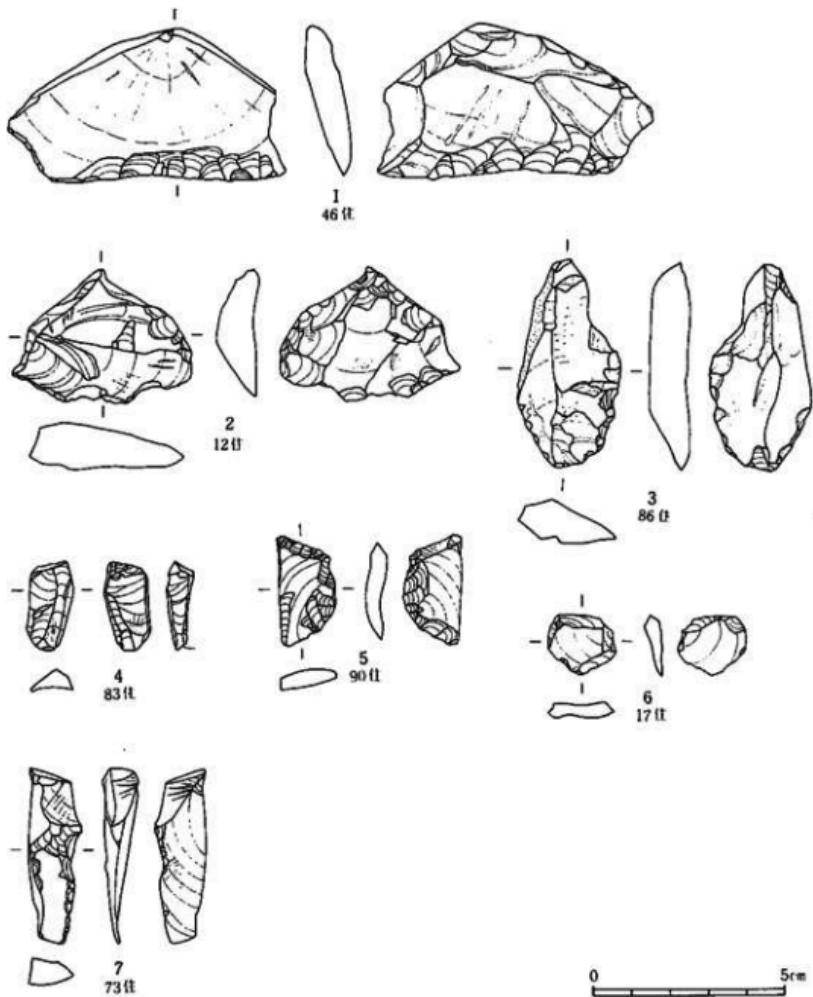
第114図 圓溝址3(1)、溝址3(2~10)、建物址4(11)、
柱穴群(12・13)出土石器(1/3)



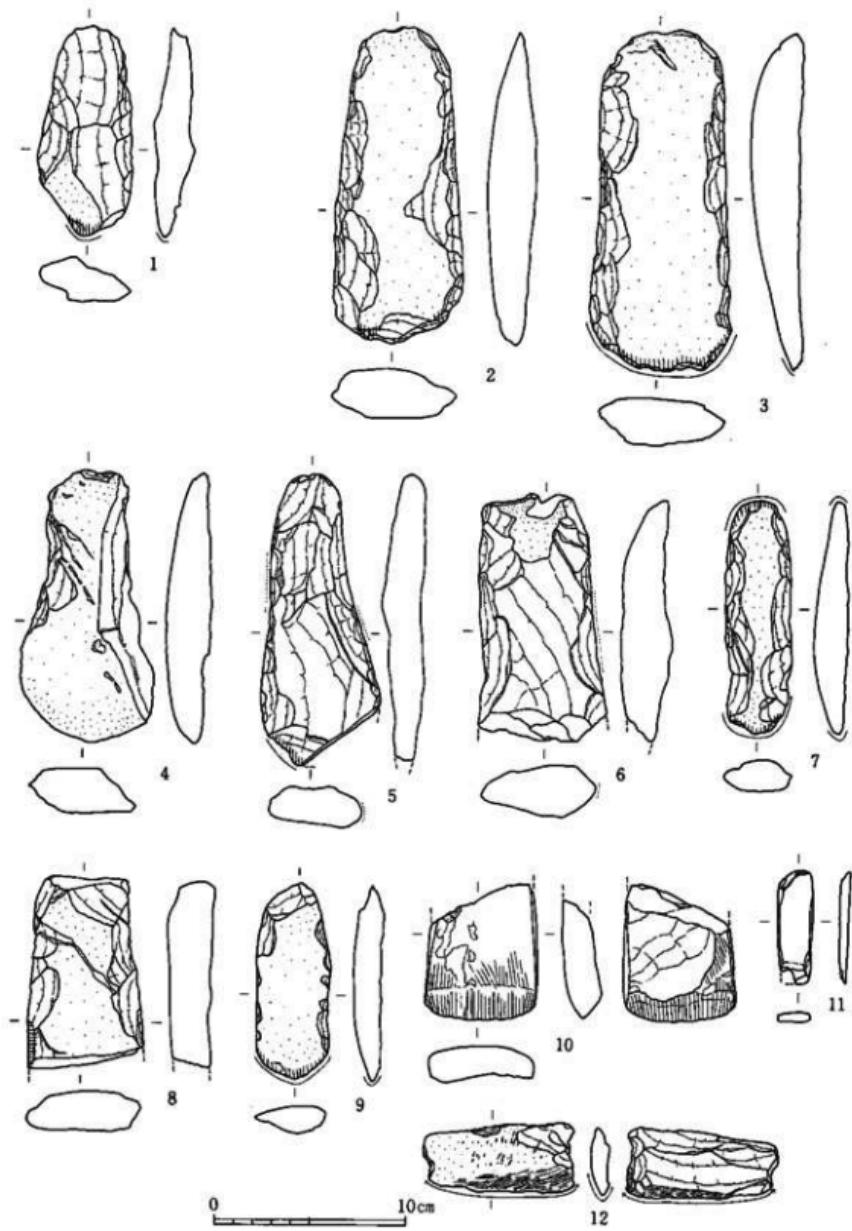
第115図 住居址（1～9）、土坑（10～13）出土小型石器（2／3）



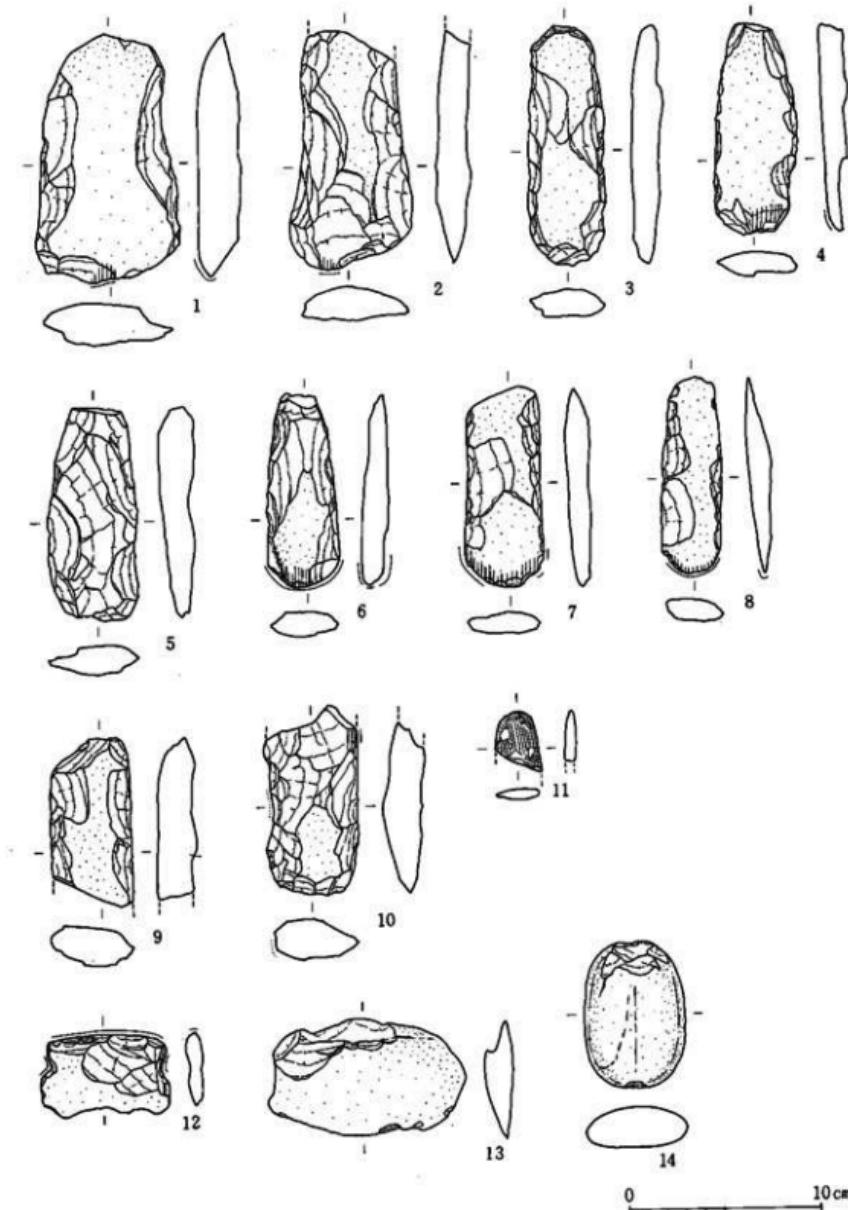
第116図 土坑 (1・2)、配石 (3・4)、弥生時代住居址 (5~15) 出土小型石器 (2/3)



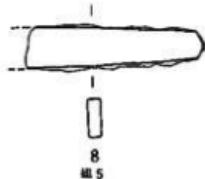
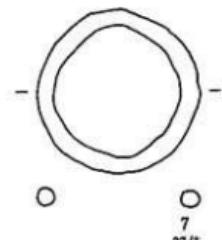
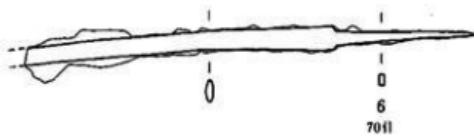
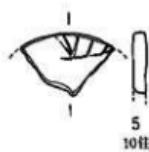
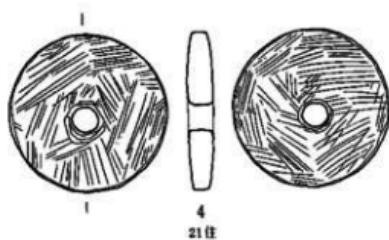
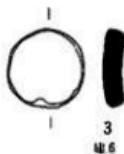
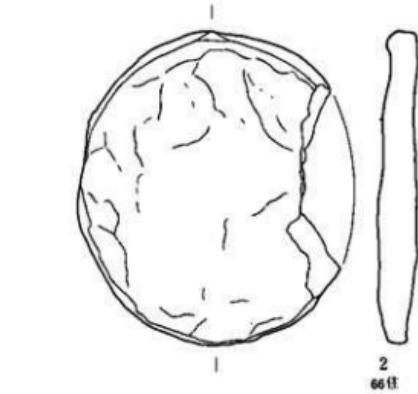
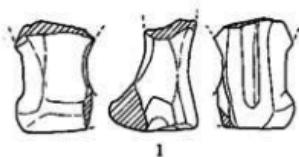
第117図 弥生時代住居址出土小型石器（2／3）



第118図 造構外I区(1)、II区(2-12)出土石器(1/3)

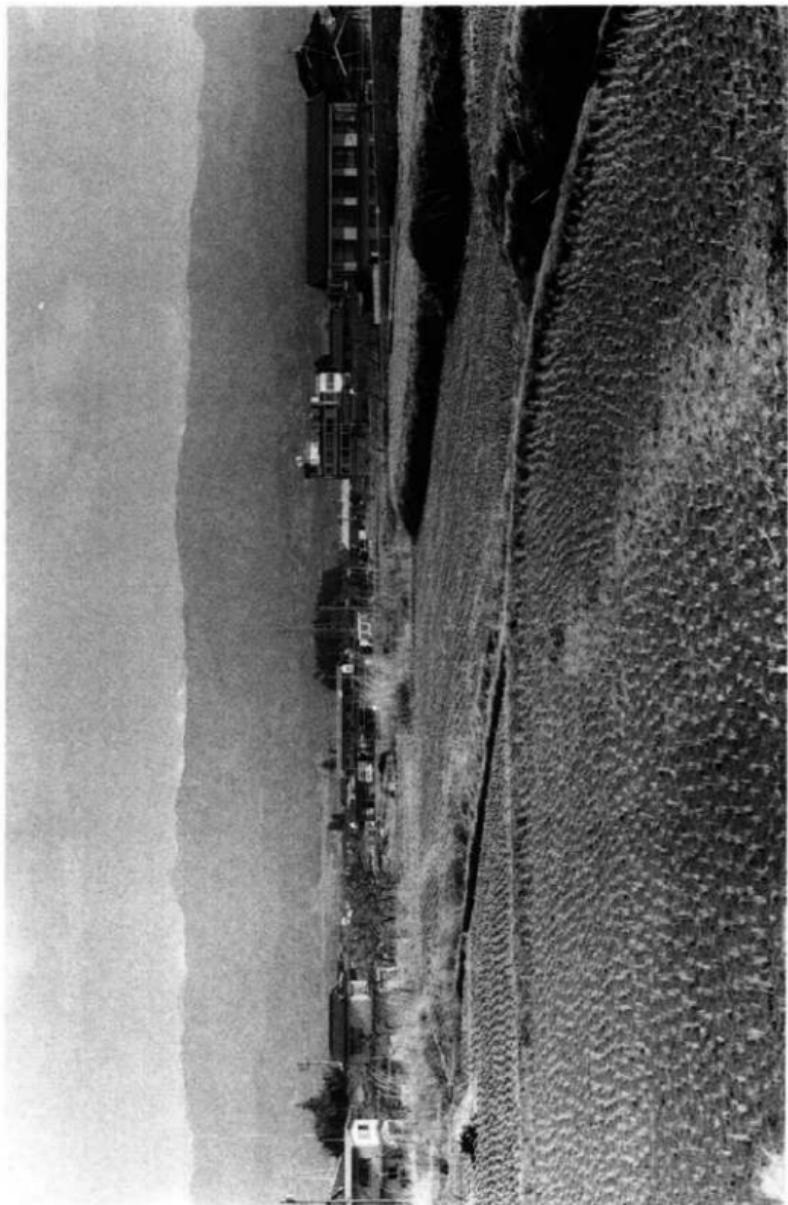


第119図 遺構外III区出土石器 (1 / 3)



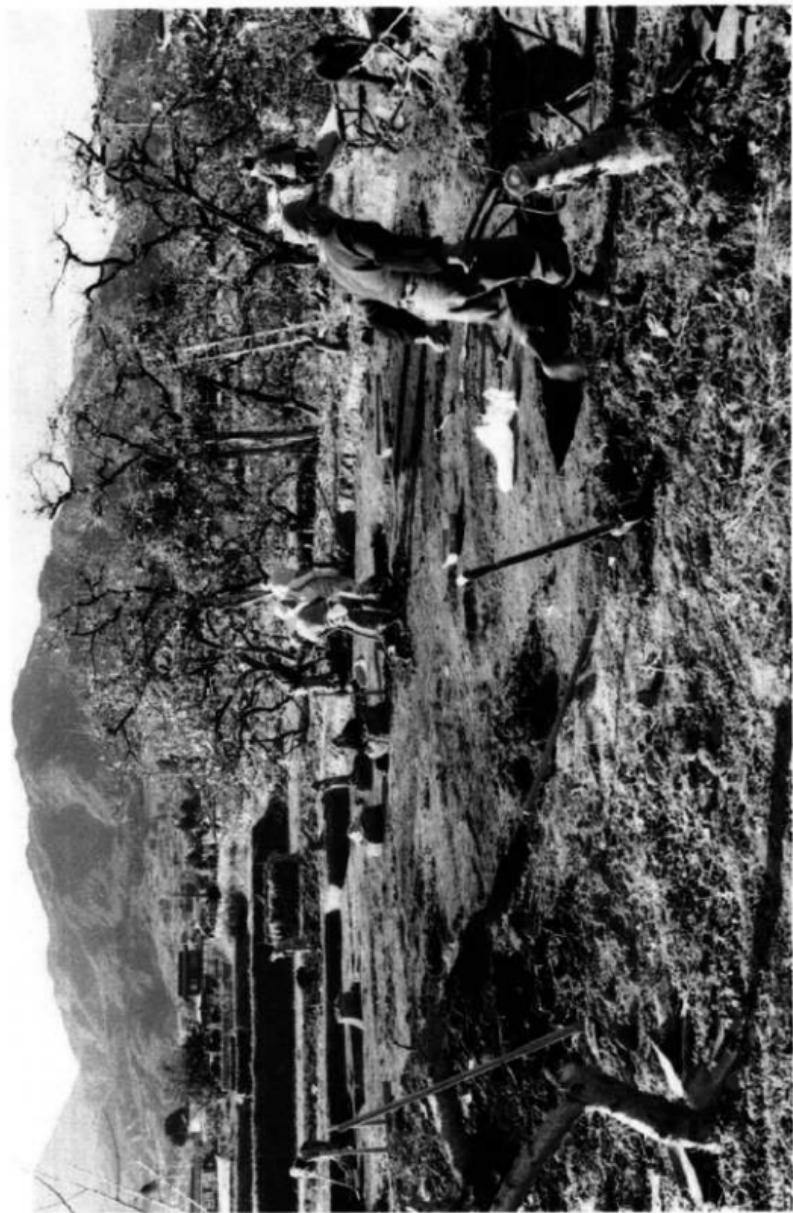
第120図 土製品（1～3）、石製品（4・5）、金属器（6～8）（1／2）

写 真 図 版



殿原遺跡遠景（西より）

図版 2



殿原遺跡より風越山を望む



殿原遺跡遠景（北東より）



殿原遺跡近景（北東より）

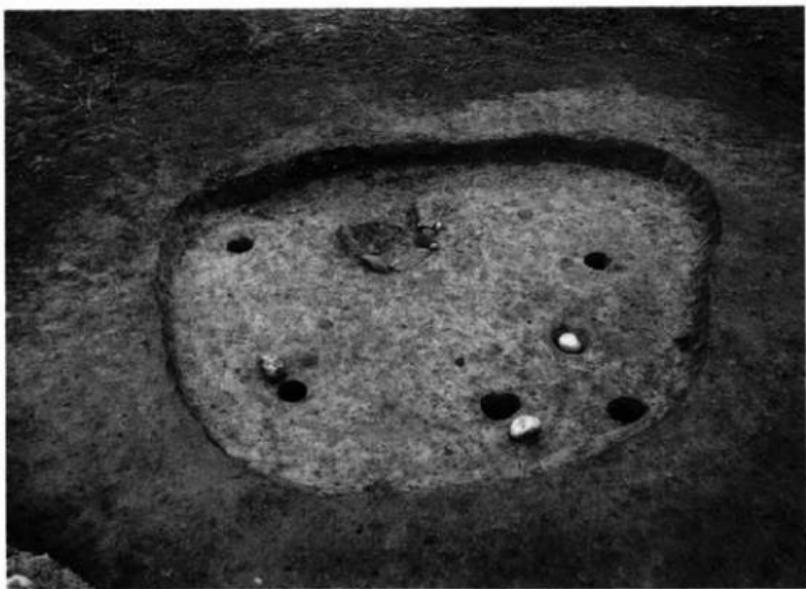
図版 4



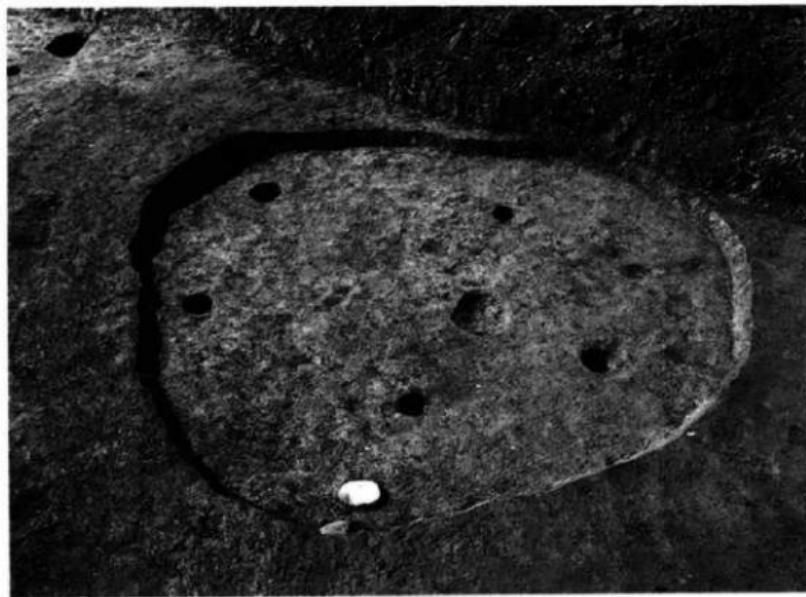
殿原遺跡近景（北西より）



殿原遺跡近景（北より）

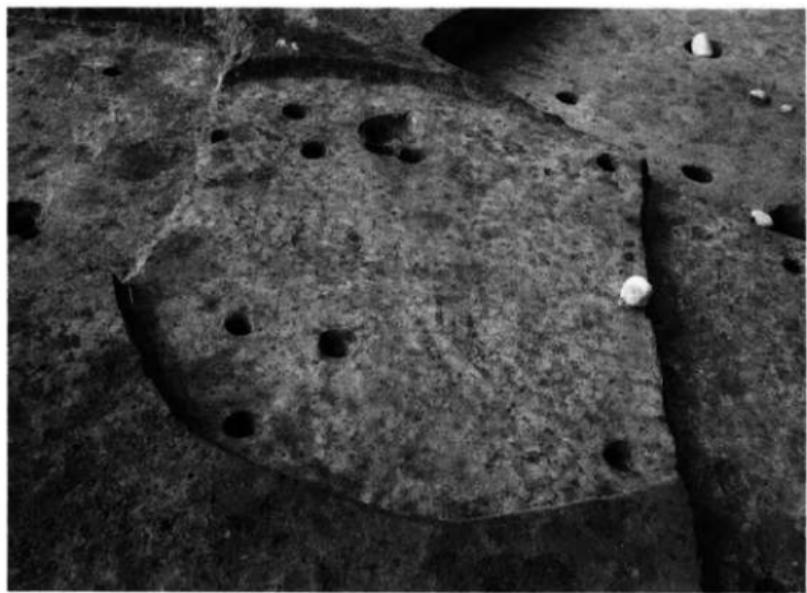


14号住居址



58号住居址

图版 6

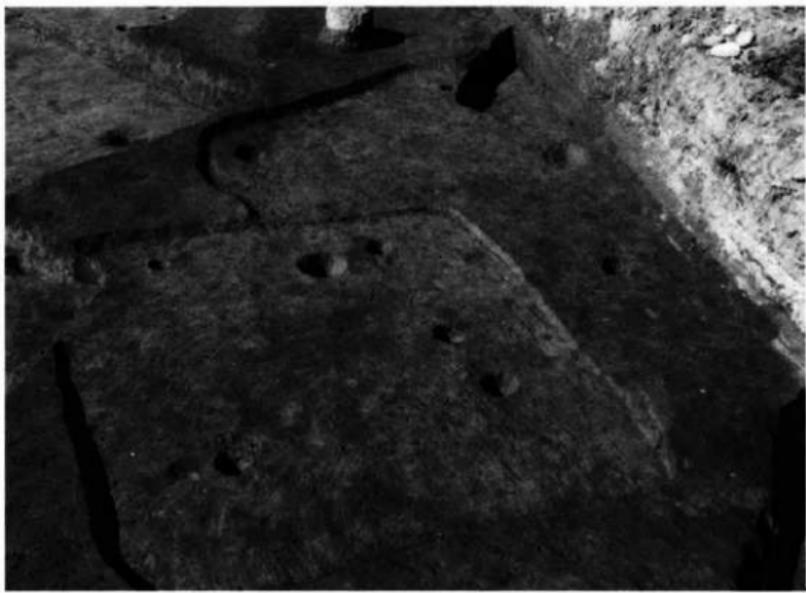


67号住居址

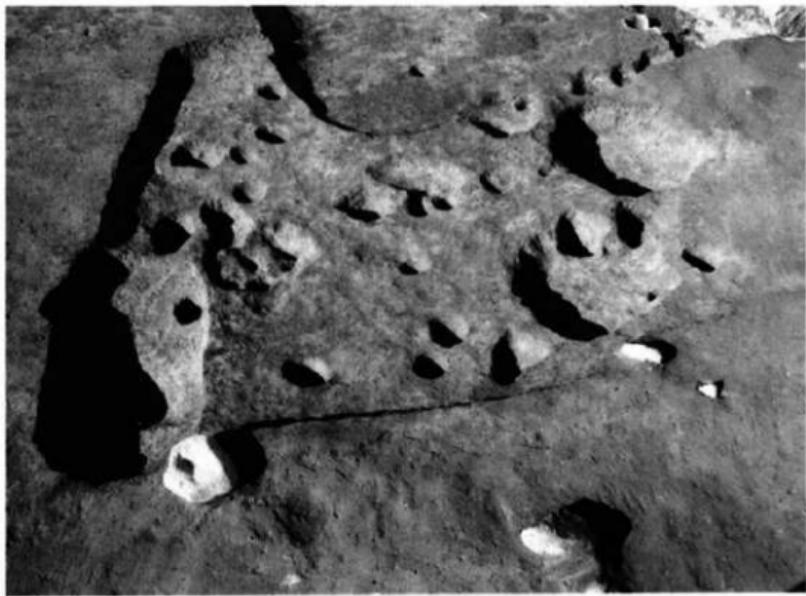


67号・68号住居址

図版 7



74号・75号・77号住居址

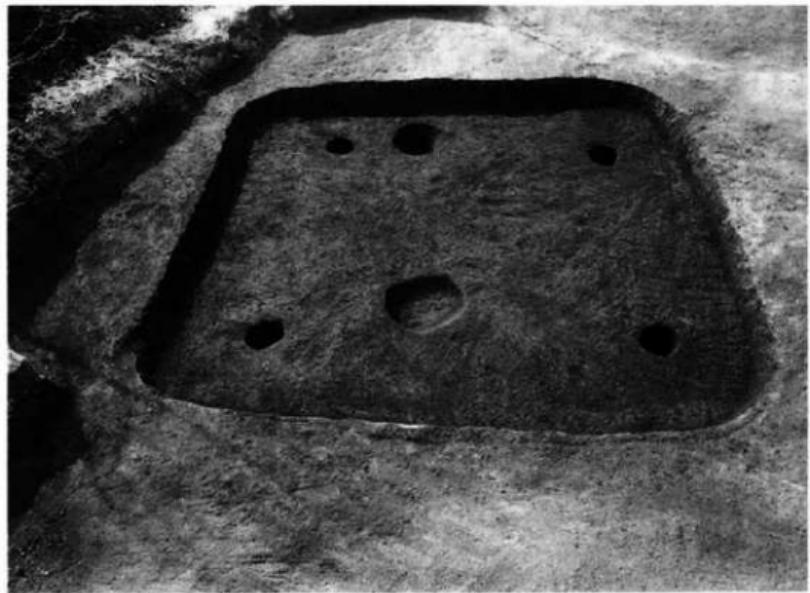


99号住居址

図版 8



1号住居址



2号住居址

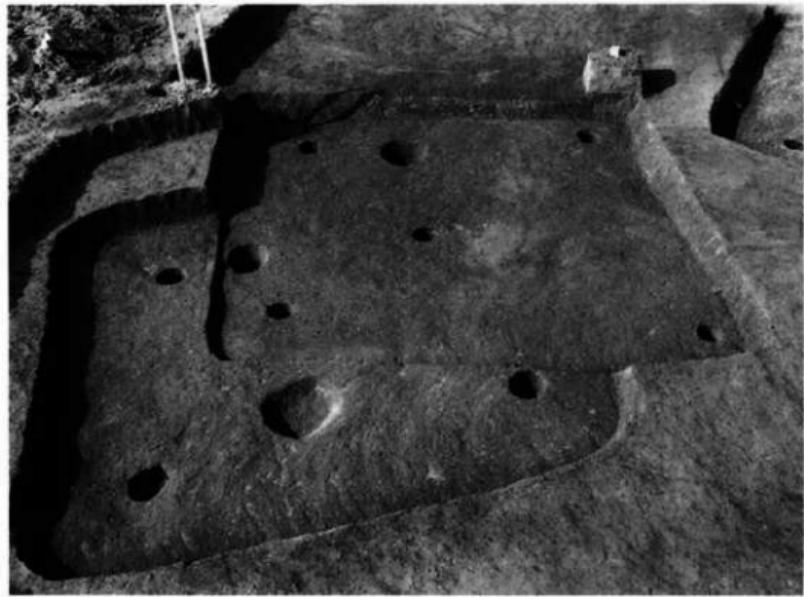


3号住居址



4号住居址（上は3号住居址）

図版10



5号住居址（下は2号住居址）



6号住居址、土坑 I